

鳥取県米子市

B A K U R O U M A C H I

博 旁 町 遺 跡

第 2 分 冊

理科学的分析
特 論
遺物観察表
写真図版編

2011. 3

財団法人 米子市教育文化事業団

正誤表

(財)米子市教育文化事業団 文化財発掘調査報告書 64

鳥取県米子市 『博労町遺跡』

お手数ですが、以下のとおり訂正の上御活用下さい。

頁	訂正箇所	誤	正
第2分冊・108頁	遺構情報の時期欄	9世紀	9世紀前半
第2分冊・108頁	遺物情報の鉄関連遺物全体構成欄	土器(被熱滓付)	土器(被熱滓付き)
第2分冊・108頁	総括の整理・解析欄、4行目文末	4:16:80:0となる。	1:4:20:0となる。
第2分冊・108頁	総括の時期欄	・出土土器による年代観は、9世紀前半と見られる。	・鉄関連遺物廃棄土坑の年代観は、出土した遺物から9世紀前半と見られる。

鳥取県米子市

B A K U R O U M A C H I

博 労 町 遺 跡

第 2 分 冊

理科学的分析
特 論
遺物観察表
写真図版編

2011. 3

財団法人 米子市教育文化事業団

目 次

(第2分冊)

第Ⅶ章 理科学的分析

- 第1節 博労町遺跡における自然科学分析……………(株式会社古環境研究所) 1
第2節 博労町遺跡における種実同定……………(株式会社古環境研究所) 14
第3節 博労町遺跡における放射性炭素年代測定……………(株式会社古環境研究所) 22
第4節 博労町遺跡出土製鉄・鍛冶関連遺物の金属学的調査
……………(九州テクノリサーチ・TACセンター 大澤正己・鈴木瑞穂) 25

第Ⅷ章 特論

- 第1節 弥生時代終末～古墳時代前期土器の検討……………(濱野) 40
第2節 弥生時代終末～古墳時代の遺構の変遷……………(濱野) 50
第3節 博労町遺跡における古代の遺物と遺構の検討……………(濱野) 53
第4節 出土文字資料からみる博労町遺跡の性格について
……………(出雲市文化財課 高橋 周) 58
第5節 博労町遺跡出土の土錘について……………(平木) 67
第6節 博労町遺跡出土の石器について……………(濱野) 71
第7節 博労町遺跡出土鉄関連遺物の調査……………(佐伯) 77
第8節 博労町遺跡出土中世遺物の検討
—錦町第一遺跡出土中世資料と比較して—……………(濱野) 109
第9節 博労町遺跡の中世畠跡の検討……………(濱野) 118

遺物観察表

写真図版

(第1分冊)

第Ⅰ章 調査の経緯

- 第1節 調査に至る経緯……………(平木) 1
第2節 調査の体制……………(平木) 1
第3節 調査日誌抄……………(濱野) 3

第Ⅱ章 遺跡概観……………(濱野) 4

- 第1節 自然、地理的環境……………4
第2節 歴史的環境……………5

第Ⅲ章 調査の概要……………(濱野) 11

- 第1節 測量方眼の設定と調査の方法……………11
第2節 土層堆積状況……………12

第IV章 検出した遺構と遺物	(濱野)	18
第1節 弥生時代終末～古墳時代		18
(1) 掘立柱建物跡		24
(2) 竪穴住居跡		26
(3) 土坑		92
(4) 溝状遺構		96
第2節 古代		130
(1) 掘立柱建物跡	(濱野)	132
(2) 柵列	(濱野)	167
(3) 竪穴住居跡	(濱野)	170
(4) 竈	(濱野)	173
(5) 井戸	(濱野)	175
(6) 鍛冶関連遺物廃棄土坑	(佐伯)	180
(7) 土壙墓	(濱野)	181
(8) 土坑	(濱野)	182
(9) 溝状遺構	(濱野)	194
(10) 道路状遺構(硬化面)	(濱野)	224
(11) ピット	(濱野)	226
第3節 中世	(濱野)	230
第4節 近世以降	(濱野・佐伯)	266
(1) 井戸		266
(2) 溝状遺構		289
(3) 石列		296
第V章 遺構外の出土遺物	(濱野)	297
第1節 弥生時代～古代の遺物	(濱野)	297
第2節 中世の遺物	(濱野・佐伯)	360
第3節 近世以降の遺物	(濱野・佐伯)	362
第4節 表採遺物	(濱野)	364
第VI章 まとめ	(濱野)	372

写真図版目次

巻頭PL 1.	調査地全景（南西方向から3区を望む）	5区	SI04
巻頭PL 2.	調査地全景（3区を望む）	5区	SI04 Pit内遺物出土状況
	調査地全景（南東方向から3区を望む）	5区	SI05
	調査地全景（北東方向から3区を望む）	5区	SI03・04・05・08
	調査地全景（北西方向から3区を望む）	5区	SI07 中央ピット土堤
	異形勾玉	5区	SI07
	辻玉	図版 6.	5区 SI06・07
図版 1.	調査前状況	5区	SI09
	1区 最終面全景	5区	SI10・11（北東から）
	2区 最終面全景	5区	SI10・11（南西から）
	3区 最終面全景	5区	SI01・02・09・16・19・18 SK17
	4区 最終面全景	5区	SI09・10・11 SK06・07・08・09
	5区 最終面全景	5区	SI12
	堆積状況	5区	SI14
	調査終了後状況	図版 7.	5区 最終状況（南東から）
図版 2.	1区 SI01	5区	SB01
	1区 SI02	1区	SD02完掘状況（1区）
	1区 SI03	1区	SD02遺物出土状況（1区）
	1区 SI04・05・06	1区	SD02遺物出土状況
	1区 SI06遺物出土状況	1区	SD02遺物出土状況（4区）
	2区 遺構検出状況	1区	SD02遺物出土状況
	2区 SI02（西から）	図版 8.	1区 SK05遺物出土状況
	2区 SI02（南から）	1区	SK05完掘状況
図版 3.	2区 SI03	5区	SK06
	2区 SI03遺物出土状況	5区	SK07
	2区 SI04（南東から）	5区	SK12
	2区 SI04（南西から）	3区	柱穴群
	2区 SI04ベッド状遺構	5区	SD11
	2区 SI04遺物出土状況	5区	SD11断面
	作業風景	図版 9.	2区 SD05（北東から）
図版 4.	3区 SI01	2区	SD05（南側から）
	4区 SI01・05	2区	SD06
	4区 SI02	2区	SD11・12
	4区 SI02遺物出土状況	3区	SD04
	4区 SI03		遺物出土状況
	4区 SI03遺物出土状況	図版10.	4区 SD05
	4区 SI04		遺物出土状況
	4区 SI06	4区	SD07
図版 5.	5区 SI01	4区	SD11
	5区 SI01・02・03・17・18（西から）	5区	溝全景（西から）

	5区 溝全景（南西から）	3区 SK03
図版11.	2区 SX01	4区 SK01
	3区 鍛冶関連遺物廃棄土坑	4区 SK02
	3区 土墳墓	4区 SK05
	3区 土墳墓内遺物出土状況	4区 SK03
	3区 SK10	4区 SK03 柵列
	作業風景	図版19. 4区 SK08
図版12.	3区 SK08	4区 SK09
	3区 SK09	5区 SK01
	2区 SK09	5区 SK02
	5区 竈跡	5区 SK03
	土層剥取り状況	1区 石列
図版13.	3区 畝全景	図版20. 作業風景
	1区 畝全景	図版21. 1区 遺構出土遺物
	2区 畝全景	図版22. 1区 遺構出土遺物
	4区 畝全景	図版23. 1区 SD02出土遺物
	5区 畝全景	図版24. 1区 SD02出土遺物
図版14.	中世畠跡全景（合成写真）	図版25. 1区 SD02出土遺物
図版15.	足跡	図版26. 1区 SD02出土遺物
	3区 SD02	図版27. 1区 SD02出土遺物
	1区 畝中遺物出土状況	図版28. 1区 遺構出土遺物
	4区 竪穴状畝	図版29. 2区 遺構出土遺物
	1区 畝中遺物出土状況	図版30. 2区 SI04出土遺物
	4区 水溜状遺構	図版31. 2区 SI04出土遺物
	5区 畦10	図版32. 2区 SI04出土遺物
	遺物出土状況	図版33. 2区 SI04出土遺物
図版16.	2区 硬化面	図版34. 2区 遺構出土遺物
	2区 硬化面断面	図版35. 2・3区 遺構出土遺物
	5区 硬化面（西側から）	図版36. 3区 遺構出土遺物
	5区 硬化面（東側から）	図版37. 4区 遺構出土遺物
	1区 SK01	図版38. 4区 遺構出土遺物
	1区 SK03	図版39. 4・5区 遺構出土遺物
	2区 SK01木枠	図版40. 5区 遺構出土遺物
	2区 SK01	図版41. 5区 遺構出土遺物
図版17.	2区 SK02	図版42. 5区 遺構出土遺物
	2区 SK04	図版43. 5区 遺構出土遺物
	2区 SK05	図版44. 5区 遺構出土遺物
	2区 SK06	図版45. 中世畝・中世包含層出土遺物
	2区 SK07	図版46. 中世畝・中近世包含層・包含層出土遺物
	2区 SK08	図版47. 中世包含層・包含層出土遺物
	3区 SK01	図版48. 包含層出土遺物
図版18.	3区 SK02	図版49. 包含層出土遺物
	3区 SK02内木枠	図版50. 包含層・表採遺物

- 図版51. 表採遺物
墨書土器
包含層出土遺物
- 図版52. 鉄製品
窯体付着須恵器
土錘
漆器
木製品

第Ⅶ章 理科学的分析

第1節 博労町遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

I. プラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山 2000)。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である (藤原・杉山 1984)。

2. 試料

分析試料は、中世の畝状遺構検出面において採取された10点である。試料の内訳は、2区畝5 (No. 20068、No. 20069)、3区畝6 (No. 30025、No. 30026)、4区畝9 (No. 30187、No. 30188、No. 30291、No. 30292)、5区畝10 (No. 30150、No. 30151) である。なお、試料は遺跡の調査担当者によって採取されたものである。

3. 分析方法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約1gに直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞 (葉身にのみ形成される) に由来するプラント・オパールを同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料1g中のプラント・オパール個数 (試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズの個数の比率を乗じて求める) に換算して示した。ま

た、おもな分類群については、この値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-5} g）を乗じて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94（種実重は1.03）、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節型は0.48、チマキザサ節は0.75である（杉山 2000）。

4. 結果

分析試料から検出されたプラント・オパールは、イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、チガヤ属、シバ属、タケ亜科（メダケ節型、ネザサ節型、チマキザサ節型、その他）および未分類である。これらの分類群について定量を行い、その結果を第1表、第1図に示した。主要な分類群については顕微鏡写真を示す。以下に、プラント・オパールの検出状況を記す。

1) 2区畠5（試料20068、試料20069）（第1分冊第309図）

試料20068では、イネが高い密度で検出され、ススキ属型も高密度である。他にキビ族型、ヨシ属、チガヤ属、シバ属、メダケ節型、ネザサ節型が低い密度で検出された。

試料20069では、イネは検出されるもののやや低い密度である。ススキ属型とシバ属が比較的高い密度である。他にキビ族型、チガヤ属、ネザサ節型が低密度で検出された。

2) 3区畠6（試料30025、試料30026）（第1分冊第315図）

いずれの試料もイネが高い密度で検出された。その他では、試料30025でヨシ属、ススキ属型、シバ属、メダケ節型、ネザサ節型が、試料30026では、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、チガヤ属、シバ属、ネザサ節型がそれぞれ検出された。試料30026でススキ属型が高い密度である以外はいずれも低い密度である。

3) 4区畠9（試料30187、試料30188、試料30291、試料30292）（第1分冊第319図）

各試料ともイネが高い密度で検出された。キビ族型は試料30187のみで、チマキザサ節型は試料30291のみで検出された。ヨシ属、ススキ属型、チガヤ属、シバ属、ネザサ節型は4試料すべてで検出された。このうち、ススキ属型は試料30292で非常に高い密度であり、他の試料でも高い密度である。ネザサ節型も試料30187、試料30188、試料30292で比較的高い密度である。メダケ節型は試料30188と試料30291で検出されたがいずれも低密度である。

4) 5区畠10（試料30150、試料30151）（第1分冊第323図）

いずれの試料もイネが高い密度で検出された。キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、シバ属、ネザサ節型も両試料で検出された。試料30151でススキ属型とネザサ節型が高い密度である以外は、いずれも低い密度である。その他では、試料30150ではメダケ節型とチマキザサ節型が、試料30151ではチガヤ属が検出されたが、これらも低い密度である。

5. 考察

稲作跡の可能性を判断する際の目安は、試料1gあたりおよそ5,000個/g以上の密度でイネ機動細胞プラント・オパールが検出された場合とされている。ただし、近年の調査において2,000~3,000個/g程度の密度でも水田遺構が検出されている例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

中世の遺構検出面では、すべての試料でイネのプラント・オパールが検出されている。プラント・オパール密度は1,800~7,200個/gであり、2区のNo.20069を除くといずれも稲作跡の可能性を判断する際の基準値である3,000個/gを超過している。したがって、当該遺構検出面ではほぼ全域において稲が作付けられていた可能性が考えられる。

プラント・オパール分析で同定が可能な分類群のうち、イネ以外で栽培植物が含まれるものには、ムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属（シコクヒエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがあるが、今回の調査区ではこれらは確認されなかった。したがって、これらの植物が栽培されていた可能性については肯定することはできない。また、イネ科栽培植物の中にはまだ検討が十分でないものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられるが、現時点ではこれらを特定することはできない。なお、プラント・オパール分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。したがって、イモ類、根菜類およびその他の野菜類が栽培されていた可能性については言及できない。

なお、今回の調査区で分析を実施した10箇所におけるイネプラント・オパール密度の平均値は4,200±1,500個/gと高い値であり、水田における検出密度に匹敵する。検出面は畝状（畠状）遺構であることから、畑稲作が行われていたと思われるが、あるいは田畑輪換がなされていた可能性も考えられる。

その他の分類群では、ススキ属型とシバ属がすべての試料で、ヨシ属とチガヤ属は大半の試料で検出されている。このうちススキ属型は全体に高い密度であり、ヨシ属は少量である。こうしたことから、調査地一帯は概ね乾いた環境であり、ススキ属、シバ属およびチガヤ属が生育していたと推定される。

（引用・参考文献）

杉山真二 2000「植物珪酸体（プラント・オパール）」『考古学と植物学』同成社, p. 189-213.

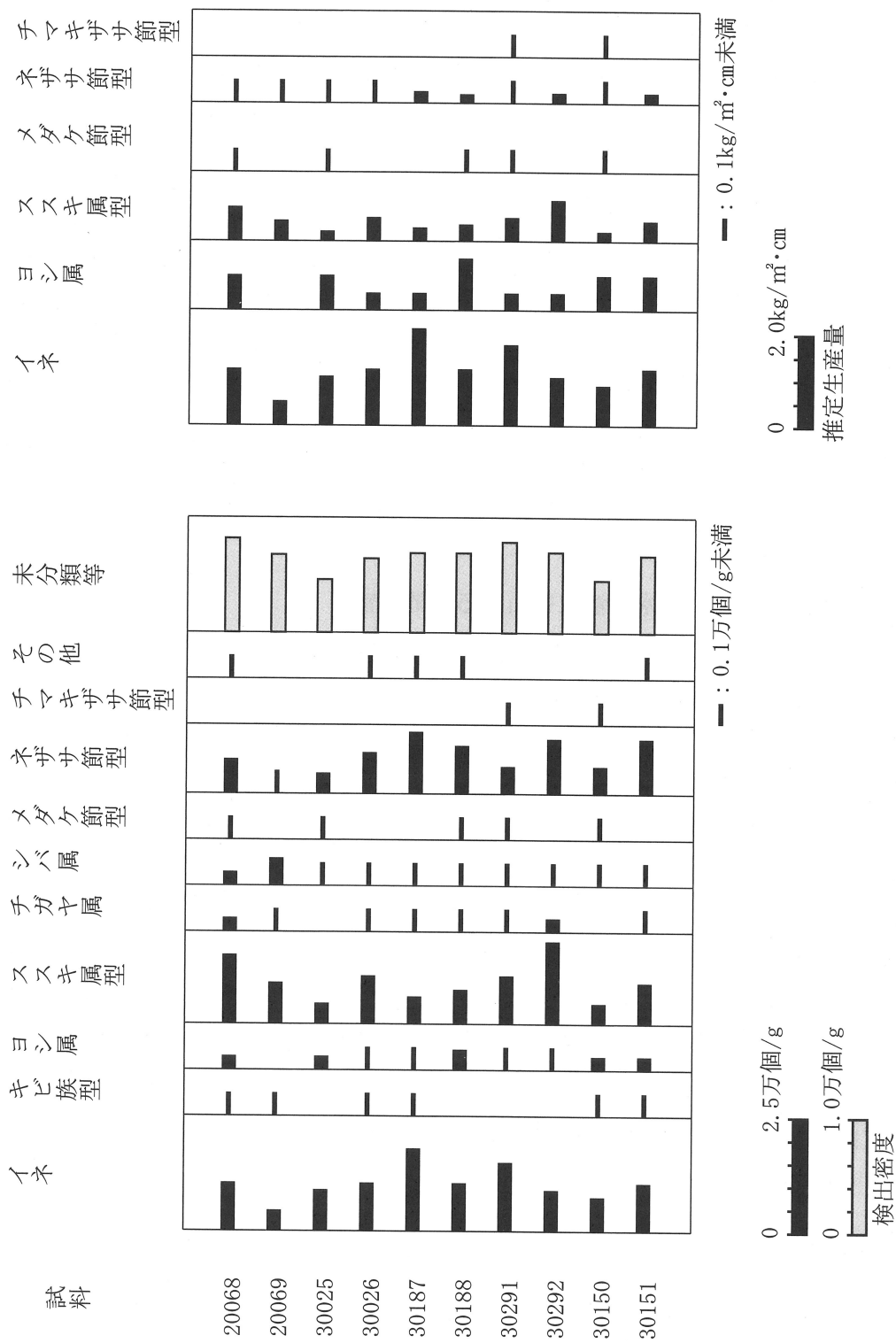
杉山真二・松田隆二・藤原宏志 1988「機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追求のための基礎資料として—」『考古学と自然科学』20 同成社, p. 81-92.

藤原宏志 1976「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—」『考古学と自然科学』9 同成社, p. 15-29.

藤原宏志・杉山真二 1984「プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—」『考古学と自然科学』17 同成社, p. 73-85.

第1表 博労町遺跡のプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)	2区		3区		4区		5区			
	20068	20069	30025	30026	30187	30188	30291	30292	30150	30151
イネ科	Gramineae (Grasses)									
イネ	42	18	36	42	72	42	60	36	30	42
イネ										
キジ族型	6	6		6	6				6	6
ヨシ属	12		12	6	6	18	6	6	12	12
ヨシ属										
ススキ属型	60	36	18	42	24	30	42	72	18	36
ススキ属型										
チガヤ属	12	6		6	6	6	6	12		6
チガヤ属										
シバ属	12	24	6	6	6	6	6	6	6	6
シバ属										
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)									
メダケ節型	6		6			6	6		6	
メダケ節型										
ネザサ節型	30	6	18	36	54	42	24	48	24	48
ネザサ節型										
チマキザサ節型							6		6	
チマキザサ節型										
その他	6			6	6	6				6
その他										
未分類等	204	169	115	161	173	173	197	175	114	168
未分類等										
プラント・オパール総数	390	265	211	311	353	329	353	355	222	330
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m ² ・cm)	: 試料の仮比重を1.0と仮定して算出									
イネ	1.23	0.53	1.07	1.23	2.11	1.23	1.76	1.06	0.88	1.24
イネ										
ヨシ属	0.76		0.76	0.38	0.38	1.13	0.38	0.38	0.76	0.76
ヨシ属										
ススキ属型	0.74	0.45	0.22	0.52	0.30	0.37	0.52	0.90	0.22	0.45
ススキ属型										
メダケ節型	0.07		0.07			0.07	0.07		0.07	
メダケ節型										
ネザサ節型	0.14	0.03	0.09	0.17	0.26	0.20	0.11	0.23	0.12	0.23
ネザサ節型										
チマキザサ節型							0.04		0.04	
チマキザサ節型										



第1図 博労町遺跡のプラント・オパール分析結果

Ⅱ. 花粉分析

1. はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

2. 試料

分析試料は、2区から採取された畠5試料20068、試料20069の2点、3区から採取された畠6試料30025、試料30026の2点、4区から採取された畠9試料30187、試料30188、試料30291、試料30292の4点、5区から採取された畠10試料30150、試料30151の2点の計10点である。時期は中世（鎌倉時代）と想定される。これらは、プラント・オパール分析に用いられたものと同一試料である。

3. 方法

花粉の分離抽出は、中村（1973）の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 試料から1cm³を採量
- 2) 0.5%リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加え15分間湯煎
- 3) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 4) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す
- 6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- 7) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 8) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示す。イネ属については、中村（1974、1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。また、この処理を施すとクスノキ科の花粉は検出されない。

4. 結果

(1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉15、樹木花粉と草本花粉を含むもの2、草本花粉15、シダ植物孢子2形態の計34である。これらの学名と和名および粒数を第1表に示し、花粉数が200個以上計数できた試料は、周辺の植生を復元するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを第1図に示す。なお、200個未満であっても100個以上の試料については傾向をみるため参考に図示し、主要な分類群は顕微

鏡写真に示した。また、寄生虫卵についても観察したが検出されなかった。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

モミ属、マツ属複維管束亜属、スギ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ノグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属－アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、エノキ属－ムクノキ、スイカズラ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科、マメ科

〔草本花粉〕

ガマ属－ミクリ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ソバ属、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、カラマツソウ属、アブラナ科、アリノトウグサ属－フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

(2) 花粉群集の特徴

1) 2区畠5 (試料20068、試料20069) (第1分冊第309図)

いずれの試料も草本花粉が約90%を占め、類似した出現傾向を示す。特にヨモギ属が卓越し、イネ科、タンポポ亜科、アブラナ科などが低率に出現する。樹木花粉ではスギ、マツ属複維管束亜属が低率に出現する。

2) 3区畠6 (試料30025、試料30026) (第1分冊第315図)

いずれの試料も類似した出現傾向を示す。草本花粉が約90%を占め、特にヨモギ属が卓越し、次いでイネ科が多く、アカザ科－ヒユ科、タンポポ亜科などが低率に出現する。樹木花粉ではスギなどが低率に出現する。

3) 4区畠9 (試料30187、試料30188、試料30291、試料30292) (第1分冊第319図)

試料30187と試料30188では類似した出現傾向を示し、草本花粉が約85%を占める。草本花粉ではイネ科(試料30187はイネ属型を含む)を主にヨモギ属、カヤツリグサ科、アブラナ科、アカザ科－ヒユ科などが伴われ、チドメグサ亜科、タンポポ亜科、キク亜科などが低率に出現する。試料30187ではソバ属がわずかに出現する。樹木花粉ではスギ、マツ属複維管束亜属などが低率に出現する。

試料30291では草本花粉が約90%を占め、花粉密度は低い。特にヨモギ属が卓越し、次いでイネ科が多く、タンポポ亜科、キク亜科などが低率に出現する。樹木花粉ではスギなどがわずかに出現する。

試料30292では草本花粉が約65%を占め、樹木・草本花粉を含むマメ科が約20%を占める。草本花

粉ではヨモギ属、イネ科が比較的多く、アブラナ科が伴われ、アカザ科-ヒユ科、タンポポ亜科、ソバ属などが出現する。樹木花粉ではスギ、マツ属複雑管束亜属などが低率に出現する。

4) 5区畠10(試料30150、試料30151)(第1分冊第323図)

いずれの試料も類似した出現傾向を示し、草本花粉が約80%を占める。特にヨモギ属が高率に出現し、次いでイネ科が多く、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科、タンポポ亜科などが低率に出現する。樹木花粉ではスギが比較的多い。

5. 花粉分析から推定される植生と環境

1) 2区

卓越するヨモギ属は乾燥を好む人里雑草ないし畑作雑草であり、イネ科、タンポポ亜科なども同様の性格を持つ。堆積地はこれらの草本が生育する乾燥した草地の環境であったと考えられる。また、遺構が畝状遺構であり出現するイネ科、アブラナ科には栽培植物が含まれることから、アワ、ヒエ、ムギなど雑穀類やアブラナなどの畑の可能性も考えられる。近隣にはスギ、マツ属複雑管束亜属などの針葉樹がやや遠方に生育していたと思われる。

2) 3区

2区と類似した出現傾向を示し、同様な堆積環境であったと考えられる。耕地雑草のアカザ科-ヒユ科が2区よりやや多い。

3) 4区

試料30187と試料30188では、多様な環境に生育する水生植物のイネ科(試料30187はイネ属型を含む)やカヤツリグサ科が出現することから、水草が生育するような止水域の分布が示唆され、これには水田周囲の環境が含まれる。栽培植物を多く含むアブラナ科や、試料30187ではソバ属、耕地雑草のアカザ科-ヒユ科なども出現し、これらの畑の可能性も考えられる。

試料30291では乾燥を好むヨモギ属が卓越し、乾燥ないし乾湿を繰り返すような環境が推定され、畑であった可能性も考えられる。

試料30292では、栽培植物を多く含むイネ科、アブラナ科、マメ科が優占し、ソバ属も出現しこれらの畑が分布していたと考えられる。4区の周辺には、やや遠方にスギ、マツ属複雑管束亜属などの針葉樹が生育していたと思われる。

4) 5区

乾燥した環境を好むヨモギ属が高率に出現し、多様な環境に生育するイネ科も多い。さらに、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科、タンポポ亜科などの畑作雑草で占められることから、堆積地は乾燥した畑などの環境が考えられる。近隣にはスギ林の分布が示唆される。

6. まとめ

博労町遺跡の中世とみられる2区、3区、4区、5区で、花粉分析を行った。その結果、ヨモギ属、イネ科、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科、タンポポ重科の畑作雑草の性格をもつ草本の繁茂が示唆された。イネ科、アブラナ科には栽培植物を含まれ、特に4区はアワ、ヒエ、ムギなどの雑穀類やアブラナやソバなどの畑の可能性が推定された。また、周辺地域にはスギ林の分布が示唆されるが、5区の方がスギ林に近い可能性がある。

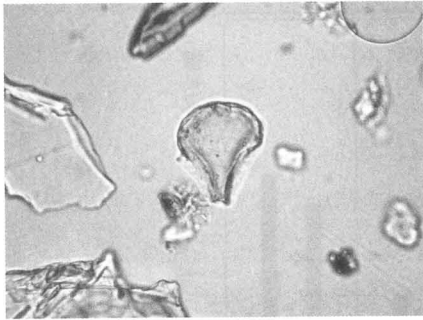
(引用・参考文献)

- 金原正明 1993「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法』角川書店, p.248-262.
- 島倉巳三郎 1973「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集 60p.
- 中村 純 1967『花粉分析』古今書院, p. 82-110.
- 中村 純 1974「イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として」『第四紀研究』13,p.187-193.
- 中村 純 1977「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第10号 同成社 p. 21-30.
- 中村 純 1980「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集, 91p.

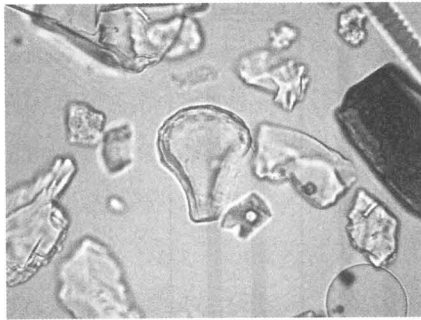
第1表 博労町遺跡における花粉分析結果

学名	分類群 和名	2区		3区		4区				5区	
		20068	20069	30025	30026	30187	30188	30291	30292	30150	30151
Arboreal pollen	樹木花粉										
<i>Abies</i>	モミ属								1		
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	6		4	1	10	6		5		1
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	7	11	22	18	17	26	2	36	30	55
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科		2	1	3	3		1	1	2	3
<i>Platycarya strobilacea</i>	ノグルミ					1					
<i>Alnus</i>	ハンノキ属					1	1				
<i>Betula</i>	カバノキ属	1			1	1			1		
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ			1			1			1	
<i>Castanea crenata</i>	クリ	1		2							1
<i>Castanopsis</i>	シイ属				1				2	1	1
<i>Fagus</i>	ブナ属	1									
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属			2	2	3	2				1
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属			1	1	1			1	2	
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ						2				
<i>Lonicera</i>	スイカズラ属					1					
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉										
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	1	1	1	1	2	3	1	2		
Leguminosae	マメ科	1			1	1			71		
Nonarboreal pollen	草本花粉										
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属										1
Gramineae	イネ科	13	14	68	32	160	117	31	77	40	59
<i>Oryza type</i>	イネ属型					5			1		
Cyperaceae	カヤツリグサ科		1	2		67	33		2		2
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属					1			1		
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1	1	15	4	13	21	1	6	4	1
Caryophyllaceae	ナデシコ科				1	4	1				
<i>Thalictrum</i>	カラマツソウ属	1									
Cruciferae	アブラナ科	3	2	3	5	17	27		33	12	3
<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属					3			2		
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科					7	8				
Apioidae	セリ亜科	1	1	2	5		1		2	1	1
Lactucoideae	タンポポ亜科	9	4	5	11	6	4	3	6	3	10
Asteroidae	キク亜科	2	4	4	3	4	5	2	3		
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	207	185	243	235	62	105	92	85	80	153
Fern spore	シダ植物孢子										
Monolate type spore	単条溝孢子	4	2	3	3	4	8	6	1	2	3
Trilate type spore	三条溝孢子	5	4	2	2	14	16	4	3	1	
Arboreal pollen	樹木花粉	16	13	33	27	38	38	3	47	36	62
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	1	1	2	3	3	1	73	0	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	237	212	342	296	349	322	129	218	140	230
Total pollen	花粉総数	255	226	376	325	390	363	133	338	176	292
Pollen frequencies of 1cm ²	試料 1 cm ² 中の花粉密度	1.5	1.5	3.0	2.3	1.7	9.2	4.0	5.6	2.2	2.1
		×10 ³	×10 ³	×10 ³	×10 ³	×10 ⁴	×10 ³	×10 ²	×10 ³	×10 ³	×10 ³
Unknown pollen	未同定花粉	5	6	4	4	2	5	3	3	2	2
Fern spore	シダ植物孢子	9	6	5	5	18	24	10	4	3	3
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments	微細炭化物	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(++)	(+)	(++)	(+)	(++)

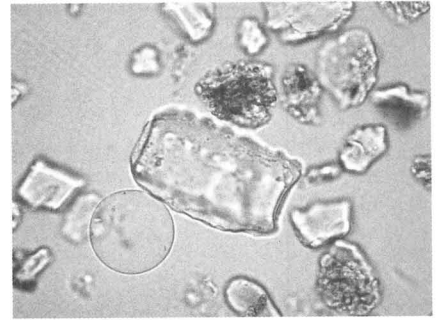
プラント・オパール顕微鏡写真



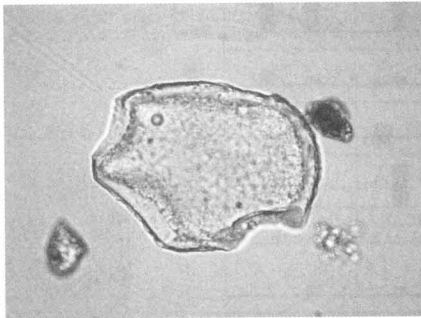
イネ



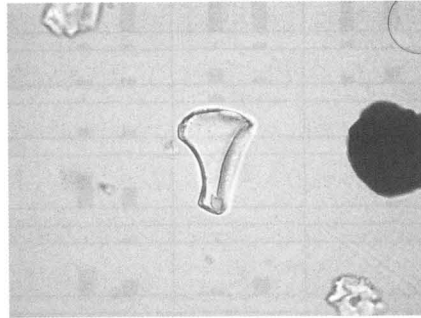
イネ



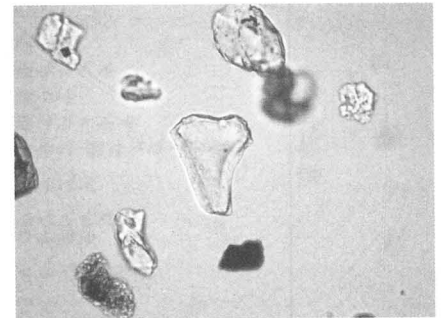
キビ族型



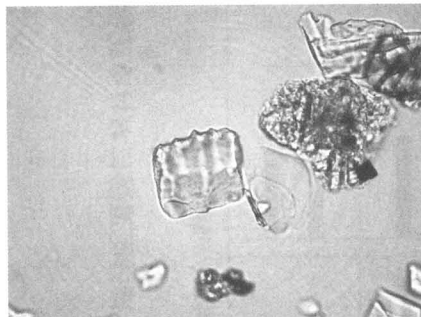
ヨシ属



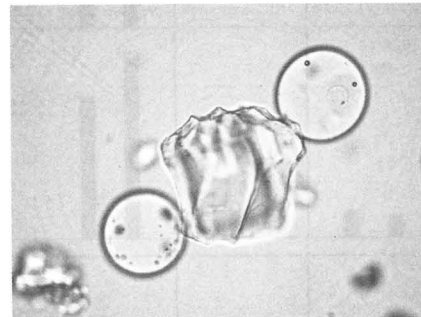
ススキ属型



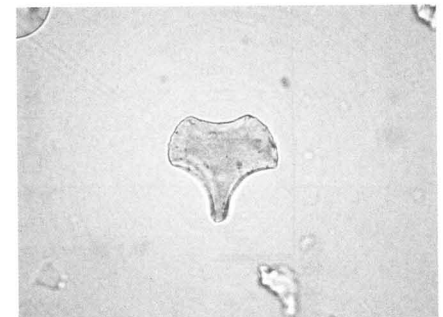
チガヤ属



ネザサ節型



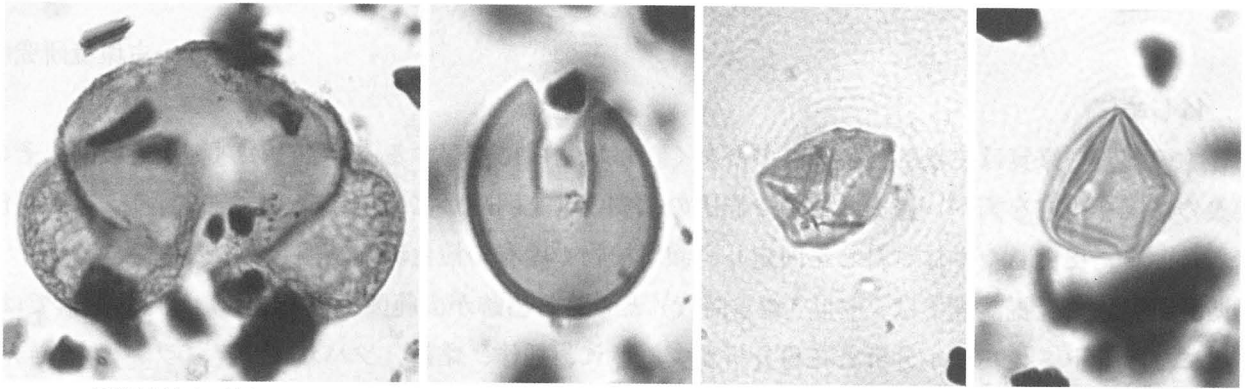
メダケ節型



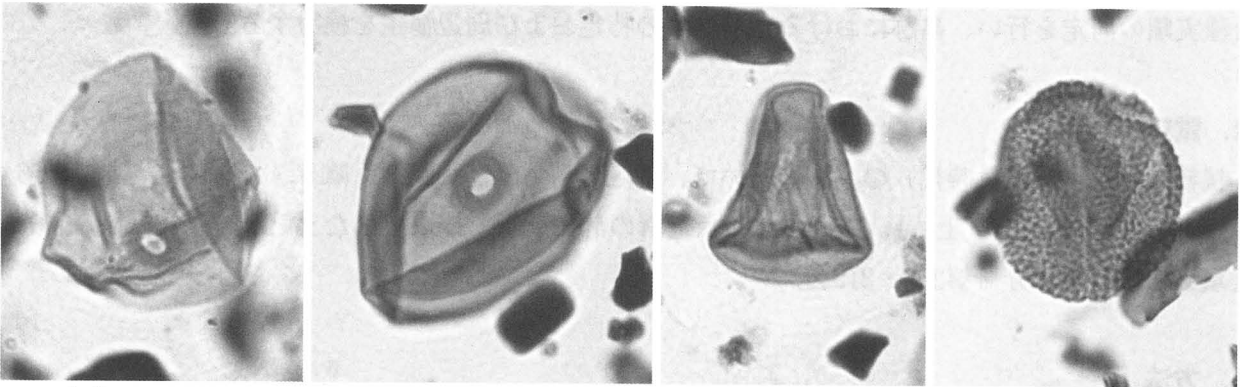
シバ属

— 50 μm

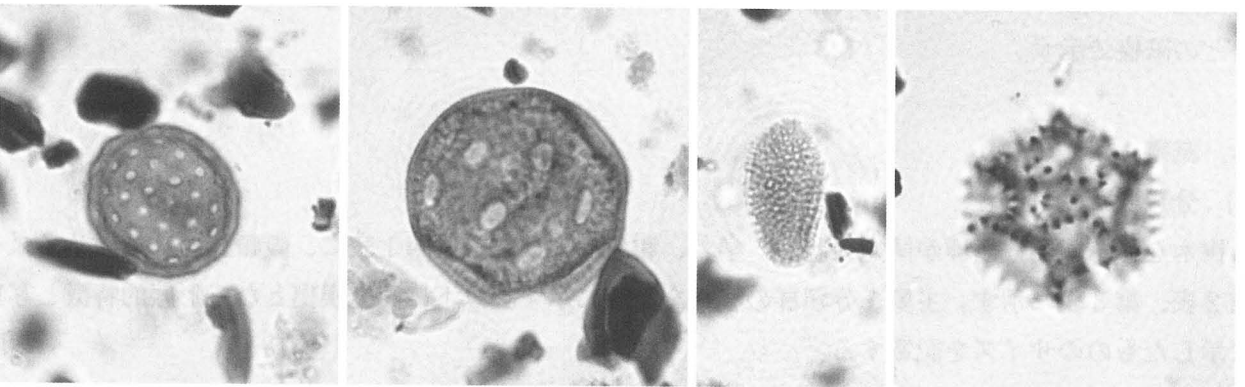
博労町遺跡の花粉・孢子



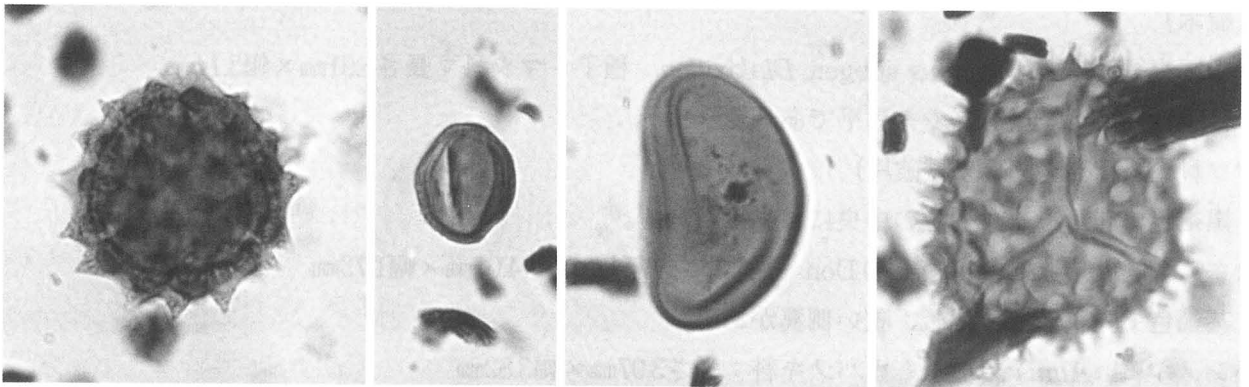
1 マツ属複維管束胚属 2 スギ 3 クワ科-イラクサ科 4 マメ科



5 イネ科 6 イネ属型 7 カヤツリグサ科 8 ソバ属



9 アカザ科-ヒユ科 10 ナデシコ科 11 アブラナ科 12 タンポポ科



13 キク科 14 ヨモギ属 15 シダ植物単条溝孢子 16 シダ植物三条溝孢子

— 10 μm

第2節 博労町遺跡における種実同定

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

博労町遺跡の発掘調査では、中世（鎌倉時代）とされる畠跡が広範囲で検出された。当該遺構では、すでにプラント・オパール分析と花粉分析が実施され、稲作、雑穀、ソバおよびアブラナ等を作物とする畑作が行われていた可能性が示唆されている。そこで、ここでは畠の畝および遺構より抽出された種実類の同定を行い、畠跡における栽培作物の特定および周辺植生を検討する。

2. 試料

試料は、中世（鎌倉時代）の畠跡において、1区の畠1畝1～畝3、畝5・7～畝9、畠4畝6の8箇所、2区のSX01（土坑）、4区の水溜状遺構の計10箇所から採取された土壌より水洗選別された種実類である（第1分冊第306・319図）。

3. 方法

同定は、形態的特徴および現生標本との対比によって行い、結果は同定レベルによって科、属、種などの階級で示す。

4. 結果

(1) 分類群

樹木6、草本13分類群が同定される。学名、和名および粒数を第1表に、穀類、ウリ類のサイズを第2表、第3表に示す。主要な分類群の写真を図版に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴と写真に示したもののサイズを記載する。

〔樹木〕

マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* 種子 マツ科：長さ5.91mm×幅3.14mm

種子は倒卵形を呈し、やや扁平である。

マツ科 *Pinaceae* 毬果（破片）

黒褐色で卵形を呈す。その中央にはへそがある。

スギ *Cryptomeria japonica* D.Don 種子 スギ科：長さ4.05mm×幅1.73mm

茶褐色で長楕円形を呈し、狭い側翼がある。

ハンノキ属 *Alnus* 種子 カバノキ科：長さ3.97mm×幅3.82mm

種子は広卵形や卵形、倒卵形を呈し、扁平である。暗褐色で平滑となる。

アカメガシワ *Mallotus japonicus* Muell. et Arg. 種子（破片） トウダイグサ科

黒色で球形を呈し、「Y」字状のへそがある。表面にはいぼ状の突起が密に分布する。

クロガネモチ *Ilex rotunda* Thunb. 核 モチノキ科：長さ4.30mm×幅1.20mm

灰黄色で半狭楕円形を呈し、光沢はない。背面には2個の縦溝があり、溝は粗面。腹面の正中線は稜をなす。

〔草本〕

イネ *Oryza sativa* L. 炭化果実 イネ科：サイズは第2表に記載する。

炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し、胚の部分がくぼむ。表面には数本の筋が走る。

ヒエ *Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno 穎（完形・破片） イネ科：サイズは第2表に記載する。

茶褐色で類円形を呈し、下端に枝梗が残る。腹面はやや平ら。背面は丸い。発芽しているものがあり、赤い発芽促進剤状の色のついているものもあり、これらについては現生の種実の混入の可能性も考えなければならない。

オオムギ *Hordeum vulgare* L. 果実（完形・破片） イネ科：サイズは第2表に記載する。

炭化しているため黒色で、楕円形を呈す。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。側面の形は曲率が大きく、胚と胚乳との接する輪郭線は山形である。

コムギ *Triticum aestivum* L. 果実 イネ科：サイズは第2表に記載する。

炭化しているため黒色で、楕円形を呈する。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。比較的四角い形を呈し、短い。

ムギ類（オオムギーコムギ）*Hordeum-Triticum* 果実（破片） イネ科

オオムギもしくはコムギと思われるが、発泡しているため穀類とした。

イネ科 Gramineae 穎：長さ1.94mm×幅0.89mm

灰褐色で長楕円形を呈す。腹面はやや平ら。背面は丸い。表面は滑らかである。

ホタルイ属 *Scirpus* 果実（完形・破片） カヤツリグサ科：長さ1.96mm×幅1.56mm

黒褐色で、やや光沢がある。広倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ形である。表面には横方向の微細な隆起があり、基部に4～8本の針状の付属物を持つ。

アサ *Cannabis sativa* L. 種子 クワ科：長さ3.98mm×幅3.17mm

茶褐色で広卵形を呈す。一端には円形のへそ部がある。

アサは南アジアや中央アジアが原産とされる1年草の畑作物である。茎皮の繊維は麻糸になり、種子は油を採ったり食用になる。

カナムグラ *Humulus japonicus* Sieb. et Zucc. 種子（破片） クワ科

黒色で円形を呈し、断面形は両凸レンズ状である。側面には心形を呈するへそがある。

タデ属 *Polygonum* 果実 タデ科

黒褐色で卵形を呈す。断面は三角形である。

ギンギシ属 *Rumex* 果実 タデ科：長さ5.35mm×幅2.94mm

茶褐色で頂端が尖る卵形を呈す。断面は三角形、表面には光沢がある。翼状の花被の残るものもある。

アブラナ科 Cruciferae 種子

赤褐色で類円形を呈し、下端にへそがある。

ウリ類 *Cucumis melo* L. 種子（完形・破片） ウリ科：サイズは第3表に記載する。

淡褐色～黄褐色で長楕円形を呈し、上端は「ハ」字状にくぼむ。平均値は長さ7.94mm×幅3.82mm、

最大値長さ8.83mm×幅4.33mm、最小値長さ6.24mm×幅3.26mm。

藤下（1992）によると小粒種子（雑草メロン型）、中粒種子（マクワウリ・シロウリ型）、大粒種子（モモルディカ型）があり、本試料は中粒種子（マクワウリ・シロウリ型）から大粒種子（モモルディカ型）にあたる。

キク亜科 Asteroideae 果実 キク科

茶褐色で楕円形を呈し、両端は切形となる。

(2) 種実群集の特徴

・ 1 区

1) 畝 1

草本種実のヒエを中心に、オオムギ、ムギ類、イネ科、イネ、コムギ、タデ属、ギシギシ属が伴い、樹木草本ではスギ、マツ科が同定された。

2) 畝 2

すべて草本種実でありヒエを中心に、イネ科、イネ、コムギ、ムギ類が同定された。

3) 畝 3

すべて草本種実でありヒエを中心に、イネ科、オオムギ、ムギ類、キク亜科が同定された。

4) 畝 5

畝 3 と出現傾向はほとんど一緒だが、樹木種実のマツ属複維管束亜属、ハンノキ属が同定された。

5) 畝 6

すべて草本種実でありヒエを中心に、イネ科、カナムグラが同定された。

6) 畝 7

すべて草本種実でありヒエを中心に、イネ科が同定された。

7) 畝 8

草本種実のヒエ、イネ科、ムギ類、樹木種実のハンノキ属が同定された。

8) 畝 9

草本種実のヒエ、ホタルイ属、樹木種実のマツ属複維管束亜属、アカメガシワ、クロガネモチが同定された。

・ 2 区 SX01（土坑）

すべて草本種実であり、オオムギ、ムギ類が同定された。

・ 4 区 水溜状遺構

すべて草本種実であり、ウリ類が多量に検出され、ほかにホタルイ属、アサが同定された。

5. 種実同定から推定される植生と農耕

(1) 1 区畠 1・畠 4（畝 1～畝 3、畝 5～畝 9）

草本種実のヒエ、オオムギ、イネ、コムギ、ムギ類は栽培植物であり、ほとんどが炭化しているがヒエだけは未炭化であった。ヒエの中には発芽しているものもあった。もしかすると現生のものが混入した可能性も考えられる。イネ科、ホタルイ属、タデ属は抽水植物であり、カナムグラ、ギシギシ属、キク亜科は人里植物ないし畑作雑草で、陽当たりの良い乾燥地に生育する。マツ属複維管束亜属、

クロガネモチは温帯を中心に広く分布する針葉樹ないし常緑広葉樹である。マツ属複雑管束亜属は土壌条件の悪い岩山に生育し、二次林を形成するアカマツと、砂地の海岸林を形成するクロマツとがある。スギは温帯に広く分布し、とくに積雪地帯や多雨地帯で純林を形成する針葉樹である。ハンノキ属も温帯を中心に広く分布し、沢沿いなどの湿原や水湿のある低地に生育し、ときには湿地林を形成する。アカメガシワは落葉広葉樹であり、二次林種でもある。これらの樹木が近隣に生育していたと考えられる。

(2) 2区 SX01 (土坑)

すべて草本種実で、オオムギ、ムギ類は栽培植物である。近隣にそれらを栽培した畑があり、土坑内に混入した可能性が考えられる。土坑の性格は種実同定からは言及できない。

(3) 4区 水溜状遺構

検出された種実はいずれも草本種実である。最も多いウリ類は栽培植物であり、サイズの平均値は長さ7.94mm×幅3.82mm、最大値は長さ8.83mm×幅4.33mm、最小値は長さ6.24mm×幅3.26mmであった。これらの計測値からサイズのばらつきはあまりなく、一団体からもたらされた可能性が高い。アサは栽培ないし有用植物である。ホタルイ属は抽水性植物であり水辺を好む。

6. まとめ

博労町遺跡で検出された中世の畠跡における種実同定の結果、樹木種実のマツ属複雑管束亜属、マツ科、スギ、ハンノキ属、アカメガシワ、クロガネモチ、草本種実のイネ、ヒエ、オオムギ、コムギ、ムギ類、イネ科、ホタルイ属、アサ、カナムグラ、タデ属、ギシギシ属、ウリ類、キク亜科が同定された。1区ではヒエ、オオムギ、イネ、コムギ、ムギ類の栽培植物が検出され、とくにヒエが多く、ヒエを主にオオムギ、コムギ、イネが栽培されていたと推定された。2区のSX01ではオオムギ、ムギ類の栽培植物が検出されたが、土坑の性格は不明であった。4区の水溜状遺構では多量のウリ類、アサの栽培植物が検出され、当時、調査地もしくは近傍でウリ類やアサが栽培されていたと推定される。なお、ウリ類については種子の形状からでは種レベルの同定は困難であるため、詳細な同定を行うためにもDNA分析を実施することが望まれる。

以上のように、当該畠跡ではイネやヒエ、オオムギ、コムギ、ムギ類等の雑穀が栽培されていたことが明らかになった。また、ウリ類やアサも栽培されていた可能性が認められた。

(引用・参考文献)

- 松谷暁子 1982 「電子顕微鏡でみる縄文時代の栽培植物」『畑作文化の誕生』日本放送出版協会, p. 91-120.
笠原安夫 1985 『日本雑草図説』養賢堂, 494p.
笠原安夫 1988 「作物および田畑雑草種類」『弥生文化の研究』第2巻生業, 雄山閣出版, p. 131-139.
南木陸彦 1991 「栽培植物」『古墳時代の研究』第4巻生産と流通Ⅰ, 雄山閣出版株式会社, p. 165-174.
吉崎昌一 1992 「古代雑穀の検出」『月刊考古学ジャーナル』No.355, ニューサイエンス社, p. 2-14.
藤下典之 1992 「出土種子からみた古代日本のメロンの仲間、その種類, 渡来, 伝搬, 利用について」『考古学ジャーナル』354, ニュー・サイエンス社, p. 7-13.

第2表 博労町遺跡穀類計測値

畝3 ヒエ

畝7 ヒエ

試料	長さ(mm)	幅(mm)	試料	長さ(mm)	幅(mm)
1	2.31	1.80	1	1.67	1.15
2	2.32	1.75	2	2.24	1.78
3	2.03	1.62	3	2.44	1.67
4	2.49	1.85	4	2.28	1.58
5	2.31	1.84	5	2.08	1.76
6	2.14	1.64	6	2.50	1.87
7	2.26	1.79	7	1.95	1.63
8	1.91	1.39	8	2.39	1.85
9	2.26	1.75	9	2.07	1.55
10	2.36	1.76	10	2.01	1.58
11	2.49	1.85	11	2.09	1.49
12	2.22	1.66	12	2.49	2.00
13	2.07	1.84	13	2.12	1.46
14	2.22	1.78	14	2.16	1.67
15	2.16	1.81	15	2.45	1.79
16	2.30	1.75	16	2.31	1.88
17	2.18	1.67	17	1.99	1.55
18	2.05	1.62	18	2.54	1.63
19	2.31	1.66	19	2.36	1.67
20	2.14	1.72	20	2.32	1.84
21	2.14	1.60	21	2.48	1.98
22	2.16	1.45	22	2.38	1.65
23	2.29	1.66	23	2.42	2.02
24	2.40	1.72	24	2.14	1.50
25	2.11	1.35	25	2.17	1.83
26	2.22	1.61	26	1.92	1.65
27	2.23	1.78	27	2.51	1.95
28	2.33	1.71	28	1.67	1.19
29	2.21	1.92	29	1.66	1.35
30	2.29	1.80	30	2.42	1.89
31	2.06	1.51	31	2.50	1.71
32	2.49	1.82	32	2.27	1.76
33	1.69	1.47	33	2.09	1.74
34	2.14	1.67	34	2.06	1.71
35	2.15	1.86	35	2.22	1.84
36	2.02	1.53	36	2.57	1.84
37	2.03	1.45	37	2.07	1.64
38	1.95	1.28	38	2.00	1.69
39	2.45	1.83	39	2.24	1.65
40	2.18	1.49	40	1.69	1.30
41	2.30	1.80	41	2.24	1.80
42	2.34	1.61	42	1.98	1.51
43	2.23	1.98	43	2.40	1.57
44	2.34	1.94	44	2.16	1.67
45	2.32	1.74	45	2.42	1.78
46	2.09	1.62	46	1.71	1.31
47	2.17	1.56	47	2.58	1.91
48	1.94	1.52	48	2.26	2.01
49	2.23	1.57	49	2.58	1.77
50	1.78	1.36	50	2.21	1.68

畝3	長さ(mm)	幅(mm)
平均値	2.20	1.68
最大値	2.49	1.98
最小値	1.69	1.28

畝7	長さ(mm)	幅(mm)
平均値	2.21	1.69
最大値	2.58	2.02
最小値	1.66	1.15

ヒエ全体	長さ(mm)	幅(mm)
平均値	2.20	1.68
最大値	2.58	2.02
最小値	1.66	1.15

試料	長さ(mm)	幅(mm)
イネ	4.76	3.10
	4.33	2.92
オオムギ	4.55	2.49
	4.71	2.67
	3.99	2.34
	4.71	2.36
	4.87	3.08
コムギ	3.33	2.49
	3.59	2.41

第3表 博労町遺跡ウリ類計測値

試料	長さ (mm)	幅 (mm)	試料	長さ (mm)	幅 (mm)
1	8.47	3.79	51	8.12	4.26
2	8.56	4.05	52	8.10	3.53
3	7.63	3.98	53	6.95	3.35
4	7.83	3.63	54	7.10	4.02
5	7.47	3.56	55	8.05	3.91
6	7.96	3.63	56	8.19	3.55
7	8.65	4.19	57	6.55	3.48
8	8.38	3.97	58	8.42	3.84
9	8.00	4.04	59	8.05	3.70
10	7.89	3.86	60	7.67	3.84
11	8.61	3.66	61	8.28	3.86
12	6.64	3.77	62	8.16	3.91
13	7.87	3.43	63	7.98	3.44
14	8.18	3.77	64	7.44	3.65
15	8.27	3.66	65	7.81	3.62
16	7.16	3.57	66	8.47	3.93
17	7.87	3.61	67	7.93	3.81
18	7.65	3.81	68	8.09	3.93
19	7.69	4.01	69	7.95	3.67
20	7.76	3.59	70	7.95	4.14
21	8.27	4.06	71	6.95	3.79
22	8.29	3.81	72	8.12	4.16
23	8.03	3.57	73	8.09	3.72
24	8.54	3.59	74	7.37	3.86
25	8.41	3.79	75	7.30	3.77
26	7.74	3.92	76	8.35	4.14
27	7.76	3.90	77	8.51	3.88
28	8.65	3.63	78	8.00	3.93
29	8.58	3.79	79	8.19	3.93
30	7.85	3.79	80	7.88	3.86
31	8.34	3.75	81	8.28	3.93
32	8.29	3.63	82	8.05	3.53
33	7.87	3.59	83	7.27	3.77
34	8.27	3.72	84	7.48	3.91
35	8.14	3.92	85	7.76	4.02
36	7.20	3.26	86	8.26	3.86
37	8.07	3.92	87	6.27	4.30
38	8.47	3.48	88	7.67	4.16
39	8.38	3.84	89	8.51	3.62
40	8.47	3.72	90	8.30	3.69
41	8.61	3.77	91	8.33	4.23
42	8.34	3.77	92	8.65	3.98
43	8.45	3.72	93	7.30	3.98
44	8.00	4.21	94	6.24	4.33
45	8.45	3.46	95	7.06	4.12
46	7.58	3.68	96	8.33	4.23
47	8.41	3.62	97	6.88	3.65
48	8.54	3.88	98	8.09	3.93
49	7.49	3.79	99	6.88	3.70
50	8.83	3.75	100	7.97	4.23

	長さ (mm)	幅 (mm)
平均値	7.94	3.82
最大値	8.83	4.33
最小値	6.24	3.26

博労町遺跡の種実



1 マツ属複維管束皿属種子

1.0mm



2 スギ種子

1.0mm



3 ハンノキ属果実

1.0mm



4 クロガネモチ種子

1.0mm



5 イネ炭化果実

1.0mm



6 イネ炭化果実

1.0mm



7 ヒエ類

1.0mm



8 ヒエ類

1.0mm



9 ヒエ類

1.0mm



10 ヒエ類

1.0mm



11 オオムギ炭化果実

12 同左



1.0mm



13 コムギ炭化果実

14 同左



1.0mm



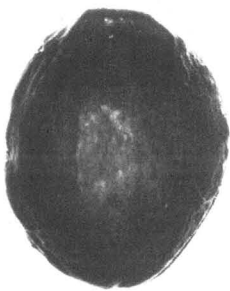
15 イネ科類

0.5mm



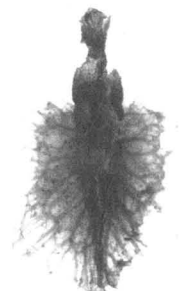
16 ホタルイ属果実

0.5mm



17 アサ種子

1.0mm



18 ギシギシ属果実

1.0mm



19 ウリ類種子

1.0mm



20 ウリ類種子

1.0mm

第3節 博労町遺跡における放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 (^{14}C) の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌、土器付着炭化物などが測定対象となり、約6万年前までの年代測定が可能である。

ここでは、博労町遺跡で出土した炭化物を対象に加速器質量分析法による放射性炭素年代測定を行い、検出遺構の構築年代および土層の堆積年代について検討した。

2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは第1表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

第1表 測定試料及び処理

試料名	出土箇所	種類	前処理・調整	測定法
No.1	No.6081 (2区SB19 P417)	炭化材	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS
No.2	No.6102 (2区SB18 P465)	炭化材	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS
No.3	No.3691 (4区SD10)	炭化材	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS
No.4	No.1307 (5区畠1畝)	炭化材	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS

※AMS (Accelerator Mass Spectrometry) は加速器質量分析法

3. 測定結果

第2表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、 ^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲を、第1図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

第2表 測定結果

試料名	測定No. (PED-)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (年BP)	^{14}C 年代 (年BP)	暦年代 (西暦)	
					1 σ (68.2%確率)	2 σ (95.4%確率)
No.1	15461	-23.87 \pm 0.17	1253 \pm 20	1255 \pm 20	AD690-750 (56.5%)	AD670-820 (94.3%)
					AD760-780 (11.7%)	AD840-860 (1.1%)
No.2	15462	-27.81 \pm 0.17	3185 \pm 23	3185 \pm 25	BC1495-1470 (25.2%)	BC1500-1415 (95.4%)
					BC1465-1430 (43.0%)	
No.3	15463	-26.57 \pm 0.16	3203 \pm 22	3205 \pm 20	BC1495-1445 (68.2%)	BC1515-1425 (95.4%)
					AD1030-1050 (14.8%)	
No.4	15464	-29.29 \pm 0.14	943 \pm 20	945 \pm 20	AD1080-1160 (53.4%)	AD1020-1160 (95.4%)

BP : Before Physics (Present)、BC : 紀元前、AD : 紀元

^{14}C 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正にはOxCal3.1 (較正曲線データ: IntCal09) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4. 所見

博労町遺跡で出土した炭化材4点について、加速器質量分析法 (AMS法) による放射性炭素年代測定を行った。その結果、試料No.6081 (2区SB19、P417) は 1255 ± 20 年BP (2σ の暦年代でAD670~820年、AD840~860年)、試料No. 6102 (2区SB18、P465) は 3185 ± 25 年BP (同BC1500~1415年)、試料No. 3691 (4区SD10) は 3205 ± 20 年BP (同BC1515~1425年)、試料No. 1307 (中世5区畠畝) は 945 ± 20 年BP (同AD1020~1160年) の年代値が得られた。

(引用・参考文献)

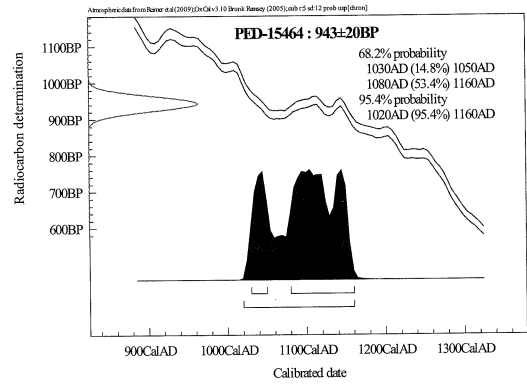
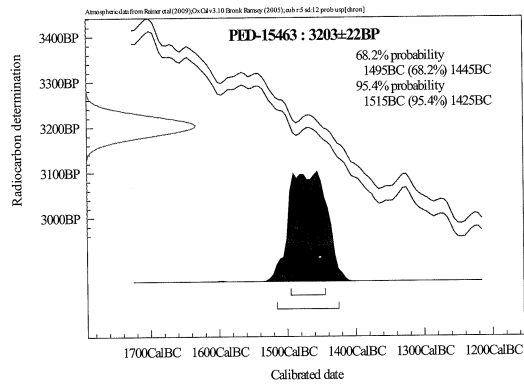
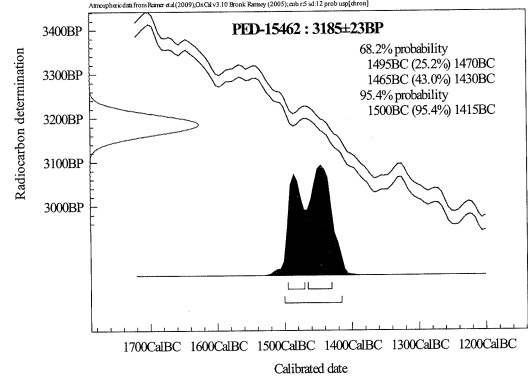
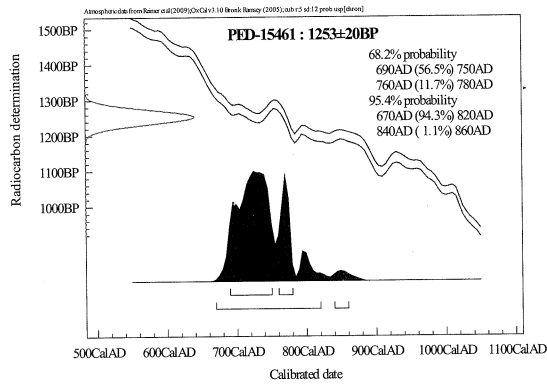
Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy, The OxCal Program, Radiocarbon, 37 (2), p. 425-430.

Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43 (2 A), 355-363.

中村俊夫 2000「放射性炭素年代測定法の基礎」『日本先史時代の ^{14}C 年代』 p. 3-20.

Paula J Reimer et al., (2004) IntCal 04 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26-0 ka BP. Radiocarbon 46, p. 1029-1058.

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, 1111-1150.



第1図 曆年較正結果

第4節 博労町遺跡出土製鉄・鍛冶関連遺物の金属学的調査

九州テクノリサーチ・TACセンター

大澤正己・鈴木瑞穂

1. いきさつ

博労町遺跡は鳥取県米子市博労町に所在する。調査地区内では古代の掘立柱建物跡や区画溝などが検出された。3区からは9世紀前半と推定される鉄関連遺物を廃棄した土坑より羽口、鉄滓等が出土している。遺跡内での生産の実態を検討する目的から、金属学的調査を行う運びとなった。

2. 調査方法

2-1. 供試材

Table 1 に示す。鍛冶関連遺物計 8 点の調査を行った。

2-2. 調査項目

(1) 肉眼観察

遺物の外観上の観察所見を簡単に記載した。

(2) マクロ組織

本来は肉眼またはルーペで観察した組織であるが、本稿では顕微鏡埋込み試料の断面全体像を、低倍率で撮影したものを指す。当調査は、顕微鏡検査によるよりも広い範囲にわたって、組織の分布状態、形状、大きさなどの観察ができる利点がある。

(3) 顕微鏡組織

滓中に晶出する鉍物及び鉄部の調査を目的として、光学顕微鏡を用い観察を実施した。観察面は供試材を切り出した後、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の 3μ と 1μ で順を追って研磨している。なお金属組織の調査では、3%ナイトル（硝酸アルコール液）を腐食（Etching）に用いた。

(4) ビッカース断面硬度

鉄滓中の鉍物と、金属鉄の組織同定を目的として、ビッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬さの測定を行った。試験は鏡面研磨した試料に 136° の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除した商を硬度値としている。試料は顕微鏡用を併用し、荷重は50または100gfで測定した。

(5) EPMA (Electron Probe Micro Analyzer) 調査

化学分析を行えない微量試料や鉍物組織の微小域の組織同定を目的とする。

分析の原理は、真空中で試料面（顕微鏡試料併用）に電子線を照射し、発生する特性X線を分光後に画像化し、定性的な結果を得る。更に標準試料とX線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理してデータ解析を行う方法である。

(6) 化学組成分析

供試材の分析は次の方法で実施した。

全鉄分 (Total Fe)、金属鉄 (Metallic Fe)、酸化第一鉄 (FeO) : 容量法。

炭素 (C)、硫黄 (S) : 燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化硅素 (SiO₂)、酸化アルミニウム (Al₂O₃)、酸化カルシウム (CaO)、酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K₂O)、酸化ナトリウム (Na₂O)、酸化マンガン (MnO)、二酸化チタン (TiO₂)、酸化クロム (Cr₂O₃)、五酸化磷 (P₂O₅)、バナジウム (V)、銅 (Cu)、二酸化ジルコニウム (ZrO₂) : ICP(Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer) 法 : 誘導結合プラズマ発光分光分析。

3. 調査結果

BAK-1 : 椀形鍛冶滓 (含鉄)

(1) 肉眼観察 : 19gの小型の椀形鍛冶滓である。表面は黄褐色の土砂や茶褐色の銹化物に覆われており、微細な木炭破片や鍛造剥片が付着する。滓部は黒灰色で、破面にはごく細かい気孔が散在するが緻密である。

(2) マクロ組織 : Photo. 1 ①に示す。観察面ではまとまった鉄部は存在せず、上面側を中心にごく微細な銹化鉄が多数散在する。また滓部の鉱物組成をみると、上半部はウスタイト (Wustite : FeO) の割合が少なく、下半部で密に晶出する。

(3) 顕微鏡組織 : Photo. 1 ②~⑦に示す。②は滓表面に付着する微細な木炭破片で、木口面が観察される。発達した導管が分布する広葉樹材の黒炭であった。また③は滓表面に付着した平坦度に乏しい鍛造剥片の拡大である。

④⑤は上面側の滓部の拡大で、淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル (Ulvöspinel: 2 FeO·TiO₂)、白色粒状結晶ウスタイト (Wustite: FeO)、淡灰色柱状結晶ファヤライト (Fayalite: 2 FeO·SiO₂) が晶出する。精錬鍛冶滓の晶癖である。また⑥⑦は滓中にごく微細な銹化鉄部が散在しており、内部には亜共析組織 (C<0.77%) の痕跡が残存する。この金属組織痕跡から、炭素含有率は0.2~0.3%程度の低炭素鋼と推定される。

(4) ビッカース断面硬度 : 紙面の構成上、硬度を測定した圧痕の写真を割愛したが、淡茶褐色多角形結晶の調査を実施した。硬度値は638Hv、641Hv、664Hvであった (荷重 : 100gf)。ウルボスピネルに同定される。また淡灰色柱状結晶の定量分析値は610Hv、687Hvであった (荷重 : 50gf)。ファヤライトの文献硬度値600~700Hvの範囲内であり、ファヤライトに同定される。さらに白色粒状結晶の硬度値は492Hv、527Hv、533Hvであった (50gf)。ウスタイトの文献硬度値450~500Hvと比較するとやや硬質で、一部マグネタイトの範疇500~600Hvに入る。両者の混晶である可能性が高い (註1)。

滓中にウルボスピネルが晶出することから、当鉄滓は鍛冶原料 (製鍊鉄塊系遺物) の不純物除去作業で生じた精錬鍛冶滓に分類される。また始発 (製鉄) 原料は後述の流出溝滓 (BAK-4) の特徴などからも砂鉄である。

BAK-2 : 粒状滓

BAK-2 イ-1 3.8mm径

(1) 肉眼観察 : 表面はごく薄く茶褐色の銹化物で覆われる。やや歪な球状で、大きな破面が1面観

察される。滓の地の色調は黒灰色で、非常に微細な気孔が点在する。

(2) マクロ組織：Photo. 2 ①に示す。断面は楕円状で、内部には微細な気孔が多数散在する。

(3) 顕微鏡組織：Photo. 2 ②に示す。最表層の微細な明白色針状はヘマタイト (Hematite: Fe_2O_3)、灰褐色多角形結晶はマグネタイト (Magnetite: Fe_3O_4) と推定される。さらに内部には白色粒状結晶ウスタイトが凝集して晶出する。

BAK-2 イ-2 2.4mm径

(1) 肉眼観察：色調は黒灰色で、歪な球状を呈する。表面には微細な気孔が点在する。

(2) マクロ組織：Photo. 2 ③に示す。断面中央付近に気孔が複数点在している。

(3) 顕微鏡組織：Photo. 2 ④に示す。明白色最表層はヘマタイト、その内側の明灰色層はマグネタイト、その内側の暗灰色部はウスタイトである。

BAK-2 ロ-1 1.6mm径

(1) 肉眼観察：色調は黒灰色で、やや歪な球状を呈する。表面は比較的平滑で、若干微細な気孔がみられる。

(2) マクロ組織：Photo. 2 ⑤に示す。断面には非常に微細な気孔が少量散在する。

(3) 顕微鏡組織：Photo. 2 ⑥に示す。内部には白色粒状結晶ウスタイトが凝集して晶出する。

BAK-2 ハ-1 3.8mm径

(1) 肉眼観察：色調は黒灰色で、やや歪な球状を呈する。表面には波状の凹凸があり、1箇所棘状の突起がみられる。

(2) マクロ組織：Photo. 2 ⑦に示す。断面には中央付近に不定形の気孔がみられる。その周囲にも、ごく微細な気孔が多数散在する。

(3) 顕微鏡組織：Photo. 2 ⑧に示す。最表層の微細な明白色針状はヘマタイト、灰褐色多角形結晶はマグネタイトと推定される。さらに内部には白色粒状結晶ウスタイトが凝集して晶出する。

分析調査を実施した粒状滓4点は、すべて鉄酸化物であった。鉄材の熱間加工時、表面に生じた鉄酸化物が鍛打に伴い飛散した微細遺物である。

BAK-3：鍛造剥片

BAK-3 イ-1 3.6×2.6×0.4mm

(1) 肉眼観察：色調は表裏面とも黒褐色である。表面は平滑で、裏面は波状の凹凸がみられる。

(2) マクロ組織：Photo. 3 ①に示す。やや厚手の剥片で、裏面側の凹凸に伴う厚みの変動がみられる。

(3) 顕微鏡組織：Photo. 3 ②に示す。明白色最表層はヘマタイト、その内側の明灰色層はマグネタイト、その内側の暗灰色層は凝集ウスタイトである。

BAK-3 イ-2 3.4×2.1×0.2mm

(1) 肉眼観察：色調は表裏面とも黒褐色である。表面には筋が2条あり、下面には細かい凹凸が存在する。

(2) マクロ組織：Photo. 3 ③に示す。比較的平坦であるが、表裏面の凹凸に伴う厚みの変動がみられる。

(3) 顕微鏡組織：Photo. 3 ④に示す。明白色最表層はヘマタイト、その内側の明灰色層は肥大マグネタイト、その内側の暗灰色は層亀裂の走るウスタイトである。

BAK-3 イ-3 3.7×2.2×0.1mm

- (1) 肉眼観察：色調は表裏面とも青黒～黒褐色である。また表裏面とも波状の凹凸がみられる。
- (2) マクロ組織：Photo. 3 ⑤に示す。薄手で比較的平坦な剥片である。
- (3) 顕微鏡組織：Photo. 3 ⑥に示す。明白色最表層はヘマタイト、その内側の明灰色層はマグネタイト、その内側の暗灰色層は非晶質ウスタイトである。最終仕上げの剥片であろう。

BAK-3 ロ-1 3.3×1.9×0.4mm

- (1) 肉眼観察：色調は表裏面とも青黒～黒褐色である。また表裏面ともごく微細な凹凸がみられる。
- (2) マクロ組織：Photo. 3 ⑦に示す。厚手で平坦な剥片である。
- (3) 顕微鏡組織：Photo. 3 ⑧に示す。明白色最表層はヘマタイト、その内側の明灰色層はマグネタイト、その内側の暗灰色層は非晶質に近づくウスタイトである。

BAK-3 ロ-2 2.7×2.2×0.2mm

- (1) 肉眼観察：色調は表裏面とも青黒～黒褐色で、平滑である。
- (2) マクロ組織：Photo. 4 ①に示す。やや薄手で平坦な剥片である。
- (3) 顕微鏡組織：Photo. 4 ②に示す。明白色最表層はヘマタイト、その内側の明灰色層はマグネタイト、その内側の暗灰色層は非晶質ウスタイトである。

BAK-3 ロ-3 2.2×1.8×0.1mm

- (1) 肉眼観察：色調は表裏面とも青黒～黒褐色で、平滑である。
- (2) マクロ組織：Photo. 4 ③に示す。やや薄手で平坦な剥片である。
- (3) 顕微鏡組織：Photo. 4 ④に示す。明白色最表層はヘマタイト、その内側の明灰色層はマグネタイト、その内側の暗灰色層は非晶質に近づいたウスタイトである。

分析調査を実施した鍛造剥片6点は、すべて薄膜状の鉄酸化物であった。粒状滓 (BAK-2) と同様、鉄材の熱間加工時表面に生じた鉄酸化物が、鍛打に伴って飛散した剥片状微細遺物である。

BAK-4：流出溝滓

- (1) 肉眼観察：716gの平面不整六角形で盤状の流出溝滓破片である。上面は流動状で、微細な皺状の凹凸がみられる。また下面は全体に微細な炉壁粘土や小礫が固着する。破面にはやや小型の気孔が散在するが、非常に緻密で重量感がある。
- (2) 顕微鏡組織：Photo. 4 ⑤～⑦に示す。淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル、淡灰色柱状結晶フエライトが晶出する。砂鉄製錬滓の晶癖である。また滓中にはごく微細な金属鉄粒が散在する。⑥⑦の明白色粒はその拡大である。3%ナイトルで腐食したところ、ほとんど炭素を含まないフェライト (Ferrite： α 鉄) 単相の組織が確認された。
- (3) ビッカース断面硬度：紙面の構成上、硬度を測定した圧痕の写真を割愛したが、淡茶褐色多角形結晶の調査を実施した。硬度値は740Hv、748Hv、765Hvであった。ウルボスピネル (Ulvöspinel： $2\text{FeO}\cdot\text{TiO}_2$) としては若干硬質であり、ヘーシナイト (Hercynite： $\text{FeO}\cdot\text{Al}_2\text{O}_3$) との固溶体の可能性が高い。
- (4) 化学組成分析：Table 2に示す。全鉄分 (Total Fe) 30.74%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.03%、酸化第1鉄 (FeO) 33.70%、酸化第2鉄 (Fe_2O_3) 6.46%の割合であった。造滓成分 ($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$) 50.07%と高値であるが、このうち塩基性成分 ($\text{CaO} + \text{MgO}$)

は2.97%と低めである。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（ TiO_2 ）7.37%、バナジウム（V）0.30%と高値であった。また酸化マンガン（ MnO ）は0.43%、銅（Cu）は<0.01%と低値である。

当鉄滓は砂鉄起源の脈石成分（ TiO_2 、V）の割合が高く、砂鉄製錬滓に分類される。

BAK-5：羽口

- (1) 肉眼観察：熱影響を受けて先端部が黒色ガラス質化した、鍛冶羽口の破片である。内外径ともやや先細りの形状を呈する。胎土は淡褐色の粘土質で、細かい砂粒を含んでいる。
- (2) 顕微鏡組織：Photo.5 ①～③に示す。①は外面表層側の黒色ガラス質部分である。滓中には非常に微細な鉄酸化物（ウスタイトまたはマグネタイト）が晶出する。②③はその拡大である。鉄材を加熱したときの吹き減り（酸化による損失）に伴うものといえよう。
- (3) 化学組成分析：Table 2 に示す。胎土分析である。強熱減量（Ig loss）8.64%とやや高めであった。熱影響を受けてはいるが、比較的結晶構造水を保持した状態での分析といえる。鉄分（ Fe_2O_3 ）は4.41%と高めであるが、酸化アルミニウム（ Al_2O_3 ）が20.07%と高値で、耐火性にも有利に働くと考えられる。
- (4) 耐火度：1320℃であった。古代の羽口としてはごく一般的で、十分な耐火性状といえる。
当羽口はガラス質滓中の鉱物組成から、鍛冶原料鉄の加熱に用いられたと判断される。

BAK-6：椀形鍛冶滓

- (1) 肉眼観察：260g弱で小型の椀形鍛冶滓である。上面は比較的平坦で、外周部に微細な木炭痕が散在する。下面は一部鍛冶炉床土が固着する部分と、細かい木炭痕による凹凸の残る部分とが混在する。側面1面は破面で、細かい気孔が散在するが緻密である。
- (2) 顕微鏡組織：Photo.5 ④～⑥に示す。④は滓部で白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶フェアライトが晶出する。高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶滓の晶癖である。
- (3) ビッカース断面硬度：紙面の構成上、硬度を測定した圧痕の写真を割愛したが、白色粒状結晶の調査を実施した。硬度値は397Hv、422Hvであった。ウスタイトとしては若干低値傾向を示すが、風化等の影響と推測される。
- (4) 化学組成分析：Table 2 に示す。全鉄分（Total Fe）48.75%に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.01%、酸化第1鉄（ FeO ）47.06%、酸化第2鉄（ Fe_2O_3 ）17.34%の割合であった。造滓成分（ $\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$ ）31.93%で、このうち塩基性成分（ $\text{CaO} + \text{MgO}$ ）は4.67%であった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）の二酸化チタン（ TiO_2 ）は0.48%、バナジウム（V）<0.01%と低値であった。また酸化マンガン（ MnO ）も0.10%、銅（Cu）<0.01%と低値である。

当鉄滓は砂鉄起源の脈石成分（ TiO_2 、V）の低減傾向が顕著であり、鉄材の熱間加工時に生じた高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶滓に分類される。

BAK-7：椀形鍛冶滓（含鉄）

- (1) 肉眼観察：69g弱と小型の椀形鍛冶滓の破片と推定される。ただし外観的には製錬鉄塊系遺物にも類似する。表面は黄褐色の土砂で覆われており、一部茶褐色の錆膨れや錆化に伴う割れが観

察される。特殊金属探知機のH(○)で反応があることから、内部に若干金属鉄が残存する可能性が高い。

(2) マクロ組織：Photo. 6 ①に示す。観察面にはまとまった金属鉄（またはその錆化物）は確認されず、滓中に非常に微細な錆化鉄部が多数散在する状態であった。

(3) 顕微鏡組織：Photo. 6 ②③に示す。滓中には0.1～0.4mm径の砂鉄残骸と淡褐色片状結晶シュードブルーカイト（Pseudobrookite： $\text{Fe}_2\text{O}_3 \cdot \text{TiO}_2$ ）ないしルチル（Rutile： TiO_2 ）が晶出する。高温下で生じる砂鉄製錬滓の晶癖である（註2）。

また滓中にはごく微細な金属鉄や錆化鉄部が多数確認される。金属鉄部を3%ナイトルで腐食したところ、ほとんど炭素を含まないフェライト単相の組織が確認された。砂鉄から還元された初期鉄粒である。

(4) 化学組成分析：Table 2に示す。全鉄分（Total Fe）47.76%に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.13%、酸化第1鉄（FeO）15.66%、酸化第2鉄（ Fe_2O_3 ）50.70%の割合であった。造滓成分（ $\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$ ）は21.59%で、このうち塩基性成分（ $\text{CaO} + \text{MgO}$ ）は1.61%と低値であった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（ TiO_2 ）は4.04%、バナジウム（V）0.14%であった。また酸化マンガン（MnO）は0.62%と高めで、銅（Cu）は<0.01%と低値である。

当鉄滓は、当初外観の特徴から椀形鍛冶滓片と製錬鉄塊系遺物の可能性が考えられたが、滓部の鉱物組成から、高温下で生じた砂鉄製錬滓と推定される。チタン（ TiO_2 ）含有率は流出溝滓（BAK-4）と比較すると低めであるが、これは金属鉄とその錆化物の影響を受けたためと判断される。また鉄部は非常に微細で、鍛冶原料となり得る品位ではない。

BAK-8：鉄製品

(1) 肉眼観察：棒状の鍛造品の破片である。端部は緩やかに湾曲しており、反対側の端部は錆化に伴う破面である。鍛冶具の破片の可能性も指摘されているが、全体に錆化が進行しており、表面の剥離や割れも著しい。特殊金属探知機のH(○)で反応があることから、内部に若干金属鉄が残存する可能性が高い。

(2) マクロ組織：Photo. 6 ④に示す。観察位置ではほぼ断面全体が錆化している。また錆化鉄には層状の剥離痕跡が多数生じている。これは折り返し鍛錬が施された鍛造鉄器の特徴といえる。断面は長方形状であり、火掻き棒様の破片の可能性を提示しておく。

(3) 顕微鏡組織：Photo. 6 ⑤～⑦に示す。錆化鉄部には、部分的に亜共析組織（<0.77% C）痕跡が残存している。これらの組織痕跡が確認される範囲では、炭素含有率は最大でも0.2%以下の軟鉄と推測される。また⑥⑦の錆化鉄中には製鉄原料の砂鉄に起因する非金属介在物で淡茶褐色結晶のウルボスピネル（Ulvöspinel： $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$ ）が多数点在する。

(4) 化学組成分析：Table 2に示す。全鉄分（Total Fe）61.20%に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.12%、酸化第1鉄（FeO）7.62%、酸化第2鉄（ Fe_2O_3 ）78.86%の割合であった。造滓成分（ $\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$ ）は4.41%であるが、これは土砂等の影響も受けた可能性が高い。また製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（ TiO_2 ）は0.50%、バナジウム（V）は0.05%であった。また酸化マンガン（MnO）は0.02%、銅（Cu）<0.01%である。

以上の調査結果から、当製品は軟鉄を折り返し鍛錬して製作されたと判断される。また鉄中非金属介在物からは始発原料は砂鉄であった。在地素材の鍛冶具の破片であろうか。

4. まとめ

博労町から出土した9世紀前半と推定される製鉄・鍛冶関連遺物を調査した結果、以下の点が明らかとなった。

〈1〉出土鉄滓のうち2点は砂鉄製錬滓に分類される。流出溝滓(BAK-4)のチタン含有率はやや高めであり(TiO_2 : 7.37%)、地域に分布する安山岩質の火山岩起源の砂鉄が主な製鉄原料であったと推定される。また含鉄鉄滓(BAK-7)には、砂鉄残骸とシュードブルーカイト(Pseudobrookite: $\text{Fe}_2\text{O}_3 \cdot \text{TiO}_2$)ないしルチル(Rutile: TiO_2)といった、高温製錬で生じる(鉄)チタン酸化物の結晶が確認された。これらの製鉄関連遺物は地域周辺の製鉄遺跡から、鍛冶原料(製錬鉄塊系遺物)に混じって搬入されたものと判断される。

〈2〉また出土鉄滓中には、精錬鍛冶滓(BAK-1)と高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶滓(BAK-6)が確認された。さらに粒状滓(BAK-2)、鍛造剥片(BAK-3)など、熱間での鍛打加工が行われたことを示す微細遺物も存在する。これらの遺物群から、当遺跡では鍛冶原料(製錬鉄塊系遺物)の不純物除去の精錬鍛冶から、鉄材を熱間で鍛打加工する高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶まで、一連の鍛冶作業が行われたと推定される。

また鍛冶滓(BAK-1)表層に付着した微細な木炭破片から、広葉樹材が鍛冶炭に用いられたことが指摘できる。

〈3〉羽口(BAK-5)も、先端部の黒色ガラス質滓中に鉄酸化物が晶出しているため、鉄材の加熱に用いられた鍛冶羽口と推定される。耐火度は 1320°C で古代の鍛冶羽口としては十分な性状である。

〈4〉鉄製品(BAK-8)は金属組織の痕跡から、軟鉄を折り返し鍛錬して製作された鍛造品と推定される。また非金属介在物としてウルボスピネル(Ulvöspinel: $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$)が多数確認されたことから、始発原料は砂鉄と判断される。

当遺跡の出土製錬滓(BAK-4、7)とともに生成された金属鉄(製錬系鉄塊)が原料であったと仮定しても矛盾はない。

(註)

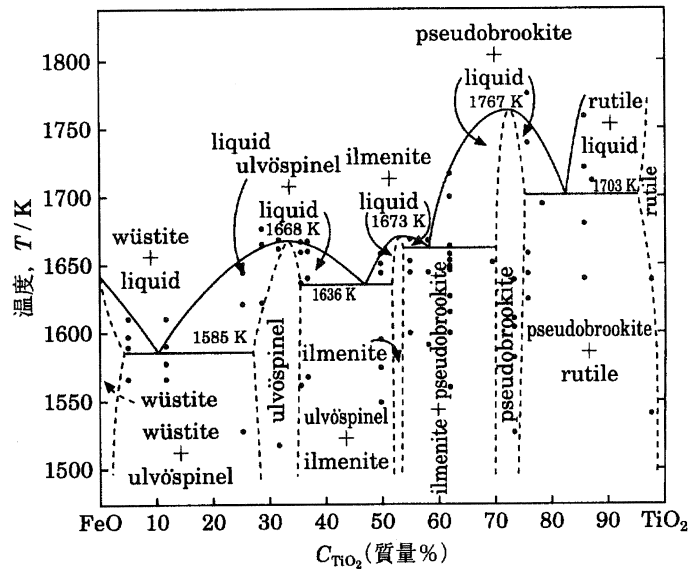
(1) 日刊工業新聞社『焼結鉱組織写真および識別法』1968

ウスタイトは $450\sim 500\text{Hv}$ 、マグネタイトは $500\sim 600\text{Hv}$ 、ファヤライトは $600\sim 700\text{Hv}$ の範囲が提示されている。またウルボスピネルの硬度値範囲の明記はないが、マグネタイトにチタン(Ti)を固溶するので、 600Hv 以上であればウルボスピネルと同定している。

それにアルミナ(Al)が加わり、ウルボスピネルとヘーシナイトを端成分とする固溶体となると更に硬度値は上昇する。このため 700Hv を超える値では、ウルボスピネルとヘーシナイトの固溶体の可能性が考えられる。

(2) J.B.Mac chesney and A. Murau: American Mineralogist, 46 (1961), 572

[イルミナイト(Ilmenite: $\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$)、シュードブルーカイト(Pseudobrookite: $\text{Fe}_2\text{O}_3 \cdot \text{TiO}_2$)、ルチル(Rutile: TiO_2)の晶出は $\text{FeO}-\text{TiO}_2$ 二元平衡状態図から高温化操業が推定される。]



FeO-TiO₂二元平衡状態図

Table 1 供試材の履歴と調査項目

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	計測値		磁着度	メタル度	マクロ組織	顕微鏡組織	調査項目						備考	
					大きさ (mm)	重量 (g)					ビッカース断面硬度	X線回折	EPMA	化学分析	耐火度	カロリー		
BAK-1	博労町	鍛冶関連遺物 廃棄土坑下層	椀形鍛冶滓 (含鉄)	9c前半	35×30×20	19.1	3	錆化(△)	○	○	○							
BAK-2			粒状滓 (4点)		—	—	1	なし		○								
BAK-3			鍛造剥片 (6点)		—	—	1	なし		○								
BAK-4		D-2 No.801	流出溝滓		115×85×66	715.9	1	なし		○	○			○				
BAK-5		A-2 No.824	羽口		78×61×23	89.9	1	なし		○				○	○			
BAK-6		A-2 No.3714	椀形鍛冶滓		89×92×36	259.8	1	なし		○	○			○				
BAK-7		B-3・4 No.39	椀形鍛冶滓 (含鉄)		46×62×35	68.6	6	H(○)	○	○				○				
BAK-8		C-1 No.978	鉄製品 (鍛造品)		76×12×11	20.2	5	H(○)	○	○				○				

*13点測定

Table 2 供試材の化学組成

符号	遺跡名	遺物名称	推定年代	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化第1鉄 (FeO)	酸化第2鉄 (Fe ₂ O ₃)	二酸化珪素 (SiO ₂)	酸化アルミニウム (Al ₂ O ₃)	酸化カルシウム (CaO)	酸化マグネシウム (MgO)	酸化カリウム (K ₂ O)	酸化ナトリウム (Na ₂ O)	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン (TiO ₂)	酸化クロム (Cr ₂ O ₃)	硫黄 (S)	五酸化リン (P ₂ O ₅)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	二酸化ジルコニウム (ZrO ₂)	耐火度 (°C)	造屑成分	造屑成分 (Total Fe)	TiO ₂ / Total Fe	注
BAK-4		流出溝滓		30.74	0.03	33.70	6.46	35.31	9.27	1.42	1.55	1.96	0.56	0.43	7.37	0.12	0.03	0.13	0.05	0.30	<0.01	0.14	—	5007	1.629	0.240	
BAK-5		羽口	9c前半	4.62	0.03	1.94	4.41	57.62	20.07	0.81	0.65	1.56	0.61	0.05	0.69	<0.01	0.01	0.43	lgloss 864	<0.01	<0.01	<0.01	1320	81.32	17.602	0.149	
BAK-6	博労町	楕形鍛冶滓		48.75	0.01	47.06	17.39	20.36	4.86	3.13	1.54	1.04	1.00	0.10	0.48	0.02	0.03	0.25	0.17	<0.01	<0.01	<0.01	—	31.93	0.655	0.010	
BAK-7		楕形鍛冶滓(含鉄)		47.76	0.13	15.66	50.70	14.62	4.01	1.17	0.44	0.79	0.56	0.62	4.04	0.02	0.06	0.26	0.27	0.14	<0.01	0.42	—	21.59	0.452	0.085	
BAK-8		鉄製品(鍛造品)		61.20	0.12	7.62	78.86	2.97	0.89	0.19	0.18	0.04	0.14	0.02	0.50	0.08	0.05	0.32	0.51	0.05	<0.01	<0.01	—	4.41	0.072	0.008	

Σ*

Table 3 出土遺物の調査結果のまとめ

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	化学組成 (%)										所見														
					Total Fe	Fe ₂ O ₃	塩基性成分	TiO ₂	V	MnO	造屑成分	Cu																	
BAK-1		鍛冶関連遺物廃棄土坑下層	楕形鍛冶滓(含鉄)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
BAK-2			楕形鍛冶滓(4点)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
BAK-3			粒状滓(6点)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
BAK-4	博労町	D-2 No. 801	流出溝滓	9c前半	30.74	6.46	2.97	7.37	0.30	0.43	5.007	<0.01	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
BAK-5		A-2 No. 824	羽口		4.62	4.41	1.46	0.69	<0.01	0.05	81.32	<0.01	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
BAK-6		A-2 No. 3714	楕形鍛冶滓		48.75	17.39	4.67	0.48	<0.01	0.10	31.93	<0.01	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
BAK-7		B-3・4 No. 39	楕形鍛冶滓(含鉄)		47.76	50.70	1.61	4.04	0.14	0.62	21.59	<0.01	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
BAK-8		C-1 No. 978	鉄製品(鍛造品)		61.20	78.86	0.37	0.50	0.05	0.02	4.41	<0.01	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

U: Ulvöspinel (2FeO·TiO₂), W: Wüstite (FeO), F: Fayalite (2FeO·SiO₂), He: Hematite (Fe₂O₃), M: Magnetite (Fe₃O₄), H: Hercynite (FeO·Al₂O₃), Ps: Pseudobrookite (Fe₂O₃·TiO₂), R: Rutile (TiO₂)

BAK-1 椀形鍛冶滓

- ①マクロ組織
- ②木炭破片:木口面、広葉樹材
- ③付着鍛造剥片拡大
- ④⑤滓部:ウスタイト・ウルホスピネル・ファヤライト
- ⑥⑦錆化鉄部:亜共析組織痕跡、滓部:ウスタイト・ファヤライト

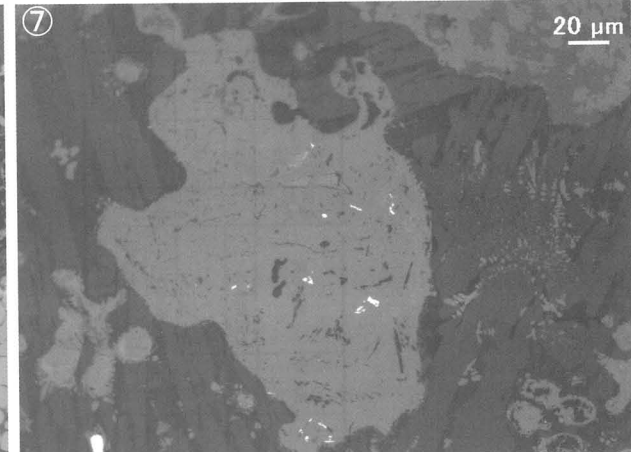
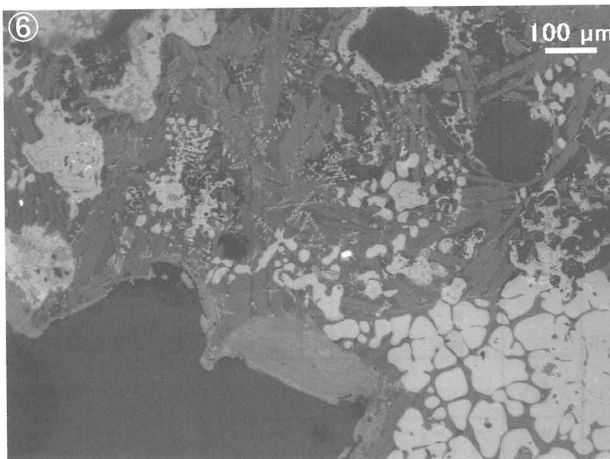
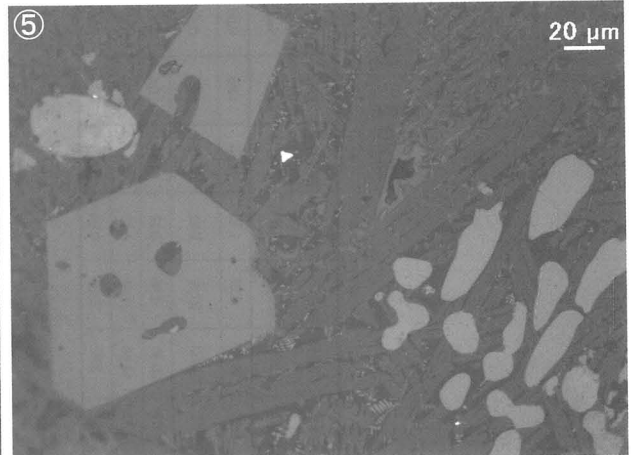
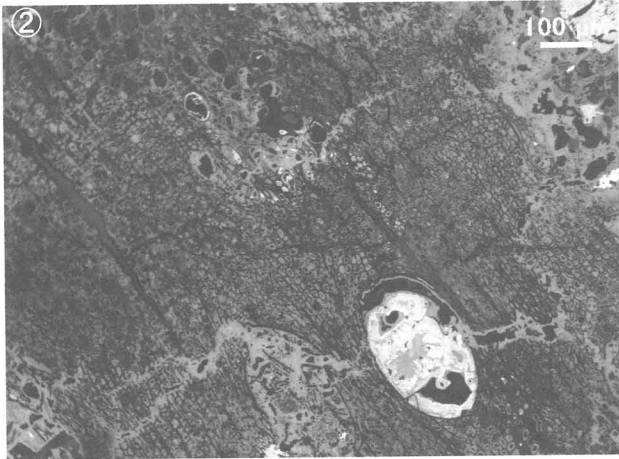
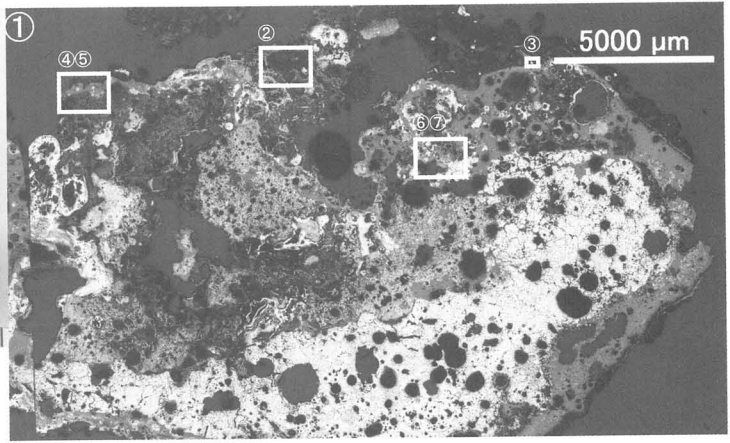
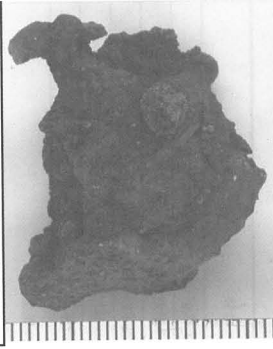
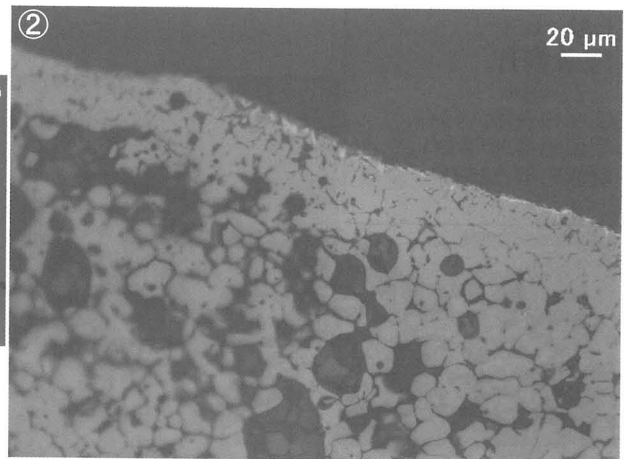
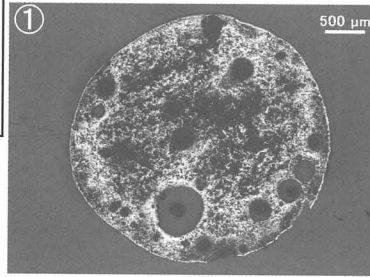
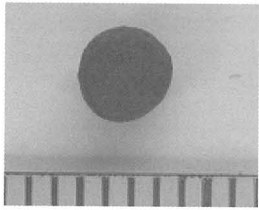
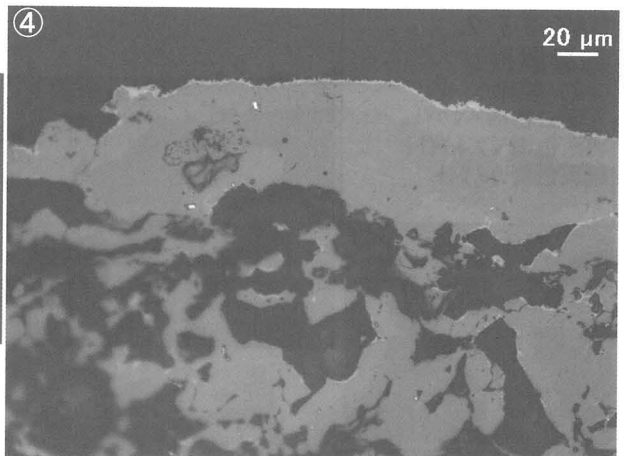
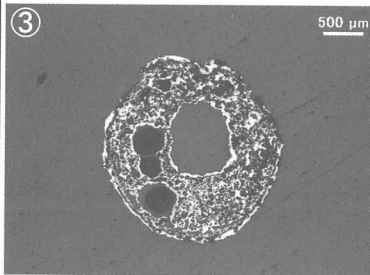
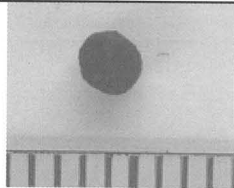


Photo. 1 椀形鍛冶滓の顕微鏡組織

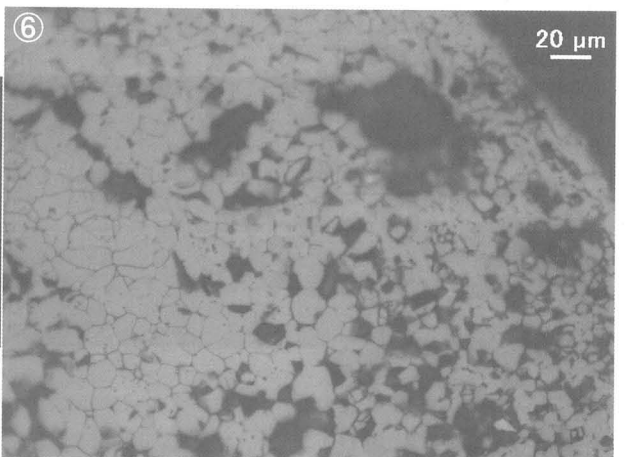
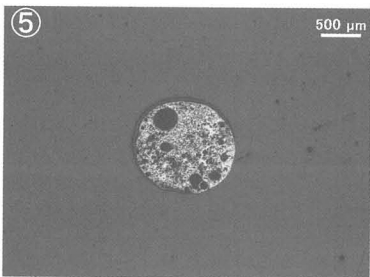
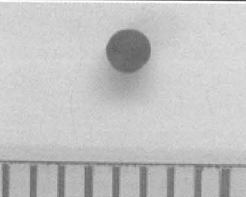
BAK-2 イ-1
粒状滓
①マクロ組織
②針状結晶:ヘマタイト、
多角形結晶:マグネタイト、
粒状結晶:ウスタイト



BAK-2 イ-2
粒状滓
③マクロ組織
④明白色層:ヘマタイト、
明灰色層:マグネタイト、
暗灰色層:ウスタイト



BAK-2 ロ-1
粒状滓
⑤マクロ組織
⑥ウスタイト



BAK-2 ハ-1
粒状滓
⑦マクロ組織
⑧針状結晶:ヘマタイト、
多角形結晶:マグネタイト、
粒状結晶:ウスタイト

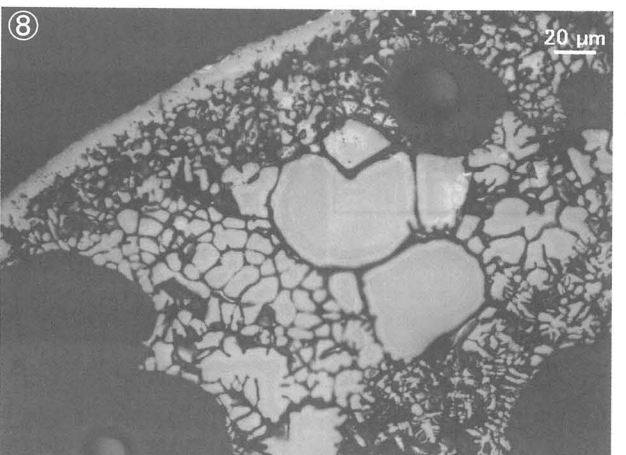
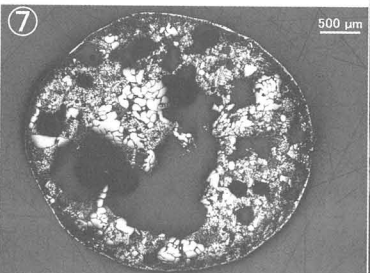
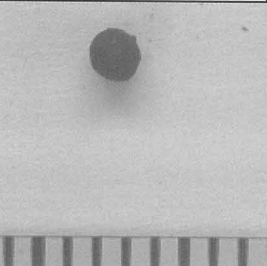
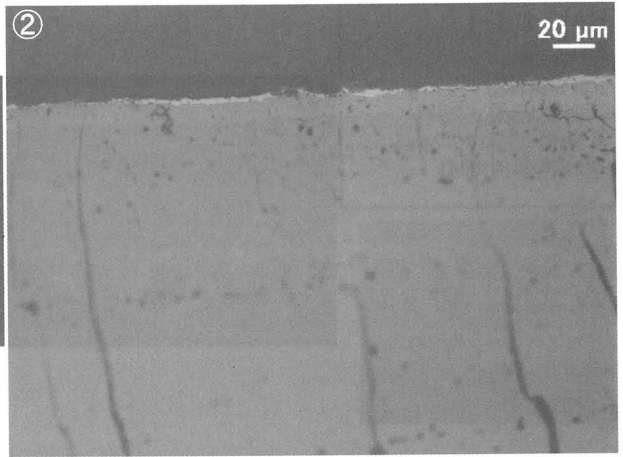
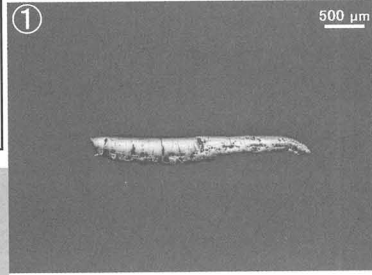
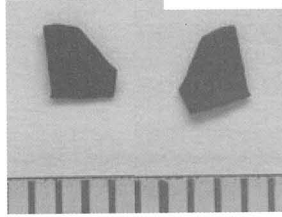
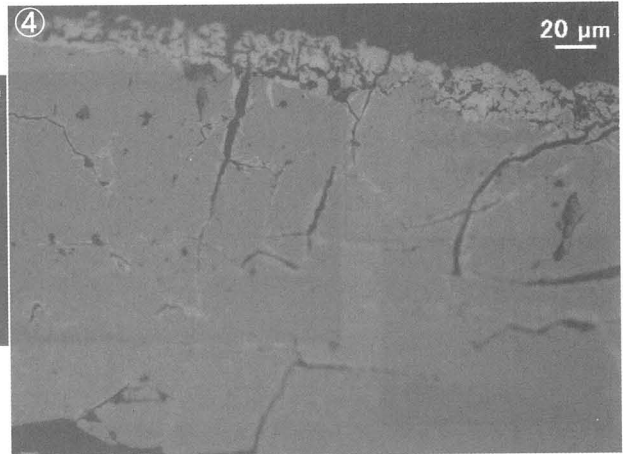
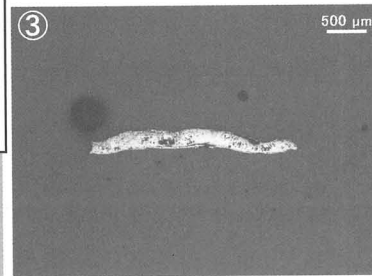
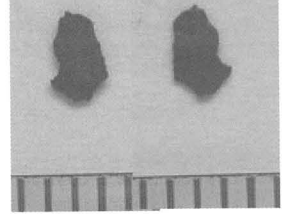


Photo. 2 粒状滓の顕微鏡組織

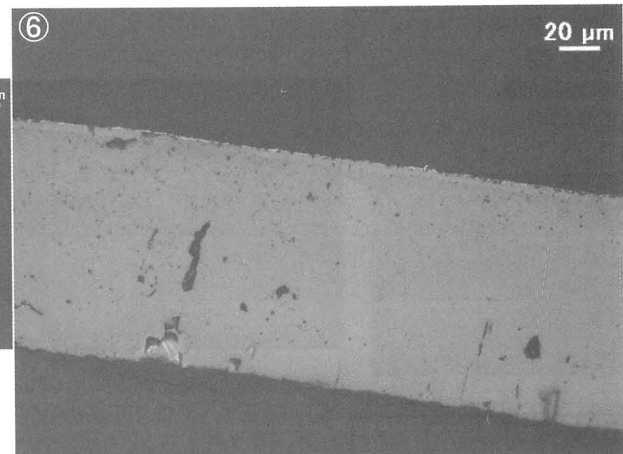
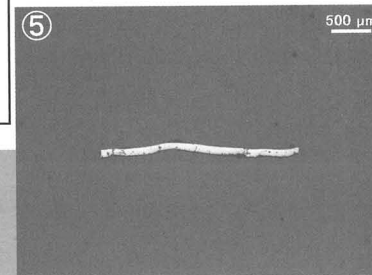
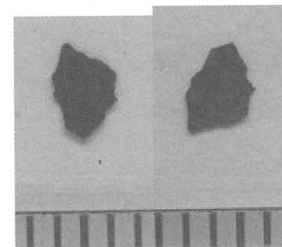
BAK-3 イ-1
鍛造剥片
①マクロ組織
②明白色層:ヘマタイト、
明灰色層:マグネタイト、
暗灰色層:ウスタイト



BAK-3 イ-2
鍛造剥片
③マクロ組織
④明白色層:ヘマタイト、
明灰色層:マグネタイト、
暗灰色層:ウスタイト



BAK-3 イ-3
鍛造剥片
⑤マクロ組織
⑥明白色層:ヘマタイト、
明灰色層:マグネタイト、
暗灰色層:ウスタイト



BAK-3 ロ-1
鍛造剥片
マクロ組織
明白色層:ヘマタイト、
明灰色層:マグネタイト、
暗灰色層:ウスタイト

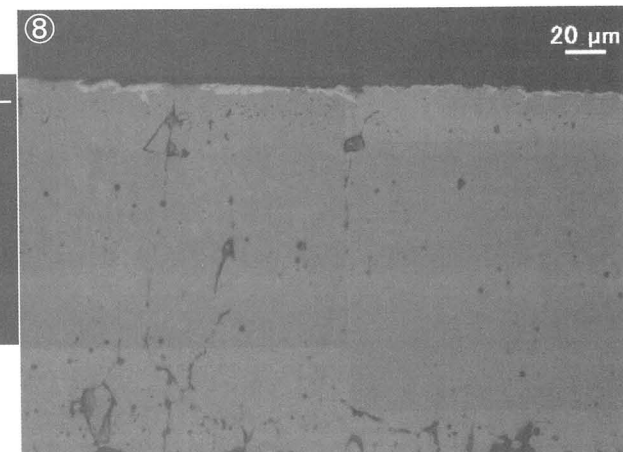
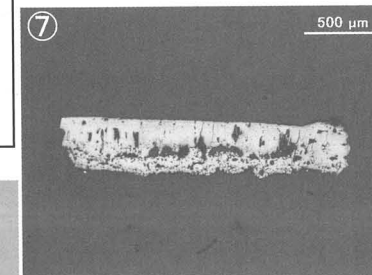
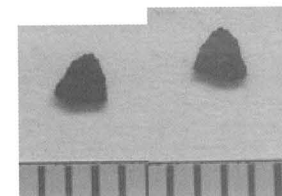
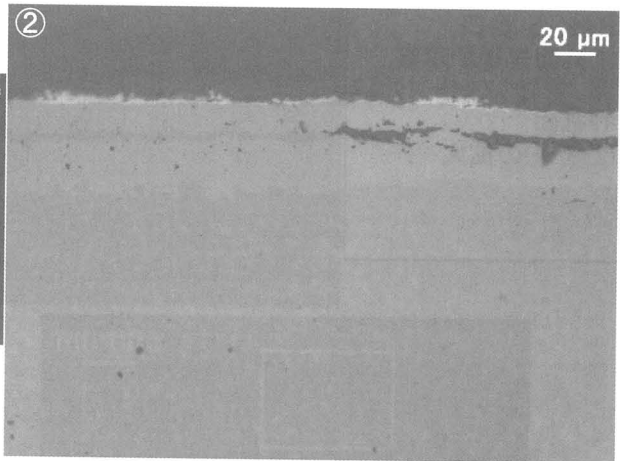
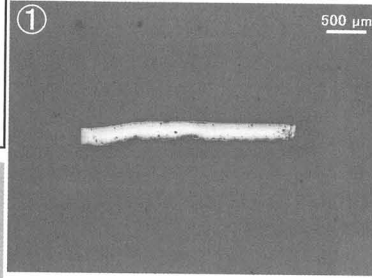
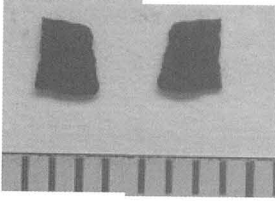


Photo. 3 鍛造剥片の顕微鏡組織

BAK-3 □-2

鍛造剥片

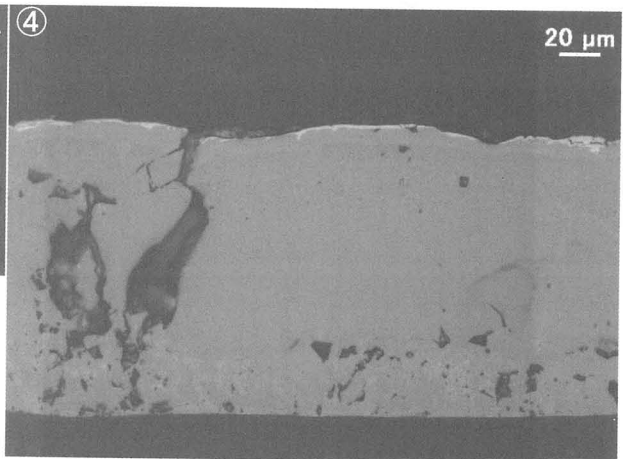
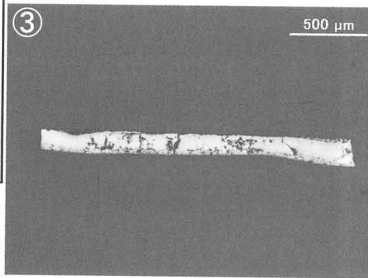
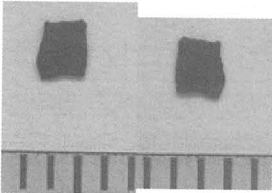
- ①マクロ組織
- ②明白色層:ヘマタイト、
明灰色層:マグネタイト、
暗灰色層:ウスタイト



BAK-3 □-3

鍛造剥片

- ③マクロ組織
- ④明白色層:ヘマタイト、
明灰色層:マグネタイト、
暗灰色層:ウスタイト



BAK-4 流出溝滓

- ⑤滓部:ウルホスピネル・ウスタイト、
微小金属鉄粒散在
- ⑥⑦ ⑤の拡大
微小金属鉄粒:ナイトレッチ
フェライト単相

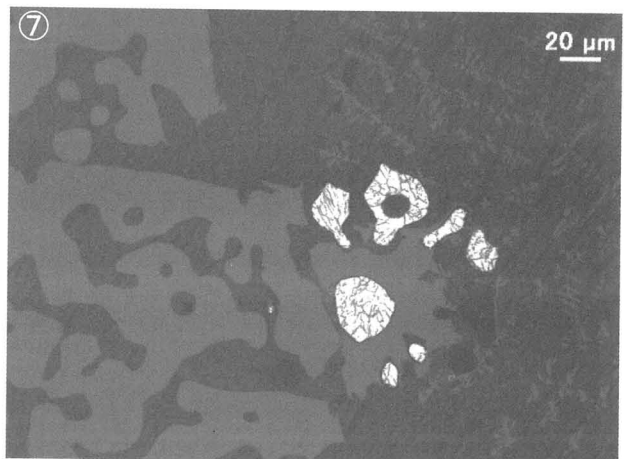
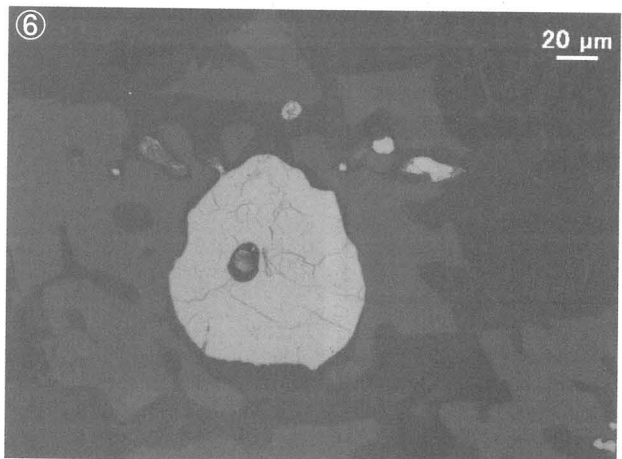
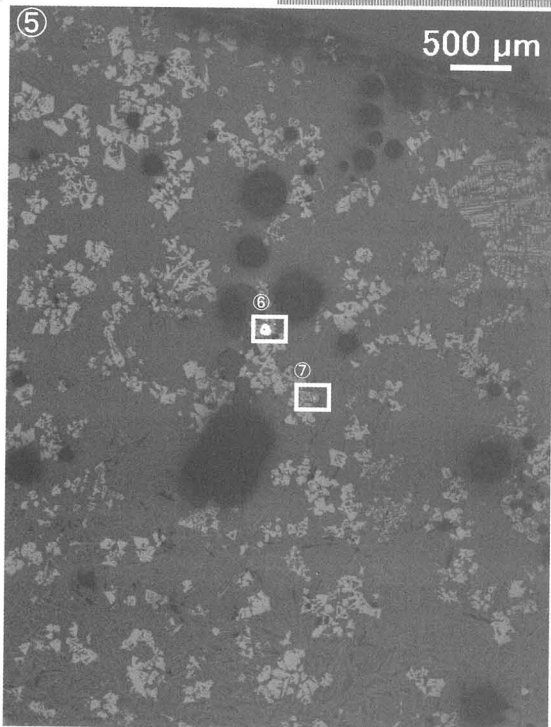
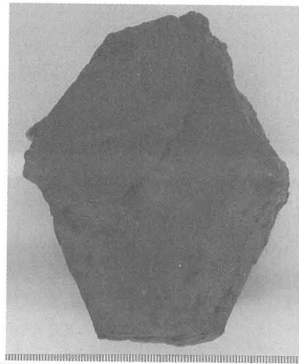
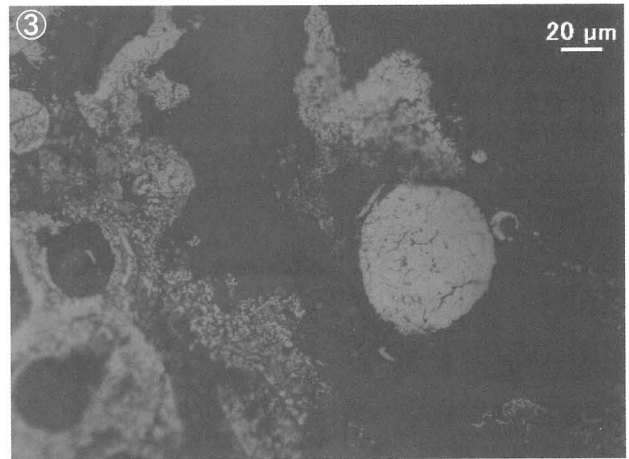
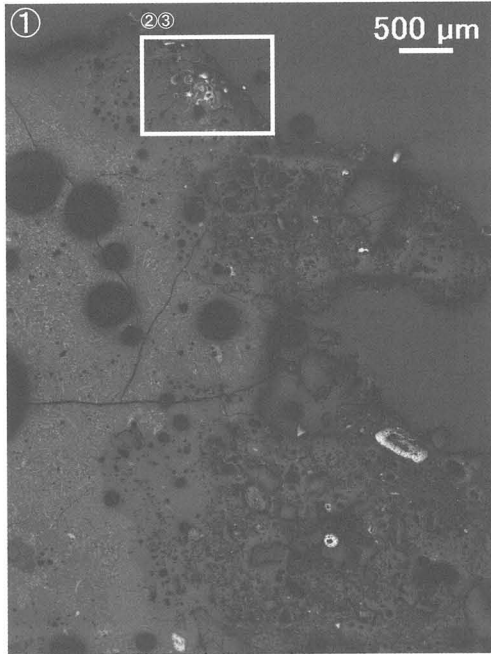
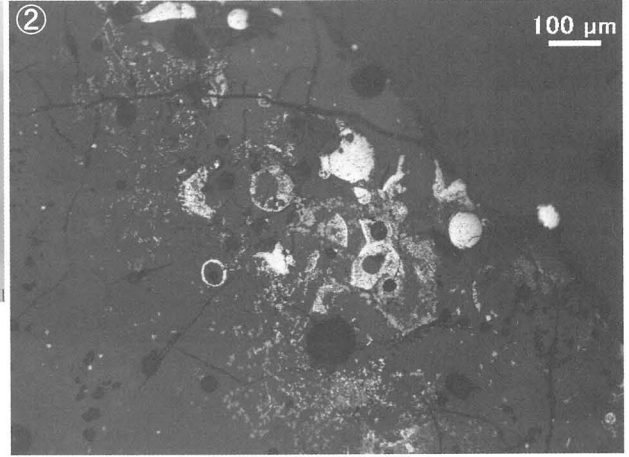


Photo. 4 鍛造剥片・流出溝滓の顕微鏡組織

BAK-5 羽口
 ①外面表層がガラス質
 滓、微細ウスタイト・マグネ
 什晶出
 ②③ ①の拡大



BAK-6 椀形鍛冶滓
 ④滓部:ウスタイト・ファヤライト
 ⑤⑥ 錆化鉄部:亜共析組
 織痕跡

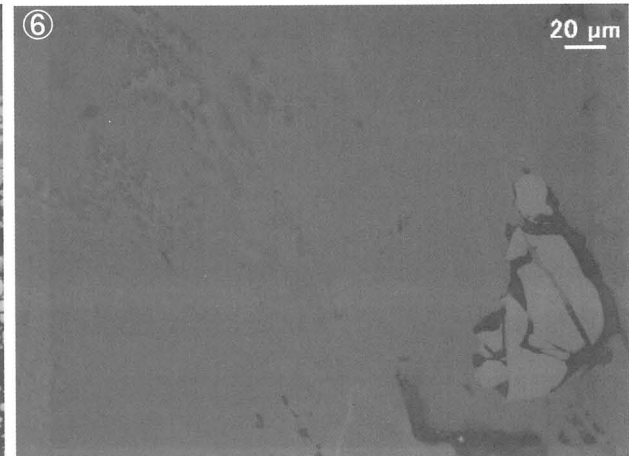
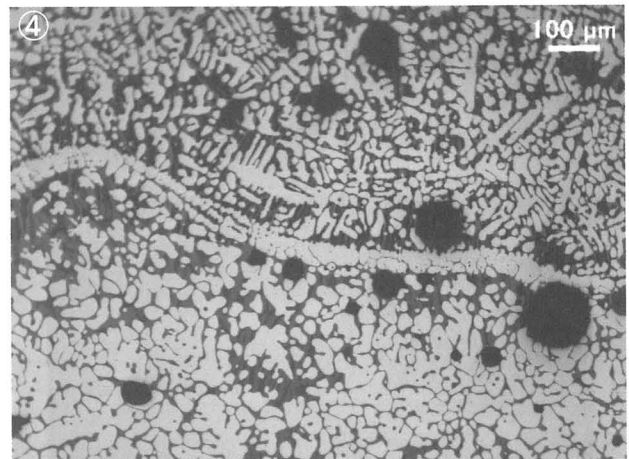
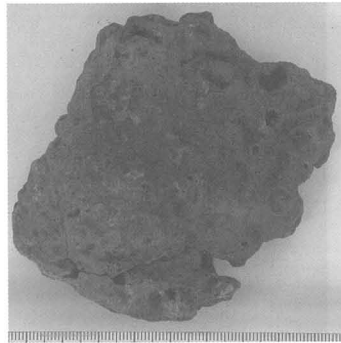


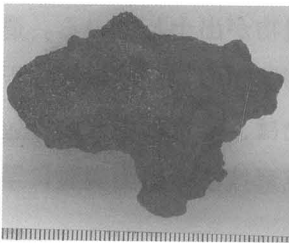
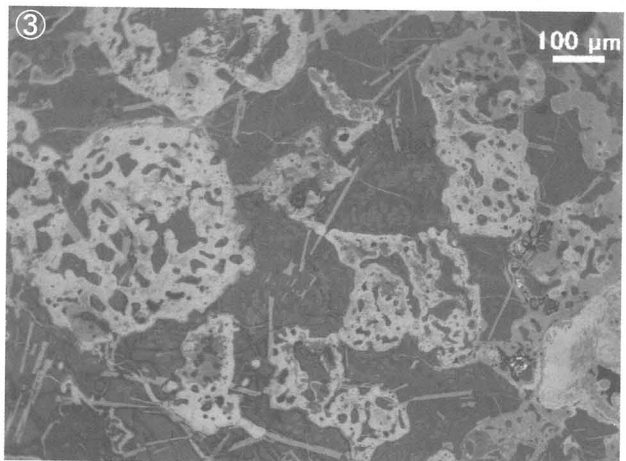
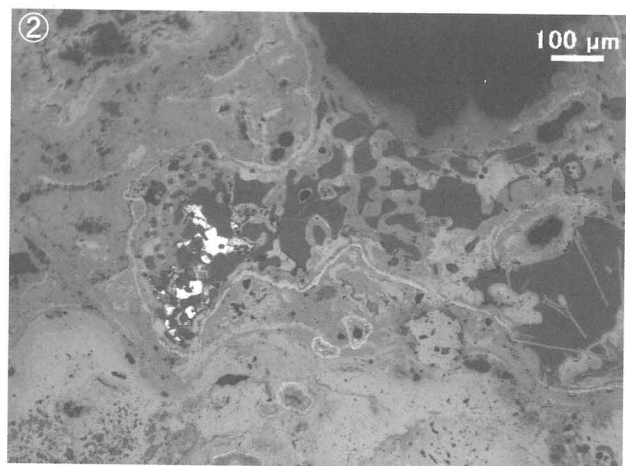
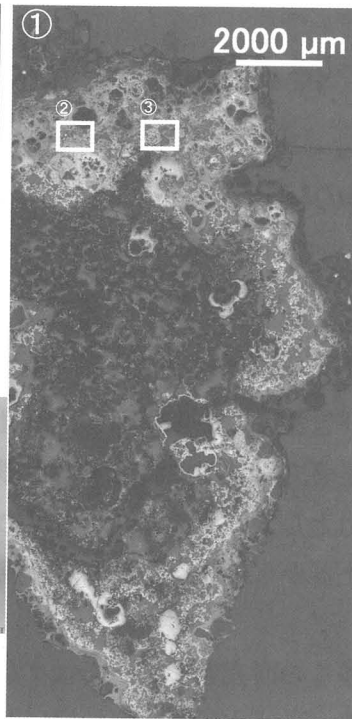
Photo. 5 羽口・椀形鍛冶滓の顕微鏡組織

BAK-7 含鉄鉄滓

①マクロ組織

②③ ①の拡大

滓部:シュドブルーカイトない
シルチル、微小金属鉄粒ナイ
タルetch フェライト单相、微
小錆化鉄部多数散在



BAK-8 鉄製品

④マクロ組織

⑤~⑦ 錆化鉄部拡大

亜共析組織痕跡

介在物:ウルボスピネル

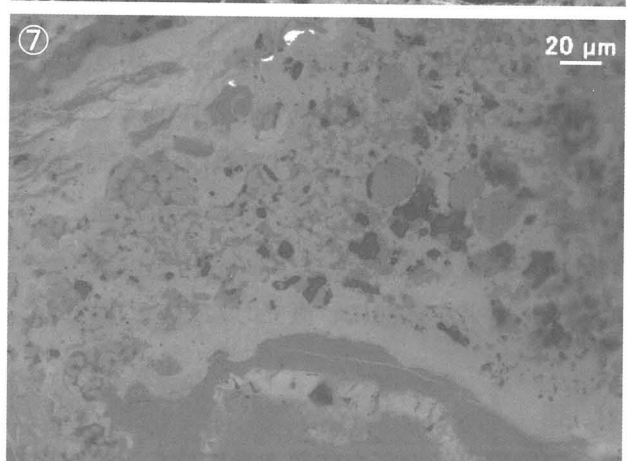
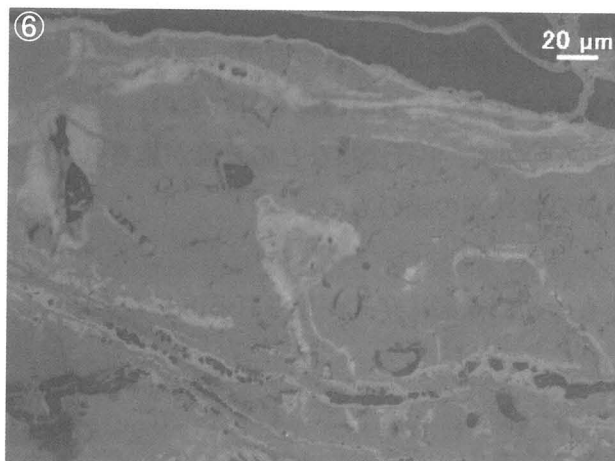
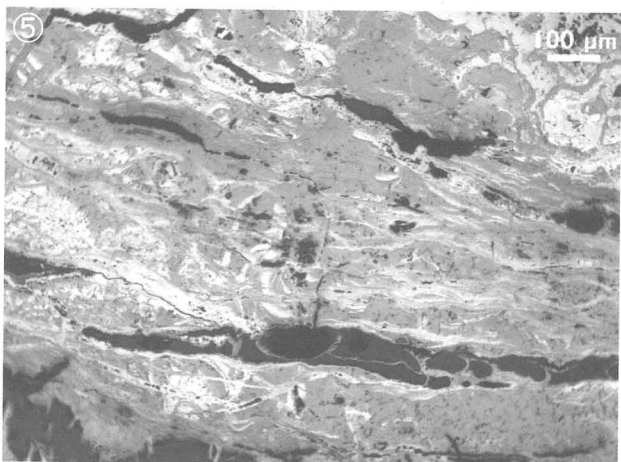
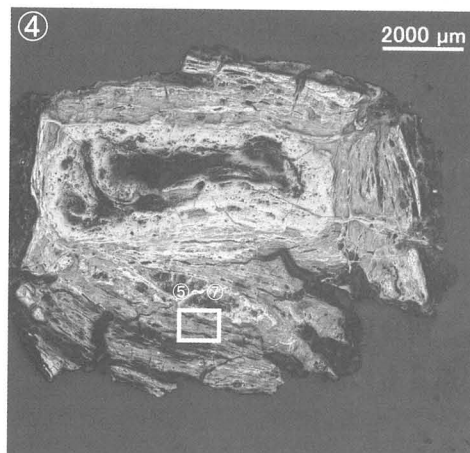
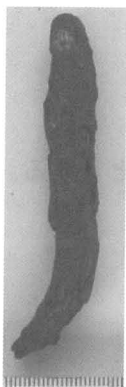


Photo. 6 含鉄鉄滓・鉄製品の顕微鏡組織

第Ⅷ章 特 論

第1節 弥生時代終末～古墳時代前期土器の検討

濱野 浩美

1. はじめに

博労町遺跡では、クロスナ（Ⅲ）層中の遺構及び包含層中から膨大な量の遺物が出土している。遺物は古墳時代のものが最も多く、壺、甕、高坏等集落で一般的に出土する土師器類の他、埴輪片、玉や鏡、石製模造品、土製模造品などの祭祀遺物も出土している。これらの遺物は、滞水砂中という包蔵環境により、遺存状態が非常に良好で、個々の土器から製作過程における成形技法や器面調整に至るまで多くの情報が読み取れた。

この時期の土器に関する研究については、既に多くの研究者によって様々な切り口から編年研究が行われている。近年、渡邊 誠氏は従前の研究に基づき「古墳時代開始期における土器編年研究～山陰地域を素材として～」において当該地域の詳細な編年研究を行っている（渡邊 2009）。

本節では、この渡邊氏の編年研究をもとに、今回出土した弥生時代終末～古墳時代前期の土器について型式分類を行い、その出土傾向及び土器の特色についての検討を行った。なお、本文中に記載した遺物番号は第1分冊掲載の遺物番号に符合するものであり、個々の実測図に関してはそちらを参照されたい。

2. 土器の型式分類（第1図）

ここでは、従前の研究などを参考にし、今回出土した土器の分類基準について述べることとする。

(1) 壺

複合口縁壺：やや長胴で、最大径を体部上半に持ち、複合口縁を呈するもの。

A類：口縁部が大きく外反、頸部付け根に突帯が巡るもの。

B類：口縁部は外反、頸部の突帯はないもの。

C類：大型で直立ないし内傾する口縁を持つもの。

複合口縁直口壺：扁平気味の体部に、垂直気味に長く伸びる複合口縁を持つもの。

単純口縁直口壺：やや長胴気味の体部に、やや外傾気味に立ち上がる単口縁を持つもの。

装飾壺：肩部から体部にかけて貝殻復縁や竹管等による刺突文、平行沈線などの装飾が施されるもの。

A類：扁平気味の体部最大径に突帯が巡る、いわゆる特殊壺の類のもの。

B類：突帯を持たないもの。

短頸壺：扁平な体部に、直立した短い口縁部がつくもの。口縁部に穿孔が施されるものがある。

(2) 甕

複合口縁甕：最大径を体部上半に持ち、複合口縁を呈するもの。

A類：丸底を呈し、長胴気味の体部を持つもの。

B類：小型で丸底を呈し、球胴もしくは扁平気味の体部を持つもの。

C類：平底を呈するもの。

装飾甕：口縁部にはナデ消しの櫛描沈線などが施され、肩部から体部にかけて貝殻腹縁や竹管等による刺突文、平行沈線などの装飾が施されるもの。

布留形甕：くの字状を呈する単口縁で、布留式土器に系譜を持つもの。

(3) 小型丸底壺：小型で丸底を呈し、屈曲する頸部に直線的に外傾する口縁をもつもの。

A類：畿内系の土器に系譜を持つもので、扁平気味の体部に長く直線的に外傾する口縁を持つもの。

B類：球胴気味の体部に、短く外傾する口縁を持つもの。

C類：複合口縁のもの。

D類：球胴ないし扁平気味の体部に、複合口縁部は短く直立ないしは内傾するもの。

(4) 小型丸底鉢：小型で丸底を呈し、口径もしくは胴部最大径が器高より大きくなるもの

A類：大きく広がる口縁部を持つもの

B類：有段で屈曲する鉢状を呈するもの。

(5) 高坏

A類：やや深めの皿状の坏部で緩やかに湾曲し口縁端部は外反、脚裾部は緩やかに広がるもの。

B類：布留系の高坏に系譜を持つもので、碗形の坏部に脚部は柱状、裾部は緩やかに広がるもの。

C類：庄内系の碗形高坏に系譜を持つもので、碗形の坏部に大きく開く脚部を持つもの。

D類：有段の大型の坏部を持ち、脚部は低めで大きく開くもの。

E類：有段の坏部を持ち、脚裾部は緩やかに広がるもの。

F類：ブランデーグラス形の坏部を持つもの、大型と小型のものがある。

G類：小型丸底壺A類に脚部が付くもの。

(6) 低脚坏

A類：深めの碗形の坏部に、短小であり広がらない脚部を持つもの。

B類：浅めの皿状の坏部に、短小で広がらない脚部を持つもの。

(7) 鼓形器台

A類：接合部上下に突出部を持ち、受部に最大径を持つもの。

B類：X形を呈し、接合部上下端に突出部を持たないもの。

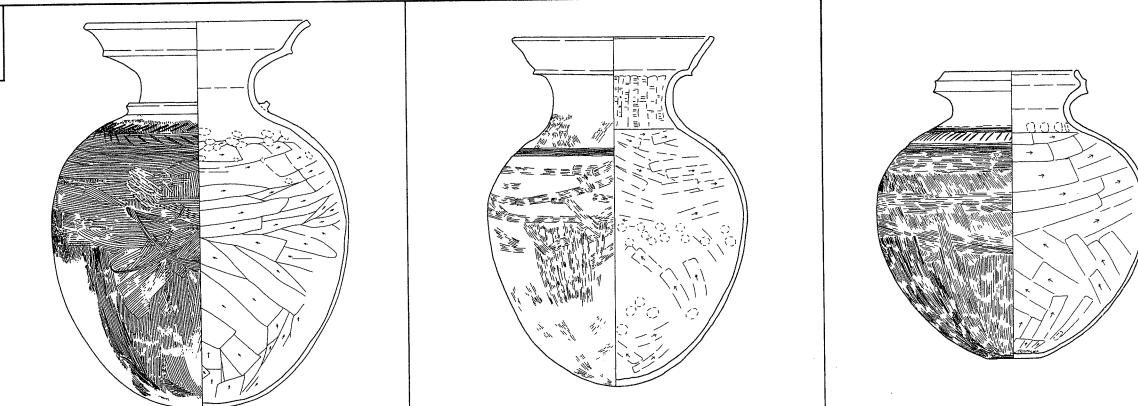
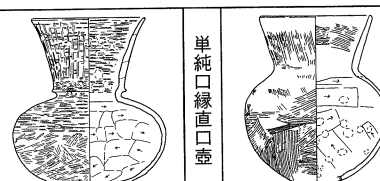
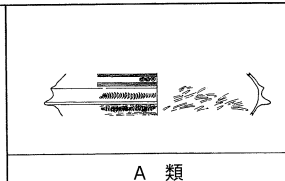
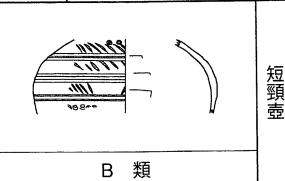
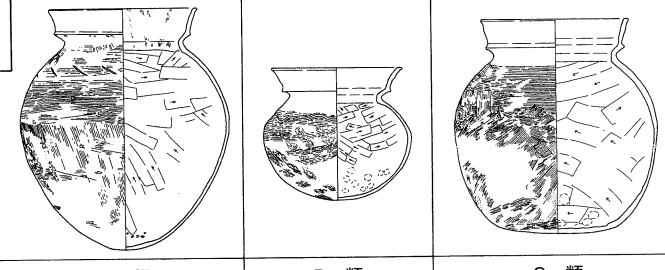
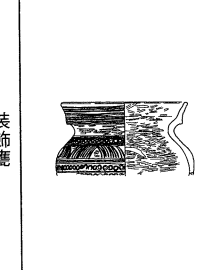
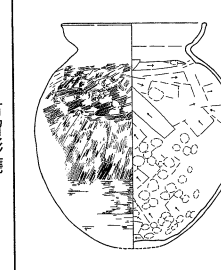
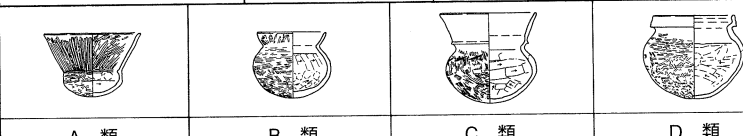
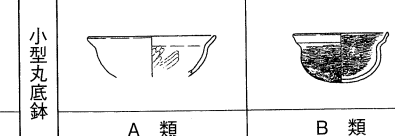

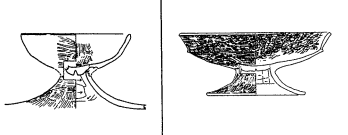
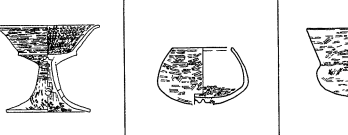
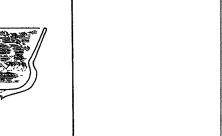
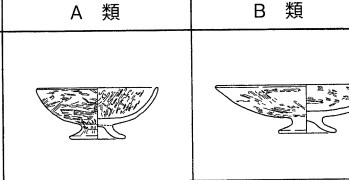
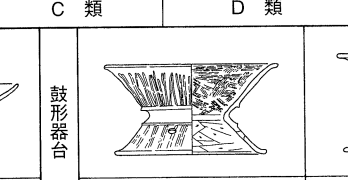
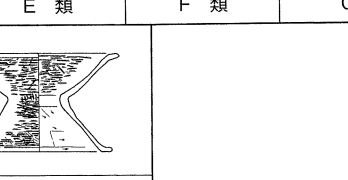
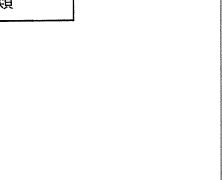
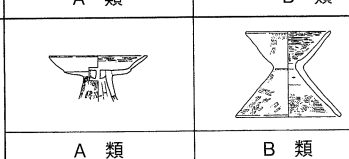
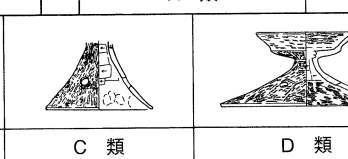
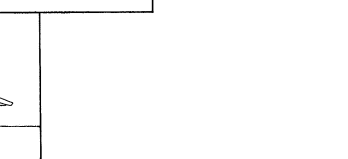

(8) 小型器台

A類：高坏型の受部に、脚部は柱状、坏・脚接合部は円盤充填後刺突が施されるもの。

B類：布留系の小型器台でX形を呈するもの。坏、脚接合後穿孔が施されるもの。

C類：小型の碗状の受部にハの字状に開く脚部を持つもの。

D類：A類の受部に、ハの字状に開く脚部を持つ折衷型のもの。

壺	複合口縁壺			裝飾壺			短頸壺							
	 <p>A 類 B 類 C 類</p>			 <p>A 類 B 類</p>		 <p>A 類 B 類</p>		 <p>短頸壺</p>						
甕	複合口縁甕			裝飾甕		布留形甕								
	 <p>A 類 B 類 C 類</p>			 <p>裝飾甕</p>		 <p>布留形甕</p>								
小型丸底鉢	A 類				A 類		B 類							
	 <p>A 類 B 類 C 類 D 類</p>				 <p>A 類 B 類</p>									
高坏	A 類		B 類		C 類		D 類		E 類		F 類		G 類	
	 <p>A 類 B 類</p>		 <p>C 類 D 類</p>		 <p>E 類 F 類</p>		 <p>G 類 H 類</p>							
低脚坏	A 類		B 類		A 類		B 類							
	 <p>A 類 B 類</p>		 <p>C 類 D 類</p>		 <p>E 類 F 類</p>		 <p>G 類 H 類</p>							
小型器台	A 類		B 類		C 類		D 類							
	 <p>A 類 B 類</p>		 <p>C 類 D 類</p>		 <p>E 類 F 類</p>		 <p>G 類 H 類</p>							

第1図 博勞町遺跡出土弥生時代終末～古墳時代前期土器型式分類図

個別に見ていくと、壺では複合口縁壺が主体的で大型品が多い。中でも複合口縁B類が72点と壺全体の40%を占める。複合口縁部が大きく開き、口縁下端については、水平方向に突出するものと、屈曲が緩やかで頸部にかけて肥厚するものがある。このうち、特徴的なものとしては、壺頸部に沈線区画内にハケ状工具端部を連続して押し引きしたような文様が巡るものがある（2区SI04-13・5区SI03-1）。この他、包含層中では頸部や口縁部に竹管文が巡るものも僅かに見られる。

直口壺については、壺全体の19%と比較的高い出土比率である。複合口縁のものより単純口縁のものが多く、複合口縁直口壺は、精緻な胎土を用い、全体的にシャープな作りである。口縁は粘土を何条も積み上げ非常に長く伸びるものと、短めものがあり、在地の甕との折衷型のような形状を呈するものもある。単純口縁直口壺は、口径18cm前後の大型のものと、10cm以下の小型のものが多く、いずれも器壁は厚い。大型のものでは口縁端部を逆三角状に肥厚させ、水平に平坦面を作るものもみられる。また、小型のものは体部中央に最大径を持ち肩部から口縁にかけての器壁は非常に厚くぼつてりとしている（2区表採-1、2区包含層-31）。

装飾壺は、13点と壺全体の12%である。器壁は薄く、個々の文様体は数条の沈線区画内に施される。A類の装飾壺は胴部中位に断面三角形の突帯を貼り付け、その上位に連続爪形文が施される。

短頸壺は、5点と壺全体の5%である。小型で全体的に器壁が厚く、全体にヘラミガキが施される。

次に甕については、圧倒的に複合口縁甕が多く、甕全体の85%を占める。A類は、口縁端部が丸くおさめるもの、面取りされるもの、平坦部が作られるものがある。また、下端については水平方向に突出するものと、屈曲が緩やかで頸部にかけて肥厚するものがある。主体的なものは器壁が非常に薄く全体的にシャープな作りで、口縁端部は外側に引き出され、下端は水平方向に突出するタイプである。内面は、体部から底部にかけて成形時の指頭圧痕が顕著に認められるものが多い。この圧痕は指頭によるものが主体的であるが、中には棒状工具の小口などで押圧を加えたような痕跡も認められ、製作技法を推測する上で興味深い。肩部の文様については、櫛描直線文、波状文等があり、波状文が途中から直線文になるものや全周しないものなど、退化傾向にあるものが多い。列点文については、一部のみ施文されるもの、ハの字状や三角形に一部分にのみ施文されるものもある。

B類の小型甕は、22点と甕全体の5%である。殆どは外反する複合口縁部が付くタイプである。器壁は薄く全体的にシャープな作りで、胎土も精緻で肩部に装飾が施されるものが殆どである。中には、外面にミガキが施され、成形技法的には小型丸底壺C類に近似するものもみられる（2区SI04-103）。使用痕はほとんど見られないことから、この小型甕は煮沸具などの実用品ではなく、祭祀的な器として使用された可能性が高い。この甕は大型住居跡で祭壇状の施設が検出された2区SI04で7点、大型溝の1区SD02では9点出土しており、遺構の性格を考える上で興味深い。

C類の平底甕は、点数的には3点と非常に少ない。複合口縁の端部が肥厚するものが殆どで、底部内面を指頭により平底に作りだしている。

布留形の甕については、口縁部が外反するもの、端部が内側に折れるもの、口縁中位が肥厚するものなどがある。このうち1区包含層-62など肩部に退化した波状文等の文様が施されるものもある。

この他、表には掲載されていないイレギュラーな土器に甕転用鉢2点がある。1区SI06-5は庄内系の甕体部以下を転用したもので、突出した小型の平底をもつ。内面には細かいハケ目調整が、外面にはナデが施されており、全体に丁寧な作りであるが、口縁端部は歪なまま軽くナデが施されたのみで、焼成し鉢として使用されたものと考えられる。また、1区包含層-66は、内底面は庄内系の甕の

ように底部を尖り底状にして細かいハケ調整が行われているが、外底面は底部を平底にする為かケズリを施した段階でやめている。ただし、口縁はナデが施され、未製品の状態で鉢に転用したようである。いずれも使用痕が顕著である。この2点の土器は胎土や成形技法から、同じ供給地からのものと考えられる。

次に、小型丸底壺は総数で57点と全体の5%である。このうち主体的なものはA類で56%を占める。個別に見ていくと、A類は屈曲気味の非常に扁平な体部に、長く直線的に外傾する口縁を持つものが主体的である。その中には底部を欠損するものが多く、脚部を持つ可能性があるものもある。また口縁が長く伸びるものの中には端部がわずかに内湾するものもみられる(1区包含層-98)。器壁は肩部から頸部にかけては肥厚し、口縁部と底部は非常に薄くなる。胎土は赤褐色系で、精緻なものが殆どである。B類は口縁端部が尖り気味のものと、丸くおさめるものがあるが、いずれもナデにより僅かに内湾する。このタイプはA類よりはやや大型のものが殆どである。器壁は底部が比較的厚く、頸部から口縁にかけては非常に薄くなる。胎土は甕や高坏に見られるような粗い黄灰白色を呈し、在地産と考えられる。C類は、在地的な複合口縁甕B類と小型丸底壺A類の折衷型で、複合口縁部に縦方向のミガキが施されるものもある。D類は、比較的灰色に近い胎土を用い、器壁は厚く内湾する口縁端部が肥厚するものが多い。全体的に丁寧なミガキが施されるものが多い。本節では小型丸底壺に含めたが、壺と甕と小型丸底壺との折衷型と考えられる。

高坏は、全体の17%と、甕に次いで出土比率が高い。このうちA類が36%、B類が28%と高坏全体の5割以上を占める。脚部は、柱状を呈し裾部が緩やかに広がるものが多い。接合部は円盤充填法が殆どで、B類、C類などの布留系や庄内系のタイプに関しても、接合方法は円盤充填法を用いている。このうち、D類は、灰白色～黄灰色の胎土を持つものが殆どで、法量的にもほとんど近似していることから、いずれも同じ供給地の土器である可能性が高い。F類については、口径12cm以上の大型のものと、口径8cm以下の小型のものがあり、口縁端部は内湾するものと外側に引き出されるものがある。このタイプは脚部が遺存するものがなく形状が不明である。高坏は全体的に、内外面に使用痕が顕著なものも多く、中には外面に煤や焦げが付着するものも認められる。さらに脚部を欠損しているものの中には、外面の接合部付近に煤が付着し脚部との破断面も摩耗しているものが一定量出土している。これらは脚部欠損後も坏として使用していたと考えられる。このことから、高坏については供献土器としての使用だけでなく、食器や煮沸具としての使用も当然考えられよう。

その他、イレギュラーなタイプとして、1区包含層-126がある。口径10.0cmと小さく、コップ状の坏部を呈し、底部と口縁の境に段を持ち、口縁はあまり開かず垂直気味に外反する。特異な形状から、搬入品と考えられよう。また、2区包含層-52は高坏の未製品を転用した鉢と思われる。全体に仕上げのナデ調整が施されておらず、外底面中央には脚部接合のための刺突痕が施される。ただし、外面に煤が付着していることから、前述の甕転用鉢と同様に、未製品のまま鉢として使用されたものと考えられる。

低脚坏は、88点と全体の8%の出土比率である。このうちB類の皿状のタイプが63%、A類の碗状のタイプが37%を占める。B類の皿状のものについては、口縁部に輪状に煤が付くものや、外面全体に煤が付着するものがみられることから、蓋としての使用が想定できる。

鼓形器台は、全体の9%で、このうちA類が87%と主体を占める。接合部の幅は全体的に狭く、口径が器高より大きいタイプが主流である。口縁及び脚端部は強く外反するものも多く、中には完全に

反り返るのもみられる。比較的小型のものについては、外面に赤彩や外面に縦ヘラミガキが施されるものがある。また、ヘラ記号が脚部内面に施されるものが多い。数条単位の斜線、「×」「ハ」などの種類がある。この記号は甕や高坏に施されたものにも通有していることから、製作者集団の印等のようなものと考えられる。この他、煮焦げ状のものが付着しているものや被熱痕などが認められるものが一定量出土している。これについては、五徳等として使用した可能性も考えられよう。また4区包含層-20は坏部外面に墨痕が放射状に描かれている。非破壊による科学分析では原料が判別出来なかったが、墨書であればこの時期のものとして希少な事例と考えられる。

小型器台は、総数で27点、全体の2%を占める。このうちB類が63%を占める。このB類の中には、鼓形器台B類を小型化したような折衷型もみられる。

4. 遺構出土の遺物について

次に、今回検出された遺構の中でも特徴的な遺構出土品について検討を行った。全体的な総数としては、大型溝状遺構である1区SD02が309点と突出して多い。住居跡では、当該期の住居跡内で最も大きい2区SI04で総数で152点、うち複合口縁甕80点、布留形甕7点、高坏は全部で25点と一軒の住居跡からの出土量としては最も多い。

以下、特徴的な遺構出土品について述べる。

1区SD02

本遺構は調査区を縦断する大型の溝状遺構で、特に埋砂中下層から中層にかけては整理用コンテナにして86箱分もの大量の遺物が出土している。遺物は何ヶ所かに集中して出土していること、ほぼ完形もしくは完形に近い破片で出土しているものが主体的であることから、断続的に一括廃棄が行われたものと考えられよう。出土比率をみると、最も多いのは甕類の140点(45%)、次いで高坏の42点(14%)、鼓形器台38点(12%)、壺31点(10%)、低脚坏の31点(10%)となり、甕の出土量が突出している。個別に見ていくと、壺では複合口縁壺B類が15点と最も多い。このうち、C類は口径40cm前後の大型のもので、複合口縁壺、口縁は内傾し、下端は突出する。文様については肩部に波状文・羽状文・直線文等の文様が施されるものが多い。複合口縁直口壺は精緻な胎土を用い、全体的にシャープな作りである。191は体部下半に羽状文が施される。また、他より短く外側に引き出される口縁を持つものも認められる。小型甕との折衷型と考えられる。なお、直口壺のうち最下層出土の29は、突出する平底中央が凹み、球胴気味の体部に、屈曲する頸部から口縁は大きく直線的に開く。外面全体にハケ目調整後、丁寧なヘラミガキが施される。胎土は灰白色から淡橙色系で、在地品とは考えにくい。神原神社古墳の墓坑内土器埋納坑出土の直口壺に類似している(松山 2002)。

複合口縁の甕は、A類が117点と全体の中でも38%を占める。いずれも胴部上半に最大径を持つが、球胴に近いものと長胴気味のものがある。底部は丸底が主体的であるが、平底のもの、平底を意識しているものなどもみられる。形状については、口縁が外反するものが主体であるが、内湾するものもある。口唇部は平坦なものが主体的でこのほか丸くおさめるもの、外側に引き出されるものなどがあり、口縁下端については水平方向に突出するものと屈曲が緩やかで頸部にかけて肥厚するものがある。また、52・53の内底面には棒状工具の小口による圧痕が見られる。文様については、肩部が無文のものが主体で、施文されているものについても全周しないものや屈曲の緩い波状文、列点文については

一部のみ施文されるもの等全体的に退化している傾向がある。ただし、少量ではあるが76のように櫛状工具による文様が何条にも亘り丁寧に施されるものもある。また、143は肩部に焼成前の×印が線刻され、151は肩部に米粒形の列点文2個が上下に施文されており、ヘラ記号であると考えられる(註1)。なお、71・124の内面頸部以下は黒色を呈する。焦げや黒斑のような焼けムラは認められず、全体的に均一に黒色であることから、この2点については、何らかの黒色処理を施された可能性も考えられよう。また、体部に焼成後に楕円形の穿孔が施されるもの、使用痕がまったく見られないB類の甕については、祭祀関連の遺物の可能性が考えられよう。

布留形の甕は、溝南側を中心に出土している。口縁が中位で肥厚するもの、口縁が内側に折れるものがある。169は粗いハケ目調整が施され、全体に粗雑な作りである。

小型丸底壺は、192～194は扁平な体部に複合口縁が付く在地系のタイプ、195～202は畿内系の系譜を持つタイプで、精緻な胎土を用い、球胴から扁平気味の体部に直線的に外傾する口縁を持つ。

高坏はA・B類が最も多い。脚部については布留系の高坏に似た、エンタシス状の膨らみを持つ細く柱状脚に細かいヘラミガキが施されるものが多い。脚接合部で破損し坏部だけ遺存しているものの多くにおいて外面に内外面に顕著な使用痕が見られ、外面には破断面を含めて煤が付着していることから、これらの土器は脚部欠損後も坏として使用していた可能性が高い。

低脚坏はB類が主体である。坏部外面や口縁部に煤が付着しているものや口縁部が剥離摩耗しているものが多く、蓋として使用された可能性が考えられる。283・284は脚部に焼成前の穿孔が施される。

鼓形器台はA類が主体である。口径より底径が小さいものが殆どである。294は受部外面に波状文が施される。300は円形透かしが2個一対で開けられている。前面等の印であろうか。また、脚部内外面に1条、4条、逆「く」の字等の線刻が施されるもの(311～314)もあり、ヘラ記号と考えられる。B類も口縁端部は外反する。

小型器台はB類が主体である。328はB類に含めたが、鼓形器台を小型化したような形状で折衷型と考えられる。

以上、1区SD02の出土遺物は弥生時代終末期～古墳時代前期に亘るものが出土しているが、下層～最下層において集中して出土した遺物を見ると、古墳時代前期中葉～後葉が中心であると考えられる。従って、この時期、1区SD02に大量の遺物が断続的に一括廃棄され、溝としての機能を停止していったものと考えられる。一括廃棄遺物は使用痕が顕著なものが主体で、その中に祭祀遺物が僅かに見られることから、想像を逞しくすれば、日常生活で使用されていた土器を豊穰祭などの祭祀後に溝に一括廃棄するといった、集落内の共同祭祀が断続的に行われていたことを示すのではないだろうか。

このような多量の完形を含む遺物が廃棄された溝状遺構は、出雲平野の主要な集落などにおいても発見されている。古志本郷遺跡、下古志遺跡、田畑遺跡では集落を区画する大溝に土器を集中廃棄し、それ以降集落が廃絶している(米田2002)。こうした行為が行われた時期は、博労町遺跡で今回検出された大溝の時期とも重複しており、当該期に出雲地域も含めた広範囲のいわゆる「山陰系土器群」を使用する共同体に通有の祭祀儀礼が存在したのではないだろうか。

1区SK05

土坑底面に、弥生時代終末期の広口鉢と古墳時代初頭頃の甕と鼓形器台が一括して出土した。鉢と

甕・鼓形器台は、胎土や形状も全く異なり、形態的に鉢と他の2点の間には明瞭な時期差が生じる。しかし、出土状況としてはこの3点が同時に埋納されたことが明瞭である。片口鉢は漆による補修が認められ、補修後も使用していた痕跡が認められる。このことから、鉢は弥生時代終末期から伝世的に使用され、最終的に古墳時代前期初頭に一括埋納されたことが推測できる。これは土器の製作から廃棄までの使用期間の問題や、伝世品の可能性を考える上で非常に興味深い事例と考えられよう。

5区SK18

今回の調査において最も多くの遺物が出土した土坑である。多量の破片の他、総数で10点のほぼ完形の遺物が出土している。器高57.4cmの大型品を含む甕A類3点と高坏A類、低脚坏A・B類が一括埋納された遺物と考えられる。いずれも黄灰白色の胎土を持ち、同じ供給地からの土器と考えられよう。出土遺物から、本遺構の時期は古墳時代前期初頭と考えられ、当該期の一括埋納資料としては良好な事例と考えられる。

5. 時期について

博労町遺跡出土の古墳時代前期土器を概観すると、複合口縁壺・甕、鼓形器台といった在地系のいわゆる「山陰系土器群」の中に、小型丸底壺や小型器台といった畿内系の土器群が一定量認められる。畿内系の土器群については搬入品はほとんどなく、いわゆる在地で製作された模倣土器である。さらに、在地の土器の中に畿内系土器の要素が融合した折衷型の土器が多くみられる。これは在地の伝統的製作技法である円盤充填法を用いた布留系の高坏や、複合口縁の小型丸底壺など、胎土の選別から製作技法、調整にいたるまで、当該遺跡の出土土器に普遍的に見られる傾向である。これは在地の集団が積極的に畿内系の要素を取り入れた結果と考えられる。

以上のことから、当該遺跡出土土器の年代観を考えるなら、渡邊編年のIVa期、即ち弥生時代終末期を上限とし、中心時期としては、V期からVI期、古墳時代前期中葉頃であろうか。そして下限としてはVII期、古墳時代前期末までは降らないものと考えられる。

6. まとめ

以上、博労町遺跡の古墳時代前期の土器について概観してみた。特に、「山陰系土器群」と言われる在来の伝統的な土器様式と搬入系の土器様式の両方の要素が1つの土器に内包される折衷型の土器が多いこと、その中でも畿内系土器群の受容が顕著に見られることは、この遺跡の土器の大きな特徴と考えられる。小型丸底壺の中には、精製した胎土を用いず在地産の粗い胎土で作られたものや、成形技法についても在地系のものが一定量みられ、在地の製作者集団が作成したものと考えられる。これは渡邊氏が既に述べられている、在来系の土器様式に新たな様式が組み込まれた変容型の土器が多く、より畿内的様相が強くなっていく段階といえよう（渡邊2008）。1区SD02出土遺物はまさにそれを裏付ける遺構で、畿内型土器の在地化現象が起こる時期が、当該遺跡における古墳時代前期の集落の中心時期と考えられる。

また斉一的な様相の中にも搬入品や個別の色彩が入り込む余地が少なからず見られることは、今回出土した異形勾玉や土製品などにも言えることであり、当該遺跡の出土遺物における特徴と考えられよう。こうした様相から、推測すると博労町遺跡で使用された土器は畿内系土器群の型式を受容しな

がらもその規制はゆるやかなものであったのではないだろうか。

今回は、床面直上出土遺物など良好な一括資料が少なく、先行研究の編年観に準ずる分類にとどまったため博労町遺跡出土土器の編年を構築するまでには至らなかった。また、搬入品の可能性がある遺物についても詳細な検討ができなかったが、古墳時代前期の米子海浜砂丘域の様相を伝える新知見を提示できたものと思われる。

(註1) 米粒形列点文等の文様については畿内の布留形甕にみられる文様パターンであるといわれている(次山1995)。しかし、今回の出土遺物を見る限りは胎土や形状から在地産のものと考えられる。

(引用・参考文献)

- 清水真一 1976「第V章考察編 土器編年論」『青木遺跡発掘調査報告書I』F・J地区 青木遺跡発掘調査団。
- 清水真一 1978「第V章考察編 土器論」『青木遺跡発掘調査報告書III』A・B・E・H地区 青木遺跡発掘調査団。
- 清水真一 1992「因幡・伯耆地域」『弥生土器の形式と編年』山陽・山陰編 木耳社。
- 高橋 護 1991「土師紀の編年 中国・四国」『古墳時代の編年』6 裕山閣出版。
- 谷口恭子 1991「土器」『岩吉遺跡III』鳥取県教育委員会。
- 次山 淳 1995「波状文と列点文—布留系甕にみられる肩部文様の分類・系譜・分布」『文化財論叢』II 同朋社出版。
- 牧本哲雄 1994「第5章 第1節 土器編年について」『南谷大山遺跡II・南谷29号墳』(財)鳥取県教育文化財団・建設省 倉吉工事事務所
- 牧本哲雄 1999「第9章 第1節 古墳時代の土器について」『長瀬高浜VIII・園第6遺跡』(財)鳥取県教育文化財団・建設省 倉吉工事事務所
- 牧本哲雄・八埜 興 1998「第8章 第1節 古墳時代の土器について」『石脇第3遺跡—森末地区・操り地区—石脇8・9号墳 寺戸第1遺跡 寺戸第2遺跡 石脇第1遺跡』(財)鳥取県教育文化財団・建設省 倉吉工事事務所
- 松井 潔 1997「東の土器、南の土器—山陰東部における弥生時代中期中葉～古墳時代初頭の非在地系土器の動態」『古代吉備』第19集 古代吉備研究会。
- 松本岩雄 1992「出雲・隠岐地域」『弥生土器の形式と編年』山陽・山陰編 木耳社。
- 松山智弘 2002「第4節神原神社古墳埋納坑出土の土器について」『神原神社古墳』加茂町教育委員会
- 湯村 功 1997「鳥取県内出土の外来系土器について」『天萬土井前遺跡』(財)鳥取県教育文化財団
- 米田美江子 2002「第3章 第3節 搬入系遺物」『下古志遺跡』考察編 出雲市教育委員会。
- 渡邊 誠 2008「土器からみた古墳出現期の地域社会—山陰地方をケーススタディーとして—」『九州と東アジアの考古学』九州大学考古学研究室50周年記念事業実行委員会。
- 渡邊 誠 2009「古墳時代開始期前後における土器編年研究～山陰地域を素材として～」『島根考古学会誌』第26集 島根考古学会。

第2節 弥生時代終末～古墳時代の遺構の変遷

濱野 浩美

1. はじめに

今回の調査では、腐食化したクロスナ最下層～下層にかけて弥生時代終末～古墳時代前期の掘立柱建物跡1棟、竪穴住居跡29棟、土坑2基の他、大型の溝状遺構（1区SD02）1条等の大規模な集落跡が確認された。当該期の地形は2区南側を頂部として東西方向に延びる尾根状の砂丘列とその周囲の緩斜面部で構成されており、4区南端が最も低位となる。

本節では、前節に述べた出土遺物の検討を基に弥生時代終末期から古墳時代にかけて海浜砂丘域に展開した遺構の変遷について大きく3時期にまとめてみた（第1図）。

2. 弥生時代終末～庄内併行期

博労町遺跡に集落が形成されるのは弥生時代終末期からである。近接する錦町第一遺跡では弥生時代前期～中期に遡る遺物も出土しているが、当該遺跡ではその時期の遺物は全く出土していないことから、弥生時代終末期以前は居住し易い環境ではなかったものと推測できる。当該期の遺構として竪穴住居跡8棟、土坑1基があげられる。遺構は砂丘尾根東側の緩斜面上に検出されており、さらに東側調査区外に広がる様相を見せる。従って今回検出された遺構は、その集落域の西側縁辺部に位置するものと考えられる。この時期の特徴的な遺構としては、庄内併行期の5区SI07があげられる。本遺構は円形の平面形を呈し、土堤を敷設した中央ピットが検出されている。

3. 古墳時代前期

集落の規模が拡大し、大型住居跡や区画溝などの大型施設が形成され集落の最盛期を迎える。当該期の遺構としては掘立柱建物跡1棟、竪穴住居跡21棟、土坑1基の他、大型の溝状遺構（1区SD02）1条等の遺構があり、前代に比べ急激に増加する。この傾向は前代に引き続き東側緩斜面上において最も顕著で、集落はさらに東側の調査区外に続いていくものと考えられる。

このうち、古墳時代前期前葉～中葉のものは掘立柱建物跡1棟、竪穴住居跡8棟で、東側斜面の大型布堀り掘立柱建物跡を中心に遺構が展開する。古墳時代前期中葉～後葉になると最も集落は盛行し、竪穴住居跡13棟、土坑1基、大型の溝状遺構（1区SD02）1条が展開する。中でも砂丘尾根を南北方向に横断する大型溝（1区SD02）はやや弧を描き、溝東側の集落密集域を囲堯するような形状を呈する。さらに溝西側の砂丘尾根北側斜面にも新たに集落が出現する。特に1区北側の砂丘間低地には4棟の竪穴住居跡が確認されており、選地して居住していたことが推測できる。この北側斜面域では大型竪穴住居跡の2区SI04が主要施設と考えられる。調査区で最も大型の竪穴住居跡で平面形態や出土遺物、祭壇状の施設などから他の住居跡とは異なった性格が考えられよう。この北側斜面の集落と、東側斜面の集落とは大型溝で区画されていることから単位集団が異なる可能性が高い。

以上のように、弥生時代終末期～古墳時代前期にかけて遺跡は尾根状の砂丘頂部の東側緩斜面を中心に展開する。特に1区SK05からは弥生時代終末期～古墳時代前期にかけての連続性が推察される遺物が出土しており、当該期に東側斜面から北側に拡大しながら連綿と集落が営まれていたものと考え

えられよう。また、大型溝状遺構（1区SD02）からは大量の一括廃棄遺物が出土しており、集落内祭祀などが行われていたものと推測できる。一方、南側斜面の3区では当該期には全く遺構が検出されていない。調査区の土層堆積状況を観察すると、3区南端は粘質土が堆積する湿地であったことが分かる。居住に適した環境ではなかったであろう。

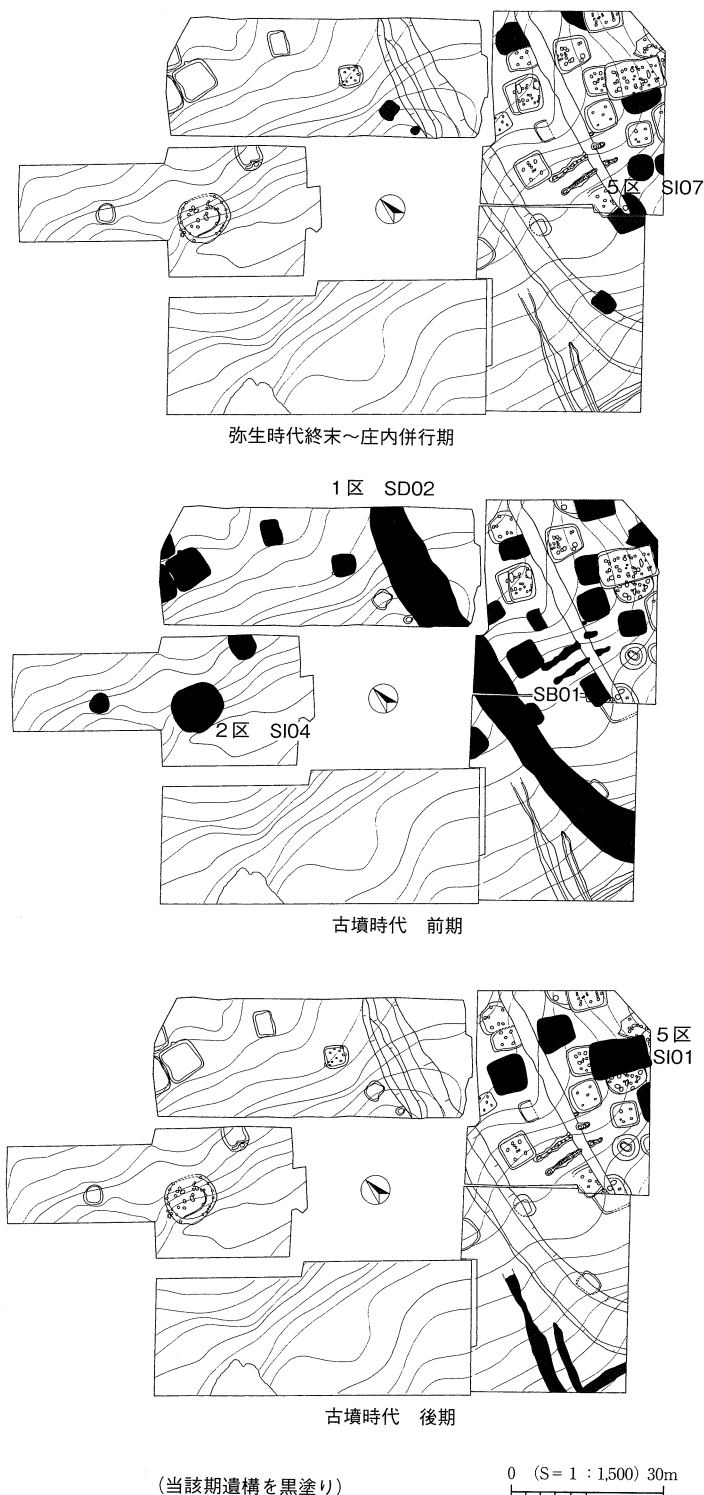
その後、古墳時代中期になると遺構は全く検出されず、遺跡は空白期となる。当該期に集落は周辺域に移動したのか、もしくは砂丘地という性格を勘案すれば、自然環境の変化により居住環境に適さない状況にあったのかも知れない。ただし、堆積土層に変化は見られず断定はし難い。

4. 古墳時代後期

古墳時代後期になると、遺跡地に再び集落が形成され始める。検出された遺構は竪穴住居跡4棟、溝状遺構3条と古墳時代前期に比べ規模は小さい。ただし、竪穴住居跡は5区の東側緩斜面に集中しており、調査区外東側に居住域はさらに展開していく可能性も考えられる。検出された竪穴住居跡のうち、5区SI01は床面積86.3㎡と非常に大型のもので、主要施設の一つと考えられよう。また、低位の4区南側には溝状遺構3条が掘り込まれる。この溝は竪穴住居跡の主軸方向と直交・平行関係をもつことから、集落を区画する溝と考えられる。米子市域ではこの時期の集落の検出例は少なく、特に砂丘域においては貴重な事例である。

5. まとめ

以上、博労町遺跡の弥生時代終末期～古墳時代の遺構の変遷を検討した。米子市域では今まで福市遺跡、青木遺跡等の当該期の大型集落は台地上でのみ確認されていた。しかし今回の調査により、海浜砂丘地においても大規模集落が形成されていたということが初めて確認された。目久美遺跡など日野川下流域の低湿地集落は、弥生時代後期初頭の大規模な洪水や、砂丘の発達などにより衰退し廃絶に繋がっていく。そ



第1図 博労町遺跡古墳時代遺構変遷図

のような環境下において、砂丘停滞により安定した砂丘上に生活集団が移動し、海岸域により近接する博労町遺跡に集落が形成され始めたのではないだろうか。そして古墳時代前期になると大型溝状遺構を伴う10棟前後の集落的景観を呈する。この状況は古墳時代前期後半まで続く。この状況はまさに海浜砂丘域において古墳時代前期を通じて営まれた村落が存在したという新知見を得たものである。

この集落は遺跡内では古墳時代中期には断絶するが、古墳時代後期になると再び形成される。そして、この拠点集落の支配勢力が「会見半生郷」の形成などに繋がっていくのではないだろうか。

前述のように、本遺跡は米子海浜砂丘域の腐食砂（クロスナ）層中に展開する遺跡である。このような腐食砂層に形成された遺跡として、県内では中部の湯梨浜町長瀬高浜遺跡、東部の鳥取市身干山遺跡などがある。特に、長瀬高浜遺跡は天神川下流域の砂丘域に形成された拠点集落である。博労町遺跡とは立地環境や遺跡形成過程、集落の中心時期など共通する点が多い。古墳時代前期における海浜砂丘域の拠点集落の形成は、鳥取県内に留まらず広く日本海沿岸域に通有の現象で、当該期に日本海沿岸の平野部や微高地にはこのような拠点集落が点在している。今回検出された博労町遺跡の集落は、当該期の交易流通を研究していく上でも非常に重要な意味を持つ遺跡であると考えられよう。

（引用・参考文献）

大村雅夫 2010「米子平野の考古学」『新修米子市史第十五巻 資料編 考古補遺』米子市

岡野雅則 1999「第9章 第2節 古墳時代集落について」『長瀬高浜Ⅷ・園第6遺跡』（財）鳥取県教育文化財団・建設省 倉吉工事事務所

三原一将・米田美江子 2002『下古志遺跡』考察編 出雲市教育委員会

第3節 博労町遺跡における古代の遺物と遺構の検討

濱野 浩美

1. はじめに

博労町遺跡の調査では、奈良・平安時代の遺構として掘立柱建物跡55棟、柵列5条、竪穴状土坑3棟、竈1基、溝状遺構30条、井戸2基、土壙墓1基、鍛冶関連遺物廃棄土坑1基、土坑24基、硬化面（道路状遺構）5条が検出されている。これらの遺構及び包含層中からは、7世紀から9世紀にかけての遺物が出土している。

山陰地域の古代土器については、近年岡田裕之氏を中心とした土器検討グループにより、出雲地域の須恵器の型式分類の検討作業が行われ、須恵器編年がまとめられている（岡田ほか 2010）。また、中森 祥氏は因幡・伯耆地域における古代土器の編年を提示されている（中森 2010）。

本節では、これらの編年案を基に博労町遺跡における古代土器の出土傾向を検討し、奈良・平安時代における遺構の変遷について検討を行った。

2. 須恵器について

博労町遺跡出土の須恵器については、既に白石 純氏により胎土分析が行われ、大井窯跡群から7世紀後半から9世紀にかけて供給されたとの分析結果が報告されている（白石 2010）。胎土分析に使用された須恵器は、包含層中及び表採資料であるが、遺構出土資料についても肉眼観察の限りでは包含層出土のものと同様の胎土を呈することから、当該遺跡出土の須恵器の殆どは大井窯から供給されたものと考えられる。

岡田編年では、7世紀代から9世紀にかけての須恵器を型式学的変遷からI期からV期の5段階に区分し、編年が行われている。これに基づき当該遺跡出土の須恵器について検討を行った。

全体的な出土量としては、須恵器坏類が圧倒的に多い。これについて概観すると、坏類では無高台で底部が回転糸切りで体部は内湾、口縁は屈曲し外反もしくは外反気味のものが主体である。皿類では、底部が回転糸切りで器壁は厚く底部から体部が丸味を持って立ち上がり、口縁は外傾するものが主体である。高台付のものについては高台があまり高くないものが殆どを占める。

これに対し、殆ど出土していないものは、坏では底径が小さく器壁は薄く体部から口縁にかけて直線的に外傾するものである。皿においても底部ヘラ切り技法のものや器壁が薄く器高が非常に低く稜を持って直線的に外傾するものは遺構からは出土していない。

この他、特徴的なものとして、灯明皿形の坏が一定量出土している。これらの坏にはタール、煤等の付着していないものもみられ、すべてが灯明皿として使用されたとは考えにくい。また、包含層中からではあるが、鉄鉢形の鉢が数点出土している。特筆すべきは、内底面に漆の付着した須恵器壺2点（1区包含層212・242）である。いずれも底部のみの残存で、漆貯蔵具と考えられる。また、1区包含層242の坏内面には科学分析の結果、白色顔料など数種類の成分が付着していることから、パレットとして使用されたものと考えられる。須恵器転用硯では墨の他、ベンガラ、水銀朱などによる朱墨が付着したものが3点（3区包含層82・112、4区包含層106）出土している。

これらの出土須恵器を編年研究に基づき、3期に区分を行った（第1図）。ただし、包含層中から

出土した遺物については、クロスナ層全体から出土するという状況であり、時期決定資料とするには困難であることから除外している。

すなわち、Ⅰ期は坏に内傾する返りが付く段階で、Ⅱ期は底部が回転糸切りで体部は内湾、口縁は屈曲し外反もしくは外反気味の無高台坏を中心とする段階、Ⅲ期は回転台を使用した土師器坏が出現する段階、底部押圧技法のものが見られ、体部は直線的に外傾する。出土量が最も多かったのはⅡ期の丸味を持つ無高台坏の段階で、口縁端部が屈曲して外反するものから緩く内湾するものまでが全般的に出土している。

これを前述の編年観に照らし合わせると、Ⅰ期が7世紀中葉、Ⅱ期が8世紀前半～中葉、Ⅲ期が8世紀後半～9世紀前半頃と考えられよう。従って、奈良・平安時代に本遺跡で遺構が展開するのは7世紀中葉からで、遺構の中心時期としては8世紀中葉から後葉が考えられる。漆附着須恵器や転用硯はⅡ期に帰属する遺物である。

3. 土師器について

土師器については、総量的に少ないことから出土傾向を検討することは非常に困難であった。その中でも主体的なものとしては坏・皿類で、薄い赤色塗彩が刷毛塗りで施され、底部はヘラ削り、器高は低く、体部は丸味を持ち、口縁は屈曲気味に外反するものである。また、ヘラミガキ調整は行われるが暗文等は省略され、行われぬものもみられる。これに対し、ヘラ切り後底部押圧技法、器高が高く体部が直線的に外傾するものや高台が付くものは、包含層からの出土が殆どである。その他、特徴的なものとして口縁が外反し玉縁状になるものも出土している（2区SK09-7）。これについては、同遺構出土の須恵器において灯明皿形坏が出土していることからその時期のものと考えられよう。

これらを前述の遺構出土須恵器の編年的位置づけを基に、遺構出土のものをⅠ～Ⅲ期に分けてみた（第2図）。ただし、出土総量が少なく、その変遷までは検討できなかった。

4. 出土遺構の特徴と変遷

前述の出土土器分類を基に、今回検出された遺構を3期に区分した。ただし、出土遺物が殆どなく、帰属時期が不明な遺構については除外した。すなわち、Ⅰ期に帰属するものが5区SD11・12、Ⅱ期に帰属するものは1区SB01～07・09～11、柵列、2区の掘立柱建物群、Ⅲ期に帰属するものは1区SB08、3区SB01～08、5区SB02である。

当該期の遺構として最も遡るⅠ期の遺構としては、5区SD11・12の2条がある。いずれも東側緩斜面に南北方向に平行して伸びている。このうち、5区SD11については幅300cm、深さ145cm、断面V字状のもので大型の区画溝である可能性が高い。この溝以外に当該期の遺構は検出されていないが、5区SD12が東側に90°近く屈曲していることを考えると、調査区外の東側に当該期の遺構群が存在し、この溝状遺構はその遺構を囲堯している可能性が考えられる。とすると、Ⅰ期の段階では遺構の中心は調査区東側にあると推測できるが、調査区内では一部のみの検出でありその断定はし難い。

Ⅱ期は遺跡の中心時期であり、砂丘尾根頂部から南北斜面に大型の1区SB01を中心とする掘立柱群が展開する。柵列と砂丘頂部に東西方向に検出された溝状遺構（2区SD11～13・5区SD04）は、この建物群を方形に囲堯している。区画内の建物群の主軸方向は、この1区SB01の主軸方向とほぼ平行直交関係を持ち、大型建物を中心とする施設であると思われる。ただし中心的建物以外は、2間

×1間の小型のものが主体であり、その配置も整然としたものではない。

Ⅲ期には、遺構の中心は尾根頂部の東西溝（2区SD11～13）南側に移るようであるが、出土遺物が少なく遺構の詳細な変遷は不明である。ただし、溝南側の空間（3区）で検出された掘立柱建物群は1区よりも密集度が高く時代もやや降ることから、1区SB01を中心とする建物群よりも後発的なものと考えられる。また、最も低位の3区南端では土坑群や鍛冶関連遺物廃棄土坑、土墳墓などが検出されていることから、この周辺域と尾根頂部付近では空間利用の違いがあったものと推測できよう。

なお、2区SD11～13（5区SD04）については、何回もの掘り替えが認められ、8世紀～9世紀前半頃までの遺物が出土している。すなわち、Ⅱ期からⅢ期にかけて踏襲された遺構と考えられる。このことから、Ⅱ期からⅢ期にかけては、遺構の連続性が考えられよう。

すなわち、博労町遺跡における古代の遺構は、7世紀中葉の東側緩斜面部から始まり、8世紀代には当該期の中心時期で砂丘頂部から南北緩斜面にかけて方形区画の建物群を中心に遺構が展開する。その後、9世紀前半までは南側緩斜面を中心に遺構は存続するが、9世紀後半代と考えられる遺構は1区SB08のみであり、以降中世まで生活の痕跡は途絶えるようである。

5. まとめ

以上、出土遺物から、博労町遺跡における古代の様相を検討した。当該時期に帰属する遺構については、本来的にはクロスナ上層から中層にかけて掘り込まれた遺構であるが、遺跡地のクロスナ層が肉眼観察による判別が困難で、古墳時代の遺構検出面まで掘り下げた段階で検出した遺構が多かった。このため、堆積層位による遺構の重複関係を決定することが困難であり、結果的には出土遺物からの時期比定が困難な遺構も多かった。しかしながら、方形区画に囲堯された掘立柱建物群の時期を明らかにできたことは、大きな成果であると思われる。

出土遺物の中で、特筆すべきは墨書・刻書土器28点、銅製帯金具4点（巡方2点、丸柄2点）、石帯1点、漆貯蔵具2点、転用硯27点、多量の砥石、鍛冶関連遺物などである。この出土量は一般的集落から出土する遺物様相とは考えにくく、官衙的色彩が非常に強いものである。なお灯明皿、鉄鉢形鉢や古代瓦の出土から寺院跡の可能性も想定したが、島根大学の橋本泰夫氏によれば、今回出土した古代瓦は型的には大寺廃寺のものと似ているが出土点数が少ないこと、平瓦のみで構成されていることから、この遺跡内に古代寺院があったとは考えにくいとのことであった（註1）。

平安時代に編纂された「和名類聚抄」によれば、現在の米子市街地は伯耆国会見郡にあたり、博労町付近は国会見郡の十二の郷のうちの一つである半生郷に含まれると推定される。国会見郡の郡衙推定地としては、長者原大殿周辺域が挙げられており、実際に長者屋敷遺跡、坂長下屋敷遺跡では8世紀後半～9世紀前半に至る大型掘立柱建物跡が確認され、国会見郡衙を構成する施設と考えられている。また、坂長第6遺跡では7世紀末～8世紀代の官営鍛冶工房が検出されている（坂本 2009）。今回検出された遺構は、国会見郡衙の遺構年代とも重なっており、その関連性は高いものと考えられよう。近年、全国で郡衙の下部機関にあたる施設の検出例が増えている。奈良時代後半は郷、戸の再編が行われた時期であり、「国会見郡半生郷」設立の問題も勘案すると、検出された遺構はこのような政治的動向と非常に関連深い施設の可能性が推測できる。ただし、検出された遺構の配列は国庁域、郡衙域にみられるような整然としたものではなく、1区で検出された大型の掘立柱建物も柱穴の掘り方にばらつきがあり柱筋の通りも悪い。以上のことから、博労町遺跡において検出された古代遺構は官衙関連

の公的施設の中でも、別院や館などの官衙末端施設の一部と考えたい。

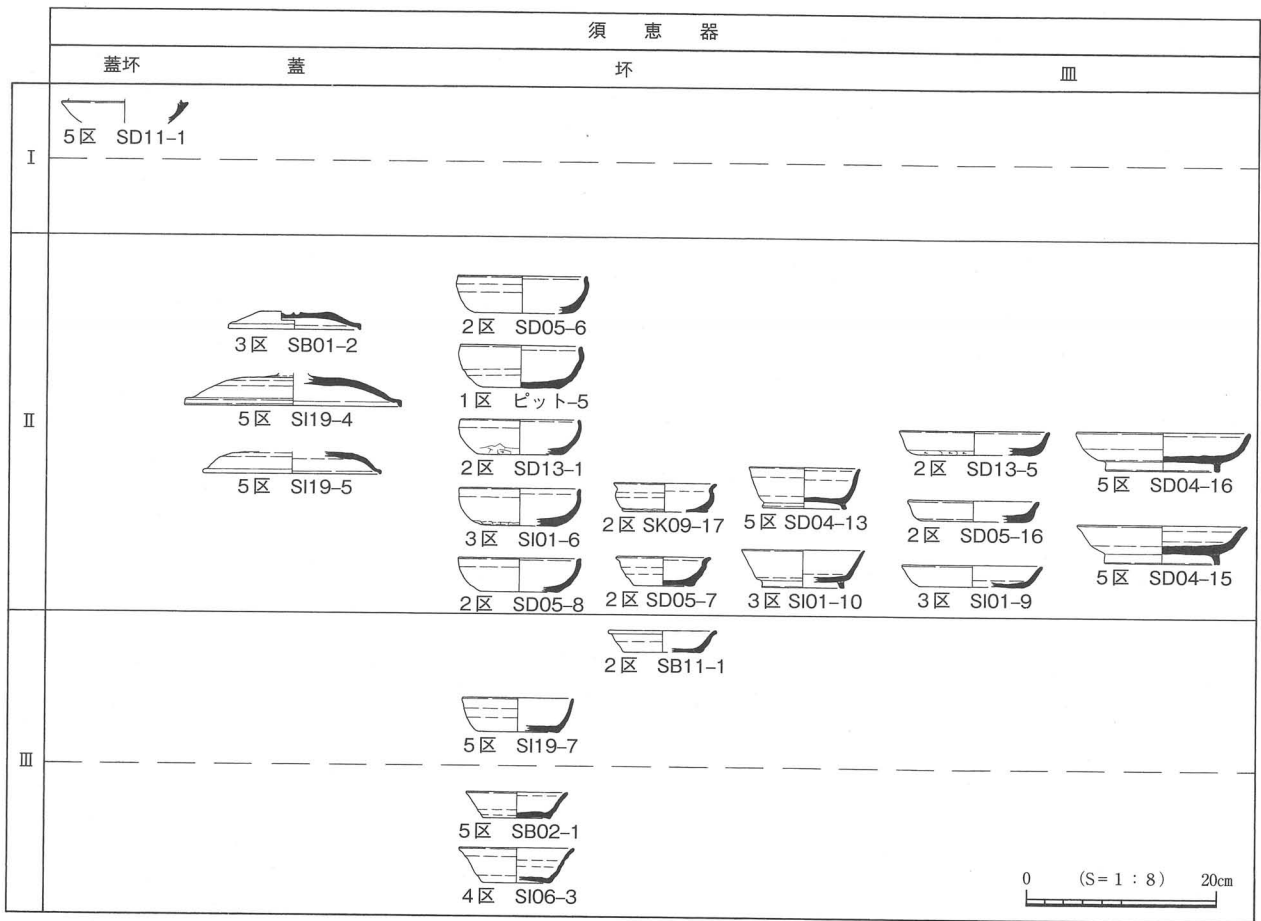
より具体的な性格にまで言及するならば、米子市域では会見郡衙関連遺構を含め、広く大井窯産須恵器を受容していることが胎土分析の結果から判明している（岡田 2010）。博労町遺跡出土の須恵器の中には、包含層中等から窯体付着須恵器（図版No.52）や焼成不良のもの、焼成時に変形したものも少数ながら出土している。こうした生産地に直結する資料を積極的に評価するならば、供給地である大井窯から中海を介して運ばれた後、遺跡内で持ち込まれた須恵器の選別などが行われたという可能性も考えられないだろうか。中海・日本海に近接する海浜砂丘域という立地環境を考慮すると、当該期に遺跡地は海上交易ルートにおける物資供給拠点という公的機関の「津」的な機能を担っていたという推測も出来よう。

今回検出された古代の遺構は米子海浜砂丘域で初めて発見された官衙関連の遺構であり、米子の古代史を解明していく上で貴重な事例と考えられる。

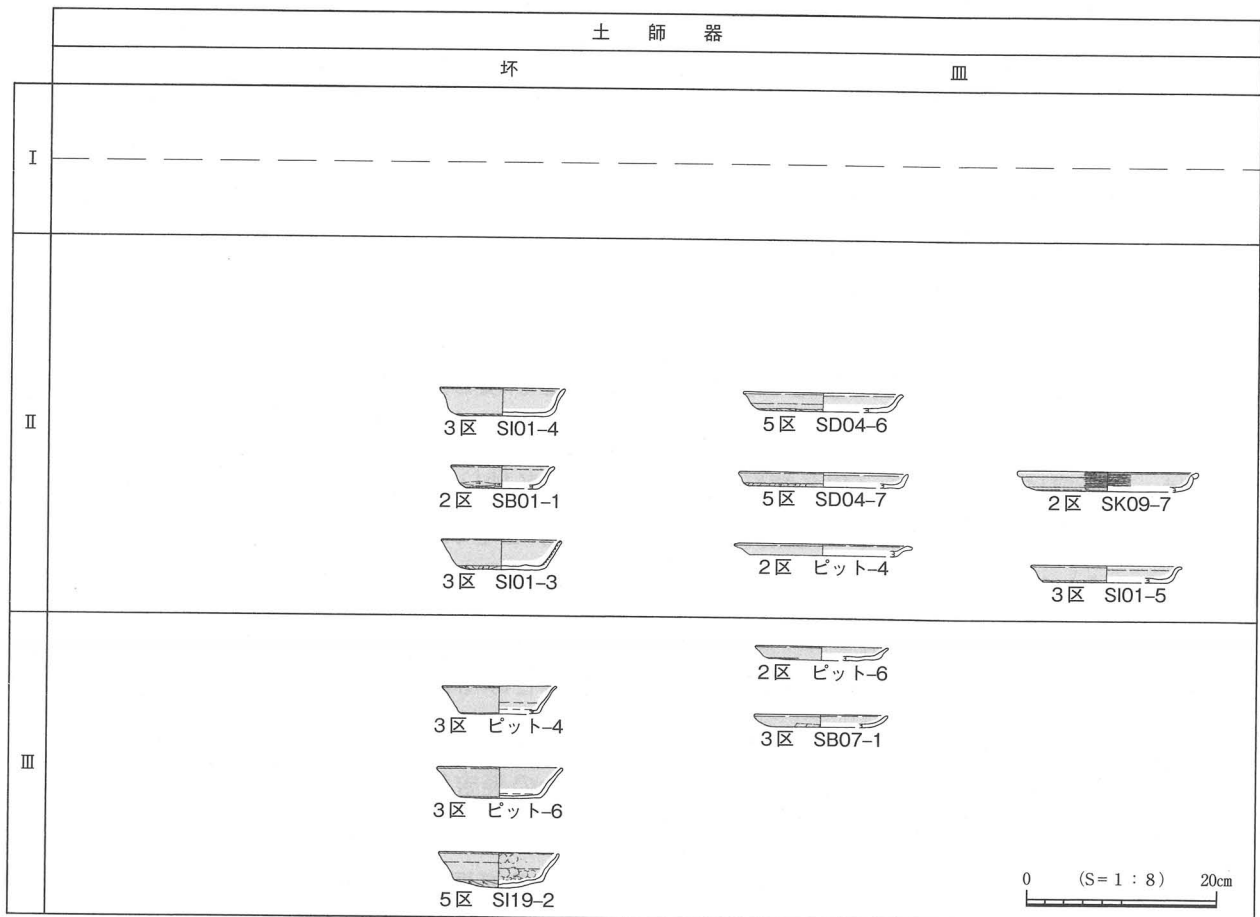
（註1） 調査中、現地にてご教示頂いた。

（引用・参考文献）

- 岡田裕之・土器検討グループ 2010「出雲地域における古代須恵器の編年」『出雲国の形成と国府成立の研究』 鳥根県古代文化センター
- 岡田裕之 2010「考古学的に見た大井産須恵器の供給問題」『出雲国の形成と国府成立の研究』 鳥根県古代文化センター
- 川原和人 2010「出雲地方における須恵器の特色とその背景」『出雲国の形成と国府成立の研究』 鳥根県古代文化センター
- 白石 純 2010「出雲地方出土須恵器の胎土分析」『出雲国の形成と国府成立の研究』 鳥根県古代文化センター
- 中森 祥 2010「因幡・伯耆における古代土器の編年とその様相」『出雲国の形成と国府成立の研究』 鳥根県古代文化センター
- 坂本嘉和 2009「第6章 総括—坂長第6遺跡と会見郡衙—」『坂長第6遺跡』（財）鳥取県教育文化財団



第1図 博労町遺跡遺構出土須恵器変遷図



第2図 博労町遺跡遺構出土土師器変遷図

第4節 出土文字資料からみる博労町遺跡の性格について

高橋 周（出雲市文化財課）

1. はじめに

博労町遺跡では、奈良時代の大小の掘立柱建物跡や溝・柵列が確認されている。なかでも、東西棟SB01（1区）を北に、主軸を同じくする小規模な建物（SB03（1区）・SB10（2区）など）がその南に配され、柵列1～5により方形に区画された建物群が注目される。国府・郡家にみられる建物の配置形式に近い様相を呈し、当該遺跡の中心的な建物群と考えられる。さらに、その周辺には主軸を同じくする小規模な建物群が立地する。少なくとも4つの建物群に分けることができ、時期が異なるものも含むが、それぞれに機能があったとみられる。

墨書土器・刻書土器（以下、文字資料とする。）は28点（記号を含む）見つかっている。その多くが包含層から偏りなく調査区全域で出土する。ただし、中心的な建物群とみられる方形区画内からは、ほとんど出土しない。このような出土状況は、それぞれの建物群の機能を示唆していよう。

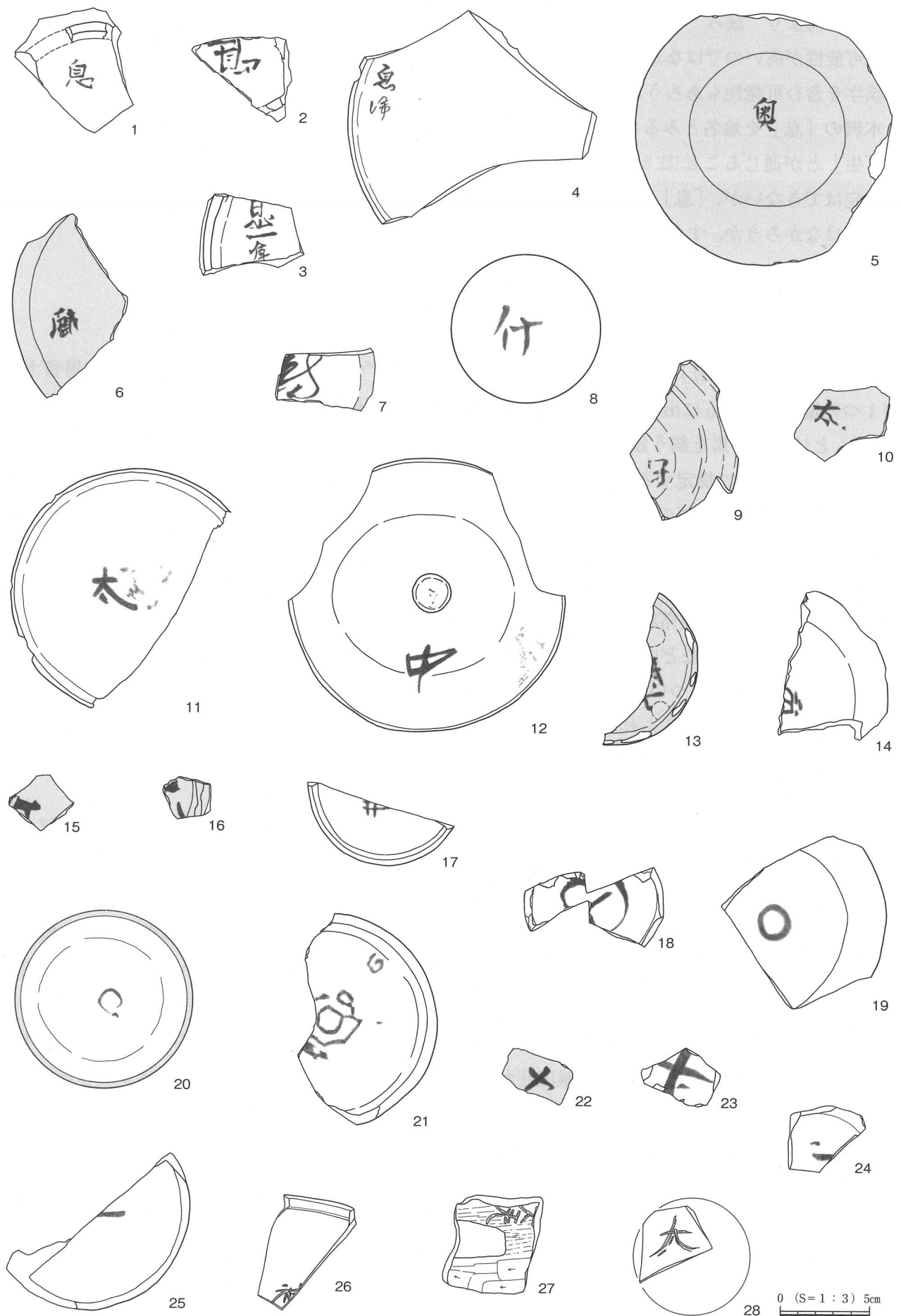
本遺跡出土の文字資料の字句は、施設の名称などを記したものを含み、遺跡の性格を推察するに足るものである。以下、特に注目される字句の意義を考察し、本遺跡の性格について検討を加えたい。

2. 「息」（第1図—1～4）

本遺跡出土の文字資料では「息」と記すものが多い。「息」と記す類例としては、息長氏などのウジ名を記したとみられる例がある（註1）。本例の場合、墨書きされる資料が特定の器種に限定されないことから、その所属先を示した可能性が高いとみられる。息に係る祭祀との関連も想定されるが、その祭祀に関わって「息」と記された例は管見の限りにおいては無い。本例の「息」の意義について考えると、一文字では不明とせざるを得ないが、「息一食」「息浄」などとする例が参考となる。すなわち、「息一食」と記す須恵器の坏については、本遺跡の官衙的な遺構・遺物の性格を考え合わせると、糧食を供給する施設に所属する食器を示唆するとみられる（註3）。したがって、「息」とは官衙的な施設の名称もしくはその名称の由来となった地名とみることができよう。また、「息浄」については、「浄」は人名を記した可能性もあるが、本遺跡からは鉄鉢形土器や灯明皿などの仏教関連遺物も多く出土することから、浄処といった祭祀の場に関わる器物を示唆したものと考えられる。

「息」が示す官衙的な施設については後述するが、地名としてはどのように考えられるであろうか。本遺跡は、10世紀に編纂された『和名類聚抄』（以下、『和名抄』）記載の「半生郷」に相当する（註4）。「半生」の“読み”については、一般的には「ハニユウ」とされている（註5）。おそらく、大宝2年御野国戸籍（『大日本古文書』1—58～92）に見える「半布里」を『和名抄』で「埴生」（ハニユウ）とする例から、「半生」に敷衍したものとみられる。しかしながら、同郷比定地周辺には「ハニユウ」に由来する地名が存在せず、『和名抄』の「半生」を誤写とみる説があるなど、その“読み”を含めて判然としない部分を残している。

一方、「半生」の遺称地として、本遺跡から南へ約2kmの美吉地区に残る「飯生」を指摘する説がある（註6）。ただし、その“読み”は「イケ」もしくは「イイケ」とする。「飯生」の字句を直ちに遺称とみることには躊躇するが、その“読み”には注目する必要がある。すなわち、郷里名の遺称



第1図 博労町遺跡出土の墨書・刻書土器

地には字句より“読み”を残すものが多く、「半生」は「ハニユウ」ではなく、「イケ」などと呼称された可能性が高いのではなかろうか。『和名抄』の郷名表記にはしばしば誤字が見られ(註7)、「半生」が誤字を含む可能性もあろう。

本例の「息」を地名とみるならば、「イキ」と「イケ」とで音が類似すること、語義的にも「息」と「生」とが通じること(註8)など、通用する点があることに注目される。依拠する史料が少ないため断定はできないが、「息」とは郡里名を二字好字とする和銅6年(713)勅以前の地名の可能性があるのでなかろうか。すなわち、上記のことから、「息(イキ)」→「○生(和銅6年以降)」→「半生(10世紀以降)」→「飯生(イケ)」といった字句の変遷が想定されるのである。

3. 「厩」「厨」(第1図—6・7)

本遺跡では「厩」「厨」と記した赤彩土師器片が各1点ずつ出土している。「厩」「厨」の墨書土器が1つの遺跡からともに出土する例は、福島県広畑遺跡・大船迫A遺跡に次いで3例目となる(註9)。

「厩」とは本来、馬を飼う建物の意で、厩牧令では厩に使役すべき役丁・穫丁の数や馬・乳牛に給すべき飼料について規定する(註10)。「厩」の実例として、福島県・荒田目条里遺跡出土木簡に「厩伝子丈部」と記す伝馬制の「厩家」を示唆するものがある(註11)。一方で、「厨」とは食事の調理・供給などの厨房としての機能だけでなく、食料品の調達・保管・管理、食器類の保管・管理などの機能をもっていたとする(山中1994)。「厨」と記した墨書・刻書土器は全国で800点近くあり、官衙関連遺跡のほか、一般の集落跡からも出土する。したがって、「厨」の活動は官衙だけではなく、部内巡行の国司や往来伝使などのために官衙外での食料供給にも及んだとされる(山中1994)。

本例の「厩」「厨」については、官衙的な性格をもつ遺跡であることから、周辺に立地した施設の機能を示唆するものと考えられる。

4. 「神」「奉」「大」(第1図—26~28)

本遺跡では、刻書土器が3点出土している。須恵器に記される「神」は焼成後に、土師器に記される「奉」「大」は焼成前に刻まれている。

「奉」は三本線に人を重ねた字体で、北海道・東北地方などを中心に東日本で多く見られる。「夷」の異体字とする指摘もあるが、本例では「奉」の略字とした。「奉」は土師器甕の頸部内側に倒位で刻まれ、「奉」の上部にさらに一文字認められる。刻まれた意図は判然としないが、興味深い資料である。

「神」は祭祀の対象もしくは関連の器物を表現する例のほか、神人・神部などの氏族名を示唆する例などがある。本遺跡周辺には中世勝田荘が立地したとの指摘もあり、本例との関係で注目される。

5. 博労町遺跡出土の文字資料と遺跡の性格

博労町遺跡から出土した文字資料(記号を含む)は28点を数えるが、決して多数ではない。しかしながら、その遺構・遺物から官衙的な性格の施設の存在を想定することができ、文字資料にもその想定を裏付ける内容が含まれる。最後に、本遺跡で出土した文字資料を総体的に捉え、遺跡の性格について言及したい。

本遺跡出土の文字資料で、施設の機能を示唆するものに「厩」「厨」がある。「厩」の存在を直接示

唆する遺構・遺物はないが、包含層から同時期の馬具（第1分冊第413図—169）が見つまっている（註12）。また、「厨」については、多量の食器や製塩土器・土製支脚などが出土し、同時期の井戸も認められる。したがって、「厩」「厨」が本遺跡もしくは周辺に立地した施設を示唆する可能性が高いと言える。

地方官衙における「厩」「厨」の存在形態を知り得る史料として、「上野国交替実録帳」（以下、「実録帳」）がある。「実録帳」は長元3年（1030）に国司の任務引継ぎの文書として作成されたもので、上野国各郡の施設や施設毎の建物群の内訳が記される。平安時代の史料であるが、その施設の構成要素は、八世紀以来の郡家の基本的な実態を反映しているとみなせると評価される（山中1994・森2003）。「実録帳」によると、「庁屋」「向屋」「副屋」などの郡家（郡庁）に置かれた建物群とは別に、「館」と表わされる建物群があったことが分かる。「一館」「二館」「三館」「四館」として上野国各郡には複数の館が存在し、館の施設の一部として「厩」や「厨」が記載される。この「館」の性格については、基本的に宿泊機能を主とする施設とされている。ただし、その宿泊の対象について、公使や駅使などの外来者（吉田1973・原1984）、通勤の郡司（青木1990）などとする諸説に分かれる。しかしながら、いずれの諸説も館が郡家に付属した施設であることを前提とする。一方で、館は必ずしも郡家周辺に所在せず、郡内の交通・宿泊に関わる施設とみる説（森2008）もある。また、館とは別に「実録帳」吾妻郡に「長田院」「伊参院」とする施設が記載される。この院については、吾妻郡長田郷・伊参郷に宿泊供給的施設として郡家から別置された館であったとする説（山中1994）、『朝野群載』にみえる「別院」（註13）、いわゆる、郡内の生産・現業の拠点である郡家別院とする説（森2008）がある。

それでは、本遺跡の性格はどのように位置付けることができるのか。本遺跡からは文字資料や転用硯・水滴などに加えて、帯金具・石帯などの官人層の存在をうかがわせるものが多く出土する。また、鍛冶関連遺物の廃棄土坑が認められ、周辺に小鍛冶などの金属工房が存在した可能性が高い（註14）。包含層から見つかった鉄鎌・鉄釘・鉄製紡錘車などは、その工房での製品の可能性がある。なかでも、鉄鎌が注目される。天平六年「出雲国計会帳」（『大日本古文書』1-586~604）に「官器仗帳一卷 百姓器仗帳一卷」「新造兵器帳一卷」とあるように、律令制下、公私の兵器は国郡により把握され中央へ申上されるべきものであった（註15）。本遺跡出土の鉄鎌については、後述するように有力豪族の家内生産の一部として製作された可能性もあるが、多分に公的な性格をもつものと考えられる。

さらに、遺構についても、大型の東西棟を中心とした方形の圍繞施設をもつ建物群、その東に主軸を揃えた直・並列的な同時期の建物群が認められ、それぞれが何らかの機能をもつ一群として想定される。

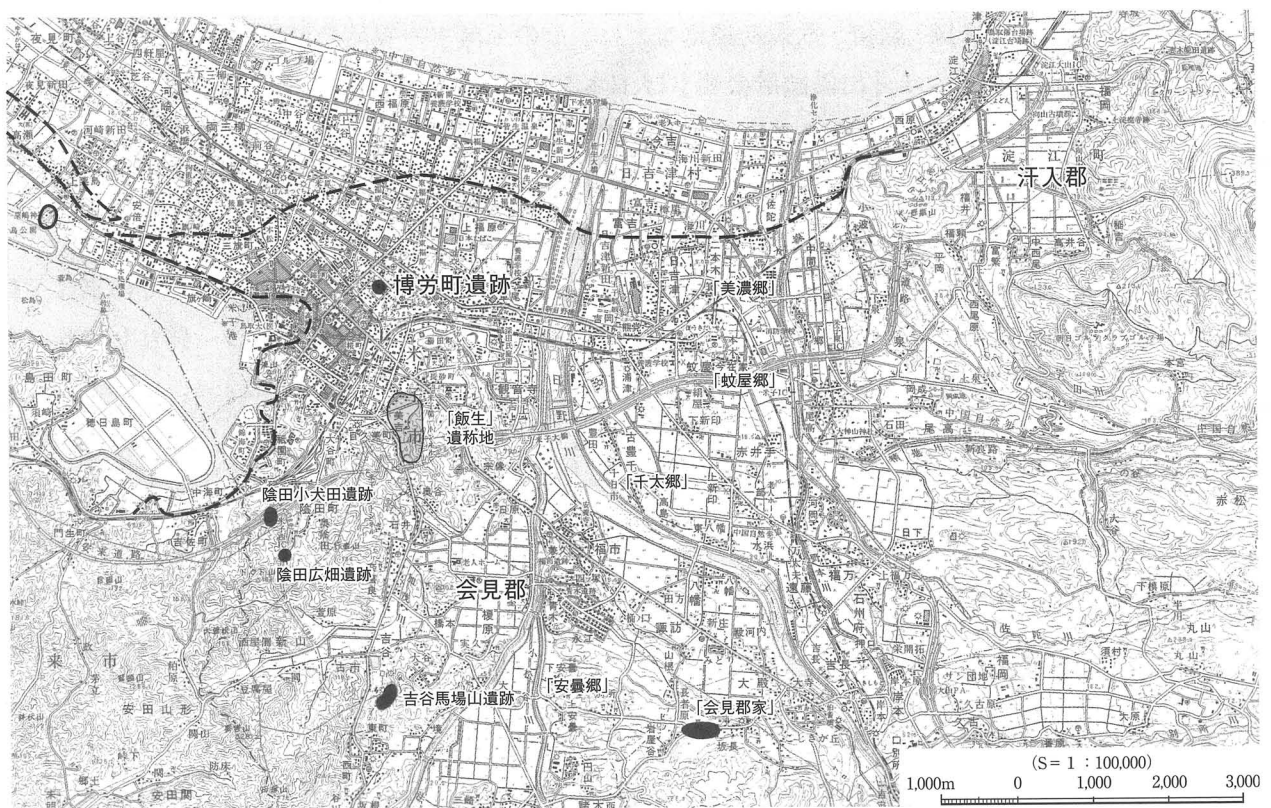
上記のように、本遺跡は官衙的な遺構の様相を呈し、かつ、手工業生産の場としての機能（註16）も想定される。したがって、郡家別院に相当する性格をもつものとみてよいであろう。一方で、大型の東西棟や「厨」「厩」などの施設の存在から、郡内の交通に関わる宿泊施設の機能をもつ館の想定も可能となる。すなわち、本遺跡は郡家別院と館の両様の機能をもつ可能性がある（註17）。

また、「厩」「厨」とともに本遺跡の性格を示唆する文字資料が、「息一食」（第1図—3）である。上述のように「息」を「半生」に先行する郷名とし、本遺跡の性格を郡家別院あるいは館とすると、「息」院の「一屋」あるいは「一館」に供する食器の意と解せることができまいか。このほか、「息」「息浄」の資料についても、「息」院などに所属する食器を示唆するものとみることができよう。

「息一食」をこのように解するならば、本遺跡から南西約3.5km離れた陰田小犬田遺跡で出土した文

字資料が注目される。同遺跡は狭小な谷底の低湿地に立地するが、本遺跡と同時期の多量の土器類や竈・甗・土製支脚・製塩土器のほか、漆付着土器や鍛冶関連遺物、円面硯などが出土する。これらの遺物とともに「館」「田知」などと記す文字資料が出土するため、付近に「館」の存在が想定されている。ただし、「館」の建物群が立地するためには地形的な制約が大きいことから、報文ではその存在に疑問も呈している（鳥取県教育文化財団1996）。同遺跡では、さらに「□知□」と記す木簡が出土する。木簡の字句については解釈が分かっているが、共伴の墨書土器に「田知」とするものがあり、その図面から判読すると、「田知一」と読むのが妥当とみられる。このように考えると、推測の域を出るものではないが、同遺跡は博労町遺跡と同じ郷に相当することからして、「田知一」と「息一食」とは同じ施設に係る字句の可能性はあるのではなかろうか。陰田小犬田遺跡を含む陰田遺跡群では7世紀後葉以降、律令的支配の下で鉄器生産の操業規模の拡大が図られたとされる（註18）（鳥取県教育文化財団 1996）。博労町遺跡においても鍛冶関連遺物が出土しており、その鉄の供給元として同郷内の陰田遺跡群を想定するならば、同じ施設を示唆する文字資料が出土しても矛盾はないであろう。また、「館」などの墨書土器についても、土器の所属先を明記したものであって、必ずしも遺跡の性格を直接的に示すものではない。

上述のように、陰田遺跡群の報文では付近に「館」などの施設を想定しつつも地形的な制約から疑義が呈されている。実際に同遺跡群の建物は急峻な斜面を削平したテラス上に立地し、比較的規模の大きな掘立柱建物も認められるが、現地工房に付随する出先機関レベルの官衙とする方が妥当であろう。同遺跡群の遺物として特徴的な多数の円面硯は律令的な供給関係を想定させ、会見郡あるいは同郷内での有機的な関連の中に位置付けられるべきものである。同遺跡群の一つ、陰田広畑遺跡では「里長」の墨書土器が出土し、陰田に存した工房に係る人的差発が郷里単位で行われたことを示唆する。



第2図 博労町遺跡とその周辺(破線は古代における汀線)

各地で出土の郡符木簡などから窺える律令的な人的差発の実態からすると、会見郡家－「息」郷の院・一館【博労町遺跡】－「息」郷の現地工房の出先機関【陰田遺跡群など】といった関係が考えられるのである(註19)。

このように、博労町遺跡は郡家別院あるいは館の機能をもつ「息」郷の施設と捉えることができるが、さらに交通の結節点に位置することも拠点的な性格を示唆している。奈良時代、博労町遺跡の南東には「夜見島」があり、『出雲国風土記』島根郡条に「夜見島」との交通の様相が記される。それによると、蜈蚣島（現在の江島）から干潮時の乗馬での往来、戸江割を経た粟江崎から船による促戸渡での往来が見られる。このような交通は令制以前からの様相に起因するものとみられ、島根半島部と「夜見島」との関係のみでなく、「夜見島」の“後背地”となる会見郡内との交通としてもみる必要がある。律令制による地方支配の中で、会見郡家から「夜見島」までのルートが確立していたと考えられ、「夜見島」を介した交通路の存在が想定されるのである。その「夜見島」への交通の結節点として、博労町遺跡を位置付けることができるのではなかろうか(註20)。また、博労町遺跡では窯体付着土器が見つかることも注目される。当該期の会見郡内で使われる須恵器には出雲国島根郡大井浜に所在する窯で製作されたものが多く、博労町遺跡出土須恵器の大半は大井窯に由来することが胎土分析の結果明らかになっている(註21)。すなわち、窯体付着土器の出土は、大井浜からの製品が本遺跡へ運ばれて選別され、会見郡内へ供給されたことを示唆するものである。上記のことから、交通の結節点として、付近に「津」の機能を有する施設の存在も想定することができよう。

6. まとめ

博労町遺跡出土の文字資料を手がかりに、遺跡の性格にまで言及した。史資料的な制約があり、判然としない点も残すが、博労町遺跡は会見郡の郡家別院あるいは館としての機能を有する可能性が高いといえる。全国各地には郡家別院などの末端官衙に比定される遺跡は多くあるが、その全容が分かる例は少ない。博労町遺跡では方形の圍繞区画を有する建物群などの遺構の様相や施設を示唆する文字資料が確認され、末端官衙の一例に加えることができよう。

さらに、古墳時代の大型堅穴住居跡が確認されるなど、令制以前から有力豪族が拠点としていた地であることも注目される。すなわち、古代における地方支配においても、従来からの有力豪族の力が利用されたことを示唆するものである。郡内の支配において、郡司職について複数の有力豪族が輪番的に任命されたとの指摘(須原1996)があるように、本遺跡を拠点とする有力豪族も郡司あるいは郡雑任に任命され、会見郡内の地方支配の一面を担ったと思われる。それは、帯金具や石帯の出土が物語っていよう。このように考えると、方形の圍繞区画などの遺構は公的な性格を示唆するが、その施設の運営や手工業生産の場としての機能は有力豪族の家内生産的な面に包括されていた可能性がある。水晶製辻玉を副葬する奈良後期～平安初めの土壙墓や平安前期の緑釉陶器・黒色土器の出土は、継続的に本遺跡付近を有力豪族が拠点としたことの証左となろう。末端官衙の様相が令制以前から継続的に確認できる遺跡は少なく、本遺跡は古代の地方支配の様相を考える上で全国的にも貴重な遺跡といえよう。

最後に、本遺跡の古代末以降の性格について一瞥したい。承安3年(1173)奉納の大山寺鉄製厨子には紀成盛が「会東郡地主」と称しており(註22)、古代末期には会見郡は“会東郡”と“会西郡”に分かれていたとみられる。伝承などから紀氏の根拠地としては、会見郡家の立地した長者原付近が比

定される。それに従うと、“会東郡”とは日野川右岸及び法勝寺川—小松谷川右岸の地域が相当しよう。さすれば、“会西郡”の拠点として、博労町遺跡周辺を比定することができるのではないか。古代以来、会見郡の郡家別院としての機能の延長として捉えることができる可能性はあろう。本調査では古代末期以降の顕著な遺構・遺物はないが、畑作地としての開発が継続して行われることから、付近に拠点的な集落の存在を想定してよいのではなかろうか。

米子市周辺の会見郡・汗入郡については、史資料的な制約があり、判然としない部分がお多い。ただし、近年の発掘調査の増加で、出土文字資料を含め多くの注目すべき遺構・遺物が見つかっている。これらの成果を一地方の様相として捉えるのではなく、全国的な視点に立った研究が進められることを期して了解したい。

(主要参考文献)

- 平凡社『日本歴史地名大系第32巻 鳥取県の地名』1992年
山中敏史『古代地方官衙遺跡の研究』1994年
須原祥二「8世紀の郡司制度と在地—その運用実態をめぐって」『史学雑誌』105—7、1996年
鳥取県教育文化財団『一般国道9号米子道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書X 陰田遺跡群』1996年
津野仁「古代鉄鏃からみた武器所有と武器政策」『栃木史学』16、2002年
平川南『古代地方木簡の研究』2003年
森公章「郡家の施設と部署—郡雑任の執務形態との関係から」『弘前大学国史研究』115、2003年
森公章「文献史料から見た郡家の構造と機能」『条里制・古代都市研究』23、2008年
条里制・古代都市研究会編『日本古代の郡衙遺跡』2009年

(註)

- 1 「息」と記した墨書土器は、全国で10点確認される。「息福」(千葉県滝東台遺跡)、「息家」(千葉県長部山遺跡)などの例はウジ名に関わるとみられる。平城宮跡出土の資料で祭祀に関わる例があるが、習書の可能性もあり、判然としない。
- 2 息に係る祭祀とは、人面墨書土器や人形木製品などを使用して、自らの息を吹きかけて浄化するものである。宮都や地方官衙で行われた祭祀であるが伯耆国あるいは出雲国における類例は少ない。
- 3 「食」と記す墨書土器の出土例はほとんどが平城宮跡などの都城で、他に秋田城跡や鴻臚館跡などで報告されている。このことからしても、官衙的な施設に関わるものと考えられる。特に本例と類似するのが、長岡京左京一条三坊六町で出土する「食一」とするものである。
- 4 『鳥取県史1 原始古代』(1972)では、米子市南西部の旧成実村地区を中心とした地域に比定する。
- 5 吉田東伍『大日本地名辞書』(1899-1907)では、「ハブ」と読み、埴生・土生とする。
- 6 景山肅『伯耆志』(1858)などで指摘する。『鳥取藩史』(1933)によると、享保元年(1716)の「上新田村」から「上飯生村」への村名改称が初見。「新田」の地名そのものが新しいものであることから、既に周辺に存在した地名への改称とみられる。
- 7 例えば、『和名抄』最古の写本とされる高山寺本において、出雲国能義郡の山国郷と母理郷の間に母国郷を記し、意宇郡宍道郷を宮道郷とする。また、半生郷に続く日野郡条には因幡国高草郡・気多郡の郷名が重複して記されるなどの混乱がみられる。『和名抄』の郷名については、池邊彌『和名類聚抄郡郷里驛名考證』1981に詳しい。
- 8 『万葉集』では「伊企」あるいは「伊吉」との仮名表記が見られるが、『日本書紀』雄略即位前紀には「氣息」

との字句が見えており、早くから「息」は「イキ」として通用したとみられる。

また、息の語源についてはいずれも近世の史料ではあるが、貝原益軒『日本釈名』や谷川士清『和訓栞』は「生」の義とする。

本遺跡では「奥」と記した資料も出土しており、「息」を「オキ」と読む可能性も否定できない。『万葉集』には「奥」を「於伎（オキ）」とする例がみえる。しかしながら、本遺跡では「息」が多く見られることや、遺称地に「生」字が含まれることからすると、「息」は「イキ」と読まれたものと考ええる。

- 9 『原町市史4 資料編Ⅱ』(2003)
- 10 厩牧令1 厩細馬条。ただし、同条は中央の左右馬寮の厩を指すものとされる。
- 11 「厩」と記した木簡・墨書土器の出土例は都城以外では少なく、木簡では上記の1点、墨書土器では「厩」（北中寺遺跡〈三重県〉・広畑遺跡〈福島県〉）、「厩酒坏」（大船迫A遺跡〈福島県〉）の例が知られるのみである。
- 12 本遺跡より南へ5.5kmに位置する吉谷馬場山遺跡では「□牧」と記す墨書土器が出土している。隣接する吉谷銭神遺跡では、「目」と記す墨書土器が出土しており、専当国司が牧を巡行した例からすると、官営の牧が存在した可能性が高い。「□牧」が本遺跡の「厩」で飼育された馬の供給源となった可能性がある。
- 13 『朝野群載』巻22「国務条々」第20条「扱吉日、可渡雑公文由牒送前司事」に「次勘官舎〈神社・学校・孔子廟堂并祭器・国庁院、共郡庫院・駅館・厨家、及諸郡院・別院・駅家・仏像・国分二寺塔・経論等。〉」とみえる。同史料も古代の地方官衙の様相を示唆するものとしてあげられる。
- 14 金属工房の最終段階で使用されたとみられる多数の砥石（漆附着を含む）や漆の附着土器が見つかったことも、その証左となろう。
- 15 軍防令42従軍甲仗条で、国郡の器仗は年毎に帳簿をまとめ、朝集使により兵部省へ進奏するように規定される。各地に置かれた軍団の兵士の武器は、律令の上では弓や大刀などの武器を自備することとなっている。東日本の集落遺跡での出土例から狩猟用などの生活用具の一部として鉄鏃が使用されたと考えられ、民衆による自備は可能だったとする見解もある（津野2002）。
- 16 包含層出土の金属製品には、鉄製紡錘車も多く見つかった。直ちに付近でのその使用を示唆するものではないが、紡績・織機の作業がなされた可能性もあろう。
- 17 考古学的には遺構・遺物からの郡家別院や館の類型化は困難な現状である。「館」などの施設を示唆する出土文字資料が全国的に増加する中で、文献史料における「館」の議論と考古学的な遺構論・遺物論との整合性が図られることが望まれる。
- 18 陰田遺跡群は、主として鍛錬鍛冶を中心に操業し、集団内で消費するだけの鉄器を作製していたものとする。一方で、長期にわたる鍛冶を行うには製錬鉄が必要であり、同遺跡群周辺に製錬操業を行う製鉄遺跡が存在し、同遺跡群と直接的、継続的な供給ルートをもっていたと想像できるとする（鳥取県1996）。
- 19 会見郡内における出先機関として、「厨□」と記す墨書土器が出土した八金小清水田遺跡（南部町）もそれに相当しよう。同遺跡は法勝寺川支流の上流部の狭小な谷底に立地し、鍛冶工房に関わる施設が立地したと考えられる。陰田遺跡群を含め、会見郡の末端官衙のあり方について再検討する必要がある。
- 20 奈良時代における「夜見島」の南端の様相は判然としない。ただし、『出雲国風土記』意宇郡条に伯耆国との境として「門江浜」との地名があり、現在の境水道側と同様な地名があることは注目される。すなわち、「門江」とはある程度閉塞的な水域を示唆するとみられ、狭い瀬戸で入海（中海）と北海（日本海）がつながっていたと考えられる。今後の地質的な調査での検討がまたれよう。
- 21 白石 純 2010「出雲地方出土須恵器の胎土分析」『出雲国の形成と国府成立の研究』鳥根県古代文化センター
- 22 錦織 勤 2003「第七章 古代から中世への転換点・平安時代」『新修 米子市史』第一巻 通史編 原始・古代・中世 米子市

第1表 墨書・刻書土器観察表 (第1図)

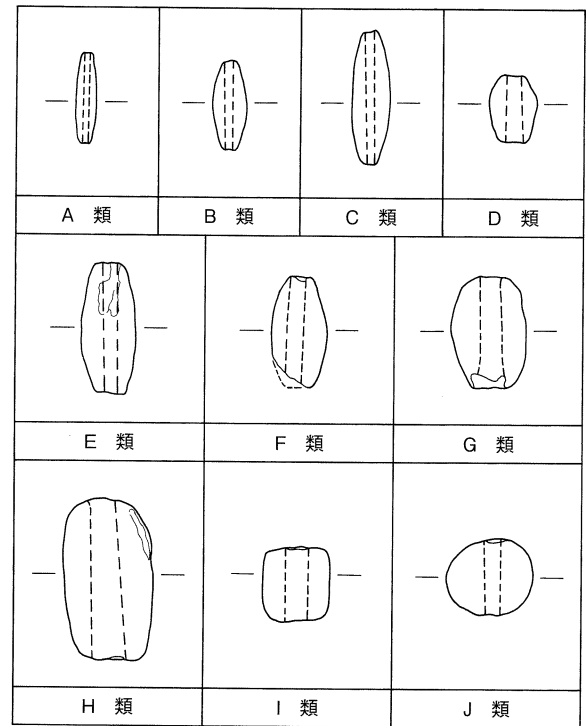
遺物No.	积文	器種	墨書部位	種類	遺構名	地区 出土層位	法量(cm)	焼成	色調	胎土	挿圖No. (第1分冊)
1	息	須惠器 坏	底部外面	墨書	1区 包含層	E-2 Ⅲ-①層	器高(2.5) 底径(9.6)	良好	青灰色	密 白色粒	第392図-200
2	息	須惠器 坏	底部外面	墨書	4区 包含層	A-4 Ⅲ-①層	器高(1.5) 底径(9.4)	良好	灰色	密 白色粒	第416図-62
3	息一食	須惠器 坏	底部外面	墨書	4区 包含層	C-2 Ⅲ-①層	器高(1.4) 底径(10.0)	良好	青灰色	密 白色粒	第416図-63
4	息淨	須惠器 蓋	口縁部内 面	墨書	5区 包含層	C-2 Ⅲ-①層	口径(17.1) 器高:3.5	良	青灰色	密 雲母・白色粒	第428図-165
5	奥	赤彩土師器 皿	底部外面	墨書	1区 包含層	W-1 Ⅲ-①層	口径(14.8) 器高:3.7 底径(8.7)	良	灰褐色	密	第391図-167
6	厩	赤彩土師器 皿	底部外面	墨書	1区 包含層	W-5 Ⅲ-②層	口径(15.4) 器高(2.8) 底径(11.9)	良	灰褐色	密	第391図-168
7	厨	赤彩土師器 坏	底部外面	墨書	3区 包含層	B-1 Ⅲ-②層	器高(0.8) 底径(9.2)	良	灰褐色	密 角閃石・雲母	第406図-17
8	什	須惠器 皿	底部外面	墨書	5区 包含層	A-3 Ⅲ-①層	口径(14.8) 器高:2.5 底径:8.4	良	灰色	密 雲母・白色粒	第428図-166
9	□子	赤彩土師器 坏	底部外面	墨書	1区 表探	I層中	口径(13.2) 器高:2.8 底径(9.4)	良	橙褐色	密 砂粒	第441図-35
10	太	赤彩土師器 坏	底部外面	墨書	4区 包含層	B-2 Ⅲ-③層	器高(0.6) 底径(8.0)	良好	橙褐色	密 白色粒	第416図-59
11	太	須惠器 坏	底部外面	墨書	5区 包含層	C-3 Ⅲ-②層	口径(18.7) 器高:4.0 底径:13.7	良	灰色	密 石英・白色粒	第428図-167
12	中	須惠器 蓋	頂部外面	墨書	4区 包含層	B-4 Ⅲ-①層	口径(15.0) 器高:2.8 底径:5.9	良	灰色	密 白色粒	第416図-61
13	□	黒色土師器 坏	底部外面	墨書	5区 包含層	D-3 Ⅲ-③層	器高(2.3) 底径(8.8)	良	褐色	密 雲母	第428図-164
14	□	須惠器 坏	底部外面	墨書	2区 SK09	埋砂中	口径(12.4) 器高:4.1 底径(8.9)	良	青灰色	密 白色粒	第209図-24
15	□	赤彩土師器 坏	底部外面	墨書	3区 ピット	Pit260	—	良	橙褐色	密	第302図-15
16	□□	赤彩土師器 皿	底部外面	墨書	1区 包含層	W-5 Ⅲ-①層	器高(1.0)	良好	灰褐色	密	第391図-169
17	井 (記号)	須惠器 坏	底部外面	墨書	3区 包含層	D-1 Ⅲ-①層	器高(2.6) 底径(8.8)	良	黄灰白色	密	第410図-118
18	日 (記号カ)	須惠器 坏	底部内面	墨書	5区 包含層	A-3 Ⅲ-①層	器高(1.2) 底径(7.2)	良	灰色	密 雲母・石英・ 白色粒	第428図-168
19	○ (記号)	須惠器 皿	底部外面	墨書	1区 包含層	E-4 Ⅲ-①層	口径(13.8) 器高:2.1 底径(9.6)	良好	青灰色	密 白色粒	第392図-201
20	○ (記号)	赤彩土師器 皿	底部外面	墨書	5区 包含層	C-1 Ⅲ-③層	口径(17.4) 器高:4.3 底径:9.9	良	橙褐色	密 石英・白色粒	第428図-162
21	◎ (記号)	須惠器 坏	底部外面	墨書	3区 包含層	C-1 Ⅲ-②層	口径(17.8) 器高:3.7 底径(11.8)	良好	赤褐色	密 白色粒	第410図-117
22	× (記号)	赤彩土師器 坏	底部外面	墨書	3区 包含層	B-1 Ⅲ-②層	—	良	橙褐色	密 白色粒	第406図-18
23	× (記号)	赤彩土師器 坏	底部外面	墨書	3区 包含層	A-1 Ⅲ-②層	—	良	橙褐色	密 石英・白色粒	第406図-19
24	□ (記号カ)	須惠器 坏	底部外面	墨書	5区 包含層	B-1 Ⅲ-①層	器高(0.9) 底径(6.8)	良	灰色	密 白色粒	第428図-169
25	□ (記号カ)	須惠器 皿	底部外面	墨書	5区 包含層	C-3 Ⅲ-①層	口径(17.0) 器高(3.8) 底径(11.4)	良好	灰色	密 砂粒	第428図-170
26	神	須惠器 皿	底部外面	線刻	5区 包含層	D-2 Ⅲ-①層	器高(1.4) 底径(14.8)	良	灰色	密 白色粒	第429図-171
27	□□ (奉カ)	土師器 甕	頸部内面 倒位	ヘラ 書き	3区 包含層	D-1 Ⅲ-①層	器高(5.6)	良	褐色	密	第406図-14
28	大	土師器 坏	底部外面	ヘラ 書き	3区 包含層	A-2 Ⅲ-③層	底径(6.0)	良	黄灰白色	密	第406図-20

第5節 博労町遺跡出土の土錘について

平木 裕子

博労町遺跡では約680個の土錘が出土した。米子市内の今までの調査で一度にこれだけの数の土錘が出土した例がないため、今回若干の分類を行ってみた。最も多く出土したのは3区の311点、次いで4区の160点となる。出土した土錘のうち約80個は破片のため形態が不明であるが、残り約600個を形態別に次のようにAからJの10種類に分類を行った。

A類…最大径1.6cmまでの細身のもの
B類…中央部がやや脹らみを持ち、長さ5.0cmまでの中型のもの
C類…中央部がやや脹らみを持ち、長さ5.0cm以上のやや大型のもの
D類…全体的に脹らみがあり、長さ3.5cmまでの小型のもの
E類…全体的に脹らみがあり、長さ6.0cmまでの中型のもの
F類…全体的に脹らみがあり、長さ6.0cm以上のやや大型のもの
G類…最大径と端部の径の差が小さく、やや作りが雑なもの
H類…長さ・最大径共に大型のもの
I類…断面が長方形のもの
J類…球形のもの
Z類…形態不明のもの（破片）



第1図 土錘分類図

この中で、A～F類は大きさからみて刺網・投網用と考えられ、B・C類、D・E・F類は、それぞれ長さの違いだけで同形状のものとする。

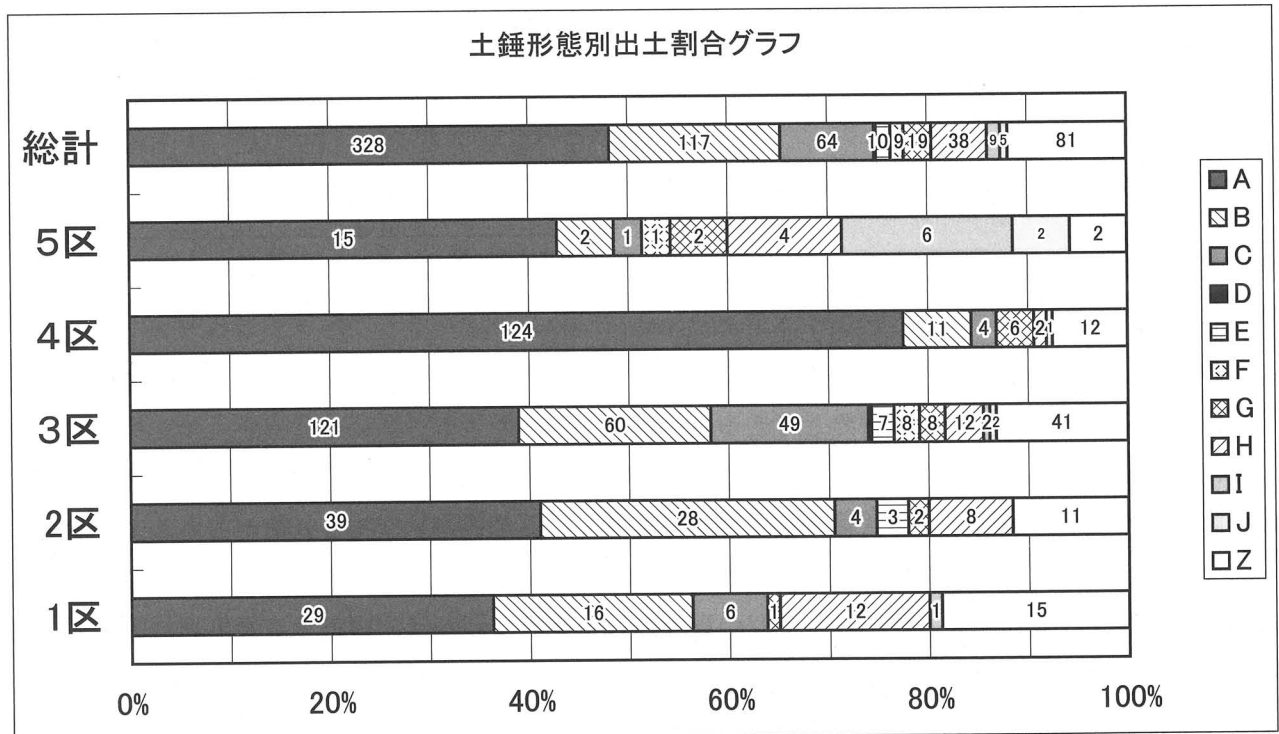
次に出土量（第1表）を見てみるとA類が最も出土量が多く、全体の約55%を占める。区域ごとの出土傾向をみても、各区域ともA類の出土量が最も多く、区域内の約50%をA類が占めるが、中でも4区では特に多く約84%を占める。次いでB・C類が多くみられるが、重量の軽いA～C類が多いのは当然であろう。では投網1枚に対してどの程度の錘が必要なのかは、捕獲する対象物によって、網の大きさも異なり錘の数・大きさも変わってくると思われる。そこで、錘をつけた状態で網が副葬品として埋葬されたと考えられている島根県の小才1号墳を参考に考えてみると、約184個の土錘が出土していることから、例え今回出土した土錘が同時期に使われたものであったとしても2・3枚程度であったと考えられる。この枚数が当時の生活においてどのような意味を持つのかは不明である。さらに博労町遺跡の地理的位置を考えるならば、恐らく漁の中心は美保湾であったと考えるならば、投網以外にも曳網・巻網などの漁も行われていたであろう。これを裏付けるかのように、重量が100gを超える大型寸胴のH類の出土量も比較的多い。

次にI J類であるが、これらは一般的な土錘とは形状の異なるものである。どのように使用されていたかは不明である。内田律雄氏※によると土錘の大きさの違いは時期的なもので、時代が新しくなるにつれて小型化、軽量化しているとあるが、今回の調査では、層位的にみて時期的に大きな違いは見られなかった。漁の種類によって網の大きさ・形態が変わり、それに伴って錘の数、大きさ等は異なってくると思われる。今回の調査では網本体及び魚の骨等の当時の漁撈の様子を知る手がかりを確認することはできなかった。

次に出土分布状況を見ると、2区から5区にかけて伸びる尾根の南西側に特に集中し全体の出土量の約70%強を占める。(第2図)。これは浜の陰になる傾斜地を利用して網を乾燥あるいは、補修等をしていたとは考えられないだろうか。

また数は少ないが石錘も50点近く出土していることからまた別の漁撈網の存在も窺える。石錘のほとんどは礫石の両端を打ち搔いたものであるが、5区SI-06・10ではラグビーボール型に成形した石に十字に紐を掛けるための溝を施したものや、4区では隅丸直方体の一方をやや細身にし円孔を施した形態のものもみられる。また軽石製の浮子なども確認されている。今回の調査では、漁の種類・網の大きさ等は不明であるが、地形的にも海に近く、比較的漁が身近なものであったことは想像がつくであろう。

※『古代日本海の漁撈民』 内田律雄 同成社 2009年



第2図 土錘出土状況グラフ

第1表 博労町遺跡出土土錘一覧表(No.1)

1区							2区							2区							3区							
No	長さ	最大径	口径	内径	重さ	種類	No	長さ	最大径	口径	内径	重さ	種類	No	長さ	最大径	口径	内径	重さ	種類	No	長さ	最大径	口径	内径	重さ	種類	
5	5	1.4	0.85	0.53	8.6	A	1-6	3.24	1.24	0.78	0.5	4.6	A	3706-1	-	-	-	-	6.1	Z	3089	-	1.2	0.7	0.35	4	A	
5	4.4	1.4	0.6	0.35	6.5	A	1-14	-	1.38	-	0.47	7.1	A	5016	-	-	-	-	8.8	Z	3109	5.55	1.07	0.74	0.4	6.7	A	
5	3.8	1.4	0.64	0.33	5.5	A	1-15	-	1.3	0.62	0.42	4	A	6018	-	-	-	-	20.1	Z	3112	3.77	1.03	0.8	0.4	3.6	A	
5	3	0.9	0.6	0.35	1.7	A	1-16	-	-	-	0.34	2.8	A	6020	-	-	-	-	0.8	Z	3117	-	1.27	0.7	0.32	4.1	A	
5	4.6	1.2	0.6	0.42	7.9	A	1-17	-	0.78	-	0.27	1.4	A	4901	2.4	1.7	0.92	0.55	3	Z(須)	3130-1	-	-	-	-	0.44	1.7	A
5-4	-	1.36	0.86	0.5	6.3	A	279	4.4	1.27	0.75	0.46	5.9	A	3区							3130-2	-	-	-	0.4	2.2	A	
5-6	-	1.28	0.9	0.33	3.3	A	862	-	-	0.9	0.4	2.4	A	No	長さ	最大径	口径	内径	重さ	種類	3149	-	1.3	-	0.38	5.3	A	
5-7	-	1.18	0.62	0.4	2.8	A	1189	-	1.1	0.64	0.34	3.5	A	1-4	4.45	1.44	0.8	0.4	8.6	A	3154	-	1.27	-	0.4	6.4	A	
39-2	-	1.22	0.77	0.4	3.4	A	1866	4.88	1.36	0.73	0.36	7.7	A	1-5	-	1.43	-	0.36	8	A	3204	-	1.4	0.75	0.32	6.8	A	
669	-	1.2	-	0.5	3.2	A	2750	-	1.4	0.8	0.5	6.2	A	1-6	-	1.27	-	0.37	6	A	3232	-	1.2	0.7	0.4	6.2	A	
671	4.3	1.4	0.5	0.37	5.9	A	2845	-	-	-	0.44	2.2	A	1-7	4.1	1.14	0.64	0.23	5.6	A	3248	-	-	-	0.56	2.6	A	
681	-	1.2	0.64	0.32	4.2	A	2989	3.92	1.44	-	-	3.8	A	1-8	-	1.28	-	0.36	5	A	3250	4.46	1.2	0.77	0.38	5.0	A	
688	-	1.5	-	0.5	6.4	A	3034	-	-	0.82	0.5	4.5	A	1-9	3.58	1	0.48	0.26	2.6	A	3253	-	-	-	0.88	0.36	4.7	A
692	-	1.48	-	-	4	A	3054	-	1.17	-	0.4	4.2	A	13-1	4.13	1.44	0.75	0.35	8.6	A	3256	5.4	1.2	1.02	0.5	6.4	A	
1244	-	1.52	0.83	0.43	5	A	3239	-	1.43	1.06	0.4	6.9	A	13-2	-	0.94	0.52	0.24	2.9	A	3259	3.83	0.94	0.67	0.3	3.0	A	
1489	4.5	1.4	0.65	0.4	7.7	A	3324	-	-	0.82	0.42	3.1	A	59	-	-	0.5	0.28	2.2	A	3270	4.43	1.18	0.7	0.33	6.0	A	
1791-2	-	1.3	0.6	0.4	5.3	A	3421	-	1.2	0.57	0.4	6.9	A	105	4.1	0.9	0.6	0.16	2.4	A	3277	-	-	0.96	0.56	4.4	A	
2650	4.7	1.4	0.72	0.4	8.7	A	3596	-	1.38	0.92	0.5	6.3	A	120-2	-	0.9	0.47	0.26	2.6	A	3293	4.76	1.08	0.65	0.27	6.3	A	
2658	4.4	1.3	0.52	0.4	7.6	A	3633	4.36	1.35	0.9	0.48	6.7	A	375	4.03	1.03	1.1	0.74	4.3	A	3331	4.07	1.1	0.85	0.49	4.6	A	
2795	4.5	1.3	0.5	0.4	6.1	A	3681	-	1.46	0.68	0.44	10.3	A	382	-	-	-	0.34	3.3	A	3352	5.33	1.0	0.8	0.33	6.1	A	
2872	1.5	-	0.48	0.33	0.6	A	3682	-	-	0.64	0.44	2.7	A	442	-	1.35	0.68	0.35	6.8	A	3372	-	1.24	-	0.4	6.3	A	
3127	4.3	1.5	0.73	0.47	9.7	A	3709	-	1.3	-	0.4	7.5	A	482	-	1.2	0.48	0.37	5.9	A	3373	-	-	-	0.46	2.2	A	
3164	4.6	1.5	0.63	0.46	7.8	A	4028	4.5	1.47	0.86	0.5	8.1	A	662	-	1.37	0.83	0.42	7.3	A	3382	4.1	1.22	0.58	0.33	5.7	A	
3440	4.7	1.5	0.6	0.38	8.7	A	4134	4.2	1.44	0.84	0.47	7.2	A	694	4.1	1.2	0.7	0.35	4.9	A	3401-1	-	-	-	-	1.7	A	
3602	4.6	1.6	0.8	0.48	9.2	A	4164	-	-	-	0.43	0.8	A	737	4.3	1.4	0.74	0.4	7.2	A	3401-2	-	-	1.3	0.7	0.32	6.4	A
3917	-	1.26	0.7	0.48	2.1	A	4520	4.62	1.36	0.58	0.34	8.8	A	739	-	-	-	0.38	4	A	3403-1	-	-	0.63	0.37	1.7	A	
3937	4.3	1.2	0.67	0.55	5.8	A	4541	-	1.32	0.6	0.35	7	A	746	-	1.1	0.57	0.35	3.2	A	3403-2	-	-	0.7	0.33	1.6	A	
3945	4.2	1.4	0.9	0.52	7	A	4958	-	1	-	0.3	1.6	A	756	-	1.14	0.63	0.36	3.4	A	3407	-	-	0.77	0.4	3.9	A	
4538	4	1.4	0.64	0.38	7.7	A	5971	4.63	1.33	0.65	0.4	7.6	A	767	4.7	1.35	0.8	0.35	8.8	A	3439	-	1.18	-	0.28	4.4	A	
5	4.6	1.6	0.7	0.4	1.1	B	5999	4.67	1.35	0.8	0.5	7.4	A	775	4.1	1.1	0.7	0.35	5.2	A	3487	-	-	0.83	0.4	2.4	A	
5	3.7	1.6	1.05	0.54	7.2	B	6014	-	1.27	-	0.35	4.3	A	803-1	-	-	0.8	0.35	4.1	A	3552	3.8	1.1	0.8	0.36	4.9	A	
5	4.5	1.6	0.85	0.55	8.8	B	6035	-	-	-	0.35	3.5	A	869	4.35	1.2	0.9	0.45	6.3	A	3558	4.85	1.1	0.65	0.4	5.7	A	
5	4.2	1.5	0.86	0.52	7.9	B	6066	4.58	1.3	0.58	0.36	6.3	A	904	3.35	1.02	0.65	0.33	3.1	A	3584	-	-	-	0.36	4.8	A	
5	4.2	1.6	0.8	0.5	8.5	B	3484	4.9	1.36	0.6	0.3	7.9	AB	929	-	1.2	-	0.38	4.5	A	3594	-	-	-	0.35	2.9	A	
5	4.3	1.5	0.7	0.57	7.2	B	3414	7.24	1.54	0.66	0.42	14	AC	943	-	1.14	0.64	0.3	4.6	A	3732	4.58	1.25	0.72	0.35	6.3	A	
5	4.6	1.6	0.92	0.5	8.6	B	1-7	4.9	1.82	0.86	0.5	12.0	B	996	-	-	0.72	0.42	2.9	A	3835	4.0	0.9	0.57	0.3	3.1	A	
8	4.84	1.73	0.95	0.54	11.7	B	1-8	4.67	1.48	0.9	0.5	8.6	B	1045-2	-	1.26	0.83	0.45	6.8	A	3847	3.9	1.05	0.76	0.35	4.7	A	
34	4.25	1.65	1.2	0.55	9.3	B	1-9	4.17	1.58	0.67	0.4	7.7	B	1117	-	1.05	0.74	0.8	3	A	4122	-	-	-	0.37	3.3	A	
39	4.2	1.5	0.67	0.4	8.7	B	1-13	-	1.64	1	0.4	8	B	1134	4.9	1.25	0.7	0.25	7.4	A	4455	5.1	1.23	0.73	0.37	7.4	A	
39	4.3	1.5	0.63	0.4	8	B	481	4.4	1.4	0.7	0.36	7.8	B	1144	2.55	1	0.6	0.2	2.1	A	4457	-	-	0.9	0.44	6	A	
2813	4.17	1.5	0.94	0.48	7.6	B	3123	-	-	1.2	0.47	12.2	B	1158	4.75	1.2	0.65	0.4	6.0	A	4517	-	-	0.84	0.35	2.4	A	
3144	4.4	1.6	0.72	0.46	8.9	B	3316	4.44	1.56	0.9	0.5	9.5	B	1276	3.96	1.38	0.74	0.38	6.6	A	1-3	4.45	1.52	0.84	0.44	9.3	B	
3601	3.7	1.7	-	0.38	9.2	B	3324	4.4	1.55	0.9	0.4	8.8	B	1338	-	-	0.95	0.4	4.6	A	1-10	3.77	1.85	1.1	0.53	11	B	
3603	4.4	1.7	0.88	0.5	9.4	B	3350-1	4.2	1.46	0.8	0.48	7.7	B	1378	-	-	0.7	0.4	4.6	A	325	4.15	1.58	0.9	0.5	8.5	B	
39-1	4.7	1.73	1.16	0.56	11.8	B	3350-2	4.17	1.6	0.8	0.4	8.7	B	1380	-	-	-	0.36	4.6	A	465	4.35	1.68	1.05	0.42	12.8	B	
5	5.1	1.5	0.74	0.53	8.9	C	3362	4.57	1.67	0.8	0.44	8.9	B	1443	4.75	1.1	0.7	0.3	6.1	A	592	4.72	1.68	0.9	0.38	12.7	B	
5	5	1.9	0.8	0.44	14.7	C	3372	4.3	1.75	0.82	0.47	12.4	B	1457	4.2	1.3	0.8	0.42	6.5	A	599	3.64	1.83	1.5	0.52	14.8	B	
605	6.5	1.9	0.82	0.52	20.1	C	3440	5.33	1.7	0.87	0.43	14.3	B	1461	3.05	1.03	0.57	0.24	2.3	A	644	4.3	1.62	0.86	0.33	11.9	B	
2445	5.4	2	0.9	0.5	16.1	C	3632	3.96	1.46	0.83	0.45	7.3	B	1603	-	-	-	0.4	2.5	A	790	4.38	1.64	0.83	0.5	9.6	B	
2763	5.6	1.4	0.7	0.46	10.8	C	3706-2	-	1.52	-	0.5	5.6	B	1645	4.9	1.3	0.7	0.37	6.2	A	887	4.83	2.2	1.45	0.7	20.1	B	
3086	5.4	1.8	0.75	0.38	13.7	C	3875	-	-	1.17	0.43	8.3	B	1658	5.25	1.38	0.77	0.4	8.4	A	933	-	-	-	0.9	0.4	7.9	B
1785	-	-	2.1	1.47	20.6	G	5990-1	4.1	1.57	0.95	0.5	8.6	B	1677	4.5	1.24	0.8	0.44	5.8	A	962	4.18	1.62	1.07	0.4	10.1	B	
5	7.7	4.1	2.22	1.4	128.6	H	5990-2	4.6	1.66	0.86	0.4	10.3	B	1700	3.9	1	0.48	0.3	3.4	A	1255	3.8	1.7	1.1	0.49	10.0	B	
5	8.6	4	1.68	1.14	103.6	H	5992-1	4.57	1.48	0.92	0.48	8.7	B	1745	4.2	1.2	0.6	0.3	5.2	A	1273	5	1.73	1.02	0.4	15.2	B	
5-1	-	4.44	1.9	1.4	131.3	H	5992-2	4.6	1.55	0.84	0.44	9.6	B	1746	-	-	0.75	0.4	5	A	1397	4.2	1.8	1.02	0.5	11.5	B	
1032	-	4.38	-	1.4	106.3	H	4012	5.2	1.92	1.24	0.47	17.4	B	1752	4.45	1.35	0.92	0.3	7.1	A</								

博勞町遺跡出土土錘一覽表(No.2)

3区							3区							4区							4区							
No	長さ	最大径	口径	内径	重さ	種類	No	長さ	最大径	口径	内径	重さ	種類	No	長さ	最大径	口径	内径	重さ	種類	No	長さ	最大径	口径	内径	重さ	種類	
2701	4.7	1.7	1.03	0.63	8.6	B	3260	-	3.58	1.6	1.3	67.2	G	81	3.9	0.98	0.53	0.3	3	A	2935	-	0.93	0.6	0.33	2.3	A	
2726	4.1	1.54	0.96	0.47	8.2	B	3636	7.95	3.54	1.45	1.12	83.7	G	86	3.66	1.1	0.57	0.24	4.1	A	2936	4.6	1.05	0.75	0.26	4.9	A	
2774	4.58	1.68	1.08	0.38	13.6	B	223	8.47	4.84	2.12	1.5	151.9	H	101	3.58	1.08	0.7	0.3	4.2	A	2972	-	1.25	-	0.4	4	A	
2812	-	1.58	0.5	0.3	7.9	B	617	9.7	4.5	1.44	1.24	162.6	H	121	3.9	1.3	0.8	0.33	6	A	2987	4.6	1	0.85	0.2	4.9	A	
2894	-	1.56	-	0.44	6.1	B	827	8.03	4.36	2.2	1.46	120.9	H	140	-	1.12	0.67	0.33	4.3	A	2997	4.45	1.12	0.75	0.24	5.9	A	
2957	3.7	1.74	0.84	0.4	10.2	B	1252	8.5	4.28	1.9	1.4	137.5	H	164	-	0.95	-	0.3	2	A	3002	3.5	0.88	0.65	0.24	2.2	A	
2980	4.6	1.8	1.05	0.4	14.9	B	1272	-	4.13	-	1.22	108.1	H	178-2	3.48	1.2	0.7	0.3	5.6	A	3022	4.1	1.07	0.66	0.33	4.9	A	
3023	4.62	1.78	0.9	0.45	13.1	B	1455	8.7	4.7	3.1	1.66	161.8	H	179	3.5	-	3.5	0.44	4.2	A	3023	-	-	0.67	0.3	2.4	A	
3137	-	1.86	-	0.5	7.4	B	1753	7.6	4.1	1.88	1.3	101.8	H	186	4.36	1.43	0.86	0.47	7.3	A	3024	-	1.22	0.57	0.36	4.4	A	
3237	4.1	1.66	0.9	0.48	8	B	2031	9.98	4.78	1.6	1.18	192.7	H	191	4.72	1.22	0.7	0.43	7	A	3028	3.85	1.44	0.76	0.4	8.3	A	
3383	4.8	1.73	0.8	0.44	13.3	B	2115	7.85	4.86	2.86	1.9	151.2	H	197	-	1.66	0.88	0.4	8.4	A	3033	4	1.08	0.6	0.22	5.7	A	
3403	4.14	1.9	0.9	0.46	13.1	B	3005	-	-	-	-	60.6	H	247	3.42	1.3	0.68	0.32	5.1	A	3064	4.05	1.1	0.73	0.33	5.4	A	
3476	3.9	1.72	0.96	0.53	10.3	B	3011	-	-	-	1.37	71.5	H	258	4.1	1.15	0.72	0.32	6.2	A	3065	3.94	1.48	0.92	0.5	8.5	A	
3522	4.2	1.43	0.75	0.35	7.7	B	3428	7.92	4.1	1.7	1.0	84.9	H	261	2.9	0.93	0.6	0.36	1.6	A	1	3.67	1.77	0.92	0.37	11.3	B	
3647	4.6	1.6	0.67	0.36	9.9	B	145	3.76	3.93	2.64	0.9	54.3	I	284	-	-	0.75	0.38	5.1	A	7-1	4.46	1.7	1.2	0.5	13.6	B	
1-1	5.98	1.74	1.2	0.5	17.1	C	3193	3.8	3.57	3.2	1.03	55.7	I	316	-	0.97	0.55	0.32	2.9	A	8-1	4.3	1.45	0.88	0.5	7.3	B	
1-2	5.05	1.64	1.1	0.4	16	C	772	3.8	4.72	2.1	1.0	77.4	J(小型)	341	4.22	1.15	0.86	0.37	5.7	A	479	-	2.3	1.48	0.72	11.7	B	
434	5.36	1.88	1.02	0.47	16.9	C	4450	2.53	-	-	-	4.6	J(小型)	347	3.63	1.26	0.62	0.3	4.3	A	934	4.48	1.5	0.9	0.36	9	B	
865	5.04	1.95	0.85	0.46	16.3	C	114	-	-	-	-	12	Z	377	3.67	1.34	0.58	0.35	6.1	A	1357	3.7	1.54	0.92	0.4	10	B	
987	5.03	1.85	0.88	0.4	14.3	C	120-1	-	-	-	-	12.8	Z	417	3.38	1.18	0.7	0.4	3.9	A	2707	-	2.03	1.26	0.6	16.4	B	
1155	5.65	1.8	1.15	0.43	17.3	C	121	-	-	-	-	30.1	Z	419	4.76	1.28	0.74	0.37	7.1	A	2724	-	-	1.05	0.43	6.8	B	
1233	5.5	1.85	0.8	0.42	17.9	C	284	-	-	-	-	40.7	Z	434	4.55	1.2	0.7	0.24	6.5	A	2985	4.84	1.53	0.9	0.4	12.2	B	
1245	6.24	1.84	1.27	0.48	21.7	C	343	-	-	-	-	18.3	Z	471	-	1.2	0.8	0.3	5.5	A	3036	4.92	1.6	0.8	0.42	13.9	B	
1271	6.23	1.83	0.93	0.48	19.2	C	531	-	-	0.92	0.5	2.9	Z	472	4.2	1.14	0.57	0.13	5.5	A	25-2	4.3	1.67	-	0.52	11.8	B	
1343	6.25	1.95	1.08	0.5	19.9	C	680	-	-	-	-	7.3	Z	530	4.5	1.22	0.86	0.37	7	A	11-1	5.12	2.2	1.38	0.53	20.6	C	
1558	5.1	1.7	1.1	0.4	15.6	C	803-1	-	-	-	-	10.3	Z	534	-	-	-	0.38	2.6	A	53	5.64	1.77	0.92	0.57	18.3	C	
1594	6.02	1.7	0.86	0.43	15.6	C	809	-	-	-	-	3.7	Z	545	-	0.84	0.64	0.33	2.2	A	556	5.48	1.8	0.76	0.4	13.5	C	
1680	-	1.83	1.03	0.45	11.6	C	1042	-	-	-	-	3.8	Z	554	4.42	1.3	0.64	0.26	6.1	A	1869	5.04	2.14	1.12	0.38	21.2	C	
1731	5.8	1.8	0.93	0.44	18.1	C	1045-1	-	-	-	-	12.1	Z	619	4.76	1.1	0.68	0.23	6.2	A	25-1	7.03	3.3	2	1.2	70.9	G	
1738	5.33	1.97	1.06	0.5	16.4	C	1171	-	-	-	-	38.2	Z	621	4.13	1.3	1.08	0.2	7.7	A	271	6.62	3.78	2.1/1.8	1.4/1.1	75.1	G	
1742	6.57	1.9	0.9	0.44	20.2	C	1200	-	-	-	-	23.7	Z	623	-	1.14	0.73	0.25	3.6	A	332	6.95	3.83	2.72	0.94	94.6	G	
1760	6.77	2.13	0.9	0.5	24.5	C	1211	-	-	-	-	12.6	Z	629	-	-	0.64	0.24	2.2	A	2710	6.77	3.54	2.26	0.94	71.9	G	
1873	5.52	1.77	0.8	0.43	16.6	C	1246	-	-	-	-	33	Z	638	-	-	0.68	0.43	2	A	2776	8.23	3.33	1.74	1.34	76.6	G	
1949	6.63	1.9	0.88	0.4	22.1	C	1366	-	-	-	-	4.3	Z	640-1	-	-	0.6	0.33	2.3	A	2787	7.1	3.76	2.4	1.1	88.5	G	
1954	5.21	1.68	0.85	0.43	10.9	C	1370	-	-	-	-	12	Z	640-2	-	1.27	-	0.4	3.9	A	513	7.75	4.14	1.9	1.2	108.4	H	
1958	5.8	1.54	1.02	0.4	16.7	C	1559	-	-	-	-	30.2	Z	672	4.25	1.08	0.74	0.23	4.5	A	591	-	4.06	-	1.04	74.6	H	
2026	5.18	1.87	0.73	0.42	16.4	C	1683	-	-	0.9	0.5	7	Z	690	-	-	0.72	0.36	2.1	A	2390	2.57	2.83	0.85	0.5	10.3	J	
2027	6.87	1.9	0.9	0.5	21.4	C	1765	-	-	-	-	19.6	Z	704	-	-	-	0.34	2.3	A	18	-	-	-	-	15.5	Z	
2029	5.2	1.7	1.04	0.4	14.4	C	1766	-	-	-	-	32.6	Z	900	4.64	1.15	0.8	0.23	6.3	A	24	-	-	0.77	0.38	2.6	Z	
2030	6.77	1.66	0.96	0.5	19.5	C	1771-1	-	-	-	-	19.8	Z	918	3.22	1.2	0.92	0.3	5.6	A	178-1	-	-	-	-	5.5	Z	
2032	4.47	1.38	0.6	3.5	0.5	C	1771-2	-	-	-	-	11.1	Z	928	4.08	1.24	0.65	0.3	5.6	A	1593	-	-	-	-	0.7	13.3	Z
2033	6.32	2.04	1.2	0.5	27.3	C	2074	-	-	-	-	36.2	Z	929	3.66	1.1	0.58	0.3	4.4	A	1706	-	-	-	-	-	4.9	Z
2103	6.44	1.83	1.05	0.46	21.5	C	2373	-	-	-	-	5.9	Z	930	-	1.06	0.5	0.32	3	A	1871	-	-	-	-	0.45	6.4	Z
2112	5.19	1.67	0.9	0.41	14.7	C	2376-1	-	-	-	-	5.4	Z	932	-	-	0.75	0.37	2.3	A	2528	-	-	1.1	0.44	6.3	Z	
2155	6.75	2.3	1.08	0.42	32.5	C	2378	-	-	-	-	24.5	Z	942	-	-	-	0.34	2.6	A	2704	-	-	-	-	-	2.6	Z
2155	6.65	2.03	0.8	0.46	26.6	C	2387	-	-	-	-	13.7	Z	1046	-	1.15	-	0.36	2.3	A	2738	-	-	-	-	-	1.1	Z
2191	6.4	1.74	0.98	0.55	17.9	C	2642	-	-	1.75	1.3	28	Z	1119	4.44	1.22	0.83	0.38	6.1	A	3021	-	-	0.92	0.5	12.1	Z	
2210	5.07	1.8	0.92	0.42	14.9	C	2769	-	-	-	0.7	14	Z	1446	-	-	-	0.24	2.7	A	3084	-	-	-	1.14	18.3	Z	
2223	5.22	1.54	1.02	0.38	13.9	C	2907	-	-	-	-	21.4	Z	1484	4.45	1.13	0.78	0.22	5.5	A	3167	-	-	-	-	-	1.8	Z
2325	5.08	1.58	1.0	0.4	13.1	C	2958	-	-	-	-	6.7	Z	1486	-	-	-	0.35	2.6	A								
2337-1	-	1.9	0.85	0.5	14.4	C	2960	-	-	-	0.95	41.2	Z	1490	4.67	1.04	0.7	0.33	4.9	A								
2337-2	5.57	1.6	0.92	0.38	14.7	C	2965	-	-	-	-	8.9	Z	1492	-	1.26	0.83	0.36	5.6	A								
2516	0.67	1.83	1.13	0.5	16.4	C	3023	-	-	-	-	1.4	Z	1633	4.35	1.5	0.64	0.3	9.2	A								
2555	5.12	1.82	0.88	0.38	17.0	C	3107	-	-	0.95	0.43	3.7	Z	1634	-	-	0.55	0.2	3.2	A								
2597	5.25	1.38	0.9	0.44	9.6	C	3138	-	-	-	-	24.8	Z	1731	4.4	1.15	0.73	0.32	5	A								
2606	6.94	2.03	0.74	0.5	23.3	C	3404	-	-	-	-	3	Z	1805	3.84	1.05	0.68	0.34	3.3	A								
2607	6.37	1.76	0.88	0.5	19.2	C	3414	-	-	-	-	11.2	Z	1812	2.78	0.85	0											

第6節 博労町遺跡出土の石器について

濱野 浩美

1. はじめに

博労町遺跡では、弥生時代終末期から近世末にいたる土器・陶磁器・石器等膨大な量の遺物が出土している。本節では、今回出土した石器類について従前の分類研究に基づいて組成分類を行い、その様相を述べるとともに、特に出土量の多かった砥石及び石錘について、若干の検討を試み、米子海浜砂丘域における石器出土傾向について考察してみたい。

2. 石器組成について

本遺跡から出土した石器類は、総数で497点を数える。その組成について、器種分類を行った（第1表）。なお分類に当たっては、明らかに玉類や鏃類の素材として持ち込まれたとみられる水晶、玉髄、黒曜石等の自然石を原石とし、その他の肉眼では使用痕が全く観察できない自然礫については、採集地から持ち込まれた可能性も当然考慮せねばならない処ではあるが、膨大な量にのぼるため今回は除外した。また、軽石については表面に明瞭に使用痕が認められるものについては砥石、浮子として分類を行ない、その他の肉眼では使用痕が認められないものについても原石素材として持ち込まれた可能性を考慮し、今回は原石の範疇に含め、カウントを行った。

第1表 出土石器組成表

	石鏃	楔形石器	二次加工剥片	剥片・剥離物	石核	原石	磨製石斧	打製石斧	石鏃	砥石	石錘	石錐	浮子	敲石	敲石・凹石	磨石・敲石	磨石	磨石・凹石	凹石	台石	総計
水晶				24	1	2															27
玉髄	1		1	58	4	1															65
石英				23		2															25
黒曜石	2	1	3	5	1						1										13
珪岩									5	1						1				3	10
珪質頁岩														1							1
頁岩					1				5												6
緑泥片岩							1														1
斑糲岩							3														3
玄武岩											1										1
結晶片岩									1												1
サヌカイト	4																				4
閃緑岩							7				2										9
花崗閃緑岩					1														1	1	3
花崗岩									22	2						1				2	27
角閃石安山岩										17				3	7	3	3				33
安山岩							1	2	1	15				1	1	4	2	1	1	1	30
デイサイト							1		5	21				7	9	10	5			4	62
砂岩							1		8	3											12
緑色凝灰岩				13																	13
凝灰岩							1		37	1											39
軽石						93			15				4								112
総計	7	1	4	123	8	98	15	2	1	98	63	1	4	12	1	22	15	9	2	11	497

出土石器の内訳は石鏃7点(1%)、楔形石器1点(0.1%以下)、二次加工剥片4点(0.1%)、剥片・剥離物123点(25%)、石核8点(1%)、磨製石斧15点(3%)、打製石斧2点(0.1%以下)、石鏃1点(0.1%以下)、砥石98点(20%)、石錘63点(13%)、石錐1点(0.1%以下)、浮子4点(0.1%)、敲石12点(0.2%)、敲石・凹石1点(0.1%以下)、磨石・敲石22点(4%)、磨石15点(3%)、磨石・凹石9点(0.2%)、凹石2点、台石11点(0.1%以下)、原石98点(20%)である。これらを概観してみると、剥片・剥離物、原石を除く定形的な器種の中で目立つのは、組成比率が10%を超える砥石98点と石錘63点で、この2種で全体の石器出土量の3割を占めている。

次に石器出土遺構との関連を時代ごとに見ると、古墳時代前期に帰属する1区SI04・06、2区SI03・04、4区SI14・SI16、5区SI04・08・14・16、古墳時代後期の5区SI01・09、奈良時代の2区SK09において出土しており、古墳時代前期の遺構から出土するものが主体的である。なかでも、古墳時代前期の大型竪穴住居跡である2区SI04からは、石錘4点、砥石3点、磨製石斧1点、敲石1点、磨石1点、台石1点と、本遺跡中最も石器が多く出土している。この遺構では、第1分冊 第四章において詳述しているように、ベッド状遺構部分に小石の集中区が検出されており、祭壇状の施設に置かれた祭祀具もしくは網具などの可能性が推測できる。出土した石錘4点とも重ね合わせると、この住居における生業との関連性が十分推測できよう。

この他の包含層中の出土石器については、堆積砂層に弥生時代終末期～平安時代の遺物が混在包含されている関係上、出土石器の時代別出土状況まで解明することは困難であった。以上のことも踏まえ、本遺跡における石器組成のみから安易に石器の出土傾向を決定づけることはできない。ただし、剥片・剥離物と石錘、砥石の出土量の多さは、本遺跡の性格の一側面を表すものと推測できる。

3. 石器石材について

本遺跡出土の石器石材については、剥片・剥離物を除くと、安山岩、角閃石安山岩、デイサイト等の安山岩類が全体の45%を占めている。

これらの石材産地については、目久美遺跡出土石器の石材産地の推定をされた山名 巖氏によれば、安山岩類は大山北西麓～海岸、花崗岩は日野川水系で産出されている(小原 1986)。また軽石は海岸浮遊物であり、いずれにしても近接する日野川や海岸が主な原石採集地であり、使用目的別に素材を選別し採集利用していたことが推測できよう。

剥片・剥離物の素材については、玉髓58点、水晶24点、緑色凝灰岩13点など、玉類の製作時に生じたとみられる石材が多い。今回出土した玉髓の剥片や石核については、一部に石器作成時の剥片も含まれるが、大半はある程度の厚さを持ち、小型で両極技法を使用していることから、玉作り工程における打割段階の途中品もしくは廃物であると考えられる。以上のことから、今回出土した水晶、玉髓の剥離物は玉作り関連の遺物と考えられよう。同じ砂丘上に立地する錦町第一遺跡では、少し時代は遡るが弥生時代前期とみられる玉作り工房跡が検出されている(平木 1996)。調査区周辺に古墳時代前期頃の玉作り工房跡が存在した可能性は非常に高いと考えられる。

なお、出土した水晶の原石は4cm前後の結晶を主体とし、煙水晶や紫水晶、透明度の非常に高いものなどが多く、玉作りに際して良質の石材を選別して持ち込んでいることが推測できる。水晶に関しては、遺跡地に近接する勝田山でも産出されていることから、近接地からの選別採集が推測されよう。

4. 砥石について

砥石は総数で98点と、本遺跡中最も出土量の多かった石器である。完形のもの少なく、残存重量のみでの分類については限界もあるが、残存形状から出来る限り原形復元すると、大きく100g以下の小型のものと500g前後の中型のもの、800g以上の礫素材をそのまま使用したものとに分けられる。まず、小型のものについては、仕上砥が殆どで、方形に切り出した素材を使用しており、切り出し時の工具痕が残るものもあることから、製品として持ち込まれたものと考えられる。中型のものについては荒砥、中砥、仕上砥のいずれもあり、形状も棒状の素材礫をそのまま利用しているものと、方形に加工されたものとの2種類が認められる。ただし仕上砥に関しては、中型のものについてもその殆どが方形に加工されたものであり、中には1区表採遺物（第1分冊第442図-63）のように非常に丁寧に加工され、上部に穿孔が施されたものもみられることから、製品として持ち込まれたものと考えられる。次に、800g以上のものについては基本的には大型の河原石をそのまま使用しており、側面などに素材面を残すものも多い。被熱しているものもあることから、台石的な使用方法が考えられる。

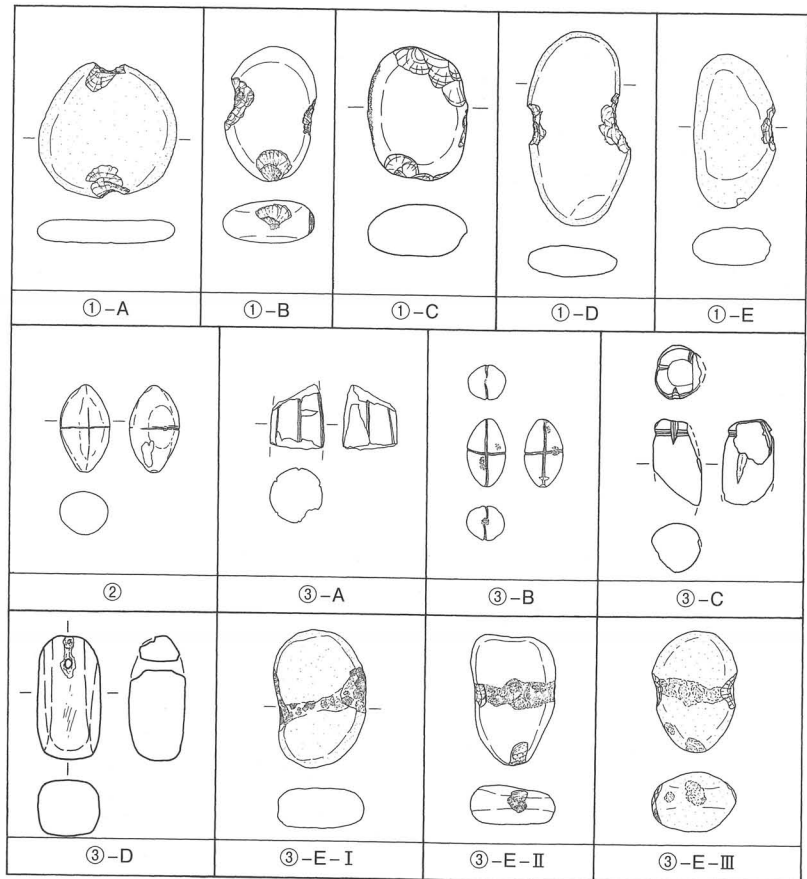
この他、軽石を砥石として使用しているものも目立つ。軽石砥石には表面全体に鋭利な擦痕が認められるものが主体的であるが、中には3区SI04-171（第1分冊第43図）のような円形の窪みが認められるものもあり、これについては棒状の金属等の端部を研磨したものなのか、もしくは何らかの未製品の可能性も考えられる。

特筆すべきは断面にU字状の溝が認められる砥石（第1分冊 第431図-239・第447図-18）である。素材が軟質であること、溝の形状から鉄製品を研磨する際に使用された砥石の可能性が示唆されている（註1）。また小型の仕上砥の中

に漆状の物質が付着したものが出土している（第1分冊第411図-150）。金属製品を加工する過程では、研磨時の最終工程段階で漆を塗布する（註2）。鍛冶関連遺構や遺物が出土している当該遺跡において、これらの砥石はその使用状況が窺えるものであり、奈良時代の官衙関連施設と思われる遺構の存在を裏付けるものと言えよう。

5. 石錘について

博労町遺跡では、砥石に次いで、総数63点と、非常に多くの石錘が出土している。鳥取県内出土の石錘については、従前の研究に基づいて坂本嘉和氏により分類が行われている。（坂本 2003）。これを基に、博労町遺跡出土の石錘につ



第1図 博労町遺跡出土石錘類型

いて若干の検討を加えてみたい。

形態分類（第1図）

従前の資料及び坂本分類を基準にし、以下に博労町遺跡出土の石錘について形態分類を行った。

① 打欠石錘

- A類 : 長軸の両端を打ち欠くもの
- B類 : 長軸一端と短軸両端の3箇所を打ち欠くもの
- C類 : 長軸と短軸の4箇所を打ち欠くもの
- D類 : 短軸の両端を打ち欠くもの
- E類 : 短軸一端のみを打ち欠くもの

② 切目石錘 : 長軸と短軸の4箇所に切込みを入れるもの

③ 有溝石錘

- A類 : 長軸のみに溝を施すもの
- B類 : 長軸と短軸両方に溝を施すもの
- C類 : 中央よりやや上半の短軸に溝1条を施しそれをつなぐ長軸方向の溝を有するもの
- D類 : 上部に穿孔と溝を施すもの
- E-I類 : 短軸に幅広の溝を1条施すもの
- E-II類 : 短軸に幅広の溝を1条施し、下端を打ち欠くもの
- E-III類 : 短軸に幅広の溝を1条施し、さらに短軸両端を打ち欠くもの

第2表 博労町遺跡出土石錘分類表

	①-A	①-B	①-C	①-D	①-E	②	③-A	③-B	③-C	③-D	③-E-I	③-E-II	③-E-III	総計
住居跡		1		5	1	1		1			2	1	2	14
溝状遺構	1	1		1										3
井戸							1							1
包含層	7	2	1	24	1				1	1	3		5	45
総計	8	4	1	30	2	1	1	1	1	1	5	1	7	63

これを基に、本遺跡出土の石錘を分類したものが第2表である。これによれば、①類の打欠石錘の出土比率が全体の71%と最も高い。中でも主体的なものは①-D類の扁平な楕円礫の短軸両端を打ち欠くもので、全体の48%と約5割を占めている。この両端の打ち欠き幅については、両端ほぼ同様の幅に挟りが入っているものが主体的であるが、中には一端の打ち欠き幅が大きく、他方は非常に幅が短く、挟りも非常に僅かで敲打痕のごときものもある。このような石錘については、断面が三角形を呈するものもあり、鑿のようなものや敲石等、石錘以外の用途に使用された可能性も考えられる。

②類の切目石錘については、県東部に見られる長軸両端に短い切り込みを入れるタイプは今回出土していない。僅かに1点のみの出土している切目石錘は、短軸長軸に細長い切り込みが入れられており、布勢第1遺跡出土のものに形状が酷似している（津川 1981）。

有溝石錘については、③-A類～D類のいわゆる九州型石錘の範疇に入るものが4点、③-E類の瀬戸内型石錘の範疇に入るものが13点と、E類が主体的である。特に③-E-I類では、大型で卵倒

形を呈し、上部近くの短軸方向に幅広の溝が掘り込まれるタイプが多くみられる。これらは有頭石錘の区分にも入るものでいわゆる中部型石錘とも呼ばれるものであろう、この他、③-E-Ⅲ類のような打欠石錘との折衷タイプのものなどの在地的なバリエーションも見られる。また、③-D類の有孔石錘については、1点のみの出土であるが、逆台形に面取りを施した後全体を研磨し、上部に穿孔と溝が穿たれた非常に精巧な作りのものである。

まとめ

県内における石錘出土遺跡は、その性格を考慮すれば当然ではあるが、低湿地と大型河川、潟湖周辺に集中している。特に西部では、目久美遺跡において縄文時代の石錘が500点以上出土している（小原 1986）。この他、低湿地に近接する陰田第1・7・9遺跡においても多量の石錘が出土している（坂本 2003）。今回の調査では、出土遺構から考えると、出土石錘の帰属時期は、目久美遺跡よりも時代が下る古墳時代前期が主体であると考えられる。本遺跡における石錘類の出土量の多さは、縄文時代以来続く米子海浜域における生業活動の一端を表すものと考えられる。

本遺跡の出土石錘の形態的傾向は、主体的に出土する打欠石錘と共に、北九州型や、瀬戸内型など他地域に特徴的な形態が混在しており、これは従前言われている鳥取県内出土石錘の出土傾向に追随するものである（坂本 2003）。ただし、今回出土した石錘には、切目石錘が出土していないこと、形態にイレギュラーなものが多く在地色が強いこと、石材採集段階である程度の選別が行われた上で加工が行われたことなどは、本遺跡の立地環境や性格を表すものと考えられる。

このうち最も特徴的なものは、打欠石錘である。打欠石錘は目久美遺跡においても多量に出土しているが、タイプの的には上下端を打ち欠く①-A類が主体である。これに対し、博労町遺跡では短軸両端を打ち欠く①-D類が主体である。①-D類については前項で他の用途の可能性も示唆したが、いずれにしても出土石錘全体の5割と突出した出土量である。これは即ち米子海浜部において、石錘の主体的形態が、弥生時代以前までの①-A類から、古墳時代前期には①-D類へと変化したことを表すものといえるのではなかろうか。

本遺跡は日野川下流域の海浜砂丘域に位置しており、中海、日本海に近接する立地状況にある。今回の調査において検出された土錘・石錘の出土量の多さは、当該遺跡において漁撈というものが、生業のなかで重要な位置を占めていたことを如実に裏付ける資料であると考えられる。ただし、イレギュラーなタイプや、一端の使用痕が僅かな石錘については、漁撈具としての使用のみにかかわらず、工具としての使用、また編み物用錘具などとして、様々な生業活動に使用された可能性も十分考慮していかねばならない（渡辺 1981）。

今回の調査では、それらを踏まえたうえで、米子海浜砂丘域での生業を研究していく上での一資料を提示できたものと思われる。今後、近接砂丘域での調査の増加により、更に米子平野下流域における当該期の様相が明らかになっていくことを期待したい。

なお、出土石器の石器・石材鑑定については鳥取県教育文化財団 高橋章司氏に御指導、御教示を頂いた。記して感謝いたします。

（註1）鳥根県埋蔵文化財調査センター 丹羽野 裕氏の御教示による。

（註2）出雲市文化財課 高橋 周氏の御教示による。

(引用・参考文献)

- 池野正男ほか 2002『石名田木舟遺跡発掘調査報告書』第1分冊古代以前編 (財)富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所
- 大野左千夫 1991「漁撈」『古墳時代の研究』4 生産と流通 I 雄山閣
- 坂本嘉和 2003「第6章 考察 第3節 鳥取県内出土の石錘について」『井岡地頭遺跡・井岡地中ソネ遺跡』(財)鳥取県教育文化財団・国土交通省倉吉工事事務所
- 津川ひとみ 1981「2 石器・石製品」『布施第1遺跡発掘調査報告書』(財)鳥取県教育文化財団
- 平木裕子 1996『錦町第一遺跡』(財)米子市教育文化財団
- 小原貴樹 1986「第V章 第2節 2. 石器・土製品・金属製品」『目久美遺跡』米子市教育委員会(加茂川改良工事関係埋蔵文化財発掘調査団) 鳥取県河川課
- 牧山直樹ほか 2010『寺家遺跡』発掘調査報告書 総括編 羽咋市教育委員会
- 森 隆 2003「古代北陸の河川漁業に関する若干の考察」『續文化財學論集』第二分冊 文化財學論集刊行会
- 和田晴吾 1985「土錘・石錘」『弥生文化の研究』5 道具と技術 I 雄山閣
- 渡辺 誠 1981「編み物用錘具としての自然石の研究」『名古屋大学文学部研究論集(史学)』27 名古屋大学

第7節 博労町遺跡出土鉄関連遺物の調査

佐伯 純也

1. はじめに

博労町遺跡から出土した鉄関連遺物は、鍛冶関連遺物廃棄土坑から出土したものと、包含層中から出土したものがある。これらの遺物については、穴澤義功氏による詳細な分類作業を経て、構成図並びに一覧表の作成の後に金属学的な分析資料の抽出と記録作成までを行い、ある程度までは概要を把握することができた。

なお、調査の方法とその手順については、鳥取県教育文化財団の坂本嘉和氏の指導と、2005『鉄関連遺物の分析評価に関する研究会報告』(社)日本鉄鋼協会社会鉄鋼工学部会並びに2009『坂長第6遺跡』鳥取県教育文化財団、等の文献を参照した。

2. 遺物観察表の見方

本書90頁から106頁にかけて掲載した鉄関連遺物観察表と分析資料詳細観察表は、坂長第6遺跡の鉄関連遺物の考古学的調査で用いられた記録様式を踏襲している。主な記録項目の見方は、以下のとおりである。

- ① 遺物種類 金属学的な分析を行う前に、考古学的な観察によって判定された遺物の種である。
- ② 法 量 各遺物の長さ、幅、厚さ(各単位ともmm)、重量(単位g)を計測したものである。
- ③ 磁 着 度 製鉄関連遺物分類用の「標準磁石」(TOKINフェライト磁石SR-3 寸法30×17×5mm)を用いて、6mmを1単位として資料の反応の程度を数字で表現したものである。
- ④ 遺 存 度 資料が完形か破片かを示す。
- ⑤ 破 面 数 資料が破片の場合、破面がいくつあるのかを示す。
- ⑥ メタル度 埋蔵文化財専用を整準された小型特殊金属探知機によって判定された金属鉄の残留の程度を示すもので、基準感度は次のとおりである。
なし：磁着反応がなく、金属鉄が全く含まれていないことを示す。
銹化(△)：磁着反応があるが、感度Hでも反応しない酸化物で、金属鉄が残留しないことを示す。
H(○)：Hは最高感度で、ごく小さな金属鉄(1~2.5mm)が残留することを示す。
M(◎)：Mは最高感度で、Hの倍以上の金属鉄(4~5mm)が残留することを示す。
L(●)：Lは低感度でMの倍以上の金属鉄(10~12mm)が残留することを示す。
特L(☆)：特Lは極低感度で、Lの倍以上の金属鉄(20mm以上)が残留することを示す。
- ⑦ 分 析 どの分析を、どの部分について行うのかを○印で示す。
- ⑧ 所 見 外見や破面、断面の状況、木炭痕や気孔の有無、および付着物やその他の状況について示す。
- ⑨ 分析部位 資料の、どのような部分をどのような目的で調査、分析するかを示す。なお、観察表下の実測図の矢印で囲んだ部分は、分析に供した資料の採取位置を示す。
- ⑩ 備 考 資料がどのような場所で、どのように生成されたと予想されるか、などについて記している。

包含層グリッド一括 (1~5区)

炉壁 (鍛冶炉、滓付き)	羽口(鍛冶) 先端部~体部	椭圆形冶滓 (中・含鉄)	椭圆形冶滓 (小)	椭圆形冶滓 (小・含鉄)	椭圆形冶滓 (極小)	椭圆形冶滓 (極小) 炉床仕上げ	椭圆形冶滓 (極小・含鉄) 鉄製品・鋳造品付き	
52	56	64	68	72	75	79	84	94
53	57	65	69	73	76	80	85	90
54	58	66	70	74	77	81	86	91
55	59	67	71	78	82	83	88	93
分析	※分析資料No. 5 (分析資料No. 5、No. 6)	※分析資料No. 6 2 (分析資料No. 5、No. 6)	※分析資料No. 7 1 (分析資料No. 7)					

第2図 博労町遺跡 鉄関連遺物構成図(2)

3. 遺物の概要

3区において検出した鍛冶関連遺物廃棄土坑については、すでに本書（第1分冊第IV章180頁）で概要を報告した。

なお、遺物の年代としては、鍛冶関連遺物廃棄土坑は、出土遺物から平安時代前期頃と想定しているが、それ以外の包含層出土遺物に関しては、博労町遺跡の年代観から、前記の廃棄土坑と同じく、全て9世紀代に納まるものと仮定した。

各遺物の出土地点を見ると、鍛冶関連遺物廃棄土坑が見つかった3区と、製錬系の遺物が多く見つかった5区に集中する傾向があり、本来はこれらの遺構に伴うものであった可能性が高い。しかしながら、どちらも鍛冶炉や製鉄炉などの直接的な遺構を確認することが出来なかったため、博労町遺跡で行われた製鉄、鍛冶作業の操業内容まで考察できる資料ではない。しかしながら、検出された鉄関連遺物の点数は比較的多く、そこで行われた鍛冶作業の一端と、製作、あるいは使用された鉄製品の内容は把握できたものとする。以下にその概要を記す。

鍛冶関連遺物廃棄土坑(第4・5図)

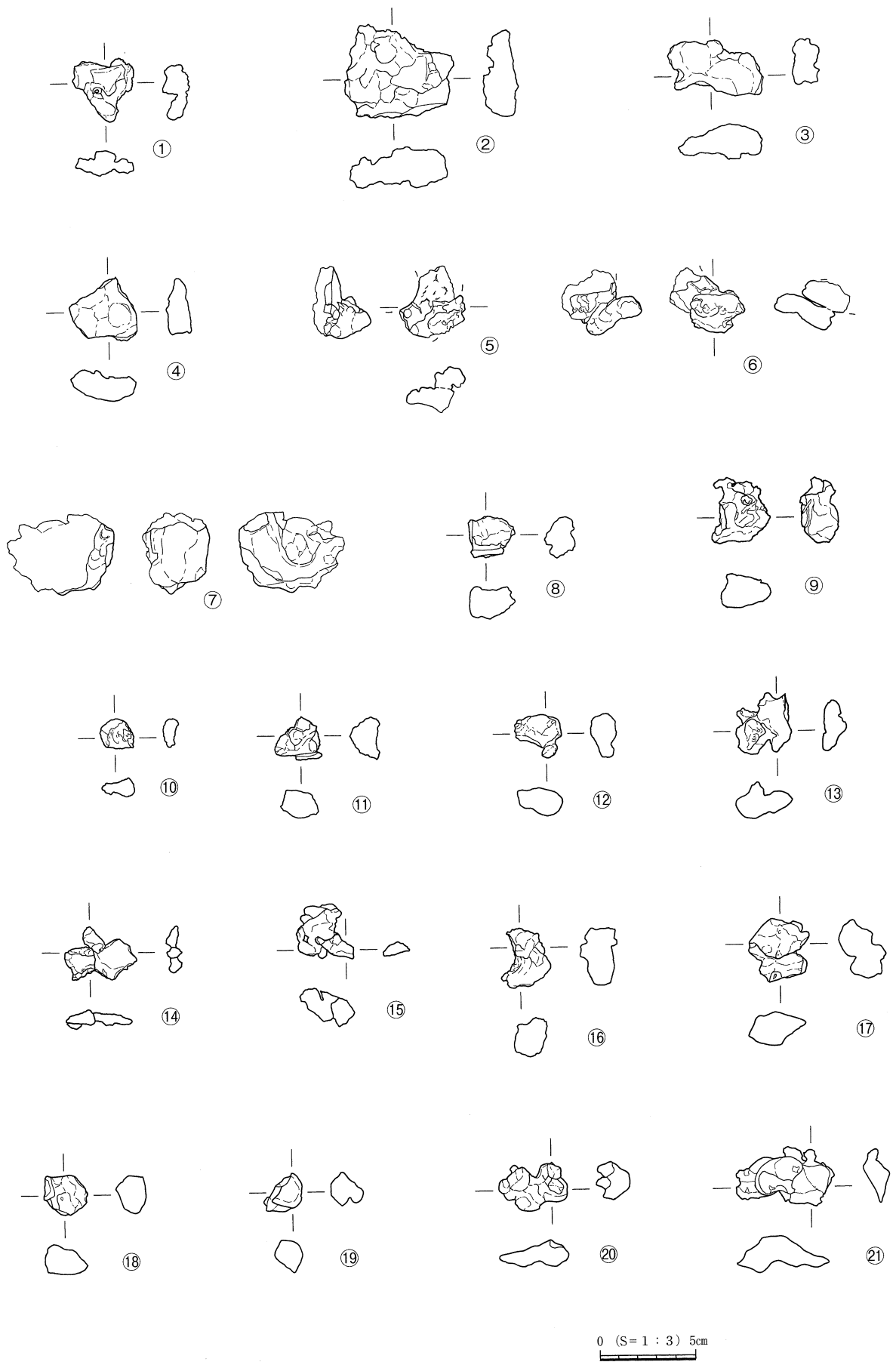
鍛冶関連遺物を一括して廃棄した土坑から出土した遺物は、炉壁、羽口、椀形鍛冶滓、粘土質溶解物、粒状滓、鍛造剥片、再結合滓、鉄塊系遺物、鉄製品である。微細な遺物については、廃棄土坑の内部と周辺の土砂をサンプリングし、篩を用いて選別作業を行い、鍛造剥片を多量に検出した。一方、粒状滓については、検出された点数が極めて少なく、鍛造剥片の出土量とは比較にならないほどの差が見られた。鉄製品は、刀子が多く確認されるが、器種不明の棒状品や釘、絞具も見られる。また、小形の鉄片も多く含まれており、鍛冶素材と考えられる。大型の鍛冶遺物は含まれず、小形品が主体であることと、鍛造剥片が多く含まれていることから、操業中に生じた廃棄物を投棄した土坑と考えられる。

包含層出土鉄関連遺物(第6図～第11図)

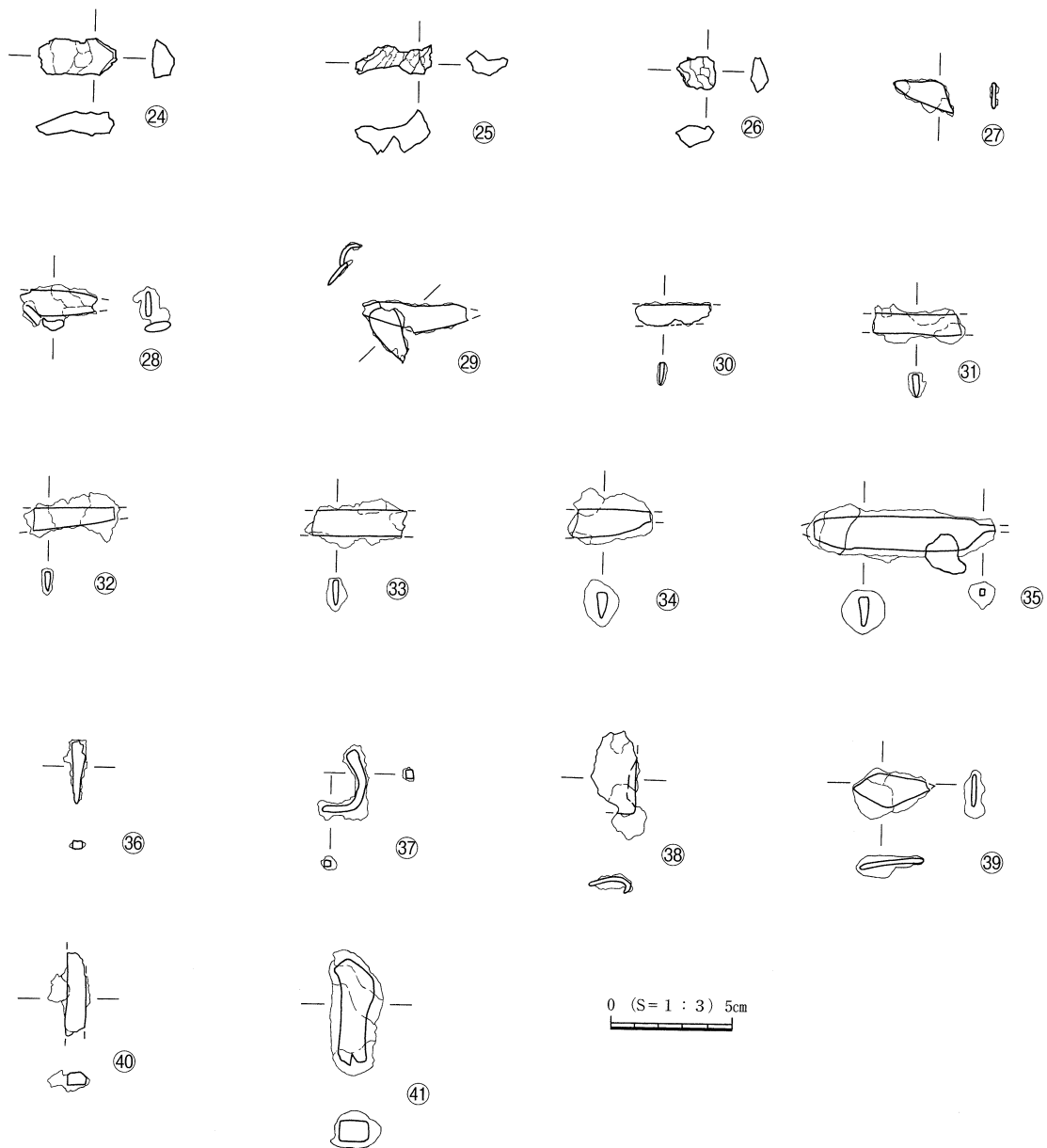
包含層から出土した遺物には、鉄製品のほか、鍛冶関連の遺物と製鉄関連の遺物が見られた。叩石や砥石、鉄床石などの石製品に関しては、全てが鉄関連遺物とは見なせないことや、年代的な裏付けがとれないことから、鉄関連遺物からは除外した。

製鉄関連の遺物は、流出溝滓と流動滓が主体で、1点のみ製錬炉に伴う炉壁片が確認された。42が、製錬炉の炉壁片である。この他の製錬系遺物は、43から47が流出溝滓、48から53が流動滓である。この中で分析資料として抽出した47は、長径11.5cm、重さ715.9gの流出溝滓である。底部に礫岩を噛み込んでおり、炉の設置場所が礫岩の存在する場所であったことを窺わせる。また、金属学的な分析の結果、滓部の鉍物組成から89の椀形鍛冶滓とされた資料が、製鉄系の含鉄製錬滓であることが推測されたが、こうした製錬系の遺物は、鉄関連遺物の中では少数例に止まる。こうしたことから、本調査地点はこれらの遺物を生産した製鉄炉から、やや離れた位置にあるものと推察される。

鍛冶関連の遺物は、炉壁、鞆の羽口、椀形鍛冶滓、鍛冶滓、粘土質溶解物、鍛冶の鉄製品が出土している。54から58は炉壁で、いずれも小破片となっており、鍛冶炉の全形を窺える資料は少ないが、57は羽口右脇の表面の破片と推測される。59、60は鞆の羽口先端部である。60は残存長7.8cmを測る。先端部に付着するガラス質滓の鉍物組成から、鍛冶原料鉄の加熱に使用されたものと推測されている。



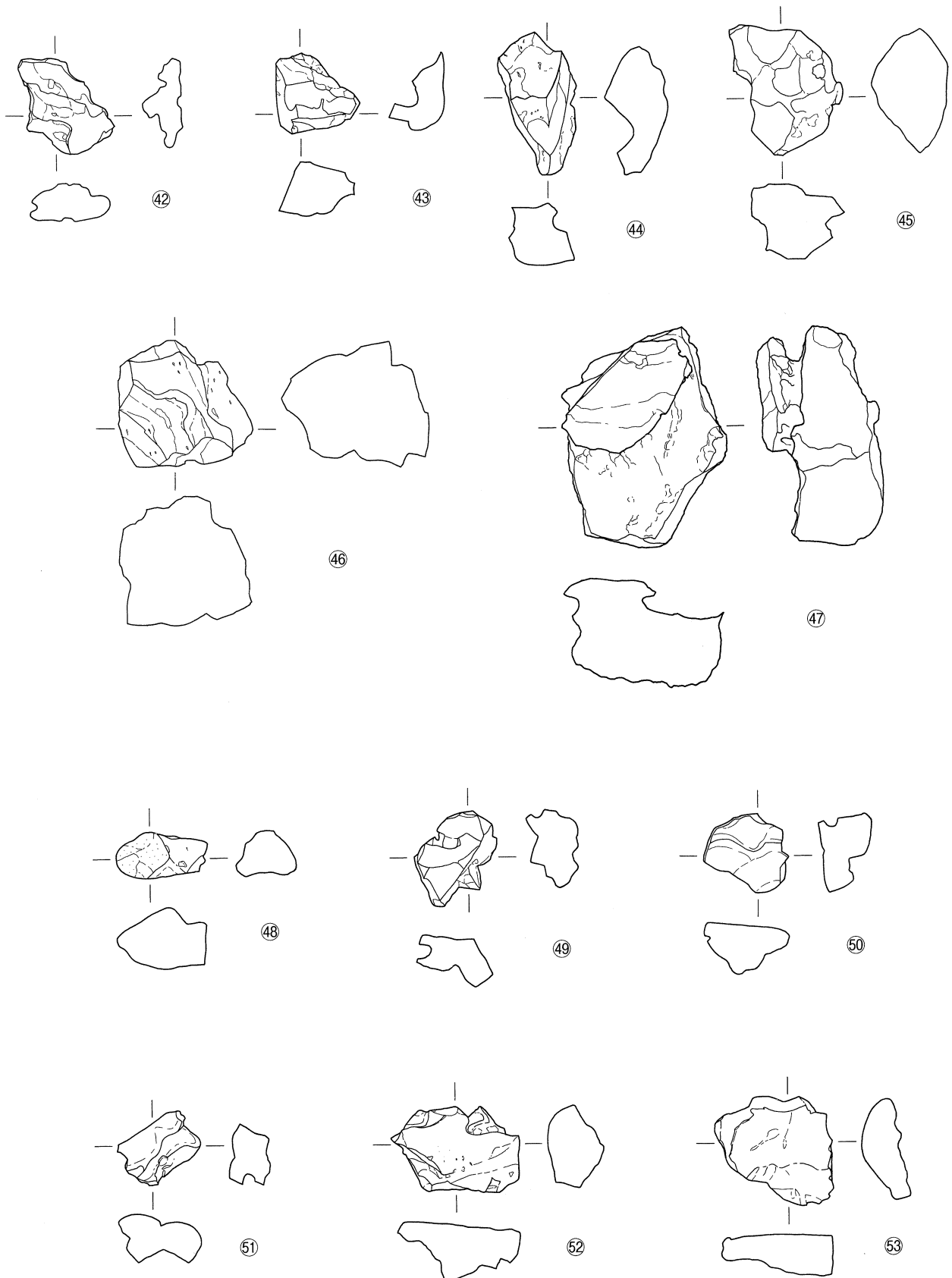
第4図 鍛冶関連遺物廃棄土坑出土遺物(1)



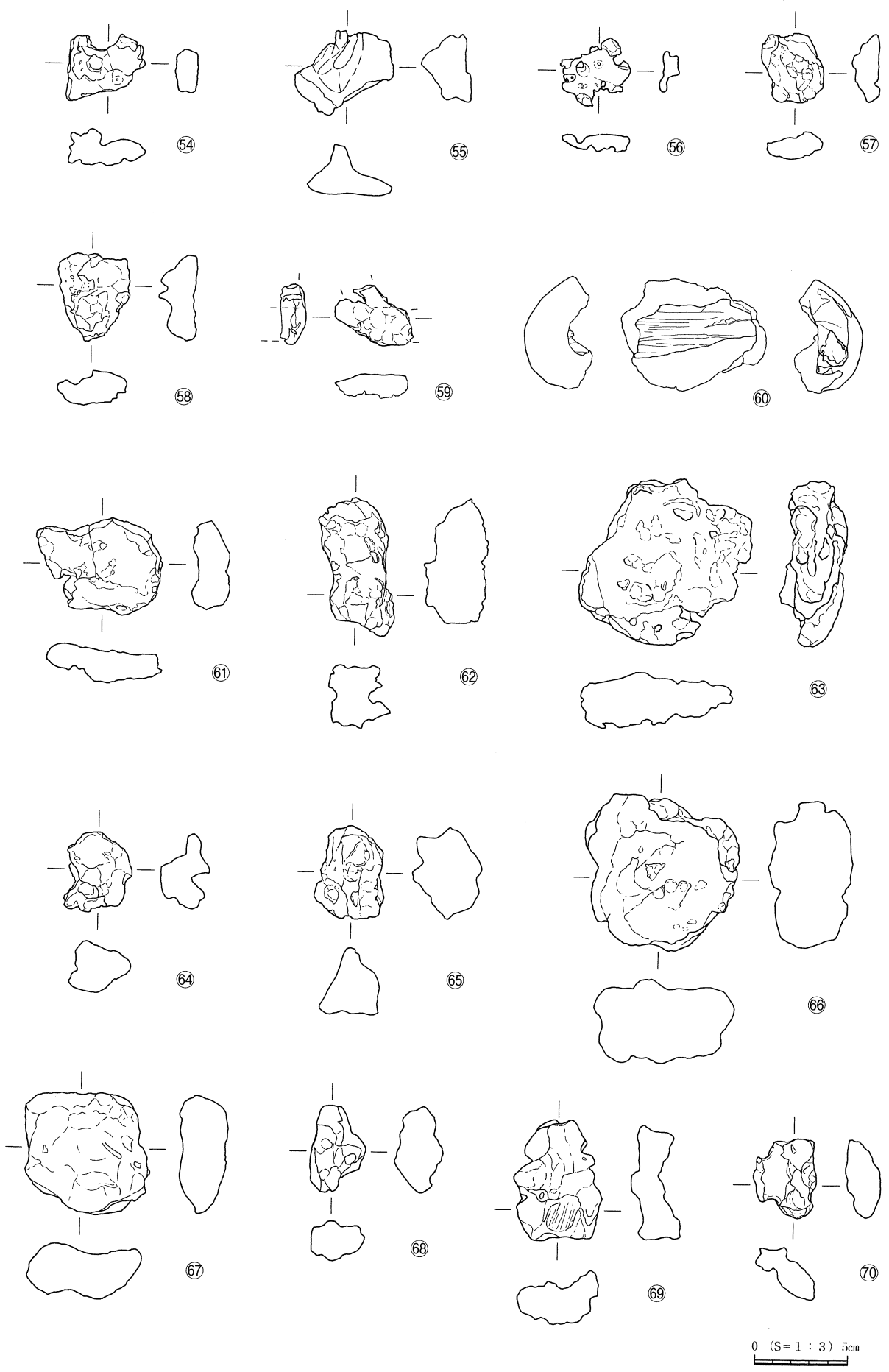
第5図 鍛冶関連遺物廃棄土坑出土遺物(2)

61から99は、椀形鍛冶滓である。椀形鍛冶滓は、中から極小まで確認されているが、全体的には小から極小が主体となる。出土傾向は、鍛冶関連遺物廃棄土坑の存在する3区からの出土が目立ち、それに5区が続く。100から104は、いずれも鍛冶作業に伴って生成された鍛冶滓である。105から109は粘土質溶解物である。3区からの出土が多く見られ、サイズも中・小形のもものが主体である。110は、被熱のために滓化した土器片である。

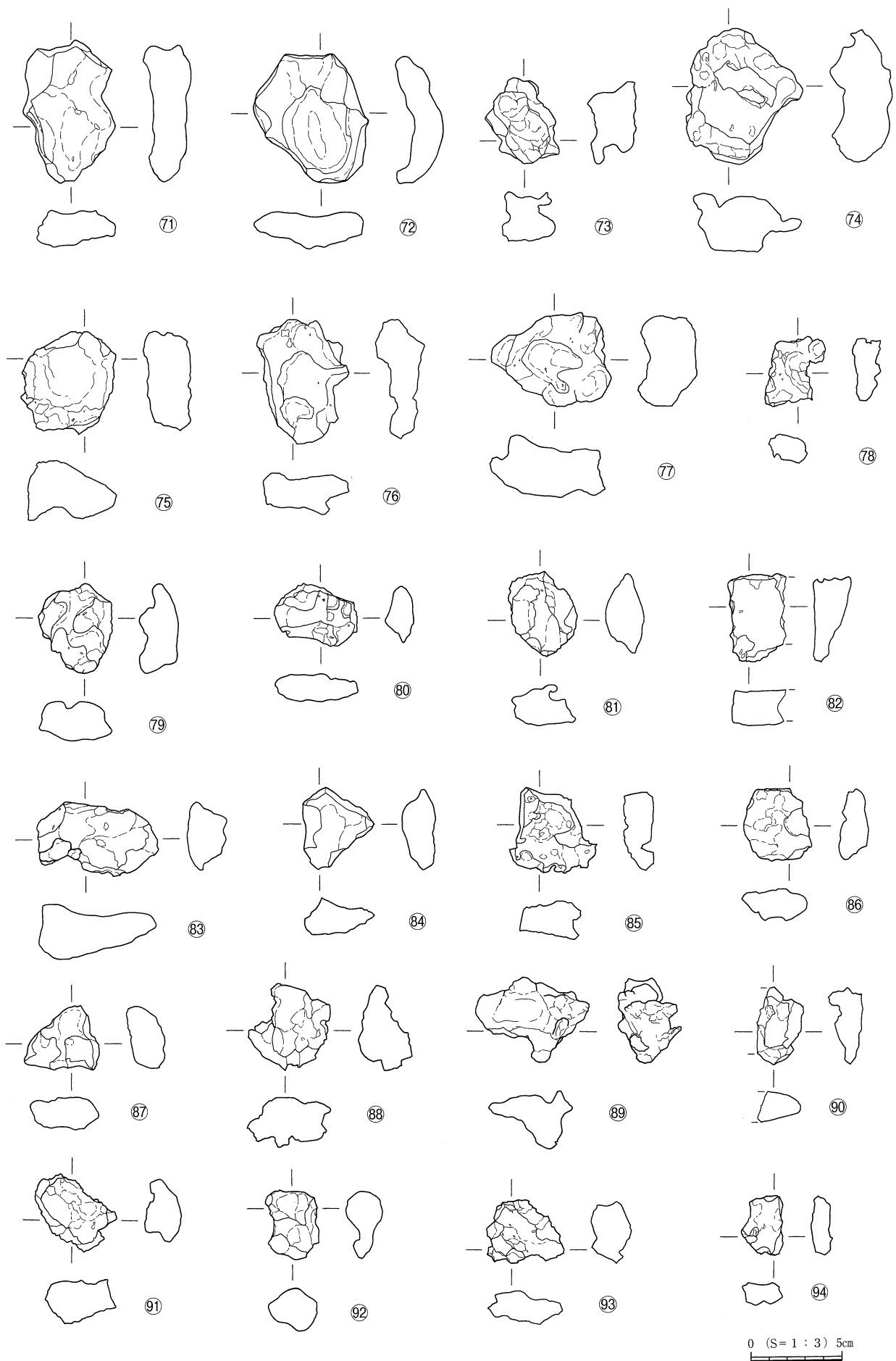
鉄製品は、鉄鏃、刀子、釘、鋸など小形品を中心に多数出土したほか、鎌や鉄製紡錘車、火打金なども見られる。鉄鏃は、111のような有孔の無茎鏃や、112、113のような短茎鏃も出土しているが、多くは119に類似する長頸鏃である。刀子は小形品が多く、研ぎ減りによって、原型をとどめていないものもある。132は、鉄製紡錘車の破片と見られる。133から136は、全て破片であるが、形状から鎌と推測される。137、138は絞具である。137は遺存状態が悪いが、138は完存しており、筒状を呈する形状が読み取れる。



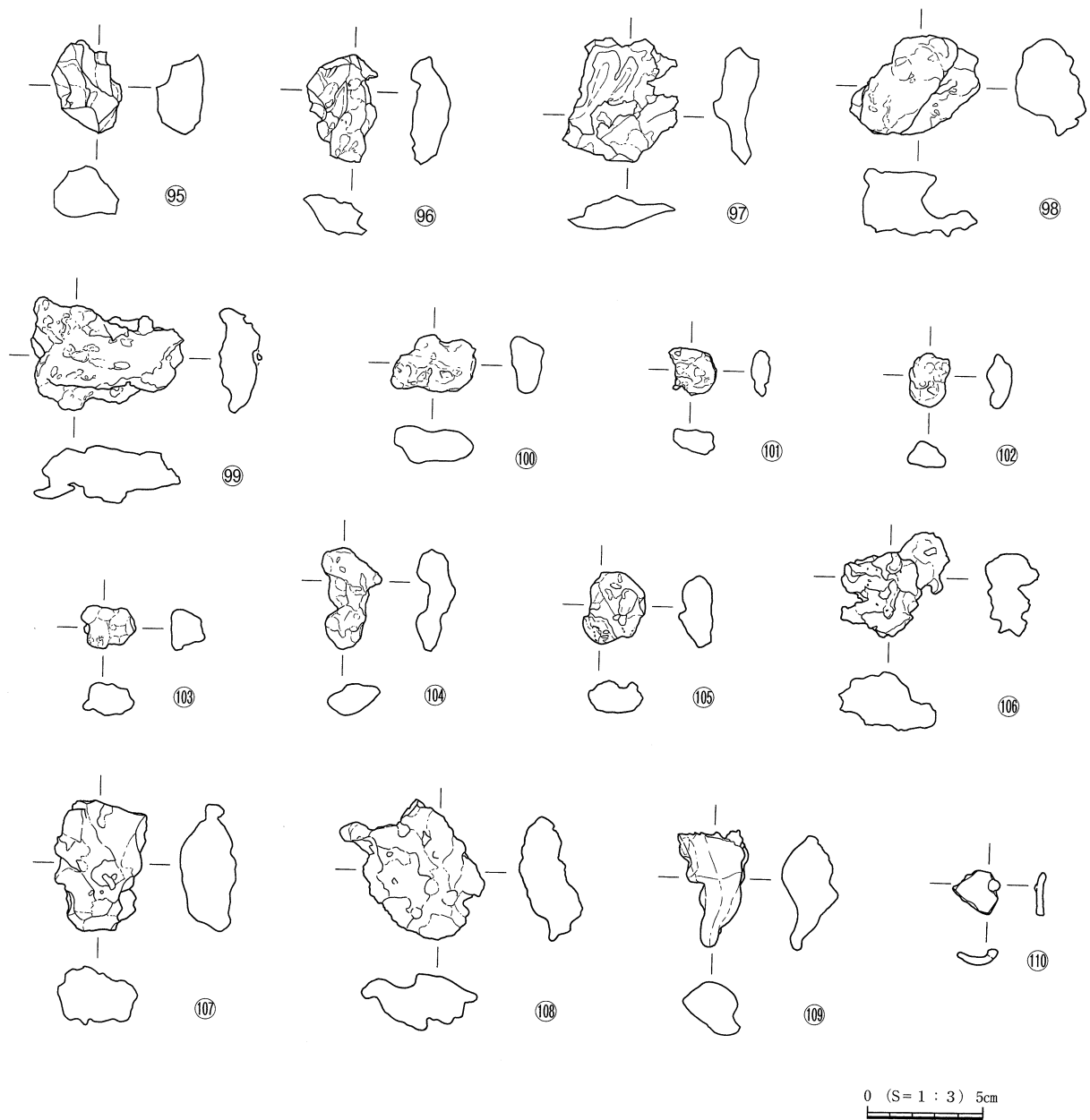
第6図 包含層出土鉄関連遺物(1)



第7図 包含層出土鉄関連遺物(2)

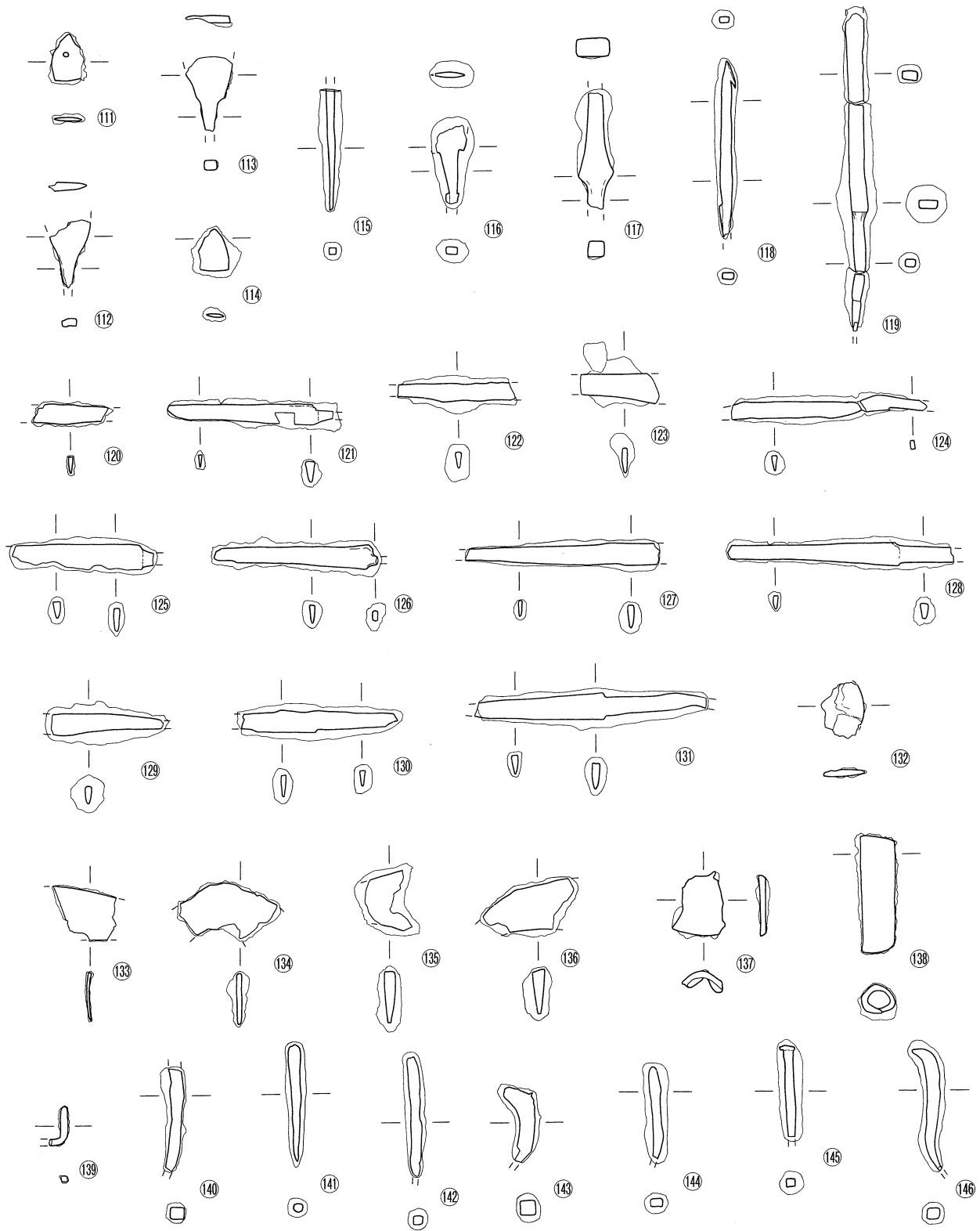


第8図 包含層出土鉄関連遺物(3)

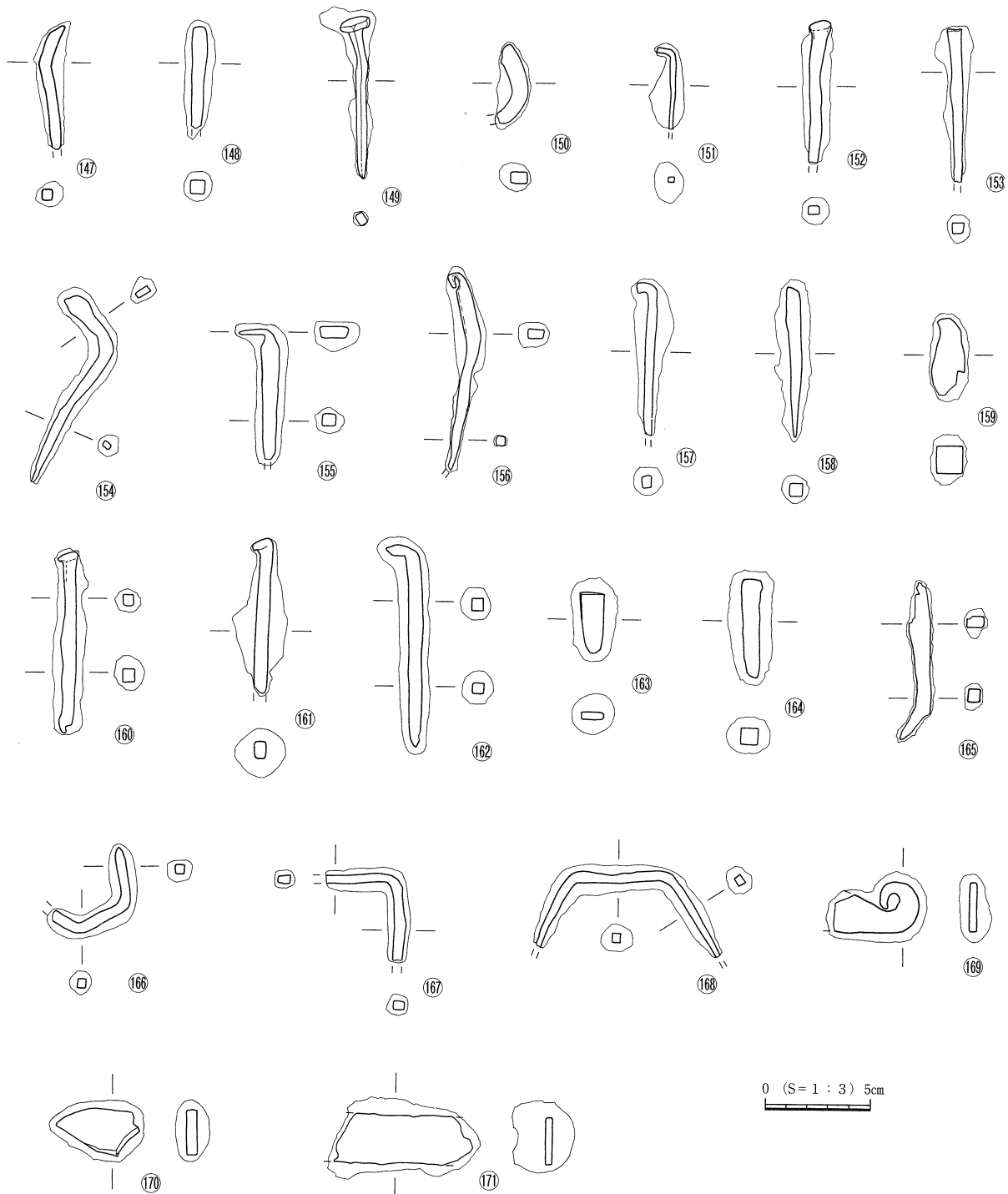


第9図 包含層出土鉄関連遺物(4)

139から162は釘である。頭部を折り返すものが多いが、再利用するために抜き取られたためか、全体に折れた釘が多く、原形を保つ資料が少ない。なお、釘に関しては3区からの出土が目立つが、この地点では建物跡が確認されておらず、建物に直接関連する釘ではない可能性も考えられる。あるいは、この地区で確認された鍛冶関連遺物廃棄土坑との関連が窺われる。163、164は楔状の鉄製品である。164は断面四角形で釘に類似する。165は、端部が篋状に屈曲する棒状の不明品である。鉄鉗や火掻き棒に類似しており、鍛冶具の可能性が考えられる。166は、釘状の鉄製品を折り曲げたものと考えられるが両端部とも欠損しており、性格は不明である。167、168は鏝と見られる、屈曲した棒状鉄製品で、どちらも断面形は角型をなす。169は、火打金の破片と見られ、透過X線像では、端部が蕨手状に成形されている。170は、表面を厚い酸化土砂で覆われているが、銅合金系の金属製品の可能性を持つ。171は、短軸側の両側部が折り返された薄板状の鉄製品で、飾金具と考えられる。



第10図 包含層出土鉄関連遺物(5)



第11図 包含層出土鉄関連遺物(6)

表1 博労町遺跡鉄関連遺物観察表(1)

構成番号	遺物名	地区名	グリッド・遺構名 層位名	遺物番号	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
1	炉壁 (鍛冶炉)	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		3.2	3.3	1.4	7.7	3	なし	内面が黒色ガラス質に溶化した炉壁小破片。側部から外面は破面となる。胎土中の石粒が目立って露出する。
2	炉壁 (鍛冶炉) 粘土質溶解物付き	3	鉄関連遺物廃棄土坑 K-4		5.6	4.9	2.1	36.7	3	なし	内面のガラス質溶化が激しい炉壁破片。内面には胎土中の半溶解の石粒や羽口先の破片に加えて、薄皮状の滓が混在する形で広がる。側部3面と外面が破面。右側部は粘土質の垂れからなる。
3	炉壁 (鍛冶炉) 滓付き	3	鉄関連遺物廃棄土坑 焼土層		4.9	2.9	1.9	20.0	3	なし	表層が流動気味の滓に覆われた炉壁内面破片。滓部分は垂れが生じ、半溶解状態。裏面寄りの炉壁土の側部から外面は破面となる。滓部はやや磁着が強め。
4	羽口 (鍛冶) 先端部	3	鉄関連遺物廃棄土坑 L-2		3.5	3.3	1.4	13.5	4	錆化(△)	鍛冶羽口の先端部小破片。通風孔部は欠落して先端は黒色の滓に覆われる。肩部に羽口片由来の粘土質の滓が固着する。
5	羽口 (鍛冶) 先端部 粘土質溶解物付き	3	鉄関連遺物廃棄土坑 I-2		2.9	3.8	1.3	12.6	2	なし	鍛冶羽口の先端部小破片。被熱の弱い通風孔部壁面の一部が残り、肩部には鍛冶炉の炉壁小破片が固着する。羽口は細身で溶損は弱い。
6	羽口 (鍛冶) 先端部 粘土質溶解物付き	3	鉄関連遺物廃棄土坑 焼土層		4.2	3.5	1.4	20.3	3	なし	頸部に粘土質の強い滓が板状に固着する羽口先端部小破片。正面から見ると先端部左下の破片にあたる。通風孔部は欠落する。頸部の滓は、桃形鍛冶滓の端部に相当する。
7	羽口 (鍛冶) 先端部	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		3.5	4.3	2.2	51.8	3	なし	先端部から肩部にかけてが激しく溶化している羽口先端部破片。肩部以下が欠落のため外観的には炉壁様に見える。通風孔部は欠落し、胎土の練りが非常に雑。頸部に分厚い粘土質の滓が形成されたもので、肩部の窪みには鍛造剥片が固着する。
8	桃形鍛冶滓 (極小、含鉄)	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		2.5	2.2	1.7	8.7	2	錆化(△)	側部2方が欠けた極小の桃形鍛冶滓の肩部小破片。最大厚みは1.7cm程で、下手側が本体部側となる。含鉄部は上面右寄りの盛り上がった部分。
9	桃形鍛冶滓 (極小、含鉄)	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		3.0	3.5	2.0	19.1	3	錆化(△)	分析資料№1 分析資料詳細観察表参照。
10	鍛冶滓 (含鉄)	3	鉄関連遺物廃棄土坑 I-4		1.8	1.6	1.0	2.3	3	錆化(△)	鍛造剥片を含む再結合面に覆われた、やや扁平な鍛冶滓小破片。側部3方と下面の下手側が破面となる。鍛造剥片は表裏面とも光沢をもつ薄手主体。
11	鍛冶滓 (含鉄)	3	鉄関連遺物廃棄土坑 J-5		2.5	2.3	1.6	7.2	3	錆化(△)	側部3面が破面となった鍛冶滓、または桃形鍛冶滓破片。下手側の側部は木炭痕の残る自然面で、滓全体の流動性は低い。側部の窪みには粉炭や鍛造剥片を混じえる酸化土砂が付着する。磁着は全体が反応気味。
12	粘土質溶解物	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		2.5	2.3	1.5	4.3	2	なし	表面が灰褐色や黒褐色に溶化した粘土質溶解物。左側部が破面で、下手側には小塊状の粘土質溶解物が固着する。
13	粘土質溶解物	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		3.2	2.8	2.0	10.9	2	なし	表皮が黒色ガラス化した粘土質溶解物。下手側に向か垂れが伸びている。右上方のみが破面で、裏面は鍛冶滓様の剥離面となっている。
14	粘土質溶解物 金床石破片付き	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		3.8	2.8	0.9	5.2	2	なし	右側に金床石の表面破片様の剥片を巻き込んでいる粘土質溶解物。表面は黒色ガラス質で、裏面はくすんだ暗紫紅色。左半分は炉壁表面から剥離した3単位の粘土質溶解物破片からなる。
15	粘土質溶解物 (修製品、鍛造品付き)	3	鉄関連遺物廃棄土坑 焼土層		3.0	2.9	2.1	8.8	3	錆化(△)	右下手側の側部に斜め上下方向に伸びる再結合面に覆われた鉄片を固着する粘土質溶解物。再結合部には薄手の鍛造剥片が多量に含まれている。粘土質溶解物は小単位の破片が10片以上結合していたもので、表面は凹凸が激しい。また側面の一部と裏面が破面に似る。
16	粘土質溶解物 (含鉄)	3	鉄関連遺物廃棄土坑 焼土層		2.6	3.1	2.0	12.4	3	錆化(△)	表面がくすんだ濃茶褐色のガラス質滓に覆われた、含鉄の粘土質溶解物。不整勾玉状で、含鉄部は下手側の芯部か。破面は上手側端部のごく小範囲。
17	粘土質溶解物 (含鉄)	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		3.1	3.3	2.5	16.0	3	錆化(△)	不整楕円形の粘土質溶解物が2個連なった資料。上手側は羽口片由来の可能性があり、下手側は小単位の粘土質溶解物が一体化したものである。上面表皮は流動状の滓に覆われ、裏面はもとの素材の色調を反映する。含鉄部は下手側やや左。
18	鍛冶滓 (含鉄) 粘土質溶解物付き	3	鉄関連遺物廃棄土坑 K-4		2.2	2.1	1.6	6.9	3	錆化(△)	扁平な小塊状となった鍛冶滓。左側が木炭痕により途切れており、右側は丸みを持つ。側部から垂直に垂れが生じ、下面右側が炉床土に接したためか、砂粒が面的に広がる。右寄りの芯部と含鉄部あり。
19	鍛冶滓 (含鉄) 粘土質溶解物	3	鉄関連遺物廃棄土坑 L-3		2.0	2.0	1.7	5.0	3	錆化(△)	羽口片様の小片が半溶解となったような外観を持つ鍛冶滓。上下2単位からなり、左側部から見ると中間層に隙間あり。含鉄部は下半から中間層の部分か。
20	粘土質溶解物 (鍛冶滓付き)	3	鉄関連遺物廃棄土坑 K-4		3.6	2.6	1.8	8.5	2	なし	下半が鍛冶滓化した粘土質溶解物。上半部には小塊状の羽口片とみられる1cm大以下の塊が連続的に盛り上がっている。下面の滓は粉炭痕に覆われ、水平方向に形成された可能性が大。
21	粘土質溶解物 (鍛冶滓付き)	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		5.0	3.1	1.9	15.4	2	なし	前者を一回り大きくしたような鍛冶滓様の粘土質溶解物。全体に横方向に延びる扁平塊状で、左上半部が粘土質溶解物。右側の突出部はやや桃形をなす鍛冶滓部分となる。
22	粒状滓	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層						1	なし	分析資料№2 分析資料詳細観察表並びに別表参照。
23	鍛造剥片	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層						1	なし	分析資料№3 分析資料詳細観察表並びに別表参照。
24	再結合滓 (含鉄)	3	鉄関連遺物廃棄土坑 I-4		3.3	1.6	1.0	5.2	3	錆化(△)	厚さ9mm以下の扁平な再結合滓破片。側部は全面破面で、下面は剥離面、または破面とみられる。上面は押しつぶされたような平坦面。破面には粉炭や薄手の鍛造剥片が点々と露出する。磁着が全体に強いのは鍛造剥片の多さを示す。
25	再結合滓 (含鉄)	3	鉄関連遺物廃棄土坑 焼土層		3.1	1.2	1.9	4.5	3	錆化(△)	小塊状の2片が接合したような、やや異形の再結合滓破片。側面から下面は全面破面で、比較的大ぶりの粉炭や鍛造剥片が目立っている。磁着も強めで鍛造剥片の多さを物語る。
26	鉄塊系遺物 (含鉄)	3	鉄関連遺物廃棄土坑 J-5		1.5	1.4	0.9	1.4	2	錆化(△)	扁平な再結合滓様の鉄塊系遺物。表面は鍛造剥片を含む再結合滓に覆われており、左側部を中心に貝殻状の錯ぶくれが発達する。

表2 博労町遺跡鉄関連遺物観察表(2)

構成番号	遺物名	地区名	グリッド・遺構名 層位名	遺物番号	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
27	鉄製品 (鍛造品) 鉄片 (未製品?)	3	鉄関連遺物廃棄土坑 J-4		2.5	1.1	0.2	1.8	4	錆化(△)	平面形が不等辺三角形をした鉄製品。表面は酸化土砂や錆ぶくれに覆われている。透過X線像を見ると、鍛造による筋目が確認され、右側が斜めに断ち落とされているような印象を受ける。切り屑の可能性もあり。(三角形鉄片)
28	鉄製品 (鍛造品) 鉄片 (未製品?)	3	鉄関連遺物廃棄土坑 焼土層		3.2	1.1	0.2	5.2	4	錆化(△)	粉炭や鍛造剥片を含む再結合滓に覆われた鉄片。下面下手面には被熱した石が固着する。左右方向に長手の扁平な鉄製品で、右側の端部が不自然に途切れている。鍛造痕の筋目が確認されるが、部分的にうねりが残っており、未製品、または作りの雑な鍛造品か。
29	鉄製品 (鍛造品) 鉄片 (未製品?)	3	鉄関連遺物廃棄土坑 焼土層		4.4	1.3	0.2	5.3	5	錆化(△)	刀子片様の扁平な鉄製品が2枚重層した資料。幅は1.2cmと1.4cmを測る鉄片の重層で、下手側の鉄片は水平方向にうねりを生じている。透過X線像を見ると、鍛造による筋目が雑な鉄製品で、切り屑または未製品かもしれない。
30	鉄製品 (鍛造品) 刀子?	3	鉄関連遺物廃棄土坑 J-5		3.1	0.9	0.2	1.8	5	錆化(△)	最大幅が9mmを測る薄板状の鉄製品。左側部は明瞭な破面で、刀子の刃部様の破面が露出する。透過X線像を見ると両端部とも破面になっており、形態的には刀子の可能性が大。
31	鉄製品 (鍛造品) 刀子	3	鉄関連遺物廃棄土坑 K-4		3.8	0.9	0.3	5.8	6	H(○)	幅1.2cm前後を測る薄板状の鉄製品。左側部は明らかな破面で、刀子破片の可能性が大。透過X線像によれば、右側の端部も破面になっており、左右で割れ方が異なっている。鍛造剥片は薄く、背側と見られる上手側の側部は、やや錆化が進む。表面には粉炭を含む酸化土砂が多めに固着する。
32	鉄製品 (鍛造品) 刀子	3	鉄関連遺物廃棄土坑 J-4		3.5	1.0	0.2	5.9	5	錆化(△)	前者と全体観がよく似た、扁平な薄板状の鉄製品。表面は鍛造剥片や粉炭を多量に含む再結合滓に覆われている。透過X線像を見ると、左側が不自然に途切れており、右方向は徐々に細くなって生きているように見える。刀子の刃先側または基部であろうか。鍛造による筋目は比較的整っている。
33	鉄製品 (鍛造品) 刀子?	3	鉄関連遺物廃棄土坑 J-4		4.3	1.1	0.2	8.2	6	錆化(△)	扁平な薄板上の鉄製品破片。表面は多量の鍛造剥片や粉炭を含む再結合滓に覆われており、右上手側の肩部には錆ぶくれが発達する。透過X線像を見ると本資料も刀子と考えられ、両端部が小破面となる。鍛造による筋目の一部に乱れあり。
34	鉄製品 (鍛造品) 刀子?	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		3.3	1.2	0.4	12.5	6	H(○)	外観が小塊状の鍛冶滓様となる鉄製品破片。表面は粉炭を多量に含む再結合滓で、部分的に鍛造剥片が目立つ。透過X線像には、右側が破面となった刀子破片が確認される。鍛造痕がやや乱れており、未製品かもしれない。左方向に向かい、徐々に狭まって終末する。
35	鉄製品 (鍛造品) 刀子?	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		7.6	1.4	0.4	33.3	2	錆化(△)	分厚い酸化土砂に覆われた鉄製品。酸化土砂の主体は砂粒で、黒色の鍛造剥片も一定量含まれている。右側部が小さく欠けて、やや長方形断面の中空部が露出する。透過X線像を見ると、刀子または釘様の未製品の可能性あり。中間部が幅広で、両端部に向かい細くなる形態が確認される。また、酸化土砂中の鍛造剥片も透過X線像には明瞭に写り込んでいる。
36	鉄製品 (鍛造品) 釘	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		2.6	0.5	0.3	1.1	4	錆化(△)	鍛造剥片や粉炭を含む再結合滓に覆われた鉄製品端部破片。下手側の端部が細くなって終末する形で、上手側が破面となっている。釘または刀子の茎端部片の可能性あり。鍛造痕は丁寧で仕上げは良好。上手側の端部が幅広の扁平に仕上げられている。
37	鉄製品 (鍛造品) 釘	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		2.2	0.6	0.3	3.1	5	錆化(△)	下手側が逆「L」字形に折れ曲がった釘。体部半ばも「く」の字状に折れ曲がり、透過X線像には頭部の作りに特有な鍛造痕の変形が確認される。足部先端が小さく欠けている可能性大。表面は鍛造剥片と粉炭を混じえる再結合滓に覆われる。
38	鉄製品 (鍛造品) 絞具	3	鉄関連遺物廃棄土坑 J-4		3.4	1.9	0.2	7.1	6	H(○)	右側部が内側に向かい折り返されている鉄製品破片。表面には粉炭や滓片を含む酸化土砂が厚い。透過X線像には鍛造痕の筋目のはっきりしない像が写し込まれており、利器の刃部ではなく、小形の鉄製品の締具と推定される。下手側に突出するのは粘土質溶解物。
39	鉄製品 (鍛造品) 鉄片	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		3.2	1.3	0.2	6.2	6	H(○)	前者にやや似た酸化土砂に覆われた鉄片。透過X線像には幅1.5cmほどの鉄製品が写し込まれており、鍛造痕の筋目はきわめて弱い。横断面形もわずかに反り返り気味で、あるいは前者と同一個体となる可能性も残されている。但し、その場合は方向が90度異なる。
40	鉄製品 (鍛造品) 棒状不明品	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		3.5	0.9	0.5	4.0	4	錆化(△)	両端部が破面となった、やや断面長方形の棒状不明品。表面は黒褐色の地が露出し、下面には粉炭主体の酸化土砂が貼り付いている。透過X線像には、やや鍛造痕の甘い感じの棒状鉄製品が写し込まれており、未製品の可能性もあり。
41	鉄製品 (鍛造品) 棒状不明品	3	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		4.2	1.6	0.9	19.5	6	H(○)	砂粒主体の分厚い酸化土砂に覆われた、やや大ぶりの棒状不明品。透過X線像には、雑な鍛造痕が確認される鉄製品が写し込まれており、上手側の端部は明らかに欠けている。下手側は真中が「V」字状の切れ込みになっており、全体は錆化による欠失部様となる。横断面形はやや横長の不整形形か。その意味では鍛造途上の未製品の可能性大。
42	炉壁 (製錬炉) 滓付き	3	D-2	347	5.0	5.0	2.1	36.8	1	なし	内面に1cm以上の厚みで緻密な炉内滓が付着する製鉄炉の炉壁片。外面の炉壁土は砂粒を主体とするものではなく、明褐色の粘土質である。構成された171点の鉄関連遺物の内、唯一の製錬系の炉壁ということになり、構成No43から53までの製錬系の流動滓とセットになる可能性あり。滓部は結晶が発達している。
43	流出滓滓	5	D-1	3325	4.2	4.2	2.9	47.7	2	なし	側部2面がシャープな破面となった流出滓滓の先端寄り側部破片。上面には平滑な流動単位が2条確認され、側部下半はササを混じえた炉壁粉が密に固着する接地面となっている。滓質は緻密で、破面上部には大形の気孔が水平方向に伸びている。ほぼ間違いなく製錬系の箱形炉に伴う流出滓滓と見られる。

表3 博労町遺跡鉄関連遺物観察表(3)

構成 番号	遺物名	地区 名	グリッド・遺構名 層位名	遺物 番号	計測値 (cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
44	流出溝滓	4	A-1	161	4.1	7.4	4.3	97.4	1	なし	下面が左右方向に伸びる舟底状となった典型的な流出溝滓破片。左右の側部と下手側の上半部が欠けており、直線状の破面が露出する。上面は風化が進んでいるが、流動単位の重層がわずかに確認される。下面には褐色の炉壁粉が点々と貼り付く。滓質は比較的緻密で、やや上層に肥大した気孔が横方向に広がっている。流出溝滓としては分析No.4とした構成No.47より小ぶりであり、やや長い間地上に露出していたためか、一連の流動系の滓に比べて表面風化が激しい。
45	流出溝滓	4	C-3	2788	5.8	6.8	4.0	194.7	2	なし	側部や下面に中小の本炭痕を残す流出溝滓の先端部破片。表面は二次的な砂粒を多量に混じえる酸化土砂に覆われている。流出溝滓の先端部のためか、ほとんど滓としては停滞しており、流動方向は不明瞭。肩部に石英質の石粒を噛み込んでおり、短軸方向の横断面形は浅い舟底状となる。滓質は緻密で、やや本炭痕が目立つものの、結晶の発達は弱い。
46	流出溝滓	5	B-2	713	7.0	6.6	7.6	403.7	1	なし	側部4面と上面下手側が欠落した厚手の流出溝滓の中核部寄り破片。下面は左右方向に伸びる舟底状で、点々と明褐色の炉壁粉の固着が確認される。破面には中小の気孔がやや密で、下面沿いは上下方向に1cm強伸びる気孔が連続する。上面観はやや炉底塊気味で平滑面とはならない。
47	流出溝滓	3	D-2	801	8.5	11.5	6.6	715.9	1	なし	分析資料No.4 分析資料詳細観察表参照。
48	流動滓	5	B-1	526	4.8	2.4	3.2	49.2	2	なし	平滑な流動単位が重層した流動滓または流出溝滓破片。側部3面と下面が破面になっており、気孔には粗密あり。上面から上手側の側部は3単位の流動単位を数える。滓質は緻密で表皮が風化する。
49	流動滓	5	C-1 クロスナ①	1734	4.4	4.9	2.7	57.3	2	なし	上面に3単位以上の流動単位が確認される、やや扁平な流動滓または流出溝滓破片。側部はほぼ全周が破面になっており、下面にはスス入りの炉壁粉を数多く噛み込む。上面表皮の風化色はなく、きれいな状態を保つ。
50	流動滓	5	C-1	686	4.4	4.1	2.8	58.5	3	なし	側部が連続的な破面となった、前者と似た厚みの流動滓破片。上面は2単位からなる平滑な滓表皮の重層が確認され、色調も前者と似る。下面は上手側が生きており、スス入りの炉壁粉や木炭の噛み込みが認められる。滓質は緻密で、一部の気孔が肥大する。
51	流動滓	3	B-2	2783	4.4	3.8	2.5	41.8	2	なし	上面に平滑な流動単位が重層した流動滓破片。側部3面が破面となる。側部下半から下面はやや凹凸が激しく、灰白色の炉壁粉を数多く噛み込んでいる。滓質は緻密で気孔は少ない。表皮の色調は前者と似る。
52	流動滓	1	W-6	4576	6.7	4.4	3.0	103.0	1	なし	上下面の8割方が炉壁粉を含む薄い酸化土砂に覆われた流動滓、または流出溝滓破片。滓は右方向に流動しており、上面上手側には平滑な滓表皮が露出する。左右の側部と下手側上半が破面となっている。短軸方向の断面形は、突出のやや強い舟底状で、灰白色の炉壁粉が点々と貼り付く。右上手側の側部は別単位の滓の巻き込み。
53	流動滓	2	F-1	1942	6.1	5.7	2.6	112.8	2	なし	全体に扁平な、厚さ2cm強を測る流動滓破片。左右の側部が破面になっており、上面上手側の半分以上が平滑な滓表面となる。一方、下面全体と上面下手側の傾斜面には、灰褐色に被熱した炉壁粉が密に固着する。滓表皮の色調は暗紫紅色が強い。
54	炉壁 (鍛冶炉)	5	A-4	4459	4.2	3.6	2.0	16.1	2	なし	内面に垂れが確認される表層が滓化した炉壁破片。側部は基本的に破面になっており、裏面も剥離面様の破面。横断面形は緩やかな弧状で、鍛冶炉内面の丸みを写している。胎土は砂粒が粗い。
55	炉壁 (鍛冶炉)	1	W-6	4820	5.3	4.5	2.7	32.5	2	なし	内面の中央部が筋状に突出する炉壁破片。側部は全周が破面で、外面には荒い砂粒が密に露出する。内面の突出部上方の一部に羽口先がわずかに残されており、突出部そのものが羽口先の影響により生成か。内面表皮は黒色ガラス質から灰褐色に熱変化する。下端部が錆色になっているのは、含鉄部ではなく、二次変化による。
56	炉壁 (鍛冶炉) 滓付き	3	B-1	1847	3.8	3.2	1.1	7.1	2	なし	内面が不規則な窪みや再結合滓様の付着物に覆われた炉壁内面の小破片。上下の端部には粘土質の溶解物が小塊状となる。側部はイガイガした破面で、外面には荒い砂粒が密に露出する。
57	炉壁 (鍛冶炉) 滓付き	5	A-1 クロスナ②	6258	3.4	3.8	1.5	12.6	2	なし	内面下半がガラス質に滓化して、下端部に垂れが突出する鍛冶炉の炉壁破片。側部から外面は破面になっており、外面には荒い砂粒が全体に露出する。左右方向の弧状が強く、左側は錆色が目立つことから、羽口右脇の炉壁表面破片であろう。
58	炉壁 (鍛冶炉) 滓付き (含鉄)	2	P-149	5615	3.9	4.8	2.0	31.0	3	錆化(△)	内面が強く滓化して全体が垂れ気味の炉壁破片。側部は基本的に破面で、外面には砂粒が顔を出す。比較的滓化部分の多い炉壁で、比重が高く、内面の磁着も強めとなる。横断面形は弧状が強い。
59	羽口 (鍛冶炉) 先端部	3	C-2	945	1.4	3.3	1.3	14.0	4	錆化(△)	鍛冶羽口の先端部から肩部にかけての表面破片。側部から内面は破面になっており、もとの羽口の左側破片である。胎土は砂粒と粗粒を交じえた硬質で、ひび割れが使用時から生じている。
60	羽口 (鍛冶) 先端部～体部	5	A-2 クロスナ①	824	7.8	6.1	2.3	89.9	1	なし	分析資料No.5 分析資料詳細観察表参照。
61	椀形鍛冶滓 (中)	3	D-2	209	6.7	5.2	2.2	117.2	3	なし	中形の椀形鍛冶滓の1/3程度の破片。中核部から側部にかけてが残されており、残る側部2方が破面となる。最大厚みは2cm強で、上面中央部が全体に5mmほど窪み形となる。滓質は緻密で、左寄りの肩部から下面には羽口や炉壁に由来する石粒が点々と残る。
62	椀形鍛冶滓 (中)?	3	A-1	751	4.1	7.4	3.5	138.5	3	なし	側部3面が破面となった全体的にイガイガした外観を持つ中形の椀形鍛冶滓、または製錬系の炉内滓破片。不規則な気孔が破面や表面に目立ち、結晶もかなり発達している。下手側は1/3程度の範囲は含鉄気味となる。下面上手側の付着物は砂粒のようにも、あるいは粘土質のようにも見え、かなり紛らわしい資料といえる。
63	椀形鍛冶滓 (中)	3	A-2	3714	9.2	8.9	3.6	259.8	2	なし	分析資料No.6 分析資料詳細観察表参照。

表4 博労町遺跡鉄関連遺物観察表(4)

構成 番号	遺物名	地区 名	グリッド・遺構名 層位名	遺物 番号	計測値 (cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル度	備 考
					長さ	幅	高さ				
64	腕形鍛冶滓 (小, 含鉄)	5	C-1	316	3.6	4.3	2.8	43.8	4	錆化(△)	小片ながら前者と似た、結晶の発達した滓破片。側部2面がシャープな破面となっており、上下面が不規則な腕形となることから中形の腕形鍛冶滓の肩部破片と判断した。右側部から上面にかけてはやや磁着が強いとなる。
65	腕形鍛冶滓 (中, 含鉄)	3	B-2	2057	3.8	5.0	3.7	66.3	3	錆化(△)	側部3面が破面となった、厚さ3.5cmほどの腕形鍛冶滓破片。上下面と下手側の側部が生きており、中形の腕形鍛冶滓と推定される。表面風化が激しく、色調も全体に白っぽくなっている。滓質は緻密で、破面には微細な気孔が点々と残る。
66	腕形鍛冶滓 (中, 含鉄)	3	A-1	3280	8.3	8.4	4.5	389.2	5	H(○)	ほぼ完形の比較的厚みを持った中形の腕形鍛冶滓。上手右側の側部は中間層部分に木炭痕由来の不規則な隙間が並んでいる。上面全体は平坦気味ながら中央部が小塊状に突出し、それを取り囲むように浅い窪みが生じている。側部から下面はやや凹凸の目立つ腕形をなす。含鉄部は上面沿いの突出部を中心にやや広い。
67	腕形鍛冶滓 (中, 含鉄)	3	C-3	37	6.7	6.6	3.0	168.4	3	M(◎)	全体が砂粒の目立つ厚い酸化土砂に覆われた腕形鍛冶滓。側部3面ないし、4面が破面と推定され、上下面と右側の側部が生きている。上面中央のやや右側が窪み、これに対応するように下面も突出する。含鉄部は上下面に3ヶ所ほど。
68	腕形鍛冶滓 (小)	3	B-1	1725	3.0	4.7	2.6	41.8	2	なし	側部3面と上面の下手側が破面となった腕形鍛冶滓の肩部破片。表面には木炭痕が目立つことから、小形、ないしは中形の腕形鍛冶滓と推定される。滓質は緻密で、結晶はやや発達気味。右側の側部から下面にかけては中小の木炭痕が連続的に並ぶ。
69	腕形鍛冶滓 (小)	2	F-1	1940	4.7	6.5	2.9	82.5	2	なし	表面が砂粒の目立つ薄皮状の酸化土砂に覆われた小形の腕形鍛冶滓破片。側面下手側を中心に3面の破面を数える。上手側1/3が突出する、異形の腕形鍛冶滓となっている。上面下手側には2cm大を超える木炭痕あり。
70	腕形鍛冶滓 (小, 含鉄)	5	SI-16	7446	3.4	4.3	2.8	34.9	3	錆化(△)	右側部が2段に別れた破面となっている、小形の腕形鍛冶滓の肩部破片。左側の上部には羽口由来の粘土質の滓が確認され、下面全体が小さな丸みを持った腕形となる。滓質は緻密ながら中空部が不規則に散在する。下面の一部に砂粒が固着。
71	腕形鍛冶滓 (小, 含鉄)	4	A-2	18	5.0	7.7	2.6	71.4	1	錆化(△)	左側部と上手側が破面となった、全体的に扁平な腕形鍛冶滓の肩部破片。側部の破面が2段に別れており、複数回の換業単位を示すものかもしれない。上下面とも緩やかな弧状で表面の風化も進んでいる。
72	腕形鍛冶滓 (小, 含鉄)	4	C-4	540	6.2	7.1	2.6	109.2	2	H(○)	上面の中央部が大きく窪んだ腕形鍛冶滓破片。外周部から下面は砂質の酸化土砂に覆われており、右側部を中心に3面が破面となる。従って、滓としては中核部から左側の側部にかけての破片であろう。下面は腕形を成すものの、炉床の荒れのためか、やや凹凸が目立つ。上面中央部に小さな突出部があり、強く磁着する。含鉄、あるいは鉄製品の落ち込みなどが疑われる。
73	腕形鍛冶滓 (小, 含鉄, 重層)	3	A-2	2930	4.0	4.7	2.7	46.1	3	錆化(△)	側部中央に隙間が明瞭に残る、重層した腕形鍛冶滓の肩部破片。下半の滓は結晶が発達して密度が高く、上半の滓は半分以上が羽口先由来の粘土質となる。また上下の滓とも部分的に磁着が強く、鍛錬冶工程に伴う滓の可能性大。上下面や右側部には細かい木炭痕あり。
74	腕形鍛冶滓 (小, 含鉄) 粘土質溶解物付き	5	B-1	2239	6.3	7.4	3.4	157.5	3	H(○)	上面右上手側に羽口先の破片が固着する、比較的しっかりした小形の腕形鍛冶滓。側部2面が小破面となる以外は、比較的もとの形状を残す。上面は浅く窪み、下面は連続的な木炭痕の広がる綺麗な腕形の面となる。羽口先方向はほぼ左手であろう。下面には黒錆がにじみ含鉄部の存在を示す。
75	腕形鍛冶滓 (小, 含鉄)	4	シロスナー一括	7	5.2	5.6	3.2	106.4	5	H(○)	上面の八割方が砂質の酸化土砂に覆われた小形の腕形鍛冶滓。左上手側の側部が破面となっており、ねじれた厚板状の全体形状となる。また側部から急激に立ち上がっており、底面が平坦気味になるのは、やはり人為による変形を疑わせる。滓質はほぼ緻密で、上面寄りに含鉄部がやや広い。
76	腕形鍛冶滓 (小, 含鉄)	3	B-2	2361	4.9	6.7	2.6	103.5	4	H(○)	上下面と下手側の側部のみが生きている小形の腕形鍛冶滓。やや板状で側部3面が破面となっている。黒錆も目立ち、各面の磁着反応が強い。下面はやや平坦気味で、中央部が短軸方向に窪んでおり、工具痕と見られる。
77	腕形鍛冶滓 (小, 含鉄)	5	D-4	80	6.4	5.1	3.4	116.2	4	H(○)	表面が薄皮状の酸化土砂に覆われた小形の腕形鍛冶滓。左寄りの側部3面が破面で、部分的に段を成す。上面中央部は小さく窪み、右方向に向かい滓が流れ気味。含鉄部はこの右側の突出部に広く、少なくとも3ヶ所以上が確認される。
78	腕形鍛冶滓 (極小)	5	C-2	8002	3.3	3.8	1.5	16.1	2	なし	平面、不整形をした極小の腕形鍛冶滓。左右の側部に小破面が残るが、欠けは小さい。側部が2段気味の段を持つ。上面中央部はやや粘土質が強い。
79	腕形鍛冶滓 (極小)	4	C-2	266	4.0	4.9	2.1	43.0	1	なし	側部3面が破面となった極小の腕形鍛冶滓。上下面と右寄りの側部が生きている。上面は大きな波状で中央部が突出する。下面は浅い舟底状で面をなす。左側部は中間に段を残す。
80	腕形鍛冶滓 (極小)	5	B-2 クロスナ①	374	4.5	3.4	1.5	24.4	1	なし	下手側の側部が欠けた、緻密な滓層が露出する極小の腕形鍛冶滓破片。上面は平滑な流動滓で、肩部寄りには木炭痕が4ヶ所並ぶ。上手肩部は粘土質溶解物。下面は浅い舟底状で砂粒が点在する。極小の腕形鍛冶滓の1/3程度の破片か。
81	腕形鍛冶滓 (極小) 粘土質溶解物付き、羽口付き	4	A-2	1795	3.7	4.7	2.2	31.2	1	なし	左側の側部に羽口先の頸部が残る極小の腕形鍛冶滓の側部寄り破片。右側部は段をなす破面となっており、上面表皮寄りには淡緑色の粘土質。下面は浅い舟底状で砂粒が面をなす。羽口先の厚みは約1cmを測る。胎土は初殻を混じえた粘土質。

表5 博労町遺跡鉄関連遺物観察表(5)

構成 番号	遺物名	地区 名	グリッド・遺構名 層位名	遺物 番号	計測値 (cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
82	椀形鍛冶滓(極小) 粘土質溶解物付き、炉床土付き	3	B-1 クロスナ②	2377	3.1	4.8	2.1	39.0	2	なし	上下面と下手側の側面が生きている椀形鍛冶滓。上面寄り全体が粘土質溶解物に覆われ、下半が緻密な滓層となる。滓層は結晶が発達し、気孔が上下方向に伸びる。下面は浅い舟底状で砂粒が密に固着する。
83	椀形鍛冶滓(極小) 粘土質溶解物付き、炉床土付き	3	A-2	2938	6.7	4.0	3.0	61.0	1	なし	左寄りの側面3方が破面となった椀形鍛冶滓。上層が粘土質溶解物に覆われ、特に左側が小高くなっている。破面には羽口片または石片を噛み込む。滓層は最大1cm程度と薄く、下面は鍛冶炉の炉床土ごとにはがれている。
84	椀形鍛冶滓(極小) 炉床土付き	1	W-6	4576	3.9	4.4	2.0	16.6	1	なし	粗い石粒主体の極小の椀形鍛冶滓。滓層は上手側下半のみで、下手側は上面から下面まで全てが砂質の溶解物となる。下面は浅い舟底状で、全面が砂粒となる。椀形鍛冶滓と同様、水平状態で生成されているが、滓質の由来は鍛冶炉の炉壁からか。
85	椀形鍛冶滓(極小) 炉床土付き	2	B-1	4479	4.7	4.6	2.1	32.9	2	なし	左右上手側の側面がシャープな破面となった極小の椀形鍛冶滓。上下面と下手側の側面が生きている。上面は木炭痕の連続する凹凸の目立つ面となる。下面は左右方向に向かう丸みをもった舟底状で、全面に粗い砂粒が広がる。滓質は上面寄りのみ密度が低い。
86	椀形鍛冶滓(極小、含鉄) 炉床土付き	3	B-2	1792	3.7	3.9	1.7	29.5	4	H(○)	濃茶褐色の酸化土砂に覆われた極小の椀形鍛冶滓。左側部下半に小破面を残すが、完形に近い。なお、この側部下半には斜め左上から差し込まれた、幅1cm程の槌状の工具痕あり。小さいながらもまとまった滓で、上手側肩部の細い破面には隙間が生じている。上面に広く含鉄部あり。
87	椀形鍛冶滓(極小、含鉄) 炉床土付き	5	C-1	69	4.0	3.4	2.1	35.3	6	H(○)	砂粒主体の酸化土砂と放射割れの目立つ極小の椀形鍛冶滓。破面は下手側の側面と下面の一部で、前者と同様、下面上手側では幅1cm弱の工具痕が残されている。上面から肩部の滓表面は平滑ながら、滓量の少ない形態を示す。含鉄部は芯部に広く磁着範囲が見かけより広い。
88	椀形鍛冶滓(極小、含鉄) 炉床土付き	3	C-1	1257	4.4	4.6	2.9	52.5	2	H(○)	側面や下面に1cm以下の木炭痕が多く、出入りの激しい極小の椀形鍛冶滓。破面は左下手側と下面中央部付近のみで、全体の8割方が生きている。流動性に欠ける滓で、下面の突出部のみ砂粒がまばらに確認される。主体となる上半部は含鉄部の広い小塊状の部分。
89	椀形鍛冶滓(極小、含鉄) 鉄製品(鍛造品)付き	5	B-3・4 土手上層	39	6.2	4.6	3.5	68.6	6	H(○)	分析資料No7 分析資料詳細観察表参照。
90	椀形鍛冶滓(極小) 粘土質溶解物付き	3	B-1	2376	2.5	4.2	1.9	15.5	1	なし	側面2面が破面となった極小の椀形鍛冶滓、肩部破片。上面は粘土質溶解物に覆われ、浅い舟底状の下面には砂粒が密に固着する。滓層は結晶が発達する。遺物構成の後、構成No82の右側部に接合することが判明した。
91	椀形鍛冶滓(極小) 粘土質溶解物付き	5	A-2 畝除去中	193	4.5	4.2	2.4	31.3	2	なし	粘土質溶解物と滓層が混じり合ったような特異な椀形鍛冶滓。右側部寄りが不規則な破面で、下手側は中間層に段あり。生きている下面は左側部寄り、右側は不規則に立ち上がる。含鉄部は右下手側の中間層。
92	椀形鍛冶滓(極小、含鉄)	3	E-2	129	2.9	3.8	2.3	27.0	4	錆化(△)	砂質の酸化土砂に覆われた極小の椀形鍛冶滓破片。側面2面が破面で、滓としては肩部破片とみられる。各面とも凹凸があり、滓量の少なさを窺わせる。全体的に磁着が強く色調も黒錆色。左側部上手側には放射割れも生じている。
93	椀形鍛冶滓(極小、含鉄)	3	B-2	2080	4.1	3.4	2.1	34.4	2	錆化(△)	側面2面が破面となった極小の椀形鍛冶滓破片。各面ともに木炭痕が数多く、側面や芯部にも木炭痕の存在が推定できる。外観では含鉄部が確認できず、芯部上半かと予想される。
94	椀形鍛冶滓(極小、含鉄)	3	B-1	2593	2.3	3.2	1.2	12.7	2	錆化(△)	右側面が破面となった極小の椀形鍛冶滓。最大の厚みは1cm程度。上下面とも浅い木炭痕に覆われ、側面の出入りも木炭痕による。含鉄部は下手寄り芯部か。
95	椀形鍛冶滓(極小、含鉄) 粘土質溶解物付き	4	C-1	26	3.1	4.1	2.2	23.1	1	錆化(△)	粘土質溶解物と滓層の混在した椀形鍛冶滓破片。側面3面が破面で、上手側の側面は段をなす。下面は平坦気味で小さな放射割れが走る。含鉄部は下面沿いか。
96	椀形鍛冶滓(極小、含鉄)	3	A-1	3410	3.2	4.7	1.7	26.2	1	錆化(△)	小さいながらも完形に近い椀形鍛冶滓。比較的扁平で上面や側面に木炭痕が目立ち、滓表面は青光りする。側面から下面は椀形で、上手側は砂粒の多い酸化土砂が固着する。含鉄部はこの酸化土砂の部分。
97	椀形鍛冶滓(極小、含鉄)	4	畝一面	4	5.1	5.4	2.0	41.8	5	錆化(△)	変形した薄皮状の特異な形態の椀形鍛冶滓。下手側の側面2面が破面で、上面は平滑面が主体の波状となる。下面は剥離様で上手側が一段突出する。炉壁表面に貼り付いた形で生成したものか。
98	椀形鍛冶滓(極小、含鉄)	3	一括	13	5.6	4.4	3.1	80.8	2	錆化(△)	左側面が大きな破面となった極小、または小形の椀形鍛冶滓。厚みがあり、右側面を中心に中間層が段になる。下面はやや木炭痕の目立つ浅い舟底状。滓の密度が高く、結晶が発達気味。含鉄部は上面寄り。
99	椀形鍛冶滓(極小、含鉄)	5	B-1	5258	6.7	5.0	2.5	88.2	4	錆化(△)	左右方向に長手の極小の椀形鍛冶滓。肩部2ヶ所に小破面が残る以外はほぼ完形。上下面とも似た外観で砂粒の固着あり。下面は左右方向に伸びる浅い舟底状で、別単位の滓小片が複数固着する。含鉄部は右寄りの下面沿いで放射割れあり。
100	鍛冶滓	4	B-1 クロスナ	173	3.7	2.5	1.7	20.5	1	なし	やや椀形になりかけの鍛冶滓。下手側の側面が破面となる。表面は浅い木炭痕に覆われ、下面2ヶ所には青光りする鍛造剥片が残される。
101	鍛冶滓(含鉄) 粘土質溶解物付き	3	P-117	4114	2.1	2.1	1.1	5.4	1	錆化(△)	上半が粘土質溶解物主体の鍛冶滓。左側面が破面となる。小さな指頭状の滓で、下面から側面には小さな木炭痕が連続する。
102	鍛冶滓(含鉄)	4	A-2 クロスナ①	997	1.8	2.4	1.1	6.9	3	錆化(△)	黒錆に覆われた小塊状の鍛冶滓。左側面に小破面を残すが、ほぼ完形品。全体形状は小さな椀形となる。含鉄部は芯部か。上下面とも浅い木炭痕あり。
103	鍛冶滓(含鉄)	4	C-2	27	2.4	1.9	1.5	8.0	4	錆化(△)	下手側の側面が破面となった不整小塊状の鍛冶滓。上下面と側面が木炭痕により変形して凹凸が生じている。右側の肩部には砂粒主体の酸化土砂あり。含鉄部は芯部か。

表6 博労町遺跡鉄関連遺物観察表(6)

構成 番号	遺物名	地区 名	グリッド・遺構名 層位名	遺物 番号	計測値 (cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
104	鍛冶滓 (含鉄)	3	C-2	930	2.7	4.5	1.7	15.3	1	錆化(△)	短軸方向に長手の完形となる鍛冶滓。小塊状の滓が3個連続したもので、鍛冶素材の遊離したものか。表面の8割方が砂粒をまじえる酸化土砂に覆われており、下面右側には鍛冶剥片が固着する。磁着傾向は弱い。が全体的。
105	粘土質溶解物	3	C-1 上部畠 掘り下げ中	112	2.7	3.2	1.5	15.4	1	なし	やや扁平な小塊状となった粘質溶解物。左下手側の肩部が小破面となるが、ほぼ完形品。左側部には、羽口片由来の小破片が顔を出している。下面は浅い舟底状で粉炭痕あり。
106	粘土質溶解物	2	F-2	1943	4.6	4.6	2.6	18.2	1	なし	一見、炉壁様の粘土質溶解物。左側部から下面にかけてが破面になっており、右側部は溶化して垂れが複数ヶ所が突出する。破面には粗い砂粒が露出して、鍛冶炉の炉壁が母体となったことを物語る。色調は灰褐色。
107	粘土質溶解物	3	C-1 クロスナ①	1038	4.0	5.8	2.6	49.3	1	なし	左側部がガラス質の破面となる粘土質溶解物。裏面は剥離面様で、下手側のみが滓となる。上面は黒色ガラス質滓が広がり、羽口片らしき小片が喰い込んでいる。性格的には羽口脇の炉壁由来の可能性大。
108	粘土質溶解物	3	D-2	344	6.4	6.1	2.8	53.7	1	なし	前者とやや似た性格の遺物で、主体は炉壁を母体とする粘土質溶解物。左上手から淡緑色、黒色、茶褐色のガラス質滓化している。上面中央部には羽口の頸部が喰い込んで残る。左側部は木炭痕の密集する剥離面で、下面右側は砂粒が広がる。
109	粘土質溶解物 (含鉄)	3	B-2	2065	3.1	5.2	2.5	21.5	2	錆化(△)	下手側へ向かい垂れが伸びる粘土質溶解物破片。左右の側部下半には羽口破片が巻き込まれている。上手側の下面には、鍛冶炉の炉壁となる砂粒主体の破面が露出する。含鉄部は右側部上手側の突出部。
110	土器 (被熱、滓付き)	3	B-1	2584	2.0	1.9	0.4	1.5	1	なし	厚さ5mm程の土器片の表面が被熱のため溶化した特殊資料。上手側が環の口唇部とみられ、小さく外反する。側部4方が直線状の破面で、表面は薄皮状のガラス質に溶化して、表面中央のみ鍛冶滓と似た錆色広がる。右側部の突出部は粒状の粘土質溶解物。性格的には鍛冶炉中に偶然土器片が落ち込んだ可能性が高い。
111	鉄製品 (鍛造品) 鎌 (有孔)	4	A-1	1757	2.5	1.6	0.2	2.9	3	錆化(△)	刃部先端寄りに径2.3mm大の円孔が穿たれている無茎三角鎌。円孔は中央よりやや左寄りとなる。基部は緩やかな弧状に途切れており、形態的にはやや歪む。
112	鉄製品 (鍛造品) 鎌	5	A-1・2 土手下層	59	3.4	2.0	0.4	3.9	4	H(○)	1.7cmを測る短茎の鉄鎌。刃部は羽子板状に広がり、途中で欠けている。つまり、基部の先端と刃部側が半欠となる。透過X線像には放射割れが走る。
113	鉄製品 (鍛造品) 鎌	5	SD-11	6777	3.7	2.2	0.5	5.2	4	錆化(△)	前者と同じ形態の短茎の鎌。短い茎部から羽子板形の刃部が伸びているが、かなり短くなっており、先端部が欠けた後に砥ぎ直されている可能性あり。残存する刃部長は2.1cmを測る。基部先も小さく欠落する。形態的には構成No111からNo113は古墳時代のものか。
114	鉄製品 (鍛造品) 鎌?	5	A-2 クロスナ①	821	2.1	1.5	0.2	6.2	2	錆化(△)	透過X線像が構成No111と似ることから、小形の無茎三角鎌の可能性ある資料として扱っている。但し、表面の酸化土砂が厚く、外観的には不明部分が多い。透過X線像では明瞭な挿孔は確認されないが、かすかに径1.5mm大の円孔が中央部に穿たれているようにも見える。円孔が確実なら本資料も古墳時代の鎌となる。
115	鉄製品 (鍛造品) 鎌?	3	D-2	671	6.1	0.5	0.4	12.6	2	錆化(△)	長頸鎌の可能性を残す、茎部様の鉄製品破片。資料自体は中空の酸化土砂の形として残されており、透過X線像から残存鉄部の様相がわかる。下手側に向かい徐々に細くなり丁寧な鍛造痕を残す。
116	鉄製品 (鍛造品) 鎌?	3	B-1	1822	4.0	1.5	0.4	15.4	5	H(○)	厚い酸化土砂に覆われた鉄製品破片。透過X線像には2.9cmほどの長さをもつ茎部と両側の鎌身の一部が確認される。刃部は半ばから斜め方向に欠落する。基部先はわずかに錆化により欠失する。
117	鉄製品 (鍛造品) 鎌	3	B-1	2167	5.8	1.7	1.0	23.6	5	H(○)	基部の半分以上と刃部先が欠落した両側の鉄製品破片。作りは丁寧で鍛造痕も密。基部長は1.3cmが残存し、刃部側は4.3cmまで確認できる。刃部は、両側から緩やかに幅の細くなる形態で、構成No119などと同様。
118	鉄製品 (鍛造品) 鎌 (又はヤス)	3	A-1	3151	8.9	0.7	0.4	14.4	4	H(○)	砂粒混じりの酸化土砂に覆われた棒状の鉄製品。透過X線像には細身で先端部が三角形に作り出された形態が確認される。切先部は片側のみが突出しているため、ヤス横に見える。長径で基部は徐々に細くなり、先端部は欠ける。横断面形はやや長方形。
119	鉄製品 (鍛造品) 鎌	5	D-1	2459	15.9	1.0	0.5	35.7	3	錆化(△)	3片に折れている長頸の鎌。構成No117と似て、両側で5.3cm以上の基部を持つ。体部は両側から徐々に細くなり、9.8cmほどが確認される。基部の横断面形は方形で、体部側はやや長方形。切先自体は欠落する。
120	鉄製品 (鍛造品) 刀子	5	A-4 畝除去中	195	3.8	1.0	0.3	3.7	4	H(○)	両端部が欠けた刀子の刃部破片。表裏面や側部には錆ぶくれや欠けが残る。刃部側の錆化が進んでおり、透過X線像には鍛造痕が不明瞭。
121	鉄製品 (鍛造品) 刀子	5	D-1	740	8.2	1.0	0.4	8.6	3	錆化(△)	3片に割れている刀子破片。切先と基部が途中で欠落する。背側の関は明瞭で、基部から刃部にかけての関は不明瞭。鍛造痕は普通で、背中に沿ってひび割れが入る。
122	鉄製品 (鍛造品) 刀子	3	C-1	2306	5.9	1.0	0.3	10.9	4	錆化(△)	刀子の刃部破片。切先と刃部半ばから基部にかけては欠落する。両端部には、刀子の断面形が破面として露出する。左右方向で弧状に折れ曲がる。
123	鉄製品 (鍛造品) 刀子	5	A-4	2290	3.9	1.4	0.3	11.6	4	錆化(△)	両端部が破面となる刀子の刃部破片。上手側には酸化土砂と別な鉄片が固着する。刃部の最大幅は1.5cmを測り、切先方向に向かい急激に幅が狭くなる。これは「砥ぎ減り」によるものか。
124	鉄製品 (鍛造品) 刀子?	5	D-2	1794	9.8	0.8	0.3	12.5	3	錆化(△)	2片に割れている細身の刀子状鉄製品。縦断面形は長方形から細い三角形を示す。切先側と基部の先端は錆化により欠失する。鍛造痕が部分的に乱れており、身幅もないことから、刀子としては未製品の可能性を残す。
125	鉄製品 (鍛造品) 刀子	3	D-1 クロスナ①	115	7.1	1.3	0.4	16.7	5	H(○)	刀子の半欠品。刃部先端側と基部の3分の2以上が欠落する。両側で背側の関が明瞭。透過X線像では、刃部に欠けがあるようにも見える。錆ぶくれも進む。

表7 博労町遺跡鉄関連遺物観察表(7)

構成番号	遺物名	地区名	グリッド・遺構名 層位名	遺物番号	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
126	鉄製品 (鍛造品) 刀子	3	A-1	3438	8.2	1.2	0.3	17.3	4	H(○)	砂粒の多い酸化土砂に覆われた刀子破片。切先と茎部の8割方が欠け落ちている。関は背側では明瞭で刃部側は不明瞭。比較的丁寧な鍛造痕を示すが、錆ぶくれも激しい。
127	鉄製品 (鍛造品) 刀子	3	E-2	386 390	9.7	1.2	0.4	18.0	3	H(○)	2片に割れている細身の刀子破片。切先と茎部の8割方が欠けている。背側の関は明瞭で、刃部側には認められない。細身となっているのは「砥ぎ減り」の影響か。鍛造痕は丁寧。
128	鉄製品 (鍛造品) 刀子	1	W-6	4589	11.3	1.2	0.3	18.4	3	錆化(△)	切先と茎部先が欠落した刀子破片。作りは丁寧ながら「砥ぎ減り」のためか身が痩せており、切先側に向かって錆化が進む。茎部は半ばで割れており、関は両関である。部分的に錆ぶくれあり。切先の可能性を持つ小破片が未接合で残る。
129	鉄製品 (鍛造品) 刀子?	4	B-3	485	5.1	1.1	0.3	22.0	6	H(○)	刀子の茎部、または楔状鉄製品。左側部が破面様で、わずかに関を加工する途上のような段が背側に確認される。鍛造は進んでいるが、やや乱れた鍛造痕あり。
130	鉄製品 (鍛造品) 刀子	3	C-1	1622	7.8	1.2	0.3	22.3	6	錆化(△)	刃部半ばが上方に折れ曲がった状態で欠けている刀子破片。茎部は8割方が遺存し、先端部が欠失する。背側に関が確認されるが甘く、鍛造痕もうねっているため未製品かもしれない。刃部の折れ曲がりは意図的か。
131	鉄製品 (鍛造品) 刀子	4	C-2	924	11.5	1.4	0.4	30.9	5	H(○)	切先のみが欠けている刀子。身幅が最大で1.4cmを測り、背側の関も明瞭。茎部は5.1cmの長さを持ち、先端部が斜め上方に折れ曲がる。曲がり方は前者と似る。「砥ぎ減り」が比較的少なく、減り方も直線状。鍛造痕は普通で錆化によるピンホールが点在する。
132	鉄製品 (鍛造品) 紡錘車	4	C-1 クロスナ①	174	2.2	2.8	0.4	3.2	2	錆化(△)	紡錘車の円盤部外側破片。右側部は弧状に成形されており、軸穴方向が欠失する。薄手の円盤部で、やや小ぶりの紡錘車の可能性あり。
133	鉄製品 (鍛造品) 鎌?	5	D-2	1291	3.2	2.4	0.2	4.1	3	錆化(△)	薄作りの鎌とみられる刃部破片。両端部と刃部左側が欠けている。上面には錆ぶくれの欠けが残る。刃部左手の欠けは円孔状に見えるが、挿孔かどうかは不明。厚みがないことから鎌としては表層の剥離片か。
134	鉄製品 (鍛造品) 鎌	4	B-3 クロスナ②	2121	4.8	2.4	0.2	12.0	2	錆化(△)	2片に割れている薄板様の鉄製品破片。身幅は2.5cmを測り、左側が内側に折れ曲がっていることから、鎌先の破片の可能性大。錆化のため内部にはピンホールが多く、破面は黒褐色の錆層が露出する。
135	鉄製品 (鍛造品) 鎌?	4	A-1	1658	2.4	3.0	0.5	14.4	3	錆化(△)	厚い酸化土砂に覆われた薄板状の鉄製品破片。左右の両側部が破面となっており、身幅は最大で3cmを測る。左方向に向かい身幅が狭まることから、鎌の可能性を持つものとしておく。
136	鉄製品 (鍛造品) 鎌?	5	B-1	6341	4.5	2.4	0.6	18.8	3	錆化(△)	やや前者と似た酸化土砂に覆われた鉄製品破片。透過X線像には身幅が2.2cmを測る板状の鍛造品が確認される。一見、鎌の切先様に見えるが左側の端部から1.4cmのところは段状で、やや性格不明品。錆化の状態も透過X線像上では前者と類似する。
137	鉄製品 (鍛造品) 絞具	4	C-1	1097	2.6	3.2	0.3	8.3	5	H(○)	細い筒状に折り曲げられた絞具状鉄製品破片。左右の端部と上手側側部が破面となる。全体に下手側から上手側に向かい狭まっており、厚みは2mm強を測る。表裏面には錆膨れや酸化土砂あり。
138	鉄製品 (鍛造品) 絞具	1	B-2	2212	5.8	1.8	1.4	32.5	7	H(○)	前者より遺存度の良好な絞具、または石突様の鉄製品。上端部で径2cmを測り、下端部では潰れた形の不整形三角形となる。幅は1.8×1.3cm。上端部の厚みは2.5mm前後か。中空部には土砂が詰まっている。
139	鉄製品 (鍛造品) (含鉄) 釘?	2	SK-04	6073	2.0	0.4	0.3	0.7	2	錆化(△)	下手側の端部が逆「L」字状に曲がっている釘様の鉄製品。横断面形は不整形形で、作りは雑。折れ曲がった足先は破面となり、中空化している。
140	鉄製品 (鍛造品) 釘	5	C-1	2132	5.1	0.7	0.6	7.7	3	H(○)	わずかに弧状に曲がっている釘。頭部には折り返しがなく、平頭状態で終わる。横断面形は方形。足部先は錆化のためにわずかに欠失する。
141	鉄製品 (鍛造品) 釘?	3	C-2	1007	5.8	0.6	0.4	8.5	3	H(○)	前者と似た頭部に加工の痕跡のない釘。足部先端部は僅かに欠け気味で、鍛造痕はやや乱れる。横断面形は方形。
142	鉄製品 (鍛造品) 釘 (皆折れ)	3	B-1	2243	6.0	0.6	0.4	10.2	4	H(○)	頭部が折り返し気味の細身の釘。足部は健全で、鍛造痕はややうねる。横断面形はわずかに長方形気味か。
143	鉄製品 (鍛造品) 釘	3	C-2	932	3.8	1.0	0.8	10.4	4	H(○)	上端部が左側に突出する釘、または錠状鉄製品破片。端部が両側とも破面とみられるが、酸化土砂が厚く、断定はできない。鍛造痕はやや雑。
144	鉄製品 (鍛造品) 釘	3	C-1	1202	4.1	0.6	0.4	10.8	3	H(○)	微かに頭部の折り返しが確認される釘。足部先端は小さく欠けているようにも見える。鍛造痕は雑。
145	鉄製品 (鍛造品) 釘 (皆折れ)	3	D-2	702	4.6	0.8	0.4	11.1	3	H(○)	頭部の折り返しが明瞭な釘破片。足部先端は破面となる。頭部は水平に小さく張り出す。横断面形は方形。
146	鉄製品 (鍛造品) 釘	3	B-2	2633	6.1	0.7	0.6	11.7	4	H(○)	頭部方向と側部先が折れ曲がった釘。頭部には加工部は残されていないが、皆折れ釘の可能性大。足部先も生きており、鍛造痕は普通。横断面形は方形。
147	鉄製品 (鍛造品) 釘	3	B-2	2081	5.9	0.6	0.6	12.8	3	H(○)	前者と同様、頭部自体は残されていないが、皆折れ釘の可能性を持つ。体部上半が「く」の字状に折れ曲っており、足部先は健全。横断面形は方形で、鍛造痕は普通。
148	鉄製品 (鍛造品) 釘?	3	C-2	1637	4.8	0.7	0.7	13.8	2	錆化(△)	足部先端が錆化して欠落した釘。頭部は折り返しがなく平頭となる。横断面形はわずかに長方形気味。鍛造痕は普通。
149	鉄製品 (鍛造品) 釘	3	E-2	292	7.7	1.5	0.6	14.1	3	H(○)	2片に割れている飾り釘様の鉄製品。細身の体部の先に厚さ3.5mm程の隅丸方形気味の平面形をもつ頭部が形作られている。足部先端は錆化によりわずかに欠失気味。鍛造痕は普通で錆化が進む。頭部上方には錆膨れあり。
150	鉄製品 (鍛造品) 釘?	3	C-2 クロスナ②	1372	3.7	0.9	0.6	14.2	5	H(○)	弧状に折れ曲がった皆折れ釘様の鉄製品。頭部方向が斜めに平坦化しており、体部半ば以下は欠落する。鍛造痕はほぼ丁寧。
151	鉄製品 (鍛造品) 釘	5	B-3	2396	3.9	0.3	0.3	14.4	5	H(○)	頭部が左側に折り曲げられている欠け釘様の鉄製品。足部側は体部半ばから欠落する。横断面形は長方形で、表面の酸化土砂が厚い。

表8 博労町遺跡鉄関連遺物観察表(8)

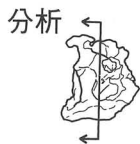
構成 番号	遺物名	地区 名	グリッド・遺構名 層位名	遺物 番号	計測値 (cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
152	鉄製品(鍛造品) 釘	3	C-2	755	6.6	1.0	0.4	15.2	3	H(○)	頭部が明瞭に折り返されている皆折れ釘。横断面は方形からやや長方形で、足部先は破面となる。鍛造痕はやや雑で、体部が緩やかに折れ曲がっている。
153	鉄製品(鍛造品) 釘?	5	B-1	1080	7.3	0.7	0.5	16.0	5	H(○)	頭部が小さく折り返されたやや細身の釘。横断面は方形で、足部先が破面となる。鍛造痕は僅かに乱れている。
154	鉄製品(鍛造品) 釘	3	C-1	1389	9.0	0.9	0.3	17.7	4	H(○)	頭部の折り返しが開いてしまった皆折れ釘。体部上半が逆「く」の字状に折れ曲がり、足部先が小さな破面となる。横断面は頭部方向が長方形で、側部側は方形。鍛造痕はほぼ普通。
155	鉄製品(鍛造品) 釘	1	W-6	4522	6.2	0.9	0.6	17.8	5	H(○)	頭部から横方向に2.2cmほどが張り出した掛け釘。足部側は体部半ばから欠落する。頭部は体部に比べて薄く加工されている。横断面はやや長方形か。
156	鉄製品(鍛造品) 釘(皆折れ)	1	E-4	2906	9.3	0.7	0.5	18.1	5	H(○)	頭部の折り返しが透過X線像に明瞭な皆折れ釘。体部半ばで、浅い「く」の字状に折れ曲がっており、足部先端がこくわずか欠けている。横断面は、頭部方向が長方形で、足部側は方形となる。鍛造痕は丁寧。
157	鉄製品(鍛造品) 釘?	3	A-1	3264	7.2	0.5	0.6	18.5	4	H(○)	頭部が小さく折り返されている掛け釘状の鉄製品。足部先端は左側が剥落する。体部半ばは、ひび割れから肌別れ気味。厚い酸化土砂に覆われる。
158	鉄製品(鍛造品) 釘?	4	C-1	655	7.2	0.7	0.6	19.1	3	H(○)	頭部が不明瞭な釘。足部先端は生きており、鍛造痕はやや乱れ気味。厚い酸化土砂に覆われている。
159	鉄製品(鍛造品) 釘	3	B-2	2293	3.6	1.6	1.3	24.6	5	H(○)	外観的には厚い酸化土砂に覆われた塊状となった鉄製品。透過X線像によれば、頭部の加工がなされている太身の釘様。体部途中で足部側が大きく欠けている。鍛造痕は普通で、錆化のため内部にひび割れが数多い。
160	鉄製品(鍛造品) 釘	1	W-6	4202	8.2	1.0	0.6	26.7	3	H(○)	頭部が小さく作り出されている細身の釘。足部先端は明瞭な破面。鍛造痕は普通で、表面は酸化土砂が厚い。
161	鉄製品(鍛造品) 釘	3	D-1 土器溜	435	7.4	1.0	0.9	28.9	4	H(○)	頭部が明瞭に加工されている釘。頭部の平面形は半円状で、斜め左下に折り返されている。足部先端は欠落し、外周部には酸化土砂が厚い。鍛造痕は良好。
162	鉄製品(鍛造品) 折山釘	3	B-1	2161	9.5	0.7	0.6	43.8	4	L(●)	厚い酸化土砂に覆われた掛け釘状の鉄製品。頭部が水平方向に1cmほど突出しており、頭部と足部先端側が錆化により小さく欠失気味。体部半ばから足部方向の錆化が進む。鍛造痕は普通で、体部半ばにやや折れが見られる。
163	鉄製品(鍛造品) 鏝?	5	SI-08	7941	2.9	1.2	0.4	20.1	2	H(○)	頭部が平坦に成形された小ぶりの鏝、または鉄片。頭部が水平に塗切れて、足部方向に向かい直線状に幅が狭まる。厚い酸化土砂に覆われ、頭部が打撃によるものか、切断によるものかが区別できない。
164	鉄製品(鍛造品) 鏝又は釘	4	C-2	2316	4.7	1.0	0.8	28.3	2	錆化(△)	前者を一回り大きくした形の鏝、または釘状の鉄製品。頭部が水平に塗切れており、鏝で断ち落としたような透過X線像となる。僅かに側部が開き気味で、足部は健全。鍛造痕にはややうねりあり。
165	鉄製品(鍛造品) 棒状不明品	3	C-1	973	7.5	1.1	0.7	20.2	5	H(○)	分析資料№8 分析資料詳細観察表参照。
166	鉄製品(鍛造品) 棒状不明品	3	A-1	3384	4.1	0.5	0.5	13.6	3	M(◎)	「コ」の字状に折れ曲がった棒状不明品。透過X線像で見ると、折り曲げられた釘状で、折り返しの短い方が頭部で、長い方が足部側と判断されるX線像となる。頭部の折り返しは遺存せず、外周部の錆化が進み、芯部は比較的健全。
167	鉄製品(鍛造品) 鏝?	3	C-2	1500	3.9	0.6	0.5	8.5	4	H(○)	「L」字状に折り曲がった鏝状の鉄製品破片。左側の端部は明らかな破面で、右下の足部様の部分はほぼ生きています。角の部分がしっかりと90度方向に折り曲げられ、水平に伸びる体部?の中央方向がたわんでいることから、鏝としての使用による変形と推定される。鍛造痕はやや雑。
168	鉄製品(鍛造品) 鏝	1	W-2	1033	8.7	4.0	0.4	27.6	3	H(○)	体部2ヶ所が折り曲げられた鏝、または掛け金具状鉄製品。両端部が細くなって収束する形で、上部の水平部分の中央がたわんでいることから、鏝の可能性が高い。鏝とすれば、足部がやや長めで水平部分が5cm前後と、やや狭い形態となる。足部2方が「ハ」の字形に開いているのは、当初からか、二次的な変形かは不明。鍛造痕にはうねりがあり、やや雑な作りと見られる。
169	鉄製品(鍛造品) 火打金?	3	B-1	1746	4.4	2.4	0.4	27.5	2	錆化(△)	右側の端部が蕨手状に成形されている火打金状の鉄製品破片。透過X線像を見ると、火打金とすれば、左側の端部と上方に伸びる山形の途中まで欠け落ちている。透過X線像から見ても全体が板状の鉄製品であることを読み取れる。蕨手状の部分は左巻きで、中央の中空部は径7mmを測る。
170	鉄製品(鍛造品) 薄板状不明品(非鉄金属付き)	3	D-1 クロスナ②	326	4.0	2.9	0.5	25.5	3	錆化(△)	外周部が全周にわたり直線状の破面となった不明鉄製品破片。透過X線像によれば、表面の上手側に鉄部とは異なる金属の可能性を持つ付着物が読み取れる。銅合金系の金属の可能性あり。但し、分厚い酸化土砂に覆われているため、実態は不明。
171	鉄製品(鍛造品) 飾金具?	3	C-2 クロスナ①	1045	6.5	2.3	0.3	81.2	3	H(○)	分厚い酸化土砂に覆われ、一見、碗形鍛冶滓かと思える鉄製品破片。透過X線像によれば、短軸側の両側部が折り返されている薄板状の鉄製品で、幅2.4cm前後、長さ7.1cm前後を測る。右側の端部は斜めに欠け落ちており、左側の端部は内側に絞込まれている。内幅2cm前後の木部?の外装用の飾金具か。鍛造痕からは工具や刃物のような明瞭な鍛造痕は認められない。

表9 博労町遺跡 鉄関連遺物分析資料一覧表

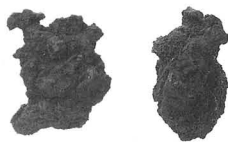
(滓：メタル又は胎土)

資料番号	地区名及びグリッド名	遺構名及び遺物番号	構成番号	遺物種類	重量(g)	磁着度	メタル度	分析コメント	マクロ鏡	硬度	E P M A	X線回折	化学分析	耐火度	カロリー	放射分析	断面樹脂	分析位置指定	採取方法	観察	集合写真	モノクロ	カラー	実測図	前合浸	X線透過
1	3区	鉄関連遺物廃棄土坑 下層	9	椀形鍛冶滓(極小、含鉄)	19.1	4	錆化(△)	滓部を中心に	○	○	—	—	—	—	—	—	○	長軸端部 1/2	直線状の切断	○	○	○	○	○		
2	3区	鉄関連遺物廃棄土坑 下層	22	粒状滓(4点)	—	1	なし	粒状滓として	○	—	—	—	—	—	—	—	—	必要品	選択	○	○	○	○	—		
3	3区	鉄関連遺物廃棄土坑 下層	23	鍛造剥片(6点)	—	1	なし	鍛造剥片として	○	—	—	—	—	—	—	—	—	必要品	選択	○	○	○	○	—		
4	3区・D-2	No801	47	流出溝滓	715.9	1	なし	滓部を	○	○	—	—	○	—	—	—	—	短軸端部 1/10	直線状の切断	○	○	○	○	○		
5	5区・A-2	No824	60	羽口 (鍛冶、先端部～体部)	89.3	1	なし	羽口として	○	—	—	—	—	○	—	—	—	短軸端部 1/2	直線状の切断	○	○	○	○	○		
6	3区・A-2	No3714	63	椀形鍛冶滓(小)	259.8	1	なし	滓部を	○	○	—	—	—	—	—	—	—	長軸端部 1/6	直線状の切断	○	○	○	○	○		
7	5区・B-3、4	No39	89	椀形鍛冶滓(極小、含鉄、鉄製品鍛造品付き)	68.6	6	H(○)	メタル部を中心に	○	○	—	—	—	—	—	—	○	長軸端部 1/3	直線状の切断	○	○	○	○	○		
8	3区・C-1	No973	165	鉄製品(鍛造品) 棒状不明品	20.2	5	H(○)	メタル部を中心に	○	○	—	—	—	—	—	—	○	短軸端部 1/2	直線状の切断	○	○	○	○	○		

出土状況	遺跡名	博労町遺跡 3区		構成No.	9			項目	滓	メタル
	出土位置	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		時期：根拠	9世紀前半：出土土器					
試料記号	検鏡：BAK-1	計測値	長径	3.5 cm	色調	表：茶褐色～濃茶褐色	遺存度	破片?	マクロ	○
	化学：—		短径	3.0 cm		地：濃茶褐色～黒褐色	破面数	1		
遺物種類 (名称)	放射化：—	値	厚さ	2.0 cm	磁着度	3	前含浸	—	X線回折 化学 耐火度	
	腕形鍛冶滓 (極小・含鉄)		重量	19.1 g		メタル度	錆化(△)	断面樹脂		
観察所見	<p>平面、不整半円形をした極小の腕形鍛冶滓。左側部が直立気味に途切れており、もとの母体となる腕形鍛冶滓の破面の可能性を残す。表面は酸化土砂や濃茶褐色の錆色に覆われており、付着物中には粉炭が目立つ。下面の右下手側には青光りする薄手の鍛造剥片が固着している。上面右手の肩部寄りには粉炭痕らしき細かい凹凸のある滓の自然面が露出し、部分的に青光りする。上手側の側部は不規則な突出部で、端部が小さな破面となっている。この破面の下面は浅い樋状に窪み、一見、工具痕様となる。見かけの割には滓の磁着が弱い、上面、上手側肩部の錆膨れ部分のみ磁着が強めとなる。色調は表面の酸化土砂が茶褐色で、滓部は濃茶褐色となる。地は淡茶褐色から黒褐色。</p>									
分析部分	<p>長軸端部1/2を直線状に切断し、滓部を中心に分析に用いる。残材断面に樹脂塗布。残材返却。</p>									
備考	<p>完形品か破片か紛らわしい資料である。左側部を破面と見て記録をしている。どちらであっても、滓量が少ない最終工程に近い段階の鍛冶滓であろう。付着する鍛造剥片や粉炭の痕跡は本資料が残されていた空間の状況を物語るものである。分析資料No.1からNo.3は、現場調査の時点では鍛冶炉中心部として取り扱われており、微細遺物を含めて50cmメッシュで土砂ごと回収された後に水洗・分離されたものである。しかし、整理過程で鍛冶遺構としての検討を加えた結果、遺構名としては「鉄関連遺物廃棄土坑、下層」として報告することになった。</p>									



0 (S=1:3) 5cm



出土状況	遺跡名	博労町遺跡 3区		構成No	22			項目	滓	メタル			
	出土位置	鉄関連遺物廃棄土坑 下層		時期：根拠	9世紀前半：出土土器				マクロ				
試料記号	検鏡：BAK-2	計測値	長径	— cm	色調	表：	—	遺存度	—	分	検鏡硬度 EPMA	○	
	化学：—		短径	— cm		地：	—	破面数	—		X線回折 化学耐火度		
	放射化：—		厚さ	— cm		磁着度	1	前含浸	—	析	カロリー放射化		
遺物種類 (名称)	粒状滓 (4点)		重量	— g	メタル度	なし	断面樹脂	—		X線透過			
観察所見	<p>現地調査の段階に於いて焼土や鉄滓の集中区を鍛冶遺構と仮定して、50cmメッシュで土砂ごと採取の後、水洗・分離された資料である。分離された粒状滓に似た外観の資料は計8点程と極めて微量で、その中から大きさや磁着傾向をもとに大から極小サイズまでに属する4点を分析資料として選択した。分析資料No.2-イ-1・2と、分析資料No.2-ロ-1・2である。このうち、イ-1・2は表皮が剥落気味でやや比重が高いことから真正な粒状滓ではなく、内部が中実の粒状滓様遺物とすべきかも知れない。また、ロ-2は粒径が0.8mm大と一段と微細で、粒状滓とすべきかどうか、やや躊躇する資料である。いづれにしても、鍛造剥片の回収量に比べて粒状滓に類似する資料は数百分の一以下と極めて少ない。詳細は別表参照。</p>												
分析部分	<p>必要品を選択し、粒状滓として分析に用いる。残材返却。</p>												
備考	<p>鉄関連遺物廃棄土坑下層の覆土から回収された粒状滓は鍛造剥片量に比べて極めて少ない。その原因には遺構の性格が反映されている可能性もあり。可能性① 鍛錬鍛冶工程中で粒状滓生成の原因となる粘土汁が用いられていない。可能性② 廃棄土坑にもたらされた鉄関連遺物の由来が鍛冶工房床面等から選択的に移動されている。(掃除作業等に由来) 可能性③ 水洗分離時に磁選を行ったため、磁石に比較的応答しやすい鍛造剥片類が回収されたのに対して、一般的に磁着反応の弱い傾向を持つ粒状滓が選択的に除外されてしまった。以上のどれかに由来するのかも知れない。</p>												

分析資料 No.2 粒状滓 (4点)

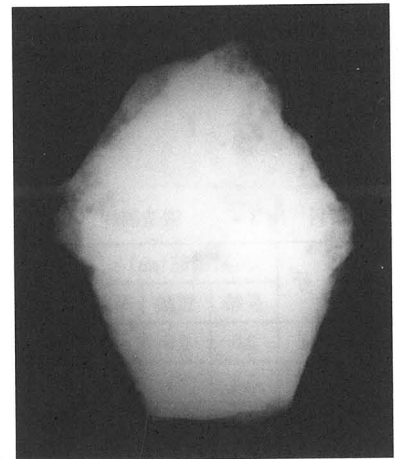
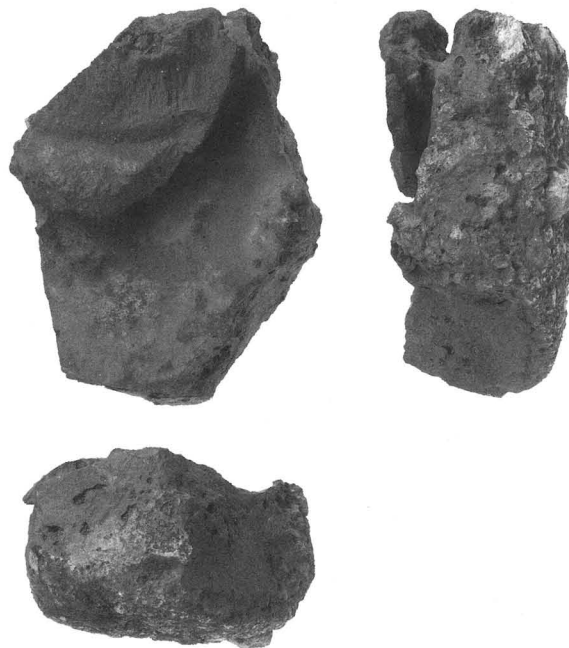
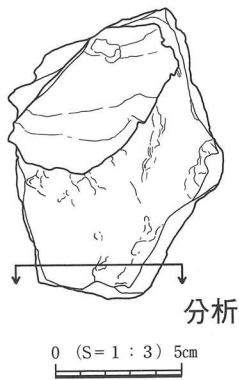
番号	直径(mm)	色調	形状及び表面	磁着	気孔
2-イ-1	3.8	濃茶褐色	表皮の半分ほどが剥落した粒状滓様の遺物。表面にはクレーター状の気孔が目立つ。	やや強	多く点在
2-イ-2	2.4	黒褐色	表皮が全て剥落した粒状滓様の遺物。形はややいびつで、気孔点在する。	やや強	点在する
2-ロ-1	1.6	黒褐色	正円の粒状滓。表面にはやや光沢をもち、微細な付着物あり。	やや弱	なし
2-ハ-1	1.8	やや青光りする青灰色	ほぼ正円で、一方の側部に小さな突出部あり。表面はわずかな波状を呈す。	やや弱	なし

出土状況	遺跡名		博労町遺跡 3区		構成No.		23		項目	滓	メタル
	出土位置		鉄関連遺物廃棄土坑 下層		時期：根拠		9世紀前半：出土土器				
試料記号	検鏡：BAK-3		計測値	長径	—	色調	表：	—	遺存度	—	マクロ
	化学：—			短径	—		cm	地：			
遺物種類 (名称)	放射化：—		値	厚さ	—	磁着度	1	前含浸	—	析	X線回折化学耐火度
	鍛造剥片 (6点)			重量	—		g				メタル度
観察所見	<p>現地調査の段階に於いて焼土や鉄滓の集中区を鍛冶遺構と仮定して、50cmメッシュで土砂ごと採取の後、水洗・分離された資料である。分析資料No.2の詳細観察でも触れているとおり、鉄関連遺物廃棄土坑、下層の土砂から水洗・分離された鍛造剥片は量が際立って多い。資料化にあたっては、篩目の違いにより、大きさ別に荒区分したのち、まず標準磁石を用いて磁着傾向の強弱に二分した。この母資料から代表厚みの資料3点を選んで、合わせて6点の分析資料にした。鍛造剥片全体の傾向は中厚から薄手にまたがっており、表面が本来の酸化色ではなく、周辺からの影響の強い二次的な錆色に覆われていることも特色となる。詳細は別表参照。</p>										
分析部分	必要品を選択し、鍛造剥片として分析に用いる。残材返却。										
備考	<p>分析資料No.2の詳細観察でも触れているとおり、粒状滓に比べて数百倍以上の量を測る鍛造剥片が分離されている。検出遺構そのものは、廃棄土坑と考えられるため、周辺に本来の鍛冶遺構が存在した可能性があるが、明瞭な遺構としては検出されていない。その理由は、①鍛冶遺構が調査範囲外となった。②鍛冶遺構が削平等で消失した。こうした二つの可能性を持っている。鉄関連遺物廃棄土坑の東側には未調査の空間地があり、あるいはここに鍛冶遺構が含まれている可能性があるかも知れない。なお、廃棄土坑の北側には大形の掘立柱建物と溝 (道?) が検出されており、これらとの関係も検討課題であろう。</p>										

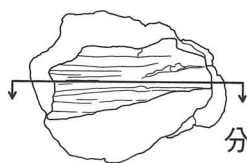
分析資料 No.3 鍛造剥片 (6点)

番号	計測値(mm)			色調	表	裏	磁着	気孔
	長軸	短軸	厚さ					
3-イ-1	3.6	2.6	0.4	表裏 黒褐色	表面は平滑で端部がそり返る。	弱い細かい波状の剥離面。	やや弱	ややあり
3-イ-2	3.4	2.1	0.2	〃	表面は平滑で筋が二条あり。	弱いチリメン状の剥離面あり。	〃	ややあり
3-イ-3	3.7	2.2	0.1	表裏 青黒~黒褐色	平滑で、ゆるやかな波状となる。	弱い細かい波状の剥離面。	〃	なし
3-ロ-1	3.3	1.9	0.4	〃	平滑ながらややざらつく。	〃	やや強	ややあり
3-ロ-2	2.7	2.2	0.2	〃	平滑で、一部に小さなキズあり。	〃	〃	なし
3-ロ-3	2.2	1.8	0.1	〃	平滑で、僅かにキズあり。	〃	〃	なし

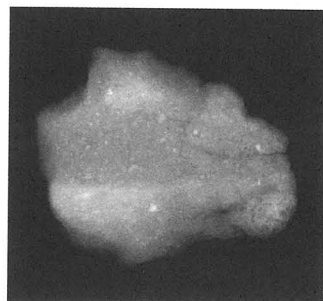
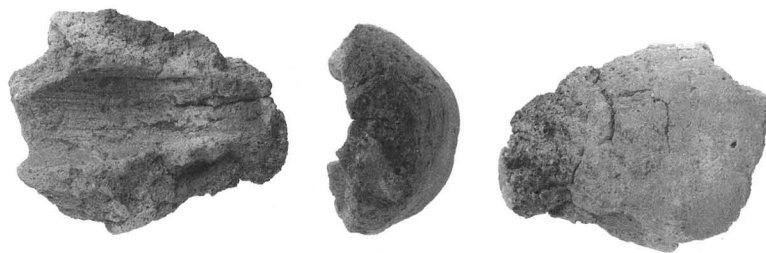
出土状況	遺跡名	博労町遺跡 3区		構成No.	47			項目	滓	メタル
	出土位置	D-2 No801		時期：根拠	9世紀前半：出土土器					
試料記号	検鏡：BAK-4	計測値	長径	11.5 cm	色調	表：淡茶褐色 ～黒褐色	遺存度	破片	マクロ 検鏡 硬度 EPMA	○ ○
	化学：BAK-4		短径	8.5 cm		地：明褐色・ 黒褐色	破面数	11		
遺物種類 (名称)	放射化：—		厚さ	6.6 cm	磁着度		1	前含浸	—	X線回折 化学 耐火度 カロリー 放射化
	流出溝滓 (製錬系)		重量	715.9 g	メタル度	なし	断面樹脂	—	X線透過	
観察所見	<p>平面、不整六角形をした盤状の流出溝滓破片。側部は直線状の連続的な破面に覆われており、破面数は11を数える。上面は上下二段に分かれた流動する平滑面で、上面側の表皮にはチリメン状の流れ皺を生じている。下面は左右方向に向かうごく緩やかな舟底状になっており、全体に2cm大以下の炉壁粉や礫岩の小片を噛み込んでいる。なお、破面から見ると噛み込みの厚さは、最大1.5cmほどになる。炉壁片の胎土は短いスサを含む密度の高い粘土質で、被熱のためか明褐色から白色気味。滓質は緻密で、破面の結晶はやや肥大する。色調は表面の酸化した土砂が淡茶褐色で、滓部は表面地とも黒褐色となる。</p>									
分析部分	<p>短軸端部1/10を直線状に切断し、滓部を分析に用いる。残材返却。</p>									
備考	<p>ゆったりと右方向に流れる製錬系の流出溝滓の中核部破片の可能性が高い。本遺跡全体としては、鍛冶系の椀形鍛冶滓の出土量が多いが、製錬系の流出溝滓や流動滓も22点ほど確認されている。これらのうち、比較的大ぶりの滓の底面には、本資料と同様、炉壁粉や礫岩の破片を噛み込んでいる。本遺跡自体は砂丘上に位置しているもので、礫岩の露出している地点で製錬炉の操業（箱形炉）が実施されていたことを予想させる。なお、炉壁土にスサを一定量含み、9世紀代前半の鍛冶系の滓や土器片と共に出土していることから、製錬炉の操業時期は、古代（9世紀前半以前）に属するものと見ておきたい。従って、砂丘上の集落遺跡からの出土品とはいえ、古代の製鉄炉の存在を窺わせる手がかりとなる情報が得られたものと評価されよう。</p>									



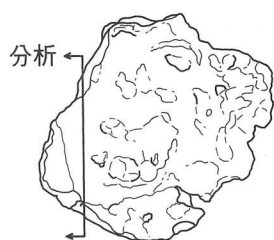
出土状況	遺跡名	博労町遺跡 5区		構成No.	60			項目	滓	メタル				
	出土位置	A-2 No824		時期：根拠	9世紀前半：出土土器									
試料記号	検鏡：BAK-5	計測値	長径	7.8 cm	色調	表：褐色～灰色～黒褐色	遺存度	破片	分	マクロ	◎			
	化学：BAK-5		短径	6.1 cm		地：淡茶褐色～黒褐色				破面数			7	X線回折化学耐火度
	放射化：—		厚さ	2.3 cm		磁着度	1	前含浸						—
	遺物種類(名称)		羽口(鍛冶、先端部～体部)	重量		89.9 g	メタル度	なし		断面樹脂			—	X線透過
観察所見	<p>鍛冶羽口の先端部破片。先端部方向に向かって直線的に先細りとなる羽口で、正面から見て、径の2/5ほどの破片である。側部2面と基部側が連続する小破面となっており、破面数は7を数える。通風孔部の径も外形と相似する先細り気味になる。先端から5cmほど基部側に向かった部位での通風孔部径は2.4cmを測る。先端部外面は素直に被熱し、最大厚み1cmほどが発泡気味に滓化する。続いて基部側に向かい3cm幅程度の灰色被熱帯、1cm幅程度の灰褐色被熱帯、さらに淡赤褐色被熱帯の順に熱変化する。外面の整形は、基部側から先端方向に向かう丁寧なヘラケズリによる。通風孔部の穿孔方法は、やはり先端方向に向かうもので、穿孔具の荒れのためか不規則な筋目が壁面に明瞭に残されている。胎土は砂粒を一定量含む粘土質で、スサ等は含まれていない。外面の色調は前記各部のとおり。地は淡赤褐色から赤褐色となっており、滓化した部分の一部が黒褐色を示す。</p>													
分析部分備考	<p>短軸端部1/2(径の1/2)を直線状に切断し、羽口として分析に用いる。残材返却。</p> <p>本遺跡出土の羽口破片は小片を含めてごく僅かで、本資料が最大破片となる。出土位置は5区A-2となっており、3区出土の分析資料No.1からNo.4との位置関係は未調査の空間を挟んだ南東側に位置する。そのため、分析資料No.1からNo.4とセットとなるかどうかは不明。なお、遺跡全体的な傾向は3区出土品が鍛冶関連遺物主体で、5区出土品が鍛冶関連遺物に加えて製錬系の滓が比較的に目立っている。また、本資料と分析資料No.7は、出土位置がやや離れてはいるが、同じ5区出土品になる。</p>													



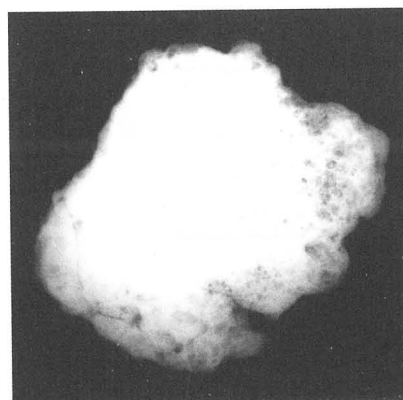
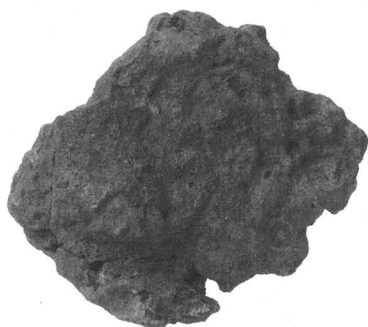
0 (S=1:3) 5cm



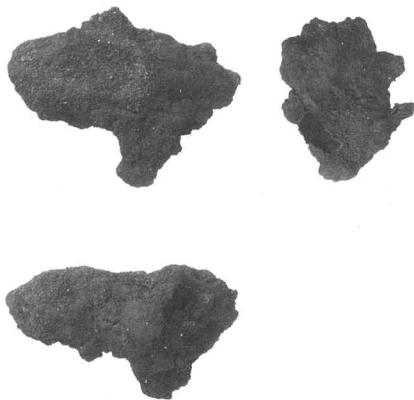
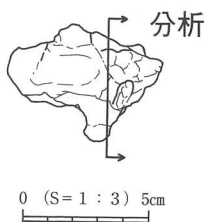
出土状況	遺跡名	博労町遺跡 3区		構成No.	63			項目	滓	メタル		
	出土位置	A-2 No.3714		時期：根拠	9世紀前半：出土土器							
試料記号	検鏡：BAK-6	計測値	長径	8.9 cm	色調	表：茶褐色～黒褐色	遺存度	破片	分	検鏡	○	
	化学：BAK-6		短径	9.2 cm		地：淡茶褐色～黒褐色	破面数	1		硬度	○	
遺物種類 (名称)	放射化：—		厚さ	3.6 cm	磁着度	1	前含浸	—	析	X線回折 化学 耐火度	○	
	梔形鍛冶滓(小)		重量	259.8 g	メタル度	なし	断面樹脂	—		カロリー 放射化		
観察所見	<p>左上手側の側部が欠落したほぼ全形に分かる小形の梔形鍛冶滓。全体に板状の滓で、左側がやや厚く、右方向に向かい徐々に薄くなる特色を持つ。破面数は1を数える。上面は中央やや左寄りが僅かに高まっており、外周部には浅い木炭痕が点々と残されている。肩部や側部には僅かに出入りがあり、いずれも木炭痕による。下面は左下手側のみが鍛冶炉の炉床に接した丸みを持った梔形の底面で、残る右側は木炭痕が目立つ凸凹した自然面となる。破面に露出する滓質はほぼ緻密で、中間層には横方向に伸びる隙間が残る。滓は全体的に磁着が弱い、上面右寄りのみやや磁着反応が強い。色調は表面の酸化土砂が茶褐色で、滓部は風化した破面が淡茶褐色。地は黒褐色となる。</p>											
分析部分	<p>長軸端部1/6を直線状に切断し、滓部を分析に用いる。残材返却。右下手側の肩部付近の二破片がセメダインで接合されていることに留意。</p>											
備考	<p>扁平な、標準的な小形の梔形鍛冶滓である。鍛冶関連遺物を多出した廃棄土坑と同じ3区の中でも10mほど南東に離れたA-2区からの出土品である。従って生成された鍛冶工房自体は、廃棄土坑出土品と同一かも知れない。いずれにしても、羽口片が少なく、金床石の破片等も全く出土していないことから、鍛冶工房からの一括廃棄品としては種類が偏っている。博労町遺跡全体としてはむしろ、かなり広範囲に鍛冶関連遺物が散在しており、比較的集中するのが3区の鉄関連遺物廃棄土坑となる。</p>											



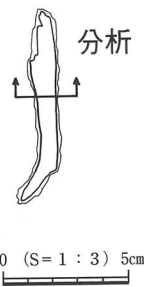
0 (S=1:3) 5cm



出土状況	遺跡名	博労町遺跡 5区		構成No.	89			項目	滓	メタル		
	出土位置	B-3・4 No.39		時期：根拠	9世紀前半：出土土器							
試料記号	検鏡：BAK-7	計測値	長径	4.6 cm	色調	表：茶褐色～濃茶褐色	遺存度	完形？	分	マクロ	○	
	化学：BAK-7		短径	6.2 cm		地：濃茶褐色～黒褐色	破面数	0？		検鏡硬度EPMA	○	◎
	放射化：—		厚さ	3.5 cm						析	X線回折化学耐火度	○
遺物種類(名称)	椀形鍛冶滓(極小、含鉄、鉄製品鍛造品付き)	重量	68.6 g	磁着度	6	前含浸	—	カリリー放射化				
				メタル度	H(○)	断面樹脂	○	X線透過	○			
観察所見	<p>表面が酸化土砂や濃茶褐色の錆色に覆われた含鉄の椀形鍛冶滓様破片。但し、外観的には通常の椀形鍛冶滓とは異なり、側部や下面が不規則に突出する。そのため、完形品か破片かの区別も厳密には出来ない資料である。注目されるのは、下面の下手側に小さな鉄製品(鍛造品)の端部が突出する点にある。幅は約1cm、厚みは1mm前後を測り、刀子の刃部様。加えて、透過X線像には直線状に伸びる筋様の影が他に3ヶ所以上確認されるため、内部の主体は複数の鉄製品破片かもしれない。外周部が滓化した故鉄処理途上の鉄塊系遺物の可能性もあり。外観上確認される鉄製品の突出は一ヶ所のみとなっているが、滓としては不自然な凹凸に覆われており、磁着も全体に強い。表面には部分的に小さな垂れや錆腥れの欠けも生じており、僅かに放射割れも生じ始めている。色調は表面の酸化土砂が茶褐色で、含鉄部は表面、地とも濃茶褐色から黒褐色となる。</p>											
分析部分	<p>長軸端部1/3を直線状に切断し、メタル部を中心に分析に用いる。残材断面に樹脂塗布。残材返却。切断指定位置となる下面下手側に刀子刃部様の小さな鉄製品の端部が突出していることに特に注意を要する。</p>											
備考	<p>外観的には製錬系の鉄塊系遺物にも類似しており、透過X線像に見られる直線状の筋目が木炭痕由来という感じも受けるが、下面下手側に突出する鉄製品の存在から、故鉄処理途上の含鉄の滓の可能性がどちらかと言えば高そうである。出土位置自体は、5区の北西側に位置するB-4区で、分析資料No.5の羽口と比較的近い位置関係にある。また、3区の鉄関連遺物廃棄土坑、下層出土品の中にも分析対象外ではあるが、小釘や刀子破片等が複数含まれており、全体傾向としては、本資料とかなり類似する印象を受ける。従って、故鉄の再処理(おろし作業)工房の存在が想定されることになる。また、残る課題としては、こうした鍛冶作業と分析資料No.4のような製錬系の鉄遺物の存在との関わりであろう。鉄に関わる一連の作業工程の中でも、最初と最後の工程を示す資料のため、連続性を示す証拠には欠けるとまでは言える。</p>											



出土状況	遺跡名	博労町遺跡 3区		構成No.	165			項目	滓	メタル	
	出土位置	C-1 No.978		時期：根拠	9世紀前半：出土土器						
試料記号	検鏡：BAK-8	計測値	長径	7.6 cm	色調	表：茶褐色～濃茶褐色	遺存度	破片	分	マクロ	○
	化学：BAK-8		短径	1.2 cm		地：濃茶褐色	破面数	5		検鏡硬度	○
放射化：—	厚さ		1.1 cm	磁着度	5		前含浸	—	析	X線回折化学耐火度	○
遺物種類(名称)	鉄製品(鍛造品、棒状不明品)		重量		20.2 g	メタル度	H(○)	断面樹脂		○	カリリー放射化
観察所見	<p>下手側の端部が緩やかに折れ曲がった鉄製品破片。表面全体が錆化して、表皮の剥落や筋状のひび割れが長手方向に走っており、性格のはっきりしない資料である。上手側の端部はやや丸みを持って収束気味で、一見、完形のようにも見えるが、左側の表皮は欠落して、全体としては舟の軸先状に小さく反り返っている。透過X線像には鍛造品を示す細い筋状の伸展層や、ひび割れが数多く確認される。含鉄部は僅かで、錆化範囲の方が広い。横断面形は方形ではなく、裏表方向にやや長手の長方形となっている。色調は表面の酸化土砂が一部、茶褐色で、大半は濃茶褐色となる。</p>										
分析部分	<p>短軸端部1/2を直線状に切断し、メタル部を中心に分析に用いる。残材断面に樹脂塗布。残材返却。</p>										
備考	<p>本遺跡から出土した鉄関連遺物の中から構成した171点のうちの一つである。このうち遺構に伴わないグリッド出土の鉄製品が60点を数える。本資料を分析資料として選択した理由は、鉄関連遺物廃棄土坑と同じ3区出土品であるということ、一見、鍛冶具の一種である鉄鉗、あるいは火掻き棒様の鉄製品破片であることによる。出土位置は鉄関連遺物廃棄土坑のすぐ東側に位置するグリッドになる。錆化の激しさや、表層の脱落が通常の鉄製品より進んでおり、また、下手側の端部が不自然に折れ曲がった状態で欠けていることから、鍛冶具破片の可能性の有無を目的として分析資料の中に加えられている。</p>										



4. まとめ

博労町遺跡から出土した鉄関連遺物についての調査成果は、海浜部に近い砂丘上において製錬炉の操業を行っている可能性が推察された点にある。これまで、鳥取県内の鉄製錬遺跡は、やや内陸の丘陵部に位置するものが知られていたが、今回の調査により、立地について、新知見を提供したものと考えられる。従来は、素材となる砂鉄や燃料となる木炭の入手に適した場所として、丘陵地が選択されていたものと考えられて来たが、想像をたくましくすれば、むしろ海浜部に近い場所は浜砂鉄の入手が容易で、還元剤となる炭材も海浜の樹木帯で比較的容易に調達できるとも考えられよう。従って、遺跡の性格としては、整然とした区画施設の存在から、官衙類似遺跡の一種とも見られ、製錬や鍛冶作業を行う施設が付属していたものと推察される。

但し、残念ながら直接的な証拠である製錬炉の跡は検出できなかったが、製錬工程の遺物である流動性の滓の分布範囲は5区に集中しており、この5区の東側の隣接地付近で製錬炉の操業が行われていた可能性が高いものと考えられるに至った。また、この事実から、博労町遺跡の性格が単なる遺跡内での鉄器製作のみに留まらず、鉄生産にまで関与していたことを示し、より、公的な施設であった可能性を伺わせるものである。

鍛冶関連の遺物では、鉄製品が主体となるが、鉄滓や羽口などの直接的な遺物も出土している。また、鍛冶関連遺物廃棄土坑からは、小さく割れた鉄製品の破片が多数出土しており、故鉄を利用したリサイクル鍛冶の存在を示すものと考えられる。鉄製品の中では大型品が少なく、古代会見郡の郡工房と見られる坂長第6遺跡周辺で見つかったような、鋤先等が出土していないことも、博労町遺跡内で行われた鉄器製作の実態を表しているのかも知れない。

鉄製品の中で目立ったのは、鉄製紡錘車の出土量の多さである。博労町遺跡からは、7点の鉄製紡錘車が出土したが、周辺の遺跡でもこれほどまとまって出土する例は珍しい。鎌倉期には、米子平野一帯の長砂周辺に「布美荘」の存在が知られているが、この博労町遺跡周辺が古代から布生産に関わりのある地域であったことと、これらの鉄製紡錘車の存在にまで言及するのは、やや過大評価しすぎであろうか。

また、今回の構成遺物には収録されなかったが、鍋・釜類の破片と見られる、鑄造によって製作された鉄片もいくつか出土しており、古代にまで遡る鑄鉄資料が存在した可能性も否定できない。今回は遺構に伴う確実な年代資料が得られなかったため、明確にすることは出来なかったが、今後の調査において鑄鉄製品の存在がどこまで遡れるのか、注意すべき点と考えられる。

表10 博労町遺跡(鉄関連遺物廃棄土坑及び包含層出土鉄滓、鉄製品)の主要要素一覧表 (まとめ表)

項目	主要素	博労町遺跡 (ばくろうまちいせき)				
調査	調査概要	平成19年度(2007年度)～平成20年度(2008年度) 調査組織：米子市埋蔵文化財調査室				
遺構情報	主要鉄関連遺構	(1)鉄関連遺物廃棄土坑 1基				
	鍛冶関連遺構の情報	鉄関連遺物廃棄土坑	時期	9世紀	立地・規模	砂丘上・標高4.4m前後
				施設	廃棄土坑・2.45m×1.62m	
遺物情報	鉄関連遺物全体構成	全鉄関連遺物171点：6.6915kg/流出溝滓5点：1.4594kg、流動滓6点：0.4226kg、炉壁(製錬炉)1点：0.0368kg、椀形鍛冶滓41点：2.9116kg、鍛冶滓9点：0.0775kg、鉄塊系遺物1点：0.0014kg、再結合滓2点：0.0097kg、鉄製品76点：1.1662kg、炉壁(鍛冶炉)8点：0.1637kg、粘土質溶解物13点：0.2396kg、土器(被熱滓付)1点：0.0015kg、羽口(鍛冶)6点：0.2015kg、粒状滓、鍛造剥片				
	鉄製品構成	鉄製品総数:76点：1.1662kg 鉄片(未製品を含む)4点：0.0185kg、刀子18点：0.2604kg、釘26点：0.391kg、絞具3点：0.0479kg、棒状不明品4点：0.0573kg、鎌9点：0.1199kg、紡錘車1点：0.0032kg、鎌4点：0.0493kg、楔2点：0.0484kg、鏝2点：0.0361kg、火打金1点：0.0275kg、薄板状不明品1点：0.0255kg、飾金具1点：0.0812kg				
分析	分析点数	●金属学的分析:8点 ◎椀形鍛冶滓(3点)、粒状滓(1セット4点)、鍛造剥片(1セット6点)、流出溝滓(1点)、羽口(1点)、鉄製品(1点) ◎分析項目/マクロ組織・顕微鏡観察・ビッカース断面硬度・化学組成分析・耐火度分析(解析):㈱九州テクノロジー(大澤正己・鈴木瑞穂)				
分析資料 8点中	工程/遺物種	鉄製錬～鍛錬(TiO ₂)				
		遺構名	製錬系	精錬鍛冶	鍛錬鍛冶(前半)	鍛錬鍛冶(後半)
	()内はTiO ₂ 値。 (-)は分析せず。	包含層	(4)流出溝滓(7.37) (7)製錬滓(4.04)	(5)羽口(0.69) (6)椀形鍛冶滓(0.48)		(8)鉄製品(0.50)
		鉄関連遺物廃棄土坑		(1)椀形鍛冶滓(-)	(2)粒状滓(-)	(3)鍛造剥片(-)
総括	遺構	・検出された鉄関連の遺構は、9世紀前半頃と推測される鍛冶関連遺物の廃棄土坑1基のみである。 ・製錬系の遺構は未検出。				
	整理・解析	・整理方法は、保存・活用までを視野に入れたA～Dの4ランク、個票付け方式で行い、全重量34.0515kgの中から、A保存(分析資料)を8点1.1735kg、B保存(報告書掲載資料)を162点5.518kg、C保存(屋内管理資料)を27.36kg、D保存(屋外管理資料)を0kgとした。A～D保存の比率は、4:16:80:0となる。 ・金属学的な分析の結果、本遺跡周辺で行われた作業工程としては、製錬から鍛錬鍛冶に至る一連の作業が行われていたものと推定される。				
	製錬関係	・流出溝滓や流動滓と共に、製錬炉の炉壁片が出土しており、調査地点の周辺に製錬炉が存在した証拠と考えられる。				
	鍛冶関係	・鍛冶関連遺物廃棄土坑の存在から、調査地点3区の周辺に鍛冶工房が存在するものと考えられる。また、出土した鉄製品は、鉄片や刀子片、皆折釘などの小形品が主体である。				
	時期	・出土土器による年代観は、9世紀前半と見られる。				
評価と課題	・発掘調査では工房跡は確認できなかったが、製錬炉に伴う炉壁や流出溝滓に加えて、鍛冶関連遺物を廃棄した土坑が検出されたことから、本遺跡周辺では製錬から鍛錬鍛冶に至る工程が行われていたことが判明した。 ・周辺部の鉄関連遺跡の調査例としては、陰田広畑遺跡や新山山田遺跡、坂長第6遺跡等が上げられるが、いずれも丘陵上や斜面に位置しており、砂丘上に立地している本遺跡とは異なる環境にある。これまでは、海浜部に近い場所での製錬遺跡の存在についてはほとんど注目されてこなかったが、本遺跡例は製錬炉の立地についても新知見を提供したものと考えられる。 ・本遺跡は古代半生郷の範囲に属するものと推測され、検出された建物跡や遺物から、官衙末端施設の可能性がある。ただし、出土した鉄製品は小形品が主体で、大形の鉄製品を製作していた郡衙工房である坂長第6遺跡とは、工房の性格が違うものと推測される。あるいは、遺跡内で行われた鍛冶作業は、皆折釘などの存在から、故鉄を利用したりサイクル鍛冶を含んだものであったのかも知れない。					

(作表:穴澤義功・佐伯純也)

第8節 博労町遺跡出土中世遺物の検討

— 錦町第一遺跡出土中世資料と比較して —

濱野 浩美

1. はじめに

今回の調査では、クロスナ最上（第Ⅲ-①）層において、中世前期の畠が検出された。畠は調査区全体に亘っており、水路、畦、畝等耕作関係の遺構が検出されている。言うまでもなく耕作地は生産遺跡であり、常に堆積土の移動がつきものであることから、良好な一括遺物資料は出土していない。それ故に畝や畦の新旧関係や、耕作土中の出土遺物を、単純に遺構の帰属時期と結び付けることはできない。更に、本遺跡のような砂丘地の場合飛砂の問題もあり、埋砂の累重状況が単純に遺構の新旧関係に繋がらない場合もあり得る。こうした問題が、本遺跡の中世前期の遺構の時期決定を困難なものにしている。ただし、そうした中でも、畠出土中世資料及び包含層出土資料の集計を行い、組成表を作成することにより、遺構の中心時期やその出土傾向を探ることは十分可能であると考えた。

1995年に調査が行われた錦町第一遺跡は、博労町遺跡に近接する市街地の砂丘上に立地する遺跡である。この遺跡においても、クロスナ（第Ⅲ-①）層最上面から中世前期の畠が検出されている（平木 1996）。本節では、この錦町第一遺跡出土の中世遺物についても、中世資料全体の組成表を作成し、その出土傾向を探ってみた。その上で、立地条件や出土遺構の性格も近似する両遺跡の中世資料を相互比較することにより、米子海浜砂丘域における、中世前期の出土遺物の傾向について検討してみた。

2. 博労町遺跡出土中世資料

博労町遺跡出土の中世資料の集計に際しては、基本的には破片点数を1点として集計を行った。ただし、土師質鍋については、破片資料全体としては遺物整理用コンテナ約半箱分と、最も出土量が多かったが、元の個体の大きさを考慮して、口縁の形態で個体別にカウントを行った。また、各畠で出土したものについては、遺構別に表を作成したが、包含層出土のものについては、グリッドごとに集計すると、出土点数が細分され過ぎてその傾向が掴みにくいこと、区一括で取り上げられたものもあることから、区ごとに集計を行った。なお、比較検討の利便性を考えて、各遺構出土遺物についても表中に出土区を記載している。

その結果をまとめたものが第1表である。7,500㎡の調査区から、総数で295点の中世遺物が出土している。全体的には、舶載陶磁器が184点と、国産製品よりも多いことが分かる。個別の比率をみると、白磁が53%と全体の半数以上を占め、このうちⅣ類碗が77点（26%）、Ⅴ類碗が36点（12%）とその主体を占めている。青磁は25点（8%）と少ないが、他の国産製品と比較すると決して低い比率ではない。

国産製品で最も多いのは、土師質土器の坏・皿で60点（20%）、次いで土師質鍋が19個体分（6%）となっている。次いで瓦質の播鉢が13点（4%）、壺甕類が8点（2%）、瀬戸・美濃製品3点（1%）が出土している。この他、東播系の鉢が1点、石製品で4区包含層から滑石製の石鍋1点が出土している。

各遺構別の出土状況比率は、畠8が21点（23%）、畠7が17点（19%）、次いで畠9が16点（18%）、

畠6が13点(15%)と続く。特に畠9では、面積に対しての出土密度が最も高かった。これに対し、畠3では3点(3%)、畠4では1点(1%)、畠5では0点(0%)と出土遺物が少ない。これを区ごとにみると、南斜面低位の3・4区の畠では出土遺物が多く、砂丘尾根頂部の2区の畠では出土遺物が最も少ない。この傾向は包含層出土遺物においても同様で、4区が90点(43%)と半数近くを占め、次いで3区が65点(32%)となる。これに対し、2区では10点(4%)と遺物出土量が最も少ない。

この差異の原因としては、畠の立地環境による耕作期間の違いが考えられる。2区は砂丘尾根上に位置しており、標高としては最も高く自然環境の影響を受け易かったと思われる。耕作面も1面のみで、出土遺物から見ても、時期幅はあまり長くない。これに対し、3・4区は調査区南側の緩斜面の低位部分に位置しており、水溜状遺構などの灌漑施設もあり、耕作面も3面以上検出されている。出土遺物にもある程度の時期幅がみられることから、耕作期間は当然長く、結果的に出土遺物も多かったと考えられる。

次に、これらの出土遺物から遺構の時期について検討を試みた。全体的な畠の帰属時期としては、最も出土量の多い白磁碗Ⅳ類、Ⅵ類Ⅲ、土師質土器坏・皿類の形状から、11世紀末～12世紀前半が中心と考えられる。ただし、畠6～8では白磁Ⅸ類の皿など、13世紀代から14世紀前半まで時期が降る遺物が出土している。瀬戸・美濃製品では、畠8で古瀬戸前Ⅱ期の合子が出土し、また、畠7・11では大窯期の皿や播鉢など16世紀代の遺物が出土しているが、これについては各1点ずつの細片でもあり、混じり込みの可能性も否定できない。

第1表 博労町遺跡出土中世遺物集計表

種別	面積	区	中国製品										小計	国産製品										総計					
			同安窯系青磁		龍泉窯系青磁		白磁					青白磁		褐釉陶器	瀬戸・美濃		備前		瓦質土器		東播系		土師質土器		滑石製				
			碗	碗	碗	碗	碗	碗	碗	碗	碗	皿		合子蓋	壺	壺・甕	播鉢	壺・甕	播鉢	鍋	火鉢	播鉢	播鉢		鍋	皿・坏	石鍋		
畠1	1,144㎡	1・5区	2				2	3																	3	10			
畠2	235㎡	1区																									0		
畠3	1,176㎡	1・2区	2				1																				3		
畠4	672㎡	1・2区																							1	1			
畠5	37㎡	2区																									0		
畠6	919㎡	3区		1			1	2				1														8	13		
畠7	728㎡	3区			3	1	4	1	1			1	1	12	1											4	17		
畠8	1,252㎡	4・5区	1	2	1		7				1	1	1	14	1		2	1	1						2	21			
畠9	535㎡	4区		1				1						2			2	1							11	16			
畠10	220㎡	5区												0													0		
畠11	42㎡	5区												0	1										1	3			
畦10		5区								1				1			1	1						1		4			
小計			5	4	4	1	15	7	1	2	0	0	3	1	1	44	3	0	0	3	5	0	2	0	0	1	30	0	88
包含層	1区			2	1		7	1								11										6	3	20	
	2区															0										10	10		
	3区		5			1	30	5		3	9				53	1	2	3							2	4	65		
	4区		3		1		17	22		1	19	3	1			67			2	5		1	1		3	11	1	91	
	5区						8	1								9			3							7	2	21	
総計			13	6	6	2	77	36	1	6	28	3	4	1	1	184	3	1	2	8	13	0	3	1	0	19	60	1	295

に多いことが分かる。その他の国産製品では、瓦質の播鉢が7点（3%）、備前の播鉢が2点（1%）と播鉢類の出土比率が比較的高い。

これらの出土遺物の時期については、白磁や土師質土器の形態から12世紀代と考えられ、博労町遺跡出土の中世遺構と同時期性が高い資料といえよう。

4. 出土土師質土器の比較

次に、同時期性の高い両遺跡出土の中世遺物の中でも、出土量の最も多かった土師質土器の皿・坏類について、形態分類を行い、総数を集計した上で、その出土傾向について比較検討を試みた。

鳥取県内出土の中世前期の土師質土器の皿・坏類については、八埜 興氏により検討が行われている（八埜 1997ほか）。その後、中森 祥氏により、形態分類が行われ、その変遷案が検討されている（中森 2005）。

今回は中森分類を基に以下のように形態分類を行った。

〈小皿〉		〈坏〉	
口 径	I類：7.6cm前後のもの。 II類：8.2cm前後のもの。 III類：8.8cm前後のもの。	器 高	I類：4cm前後のもの。 II類：5cm前後のもの。
口縁形態	a類：内湾気味のもの。 b類：直線的に外傾、外反するもの。	口縁形態	a類：体部中位で「く」字状に屈曲するもの。 b類：体部から口縁にかけて直線的に外傾、外反するもの。 c類：体部が丸味を持つもの。
底部形態	回転糸切りで平底のもの。 回転糸切りで平高台のもの。 回転糸切りで柱状高台のもの。 静止糸切りで平底のもの。 静止糸切りで平高台のもの。 静止糸切りで柱状高台のもの。 ヘラ切りで平底のもの。 ヘラ切りで平高台のもの。 ヘラ切りで柱状高台のもの。 手捏ね成形のもの。	底部形態	回転糸切りで平底のもの。 回転糸切りで平高台のもの。 回転糸切りで柱状高台のもの。 静止糸切りで平底のもの。 静止糸切りで平高台のもの。 静止糸切りで柱状高台のもの。 ヘラ切りで平底のもの。 ヘラ切りで平高台のもの。 ヘラ切りで柱状高台のもの。 手捏ね成形のもの。

これを基に分類集計し、第3表に博労町遺跡、第4表に錦町第一遺跡出土の土師質土器皿・坏類をまとめた。

まず、博労町遺跡出土の土師質土器については、総数で42点、このうち小皿類が41点（98%）、坏類が1点（2%）と小皿類が圧倒的に多い。その小皿類については、底部は回転糸切りが殆どで、ヘラ切りのものはなく、手捏ね成形のものは1点のみの出土である。口径については、I類が41%、II類が34%、III類が24%と最も小型のI類が多い。全体的にみると、I・II-b類の回転糸切りで平底

第3表 博労町遺跡出土土師質土器集計表

器種	口径	形状		個数	
		糸切り	ヘラ切り		
I	a	回転	平底	7	
			平高台		
			柱状高台		
		静止	平底		
			平高台		
			柱状高台		
	ヘラ切り	平底			
		平高台			
		柱状高台			
	手捏ね				1
	b	糸切り	回転	平底	9
				平高台	
柱状高台					
静止			平底		
			平高台		
			柱状高台		
ヘラ切り		平底			
		平高台			
		柱状高台			
手捏ね					
II		a	回転	平底	2
				平高台	
	柱状高台				
	静止		平底		
			平高台		
			柱状高台		
	ヘラ切り	平底			
		平高台			
		柱状高台			
	手捏ね				
	III	a	回転	平底	10
				平高台	2
柱状高台					
静止			平底		
			平高台		
			柱状高台		
ヘラ切り		平底			
		平高台			
		柱状高台			
手捏ね					
III		a	回転	平底	6
				平高台	1
	柱状高台				
	静止		平底		
			平高台		
			柱状高台		
	ヘラ切り	平底			
		平高台			
		柱状高台			
	手捏ね				
	III	b	回転	平底	2
				平高台	1
柱状高台					
静止			平底		
			平高台		
			柱状高台		
ヘラ切り		平底			
		平高台			
		柱状高台			
手捏ね					
総計				41	

第4表 錦町第一遺跡出土土師質土器集計表

器種	口径	形状		個数	
		糸切り	ヘラ切り		
I	a	回転	平底		
			平高台	1	
			柱状高台		
		静止	平底		
			平高台		
			柱状高台		
	ヘラ切り	平底			
		平高台			
		柱状高台			
	手捏ね				
	II	a	回転	平底	19
				平高台	8
柱状高台					
静止			平底		
			平高台		
			柱状高台		
ヘラ切り		平底			
		平高台			
		柱状高台			
手捏ね				7	
III		a	回転	平底	3
				平高台	
	柱状高台				
	静止		平底		
			平高台		
			柱状高台		
	ヘラ切り	平底	36		
		平高台	10		
		柱状高台			
	手捏ね				3
	III	a	回転	平底	2
				平高台	1
柱状高台					
静止			平底		
			平高台		
			柱状高台		
ヘラ切り		平底	6		
		平高台	3		
		柱状高台			
手捏ね				4	
III		a	回転	平底	5
				平高台	6
	柱状高台				
	静止		平底		
			平高台		
			柱状高台		
	ヘラ切り	平底	25		
		平高台	7		
		柱状高台			
	手捏ね				2
	III	a	回転	平底	9
				平高台	2
柱状高台				1	
静止			平底		
			平高台		
			柱状高台		
ヘラ切り		平底	2		
		平高台	1		
		柱状高台			
手捏ね				4	
III		b	回転	平底	7
				平高台	1
	柱状高台				
	静止		平底	2	
			平高台		
			柱状高台		
	ヘラ切り	平底	5		
		平高台	2		
		柱状高台			
	手捏ね				1
	総計				184

を呈するものが46%と最も多い。

坏については、形態復元できたものが1点のみと非常に少なく、その傾向を捉えることはできなかった。

続いて、錦町第一遺跡出土の土師質土器については、形態復元できたものが総数で206点、このうち小皿類が184点(89%)、坏類が22点(11%)と小皿類が博労町遺跡と同様に多い。

小皿類についてみてみると、底部については糸切り、ヘラ切り、手捏ね成形のいずれもが出土している。このうち主体的なものはヘラ切りのもので全体の67%を占める。特に、小型のⅠ類に関しては、糸切り底のものは1点も出土していない。これに対し、皿類については、底部糸切りのものが多くなる。口径については、Ⅰ類が47%、Ⅱ類が33%、Ⅲ類が20%と、博労町遺跡と同様に小型のⅠ類が多い。全体的にみると、錦町第一遺跡ではⅠ・Ⅱ-b類の底部ヘラ切りで平底を呈するものが33%と最も多い。また、手捏ね成形のものが11%と、一定量占めるのも特徴的である。

坏については、底部の形態に糸切りとヘラ切りがあるが、手捏ね成形のものはない。このうち主体となるのはヘラ切りのもので全体の64%を占める。この点については、皿と同様の出土傾向である。器高については、Ⅰ類が91%とその主体を占める。全体的にみると、Ⅰ-a類の底部ヘラ切り、平底のものが23%、次いでⅠ-b類の底部回転糸切りで平底を呈するものが18%となる。

この他、形態復元できず、図化や表には掲載できなかったが、錦町第一遺跡では柱状高台の底部のみ遺存しているものが20個体分出土していることも大きな特徴である。

なお、錦町第一遺跡では膨大な量の細片遺物が出土している。磨耗した細片の形状を見ると、近接地から客土として持ち込まれた可能性や、飛砂と共に運ばれた可能性も考慮せねばならない(註1)。ただし、この遺跡では土器溜りから一括資料が出土しており、この一括遺物と細片遺物とを比較しても形態差はみられない。従って、細片遺物についても、基本的には同時期に使用されたものが耕作土に包含されたものと考えたい。

以上、両遺跡出土の土師質土器皿・坏類について概観してみた。

両遺跡を比較すると、土師質土器の小皿Ⅰ類の出土量の多さについては共通している。これは先行研究で示された西伯耆における12世紀代の土師質土器の出土傾向と大過ないものと考えられる(中森2005)。これに対し、その成形技法については、両遺跡間でかなり大きな違いが生じている。即ち、博労町遺跡では、底部は回転糸切りが殆どであるのに対し、錦町第一遺跡ではヘラ切りが主体である。また、博労町遺跡では手捏ね成形の、いわゆる京都系土師器皿の類は1点のみの出土であるが、錦町第一遺跡では一定量出土していることも大きな違いである。この他、博労町遺跡で1点も出土していない柱状高台の土師質土器が、錦町第一遺跡では20点以上出土しているのも大きな特徴であろう。また、坏の出土量も博労町では1点、錦町では22点と大きく異なる。

ただし、いずれの土師質土器も胎土に大きな違いはなく、同じ12世紀代の近接する遺跡間でこのように成形技法の違いが生ずるのはいかなる要因によるものか、その原因を明らかにすることはできなかった。あるいは、在地の工人集団の違いによるものであろうか。

6. まとめ

以上、博労町遺跡と錦町第一遺跡の中世資料の検討を試みた。調査面積が異なることや、破片資料

のカウントが困難であったことなどから、このデータのみで単純に両遺跡を比較することは安易な部分もあるが、近接する遺跡で同様な性格を持つ遺構が検出されているということは、十分比較検討の材料になり得ると思われる。

この検討を通じて判明したことは、出土遺物の中心時期から、明らかに両遺跡が同時期性を持つ遺跡であることである。中世遺物の上限については、両遺跡とも11世紀後半代と同時期で、中心時期も12世紀代と同一である。ただし、下限については、錦町第一遺跡は12世紀代に留まるが、博労町遺跡では時期幅があり、下限は14世紀前半頃まで降る。組成については、両遺跡とも瓦器碗や吉備系土師器碗がなく、舶載陶磁器類が一定量出土する傾向は、従前から言われている山陰の中世遺物の出土傾向に追随するものである（中森 2005）。

ただし、今回検討した資料は一括資料がなく、耕作地という遺跡の性格も、その時期的変遷を捉えることを困難にしている。また、土師質土器は復元不可能な細片資料が多く出土量全体の中での傾向を把握することが非常に困難であった。しかしながら、出土資料すべてを数量的に検討していくことにより、遺跡の出土傾向をある程度は掴むことが出来たものと思われる。

即ち、今回の調査では、生産域のみの検出であり、遺跡の中心部分である屋敷跡などの集落遺構は確認できなかったが、出土遺物を見ると、貿易陶磁器の出土量が国産製品を凌駕すること、国産製品にも瀬戸・美濃製品や東播系須恵器、滑石製石鍋などの広域流通品が出土しており、当該期の遺跡地の交易流通の実態を十分裏付ける資料であると考えられる。地理的に考えてもこの遺跡が海浜部に近い砂丘上に位置しているということが、中世における日本海海運の動向を考える上で重要な意味合いを持つと思われる。

中世考古学において東シナ海を内海とする交流交易に関する研究は盛んに行われている（井上 1991）。そのなかで、北部九州や山口県など日本海沿岸域の中世対外交易の拠点と考えられる遺跡も増加している。

今回検討した博労町遺跡出土の中世資料も同様に、日本海域における中世前期の交易の活況を物語る、重要な一資料であると考えられよう。

（註1）中世鎌倉の遺跡の地業層等では、大量の客土を持ち込んでの版築地業を行っている例がみられるが、その際その土の中から碎片土師質土器が出土する。また、多量の土師質土器の坏・皿類を破碎して地業面を構築している例もあり、必ずしも遺跡地で使用された土師質土器類が出土するわけではない。また、県中央部湯梨浜町の海浜砂丘域に立地する長瀬高浜遺跡では奈良・平安時代の遺構面に、斜面上から吹き飛ばされた古墳時代の遺物が出土している（牧本 1999）。このように、人為的要因や、自然的要因で遺物が二次堆積する可能性は十分考慮すべきことである。

（引用・参考文献）

井上寛司 1991「中世日本海地域の水運と交流」『日本海と出雲世界』海と列島文化第2巻 小学館

小野正敏ほか編 2006『中性の対外交流』高志書院

中森 祥 2005「中世前期の遺物について」『門前上屋敷遺跡』第5章 第1節（財鳥取県教育文化財団 国土交通省倉吉河川国道事務所）

森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

橋本久和・市村高男編 2004『中世西日本の流通と交易』高志書院

平木裕子 1996『錦町第一遺跡』(財)米子市教育文化財団

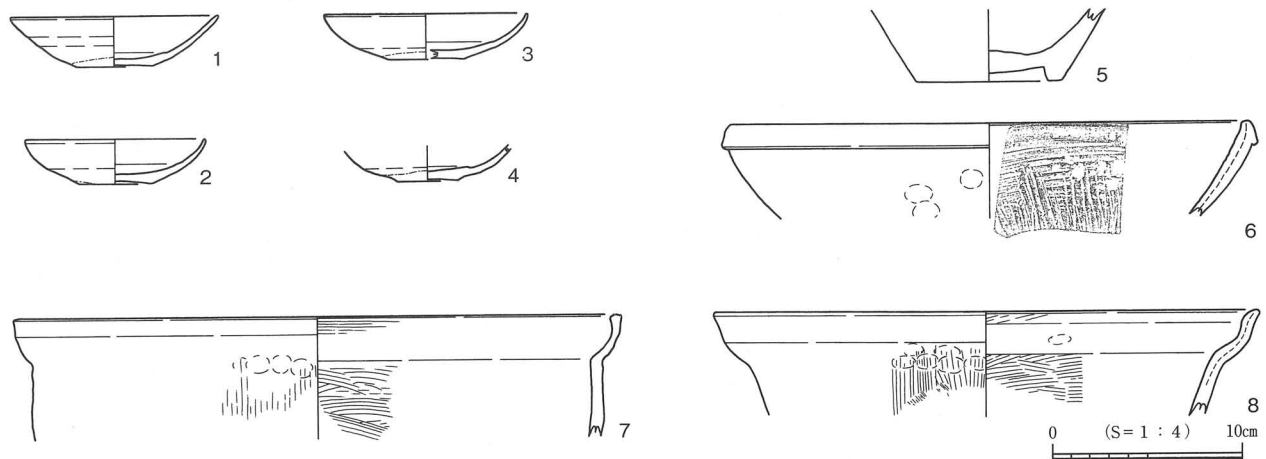
牧本哲雄 1999『長瀬高浜遺跡Ⅷ』(財)鳥取県教育文化財団 国土交通省倉吉河川国道事務所

八峠 興 1997「鳥取県における土師器皿の展開について」『立命館大学考古学論集』Ⅰ 立命館大学

1998「山陰における中世土器の変遷について」『中近世土器の基礎研究』XⅢ 日本中世土器研究会

2004「山陰の中世土器に関する覚書」『中近世土器の基礎研究』XⅧ 日本中世土器研究会

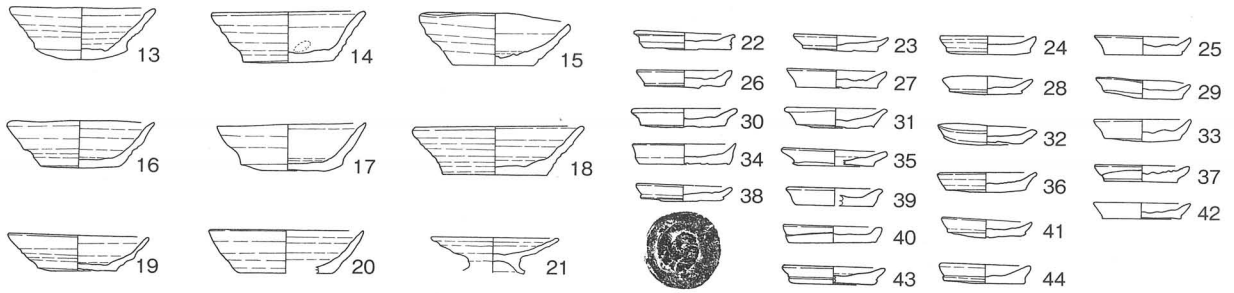
山本信夫 2000『大宰府条坊跡』XⅤ 太宰府市教育委員会



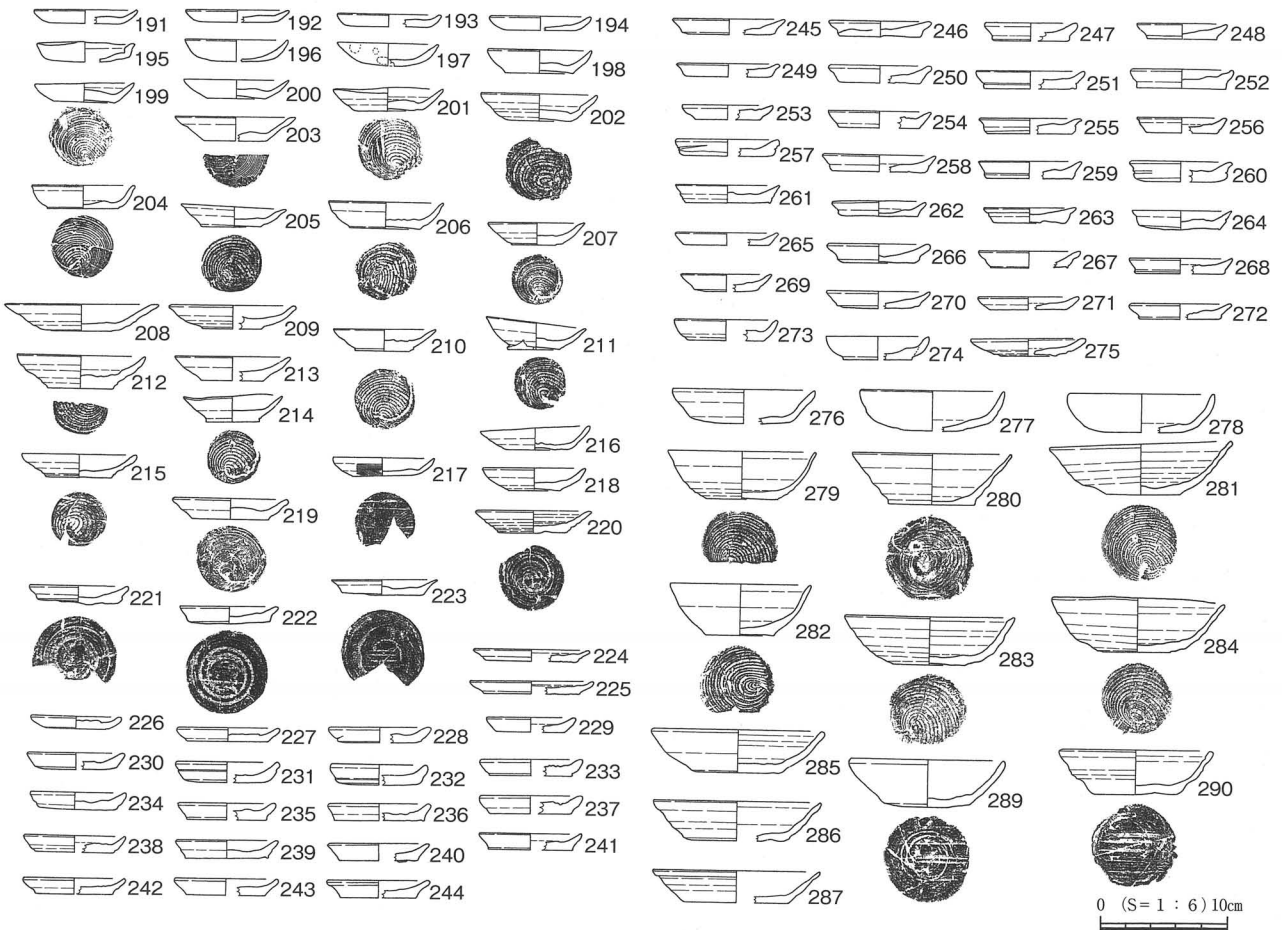
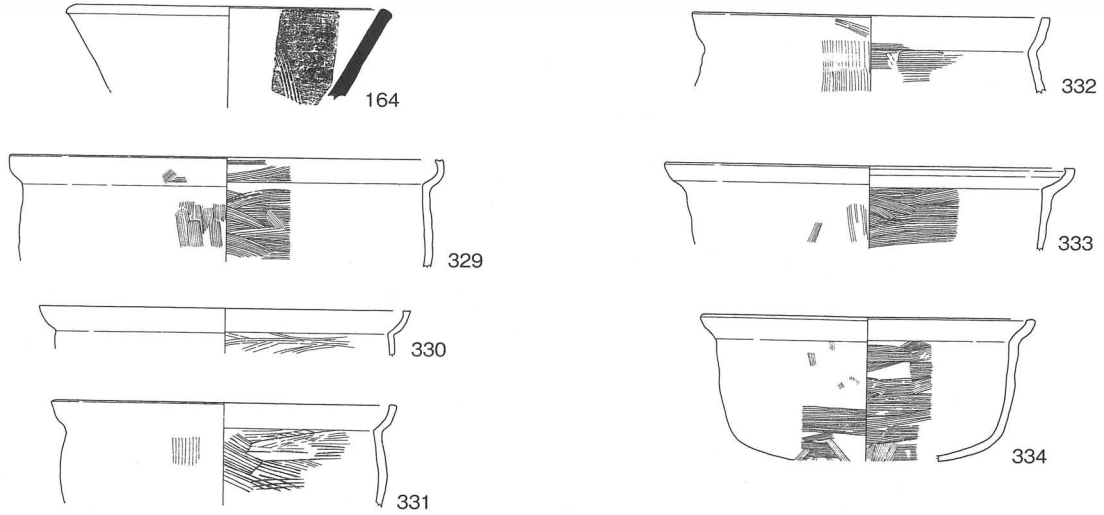
第1図 錦町第一遺跡出土中世資料(1) (今回実測分)

第5表 錦町第一遺跡出土陶磁器・土器観察表

遺物 No	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	釉	調整・文様	備考
1	白磁皿	1/2	口径(10.9) 器高: 2.6 底径(4.0)	良好	灰白色	密	灰白色	外面: 体部下半~底面露胎、貫入 内面: 貫入	見込使用痕顕著 白磁皿Ⅳ-1b類
2	白磁皿	1/3	口径(9.3) 器高: 2.4 底径: 3.9	良好	灰白色	密	灰白色	外面: 底面露胎、貫入 内面: 貫入	見込使用痕顕著 白磁皿Ⅳ-1b類
3	白磁皿	1/4	口径(10.7) 器高: 2.4 底径(4.0)	良好	灰白色	密	淡黄色	外面: 体部下半~底面露胎 内面: —	見込使用痕顕著 白磁皿Ⅳ-1b類
4	白磁皿	破片	器高(1.9) 底径(3.3)	良好	灰白色	密	灰白色	外面: 体部下半~底面露胎、貫入 内面: 貫入	見込使用痕顕著 白磁皿Ⅳ-1b類
5	陶器壺	底部1/2	器高(3.9) 底径(7.7)	良好	灰褐色	密	黒褐色 被熱後灰黄色	外面: 高台部内面露胎、削り出し高台 内面: —	中国製褐釉陶器 13c代?
6	瓦質土器 搦鉢	破片	口径(27.3) 器高(5.0)	良好	暗灰色	密	—	外面: 指頭調整→回転ナデ 内面: 口縁部回転ナデ、体部撞目	
7	土器鍋	破片	口径(31.4) 器高(6.5) 胴径(30.3)	良好	黒茶色~ 灰褐色	密	—	外面: 口縁部ナデ、頸部指頭調整、体部縦ハケメ 内面: 口縁端部横ハケメ、口縁部横ナデ、体部横ハケメ	外面炭化物・ 煤付着
8	土器鍋	破片	口径(28.5) 器高(5.6)	良好	黒茶色~ 褐色	密 石英・白色粒	—	外面: 口縁部ナデ、頸部以下指頭調整→縦ハケメ 内面: 口縁端部横ハケメ→ナデ、口頸部指頭調整→ナデ、体部横ハケメ	外面炭化物・ 煤付着



土器溜出土遺物



第2図 錦町第一遺跡出土中世資料(2) (平木1996を改編)

第9節 博労町遺跡の中世畠跡の検討

濱野 浩美

1. はじめに

博労町遺跡では、砂丘停滞期の腐食砂（クロスナ）最上層において調査区全域の7500㎡に亘る畠跡が検出された。この畠跡は調査区全体に広がり、さらに周辺域に広がる様相を呈する。検出された遺構は畠跡11区画、畦10条、土坑1基、溝状遺構10条、水溜状遺構4基である。砂丘尾根緩斜面を利用した区画内に整然と作られた畠や灌漑施設からは広範囲に亘って計画的な耕作が行われていた様相が窺える。個々の畠は埋砂の状況から何回かの作り替えが認められ、ある程度の期間ここで生産活動が行われたことが分かる。これらの畠はいずれも風成砂と見られるシロスナ（Ⅱ層）に被覆されていることから、砂丘発達期による多量のシロスナ堆積の直前まで生産活動が続けられていたと考えられる。

市域では、遺跡西側700mに位置する錦町第一遺跡においても腐食砂（クロスナ）最上層に中世の畠跡が検出されている。本節では、今回検出された畠跡の変遷をまとめるとともに、錦町第一遺跡に検出された畠跡とも比較し、当該期の砂丘域における生産活動について検討を行った。

2. 畠の形態

畠跡は、標高3.9～5.5mの東西方向の砂丘列のトップから南北にかけて緩やかに傾斜する緩斜面に検出された。遺構は調査区全体に広がるが、畠の方向性や畦、空閑地により11区画に分けられる。ここでいう区画とは畦、水路、空閑地などで区画された単位、もしくは明瞭に方向軸の異なる畠列を1区画としてとらえたもので、各区画は基本的には方形単位を基本としている。

これらの畠の方向性は、南北方向の畠はN-11～18°-E、東西方向の畠はN-72～87°-Wに統一されている。この主軸方向は砂丘列の方向に対し平行・直交関係を保っており、米子平野の法勝寺川流域に復元された条理の方向に対しては東に10°以上振れている（註1）。海浜砂丘域では砂丘列に即した空間利用が、地形利用の上で最も効率的であったものと考えられる。それを裏付けるように、砂丘尾根頂部付近の畠11・5・6では畠は砂丘列に平行し、斜面部の畠は斜面に直交する南北方向に構築されている。この軸線の違いは地形環境による排水の利便性を考慮して畠が作られた結果と考えられる。

地形環境は空間利用において最も考慮されていたようである。畠4南側に検出された空閑地は東西方向の砂丘尾根部にあたることから、風等自然環境の影響を考慮してこの部分を耕作地とすることを避けた可能性も考えられる。この空閑地は3区畠3の中央部や畠5と畠6の間の硬化した空閑地と合わせると東西方向に長いT字形となる。面上はいずれも非常に硬化していることから、通路としての使用が考えられる。また、この畠4南側の空閑地では土壇1基（SX01）が検出された。砂丘頂部の畠境界地を選地して土壇は掘り込まれたものと考えられる。また、砂丘南斜面に当たる3区畠6・7、4区畠8では傾斜面をそのまま利用し比較的長い畠を作っているのに対し、東斜面の5区では畦を境に畠に高低差を作り、いわゆる棚田状にし、平坦に耕作面を作る配慮がなされている。日照条件や自然環境の差に対する工夫であろうか。

溝については埋砂の状況から水路である可能性が高い。特に畦の周囲には溝がめぐらされているものは区画と排水の両側面を担っていたものと考えられる。また、1区北端の畠2では東西方向の溝1

が検出された。この付近は砂丘間低地のような窪地になっており、この部分を利用して水路が作られている。また南斜面の4区溝3～7は南端低位の水溜状遺構に続くことから、導水目的の溝と考えられる。この水溜状遺構4条はさらに大きな落ち込みにつながっている。この部分については調査区外に広がる為不明な点もあるが、南側調査区外には池などの灌漑施設が設けられていた可能性が高い。このように、遺跡地では地形や立地を巧みに利用し畦や灌漑施設を計画的に設けて、広範囲に整然と耕作地を展開させていたことがわかる。

次に、これらの畠の変遷であるが、各畠では2回～3回の作り替えが認められる。畠1では畝→畦3・4への作り替えや、畠2では溝1を畦6として作り替え、畦10も畝が作られた後再び畦への作り替えが認められる。特に畠4では東側では畝の作り替えが頻繁に行われているのに対し、西側では畝の幅も比較的広くまばらで畝の作り替えは全く行われていない。面上は比較的硬化していることから西側は休耕地となっていた可能性が考えられよう。この他、畠7東側、畠9においても畝の状況から最終段階では休耕地になっていた可能性が考えられる。このように個々の畠の変遷が認められ、それによる隣接地との新旧関係についても第1分冊の各項で既に明らかにしている。ただし、耕作地の場合、生産遺跡であるが故に個々の畠の新旧が判明しても、細かい畝の作り替えなども行われており、隣接地の切り合い関係が遺構全体の変遷に直結するとは限らない。また、中世の段階では既に連作障害などの問題から、当然休耕地と耕作地が隣接している可能性が高く、長瀬高浜遺跡では耕作面の偶蹄目の足跡から輪換農法に伴う休閑放牧の可能性も示唆されている（岩崎 1999）。

3. 耕作物について

この畠における耕作物については第七章 自然科学分析の項に詳述されている。分析の結果、砂丘北側斜面の畠1～4では、ヒエを中心にイネ科、ムギ類が耕作されていたことが判明している。また、砂丘尾根頂部の2区ではイネの他、アワ、ヒエ、ムギ等の雑穀類が作られ、全般的に乾燥した環境であったことが示唆されている。これに対し、砂丘南斜面の畠6～8ではイネ科のプラントオパールが高い密度で検出された。また、畠9-2面に見られるように畝幅、畝間の形状が大きく異なる部分では根菜類が栽培されていた可能性が高いが、自然化学分析結果ではイネ以外の花粉が検出されず断定はできなかった。

これを畠の立地環境に即して概観すると、砂丘北斜面ではヒエ、ムギなどの雑穀と共にイネを栽培し、南～東斜面では主にイネを栽培していたことを示している。当然、輪作栽培が行われていたであろうが、基本的にはイネは南斜面中心に栽培されていたようである。4区南端には水溜状遺構があることから、日照条件や水利などを考慮した上での選地と考えられよう。なお、水溜状遺構底面から出土したウリ科の種は一ヶ所に集中しており、自然科学分析の結果では一個体からのものであるとのことであるが、溝に食物残渣を廃棄した痕跡とも考えられ、当該期の生活の痕跡が如実に窺える。また、畝面上には人間の足跡と共に偶蹄目の足跡が非常に多く検出された。中には規則正しく牛と人間が一緒に歩いている痕跡も認められたことから、耕作のための労働手段として牛が使用されていたことが考えられる。また、畝が壊されている所に検出された多数の偶蹄目の足跡は、休耕地の放牧などの可能性も考えられる。

4. 畠の耕作時期とその廃絶

この畠の耕作時期であるが、これについては特論第8節 中世遺物の項に詳述しているように、出土遺物からは12世紀代が中心であると考えられる。これは面上の炭化物の放射性炭素年代測定によって得られたAD1020～1160年の数値とも符合する。ただし、各畠に何枚かの面が検出されていることから、耕作期間にある程度の時期幅は当然あると考えられる。特に、畠6～10では出土遺物から12世紀代を中心としながらも、下限は14世紀前半位までと考えられることから、砂丘南側斜面では14世紀代まで耕作が行われていたことが窺える。これはおそらく北側の海岸付近から吹き付けたであろう飛砂を避ける為や、日照条件の上でも南側斜面が適していたことが推測できよう。

これらの畠はいずれも直上に風成砂とみられるシロスナが厚く堆積している。畠跡はシロスナ直下のクロスナ層直上において検出されていることから、シロスナ堆積の直前まで生産活動が行われていたと考えられる。さらに南側の低位の畠8・9ではクロスナ最上層の上にクロスナ混じりのシロスナで作られた畝(0面)も検出されていることから、飛砂の堆積する環境下でもある程度の期間は耕作が続けられていたことが推測できる。海岸から吹き付ける砂が比較的遮断され易い砂丘南斜面低位という地理的な優位性を生かしたものであろうか。

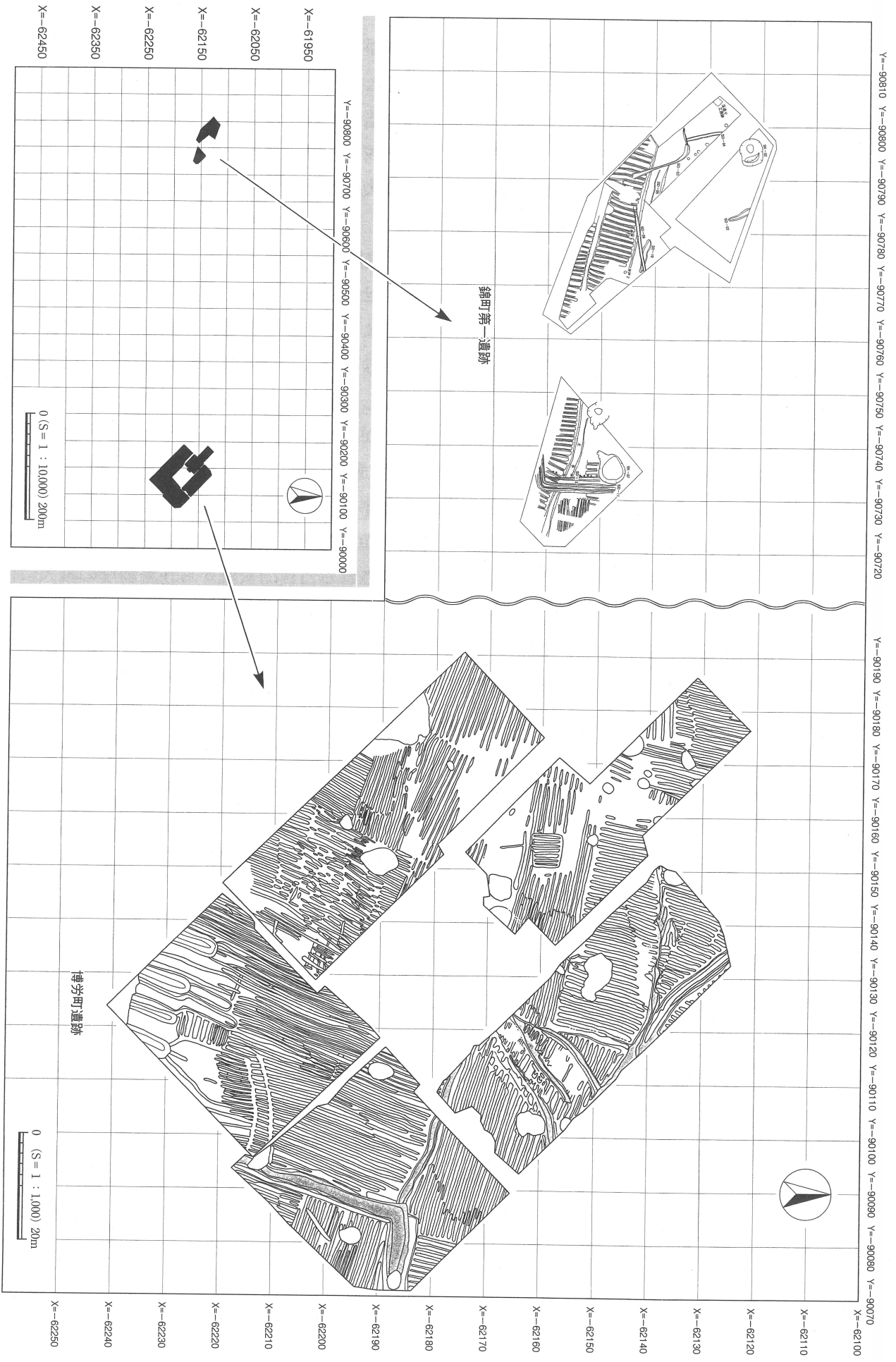
5. 錦町第一遺跡との比較

米子市域では、同じ内浜砂丘上に立地する錦町第一遺跡においてもクロスナ最上面から中世期の畠跡が検出されている。特論第8節でも述べているように、出土遺物から博労町遺跡の畠跡と錦町第一遺跡の畠跡は同時期性の高い遺構と考えられる。また、シロスナの堆積による廃絶状況も博労町遺跡と同様である。この両遺跡の畠について、相互の位置関係を国土座標上に落とし比較検討を試みた(第1図)。その結果、博労町遺跡から錦町第一遺跡までの距離は西側に700m離れているが、緯度的には32°26'08" (X = -62150) とほぼ同一位置に存在することが判明した。

錦町第一遺跡の畠を見ると、検出された畝の主軸方向はN-14°-Eで、砂丘列に直交している。この方向軸は博労町遺跡の畠の南北方向軸とほぼ符合している。錦町第一遺跡では砂丘頂部から南側斜面に構築されており、検出された遺構は博労町遺跡の畠7や畠8の形状と同様であると考えられる。さらに東西方向に延びる畦の方向性もN-76°-Wと、博労町の東西方向の畝の方向軸とほぼ平行している。錦町第一遺跡において検出された畠は畝の長さ約7m、幅20～70cm、畝間の幅20～30cmを測る。これは博労町遺跡の畝に比較するとかなり短い。ただし、博労町遺跡より急斜面であるという立地環境も考慮すると、短い畝しか作り得なかった可能性が高い。

以上、同緯度に位置する両遺跡の畠跡は方向軸も非常に酷似しており、時期的にも同時期性が高いことから、同一の遺構と考えられる。このことから、当該期に博労町から錦町にかけての砂丘域一帯が畠という生産域であった可能性は非常に高いと考えられる。

県中部湯梨浜町の海浜砂丘域に発見された長瀬高浜遺跡においても、砂丘上に中世の畠跡が検出されている(岩崎 1999)。この遺跡では4500㎡以上に亘る畠跡がクロスナ上に検出されている。出土遺物から、時期的には9世紀から15世紀頃まで断続的に畠が営まれていたと考えられている。この遺構はシロスナ直下の黒灰褐色砂層(クロスナ)最上層で検出されていること、直上にはシロスナが堆積していることなど、全体的には博労町遺跡や錦町第一遺跡における畠の在り様と同様である。中世期には、海浜砂丘地帯においても耕作地としての開発が広範囲に行われていたことが窺えよう。



第1図 博労町遺跡と錦町第一遺跡の鳥跡

6. まとめ

博労町遺跡は中世期に古代以来の居館域から大規模な耕作地に転換する。米子市域の中世における荘園耕作地の範囲がどの程度の規模であったかは現在のところ不明であるが、博労町遺跡から錦町第一遺跡にかけての範囲がすべて耕作地であるとすれば、当然その土地全体を支配していた権力層の存在が想定できよう。今回の調査では、平安時代後期に帰属する遺構は検出されていないが、空白期を挟みながらも居住域がすべて耕作地に転換していくには大きな社会背景の変化というものを考えていかねばならない。

周知のように、11世紀後半以降、在地領主層による新田開発が盛んとなり、「保」や「別名」といった所領が出現する。開発後は国衙に一定量の官物を納付せねばならないことから、この開発は律令体制が崩壊した後非常に推進された。その中で荘園もこのような開発を前提に再編されていき、12世紀代には荘園公領制として確定していく。こうした背景が砂丘のような未開の微高地においても耕地化が促進され中世的村落景観が成立する要因となった。奇しくも『民経記』天福元(1233)年五月巻の紙背文書には、勝田庄が六代に亘る相伝の土地であったが、去年地頭が新補されたという記述がある(陶山 2003)。勝田庄については比定地の問題も当然考慮せねばならないが(佐伯 2009)、13世紀前半から溯って六代前から勝田庄が荘園田畑であったとすれば、時期的には博労町遺跡の畠の時期に符合するものと思われる。このような動きは平安時代末から鎌倉時代初期における荘園開発に伴うものであり、今回検出された遺構はまさに条里水田に代表される古代的景観から荘園制度の拡大に伴う中世村落的景観への転換を如実に示している遺跡であると考えられよう。

前述の長瀬高浜遺跡においても、古代には官衙的性格の施設が存在した後、10世紀～12世紀末まで断絶した後、13世紀代には畠地となる。時期的には前後するが、官衙的性格の集落域から断絶期を挟み農耕地へ転換していくという大きな流れは、博労町遺跡も同様である。また、当該地でイネ以外にもヒエやアワなどの雑穀が作られていたことは、中世の荘園社会において文献に見られるように米以外に雑穀をも盛んに収取していたという実態を裏付けるものである(木村 1996)。

しかし、その耕作地は14世紀後半以降大量の白砂の堆積とともに廃絶していく。近接する錦町第一遺跡や県中部の長瀬高浜遺跡の中世畠跡においても時期は前後するが同様の廃絶状況を示している。さらにこの現象は日本海沿岸域の中世遺跡に共通の現象であり、石川県羽咋市寺家遺跡では14世紀後半の大規模な風成砂による砂丘移動が遺跡廃絶の原因とされている(牧山・中野 2010)。今回検出された畠跡は、このクロスナ層の廃絶時期とその要因を検討していく上でも重要な資料である。さらに、大規模に開拓された畠の廃絶は自然環境の激変だけによるものではなく、中世荘園制の崩壊といった社会背景ともリンクしていくものであると考えられよう。

このように、博労町遺跡において検出された中世の畠跡は、古代から中世にかけての村落景観の質的転換とその崩壊を如実に示すものと考えられ、当該期の米子海浜砂丘域の歴史を解明していく上で、非常に多くの新知見を得られたものと思われる。今後、周辺域の調査により居館跡など生産遺跡以外の遺構が検出されることにより、当該期の様相がさらに解明できることに期待したい。

(註1) 米子市史によれば、米子平野の条理は法勝寺川流域でN-4°-W、佐陀川流域でN-5°-Wと推定されている(内田 2003)。

(引用・参考文献)

- 岩崎康子 1999「第9章 第5節 畠跡の検討」『長瀬高浜遺跡Ⅷ』(財)鳥取県教育文化財団・建設省 倉吉工事事務所
- 内田律雄 2003「第6章 律令国家と米子平野・奈良時代」『新修米子市史』第1巻通史編 米子市
- 木村茂光 1996『ハタケと日本人』中公新書
- 佐伯純也 2009「加茂川下流域における集落の動向と博労町遺跡の性格について」『伯耆文化研究』第11号 伯耆文化研究会
- 陶山 徹 2003「第一章 鎌倉時代の米子」『新修米子市史』第1巻通史編 米子市
- 平木裕子 1996『錦町第一遺跡』(財)米子市教育文化事業団

遺物 觀 察 表

第1表 5区SB01出土土器観察表 (第15図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit1	土師器 甕	口縁~体 部1/3	口径(15.9) 器高(12.9) 胴径(17.3)	良	褐色	密 石英・ 白色粒	外面:口縁部櫛状工具による直線文→ヘラミガキ、頸部横 ヘラミガキ、体部横・斜めハケメ、肩部櫛状工具に よる直線文・貝殻腹縁による刺突文 内面:口頸部横ヘラミガキ、体部横ヘラケズリ	外面炭化物・煤付 着 内面口縁部炭化物 付着
2	Pit1	土師器 甕	口縁~肩 部1/8	口径(19.3) 器高(6.4)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	内外面茶系赤彩

第2表 1区SI01出土土器観察表 (第18図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中層	土師器 壺	破片	口径(17.4) 器高(7.5)	良	灰褐色~暗 灰白色	密 砂粒	内外面:横ナデ	
2	埋砂中層	土師器 壺	破片	口径(15.8) 器高(5.2)	良好	灰褐色	密	外面:口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面口縁部煤付着
3	埋砂上層	土師器 壺	破片	口径(16.6) 器高(2.8)	良好	黄灰白色	やや密	外面:口頸部ヘラ状工具による凹線5条→ヘラミガキ 内面:横・縦ヘラミガキ	内面口縁部~外面 赤彩 吉備系搬入品?
4	埋砂上層	土師器 裝飾壺	体部破片	器高(5.6) 胴径(14.0)	良	黄灰白色~ 黒茶色	密 砂粒	外面:ナデ→竹管文・貝殻腹縁による刺突文・ヘラ状工具に よる直線文・竹管文 内面:横ヘラケズリ	
5	埋砂下層	土師器 壺	底部破片	器高(1.4) 底径(6.8)	良	褐色	やや密 砂粒	外面:指頭調整→ナデ 内面:ヘラケズリ	底部中心部焼成後 穿孔
6	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(19.3) 器高(5.5)	良	灰褐色	密 砂粒	外面:口縁部・肩部櫛状工具による直線文→ナデ、頸部横 ナデ 内面:口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
7	埋砂上層	土師器 甕	口頸部 1/3	口径(16.0) 器高(5.6)	良	灰褐色	密	外面:口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
8	埋砂中層	土師器 鼓形器台	脚部破片	器高(5.4) 底径(22.8)	良	褐色	密 雲母	外面:横ナデ 内面:脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	

第3表 1区SI02出土土器観察表 (第20図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	土師器 甕	破片	口径(16.4) 器高(5.1)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面:横ナデ 内面:口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
2	埋砂中	土師器 小型器台	脚部破片	器高(3.6) 底径(11.8)	良好	灰褐色	密	外面:横ナデ→横ヘラミガキ 内面:脚柱部縦ヘラケズリ、裾部横ハケメ→横ナデ	
3	埋砂中	土師器 低脚坏	2/3	口径(15.5) 器高:3.8 底径:4.1	良好	赤褐色	密	外面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	内面煤付着 被熱痕

第4表 1区SI03出土土器観察表 (第22図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	土師器 甕	破片	口径(14.6) 器高(6.1)	良好	黄灰白色	密	外面:口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
2	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(13.4) 器高(5.9)	良	褐色	密	外面:横ナデ 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
3	埋砂最上層	土師器 高坏	破片	口径(16.0) 器高(3.4)	良好	橙褐色	密	外面:口縁部横ナデ、坏部横ヘラミガキ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ	内面赤彩
4	埋砂最上層	土師器 低脚坏	2/3	口径(14.4) 器高(3.1)	やや良	褐色	やや密	外面:横・縦ヘラミガキ 内面:磨耗調整不明	
5	埋砂上層	土師器 鼓形器台	ほぼ完形	口径(16.0) 器高:9.2 底径(14.4)	良	橙褐色	密 石英	外面:口縁部・接合部・脚端部横ナデ、受部・脚部縦ヘラ ケズリ 内面:受部横ヘラミガキ・ナデ、接合部ヘラケズリ→ナデ、 脚部斜めヘラケズリ	内外面赤彩
6	埋砂上層	土師器 鼓形器台	脚部破片	器高(5.2) 底径(14.6)	良好	灰褐色	密	外面:横ナデ 内面:受部横ナデ、接合部ヘラケズリ→横ナデ、脚部斜め ヘラケズリ、脚端部横ナデ 脚部円形透し	

第5表 1区SI04出土土器観察表 (第24図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	土師器 小型壺	ほぼ完形	口径:8.4 器高:8.8 胴径:10.3	良好	暗灰白色	密	外面:口縁部横ナデ、体部縦・横ヘラミガキ 内面:口縁部~肩部横ナデ、体部指頭調整→ヘラケズリ→ ナデ	
2	埋砂上層	土師器 壺	口頸部 1/3	口径(10.1) 器高(6.5)	良	褐色	密	外面:口頸部横ナデ、頸部縦ハケメ・櫛状工具端部による 圧痕 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
3	埋砂上層	土師器 甕	口縁~肩 部1/3	口径(17.4) 器高(6.2)	良好	黄灰白色	密	外面:口縁部櫛状工具による直線文→ナデ、肩部貝殻腹縁 による押し文 内面:口頸部横ナデ、頸部以下横・縦ヘラケズリ	
4	埋砂中	土師器 甕	破片	口径(15.0) 器高(7.0)	良	暗灰白色	密 砂粒	外面:口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面口縁部煤付着
5	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(15.8) 器高(3.4)	良	黄灰白色	密	内外面:横ナデ	
6	埋砂中	土師器 甕	破片	口径(14.2) 器高(4.9)	良	褐色	密	外面:口頸部横ナデ、頸部以下縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	

7	埋砂中層	土師器 甕	口縁~肩 部1/3	口径(15.6) 器高(6.5)	良好	褐色	密	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
8	埋砂中層	土師器 甕	口縁~肩 部破片	口径(13.8) 器高(8.5)	良	黒茶色~橙 褐色	密	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
9	埋砂上層	土師器 甕	口縁~肩 部破片	口径(17.8) 器高(5.6)	良	暗灰白色	密 砂粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	内面一部煤付着
10	埋砂中	土師器 甕	破片	口径(14.2) 器高(5.7)	良好	橙褐色	密	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
11	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(15.1) 器高(8.7)	良	黄灰白色	密 角閃石・石英	外面：口頸部横ナデ、肩部ヘラ状工具による直線文、体部 横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
12	埋砂中	土師器 小型丸底壺	破片	口径(10.1) 器高(3.7)	良好	褐色	密	外面：横ヘラミガキ 内面：縦・横ヘラミガキ	
13	埋砂中層	土師器 高坏	坏部	口径:14.6 器高(4.3)	良好	褐色	密	内外面：縦・横ヘラミガキ	外面接合部付近煤 付着 破断面磨耗
14	埋砂中	土師器 高坏	破片	口径(13.4) 器高(4.3)	良好	黄灰白色	密	内外面：ハケメ→ヘラミガキ	
15	埋砂中	土師器 高坏	破片	口径(19.8) 器高(5.5)	良	橙褐色	密	外面：横ヘラミガキ 内面：縦ヘラミガキ	内外面赤彩
16	埋砂上層	土師器 高坏	破片	口径(16.2) 器高(5.2)	良好	灰褐色	密	外面：受部横・縦ヘラミガキ、接合部ナデ 内面：受部横・縦ヘラミガキ	
17	埋砂中	土師器 高坏	脚部	器高(7.0) 底径(9.8)	良好	橙褐色	密	外面：縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面：脚柱部横ヘラケズリ、裾部縦・横ハケメ、脚端部ナ デ 脚部二方円形透し	
18	埋砂中	土師器 高坏	2/3	口径(9.3) 器高:6.3 底径:5.8	良好	褐色	密	外面：坏部~脚柱部横・縦ヘラミガキ、裾部横ナデ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ、脚部ナデ・横ヘラミガキ	
19	埋砂中層	土師器 低脚坏	破片	器高(3.7) 底径(4.2)	良	黄灰白色	密	外面：横ナデ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部横ナデ	
20	埋砂下層	土師器 低脚坏	破片	器高(4.7) 底径(6.4)	良好	橙褐色	密	外面：坏部縦ハケメ→ナデ、脚部横ナデ 内面：坏部ナデ、脚部横ナデ→ヘラミガキ	

第6表 1区SI04出土石器観察表(第24図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石 材	備 考
21	埋砂下層	石錘	完形	148	98	41	866.6	安山岩	左溝幅38mm・右溝幅35mm
22	埋砂中	ハンマーストーン	完形	116	42	32	202.9	安山岩	

第7表 1区SI05出土土器観察表(第25図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整 ・ 文 様	備 考
1	埋砂最下層	土師器 壺	3/4	口径:23.9 器高(35.3) 胴径(29.5)	良好	黄灰白色	密	外面：口頸部横ナデ、頸部沈線を有する櫛状工具端部による 羽状文、体部縦・横ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ、 体部下指頭調整	内外面口縁部一部 煤付着
2	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(20.0) 器高(5.9)	良	褐色	密	外面：口頸部・頸部櫛状工具による直線文→ナデ、頸部縦 ヘラミガキ 内面：口縁部横ナデ、頸部ヘラケズリ→横ヘラミガキ	内面口縁部煤付着
3	埋砂最下層	土師器 甕	破片	口径(14.4) 器高(7.8)	良	黄灰白色	密 砂粒	外面：口縁部~肩部横ナデ、肩部ヘラ状工具による波状文 内面：口頸部ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面肩部煤付着
4	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(13.4) 器高(9.7)	良好	橙褐色~褐 色	密 雲母	外面：口縁部~肩部横ナデ、体部ハケメ 内面：横ヘラケズリ	内外面一部煤付着
5	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(13.0) 器高(7.9)	良	黄灰白色	密	外面：口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	黒斑 内面一部煤付着
6	埋砂下層	土師器 甕	破片	口径(13.0) 器高(5.8)	良	黄灰白色	密	外面：口縁部横ナデ、頸部以下縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
7	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(13.0) 器高(6.0)	良	暗灰白色	密	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
8	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(13.0) 器高(8.1)	良	黄灰白色	密	外面：口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
9	埋砂下層	土師器 甕	口頸部 1/2	口径(15.0) 器高(9.6)	良好	橙褐色~灰 褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面口縁部煤付着
10	埋砂上層	土師器 甕	破片	器高(4.7) 胴径(9.8)	良好	橙褐色	密 雲母	外面：頸部~肩部横ナデ、体部横ハケメ→ナデ 内面：頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ、肩部指頭調整	
11	埋砂上層	土師器 小型鉢	破片	口径(8.4) 器高(4.5)	良	黒茶色	密	内外面：横・縦ヘラミガキ	
12	埋砂上層	土師器 小型丸底 壺?	1/2	口径(11.0) 器高(6.8)	良好	灰褐色	密	外面：ハケメ→縦・横ヘラミガキ 内面：横ハケメ	
13	埋砂中層	土師器 高坏	破片	口径(11.7) 器高(4.1)	良	橙褐色	密	外面：横ヘラミガキ 内面：横・縦ヘラミガキ	内外面赤彩
14	埋砂中層	土師器 高坏	破片	口径(12.8) 器高(5.1)	良好	黄灰白色	密	外面：縦ヘラミガキ 内面：横ヘラミガキ	外面接合部煤付着 破断面磨耗
15	埋砂上層	土師器 高坏	破片	口径(14.0) 器高(3.9)	良好	橙褐色	密	外面：縦ハケメ→ナデ 内面：縦ヘラミガキ	
16	埋砂中	土師器 高坏	破片	口径(13.0) 器高(2.6)	良好	橙褐色	密	外面：横ヘラミガキ 内面：縦ヘラミガキ	
17	埋砂下層	土師器 高坏	1/4	口径(15.0) 器高(5.1)	良	黄灰白色	密	外面：ヘラミガキ 内面：坏部・脚部ヘラミガキ	内面脚部縁刻1条 内面坏部煤付着
18	埋砂上層	土師器 高坏	破片	口径(14.5) 器高(3.7)	良	灰茶色	密	内外面：磨耗調整不明	内外面煤付着 破断面磨耗
19	床面直上	土師器 高坏	破片	口径(13.8) 器高(6.2)	良	暗灰白色	密	内外面：ナデ 接合部円盤充填法	外面接合部粘土粒 付着
20	埋砂中	土師器 高坏	坏部	口径:16.7 器高(4.8)	良	橙褐色	密	外面：ハケメ→縦・横ヘラミガキ 内面：横・縦ヘラミガキ	内外面赤彩

21	床面直上	土師器 高坏	1/3	口径(15.0) 器高(3.9)	良好	黄灰白色	密 石英	外面：ハケメ→ヘラミガキ 内面：横・縦ヘラミガキ	外面一部煤付着
22	埋砂中層	土師器 高坏	脚部	器高(3.3) 底径(10.0)	良	黄灰白色	密	外面：ハケメ→ナデ 内面：脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ→ナデ	
23	埋砂上層	土師器 高坏	脚部	器高(5.4) 底径： 8.0	良	黄灰白色	密	外面：縦ハケメ→ナデ 内面：脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ→ナデ	外面一部煤付着
24	埋砂上層	土師器 高坏	脚部	器高(4.9) 底径(17.0)	良	橙褐色	密	外面：縦ハケメ→ナデ 内面：脚柱部ヘラケズリ、裾部ナデ 接合部円盤充填法	
25	埋砂上層	土師器 低脚坏	1/3	器高(2.9) 底径(5.3)	良好	褐色	密	外面：坏部縦ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部横ナデ	
26	埋砂上層	土師器 鼓形器台	1/4	口径(17.6) 器高(7.1)	良好	褐色～灰褐色	密 角閃石・雲母	外面：受部縦ヘラミガキ、接合部ナデ 内面：受部ヘラケズリ→ヘラミガキ、接合部以下横ヘラケズリ	内面口縁部～外面煤付着
27	埋砂中	手裡ね 土器	把手部	幅： 1.0	良	灰褐色	密	外面：ヘラミガキ	

第8表 1区SI06出土土器観察表 (第27図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	床面直上	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(12.2) 器高(11.0)	良	橙褐色	密 砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	
2	床面直上	土師器 甕	口縁～肩 部1/3	口径(16.4) 器高(8.6)	良	黄灰白色	密	外面：口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ→櫛状工具端部による 列点文3個以上 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
3	埋砂中層	土師器 甕	口頸部 1/4	口径(15.8) 器高(5.9)	良	暗灰白色	密	外面：口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
4	埋砂中	土師器 甕	破片	口径(14.2) 器高(5.7)	良	灰色	密	外面：口縁部横ナデ、頸部以下縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
5	埋砂上層	土師器 鉢?	3/4	口径：17.0 器高： 5.9 底径： 3.2	良好	暗灰白色	密	外面：指頭調整→ハケメ→ナデ 内面：ハケメ	黒斑 内外面一部煤付着
6	埋砂中	土師器 甕	体部1/3	器高(17.9)	良	黄灰白色	密	外面：縦ハケメ 内面：ヘラケズリ	外面下半煤付着 内底面炭化物付着
7	床面直上	土師器 高坏	坏部	口径：29.6 器高(7.4)	良	灰色	密	外面：口縁部縦ヘラミガキ、坏底部横ヘラミガキ 内面：縦・横ヘラミガキ	内面煤付着
8	床面直上	土師器 高坏	脚部	器高(7.2) 底径(20.8)	良	黄灰白色	密	外面：脚柱部ハケメ→ナデ、裾部ナデ 内面：脚柱部ヘラケズリ、裾部横ハケメ 脚部四方凹形透し	
9	埋砂上層	土師器 高坏	脚部	器高(7.5) 底径：10.2	良	黄灰白色	密	外面：脚柱部縦ハケメ→ヘラミガキ、裾部横ハケメ→ナデ 内面：脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ→ナデ	
10	埋砂中	土師器 高坏	脚部	器高(7.2) 底径：12.4	良	黄灰白色	密 砂粒	外面：脚柱部縦ハケメ→ヘラミガキ、裾部横ハケメ→ナデ 内面：脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ→ナデ	
11	埋砂中	土師器 高坏	坏部1/4	口径(16.2) 器高(4.5)	良好	橙褐色	密	外面：口縁部横ナデ、坏部横・縦ヘラケズリ 内面：坏部縦・横ヘラミガキ	内底面一部磨耗
12	埋砂中	土師器 低脚坏	1/2	口径(15.2) 器高： 5.3 底径(5.5)	良	褐色	密	外面：坏部横・斜めハケメ、脚部横ナデ 内面：坏部縦・横ヘラミガキ、脚部横ナデ	内面脚部ヘラ状工 具による線刻3条
13	埋砂中	土師器 鼓形器台	ほぼ完形	口径：19.6 器高： 9.6 底径：16.3	良	黄灰白色	密	外面：受部縦ヘラミガキ、接合部～脚部横ナデ 内面：受部横ナデ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、脚部横 ヘラケズリ	外面受部線刻「×」 内面受部煤付着
14	埋砂中	土師器 鼓形器台	ほぼ完形	口径：19.9 器高： 9.1 底径：16.8	良	黄灰白色	密 石英	外面：ナデ 内面：受部横ナデ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、脚部横 ヘラケズリ・横ナデ	
15	埋砂上層	土師器 鼓形器台	破片	口径(22.4) 器高(5.3)	良好	灰褐色	密 石英	外面：ナデ 内面：横ヘラミガキ	
16	埋砂上層	土師器 甕	狭口部 1/5	狭口径(12.6) 器高(10.2)	良	黄灰白色	密 砂粒	外面：狭口部ナデ、体部ヘラケズリ→ナデ 内面：狭口部ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	内面煤付着

第9表 1区SI06出土石器観察表 (第27図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
17	埋砂中	石錘	完形	149	82	49	832.0	角閃石安山岩	左打欠幅33mm・右打欠幅42mm
18	埋砂中	砥石	完形	70	54	46	32.0	軽石	

第10表 2区SI02出土土器観察表 (第30図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂上層	土師器 甕	口縁1/4	口径(13.8) 器高(5.9)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
2	埋砂中層	土師器 小型丸底壺	胴部1/3	器高(4.3) 胴径(10.0)	良	褐色	密 雲母・石英	外面：口縁部横ナデ、頸部以下横ヘラミガキ 内面：口縁部横ナデ、肩部横ヘラケズリ、体部ナデ	
3	埋砂中	土師器 低脚坏	1/5	口径(16.5) 器高(3.7)	良好	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナデ、坏部縦ヘラミガキ 内面：坏部縦・横ヘラミガキ	
4	埋砂下層	土師器 高坏	脚部破片	器高(1.7) 底径(14.6)	良好	灰褐色	密	外面：脚部縦・横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面：脚柱部縦ヘラケズリ、裾部指頭調整・横ナデ	
5	埋砂中層	土師器 鼓形器台	脚部破片	器高(2.2) 底径(14.6)	良	橙褐色	密	外面：脚部横ナデ 内面：脚柱部縦ヘラケズリ、裾部横ナデ	

第11表 2区SI03出土土器観察表 (第32図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中層	土師器 甕	1/3	口径:130 器高:199 胴径:180	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面:口頸部横ナデ、肩部櫛状工具端部による列点文6個、 体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部縦・横ヘラケズリ、体部下指 頭調整	
2	埋砂中層	土師器 甕	1/2	口径(136) 器高:233 胴径(210)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面:口縁~肩部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、体 部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調 整→横ヘラケズリ	内外面一部煤付着
3	埋砂中層	土師器 甕	完形	口径:162 器高:194 胴径:204	良	黄灰白色	密	外面:口縁部~肩部横ナデ、肩部ヘラ状工具による刺突文 1個、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部下指 頭調整→縦ヘラケズリ	外面体部煤付着
4	埋砂中層	土師器 甕	1/8	口径(140) 器高(167) 胴径(194)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、体部縦・ 横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部下指 頭調整→横ヘラケズリ	外面体部ヘラによ る線刻2個
5	埋砂上層	土師器 甕	2/3	口径(120) 器高:131 胴径(138)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁~肩部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、体 部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部下指 頭調整→横ヘラケズリ	外面体部下炭化 物付着
6	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(160) 器高(71)	良好	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による波状文2条 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
7	埋砂中下層	土師器 甕	破片	口径(142) 器高(41)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面:横ナデ 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
8	埋砂中層	土師器 甕	口縁~肩 部破片	口径(166) 器高(98)	良	灰褐色	密 雲母	外面:口頸部横ナデ、肩部以下縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	内外面口頸部煤付 着
9	埋砂中層	土師器 甕	口縁~体 部	口径:126 器高(92)	良	黄灰白色	密 雲母・石英	外面:口縁~肩部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文→波 状文、体部横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
10	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(142) 器高(52)	良好	褐色	密 砂粒	外面:横ナデ 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面・内面頸部煤 付着
11	埋砂中層	土師器 甕	口縁部 1/2	口径(145) 器高(47)	良好	橙褐色	密	外面:横ナデ 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
12	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(170) 器高(54)	良	灰褐色	密	外面:横ナデ 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面口縁部煤付着
13	埋砂中層	土師器 甕	口縁~肩 部	口径:158 器高(55)	良	灰褐色	密	外面:口頸部横ナデ、肩部以下縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	内面頸部以下煤付 着
14	埋砂中層	土師器 小型壺	1/3	口径(9.0) 器高(14.1)	良	灰褐色	密 白色粒	外面:縦・横ヘラミガキ 内面:体部上半横ヘラケズリ、体部下指頭調整→横ヘ ラケズリ	
15	埋砂中層	土師器 小型丸底壺	体部破片	器高(2.7) 胴径(10.0)	良	黒茶色	密 砂粒	外面:横ヘラミガキ 内面:頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ→ナデ、体部ナデ	内外面煤付着
16	埋砂中層	土師器 高坏	坏部	口径:198 器高(5.8)	良好	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	
17	埋砂中層	土師器 高坏	接合部	器高(2.5)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面:口縁部横ハケメ、坏底部ナデ 内面:坏底部ヘラミガキ、脚部横ナデ	
18	埋砂下層	土師器 高坏	1/3	口径(11.4) 器高(7.8)	良	褐色	密	外面:坏部横ヘラミガキ、脚部横・縦ヘラミガキ 内面:口縁部横ナデ、坏部横・縦ヘラミガキ、脚柱部横 ヘラケズリ、裾部横ナデ 接合部円盤充填法	
19	埋砂中層	土師器 高坏	坏部1/2	口径(8.2) 器高(7.1) 胴径(11.0)	良	橙褐色	密 雲母・砂粒	外面:口縁部横ナデ、坏部縦ヘラミガキ 内面:口縁部横ナデ、坏部上半指頭調整→ナデ、坏部下 半ナデ	ブランダークラス 形
20	埋砂中層	土師器 高坏	坏部1/2	器高(2.1) 胴径(7.6)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面:坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面:坏部横・縦ハケメ、坏底部ナデ	
21	埋砂上層	土師器 低脚坏	坏部1/4	口径(15.6) 器高(3.4)	良	橙褐色	密 雲母	外面:口縁部横ナデ、坏部縦・横ヘラミガキ 内面:坏部横ヘラミガキ	内外面赤彩
22	埋砂中層	土師器 鼓形器台	2/3	口径(12.9) 器高(7.0) 底径:12.3	良好	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部横ナデ、受部縦ヘラミガキ、接合部ナデ、 脚部縦ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:受部横・縦ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部縦ヘラケ ズリ、脚部横ナデ	
23	埋砂中層	土師器 鼓形器台	完形	口径:19.8 器高:10.0 底径:16.7	良好	橙褐色	密 雲母・石英	外面:横ナデ、受部上半布目状圧痕 内面:受部横ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部縦ヘラケズリ、 脚部横ナデ	

第12表 2区SI03出土金属製品観察表 (第33図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
24	埋砂上層	刀子	ほぼ完形	鉄	全長(73) 刃部:57 茎部(16)	刃部:11 茎部:6	刃部:3 茎部:3	4	錆化(△)	5	6.6	茎部木質付着
25	埋砂中層	棒状不明 品	—	鉄	53	4	4	5	錆化(△)	3	2.9	
26	埋砂上層	釘	完形	鉄	37	3	2	2	錆化(△)	3	1.4	
27	埋砂上層	偏平棒状 不明品	—	鉄	40	8	2	5	錆化(△)	2	4.9	

第13表 2区SI03出土石器観察表 (第33図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
28	埋砂上層	石錘	1/2	(143)	82	60	908.2	玄武岩	左打欠幅51mm・右打欠幅43mm
29	埋砂中層	凹石	1/2	(81)	62	33	257.6	花崗閃緑岩	

第14表 2区SI04出土土器・土製品観察表 (第35~42図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂上層	土師器 壺	口縁部 1/3	口径(28.0) 器高(7.7)	良好	褐色	密 砂粒	外面:口縁部横ナデ・太い縦ヘラミガキ・頸部上半横ヘラ ミガキ・頸部下縦ハケメ→櫛状工具による刺突文 内面:口縁部縦・横ヘラミガキ・頸部指頭調整	外面口縁部・内面 煤付着
2	埋砂上層	土師器 壺	口縁~肩 部	口径(20.0) 器高(8.7)	良好	黄灰白色 ~黒茶色	密 雲母	外面:口頸部横ナデ・頸部縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ・頸部指頭調整→ナデ・肩部横ヘラケ ズリ	内外面煤付着
3	埋砂下層	土師器 壺	口縁~体 部	口径:24.2 器高(21.9) 胴径(28.7)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部~肩部横ナデ・頸部方形突帯貼付・体部横・ 斜めハケメ 内面:口縁部横ナデ・頸部指頭調整→ナデ・体部横ヘラケ ズリ→ヘラ状工具によるナデ	
4	埋砂上層	土師器 壺	口縁部	口径:23.3 器高(10.8)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口頸部横ナデ・頸部縦ハケメ・方形突帯貼付 内面:口縁部横ナデ・頸部指頭調整・頸部下半ナデ	
5	埋砂上層	土師器 直口壺	口縁~体 部	口径:17.6 器高(20.0) 胴径(29.8)	良	灰褐色	密 白色粒	外面:口縁部横ナデ・頸部縦・横ハケメ・肩部櫛状工具 による直線文・体部横・縦ハケメ 内面:口縁部ナデ・口縁下半~頸部指頭調整→ナデ・体部 横ヘラケズリ	
6	埋砂上層	土師器 直口壺	口縁~体 部1/2	口径(15.1) 器高(16.6)	良	黄灰白色	密 石英・砂粒	外面:口縁部横ナデ・頸部以下縦・横ハケメ・肩部櫛状工 具による直線文2条 内面:口縁部横ナデ・頸部指頭調整・体部横ヘラケズリ	
7	埋砂下層	土師器 直口壺	口頸部 1/8	口径(14.4) 器高(6.2)	良	黄灰白色	密	外面:口頸部横ナデ 内面:口縁部横ナデ・口縁部下半指頭調整→ナデ・頸部以 下横ヘラケズリ	
8	埋砂上層	土師器 壺	口頸部 1/8	口径(16.2) 器高(6.9)	良	褐色	密 砂粒	外面:口頸部横ナデ・口縁部ヘラ状工具による凹線4条・ 頸部貝殻腹縁による刺突文 内面:口頸部横ナデ	内外面一部煤付着
9	埋砂上層	土師器 壺	口頸部 1/5	口径(15.8) 器高(3.4)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面:口頸部横ナデ 内面:口頸部横ナデ・頸部以下横ヘラケズリ	
10	埋砂中	土師器 小型壺	破片	口径(10.2) 器高(4.5)	良	灰褐色	密	外面:口縁部~肩部横ナデ・肩部横ハケメ→櫛状工具端部 による刺突文1個以上 内面:口頸部横ナデ・頸部以下横ヘラケズリ	
11	埋砂最上層	土師器 小型壺	口頸部 1/8	口径(10.8) 器高(4.9)	良好	黒茶色	密 雲母	外面:口縁部~肩部横ナデ・肩部横ハケメ 内面:口縁部横ナデ・頸部縦ハケメ→ナデ・肩部横ヘラケ ズリ	
12	埋砂上層	土師器 小型壺	口縁~肩 部1/3	口径(10.4) 器高(4.5)	良	灰茶色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部~肩部横ナデ 内面:口頸部横ナデ・肩部横ヘラケズリ	外面肩部一部煤付 着
13	埋砂上層	土師器 壺	頸部	器高(6.9)	良	褐色	密 石英・白色粒	外面:頸部横ハケメ→沈線区画の櫛状工具による連続刺突 文 内面:頸部指頭調整・頸部以下横ヘラケズリ	外面一部煤付着
14	埋砂上層	土師器 小型丸底鉢	破片	口径(13.4) 器高(4.3)	良好	橙褐色	密 石英	外面:横ナデ 内面:口縁部横ナデ・体部粗い斜めヘラミガキ	外面一部煤付着
15	埋砂上層	土師器 小型丸底鉢	破片	口径(13.7) 器高(3.9)	良	褐色~灰茶 色	密 石英	外面:横ナデ 内面:口縁部横ナデ・体部粗い斜めヘラミガキ	
16	埋砂上層	土師器 小型丸底鉢	1/2	口径(10.0) 器高(5.2)	良好	橙褐色	密 雲母	外面:口頸部横ナデ・体部縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面:口縁部横ナデ・口縁部以下横ヘラミガキ	
17	埋砂上層	土師器 小型丸底壺	1/2	口径(9.7) 器高(7.6) 胴径(9.4)	良好	褐色~灰褐 色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部横ナデ・口縁下半以下縦ハケメ→横ヘラミガ キ・底部縦ハケメ 内面:口縁部横ナデ・体部指頭調整→横ヘラミガキ	外面体部煤付着
18	埋砂上層	土師器 小型丸底壺	1/2	口径(4.1) 胴径(7.2)	良	橙褐色	密 雲母・砂粒	外面:体部縦ハケメ→横ヘラミガキ・底部縦・横ハケメ 内面:頸部横ナデ・体部指頭調整→ヘラミガキ	
19	埋砂上層	土師器 小型丸底壺	1/3	口径(11.5) 器高(5.3)	良好	橙褐色	密 雲母	外面:口縁部横ナデ・口縁部縦ヘラミガキ・肩部横・縦 ハケメ 内面:口頸部横ナデ・頸部以下横ヘラケズリ	
20	埋砂上層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径(15.3) 器高:28.0 胴径:23.0	良	灰茶色~褐 色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口頸部横ナデ・体部上半指頭調整→縦・横ヘラケズリ・ 体部下縦・横ヘラケズリ 内面:口頸部横ナデ・体部指頭調整→横ヘラケズリ	黒斑 外面体部下半煤・ 炭化物付着
21	埋砂下層	土師器 甕	1/2	口径(13.6) 器高:20.3 胴径(19.0)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部~肩部横ナデ・体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ・肩部横ヘラケズリ・体部指頭調整→ 斜めヘラケズリ	外面体部煤付着
22	埋砂上層	土師器 甕	1/2	口径:12.3 器高:18.7 胴径(16.4)	やや良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部~肩部横ナデ・体部横ハケメ 内面:口頸部横ナデ・体部上半横ヘラケズリ・体部下指 頭調整→斜めヘラケズリ	外面一部煤付着
23	埋砂上層	土師器 甕	2/3	口径:15.0 器高:29.1 胴径:23.9 底径(4.0)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口頸部横ナデ・体部斜め・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ・体部上半横ヘラケズリ・体部下指 頭調整→斜めヘラケズリ	外面体部煤付着
24	埋砂下層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径:14.2 器高:23.2 胴径:19.8	良	黄灰白色	密	外面:口頸部横ナデ・体部斜め・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ・体部上半横ヘラケズリ・体部下指 頭調整→斜めヘラケズリ	外面体部煤付着
25	埋砂下層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径:13.8 器高:22.5 胴径:19.2	やや良	褐色	密 雲母・白色粒	外面:口縁部~肩部横ナデ・体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ・肩部指頭調整・体部上半横ヘラケズ リ・体部下指頭調整→縦ヘラケズリ	外面体部煤付着
26	埋砂下層	土師器 甕	1/2	口径(12.3) 器高:20.0 胴径(18.0)	良好	橙褐色	密 雲母・石英	外面:口縁部~肩部横ナデ・体部横ハケメ 内面:口縁部~肩部横ナデ・体部横ヘラケズリ・底部指頭 調整	外面体部下半炭化 物付着
27	埋砂下層	土師器 甕	2/3	口径:14.2 器高:23.7 胴径:20.6	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面:口頸部横ナデ・体部斜め・横ハケメ・肩部櫛状工具 端部による列点文6個・ヘラ状工具端部による列点 文3個 内面:口頸部横ナデ・体部上半横ヘラケズリ・体部下指 頭調整→縦ヘラケズリ	外面体部煤付着
28	埋砂上層	土師器 甕	2/3	口径(14.8) 器高:24.5 胴径(23.6)	良	灰茶色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部~肩部横ナデ・体部縦・斜め・縦ハケメ・肩部 櫛状工具による波状文(1/3周) 内面:口頸部横ナデ・肩部指頭調整→横ヘラケズリ・体部 斜めヘラケズリ	外面体部下半煤・ 炭化物付着
29	埋砂中	土師器 甕	破片	口径(15.4) 器高(4.7)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面:口縁部・頸部櫛状工具による直線文→ナデ 内面:横ナデ	外面煤付着

30	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(19.4) 器高(5.2)	良	黒茶色	密 角閃石・雲母 ・石英・砂粒	外面：口縁部櫛状工具による直線文→ナデ、頸部ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部横ヘラミガキ	外面口縁部煤付着
31	埋砂上層	土師器 甕	口頸部 1/5	口径(15.0) 器高(5.3)	良	黄灰白色	密 雲母	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
32	埋砂上層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径：14.6 器高(24.8) 胴径：21.7	良	褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整→横ヘラケズリ、体部 横ヘラケズリ、底部指頭調整	外面煤付着
33	埋砂上層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径(15.1) 器高(23.4) 胴径(23.8)	良好	橙褐色	密 雲母・石英	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口縁部～肩部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部 下半指頭調整→斜めヘラケズリ	外面煤付着
34	埋砂上層	土師器 甕	1/2	口径(14.8) 器高(24.9) 胴径(23.8)	良	褐色	密	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部中位以 下指頭調整→斜めヘラケズリ	外面体部煤付着
35	埋砂下層	土師器 甕	2/3	口径：14.0 器高(23.3) 胴径：21.6	良	褐色	密	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・斜め・縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部上半指頭調整→横ヘラケズリ、 体部斜めヘラケズリ、底部指頭調整→ヘラケズリ	
36	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部	口径：14.7 器高(25.7) 胴径(22.8)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部指頭調整→横・斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→横・斜めヘラケズリ	外面煤・炭化物付 着
37	埋砂下層	土師器 甕	2/3	口径(14.7) 器高(24.9) 胴径(23.0)	良	黄灰白色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横・斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部中位以 下指頭調整→斜めヘラケズリ	外面煤付着
38	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径(13.0) 器高(9.5)	良	橙褐色	密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ、肩部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
39	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/8	口径(12.1) 器高(8.6)	良	灰褐色	密 白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ→ヘラ状工具によ る直線文1条・端部による刺突文3個以上 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	
40	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/5	口径(15.8) 器高(6.8)	良	灰褐色	密 砂粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内外面口頸部煤付 着
41	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(13.6) 器高(4.9)	良	黄灰白色	密 砂粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
42	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部1/3	口径(14.0) 器高(7.2)	良	黄灰白色	密 雲母・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
43	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部1/3	口径(14.5) 器高(7.1)	良	暗灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
44	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部2/3	口径(14.3) 器高(7.1)	良	黄灰白色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	
45	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部1/8	口径(15.0) 器高(5.7)	良	灰褐色	密 白色粒・砂粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
46	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部5/8	口径(12.4) 器高(7.1)	良	褐色	密 角閃石・雲母 ・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
47	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部破片	口径(15.5) 器高(8.9)	良	橙褐色	密 白色粒	外面：口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整、肩部横ヘラケズリ	
48	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径(13.0) 器高(7.5)	良	橙褐色	密	外面：口頸部横ナデ、肩部横ハケメ→櫛状工具端部による 列点文5個 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
49	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部2/3	口径：15.6 器高(19.4) 胴径(25.1)	良	褐色	密	外面：口頸部横ナデ、体部縦・斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
50	埋砂上層	土師器 甕	2/3	口径：14.7 器高(20.8) 胴径(22.2)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部下半指頭調整、体部横ヘラケズリ	
51	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部	口径：15.1 器高(16.3) 胴径(22.0)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・斜めヘラケズリ 内面：口頸部横ナデ、頸部下半指頭調整、体部横ヘラケズリ	外面頸部煤付着
52	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径：14.2 器高(14.3) 胴径(20.7)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・斜めハケメ、肩部ヘ ラ状工具端部による列点文3個以上 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ→ナデ	
53	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(14.0) 器高(20.0) 胴径(22.8)	良	褐色	密 白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部斜め・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
54	埋砂上層	土師器 甕	1/4	口径(14.4) 器高(17.4) 胴径(21.3)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横・斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	黒斑 外面煤付着 内面体部下半一部 炭化物付着
55	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部	口径(16.0) 器高(14.3) 胴径(23.0)	やや良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部～肩部指頭調整→ナデ、体部横 ヘラケズリ	外面煤付着
56	埋砂下層	土師器 甕	1/2	口径(13.6) 器高(20.0) 胴径(20.0)	良	褐色	密 雲母・石英	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ、体部下半指 頭調整→横ヘラミガキ	外面煤付着
57	埋砂下層	土師器 甕	1/3	口径(12.8) 器高(10.7)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
58	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/3	口径(16.6) 器高(7.8)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
59	埋砂下層	土師器 甕	口頸部 7/8	口径：14.0 器高(5.3)	良	黄灰白色	密 雲母・白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
60	埋砂上層	土師器 甕	口頸部 1/4	口径(14.4) 器高(4.7)	良	褐色	密	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内外面煤付着
61	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部1/4	口径(14.4) 器高(7.1)	良	灰色	密 雲母・白色粒 ・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
62	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/8	口径(13.4) 器高(8.4)	良	黄灰白色	密 白色粒・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
63	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(14.4) 器高(9.5)	良好	灰色	密 雲母	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	

64	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/3	口径(14.2) 器高(7.8)	良	褐色～黒茶 色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	内外面煤付着
65	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部5/8	口径:13.4 器高(7.8)	良	褐色	密 角閃石・石英 ・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部以下横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	
66	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部1/8	口径(13.4) 器高(7.5)	良好	褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	外面口縁部煤付着
67	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部	口径:17.5 器高(16.1) 胴径(21.3)	良	灰褐色	密	外面：口頸部横ナデ、体部横・斜めハケメ、肩部ヘラ状工 具による波状文1条 内面：口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部下指 頭調整→斜めヘラケズリ	外面煤付着
68	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径:14.6 器高(12.1)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部横・縦ハケメ、肩部櫛状工具端 部による刺突文1個以上 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
69	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(13.8) 器高(11.3)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部横ハケメ、肩部櫛状工具端部 による列点文4個以上 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
70	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部2/3	口径(14.4) 器高(14.9) 胴径(22.4)	良好	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整→横ヘラケズリ、体部 横ヘラケズリ	外面煤付着
71	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(16.4) 器高(8.8)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部横ハケメ→櫛状工具による直線 文 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
72	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部3/4	口径:15.0 器高(7.8)	良好	黄灰白色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
73	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(16.4) 器高(12.8)	良好	褐色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
74	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部	口径(14.6) 器高(13.2)	良	褐色	密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ、肩部ヘラ状工具による波状文1条、 体部横・斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
75	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径:14.0 器高(7.3)	良	黄灰白色	密	外面：口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
76	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部1/8	口径(14.8) 器高(12.5)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部以下縦・斜めハケメ、肩部ヘ ラ状工具による波状文1条 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	口縁部煤付着
77	埋砂下層	土師器 甕	1/2	口径:14.2 器高(15.6) 胴径:21.3	良	褐色	密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ、体部横・斜めハケメ、肩部櫛状工具 端部による列点文6個 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ→ナデ	
78	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部2/3	口径:14.3 器高(15.4) 胴径(22.3)	良好	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
79	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部	口径:16.2 器高(12.4) 胴径(21.4)	良好	橙褐色	密 角閃石・石英 ・小石粒・白色 粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ→櫛状工具端部による 列点文(全周)、体部指頭調整→横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部指頭調整→ナデ、体部横ヘラケ ズリ	外面煤・炭化物付 着
80	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部	口径(16.6) 器高(11.3) 胴径(20.0)	良	灰褐色	密 白色粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・斜め・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
81	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(15.4) 器高(16.1) 胴径(21.4)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面体部下半煤付 着
82	埋砂上層	土師器 甕	1/5	口径(16.6) 器高(8.8)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面一部煤付着
83	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(13.3) 器高(9.8)	良好	橙褐色	密 石英	外面：口頸部横ナデ、肩部以下横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
84	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部2/3	口径(15.6) 器高(10.0)	良	灰茶色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ→櫛状工具端部 による列点文2個以上 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
85	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(15.8) 器高(10.5)	良好	褐色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	外面口縁部一部煤 付着
86	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部1/3	口径(15.0) 器高(9.2)	良好	橙褐色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部櫛状工 具による直線文・ヘラ状工具による刺突文1個以上 内面：口頸部横ナデ、頸部指頭調整→ナデ、肩部横ヘラケ ズリ	外面煤付着
87	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(13.8) 器高(13.5) 胴径(22.6)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部粗い縦・斜め・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下指頭調整→横ヘラケズリ	外面煤付着
88	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/4	口径(35.6) 器高(13.5)	良	褐色	密 雲母・砂粒	内外面：刺難調整不明	
89	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径:20.2 器高(12.3)	良	黄灰白色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部以下横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	
90	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/3	口径(18.8) 器高(9.5)	良	褐色	密 石英	外面：口頸部横ナデ、肩部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部指頭調整、肩部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
91	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部1/4	口径(15.0) 器高(10.7)	良	灰茶色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、 体部横・縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部下指頭調整→ナデ、肩部横ヘ ラケズリ	外面煤・炭化物付 着
92	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径:13.4 器高(8.2)	良好	褐色	密	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内面・外面口縁部 煤付着
93	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/8	口径(14.4) 器高(4.9)	良好	褐色	密 石英	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
94	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径:13.7 器高(8.5)	良好	褐色	密 雲母・石英	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
95	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径:12.6 器高(4.7)	良	褐色	密 雲母	外面：口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
96	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(14.8) 器高(13.7) 胴径(20.0)	良	灰褐色	密 角閃石・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部粗い横・縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横・縦ヘラケズリ	外面煤付着
97	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/5	口径(12.0) 器高(7.1)	良	褐色	密 雲母・白色粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着

98	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/4	口径(16.2) 器高(6.6)	良	灰褐色	密 石英・白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整→横ヘラケズリ	
99	埋砂上層	土師器 甕	1/8	口径(13.6) 器高(5.4)	良	黒茶色	密 雲母	外面：口縁部工具痕→横ナデ、頸部横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
100	埋砂下層	土師器 甕	2/3	口径(11.3) 器高(14.4) 胴径(15.1)	良	褐色	密 角閃石・雲母・ 石英・白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部下指 頭調整→横ヘラケズリ	外面体部煤・炭化 物付着
101	埋砂下層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径：9.2 器高：9.9 胴径：10.3	良	黄灰白色	密 白色粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	
102	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(10.8) 器高(11.7) 胴径(15.8)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部縦ヘラミガキ、頸部横ナデ、体部横ヘラミガキ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
103	埋砂上層	土師器 甕	完形	口径：11.2 器高：15.5 胴径：14.3	良	褐色	密	外面：口縁部横ナデ→縦ヘラミガキ、頸部横ナデ、体部上 半横ヘラミガキ、体部下半調整不明 内面：口頸部横ヘラミガキ、体部上半横ヘラケズリ、体部 下半指頭調整→ヘラケズリ	外面煤付着
104	埋砂下層	土師器 甕	2/3	口径：11.2 器高：15.4 胴径(14.0)	良	橙褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部上半斜め・横ハケメ、肩部筒状 工具端部による列点文4個 内面：口縁部横ナデ、頸部ヘラケズリ→ナデ、体部上半横 ヘラケズリ、体部下指頭調整→横ヘラケズリ	外面体部煤付着
105	床面直上	土師器 甕	1/3	口径(10.8) 器高(9.5) 胴径(13.2)	良好	褐色	密 雲母・白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
106	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/10	口径(10.0) 器高(7.5)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面：口縁部横ナデ、口頸部横・縦ヘラミガキ、体部横 ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
107	埋砂下層	土師器 高坏	ほぼ 完形	口径：16.4 器高：12.1 底径：9.8	良好	橙褐色	密 角閃石・石英 ・白色粒	外面：坏部横ヘラミガキ、坏底部ハケメ、脚柱部縦・横ヘ ラミガキ、裾部横ナデ 内面：坏部縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部ハケメ 接合部円盤充填法	内面坏部赤彩
108	埋砂下層	土師器 高坏	ほぼ 完形	口径：16.6 器高：11.4 底径(10.3)	良好	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：坏部横・縦ヘラミガキ、坏底部ハケメ、脚部上半縦・ 横ヘラミガキ、脚部下半縦・横ハケメ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部 ハケメ 脚部三方円形透し	
109	埋砂下層	土師器 高坏	2/3	口径(17.6) 器高：12.5 底径(10.3)	良好	坏部：橙褐色 脚部：褐色	密 雲母・石英	外面：坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚部縦ヘラミガキ、 脚端部横ナデ 内面：坏部縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部ハケメ 接合部円盤充填法	
110	埋砂下層	土師器 高坏	ほぼ 完形	口径：15.6 器高：11.5 底径：9.8	良	褐色	密 角閃石・雲母 ・砂粒	外面：坏部横・縦ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部 ハケメ 接合部円盤充填法、脚部円形透し	
111	埋砂下層	土師器 高坏	坏部1/3	口径(17.6) 器高(3.9)	良	橙褐色	密 砂粒・白色粒	外面：坏部横ヘラミガキ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ	
112	埋砂下層	土師器 高坏	坏部1/4	口径(15.6) 器高(4.3)	良	黄灰白色	密 石英	外面：口縁部横ナデ、坏部横ヘラミガキ 内面：坏部縦ヘラミガキ	内外面煤付着
113	埋砂下層	土師器 高坏	坏部	口径：16.4 器高(4.6)	やや良	褐色	密 雲母・石英	外面：坏部横ヘラミガキ 内面：坏部縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	
114	埋砂上層	土師器 高坏	坏部	口径(14.6) 器高(3.7)	良	褐色	密	外面：口縁部横ナデ、坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面：坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ	
115	埋砂下層	土師器 高坏	坏部1/3	口径(26.6) 器高(7.3)	良	黄灰白色	密 石英	外面：口縁部横ナデ、坏部縦ヘラミガキ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ	
116	埋砂最下層	土師器 高坏	坏部1/4	口径(16.8) 器高(5.2)	良好	褐色	密 砂粒	外面：坏部横・縦ヘラミガキ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ	
117	埋砂下層	土師器 高坏	坏部	口径：17.7 器高(4.9)	やや良	橙褐色	密 白色粒	外面：坏部縦ヘラミガキ 内面：坏部縦・横ヘラミガキ 接合部円盤充填法	外面一部煤付着 内面被熱痕
118	埋砂下層	土師器 高坏	坏部1/3	口径(14.8) 器高(5.3)	良	灰褐色	密 雲母・石英	外面：口縁部横ナデ、坏部横・縦ヘラミガキ 内面：坏部横ヘラミガキ 接合部円盤充填法	
119	埋砂上層	土師器 高坏	坏部	口径：10.0 器高(4.4)	良	橙褐色	密 雲母・砂粒	外面：坏部縦・横ヘラミガキ 内面：坏部縦・横ヘラミガキ 接合部円盤充填法	
120	埋砂上層	土師器 高坏	坏部1/4	口径(5.9) 器高(4.5)	良	褐色	密	外面：坏部縦・横ヘラミガキ→ナデ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ	内外面一部煤付着
121	埋砂上層	土師器 高坏	坏部	口径(6.4) 器高(5.9) 胴径(9.5)	良	褐色	密 雲母	外面：坏部横・斜めヘラミガキ 内面：口縁部剥離調整不明、坏底部ハケメ→ヘラミガキ 接合部円盤充填法	外面坏部煤付着 ブランデーグラス 形
122	埋砂下層	土師器 高坏	坏部3/5	口径(12.2) 器高(7.4) 胴径(10.4)	やや良	橙褐色	密	外面：坏部ハケメ→縦・横ヘラミガキ 内面：坏部横ハケメ、坏肩部指頭調整→縦ハケメ 接合部円盤充填法	外面一部煤付着
123	埋砂上層	土師器 高坏	坏部1/2	器高(4.7) 胴径(8.2)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：坏部ハケメ→横ヘラミガキ 内面：坏部横ヘラミガキ、坏肩部指頭調整→縦・横ヘラミ ガキ、坏底部ナデ	外面一部煤付着
124	埋砂上層	土師器 高坏	脚部	器高(8.6) 底径：10.3	良好	褐色	密 砂粒	外面：脚柱部縦ハケメ→縦ヘラミガキ、裾部縦・横ハケメ、 脚端部横ナデ 内面：坏底部ナデ、脚柱部上半ナデ、脚柱部下半横ヘラケ ズリ、裾部指頭調整→ナデ 脚部三方円形透し	
125	埋砂最下層	土師器 高坏	脚部	器高(7.4) 底径：9.5	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：脚部上半横ヘラミガキ、脚部下半縦ヘラケズリ→ナ デ 内面：脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ	内外面赤彩
126	埋砂上層	土師器 高坏	脚部	器高(7.9) 底径：12.4	良	褐色	密	外面：脚部布日状圧痕→縦ヘラケズリ→横ヘラミガキ 内面：脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ	
127	埋砂上層	土師器 高坏	脚部	器高(8.4) 底径：9.8	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：脚部縦・横ヘラミガキ 内面：脚柱部横ヘラケズリ、脚柱部下半指頭調整→横ヘラ ケズリ、裾部斜めハケメ→ナデ	
128	埋砂下層	土師器 高坏	脚部	器高(7.4) 底径：10.6	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：脚部縦ヘラケズリ→縦・横ヘラミガキ 内面：脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ナデ	

129	埋砂下層	土師器 高坏	脚部	器高(7.7) 底径:9.8	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面:脚部縦ヘラケズリ→横ヘラミガキ、裾部ハケメ→ヘ ラミガキ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部ハケメ→ヘラミガキ	
130	埋砂上層	土師器 高坏	脚部	器高(7.1) 底径:10.8	良	褐色	密 砂粒	外面:脚部縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面:脚柱部縦・横ヘラケズリ、裾部縦・横ハケメ 脚部二方円形透し	
131	埋砂上層	土師器 高坏	脚部	器高(3.2) 底径:15.6	良	橙褐色	密 雲母・砂粒	外面:脚部ハケメ→縦・横ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ	
132	埋砂中	土師器 低脚坏	2/3	口径(13.6) 器高:6.1 底径:5.4	良	灰褐色	密 雲母	外面:坏部ハケメ→横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部ハケメ→横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	
133	埋砂下層	土師器 低脚坏	2/3	口径(13.6) 器高:5.7 底径:5.3	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:坏部ハケメ→横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部ハケメ→横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	
134	埋砂上層	土師器 低脚坏	2/3	口径(15.6) 器高:5.1 底径:5.1	良好	橙褐色	密 雲母・石英	外面:坏部ハケメ→縦ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	内外面口縁部煤付 着
135	埋砂上層	土師器 低脚坏	2/3	口径(13.5) 器高:4.5 底径:3.6	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面:坏部上半横ヘラミガキ、坏部下半横・縦ヘラミガキ、 脚部横ナデ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	外面坏部煤付着
136	埋砂下層	土師器 低脚坏	坏部1/2	口径(14.6) 器高(3.6)	良好	橙褐色	密 雲母・石英	外面:坏部横・縦ヘラミガキ 内面:坏部縦ヘラミガキ	
137	埋砂上層	土師器 低脚坏	7/8	口径:16.4 器高:5.0 底径:5.2	良	灰褐色～橙 褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	外面一部煤付着
138	埋砂下層	土師器 低脚坏	1/3	口径(12.9) 器高:5.0 底径:6.0	良好	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:坏部上半横ナデ、坏部下半縦ハケメ、脚部横ナデ 内面:坏部ハケメ→横ヘラミガキ、脚部横ナデ	外面坏部煤付着
139	埋砂上層	土師器 低脚坏	2/3	口径:10.8 器高:4.2 底径:4.6	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	内部坏底部砂多量 付着
140	埋砂下層	土師器 低脚坏	ほぼ 完形	口径:15.8 器高:4.3 底径:4.5	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	内面焼きムラ有
141	埋砂下層	土師器 鼓形器台	2/3	口径(16.5) 器高:10.0 底径:15.4	良好	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:横ナデ 内面:受部縦・横ヘラミガキ、接合部～脚部横・斜めヘラケ ズリ、脚端部横ナデ	
142	埋砂上層	土師器 鼓形器台	5/8	口径:17.9 器高:9.9 底径:15.6	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面:横ナデ 内面:受部横・斜めヘラミガキ、接合部～脚部横・斜めヘラ ケズリ、脚端部横ナデ	内面脚部ヘラによ る線刻
143	埋砂上層	土師器 鼓形器台	2/3	口径(18.1) 器高:9.9 底径:16.3	良好	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:横ナデ、脚部櫛状工具端部による列点文4個 内面:受部横ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部横・斜めヘラ ケズリ、脚端部横ナデ	内面口縁部一部煤 付着
144	埋砂下層	土師器 鼓形器台	1/4	器高(6.9) 底径:15.2	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:横ナデ 内面:受部横ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部横ヘラケズリ、 脚端部横ナデ	
145	埋砂下層	土師器 鼓形器台	5/8	口径(17.4) 器高:9.6 底径:15.3	良好	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:横ナデ 内面:受部横・斜めヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ、脚 部斜めヘラケズリ、脚端部横ナデ 脚部三方円形透し	
146	埋砂下層	土師器 鼓形器台	ほぼ 完形	口径:17.6 器高:10.1 底径:15.3	良好	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:横ナデ 内面:受部斜め・横ヘラミガキ、接合部～脚部横・斜めヘラ ケズリ、脚端部横ナデ 脚部三方円形透し	
147	埋砂上層	土師器 鼓形器台	完形	口径:15.5 器高:9.9 底径:13.8	良好	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁端部横ナデ、受部縦ヘラミガキ、接合部横ナデ、 脚部縦ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面:受部横ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部横ヘラケズリ、 脚端部横ナデ	
148	埋砂下層	土師器 鼓形器台	ほぼ 完形	口径(17.2) 器高:9.3 底径:15.4	良好	褐色	密 砂粒	外面:口縁端部横ナデ、受部横ナデ→縦ヘラミガキ、接合 部横ナデ、脚部横ナデ→縦ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面:受部横ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部横ヘラケズリ、 脚端部横ナデ	
149	埋砂下層	土師器 鼓形器台	ほぼ 完形	口径:18.5 器高:9.9 底径:15.1	良好	橙褐色	密	外面:口縁端部横ナデ、受部縦ヘラミガキ、接合部横ナデ、 脚部縦ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面:受部横ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部斜めヘラケズ リ、脚端部横ナデ	
150	埋砂下層	土師器 鼓形器台	3/4	口径(17.0) 器高:10.0 底径:15.0	やや良	橙褐色	密 角閃石・雲母 ・白色粒	外面:口縁端部横ナデ、受部縦ヘラミガキ、接合部横ナデ、 脚部縦ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面:口縁端部横ヘラミガキ、受部～脚部横ヘラケズリ、 脚端部横ナデ 脚部円形透し	
151	埋砂下層	土師器 器台	破片	口径(19.0) 器高(4.8)	良	橙褐色	密	外面:口縁部ヘラ状工具による凹線3条→ナデ 内面:口縁部横ナデ	内面一部煤付着
152	埋砂上層	土師器 小型器台	脚部1/8	器高(2.4) 底径(6.8)	良	褐色	密 砂粒	外面:縦・横ヘラミガキ 内面:受部横ヘラケズリ、脚部横ハケメ→ナデ	
153	埋砂上層	土師器 小型器台	ほぼ 完形	口径:10.2 器高:6.2 底径(9.6)	良好	褐色	密 雲母・砂粒	外面:口縁端部横ナデ、受部縦ヘラミガキ、脚部横・縦ヘ ラミガキ、脚端部横ナデ 内面:受部縦・横ヘラミガキ、接合部～脚部横ヘラミガキ	
154	埋砂下層	土師器 小型器台	脚部	器高(7.6) 底径:11.0	良	黄灰白色	密 雲母	外面:脚部横・縦ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面:脚部上半横ヘラケズリ、脚部下半指頭調整→ナデ 脚部三方円形透し	
155	埋砂上層	土師器 甌	狭口部 破片	狭口径(17.8) 器高(10.0)	良	橙褐色	密 角閃石・雲母 ・砂粒	外面:狭口部横ナデ、体部横・縦ハケメ 内面:狭口部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
156	埋砂上層	土師器 甌	広口部 破片	器高(10.1) 広口径(37.6)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面:縦・横ハケメ 内面:体部上半横ヘラケズリ、体部下半横ナデ	
157	埋砂下層	埴輪	破片	器高(6.6) 底径(12.6)	良	灰褐色	密 石英	外面:縦ハケメ 内面:指頭調整→横ハケメ	内外面一部煤付着
158	埋砂下層	土製品	底部	器高(1.4) 幅(2.5)	良	灰褐色	密 角閃石・白色 粒	外面:ハケメ部ヘラケズリ 内面:木材小口部を型押し成型	内面煤付着

159	埋砂下層	土錘	1/2	長さ: 4.2 幅 (4.3) 厚さ (2.6)	やや良	灰褐色	密 石英・白色粒 赤色粒		重量: 34.7g
160	床面直上	土錘	完形	長さ: 2.5 幅: 2.8 厚さ: 2.9	良	褐色	密		重量: 18.6g

第15表 2区SI04出土石器観察表 (第43図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
161	埋砂上層	磨製石斧	破片	(50)	(19)	(24)	20.6	閃緑岩	刃部角78度
162	埋砂下層	台石	1/2	(178)	(201)	43	2024.6	安山岩	
163	埋砂上層	磨石	1/2	(96)	(87)	41	517.3	デイサイト	
164	埋砂下層	石錘	完形	161	87	40	758.6	デイサイト	右打欠幅40mm
165	埋砂下層	石錘	1/2	(113)	88	40	511.1	安山岩	左打欠幅31mm・右打欠幅 (45)mm
166	埋砂下層	石錘	完形	139	89	41	677.5	安山岩	左打欠幅18mm・右打欠幅20mm 煤附着
167	埋砂上層	石錘	完形	168	91	61	1130.2	デイサイト	左溝幅31mm・右溝幅45mm
168	埋砂上層	ハンマーストーン	完形	145	76	52	850.3	デイサイト	
169	埋砂上層	砥石	ほぼ完形	(183)	(113)	(92)	1634.1	珪岩	
170	埋砂上層	砥石	ほぼ完形	77	72	55	36.6	軽石	
171	埋砂上層	砥石	1/2	(54)	58	(37)	25.1	軽石	

第16表 4区SI01出土土器観察表 (第45図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中層	土師器 甕	口縁~ 体部1/2	口径(13.4) 器高(14.6) 胴径(23.2)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面: 口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤附着
2	埋砂下層	土師器 甕	口縁~ 体部	口径:14.6 器高(13.2)	良	灰茶色	密 雲母・砂粒	外面: 口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ→肩部櫛状工具端 部による列点文3個以上 内面: 口頸部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	外面煤附着
3	埋砂中層	土師器 小型丸底壺	口縁部 1/2	口径(11.4) 器高(5.3)	良	橙褐色	密 白色粒・赤色 粒・砂粒	外面: 口縁端部横ナデ、口縁部横ナデ→縦ミガキ 内面: 口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
4	埋砂中層	土師器 高坏	ほぼ 完形	口径:15.9 器高:13.8 底径:11.1	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面: 口縁端部横ナデ、坏部縦ハケメ→縦ヘラミガキ、脚 部縦ヘラミガキ 内面: 坏部横・縦ヘラミガキ、脚柱部ヘラケズリ、裾部横 ハケメ 接合部円盤充填法、脚部三方円形透し	内底面使用による 磨耗 脚部内外面一部煤 附着
5	埋砂中層	土師器 高坏	ほぼ 完形	口径(13.6) 器高:11.4 底径:11.0	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 口縁端部横ナデ、坏部横・縦ヘラミガキ、脚部ヘラ ケズリ→ハケメ→縦・横ヘラミガキ 内面: 坏部縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部ハケメ 接合部円盤充填法	
6	埋砂中層	土師器 高坏	坏部2/3	口径:14.8 器高(5.6)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面: 横ヘラミガキ 内面: 縦ヘラミガキ→縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	
7	埋砂下層	土師器 高坏	坏部2/3	口径:15.3 器高(5.7)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面: 口縁端部横ナデ、坏部横ナデ→縦・横ヘラミガキ 内面: 横・縦ヘラミガキ	
8	埋砂中層	土師器 高坏	坏部	口径:15.1 器高(5.2)	良	橙褐色	密	外面: 口縁端部横ナデ、坏部横・縦ヘラケズリ 内面: 横ヘラミガキ 接合部円盤充填法	外面煤附着
9	埋砂中層	土師器 高坏	脚部	器高(10.0) 底径:11.6	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 脚部ヘラケズリ→横ヘラミガキ 内面: 坏底部磨耗調整不明、脚柱部ヘラケズリ、裾部横ハ ケメ 接合部刺突痕、脚部三方円形透し	
10	埋砂中層	土師器 小型器台	2/3	口径: 7.8 器高: 6.5 底径(11.2)	良	橙褐色	密 白色粒・赤色 粒・砂粒	外面: 横ナデ→横ヘラミガキ 内面: 受部・脚部横ヘラミガキ	

第17表 4区SI01出土石器観察表 (第45図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
11	埋砂中層	石錘	2/3	(112)	(83)	(37)	474.4	花崗岩	左打欠幅43mm・右打欠幅43mm

第18表 4区SI05出土土器観察表 (第46図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂上層	土師器 甕	1/4	口径(18.4) 器高(19.5) 胴径(17.8) 底径: 2.4	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 口頸部横ナデ、口縁部櫛状工具による直線文、体部 縦・横ハケメ、底部ナデ 内面: 口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	内外面煤附着
2	埋砂下層	土師器 甕	口縁~体 部1/3	口径(20.8) 器高(17.6) 胴径(32.8)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 口頸部横ナデ、口縁部櫛状工具による直線文→ナデ、 肩部磨耗調整不明、体部縦ハケメ 内面: 口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	内面頸部以下煤付 着
3	床面直上	土師器 甕	口頸部破 片	口径(19.0) 器高(4.2)	良	褐色	密 砂粒	外面: 口頸部横ナデ、口縁部櫛状工具による直線文→ナデ 内面: 口頸部横ナデ、頸部以下ヘラケズリ	外面煤附着
4	埋砂下層	土師器 甕	口頸部破 片	口径(18.0) 器高(5.8)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 口頸部横ナデ、口縁部櫛状工具による直線文→ナデ 内面: 口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面口縁部煤附着
5	埋砂下層	土師器 甕	口頸部破 片	口径(18.6) 器高(6.2)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 口頸部横ナデ 内面: 口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤附着

6	埋砂中	土師器 甕	底部	器高(1.9) 底径(2.0)	良	黒茶色	密 砂粒	外面：ヘラケズリ 内面：指頭調整	外面煤付着
7	埋砂上層	土師器 注口土器	注口部	口径：2.0 注口長(6.8)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：長軸方向のヘラケズリ→ナデ 内面：注口ヘラケズリ、体部ヘラケズリ	
8	埋砂最下層	土師器 鉢	2/3	器高：6.0 底径(4.6)	良	橙褐色～黄 灰白色	密	外面：口縁部横ナデ、口縁部～体部横ヘラミガキ 内面：縦・横ヘラミガキ	外面底部煤付着

第19表 4区SI02出土土器観察表(第48図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂下層	土師器 直口壺	破片	口径(12.7) 器高(5.3)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面：口頸部指頭調整→ナデ、肩部横ヘラケズリ	
2	床面直上	土師器 甕	口頸部 1/3	口径(16.6) 器高(4.3)	良好	褐色	密 砂粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下指頭調整→ヘラケズリ	外面・頸部内面以下煤付着
3	床面直上	土師器 甕	口頸部 1/3	口径(11.5) 器高(3.9)	良	褐色	密 砂粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
4	床面直上	土師器 甕	口頸部	口径(19.6) 器高(5.2)	良	黄灰白色	密 石英	外面：横ナデ、口縁部粗い櫛状工具による直線文 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
5	埋砂下層	土師器 甕	口縁部 破片	口径(16.2) 器高(5.1)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面：口頸部横ナデ→櫛状工具による直線文→ナデ、肩部 横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
6	床面直上	土師器 甕	口縁部 破片	口径(15.0) 器高(6.0)	やや良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面：口縁部櫛状工具による直線文→ナデ、頸部以下ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	頸部外面以下煤付着
7	埋砂下層	土師器 甕	口頸部 1/2	口径(16.2) 器高(4.5)	良	灰褐色	密 白色粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
8	埋砂中	土師器 高坏	坏部・ 接合部 破片	口径(14.8) 器高(6.3)	良	橙褐色	密 白色粒・砂粒	外面：口縁部横ナデ、口縁部櫛状工具による直線文→ナ デ、坏部下半縦ヘラミガキ、脚部縦・横ヘラミガキ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ、脚部縦ヘラケズリ	脚部内面以外赤彩

第20表 4区SI03出土土器観察表(第50・51図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂下層	土師器 壺	口縁～ 肩部1/2	口径(21.8) 器高(10.4)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナデ、頸部以下縦ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整→ナデ、肩部横ヘラケ ズリ	頸部外面一部煤付着
2	埋砂下層	土師器 直口壺	口縁～ 肩部2/3	口径(9.6) 器高(11.9)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部横・縦ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整→ナデ、肩部横ヘラケ ズリ	
3	埋砂下層	土師器 壺	口縁～ 肩部1/3	口径(15.2) 器高(5.1)	良	灰褐色	密 石英・赤色粒 ・砂粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整→横ヘラケズリ	
4	埋砂下層	土師器 甕	口縁～ 体部1/3	口径(21.8) 器高(8.9) 胴径(21.0)	良	黄灰白色	密 石英・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文？、 体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	
5	埋砂最下層	土師器 甕	完形	口径：16.3 器高：25.7 胴径：22.7	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工具端 部による列点文8個 内面：口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部下指 頭調整	口縁部内外面炭化 物付着
6	埋砂中層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径：15.8 器高：23.9 胴径：22.4	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工具端 部による列点文6個 内面：口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部下指 頭調整→ヘラケズリ	内外面一部煤付着
7	埋砂下層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径：14.4 器高：21.5 胴径：20.8	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工具端 部による列点文7個 内面：口縁部横ナデ、口頸部指頭調整→ナデ、体部上半横ヘ ラケズリ、体部下指頭調整→縦ヘラケズリ	外面煤付着
8	埋砂最下層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径：15.0 器高：22.2 胴径：20.0	良	黄灰白色	密 雲母	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状 工具端部による列点文5個 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→縦・横ヘラケズリ	外面煤付着
9	埋砂下層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径：16.3 器高：24.7 胴径：21.5	やや良	灰褐色	密 石英・白色粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・横ヘラケズリ、底部指頭調整 内面：口頸部横ナデ、体部縦・横ヘラケズリ	外面体部一部煤付着
10	埋砂下層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径：14.0 器高：22.3 胴径：19.8	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナデ、頸部以下粗い縦・横ハケメ、肩部櫛 状工具端部による列点文5個 内面：口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部下指 頭調整→横ヘラケズリ	外面体部下半煤付着
11	埋砂中層	土師器 甕	完形	口径：13.8 器高：20.2 胴径：18.4	やや良	黄灰白色	密	外面：口頸部横ナデ、体部横ハケメ、肩部櫛状工具による 直線文、貝殻腹縁による列点文9個 内面：口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部下指 頭調整→横ヘラケズリ	口縁部煤付着
12	埋砂下層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径：13.2 器高(19.0) 胴径：18.3	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部櫛状工具による波状文、 体部斜めハケメ、体部下縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	全体に煤付着
13	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部	口径(16.2) 器高(13.2) 胴径(22.8)	良好	褐色	密 雲母・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部横ハケメ、肩部櫛状工具 端部による列点文2個以上 内面：口頸部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ	内外面煤付着
14	埋砂下層	土師器 小型壺	完形	口径：8.6 器高：12.7 胴径：14.0	良	灰褐色～橙 褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整→ナデ、体部上半横ヘ ラケズリ、体部下指頭調整→縦ヘラケズリ	
15	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部	口径(25.4) 器高(18.6) 胴径(34.8)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、 体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ→縦ハケメ	外面全体煤付着
16	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径(16.7) 器高(7.1)	良	黄灰白色	密 石英・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部櫛状工具による波状文 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
17	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部1/3	口径(16.3) 器高(9.7)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、 体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	内外面全体煤付着

18	埋砂中層	土師器 甕	口縁部 1/3	口径(15.6) 器高(4.5)	良	褐色	密 砂粒	外面：横ナデ→沈線2条→ナデ消し 内面：口縁部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
19	埋砂下層	土師器 甕	体部 破片	器高(2.7)	良好	黒茶色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：貝殻腹縁による連続刺突文 内面：横ヘラケズリ	
20	埋砂下層	土師器 高坏	1/8	口径(32.2) 器高(6.9)	良	黄灰白色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部横ナデ、坏部横・縦ヘラミガキ 内面：坏部横・横ヘラミガキ	
21	埋砂下層	土師器 高坏	脚部	器高(7.1) 底径:11.0	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：脚部横・縦ヘラミガキ 内面：脚柱部横ヘラケズリ、裾部指頭調整→横ハケメ 脚部二方円形透し	
22	埋砂下層	土師器 低脚坏	完形	口径:11.9 器高:5.3 底径:6.1	良	暗灰白色～ 黄灰白色	密 砂粒	外面：坏部縦ハケメ、脚部横ナデ 内面：坏部磨耗、脚部横ナデ	
23	埋砂最下層	土師器 低脚坏	完形	口径:10.2 器高:7.0 底径:5.6	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：坏部指頭調整→縦ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面：口縁部横ナデ、坏部横・縦ヘラミガキ、脚部ハケ メ・ナデ	
24	埋砂最下層	土師器 低脚坏	完形	口径:14.3 器高:6.8 底径:6.6	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナデ、坏部指頭調整→縦横ハケメ、脚部 横ナデ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ、脚部ハケメ・ナデ	
25	埋砂最下層	土師器 鼓形器台	完形	口径:20.6 器高:10.5 底径:18.2	良好	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：横ナデ 内面：受部横・縦ヘラミガキ、脚部上半横ヘラケズリ、脚 部下半横ナデ 脚部円形透し	
26	埋砂最下層	土師器 鼓形器台	完形	口径:20.9 器高:11.4 底径:19.2	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：横ナデ 内面：受部横・縦ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部上半横ヘ ラケズリ、脚部下半横ナデ 脚部円形透し	受部内面・脚部内 外面煤付着
27	埋砂最下層	土師器 鼓形器台	ほぼ 完形	口径:20.8 器高:11.6 底径(19.4)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：横ナデ 内面：受部横・縦ヘラミガキ、接合部ヘラケズリ→ナデ、 脚部上半斜めヘラケズリ、脚部下半横ナデ	脚部内面ヘラによる 線刻

第21表 4区SI03出土石器観察表(第51図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石 材	備 考
28	埋砂下層	砥石	1/2	(73)	(57)	(56)	207.9	珪岩	

第22表 4区SI04出土土器観察表(第53図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整 ・ 文 様	備 考
1	埋砂中層	土師器 壺	口縁部	口径(24.6) 器高(9.9)	良	橙褐色	密 角閃石・白色 粒	外面：口縁部横ナデ、口縁部櫛状工具による波状文・直線 文→下端上下2個単位の竹管文、頸部以下縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下ヘラケズリ	
2	埋砂下層	土師器 壺	口縁部 破片	口径(16.6) 器高(6.7)	良	橙褐色	密	外面：口頸部横ナデ、口縁部櫛状工具による波状文 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整	
3	埋砂下層	土師器 壺	口縁部 破片	口径(14.8) 器高(3.4)	良	橙褐色	密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
4	埋砂下層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径:14.9 器高:20.6 胴径:19.1	良	黄灰白色	密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文・波状文、 体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部下半指 頭調整→縦ヘラケズリ	底部焼成後穿孔 全面煤付着
5	埋砂中層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(15.6) 器高(10.3)	良	褐色	密 砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、 体部上半横ハケメ、下半縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
6	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(19.4) 器高(11.0)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文・ 波状文、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
7	埋砂下層	土師器 甕	口縁部 破片	口径(16.2) 器高(4.1)	良	褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、口縁部櫛状工具による直線文→ナデ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	全面煤付着
8	埋砂下層	土師器 甕	口頸部 1/8	口径(17.6) 器高(5.5)	良	灰褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、口縁部櫛状工具による直線文→ナデ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
9	埋砂下層	土師器 甕	底部1/4	器高(3.6) 底径(3.0)	良	灰褐色	密	外面：体部縦ハケメ、底部ナデ 内面：横ヘラケズリ	
10	埋砂下層	土師器 高坏	坏部1/2	口径(9.7) 器高(7.7)	良	褐色～ 灰褐色	密 砂粒	外面：坏部細かい横ヘラミガキ 内面：口縁部横ナデ、坏部細かい横ヘラミガキ	ブランデーグラス 形
11	埋砂下層	土師器 小型器台	脚部 破片	器高(4.8) 底径(11.6)	良	褐色	密 石英	外面：横ヘラミガキ 内面：受部ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	
12	埋砂中層	土師器 低脚坏	脚部	器高(3.0) 底径:5.4	良	橙褐色	密 雲母・石英	外面：横ナデ 内面：坏部ナデ、脚部指頭調整・ナデ	脚部上端穿孔1個
13	埋砂下層	手捏ね 土器	口縁部 1/8	口径(10.4) 器高(4.7)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：口縁部横ナデ、体部指頭調整→ナデ 内面：横ヘラケズリ	

第23表 4区SI04出土石器観察表(第53図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石 材	備 考
14	埋砂下層	砥石	1/2	124	62	70	661.7	珪岩	被熱
15	埋砂下層	磨石	ほぼ完形	190	(106)	64	1750.0	デイサイト	煤付着
16	埋砂下層	台石	1/2	(242)	(183)	(127)	7090.0	デイサイト	煤付着

第24表 5区SI01出土土器観察表(第55図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整 ・ 文 様	備 考
1	埋砂下層	土師器 壺	口頸部 1/4	口径(17.5) 器高(8.0)	良好	褐色	密 角閃石・白色 粒	外面：口頸部横ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整、肩部横ヘラケズリ	内面煤付着

2	埋砂中	土師器直口壺	口頸部1/5	口径(9.9)器高(6.8)	良好	褐色	密角閃石・白色粒	外面:口縁部横・縦ヘラミガキ、頸部ナデ 内面:指頭調整→縦・横ヘラミガキ	
3	埋砂中	土師器直口壺	口頸部1/4	口径(10.2)器高(10.2)	良好	橙褐色	密角閃石・石英・白色粒・小石粒	外面:口縁部横ハケメ→縦ヘラミガキ、頸部ナデ、頸部下半横ヘラミガキ 内面:口縁部指頭調整・ナデ→縦ヘラミガキ、頸部ナデ、頸部下半横ヘラケズリ	
4	床面直上	土師器甕	口縁~肩部2/3	口径(24.5)器高(12.0)	良	褐色	密雲母・小石粒	外面:口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
5	床面直上	土師器甕	破片	口径(19.4)器高(10.4)	良好	褐色	密角閃石・白色粒	外面:口頸部横ナデ、肩部斜めハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
6	埋砂下層	土師器甕	破片	口径(24.6)器高(9.6)	良	褐色	密雲母・石英・白色粒・小石粒	外面:口頸部横ナデ、肩部粗いハケメ→ナデ 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
7	床面直上	土師器甕	破片	口径(17.2)器高(7.3)	良好	褐色	密白色粒	外面:口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	二次焼成?
8	床面直上	土師器甕	破片	口径(16.2)器高(8.0)	良	褐色	密角閃石・白色粒	外面:横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部ヘラケズリ	外面口縁部一部煤付着
9	埋砂下層	土師器小型丸底壺	体部	器高(5.4)底径(8.0)	良好	橙褐色	密石英・白色粒	外面:縦・横ヘラミガキ 内面:横ヘラケズリ	外面底部線刻
10	埋砂中	土師器鼓形器台	1/2	口径(15.9)器高(9.0)底径(13.0)	良好	橙褐色	密石英・白色粒	外面:受部縦ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部縦ヘラミガキ 内面:受部横ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	
11	埋砂下層	土師器高坏?	脚部	器高(5.3)底径(11.4)	良好	褐色	密角閃石・白色粒	外面:脚部縦ハケメ→ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面:受部ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	
12	埋砂下層	土師器低脚坏	脚部	器高(2.8)底径:8.0	良	褐色	密雲母・白色粒	外面:脚部横ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面:坏部ヘラミガキ、脚部ヘラケズリ・横ヘラミガキ	
13	埋砂中	須恵器短頸壺	1/2	口径(7.8)器高(9.5)胴径(14.0)	やや良	灰色	密	外面:口縁部~体部回転ナデ、体部カキ目、体部下半回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	
14	埋砂中	須恵器短頸壺	口縁~肩部1/4	口径(8.5)器高(3.4)	良好	灰色	密白色粒	内外面:回転ナデ	外面肩部自然降灰
15	埋砂中	須恵器甕	体部	器高(6.5)胴径(9.0)底径(2.4)	良好	青灰色	密	外面:肩部回転ナデ、沈線区画の櫛状工具による列点文、体部下半回転ヘラケズリ 内面:頸部~体部回転ナデ、底部ナデ	
16	床面直上	須恵器甕	体部	器高(6.3)胴径(9.5)	良好	青灰色	密白色粒	外面:体部カキ目→ヘラ状工具による直線文1条・櫛状工具による列点文、体部下半回転ヘラケズリ 内面:頸部~体部回転ナデ、体部下半ヘラケズリ	
17	埋砂中	須恵器平瓶	1/3	器高(13.1)胴径(24.4)底径(9.8)	良好	青灰色	密角閃石・白色粒	外面:体部カキ目、把手部ナデ、底部回転ナデ 内面:体部回転ナデ・当具による同心円文	外面自然降灰
18	埋砂中	須恵器高坏	脚部	器高(5.5)底径(9.4)	良好	灰色	密白色粒	外面:脚部カキ目、裾部回転ナデ 内面:回転ナデ 脚部方形透し2個以上	
19	埋砂中	須恵器甕	破片	口径(15.8)器高(3.0)	良好	青灰色	密白色粒	外面:回転ナデ→ヘラ状工具による斜状文 内面:回転ナデ	
20	床面直上	須恵器坏	1/2	口径(13.6)器高:4.3底径(5.6)	良好	灰色	密白色粒	外面:口縁部~体部回転ナデ、体部下半~底部回転ヘラケズリ 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
21	床面直上	須恵器坏	1/2	口径(12.6)器高:4.7底径(6.7)	良好	灰色	密白色粒	外面:口縁部回転ナデ、体部ナデ、体部下半~底部回転ヘラケズリ 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
22	床面直上	須恵器坏	ほぼ完形	口径:13.2器高:4.8	不良	橙褐色	密白色粒	外面:口縁部~体部回転ナデ、体部下半回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	内底面火ぶくれ
23	床面直上	須恵器坏	2/3	口径(11.3)器高:3.9底径(5.4)	良	灰色	密白色粒	外面:口縁部~体部回転ナデ、体部下半~底部回転ヘラケズリ 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	外面自然降灰 内面火ぶくれ

第25表 5区SI01出土金属製品観察表(第56図)

遺物No	遺構・地区出土層位	種類	部位残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量(g)	備考
24	埋砂中層	刀子	1/2	鉄	全長(59)刃部(30)茎部(29)	刃部:8茎部:4	刃部:2茎部:2	4	錆化(△)	2	2.3	
25	埋砂中	鎌?	刃部	鉄	21	22	2	3	錆化(△)	—	2.7	
29	床面直上	袋状鉄斧	ほぼ完形	鉄	64	袋部:27刃部:37	袋部:15刃部:2				50.3	

第26表 5区SI01出土石器観察表(第56図)

遺物No	遺構・地区出土層位	種類	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	備考
26	床面直上	砥石	ほぼ完形	78	34	23	87.2	凝灰岩	
27	床面直上	石錘	完形	129	90	62	911.5	安山岩	左打欠幅35mm・右打欠幅36mm
28	床面直上	石錘	完形	114	75	44	492.0	安山岩	左打欠幅38mm・右打欠幅48mm

第27表 5区SI02出土土器観察表(第58図)

遺物No	遺構・地区出土層位	器種	部位残存率	法量(cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	土師器壺	口縁~胴部1/2	口径(21.6)器高(35.3)胴径(30.2)	良	橙褐色	密雲母・石英・砂粒	外面:口縁部横ナデ、頸部沈線を有する櫛状工具端部による羽状文、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、頸部下指頭調整、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調整→縦ヘラケズリ	

2	埋砂中層	土師器壺	口頸部1/3	口径(20.4)器高(8.4)	良	褐色	密雲母・砂粒	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整・ナデ	黒斑 口縁部一部煤付着
3	埋砂中	土師器壺	口頸部1/4	口径(15.8)器高(6.7)	良	褐色	密雲母・砂粒	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整・ナデ、肩部横ヘラケズリ	内面二次焼成
4	埋砂中	土師器甕	口縁～肩部1/2	口径(23.0)器高(12.2)	良	黄灰白色	密雲母・石英・砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下横・斜めハケメ、肩部櫛状工具端部による列点文 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
5	埋砂中	土師器甕	口縁～体部1/3	器高(13.0)胴径(27.6)	良	褐色	密雲母・石英・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部ヘラ状工具による波状文1条、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横・斜めヘラケズリ	外面体部煤付着
6	埋砂中	土師器甕	口縁～肩部1/3	口径(13.8)器高(9.4)	良	橙褐色	密雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整→横ヘラケズリ	外面一部煤付着
7	埋砂中層	土師器甕	口縁～肩部1/3	口径(17.0)器高(7.3)	良	褐色	密雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部下指頭調整、肩部横ヘラケズリ	
8	埋砂中	土師器甕	口縁～肩部1/5	口径(16.4)器高(7.5)	良	黄灰白色	密雲母・石英・白色粒・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文 内面：口頸部横ナデ、頸部下指頭調整、肩部横ヘラケズリ	
9	埋砂中	土師器甕	口縁～肩部1/4	口径(13.0)器高(6.7)	良	褐色	密雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文・ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
10	埋砂中層	土師器甕	口縁～胴部1/3	口径(14.4)器高(10.2)	良	褐色	密雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部横・横ハケメ、肩部ヘラ状工具による波状文 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
11	埋砂中	土師器甕	口縁～肩部2/3	口径(15.4)器高(5.9)	良	黄灰白色	密雲母・石英・砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
12	埋砂下層	土師器甕	口縁部	口径(13.2)器高(6.5)	良	褐色	密雲母・石英・白色粒・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面肩部工具痕 外面口縁部煤付着
13	埋砂中層	土師器甕	口縁～肩部	口径(10.3)器高(6.7)	良	褐色	密雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部横・縦ハケメ→櫛状工具端部による列点文9個 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整→横ヘラケズリ	外面煤付着
14	埋砂中層	土師器小型丸底壺	完形	口径：7.0 器高：7.5 胴径：8.9	良	褐色	密雲母・白色粒・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部横ヘラミガキ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整・横ヘラケズリ	
15	埋砂中層	土師器高坏	ほぼ完形	口径(14.8)器高：13.4 底径(11.0)	良	橙褐色	密雲母・石英・砂粒	外面：坏部縦・横ヘラミガキ、坏底部～脚部上半縦ハケメ、脚部下半横ヘラミガキ 内面：坏部縦・横ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ、裾部指頭調整・ハケメ 接合部円盤充填法	
16	埋砂中層	土師器高坏	坏部2/3	口径：16.1 器高(5.3)	良	褐色	密雲母・石英・砂粒	外面：横ヘラミガキ 内面：横・縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	
17	埋砂中層	土師器高坏	坏部2/3	口径：15.0 器高(5.3)	良	橙褐色	密雲母・石英・砂粒	外面：横ヘラミガキ、坏底部縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面：横・縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	内外面煤付着
18	埋砂中	土師器高坏	坏部1/4	口径(19.0)器高(4.2)	良	褐色	密雲母・石英・砂粒	外面：磨耗調整不明 内面：横・縦ヘラミガキ	内外面口縁部煤付着
19	埋砂中	土師器高坏	坏部1/3	口径(12.8)器高(3.6)	良	黄灰白色	密雲母・石英・砂粒	外面：坏部斜めハケメ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ	
20	埋砂中	土師器低脚坏	2/3	器高(4.0) 底径：5.1	良	橙褐色	密雲母・石英・砂粒	外面：坏部縦・横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面：坏部横ヘラミガキ、脚部横ナデ	内面脚部線刻3条
21	埋砂中層	土師器低脚坏	2/3	器高(4.0) 底径：6.7	良	黄灰白色	密雲母・石英・砂粒	内外面：横ナデ	内面坏部線刻2条

第28表 5区SI02出土金属製品観察表(第59図)

遺物No.	遺構・地区出土層位	種類	部位残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量(g)	備考
22	埋砂中	刀子?	1/2	鉄	全長(46) 刃部(30) 茎部(16)	刃部:8 茎部:4	刃部(2) 茎部:2	3	錆化(△)	—	2.7	
23	埋砂下層	鎌	刃部	鉄	110	24	2	6	錆化(△)	5	26.2	

第29表 5区SI02出土石器観察表(第59図)

遺物No.	遺構・地区出土層位	種類	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	備考
24	埋砂中	石錘	完形	13	8	5	667.8	デイサイト	左打欠幅26mm・右打欠幅35mm

第30表 5区SI03出土土器観察表(第61図)

遺物No.	遺構・地区出土層位	器種	部位残存率	法量(cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中層	土師器壺	口縁～肩部	口径:16.6 器高(11.3)	良	灰褐色	密砂粒	外面：口縁部横ナデ→櫛状工具による波状文、頸部縦ハケメ、肩部縦ハケメ→ヘラ状工具による直線文・櫛状工具端部による列点文 内面：口頸部横ナデ、頸部下指頭調整、肩部横ヘラケズリ	
2	埋砂中	土師器壺	頸部破片	器高(4.5)	良	黒茶色	密砂粒	外面：頸部指頭調整→ヘラミガキ、貝殻腹縁による押引文・横ハケメ 内面：頸部横ヘラミガキ、頸部下半横ヘラケズリ	内外面煤付着
3	埋砂中	土師器小型丸底壺	口頸部1/4	口径(9.6) 器高(4.8)	良	黒茶色	密砂粒	外面：横ヘラミガキ 内面：口縁部斜めハケメ→縦ヘラミガキ・横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着

4	Pit4・15・埋砂中	土師器高坏	坏部1/4	口径(25.0)器高(5.2)	良	褐色	密雲母・砂粒	外面：横ナデ 内面：横ヘラミガキ	内外面煤附着
5	床面直上	土師器鼓形器台	坏部1/2	器高(4.5)	良	灰茶色	密砂粒	外面：口縁部横ハケメ、頸部横・縦ヘラミガキ 内面：口頭部横ヘラミガキ、頸部下半横ヘラケズリ	内面赤彩

第31表 5区SI03出土金属製品観察表(第61図)

遺物No	遺構・地区出土層位	種類	部位残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量(g)	備考
6	埋砂中	鉄鏃	完形	鉄	25	18	1	3	錆化(△)	5	1.7	刃部角68度
7	埋砂中	棒状不明品	—	鉄	(52)	5	3	1	錆化(△)	3	10.6	

第32表 5区SI04出土土器観察表(第63図)

遺物No	遺構・地区出土層位	器種	部位残存率	法量(cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中層	土師器壺	口縁～肩部1/8	口径(12.4)器高(4.0)	良	灰褐色	密雲母・白色粒	外面：口頭部横ナデ、肩部横ハケメ→櫛状工具による波状文 内面：口頭部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
2	埋砂下層	土師器甕	2/3	口径：14.0器高(21.1)胴径(20.0)	良	灰褐色	密雲母・石英・白色粒	外面：口頭部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工具端部による列点文 内面：口頭部横ナデ、体部指頭調整→斜めヘラケズリ	外面煤附着
3	埋砂最下層	土師器甕	2/3	口径(13.6)器高(12.5)胴径(13.8)	良	灰褐色	密雲母・石英・白色粒	外面：口頭部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頭部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	外面煤附着
4	埋砂中層	土師器甕	口頸部1/2	口径(16.4)器高(6.4)	良	灰褐色	密雲母・石英・白色粒	外面：口縁部横ハケメ、頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文 内面：口頭部横ナデ、肩部指頭調整→横ヘラケズリ	
5	埋砂最下層	土師器甕	口頸部	口径：14.8器高(6.5)	良	橙褐色	密雲母・砂粒	外面：横ナデ 内面：口頭部横ナデ、肩部指頭調整→横ヘラケズリ	黒斑
6	埋砂最上層	土師器小型丸底壺	口縁～体部1/3	口径(13.8)器高(6.1)	良	灰褐色	密雲母・砂粒	外面：口縁部横ナデ、体部縦・斜めヘラミガキ 内面：口縁部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	
7	埋砂中層	土師器高坏	脚部2/3	器高(6.7)底径(11.2)	良	灰褐色	密雲母・石英・白色粒	外面：脚部縦・横ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面：脚部横ヘラケズリ、裾部指頭調整→横ハケメ 脚部三方円形透し	
8	埋砂中	土師器高坏	5/8	口径(13.9)器高：10.9底径：10.4	良	灰褐色	密雲母・白色粒	外面：坏部指頭調整→横ナデ、坏部下半以下縦ヘラミガキ 内面：横ヘラミガキ、脚柱部ヘラケズリ→ナデ、裾部指頭調整→ナデ 接合部円盤充填法	内外面一部煤附着
9	埋砂中層	土師器低脚坏	脚部	器高(2.0)底径：5.6	良	黄灰白色	密雲母・石英	外面：横ナデ 内面：坏底部ナデ、脚部指頭調整→横ナデ	
10	埋砂中	土師器低脚坏	脚部	器高(2.3)底径：5.2	やや良	灰色	密角閃石・雲母・白色粒	外面：横ナデ 内面：坏底部ナデ、脚部指頭調整→横ナデ	二次焼成
11	埋砂下層	土師器鼓形器台	受部	口径(20.9)器高(6.0)	良	黄灰白色	密雲母・石英・白色粒	外面：受部横ナデ、口縁部縦ヘラミガキ 内面：横ヘラミガキ	内面赤彩
13	埋砂下層	土師器甌	広口部	器高(29.8)広口径(55.6)	良	暗灰白色	密雲母・砂粒	外面：体部縦ハケメ、広口端部横ナデ 内面：体部横ヘラケズリ→縦・横ハケメ、広口端部横ナデ	内面煤附着

第33表 5区SI04出土石器観察表(第63図)

遺物No	遺構・地区出土層位	種類	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	備考
12	埋砂中	浮子	完形	83	28	28	11.9	軽石	

第34表 5区SI05出土土器観察表(第65図)

遺物No	遺構・地区出土層位	器種	部位残存率	法量(cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	床面直上	土師器甕	口縁～体部1/4	口径(20.6)器高(14.3)	良	褐色	密雲母・砂粒	外面：口頭部横ナデ、体部粗い横・縦ハケメ 内面：口頭部横ナデ、体部縦・横ヘラケズリ	外面煤附着
2	埋砂中	土師器甕	破片	口径(20.0)器高(6.6)	良	褐色	密砂粒	外面：口頭部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整、肩部横ヘラケズリ	
3	埋砂最上層	土師器鼓形器台	脚部	器高(8.4)底径(19.6)	良	褐色	密	外面：横ナデ 内面：接合部横ナデ、脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	内面脚部一部煤附着
4	埋砂中	手捏ね土器	1/4	口径(5.4)器高：4.2底径(5.6)	良	褐色	密砂粒	外面：体部指頭調整、底部板状圧痕 内面：指頭調整	
5	埋砂中	須恵器壺	口縁部1/4	口径(12.4)器高(4.0)	良好	青灰色	密	外面：口頸部回転ナデ、頸部櫛状工具による直線文 内面：回転ナデ	
6	埋砂中	須恵器坏	1/2	口径(12.2)器高：4.1底径(6.5)	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	外面底部自然降灰
7	床面直上	須恵器坏	1/2	口径(12.6)器高(5.9)	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、体部下回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	

第35表 5区SI06出土土器観察表(第67図)

遺物No	遺構・地区出土層位	器種	部位残存率	法量(cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	土師器甕	破片	口径(15.0)器高(4.8)	良	灰褐色	密砂粒	外面：口頭部横ナデ 内面：口頭部横ナデ、頸部指頭調整、頸部下半横ヘラケズリ	内外面赤彩
2	埋砂中	土師器壺	底部	器高(3.3)底径(5.6)	良	褐色	密雲母	外面：体部～底部縦ハケメ 内面：体部～底部指頭調整→縦ヘラケズリ	黒斑
3	埋砂中	土師器鼓形器台	脚部破片	器高(5.5)底径(19.6)	良	褐色	密砂粒	外面：横ナデ 内面：脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	

第36表 5区SI06出土金属製品観察表 (第67図)

遺物 No	遺構・地区出土層位	種類	部位残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
4	埋砂中	刀子	ほぼ完形	鉄	全長(121) 刃部(60) 茎部(61)	刃部:13 茎部:7	刃部:4 茎部:3	6	錆化(△)	5	11.5	

第37表 5区SI07出土土器観察表 (第69図)

遺物 No	遺構・地区出土層位	器種	部位残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂下層	土師器直口壺	破片	口径(12.4) 器高(4.7)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面:口頸部横ナデ、頸部櫛状工具による直線文 内面:横ヘラミガキ	内外面赤彩
2	埋砂中層	土師器甕	破片	口径(19.2) 器高(5.9)	良	褐色	密 白色粒・砂粒	外面:口縁部横ナデ→ナデ、口縁下半以下横ナデ 内面:口頸部横ナデ、頸部下半横ヘラケズリ	外面一部煤付着
3	埋砂中層	土師器甕	口縁~体部2/3	口径:15.9 器高(12.9)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面:口頸部横ナデ、体部横・縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面体部一部煤付着
4	埋砂中層	土師器裝飾甕	口縁~体部1/4	口径(13.0) 器高(7.7)	良	橙褐色	密 雲母・砂粒	外面:口縁部横ナデ、口縁部貝殻腹縁による直線文、頸部以下横ヘラミガキ→櫛状工具による沈線区画の竹管文3条・貝殻腹縁による刺突文 内面:横ヘラミガキ	内外面赤彩
5	埋砂中	土師器裝飾甕	体部破片	器高(2.8)	良	褐色	密 石英・白色粒・砂粒	外面:横ヘラミガキ→竹管による同心円文・櫛状工具による直線文・円弧文 内面:横ヘラケズリ	外面煤付着
6	埋砂上層	土師器甕	破片	口径(33.6) 器高(5.3)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面:口頸部横ナデ、頸部下半横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、頸部下半横ヘラケズリ	
7	埋砂上層	土師器鼓形器台	受部2/3	口径(23.5) 器高(6.2)	良好	灰褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面:口縁部横ナデ、受部縦ヘラミガキ 内面:横・縦ヘラミガキ	
8	埋砂下層	土師器高坏	2/3	口径(31.5) 器高:13.0 底径(20.3)	良	灰褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面:口縁部~脚部ハケメ→縦・横ヘラミガキ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ナデ 接合部円盤充填法	外面口縁部一部煤付着

第38表 5区SI07出土金属製品観察表 (第69図)

遺物 No	遺構・地区出土層位	種類	部位残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
9	埋砂下層	小型袋状鉄斧	ほぼ完形	鉄	(40)	袋部:25 刃部(28)	袋部:14 刃部:2	5	錆化(△)	5	19.0	

第39表 5区SI08出土土器観察表 (第71図)

遺物 No	遺構・地区出土層位	器種	部位残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中層	土師器甕	ほぼ完形	口径(17.8) 器高(32.9) 胴径(26.2)	良	灰褐色	密 雲母・石英・白色粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦・横・斜めハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部縦・横ヘラケズリ、体部中位・底部指頭調整→ヘラケズリ	外面・内面底部煤付着
2	埋砂中層	土師器甕	口縁~体部	口径:15.5 器高(14.5) 胴径(23.0)	良	灰褐色	密 雲母・石英・白色粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
3	埋砂上層	土師器甕	口縁~肩部	口径:15.1 器高(9.0)	良	灰茶色	密 雲母・砂粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
4	埋砂中層	土師器小型丸底壺	口縁部1/3	口径(11.0) 器高(3.4)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面:横ヘラミガキ 内面:横ナデ	外面煤付着
5	埋砂上層	土師器小型丸底壺	体部	器高(8.3) 胴径:10.3	良	褐色	密 雲母・石英	外面:縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面:指頭調整→横ヘラケズリ	外面煤付着
6	埋砂中層	土師器甕	1/2	口径(11.8) 器高:16.6 胴径(16.0) 底径:2.6	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦・横ヘラケズリ 内面:口頸部横ナデ、頸部下指頭調整、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調整→ヘラケズリ	外面煤付着
7	埋砂上層	土師器高坏	ほぼ完形	口径(17.6) 器高:14.6 底径:10.8	良	橙褐色	密 雲母・砂粒	外面:坏部ハケメ→横ヘラミガキ、脚部縦・横ヘラミガキ 内面:坏部横ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部指頭調整→ハケメ 接合部円盤充填法、脚部三方円形透し	内面煤付着
8	埋砂上層	土師器高坏	坏部	口径(17.2) 器高(6.1)	良	赤褐色	密 雲母・白色粒	外面:口縁部横ナデ、坏部横ヘラミガキ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部ヘラケズリ 接合部円盤充填法	内外面赤彩
9	埋砂上層	土師器高坏	坏部2/3	口径(14.8) 器高(5.9)	良	橙褐色	密 雲母・白色粒	外面:口縁部横ヘラミガキ、坏底部ハケメ→ヘラミガキ 内面:坏部横ヘラミガキ 接合部円盤充填法	口縁部煤付着
10	埋砂中層	土師器高坏	坏部1/4	口径(13.0) 器高(3.9)	良	褐色	密 雲母・石英	外面:ハケメ→横ヘラミガキ 内面:ハケメ→横・縦ヘラミガキ	外面煤付着
11	埋砂上層	土師器高坏	坏部1/3	口径(13.4) 器高(3.6)	良	灰褐色	密 雲母・石英	外面:横ハケメ 内面:指頭調整→横・縦ヘラミガキ	外面一部煤付着
12	埋砂中層	土師器低脚坏	脚部	器高(3.1) 底径(8.6)	良	灰褐色	密 雲母・石英・白色粒	外面:横ナデ 内面:坏底部ナデ→ヘラミガキ、脚部指頭調整・横ナデ	外面一部煤付着
13	埋砂上層	土師器鼓形器台	1/2	口径(22.0) 器高:9.0 底径(18.6)	良	灰褐色	密 雲母・石英	外面:横ナデ 内面:受部縦・横ヘラケズリ、接合部ナデ、脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	内面脚部一部煤付着

第40表 5区SI08出土金属製品観察表 (第71図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種 類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
14	埋砂中	刀子?	1/4	鉄	全長(33) 刃部(16) 茎部(17)	刃部:15 茎部:10	刃部:2 茎部:1	6	H(○)	2	4.5	
15	埋砂中層	棒状不明品	—	鉄	(44)	7	3	5	H(○)	3	4.4	
16	埋砂下層	棒状不明品	—	鉄	(40)	4	3	3	錆化(△)	2	1.5	
17	床面直上	鑿状不明品	完形	鉄	135	10	6	5	L(●)	5	31.5	

第41表 5区SI08出土石器・石製品観察表 (第71図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
18	埋砂下層	砥石	ほぼ完形	118	87	45	672.3	凝灰岩	
19	埋砂中	不明石製品	完形	44	37	20	6.4	軽石	中心部穿孔
20	埋砂下層	切目石錘	完形	92	53	46	255.8	角閃石安山岩	
21	埋砂上層	石製品	完形	21	10	2	0.4	黒曜石	石鏃転用

第42表 5区SI09出土土器観察表 (第73図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整 ・ 文 様	備 考
1	床面直上	土師器 甕	口縁~体 部1/4	口径(25.4) 器高(9.7)	良	橙褐色~灰 褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口頸部横ナデ、体部粗い横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面一部煤付着
2	埋砂下層	土師器 甕	口頸部 1/3	口径(29.2) 器高(5.6)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面:指頭調整→ナデ 内面:口縁部指頭調整→ナデ、頸部下半横ヘラケズリ	外面煤付着
3	埋砂中	須恵器 壺	口頸部 1/4	口径(9.8) 器高(3.6)	良	青灰色	密	外面:口頸部回転ナデ、頸部ヘラ状工具による直線文2条 内面:口頸部回転ナデ	
4	埋砂中	須恵器 短頸小壺	口縁~体 部1/8	口径(6.0) 器高(2.9) 胴径(9.9)	良	青灰色	密	内外面:回転ナデ	外面肩部自然降灰
5	埋砂中	須恵器 短頸小壺	口縁~体 部1/2	口径(6.9) 器高(2.6) 胴径(9.8)	良	灰色	密	内外面:回転ナデ	
6	埋砂中	須恵器 坏	1/8	口径(12.0) 器高(3.1)	良	青灰色	密	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
7	埋砂上層	須恵器 高坏	ほぼ 完形	口径(12.9) 器高(8.2) 底径(7.9)	良	青灰色	密	外面:回転ナデ 内面:坏部回転ナデ、坏底部ナデ、脚部回転ナデ 脚部二方形透し	
8	埋砂最上層	須恵器 高坏 転用視?	坏底部	器高(1.7)	良	青灰色	密	外面:回転ナデ 内面:坏底部磨耗、脚部回転ナデ	
9	埋砂上層	手捏ね 土器	ほぼ 完形	口径:4.2 器高:4.4	良	黒茶色	密 白色粒	内外面:指頭調整	
10	埋砂最上層	土師器 甕	通気孔 破片	厚さ:1.6	良	灰褐色	密	ヘラケズリ	一部煤付着

第43表 5区SI09出土金属製品観察表 (第73図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種 類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
11	埋砂中	棒状不明品	—	鉄	(22)	3	3	3	錆化(△)	2	0.6	

第44表 5区SI09出土石器観察表 (第73図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
12	埋砂中	紡錘車	1/2	(25)	(45)	22	6.7	凝灰岩	
13	埋砂中	磨製石斧	破片	(35)	(34)	(9)	11.8	硬質砂岩	刃部角80度
14	埋砂中	浮子	完形	48	55	48	29.1	軽石	

第45表 5区SI10出土土器観察表 (第75図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整 ・ 文 様	備 考
1	埋砂上層	土師器 甕	口縁~体 部1/2	口径(14.7) 器高(11.6) 胴径(20.8)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、頸部下以下指頭調整→横・斜めヘ ラケズリ	内外面煤付着
2	床面直上	土師器 甕	体部破片	器高(9.3) 胴径(20.0)	良	褐色~灰茶 色	密 石英・砂粒	外面:肩部櫛状工具による直線文・波状文、体部縦ハケメ 内面:横ヘラケズリ	外面煤付着
3	埋砂下層	土師器 直口壺	破片	口径(11.8) 器高(4.2)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文・貝殻腹 縁による刺突文 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
4	埋砂中	土師器 壺	破片	口径(13.8) 器高(2.5)	良	褐色	密 角閃石・雲母 ・白色粒	内外面:櫛状工具による波状文→ナデ	
5	埋砂中層	土師器 甕	底部1/2	器高(2.6) 底径(3.0)	良	黒茶色	密 石英・砂粒	外面:体部縦ハケメ、体部下半~底部ナデ 内面:指頭調整→ナデ	
6	埋砂中	土師器 壺	体部破片	器高(2.6)	良	灰褐色	密 石英・白色粒	外面:貝殻腹縁による刺突文2条・櫛状工具による直線文 内面:ヘラケズリ	
7	埋砂下層	土師器 鼓形器台	1/5	口径(19.6) 器高(14.7)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部横ナデ、受部・脚部櫛状工具による直線文、 接合部ヘラ状工具による直線文5条・貝殻腹縁による 刺突文・直線文3条・刺突文・直線文3条 内面:受部横ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部横ヘラケズリ	外面赤彩

第46表 5区SI10出土金属製品観察表 (第75図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
8	床面直上	鎌	破片	鉄	(37)	(23)	2	6	錆化(△)	2	7.5	

第47表 5区SI10出土石器観察表 (第75図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
9	床面直上	有溝石錘	完形	72	41	37	116.1	砂岩	

第48表 5区SI11出土土器観察表 (第76図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整・文 様	備 考
1	床面直上	土師器 小型丸底壺	口縁~肩 部1/3	口径(11.0) 器高(5.5)	良	褐色	密 雲母・白色粒	外面:口縁部横・縦ヘラミガキ、頸部以下縦ハケメ→ナデ 内面:口縁部横ナデ、口頸部横・縦ヘラミガキ、肩部横 ヘラケズリ	
2	埋砂上層	土師器 小型丸底壺	口縁~体 部1/4	口径(10.3) 器高(6.0) 胴径(8.3)	良	赤褐色	密 石英・白色粒	外面:口縁部横ヘラミガキ、頸部以下縦ハケメ→横ヘラミ ガキ 内面:口縁部斜めハケメ、体部横ヘラケズリ→ナデ	
3	埋砂下層	土師器 甕	底部1/2	器高(3.6) 底径(5.0)	良	黒茶色	密 石英・砂粒	外面:ハケメ 内面:横ヘラケズリ	外面煤付着
4	埋砂中	土師器 小型鉢	破片	口径(8.0) 器高(2.6)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部横ナデ、口縁下端ヘラ状工具による直線文、 体部横ヘラミガキ・貝殻腹縁による鋸歯文 内面:横ヘラミガキ	内外面口縁部赤彩

第49表 5区SI13b出土土器観察表 (第79図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整・文 様	備 考
1	埋砂下層	土師器 甕	破片	口径(24.8) 器高(5.7)	良	褐色~黄灰 白色	やや密 石英・砂粒	外面:横ナデ 内面:口頸部横ナデ、頸部下半横ヘラケズリ	
2	埋砂下層	土師器 小型丸底鉢	ほぼ 完形	口径(13.4) 器高:6.6	やや良	黄灰白色 ~橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部横ナデ、体部縦ハケメ、底部指頭調整→ハケメ 内面:口縁部横ナデ、体部横ヘラミガキ、底部ヘラケズリ	
3	埋砂中層	土師器 低脚坏	脚部	器高(1.2) 底径:3.8	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	内外面:横ナデ	
4	埋砂下層	土師器 低脚坏	脚部	器高(2.5) 底径:7.9	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:脚部指頭調整、脚部横ナデ 内面:横ナデ	内面脚部ヘラ状工 具による線刻1条 外面脚部工具痕
5	埋砂下層	須恵器 甕	完形	口径:12.9 器高:5.0	良好	灰色	密 砂粒	外面:口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面:口縁部回転ナデ、天井部ナデ	外面口縁部自然降 灰
6	埋砂下層	須恵器 坏	完形	口径:11.7 器高:5.2	良好	灰色	密 雲母・砂粒	外面:口縁部~体部回転ナデ、体部下半回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	外面体部自然降 灰
7	埋砂下層	須恵器 坏	完形	口径:12.0 器高:5.3	良好	灰色	密 石英・砂粒	外面:口縁部~体部回転ナデ、体部下半回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	外面体部自然降 灰

第50表 5区SI14出土土器観察表 (第81図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整・文 様	備 考
1	埋砂中層	土師器 甕	口縁部 1/2	口径(28.2) 器高(4.3)	良	褐色	密 雲母・石英	外面:口縁部櫛状工具による直線文 内面:横ナデ	
2	埋砂中層	土師器 甕	口縁~肩 部	口径:28.7 器高(15.2) 胴径(35.0)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒・砂粒	外面:口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、体部横 ハケメ 内面:口縁部横ナデ、頸部横ヘラミガキ、体部横ヘラケズ リ→横ハケメ	外面煤付着
3	埋砂上層	土師器 甕	口縁~肩 部1/2	口径(15.4) 器高(8.8)	良	黄灰白色 ~褐色	密 雲母・砂粒	外面:口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、体部横 ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
4	埋砂上層	土師器 甕	口縁~肩 部1/8	口径(15.8) 器高(9.2)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、体部横 ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面体部煤付着
5	埋砂下層	土師器 甕	口縁~肩 部2/3	口径(13.9) 器高(7.0)	やや良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、頸部下指頭調整、体部指頭調整→ 横ヘラケズリ	外面煤付着
6	埋砂下層	土師器 甕	底部2/3	器高(1.9) 底径(5.2)	良	黒茶色	密 雲母・砂粒	外面:体部縦ハケメ、底部ヘラケズリ 内面:指頭調整→ナデ	外面煤付着
7	埋砂上層	土師器 高坏	坏部1/4	口径(22.8) 器高(5.2)	良	褐色	密 雲母・砂粒	内外面:横・縦ヘラミガキ	
8	埋砂中層	土師器 高坏	坏部1/4	口径(11.6) 器高(8.0) 胴径(15.0)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:横・縦ヘラミガキ 内面:指頭調整→横ヘラミガキ	ブランデーグラス 形 外面煤付着
9	埋砂上層	土師器 高坏	脚部5/8	器高(5.2) 底径(12.8)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:脚柱部縦ヘラケズリ→横ヘラミガキ、裾部横ヘラミ ガキ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ	
10	埋砂上層	土師器 高坏	脚部5/8	器高(6.3) 底径(9.8)	良	褐色	密 雲母・石英	外面:脚柱部縦ハケメ→縦・横ヘラミガキ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ	
11	埋砂中層	土師器 鼓形器台	2/3	器高(9.7)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:受部櫛状工具による直線文、接合部横ナデ、脚部櫛 状工具による直線文、脚部下半横ヘラミガキ 内面:受部指頭調整→ナデ、脚部横ヘラケズリ	
12	埋砂上層	土師器 鼓形器台	受部1/3	口径(22.4) 器高(5.2)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面:受部横ナデ 内面:受部横・縦ヘラミガキ	
13	埋砂上層	土師器 注口土器?	把手部	幅:2.6	良	橙褐色	密	ヘラミガキ・ナデ	

第51表 5区SI14出土石器観察表 (第81図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
14	埋砂中層	砥石	ほぼ完形	(96)	(70)	62	91.8	軽石	
15	埋砂中層	磨石・敲石	完形	170	102	36	908.8	安山岩	

第52表 5区SI15出土土器観察表 (第83図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂下層	土師器 小型器台	2/3	口径(9.4) 器高(7.7)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナデ、坏底部～脚部ハケメ→縦・横ヘラミガキ、脚柱部ヘラ状工具端部による列点文(ほぼ全周) 内面：坏部横ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ 接合部円盤充填法	接合部未穿孔

第53表 5区SI16a・b出土土器観察表 (第85図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	SI16a 埋砂中層	土師器 壺	口頸部 1/4	口径(16.6) 器高(5.3)	良	褐色	密 白色粒	外面：口頸部横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部指頭調整	内外面煤付着
2	SI16a 埋砂中層	土師器 甕	口縁部	口径(18.0) 器高(6.3)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	内外面：横ヘラミガキ	外面煤付着
3	埋砂中	土師器 裝飾甕	体部破片	器高(7.2) 胴径(16.3)	良	黒茶色～灰 茶色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：ヘラ状工具による4条の沈線区画内の櫛状工具による円弧文・竹管による同心円文2条・円弧文 内面：横ヘラケズリ	
4	SI16a 床面直上	土師器 甕	口頸部 1/4	口径(17.6) 器高(6.5)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面肩部煤付着
5	埋砂中	土師器 甕	口頸部 1/8	口径(15.2) 器高(4.5)	良	褐色	密 石英・白色粒	外面：口頸部横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	内面赤彩
6	埋砂中	土師器 甕	口縁～体 部1/4	口径(10.8) 器高(8.0) 胴径(12.0)	良	黄灰白色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部横ナデ、口縁部～体部横・斜めハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部指頭調整→横ヘラケズリ	外面赤彩
7	SI16b 床面直上	土師器 小型丸底壺	口縁～体 部1/4	口径(11.8) 器高(5.8)	良	褐色	密 石英・白色粒	外面：横ヘラミガキ 内面：口頸部横ヘラミガキ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	
8	埋砂中	土師器 小型丸底壺	口縁～体 部1/4	口径(10.4) 器高(5.0) 胴径(8.5)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ヘラミガキ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ハケメ、体部横ヘラケズリ	
9	埋砂中	土師器 小型丸底壺	口頸部 1/8	口径(12.9) 器高(4.6)	良	黄灰白色	密 石英・白色粒	外面：縦ハケメ 内面：口縁部横ハケメ、体部横ヘラケズリ	
10	埋砂中	土師器 小型丸底壺	口頸部 1/4	口径(11.6) 器高(3.9)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面：横ヘラミガキ 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ	内面煤付着
11	埋砂中	土師器 直口壺	口縁部 1/4	口径(8.4) 器高(3.8)	良	黒茶色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：横・縦ヘラミガキ 内面：横ヘラミガキ	口縁部穿孔1個
12	埋砂中	土師器 高坏	坏部1/2	口径(18.4) 器高(7.0)	良	橙褐色	密 石英・白色粒 赤色粒	外面：口縁部縦ヘラミガキ、坏底部横ナデ 内面：縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	内外面赤彩
13	SI16a 埋砂下層	土師器 高坏	脚部1/3	器高(5.4)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：脚部縦ヘラミガキ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部指頭調整→縦ハケメ 脚部四方形透し	
14	埋砂中	土師器 高坏	脚部1/2	器高(5.2) 底径(8.8)	良	黄灰白色	密 石英・白色粒	外面：脚柱部横ヘラミガキ、裾部縦ハケメ→ナデ 内面：脚柱部横ヘラケズリ→指頭調整、裾部横ハケメ	
15	SI16a 埋砂下層	土師器 低脚坏	脚部	器高(3.7) 底径(6.8)	良	橙褐色	密 角閃石・雲母・ 石英・白色粒	外面：坏部～脚部横・縦ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面：坏部横ヘラミガキ、脚部縦ヘラミガキ	外面脚端部 ～内面脚部赤彩
16	SI16b 埋砂下層	土師器 低脚坏	坏部～脚 部	器高(3.7) 底径(6.4)	良	黄灰白色	密 雲母・砂粒	外面：横ヘラミガキ 内面：坏部ハケメ→横ヘラミガキ、脚部横ナデ	
17	埋砂中	土師器 低脚坏	坏部～脚 部	器高(2.8) 底径(6.0)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：横ナデ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部横ナデ	
18	SI16b 埋砂下層	土師器 低脚坏	脚部	器高(2.3) 底径(9.0)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：横ナデ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部横ナデ	
19	SI16b 埋砂下層	土師器 低脚坏	脚部	器高(2.5) 底径(6.2)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：横ナデ 内面：坏部ナデ、脚部横ナデ	
20	埋砂中	土師器 低脚坏	脚部	器高(1.9) 底径(3.8)	良	灰褐色	密 角閃石・石英・ 白色粒	外面：指頭調整→ヘラミガキ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部指頭調整→ナデ	
21	SI16a 埋砂中層	土師器 低脚坏	脚部	器高(3.0) 底径(12.6)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：縦・横ヘラミガキ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ヘラケズリ→黒色処理→横ヘラミガキ	脚部内面黒色
22	埋砂中	手捏ね 土器	破片	口径(5.6) 器高(3.1)	やや良	灰茶色	密 雲母・石英・ 白色粒	内外面：指頭調整→ナデ	
23	埋砂中	手捏ね 土器	破片	器高(2.0) 底径(3.8)	やや良	灰褐色	密 白色粒	内外面：指頭調整	

第54表 5区SI16a・b出土金属製品観察表 (第85図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
24	SI16a 埋砂上層	刀子	1/2	鉄	全長(63) 刃部(56) 茎部(7)	刃部:10 茎部:5	刃部:2 茎部:1	5	錆化(△)	2	5.4	
25	SI16b 埋砂上層	刀子	1/2	鉄	全長(50) 刃部(32) 茎部(18)	刃部(9) 茎部:5	刃部:2 茎部:1	4	錆化(△)	2	5.2	
26	埋砂中	刀子?	—	鉄	全長(47) 刃部(12) 茎部(35)	刃部(6) 茎部:4	刃部:1 茎部:1	4	錆化(△)	2	2.7	

第55表 5区SI16a出土石器観察表 (第85図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
27	埋砂中	砥石	完形	151	62	26	421.3	凝灰岩	
28	埋砂中	砥石	完形	75	44	46	33.1	軽石	
29	埋砂中	浮子	完形	56	41	42	25.8	軽石	
30	SI16a 埋砂下層	台石	完形	218	132	81	3900.0	花崗岩	煤附着
31	SI16a 埋砂上層	ハンマーストーン	完形	172	76	52	1026.0	デイサイト	

第56表 5区SI17出土土器観察表 (第87図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整・文 様	備 考
1	埋砂中	土師器 低脚坏	脚部	器高(4.6) 底径:6.9	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 坏部横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面: 坏部横・斜めヘラミガキ、脚部横ナデ	外面煤附着

第57表 5区SI18出土土器観察表 (第88図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整・文 様	備 考
1	埋砂中	土師器 直口壺	口頸部 1/4	口径(12.4) 器高(5.2)	良	褐色	密 雲母・石英	外面: 指頭調整→ナデ 内面: 口頸部ナデ、頸部下半横ヘラケズリ	黒斑 外面: 煤附着

第58表 1区SK05出土土器観察表 (第90図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整・文 様	備 考
1	埋砂下層	土師器 甕	完形	口径:19.9 器高:33.2 胴径:26.8 底径:5.0	良	黄灰白色	密	外面: 口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部櫛状工 具による直線文・櫛状工具端部による列点文(全周) 内面: 口頸部横ナデ、肩部以下斜めヘラケズリ、体部下 指頭調整→斜めヘラケズリ	外面煤附着 外面体部下・内 面底部炭化物附着
2	埋砂下層	土師器 鼓形器台	ほぼ完形	口径:23.0 器高:12.9 底径:20.6	良好	灰茶色	密 角閃石・雲母	外面: ナデ 内面: 受部ヘラケズリ→ナデ、接合部～脚部横ヘラケズリ	内外面煤附着 内面炭化物附着
3	埋砂下層	土師器 片口鉢	ほぼ完形	口径:34.2 器高:20.5 胴径:32.1 底径:7.8	良好	灰茶色	密 雲母・石英	外面: 口縁部櫛状工具による直線文、体部ハケメ→ヘラミ ガキ、底部ヘラケズリ→ミガキ 内面: 縦・横ハケメ→横・縦ヘラミガキ	外面煤附着 内面炭化物附着 漆による補修痕

第59表 5区SK18出土土器観察表 (第92図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整・文 様	備 考
1	埋砂上層	土師器 甕	5/8	口径(38.4) 器高:57.4 胴径(49.4) 底径(8.4)	良好	褐色	密 角閃石・石 英・白色粒	外面: 口縁部～肩部横ナデ、体部～底部縦・横ハケメ 内面: 口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ	二次焼成 外面体部煤附着 内面底部炭化物・ 煤附着
2	埋砂上層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径:27.2 器高(34.4) 胴径:34.1	やや良	灰褐色	密 石英・白色粒	外面: 口頸部横ナデ、体部縦ハケメ、肩部櫛状工 具による波状文 内面: 口頸部横ナデ、頸部指頭調整、体部縦・横ヘラケ ズリ	内外面体部煤附着
3	埋砂上層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径:16.9 器高:27.1 胴径:22.7	良	褐色	密 雲母	外面: 口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部櫛状工 具による波状文 内面: 口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部下 指頭調整→斜めヘラケズリ	外面・内面口縁部・ 底部煤附着
4	埋砂上層	土師器 高坏	ほぼ 完形	口径:25.6 器高:16.0 底径:13.7	良	黄灰白色～ 橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 坏部横ヘラミガキ、脚部縦・横ヘラミガキ 内面: 坏部ハケメ→縦・横ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ、 裾部横ハケメ 接合部円盤充填法	
5	埋砂上層	土師器 高坏	ほぼ 完形	口径:25.6 器高:16.8 底径:15.2	良	褐色～橙褐 色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚部縦ハケメ、裾 部横・縦ヘラミガキ 内面: 坏部縦ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ、裾部ハ ケメ 接合部円盤充填法	
6	埋砂上層	土師器 低脚坏	完形	口径:21.6 器高:11.4 底径:11.8	やや良	黄灰白色	やや密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 口縁部横ナデ、坏部縦ハケメ、坏底部指頭調整、脚 部横ナデ 内面: 口縁部端部強いナデによる沈線、坏部横ヘラミガキ、 脚部横ナデ	
7	埋砂上層	土師器 低脚坏	ほぼ 完形	口径:12.9 器高(4.9)	良	褐色	密 雲母・石英	外面: 坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面: 坏部指頭調整→横ヘラミガキ、脚部横ナデ	

8	埋砂上層	土師器 低脚杯	完形	口径:21.6 器高:5.7 底径:5.8	良	褐色	密 雲母・石英	外面:坏部縦ハケメ→縦・横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部縦ハケメ→縦・横ヘラミガキ、脚部横ナデ	脚部内線刻3個
9	埋砂上層	土師器 低脚杯	坏部5/8	口径:23.0 器高(5.3)	良	黄灰白色	密 雲母・石英	内外面:ハケメ→縦ヘラミガキ	内外面体部煤付着
10	埋砂上層	土師器 鼓形器台	完形	口径:22.8 器高:12.7 底径:20.2	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:横ナデ 内面:口縁部横ナデ、受部縦・横ヘラミガキ、脚部横ヘラ ケズリ、脚部横ナデ	

第60表 1区SD02出土土器・土製品観察表(第95~115区)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中層	土師器 壺	ほぼ完形	口径:27.8 器高:45.6 胴径:34.6	良好	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、頸部沈線を 有する櫛状工具端部による羽状文、肩部櫛状工具に よる直線文→櫛状工具端部による列点文(全周) 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ、 底部指頭調整	
2	埋砂中層	土師器 壺	1/2	口径(25.4) 器高:37.4 胴径(31.1)	良	灰茶色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口頸部横ナデ、肩部櫛状工具端部による羽状文(全 周)、体部縦・横ハケメ 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ、 体部下指頭調整→縦ヘラケズリ	
3	埋砂中	土師器 壺	口頸部 1/8	口径(21.4) 器高(9.2)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部横ナデ、頸部沈線を有する櫛状工具端部による 羽状文 内面:口頸部横ナデ、頸部指頭調整	
4	埋砂中層	土師器 壺	ほぼ完形	口径:21.7 器高:35.2 胴径(27.4)	良好	橙褐色	密 砂粒	外面:口縁部横ナデ、頸部沈線を有する櫛状工具端部による 羽状文(全周)、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、頸部指頭調整、体部指頭調整→横・ 縦ヘラケズリ	
5	埋砂中層	土師器 壺	ほぼ完形	口径:20.7 器高:36.8 胴径(27.4)	良	橙褐色	密	外面:口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部櫛状工 具による直線文 内面:口縁部横ナデ、頸部横ハケメ、体部上半横ヘラケズ リ、体部中位以下指頭調整→ヘラケズリ	
6	埋砂中層	土師器 壺	1/2	口径(22.2) 器高(21.5) 胴径(28.0)	良好	黄灰白色	密 砂粒	外面:口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、頸部櫛状工 具端部による羽状文(全周) 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ	黒斑 外面体部一部煤付 着
7	埋砂中層	土師器 壺	1/2	口径:21.3 器高(35.0) 胴径(26.7)	良	灰褐色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	外面:口縁部横ナデ、頸部縦ハケメ→ナデ、体部斜め・横 ハケメ 内面:口縁部横ナデ、頸部絞リ→指頭調整、体部横ヘラケ ズリ	黒斑 外面体部下炭化 物付着
8	埋砂下層	土師器 壺	ほぼ完形	口径(19.7) 器高:34.5 胴径(26.5)	良好	褐色	密 角閃石・白色 粒・小石粒	外面:口頸部横ナデ、肩部以下縦・横ハケメ、肩部櫛状工 具による列点文(3/4周) 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ、 体部下指頭調整→ヘラケズリ	黒斑
9	埋砂下層	土師器 壺	口縁~体 部1/2	口径(19.3) 器高(22.5) 胴径(27.8)	良好	褐色	密 角閃石・白色 粒	外面:口頸部横ナデ、肩部以下縦・横ハケメ、肩部櫛状工 具による波状文(全周) 内面:口縁部横ナデ、頸部横ヘラケズリ→指頭調整、肩部 以下横ヘラケズリ	外面煤付着
10	埋砂下層	土師器 壺	ほぼ完形	口径:21.3 器高:38.0 胴径:28.2	やや良	灰褐色	密 角閃石・雲母 ・白色粒	外面:口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ、 体部下指頭調整→ヘラケズリ	
11	埋砂中層	土師器 壺	1/3	口径(23.2) 器高:40.5 胴径(31.4)	良好	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口頸部横ナデ、頸部方形突帯貼付、体部縦・横ハケ メ→一部ヘラミガキ、肩部櫛状工具端部による羽状 文 内面:口頸部横ナデ、肩部指頭調整→横ヘラケズリ、体部 横・縦ヘラケズリ	
12	埋砂下層	土師器 壺	口縁~肩 部1/3	口径(15.4) 器高(12.0)	良好	灰褐色	密 砂粒	外面:口縁部櫛状工具による直線文、頸部櫛状工具による 波状文、頸部以下ヘラミガキ 内面:口縁部横ナデ、頸部ヘラミガキ、肩部横ヘラケズリ	
13	埋砂中層	土師器 壺	1/2	口径(24.8) 器高(39.9) 胴径(34.4)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口頸部横ナデ、頸部方形突帯貼付、体部縦・横ハケメ、 肩部櫛状工具端部による羽状文 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ、 底部指頭調整→ナデ	内面頸部一部煤付 着
14	埋砂中層	土師器 壺	ほぼ完形	口径(25.6) 器高(34.8) 胴径(30.0)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面:口縁部~肩部横ナデ、頸部突帯貼付:突帯部櫛状工 具端部による列点文、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状 工具端部による羽状文(全周) 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横・縦ヘラケズリ、 底部指頭調整→ヘラケズリ	
15	埋砂中層	土師器 壺	破片	口径(25.4) 器高(10.0)	良	灰茶色	密 角閃石・雲 母・石英・砂 粒	外面:横ナデ、頸部方形突帯貼付 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整→ナデ、肩部ヘラケズ リ	
16	埋砂中層	土師器 壺	口縁~体 部2/3	口径(25.2) 器高(25.0) 胴径(31.7)	良好	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口頸部横ナデ、頸部方形突帯貼付、体部縦・横ハケメ、 肩部櫛状工具端部による羽状文(全周) 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ	外面肩部一部赤彩
17	埋砂最下層	土師器 壺	口縁~体 部	口径:26.2 器高(22.6) 胴径(32.8)	良好	灰褐色	密 雲母・石英	外面:口縁部横ナデ、頸部縦ハケメ→ナデ、ヘラ状工具に よる直線文:三角突帯貼付、肩部沈線区画の櫛状工 具端部による羽状文(全周)、体部縦・横ハケメ 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整→ナデ、体部横ヘラケ ズリ	
18	埋砂中層	土師器 壺	破片	口径(21.0) 器高(11.6)	良好	灰褐色	密 雲母・白色 粒・砂粒	外面:口徑部横ナデ、肩部横ハケメ 内面:口徑部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
19	埋砂中層	土師器 壺	2/3	口径(19.9) 器高(21.6)	良好	黄灰白色	密	外面:口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部竹管文 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
20	埋砂下層	土師器 壺	1/2	口径(15.8) 器高(13.4)	良好	褐色	密 雲母	外面:口縁部~肩部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ	内面煤付着
21	埋砂中層	土師器 壺	口縁~肩 部	口径(20.0) 器高(5.2)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整→ナデ、肩部横ヘラケ ズリ	内外面煤付着
22	埋砂中層	土師器 直口壺	2/3	口径(11.4) 器高:16.7 胴径(16.4)	良	橙褐色	密 角閃石・雲 母・白色粒	外面:口縁部縦ヘラミガキ、頸部ナデ、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部下半 ヘラケズリ→指頭調整・ナデ	内外面一部墨?付 着

23	埋砂下層	土師器直口壺	口縁～体部	口径:10.2 器高(11.2)	良	褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面:口縁～肩部横ナデ、肩部飾状工具による波状文、体部斜め・横ハケメ 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ	
24	埋砂中層	土師器直口壺	ほぼ完形	口径:10.5 器高(14.5) 胴径:16.4	良	褐色	密 雲母・白色粒・砂粒	外面:口縁部縦ヘラミガキ、頸部ナデ、肩部飾状工具による波状文(全周)、体部縦・横ハケメ 内面:口縁部縦ヘラミガキ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ	
25	埋砂中層	土師器壺	口頸部1/2	口径(41.6) 器高(15.1)	良好	褐色	密 雲母・石英・白色粒	外面:口縁部横ナデ、肩部横ハケメ、頸部沈線を有する櫛状工具端部による羽状文2条 内面:口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内面口頸部煤付着
26	埋砂中層	土師器壺	口頸部1/8	口径(32.4) 器高(9.0)	良	灰褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面:口縁部横ナデ、頸部飾状工具端部による羽状文 内面:磨耗調整不明	内面煤付着
27	埋砂中層	土師器壺	口縁～体部	口径(39.2) 器高(70.0) 胴径(62.4)	良	灰茶色～橙褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面:口縁部横ナデ、頸部飾状工具端部による列点文2条・羽状文1条、体部縦・横ハケメ、体部下半指頭調整→ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下半ヘラケズリ・ハケメ・指頭調整	内面体部下半炭化物付着
28	埋砂中層	土師器壺	体部2/3	器高(52.0) 胴径(55.6) 底径:11.2	やや良	褐色	密 雲母・石英・白色粒	外面:体部縦・横ハケメ、肩部ヘラ状工具による直線文1条 内面:体部横ヘラケズリ	黒斑
29	埋砂下層	土師器直口壺	ほぼ完形	口径(18.4) 器高:34.4 胴径:31.9 底径:6.4	やや良	黄灰白色～褐色	密 砂粒	外面:口縁部～体部ハケメ→縦・横ヘラミガキ、体部下半指頭調整、底部ヘラケズリ 内面:口頸部横ヘラミガキ、体部指頭調整→縦ハケメ、底部ヘラケズリ→ナデ	口縁部穿孔 黒斑
30	埋砂中層	土師器直口壺	1/2	口径:13.4 器高(14.3)	良	灰褐色～褐色	密 雲母・砂粒	外面:口頸部横ナデ、肩部飾状工具による直線文→貝殻腹縁による刺突文、体部縦・横ハケメ 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ	
31	埋砂中層	土師器直口壺	ほぼ完形	口径:11.6 器高(17.5) 胴径(15.2)	良	橙褐色	密 雲母・石英・白色粒	外面:口縁部ハケメ→ヘラミガキ、体部縦・横ハケメ 内面:口縁部横ハケメ、頸部ナデ、体部指頭調整→ヘラケズリ	外面煤付着
32	埋砂中	土師器短頸壺	破片	口径(5.6) 器高(1.7)	良好	褐色	密	外面:縦・横ヘラミガキ 内面:縦ヘラミガキ	口縁部2個一対穿孔
33	埋砂下層	土師器裝飾壺	破片	器高(4.6) 胴径(24.0)	良	黄灰白色	密 雲母・石英	外面:三角突帯2条、櫛状工具による直線文→陰刻渦文、爪形文2条、横ハケメ 内面:横ヘラミガキ	内外面赤彩
34	埋砂下層	土師器裝飾壺	破片	器高(3.5)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面:沈線区画の貝殻腹縁による刺突文 内面:頸部ナデ、肩部ヘラケズリ	
35	埋砂中層	土師器裝飾壺	破片	器高(1.0)	良好	黒茶色	密 石英・砂粒	外面:貝殻腹縁による羽状文 内面:ヘラケズリ	
36	埋砂中層	土師器甕	ほぼ完形	口径:29.6 器高:42.2 胴径:35.9	良好	褐色	密 雲母・白色粒	外面:口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横・縦ヘラケズリ、底部指頭調整	外面肩部～体部黒色顔料による格子状文
37	埋砂下層	土師器甕	1/2	口径(18.4) 器高(32.9) 胴径(28.2)	良	黄灰白色	密 雲母・石英	外面:口頸部横ナデ、頸部～体部横・縦ハケメ、肩部飾状工具による波状文・直線文 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下半指頭調整→ヘラケズリ	外面体部下半煤付着
38	埋砂下層	土師器甕	ほぼ完形	口径(17.8) 器高(32.5) 胴径(30.2)	良	黒茶色～黄灰白色	やや粗	外面:口頸部横ナデ、体部縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部指頭調整→横・縦ヘラケズリ	黒斑 外面体部煤付着 内面被熱痕
39	埋砂下層	土師器甕	ほぼ完形	口径:15.6 器高:29.0 胴径:27.5	良好	褐色	密 白色粒	外面:口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部飾状工具による直線文(全周) 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ、底部指頭調整→ヘラケズリ	外面煤付着 内面頸部一部炭化物付着 内面口縁部被熱痕
40	埋砂下層	土師器甕	ほぼ完形	口径:13.8 器高(32.0) 胴径:29.6	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦ハケメ、肩部飾状工具による直線文(2周) 内面:口頸部横ナデ、体部斜めヘラケズリ	外面煤付着
41	埋砂中層	土師器甕	1/2	口径(17.4) 器高(26.5) 胴径(26.6)	良	褐色	密 石英・白色粒	外面:口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ、体部下半指頭調整→縦ヘラケズリ	黒斑 外面体部煤付着
42	埋砂中層	土師器甕	2/3	口径(18.4) 器高(26.4) 胴径(23.5)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・砂粒	外面:口頸部横ナデ、肩部以下縦・横ハケメ、肩部飾状工具による波状文(全周)、体部中位飾状工具端部による列点文2個 内面:口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ、体部下半指頭調整→縦ヘラケズリ	外面煤付着
43	埋砂下層	土師器甕	ほぼ完形	口径(18.8) 器高(30.8) 胴径(27.8)	良好	灰褐色	密	外面:口縁～肩部横ナデ、肩部飾状工具端部による列点文(全周)、体部横・縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部以下指頭調整→横・縦ヘラケズリ	黒斑
44	埋砂中層	土師器甕	ほぼ完形	口径(17.4) 器高:26.9 胴径(24.0)	良	灰褐色	密 雲母・石英・白色粒・小石粒	外面:口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部飾状工具による波状文(全周) 内面:口頸部横ナデ、肩部以下指頭調整→ヘラケズリ	黒斑 外面一部炭化物・煤付着
45	埋砂下層	土師器甕	ほぼ完形	口径:16.2 器高:25.1 胴径:21.6	やや良	橙褐色	密 角閃石・雲母・石英・白色粒	外面:口頸部横ナデ、体部横ハケメ、肩部ヘラ状工具端部による列点文(全周) 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下半指頭調整	外面体部煤付着 内面底部焦げ付着
46	埋砂中層	土師器甕	ほぼ完形	口径(15.4) 器高:24.5 胴径(22.6)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面:口頸部横ナデ、肩部飾状工具による直線文・波状文、体部横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ、体部下半指頭調整	内外面体部煤付着 外面体部被熱痕
47	埋砂下層	土師器甕	ほぼ完形	口径:14.4 器高:25.0 胴径:22.5	良好	橙褐色	密 雲母・石英	外面:口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下半指頭調整→縦ヘラケズリ	外面体部煤付着
48	埋砂中層	土師器甕	ほぼ完形	口径(16.6) 器高:25.1 胴径(22.5)	良	褐色	密	外面:口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部飾状工具端部による列点文 内面:口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ、体部下半指頭調整→ヘラケズリ	外面体部煤付着
49	埋砂下層	土師器甕	ほぼ完形	口径:15.1 器高:25.2 胴径:22.1	良	褐色	密 石英・白色粒	外面:口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部飾状工具端部による列点文 内面:口頸部ハケメ→ナデ、肩部以下横・縦ヘラケズリ、底部ヘラ状工具端部による圧痕	外面一部煤付着

50	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(18.3) 器高(11.0) 胴径(19.6)	良好	褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部貝殻腹縁による列点文 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	内面体部煤付着
51	埋砂下層	土師器 甕	2/5	口径(14.8) 器高(11.5)	良	褐色	密 小石粒・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
52	埋砂下層	土師器 甕	完形	口径:12.2 器高:15.9 胴径:15.5	良	褐色	密	外面：口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部櫛状工具による直線文(全周) 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下半ヘラ状工具端部による圧痕	肩部焼成後穿孔1個 内外面煤付着
53	埋砂下層	土師器 甕	ほぼ完形	口径:13.1 器高:18.0 胴径:17.4	良	褐色	密 白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下半ヘラ状工具端部による圧痕	外面一部煤付着
54	埋砂下層	土師器 甕	完形	口径:12.9 器高:17.4 胴径:16.9	良	黄灰白色	やや密	外面：口頸部横ナデ、肩部ヘラ状工具端部による列点文15個、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調整	外面体部煤付着
55	埋砂中層	土師器 甕	完形	口径:13.5 器高:13.9 胴径:15.6	良	灰褐色	密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工具による波状文(全周) 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調整	外面一部煤付着
56	埋砂中層	土師器 甕	ほぼ完形	口径:12.5 器高:14.5 胴径:15.8	良好	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部ヘラ状工具端部による列点文(11個) 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部中位以下指頭調整→ヘラケズリ	外面煤付着 内面底部炭化物付着
57	埋砂中層	土師器 甕	1/2	口径:15.0 器高:25.6 胴径:21.6	良	灰褐色～褐色	密	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部中位以下指頭調整→ヘラケズリ	内外面煤付着
58	埋砂上層	土師器 甕	ほぼ完形	口径(14.7) 器高:25.4 胴径(22.6)	良	灰褐色	密 角閃石・雲 母・石英・砂 粒	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文→貝殻腹縁による列点文(全周)、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→横・縦ヘラケズリ→ナデ	外面体部下炭化物付着 外面煤付着
59	埋砂上層	土師器 甕	ほぼ完形	口径(15.2) 器高:27.8 胴径(23.4)	良好	褐色	密 角閃石・白色 粒・小石粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ、体部下指頭調整→ヘラケズリ	外面体部炭化物付着
60	埋砂下層	土師器 甕	1/2	口径:15.7 器高:25.4 胴径:22.5	良	黄灰白色	密 雲母	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工具端部による列点文 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ、体部中位以下指頭調整→ヘラケズリ	内外面煤付着
61	埋砂上層	土師器 甕	ほぼ完形	口径:14.2 器高:22.9 胴径:20.8	良好	黄灰白色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ、体部中位以下指頭調整→ヘラケズリ	黒斑 底部焼成後穿孔 外面一部煤付着
62	埋砂下層	土師器 甕	1/2	口径:15.1 器高:24.2 胴径(21.7)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横・縦ヘラケズリ、底部指頭調整→ナデ	外面・内面底部煤付着
63	埋砂下層	土師器 甕	2/3	口径:14.0 器高:23.3 胴径:19.8	良	褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調整→ヘラケズリ	外面体部煤付着
64	埋砂下層	土師器 甕	完形	口径:15.0 器高:23.1 胴径:20.6	良	褐色	密	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調整→ヘラケズリ	外面煤付着
65	埋砂下層	土師器 甕	完形	口径:14.2 器高:21.0 胴径:20.0	良	黄灰白色	やや密	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部ヘラ状工具端部による列点文(6個) 内面：口頸部横ナデ、頸部以下縦ヘラケズリ、体部下指頭調整	外面煤付着
66	埋砂中層	土師器 甕	口頸部	口径(14.4) 器高(4.8)	良	灰茶色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
67	埋砂中層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(13.2) 器高(9.8)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部横ハケメ→ヘラ状工具による波状文 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
68	埋砂中層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径:15.4 器高(8.0)	良	黄灰白色	密 白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
69	埋砂上層	土師器 甕	1/2	口径(14.5) 器高(25.7) 胴径(22.4)	良好	橙褐色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部横ハケメ、肩部櫛状工具による波状文 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調整	外面・内面底部煤付着
70	埋砂下層	土師器 甕	1/2	口径:15.6 器高(25.4) 胴径(23.5)	やや良	褐色	密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ、体部横・縦ハケメ、肩部櫛状工具による波状文・直線文 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、底部指頭調整	内外面煤付着 内面底部焦げ付着
71	埋砂中層	土師器 甕	1/2	口径(15.5) 器高(22.7) 胴径(21.4) 底径:11.1	良	灰褐色	密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ、底部指頭調整	内面黒色 外面煤付着
72	埋砂下層	土師器 甕	1/2	口径(15.8) 器高:22.5 胴径(21.6)	やや良	黄灰白色	密 雲母・石英	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	体部焼成後穿孔 外面・内面底部煤付着
73	埋砂上層	土師器 甕	体部～底 部	器高(13.2) 胴径(21.0) 底径(10.0)	良	褐色	密 石英・小石粒 ・砂粒	外面：体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工具による直線文 内面：体部横ヘラケズリ、底部指頭調整	内外面煤付着
74	埋砂中層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(14.8) 器高(12.8)	良好	橙褐色	密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	内面一部煤付着
75	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(15.4) 器高(14.3) 胴径(20.3)	良	黒茶色	密 雲母・石英	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部櫛状工具による波状文、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内外面煤付着
76	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(16.3) 器高(14.0)	良好	橙褐色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文・波状文、体部縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	内面口縁部～外面 体部赤彩?
77	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部1/8	口径(21.4) 器高(9.6) 胴径(20.8)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部櫛状工具による波状文、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面体部煤付着

78	埋砂中層	土師器 甕	口縁～肩 部1/3	口径(18.4) 器高(9.4)	良	灰褐色	密 白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具端部による列点文 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
79	埋砂中層	土師器 甕	2/5	口径：8.4 器高(13.0) 胴径(15.6)	良	灰褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調整	内面頸部工具痕 外面体部煤付着
80	埋砂中層	土師器 甕	ほぼ完形	口径：10.2 器高(20.6) 胴径：21.9	良	黄灰白色	密	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部貝殻腹縁による列点文(全周) 内面：口頸部横ナデ、頸部以下指頭調整→横・縦ヘラケズリ	
81	埋砂下層	土師器 甕	完形	口径：14.4 器高：20.8 胴径：19.2	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁～肩部横ナデ、体部斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部中位以下指頭調整→ヘラケズリ	外面体部焼成後穿孔2個 外面体部煤付着
82	埋砂中層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(13.8) 器高(8.5)	良好	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
83	埋砂中層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(14.7) 器高(11.8) 胴径(21.2)	良好	褐色	密 角閃石・白色 粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
84	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部	口径：20.2 器高(22.0) 胴径(28.6)	良	黄灰白色～ 灰褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：磨耗調整不明	外面煤付着
85	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(21.0) 器高(11.7)	良	灰茶色	密 石英・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ→櫛状工具による直線文・波状文 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
86	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径：15.0 器高(12.2)	良	褐色	密 雲母・小石粒 ・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ→櫛状工具による直線文 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
87	埋砂中層	土師器 甕	1/2	口径(16.4) 器高(22.4) 胴径(21.8)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調整→斜めヘラケズリ	外面煤付着
88	埋砂上層	土師器 甕	1/2	口径(14.7) 器高(19.7) 胴径(22.0)	良	黄灰白色	密 石英・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部ヘラ状工具による波状文、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調整→ヘラケズリ	外面体部一部煤付着
89	埋砂上層	土師器 甕	1/2	口径(14.0) 器高(18.3) 胴径(21.0)	良好	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内外面煤付着
90	埋砂上層	土師器 甕	1/2	口径：14.5 器高(22.8) 胴径(21.0)	良好	褐色～橙褐色	密 白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調整	
91	埋砂中層	土師器 甕	口縁～体 部1/4	口径(15.0) 器高(23.4) 胴径(22.8)	良好	褐色	密 雲母・白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による波状文、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内外面煤付着
92	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部	口径(16.6) 器高(17.3) 胴径(23.0)	良	黄灰白色	密 石英・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部ヘラ状工具端部による列点文5個以上、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
93	埋砂最下層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(14.4) 器高(10.0)	良	褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
94	埋砂中層	土師器 甕	口縁～体 部	口径：15.0 器高(12.0) 胴径(21.9)	良好	灰褐色	密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部櫛状工具による波状文 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
95	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(12.6) 器高(10.6) 胴径(17.2)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横・斜めヘラケズリ	内面二次焼成 外面煤付着
96	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部1/3	口径(13.6) 器高(8.0)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
97	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径：14.6 器高(6.1)	良	黄灰白色	密 白色粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
98	埋砂中層	土師器 甕	口縁～肩 部2/3	口径(14.0) 器高(8.4)	良	黄灰白色	密 白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
99	埋砂中層	土師器 甕	1/2	口径(16.9) 器高(21.4) 胴径(26.9)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
100	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(20.8) 器高(8.5)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
101	埋砂上層	土師器 甕	1/5	口径(18.6) 器高(17.8) 胴径(25.4)	良	灰褐色	密	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文・波状文、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ、体部中位指頭調整→横ヘラケズリ	
102	埋砂上層	土師器 甕	2/3	口径(16.4) 器高(21.9) 胴径(22.2)	やや良	黄灰白色	やや密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下斜めヘラケズリ、体部下指頭調整、底部ヘラ状工具端部による圧痕	外面体部煤付着
103	埋砂上層	土師器 甕	1/3	口径(15.0) 器高(23.9) 胴径(22.6)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部横・縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横・斜めヘラケズリ、体部中位以下指頭調整→ヘラケズリ	
104	埋砂中層	土師器 甕	1/3	口径(13.3) 器高(17.6) 胴径(20.0)	良好	灰茶色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→縦・横ハケメ、肩部ヘラ状工具端部による列点文4個以上 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ、体部下指頭調整	
105	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(17.6) 器高(12.6) 胴径(21.5)	やや良	灰褐色	やや粗 砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具端部による列点文、体部ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
106	埋砂中層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(15.4) 器高(10.4)	良	灰褐色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	外面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→縦・横ハケメ、肩部ヘラ状工具端部による列点文8個以上 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面炭化物・煤付着
107	埋砂中層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(15.7) 器高(13.4) 胴径(21.6)	良好	褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
108	埋砂中層	土師器 甕	口縁～肩 部3/4	口径(14.2) 器高(9.2)	良	黄灰白色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	

109	埋砂中層	土師器 甕	口縁～肩 部1/3	口径(14.8) 器高(9.2)	良	灰褐色	密 雲母・白色 粒・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
110	埋砂中層	土師器 甕	口縁～体 部2/3	口径:11.8 器高(9.1) 胴径(14.1)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
111	埋砂上層	土師器 甕	4/5	器高(14.2) 胴径:14.8	良	灰褐色	密 雲母・白色 粒・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部横・縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ、体部下半指 頭調整→縦ヘラケズリ	外面体部下半煤付 着
112	埋砂中層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(14.1) 器高(10.4) 胴径(17.7)	良	褐色	密 角閃石・石 英・白色粒	外面：口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面口縁部煤付着
113	埋砂中層	土師器 甕	1/2	口径:14.4 器高(12.6) 胴径(20.0)	良	黒茶色～灰 褐色	密 雲母・石英	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・横ハケメ→櫛状工具 による波状文(全周) 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内外面煤付着
114	埋砂中層	土師器 甕	口頸部 1/5	口径(15.2) 器高(5.2)	良	黄灰白色	密 白色粒	外面：口頸部横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
115	埋砂下層	土師器 甕	1/3	口径(14.5) 器高(21.7) 胴径(21.0)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、 体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→横・斜めヘラケズリ	
116	埋砂上層	土師器 甕	1/2	口径(13.6) 器高(21.3) 胴径(21.0)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部横・縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面：口頸部横ナデ、頸部下半指頭調整、体部横ヘラケズ リ、体部下半指頭調整→縦ヘラケズリ	外面体部一部煤付 着
117	埋砂下層	土師器 甕	1/3	口径(15.2) 器高(18.8) 胴径(21.1)	良	灰茶色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文(全周)、 体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ、体部下半指 頭調整	外面煤付着 外面体部炭化物付 着
118	埋砂下層	土師器 甕	2/3	口径(13.2) 器高(20.0) 胴径(19.8)	良	灰褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横・縦ヘラケズリ、体部下 半指頭調整	外面体部煤付着
119	埋砂中層	土師器 甕	1/3	口径(17.4) 器高(17.5) 胴径(24.2)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
120	埋砂中層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径:17.8 器高(12.8)	良	灰褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部ヘラ状 工具端部による刺突文 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
121	埋砂中層	土師器 甕	口縁～体 部	口径:15.0 器高(14.7) 胴径(23.0)	良	黄灰白色	密 石英	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ→ナデ、肩部ヘラ 状工具による波状文 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
122	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(16.6) 器高(15.8) 胴径(22.2)	良	灰褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工具に よる波状文 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ→ナデ	外面一部煤付着
123	4区南端	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(18.0) 器高(9.8)	良	黄灰白色	密 雲母・砂粒	外面：口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部櫛状工 具端部による列点文 内面：口頸部横ナデ、頸部下半指頭調整、肩部横ヘラケズ リ	外面煤付着
124	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部	口径:18.7 器高(10.0)	良	黄灰白色～ 橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内面黒色 外面煤付着
125	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径:14.0 器高(8.6)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
126	埋砂下層	土師器 甕	口縁～胴 部1/4	口径(14.6) 器高(15.2) 胴径(20.1)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工具に よる波状文 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
127	埋砂中層	土師器 甕	口縁～体 部2/3	口径(14.6) 器高(10.0)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工具に よる波状文 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
128	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部3/4	口径(13.4) 器高(6.2)	良	灰褐色	密 石英・白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部横ハケメ→櫛状工具端部による 列点文3個以上 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
129	埋砂中層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(13.8) 器高(8.5)	良	灰茶色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部貝殻腹縁に よる列点文 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面一部煤付着
130	埋砂中層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径:14.2 器高(8.5)	良	灰茶色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
131	埋砂下層	土師器 甕	口縁～肩 部2/3	口径:13.4 器高(6.3)	良	灰褐色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による波状文 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
132	埋砂中層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径:14.0 器高(7.1)	良	灰褐色	密 砂粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整→横ヘラケズリ	外面煤付着
133	埋砂中層	土師器 甕	口縁～体 部	口径:15.4 器高(20.7) 胴径(20.6)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面：口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部櫛状工 具端部による列点文(ほぼ全周) 内面：口頸部横ナデ、肩部以下指頭調整→横ヘラケズリ	外面煤付着
134	埋砂最上層	土師器 甕	1/2	口径(14.8) 器高(20.2) 胴径(19.5)	良	褐色	密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ、体部横・斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ、体部中位以下 指頭調整	外面煤付着
135	埋砂中層	土師器 甕	1/2	口径:15.0 器高(13.8) 胴径(22.6)	良	灰褐色～黄 灰白色	密 砂粒	外面：口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	黒斑
136	埋砂中層	土師器 甕	1/2	口径:15.2 器高(13.5) 胴径(22.8)	良	黄灰白色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下粗い縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部下半指頭調整、体部横ヘラケズ リ	外面体部煤付着
137	埋砂中層	土師器 甕	1/2	口径:15.5 器高(13.2) 胴径(22.0)	良	黄灰白色	密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
138	埋砂下層	土師器 甕	口縁～体 部1/4	口径(18.7) 器高(12.5) 胴径(24.0)	良好	灰褐色	密 石英	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部横ハケメ→ナデ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面体部一部煤付 着

139	埋砂中層	土師器 甕	1/2	口径:17.8 器高(18.5) 胴径(24.8)	良	褐色	密	外面:口縁部~肩部横ナデ、肩部ヘラ状工具端部による列点文、体部横・縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	内面口縁部被熱痕
140	埋砂下層	土師器 甕	口縁~体部	口径:15.9 器高(11.7)	良	黄灰白色	密 雲母・石英	外面:口頸部横ナデ、体部横ハケメ、肩部ヘラ状工具端部による刺突文(1個) 内面:口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内外面一部煤付着
141	埋砂中層	土師器 甕	口縁~体部	口径:14.4 器高(10.6)	良	灰褐色	密 雲母・石英	外面:口縁部~肩部横ナデ、肩部櫛状工具による波状文、体部横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
142	埋砂中層	土師器 甕	1/2	口径:14.3 器高(13.3) 胴径(20.8)	良	黄灰白色	密 雲母・石英	外面:口頸部横ナデ、体部横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
143	埋砂上層	土師器 甕	口縁~肩部1/3	口径(15.2) 器高(12.5) 胴径(22.8)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面:口縁~肩部横ナデ、体部横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面肩部ヘラによる線刻「×」
144	埋砂上層	土師器 甕	2/5	口径:11.2 器高(7.5)	良	灰褐色	密 砂粒	外面:口縁~肩部横ナデ、体部横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
145	埋砂最上層	土師器 甕	1/3	口径(11.1) 器高(11.7) 胴径(17.6)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面:口縁~肩部横ナデ、体部横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	黒斑 外面体部一部煤付着
146	埋砂中層	土師器 甕	口縁~体部1/4	口径(14.8) 器高(13.2) 胴径(22.0)	良	暗灰白色	密 雲母・石英・白色粒	外面:口頸部横ナデ、体部横・縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	黒斑 外面煤付着
147	埋砂中層	土師器 甕	1/5	口径(15.8) 器高(10.6)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・砂粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工具による波状文 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
148	埋砂中層	土師器 甕	1/3	口径:14.7 器高(10.3)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・砂粒多量	外面:口頸部横ナデ、体部横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
149	埋砂中層	土師器 甕	2/5	口径(14.0) 器高(10.4)	良好	褐色	密 砂粒	外面:口縁部~肩部横ナデ、肩部櫛状工具端部による列点文、体部横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
150	埋砂上層	土師器 甕	口縁~体部	口径(16.0) 器高(13.4) 胴径(22.6)	良	褐色	密 雲母・白色粒・砂粒	外面:口頸部横ナデ、体部横ハケメ、肩部櫛状工具による直線文 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
151	埋砂中層	土師器 甕	口縁~肩部1/3	口径(17.2) 器高(9.5)	良	褐色	密 砂粒	外面:横ナデ、肩部ヘラ状工具による刺突文2個(上下) 内面:口頸部横ナデ、肩部指頭調整→横ヘラケズリ	外面煤付着
152	埋砂最下層	土師器 甕	口縁~体部1/2	口径(15.2) 器高(13.2) 胴径(22.6)	良	褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面:口頸部横ナデ、頸部以下横・縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
153	埋砂中層	土師器 甕	1/4	口径(14.8) 器高(11.0)	良	黄灰白色	密	外面:口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
154	埋砂中層	土師器 甕	口縁~肩部1/2	口径(15.6) 器高(10.0)	良	橙褐色	密 雲母・白色粒・砂粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	肩部焼成後穿孔1個 外面煤付着
155	埋砂中層	土師器 甕	口縁~体部1/3	口径(15.6) 器高(13.0)	良好	褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面:口頸部横ナデ、体部横ハケメ、肩部櫛状工具端部による列点文 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
156	埋砂中層	土師器 甕	口縁~体部	口径:13.7 器高(13.8) 胴径(21.0)	良	黄灰白色	密 砂粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面体部煤付着
157	埋砂下層	土師器 甕	口縁~体部1/2	口径(15.8) 器高(22.0) 胴径(26.0)	良	黒褐色	密 砂粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦・斜めハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調整→斜めヘラケズリ	外面煤付着
158	埋砂最下層	土師器 甕	口縁~肩部1/3	口径(13.6) 器高(7.6)	良	灰色	密 雲母・石英・白色粒	外面:口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
159	埋砂中層	土師器 甕	1/8	口径(10.3) 器高(12.5) 胴径(14.8)	良	褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面:口縁~肩部横ナデ、体部横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調整	外面体部炭化物付着
160	埋砂中層	土師器 甕	口縁~肩部2/3	口径(12.6) 器高(6.3)	良	灰褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面:口頸部横ナデ、肩部横・縦ハケメ→櫛状工具による波状文 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
161	埋砂下層	土師器 甕	口縁~体部1/3	口径(11.3) 器高(7.0) 胴径(12.4)	良	灰褐色	密 砂粒	外面:口縁部~肩部横ナデ、体部横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	
162	埋砂中層	土師器 甕	ほぼ完形	口径:10.1 器高: 9.6 胴径:11.2	良好	褐色	密 石英	外面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整→ナデ、体部縦・横ハケメ 内面:口縁部横ナデ、頸部以下ヘラケズリ	
163	埋砂最下層	土師器 甕	口縁~肩部1/4	口径(14.2) 器高(5.1)	良	灰褐色	密 白色粒	外面:口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ→ナデ 内面:口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
164	埋砂中層	土師器 甕	1/2	口径(11.0) 器高:19.3 胴径:18.0	良	灰褐色	密 雲母・石英・白色粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部貝殻腹縁による列点文4個以上 内面:口頸部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	
165	埋砂中層	土師器 甕	2/3	口径:10.4 器高(11.1) 胴径:12.8	良	灰褐色	密 白色粒	外面:口縁部~肩部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
166	埋砂上層	土師器 甕	1/3	口径: 9.8 器高(7.5) 胴径(14.0)	良好	黒茶色	密 雲母・石英・砂粒	外面:口縁部~肩部横ナデ、体部横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	内外面煤付着
167	埋砂中層	土師器 甕	2/3	口径(12.4) 器高:17.5 胴径(17.0)	良	黒茶色	密	外面:口縁部~底部斜めハケメ、頸部横ナデ、肩部櫛状工具による波状文 内面:口縁部指頭調整→ナデ、頸部以下指頭調整→横ヘラケズリ	内外面煤付着
168	埋砂上層	土師器 甕	1/2	口径:14.4 器高(17.3) 胴径(21.6)	良	褐色~橙褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面:口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、頸部下指頭調整、体部横ヘラケズリ	
169	埋砂上層	土師器 甕	ほぼ完形	口径(15.6) 器高(20.8) 胴径(20.0)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面:指頭調整→粗いハケメ→ナデ 内面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ→指頭調整	外面体部一部煤付着
170	埋砂中層	土師器 甕	口縁~肩部	口径:13.4 器高(7.1)	良	灰褐色~褐色	密	外面:口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着

171	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部2/3	口径(14.0) 器高(7.5)	良好	灰褐色	密 雲母	外面：口縁部横ナデ、頸部以下縦ハケメ→ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部下半指頭調整→ナデ、体部横 ハケズリ	
172	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(16.7) 器高(10.6)	良	灰褐色	密 石英多量	外面：口縁～肩部横ナデ、肩部ヘラ状工具端部による列点 文2個以上、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ハケズリ	外面煤付着
173	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径:13.2 器高(6.2)	良	橙褐色	密	外面：口縁部横ナデ、頸部以下縦ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部以下横ハケズリ	
174	埋砂上層	土師器 甕	ほぼ完形	口径(14.7) 器高(23.5) 胴径:21.3	良	褐色	密 石英・白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→横・斜めハケズリ	外面体部下炭化 物付着 外面煤付着
175	埋砂上層	土師器 甕	1/3	口径(13.2) 器高(12.8) 胴径(19.4)	良好	褐色～橙褐 色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ハケズリ	黒斑 外面煤付着
176	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径(20.2) 器高(13.9)	良好	灰褐色	密 角閃石・白色 粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ハケズリ	
177	埋砂中層	土師器 甕	2/3	口径(20.2) 器高(35.3) 胴径(32.9)	良	灰褐色	密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ハケズリ、体部下指頭調 整→ハケズリ	外面体部煤付着
178	埋砂上層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(17.6) 器高(22.0) 胴径(28.0)	良	灰茶色	密 角閃石・雲 母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横・斜めハケズリ	外面体部煤付着
179	埋砂上層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径(19.6) 器高(13.7)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナデ、頸部以下粗い縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ハケズリ	外面煤付着
180	埋砂最上層	土師器 甕	口頸部 1/8	口径(19.4) 器高(5.6)	良	褐色	密 雲母・白色粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ハケズリ	内面口縁部～外面 煤付着
181	埋砂上層	土師器 甕	口頸部 1/2	口径(19.1) 器高(5.8)	良好	灰褐色	密 石英・砂粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ハケズリ	
182	埋砂上層	土師器 甕	口頸部 1/2	口径(16.6) 器高(4.1)	良	褐色	密	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ハケズリ	外面煤付着
183	埋砂上層	土師器 甕	口頸部	口径:14.7 器高(5.0)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒・砂粒	外面：口縁部横ナデ、口頸部横ハケメ 内面：口頸部横ハケメ、頸部以下横ハケズリ	外面煤付着
184	埋砂中層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(16.4) 器高(8.0)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ→ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下指頭調整→横ハケズリ	
185	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(44.4) 器高(13.3)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面：指頭調整→粗い縦ハケメ→ナデ 内面：口頸部横ハケメ、頸部以下横・斜めハケズリ	外面煤付着
186	埋砂上層	土師器 甕	口頸部 1/2	器高(12.0)	良	灰褐色	密 雲母・石英	外面：口縁部横ナデ、頸部粗い縦ハケメ→横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ハケズリ	
187	埋砂中層	土師器 甕	1/2	口径(28.2) 器高(25.2) 胴径(23.1)	良	暗灰白色	密 石英・白色 粒・砂粒	外面：口縁部～体部指頭調整→粗い縦・横ハケメ 内面：口頸部指頭調整→横ハケメ、頸部以下指頭調整→横 ハケズリ	外面煤付着
188	埋砂中	土師器 甕	ほぼ完形	口径(14.7) 器高(19.6) 胴径(20.4)	良	褐色	密 雲母・石英・ 小石粒	外面：口縁部指頭調整→ナデ、頸部以下指頭調整→粗いハ ケメ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→ハケズリ→工具に よるナデ	外面体部煤付着
189	埋砂上層	土師器 甕	1/2	口径(9.0) 器高(16.1) 胴径(15.4)	やや良	橙褐色～褐 色	やや密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部粗い縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ハケズリ	
190	埋砂上層	土師器 甕	ほぼ完形	口径(13.2) 器高(16.2) 胴径(16.8)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下縦ハケズリ	外面体部一部煤付 着
191	埋砂中層	土師器 直口壺	1/2	口径(11.8) 器高(15.5) 胴径(14.5)	良	黄灰白色	密 砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部指頭調整→横ハ ケズリ	
192	埋砂中層	土師器 小型丸底壺	ほぼ完形	口径:10.0 器高: 9.5 胴径: 9.6	良好	灰褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦ハケメ、肩部櫛状工具端 部による列点文(全周) 内面：口頸部横ナデ、体部横ハケズリ	
193	埋砂中層	土師器 小型丸底壺	3/4	口径:10.0 器高(6.9) 胴径(10.5)	良	灰色	やや密	外面：口頸部横ナデ、肩部ヘラ状工具端部による列点文(1/3 周)、体部縦ハケメ 内面：口縁部～肩部横ナデ、体部横ハケズリ	
194	埋砂下層	土師器 小型丸底壺	ほぼ完形	口径: 8.6 器高: 6.8 胴径: 8.3	良	灰茶色～灰 褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部縦ヘラミガキ、頸部横ナデ、体部指頭調整・ 縦ハケメ・横ヘラミガキ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→ハケズリ→ナデ	
195	埋砂下層	土師器 小型丸底壺	ほぼ完形	口径(6.3) 器高(6.3) 胴径(5.9)	良好	橙褐色	密 石英・砂粒	外面：ハケメ→横ナデ→横ヘラミガキ 内面：口縁部横ナデ→横ヘラミガキ、体部横ハケズリ	
196	埋砂下層	土師器 小型丸底壺	口縁～体 部	口径: 8.2 器高(5.5) 胴径(7.8)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面：横ナデ→横ヘラミガキ 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整、体部横ハケズリ	黒斑
197	埋砂中層	土師器 小型丸底壺	破片	口径(9.5) 器高(5.5) 胴径(7.8)	良好	橙褐色	密	外面：口頸部ハケメ→横ナデ→縦ヘラミガキ、体部縦・横 ハケメ 内面：口頸部横ハケメ→ナデ、肩部横ハケズリ、体部横 ハケメ	
198	埋砂上層	土師器 小型丸底壺	ほぼ完形	口径:10.0 器高: 6.0 胴径: 5.9	良好	橙褐色	密	外面：口縁部横ナデ→縦ヘラミガキ、頸部以下ハケメ→横 ヘラミガキ 内面：口頸部縦・横ヘラミガキ、肩部指頭調整、体部ハケ メ→横ヘラミガキ	
199	埋砂中層	土師器 小型丸底壺	5/8	口径:10.6 器高: 7.6 胴径: 7.5	良	橙褐色	密 雲母・石英多 量	外面：口縁部～体部横ナデ→横ヘラミガキ、体部下縦・ 横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整	
200	埋砂上層	土師器 小型丸底壺	体部	器高(3.9) 胴径(8.2)	良好	橙褐色	密	外面：横ナデ→横ヘラミガキ 内面：肩部指頭調整、体部横ハケズリ	
201	埋砂上層	土師器 小型丸底壺	3/4	口径:11.2 器高(7.7) 胴径(7.6)	良好	灰褐色	密	外面：ハケメ→横ヘラミガキ 内面：口頸部ハケメ→縦ヘラミガキ、体部指頭調整→横ハ ケズリ	
202	埋砂上層	土師器 小型丸底壺	3/4	口径: 8.9 器高(7.5) 胴径: 6.8	良好	橙褐色	密	外面：口頸部縦ヘラミガキ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整、体部横ハケズリ	

203	埋砂上層	土師器 小型丸底鉢	破片	口径(15.7) 器高(4.3)	良	褐色	密	外面：横ナデ 内面：横ナデ→縦ヘラミガキ	
204	埋砂下層	土師器 小型丸底鉢	破片	口径(10.8) 器高(5.6) 胴径(10.1)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナデ、体部縦ハケメ→ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下指頭調整→横ヘラケズリ	
205	埋砂中層	土師器 小型鉢	破片	口径(18.2) 器高(4.5)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナデ、体部横ハケメ 内面：横ヘラケズリ	外面煤付着
206	埋砂下層	土師器 小型鉢	1/2	口径(11.6) 器高(7.8) 胴径(9.4)	やや良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：指頭調整→横ナデ→縦・横ヘラミガキ 内面：口頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ	内面黒色
207	埋砂下層	土師器 高坏	5/8	口径:25.7 器高:14.4 底径:13.8	良	黄灰白色～ 褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：坏部～脚部縦ヘラミガキ、裾部ハケメ→ヘラミガキ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部 ハケメ 接合部円盤充填法、三方円形透し	内外面一部煤付着
208	埋砂中層	土師器 高坏	2/3	口径:20.3 器高(13.8) 底径:11.3	良好	暗灰白色	密	外面：坏部縦・横ヘラミガキ、脚部縦ハケメ 内面：坏部ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部縦ハケ メ	内底面磨耗
209	埋砂中層	土師器 高坏	3/4	口径(15.0) 器高:12.8 底径:11.4	良好	褐色	密	外面：坏部縦ハケメ→縦ヘラミガキ、脚部縦ヘラケズリ→ ナデ、裾部ヘラミガキ→ナデ 内面：坏部ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部縦ハケ メ→ヘラミガキ 接合部円盤充填法、円形透し2個	内面裾部線刻2条
210	埋砂中層	土師器 高坏	ほぼ完形	口径:21.6 器高:13.8 底径:13.5	良	黄灰白色	やや密	外面：坏部横ナデ、脚部縦ハケメ 内面：坏部横ナデ→布目痕?、脚柱部横ヘラケズリ、裾部 ハケメ 接合部円盤充填法	
211	埋砂最下層	土師器 高坏	2/3	口径(22.2) 器高(13.3) 底径(13.4)	良	灰茶色	密 雲母・砂粒	外面：坏部横ナデ→横ヘラミガキ、脚部縦ハケメ、裾部ナ デ 内面：坏部ハケメ→縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、 裾部横ハケメ	
212	埋砂中層	土師器 高坏	2/3	口径(16.0) 器高:12.3 底径(10.4)	良好	橙褐色	密 砂粒	外面：坏部ハケメ・横ヘラミガキ、脚柱部縦ヘラケズリ・ハ ケメ・ヘラミガキ、裾部横ナデ 内面：坏部ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部ナデ 接合部円盤充填法	
213	埋砂中層	土師器 高坏	2/3	口径(24.8) 器高:16.5 底径:17.2	良好	橙褐色	密	外面：坏部～脚部横ナデ→縦・横ヘラミガキ 内面：坏部横ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハ ケメ 接合部円盤充填法、脚部三方円形透し	
214	埋砂中層	土師器 高坏	ほぼ完形	口径:17.4 器高:13.2 底径(14.5)	良好	黄灰白色	密	外面：坏部横ナデ→横・縦ヘラミガキ、脚部縦ヘラケズリ・ ハケメ・ヘラミガキ 内面：坏部横ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハ ケメ 接合部円盤充填法	
215	埋砂中層	土師器 高坏	ほぼ完形	口径:16.5 器高:13.7 底径(13.2)	良好	灰褐色	密	外面：坏部横ナデ→横ヘラミガキ、脚部縦ヘラケズリ→ヘ ラミガキ 内面：坏部縦・横ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部 ハケメ 接合部円盤充填法、脚部四方?円形透し	
216	埋砂中層	土師器 高坏	ほぼ完形	口径:21.6 器高:10.5 底径:13.3	良好	褐色	密	外面：坏部～脚柱部横ナデ→縦・横ヘラミガキ、裾部縦ハ ケメ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部 横ハケメ 接合部円盤充填法、脚部四方円形透し	
217	埋砂上層	土師器 高坏	ほぼ完形	口径:16.2 器高(13.5) 底径(12.4)	良好	橙褐色～褐 色	密	外面：坏部横ナデ→横ヘラミガキ、脚柱部縦ヘラケズリ・ ハケメ・横ヘラミガキ、裾部横ナデ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部 横ハケメ 接合部円盤充填法、脚部円形透し2個	外面煤付着
218	埋砂中層	土師器 高坏	3/4	口径(16.1) 器高:15.8 底径(14.4)	良好	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナデ→横ヘラミガキ、坏底部ハケメ→横ヘ ラミガキ、脚部縦ヘラケズリ→横ヘラミガキ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部 ハケメ	
219	埋砂上層	土師器 高坏	3/4	口径:14.8 器高:13.6 底径:10.7	良	黄灰白色	密	外面：受部～脚柱部横ヘラミガキ、裾部指頭調整・縦ハケ メ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部 指頭調整・ハケ目	
220	埋砂中層	土師器 高坏	5/8	口径:14.9 器高:13.6 底径:11.6	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ヘラミガキ、坏底部ハケメ→ヘラミガキ、 脚部縦ヘラケズリ→横ヘラミガキ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部 ハケメ 脚部三方円形透し	
221	埋砂下層	土師器 高坏	5/8	口径(17.8) 器高:11.0 底径:8.9	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：磨耗調整不明 内面：坏部横ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ	全面赤彩 内面受部一部煤付 着
222	埋砂中層	土師器 高坏	坏部	口径:17.4 器高(6.5)	良	褐色	密 砂粒	外面：坏部横ナデ→縦・横ヘラミガキ 内面：坏部ハケメ→縦・横ヘラミガキ 接合部円盤充填法	黒斑
223	埋砂中層	土師器 高坏	坏部	口径:16.0 器高(4.9)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：坏部横ヘラミガキ 内面：坏部縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	内外面口縁部煤付 着 内面底部剥離
224	埋砂下層	土師器 高坏	坏部	口径:14.8 器高(5.3)	良	灰褐色	密	外面：坏部ハケメ→縦ヘラミガキ 内面：坏部ハケメ→横ヘラミガキ	内外面煤付着
225	埋砂中層	土師器 高坏	坏部 2/3	口径(13.4) 器高(4.8)	良	褐色～灰褐 色	密	外面：坏部横ハケメ→縦ヘラミガキ 内面：坏部横ヘラミガキ 接合部円盤充填法	内面底部炭化物・ 煤付着 外面底部被熱痕
226	埋砂中層	土師器 高坏	坏部	口径:16.9 器高(5.2)	良	橙褐色	密	外面：坏部横ヘラミガキ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	外面煤付着
227	埋砂中層	土師器 高坏	坏部	口径:16.4 器高(5.3)	良	橙褐色	密	外面：坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面：横・縦ヘラミガキ	
228	埋砂上層	土師器 高坏	坏部 1/3	口径(15.6) 器高(4.8)	良好	灰褐色	密	外面：坏部横ヘラミガキ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ、坏底部指頭調整→ヘラミガ キ	内面底部磨耗

229	埋砂上層	土師器高坏	坏部	口径:10.6 器高(4.6)	良好	橙褐色	密	外面:口縁部横ヘラミガキ、坏底部縦ハケメ 内面:坏部横ヘラミガキ	内面底部・外面一部剥離
230	埋砂中層	土師器高坏	坏部 1/3	口径(16.6) 器高(6.0)	良好	橙褐色	密	外面:口縁部横ヘラミガキ、坏底部縦ハケメ→ヘラミガキ 内面:坏部縦・横ヘラミガキ	
231	埋砂下層	土師器高坏	坏部	口径:15.8 器高(4.7)	良好	橙褐色	密	外面:坏部縦ヘラミガキ 内面:坏部縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	全面赤彩
232	埋砂中層	土師器高坏	坏部~脚柱部	器高(7.2)	良	黄灰白色	密	外面:口縁部横ナデ、坏底部~脚柱部ヘラミガキ・ハケメ 内面:坏部ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ 接合部円盤充填法	
233	埋砂中層	土師器高坏	坏部	口径(11.7) 器高(7.7)	良好	橙褐色	密 雲母・白色粒	内外面:坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ 接合部円盤充填法	外面煤付着 破断面磨耗
234	埋砂最下層	土師器高坏	坏部 1/3	口径(18.0) 器高(7.2)	良好	橙褐色	密 白色粒	外面:坏部横・斜めヘラミガキ 内面:坏部横ヘラミガキ、坏底部布目痕	全面赤彩
235	埋砂中層	土師器高坏	坏部	口径:13.1 器高(11.6) 胴径:19.0	良好	灰褐色	密	外面:坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面:坏部指頭調整→横・縦ハケメ	ブランデーグラス形 外面底部煤付着 破断面磨耗
236	埋砂下層	土師器高坏	脚部 3/4	器高(5.1) 底径:9.0	良	黄灰白色	密	外面:脚柱部縦ハケメ→横ヘラミガキ、裾部横ナデ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部指頭調整→ハケメ・横ナデ	
237	埋砂上層	土師器高坏	脚部 1/2	器高(6.9) 底径(11.6)	良好	灰褐色	密 砂粒	外面:脚柱部縦ハケメ→横ヘラミガキ、裾部横ナデ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部ハケメ・横ナデ 脚部三方円形透し	
238	埋砂中層	土師器高坏	脚部	器高(8.5) 底径(13.0)	良	橙褐色	密	外面:脚部縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面:脚柱部横・縦ヘラケズリ、裾部ハケメ→指頭調整・横ナデ 脚部三方円形透し	
239	埋砂中層	土師器高坏	脚部	器高(8.2) 底径:14.1	良好	橙褐色	密	外面:脚部縦ハケメ→横ヘラミガキ、裾部横ナデ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部ハケメ・横ナデ 脚部三方円形透し	外面裾部煤付着
240	埋砂中層	土師器高坏	脚部	器高(8.2) 底径(11.5)	良	褐色	密	外面:脚部横ヘラミガキ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ナデ 脚部三方円形透し	
241	埋砂上層	土師器高坏	脚部	器高(7.7) 底径:10.0	良好	褐色	密	外面:脚部縦ヘラケズリ→横ヘラミガキ 内面:脚柱部横ヘラケズリ・指頭調整、裾部横ハケメ→ナデ 脚部円形透し	
242	埋砂下層	土師器高坏	脚部	器高(9.1) 底径:10.3	良	褐色	密 白色粒・砂粒	外面:脚柱部縦ヘラケズリ→横ヘラミガキ、裾部横ナデ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ・横ナデ	
243	埋砂中層	土師器高坏	脚部	器高(10.3) 底径(15.4)	良好	褐色	密	外面:脚部縦ヘラケズリ→縦ハケメ→横・縦ヘラミガキ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ	
244	埋砂中層	土師器高坏	脚部	器高(8.6) 底径(13.8)	良好	褐色	密	外面:脚部縦ハケメ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ→横ナデ	
245	埋砂中層	土師器高坏	脚部	器高(8.0) 底径:13.3	やや良	暗灰白色	やや粗	外面:脚部縦・横ハケメ・横ナデ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ→横ナデ	
246	埋砂下層	土師器高坏	脚部	器高(8.8) 底径:12.2	良	黄灰白色	密	外面:脚柱部縦ハケメ→縦ヘラミガキ→ヘラ状工具端部による列点文(全周)、裾部横ナデ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ→横ナデ	
247	埋砂中層	土師器高坏	脚部 2/3	器高(5.3) 底径(9.6)	良	黄灰白色	密 砂粒	外面:脚部縦ハケメ・横ナデ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ナデ	
248	埋砂上層	土師器高坏	脚部	器高(3.3) 底径:8.7	良	褐色	密 雲母	外面:脚部縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ナデ	内外面煤付着
249	埋砂中層	土師器高坏	脚部	器高(6.0) 底径(7.4)	良	黄灰白色~褐色	密 砂粒	外面:坏底部~脚部ナデ 内面:坏底部指頭調整→ナデ、脚部ナデ 脚部円形透し1個以上	
250	埋砂上層	土師器高坏	脚部破片	器高(4.8)	良	橙褐色	密 石英・白色粒	外面:脚部縦・横ハケメ・縦ヘラミガキ・貝殻腹縁による列点文3条 内面:脚部横ヘラケズリ→横ナデ	
251	埋砂下層	土師器脚付塊	完形	口径:14.8 器高:8.7 底径:7.6	やや良	橙褐色	密 角閃石・雲母・石英・白色粒	外面:坏部~脚部指頭調整→ナデ 内面:坏部指頭調整→ナデ、脚部ナデ	黒斑
252	埋砂下層	土師器脚付塊	5/8	口径(12.2) 器高:7.9 胴径(13.0) 底径:7.4	良好	橙褐色	密 白色粒	外面:坏部横ナデ→横ヘラミガキ、坏底部指頭調整、脚部横ナデ 内面:坏部横ナデ→横ヘラミガキ、脚部横ナデ	全面赤彩
253	埋砂上層	土師器脚付塊	ほぼ完形	口径:14.4 器高:8.8 底径:8.0	良	褐色	密 石英・白色粒・砂粒	外面:坏部横・斜めヘラミガキ、坏底部~脚部指頭調整 内面:坏部縦・横ヘラミガキ、脚部横ナデ	
254	埋砂上層	土師器低脚坏	ほぼ完形	口径:13.2 器高:5.7 底径:5.6	良好	灰褐色	密	内外面:坏部縦・横ヘラミガキ、脚部横ナデ	
255	埋砂下層	土師器低脚坏	3/4	口径:16.6 器高:6.6 底径:7.6	良	黄灰白色	密	外面:坏部縦ハケメ、脚部横ナデ 内面:坏部縦ハケメ、坏底部指頭調整、脚部横ナデ	
256	埋砂中層	土師器低脚坏	ほぼ完形	口径:16.6 器高:8.3 底径:8.5	良	黄灰白色	やや密	外面:坏部縦ハケメ、脚部横ナデ 内面:坏部縦ハケメ→ナデ、脚部横ナデ	内外面口縁部煤付着
257	埋砂中層	土師器低脚坏	ほぼ完形	口径:14.9 器高:6.8 底径:6.8	良	黄灰白色	やや粗	外面:口縁部横ヘラミガキ、坏底部縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部横・斜めヘラミガキ、脚部横ナデ	
258	埋砂上層	土師器低脚坏	ほぼ完形	口径:12.2 器高:5.4 底径:5.3	良好	橙褐色	密 雲母・砂粒	内外面:横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	全面赤彩
259	4区南端	土師器低脚坏	1/2	口径(13.0) 器高:5.8 底径:5.7	やや良	灰褐色	密 雲母・石英	外面:坏部指頭調整→縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚部指頭調整→横ヘラミガキ 内面:指頭調整→横・縦ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ	黒斑
260	埋砂中層	土師器低脚坏	3/4	口径(12.6) 器高:5.4 底径(5.0)	良好	橙褐色	密	外面:坏部横ハケメ、口縁部・坏底部ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	

261	埋砂最下層	土師器 低脚坏	ほぼ完形	口径:15.3 器高(6.4)	良	褐色	密 砂粒	内外面: 坏部横ヘラミガキ、脚部横ナデ	内外面坏部煤付着
262	埋砂中層	土師器 低脚坏	2/3	口径(19.7) 器高: 6.6 底径: 5.9	良	暗灰白色	密	内外面: 坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚部横ナデ	内面底部・外面磨 耗剥離
263	埋砂中層	土師器 低脚坏	完形	口径:19.6 器高: 6.3 底径: 5.5	良好	灰褐色	密	外面: 坏部縦ハケメ→縦ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面: 坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚部横ナデ	内外面口縁部煤付 着
264	埋砂中層	土師器 低脚坏	1/2	口径:19.6 器高: 5.9 底径: 5.8	良	灰茶色	密	外面: 坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面: 坏部磨耗調整不明、脚部横ナデ	外面坏部煤付着
265	埋砂中層	土師器 低脚坏	ほぼ完形	口径:19.6 器高: 6.4 底径: 6.1	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 坏部横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面: 坏部横・縦ヘラミガキ、脚部磨耗調整不明	内面底部磨耗剥離
266	埋砂上層	土師器 低脚坏	2/3	口径(19.6) 器高: 5.4 底径(5.8)	良	灰茶色	密	外面: 坏部横・縦ハケメ→ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面: 坏部横ハケメ→縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	
267	埋砂上層	土師器 低脚坏	3/4	口径:19.0 器高: 5.1 底径: 5.5	良好	黄灰白色	密	外面: 坏部横・縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面: 坏部横ハケメ→横ヘラミガキ、脚部横ナデ	
268	埋砂中層	土師器 低脚坏	完形	口径:19.2 器高: 4.7 底径: 4.4	良好	灰褐色	密 砂粒	内外面: 坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	黒斑
269	埋砂下層	土師器 低脚坏	ほぼ完形	口径:20.7 器高: 4.9 底径: 5.7	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面: 坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面: 坏部横ヘラミガキ、脚部横ナデ	黒斑
270	埋砂中層	土師器 低脚坏	ほぼ完形	口径:18.5 器高: 5.5 底径: 5.5	良好	黄灰白色	密	内外面: 坏部縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	内面口縁部一部煤 付着
271	埋砂中層	土師器 低脚坏	ほぼ完形	口径:13.8 器高: 4.9 底径: 3.6	良好	橙褐色	密	内外面: 坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	
272	埋砂中層	土師器 低脚坏	3/4	口径:15.0 器高: 4.4 底径(4.5)	良	灰褐色	密	外面: 坏部横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面: 坏部縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	全面赤彩 内面煤付着 内外面口縁部磨耗 剥離
273	埋砂中層	土師器 低脚坏	2/3	口径(13.0) 器高: 4.5 底径(3.5)	良	褐色	密	内外面: 坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	内底部煤付着
274	埋砂最上層	土師器 低脚坏	1/2	口径:13.6 器高: 4.7 底径: 4.0	良	褐色	密	内外面: 坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	
275	埋砂中層	土師器 低脚坏	1/3	口径(13.2) 器高: 4.0 底径(3.4)	良	褐色	密	外面: 坏部横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面: 坏部縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	
276	埋砂中層	土師器 低脚坏	ほぼ完形	口径:13.3 器高: 4.8 底径: 5.7	良好	黄灰白色	密	内外面: 坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	
277	埋砂中層	土師器 低脚坏	完形	口径:11.6 器高: 3.7 底径: 2.9	良好	褐色	密	外面: 坏部横ハケメ→横・縦ヘラミガキ・布目痕、脚部横ナ デ 内面: 坏部横ハケメ→横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	内面磨耗剥離
278	埋砂中層	土師器 低脚坏	完形	口径:13.8 器高: 4.6 底径: 3.4	良好	橙褐色～黄 灰白色	密	内外面: 坏部横ハケメ、縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	
279	埋砂中層	土師器 低脚坏	ほぼ完形	口径:13.3 器高: 4.3 底径: 3.2	良	黄灰白色	密	内外面: 坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	
280	埋砂上層	土師器 低脚坏	完形	口径:11.7 器高: 3.9 底径: 3.6	良好	灰褐色	密	外面: 坏部ハケメ→横・縦ヘラミガキ、坏部横ナデ 内面: 坏部縦・横ヘラミガキ、脚部横ナデ	
281	埋砂上層	土師器 低脚坏	2/3	口径(13.4) 器高(4.4)	良	褐色	密	内外面: 坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	
282	埋砂下層	土師器 低脚坏	ほぼ完形	口径:13.5 器高: 4.0 底径: 4.0	良好	褐色	密	内外面: 坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	内外面口縁部磨耗 剥離
283	埋砂中層	土師器 低脚坏	坏部～脚 部	器高(3.0) 底径(5.6)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 坏部～脚部ナデ 内面: 坏部ヘラミガキ、脚部横ナデ	内面磨耗剥離 脚部穿孔1個以上
284	埋砂中層	土師器 低脚坏	坏部～脚 部	器高(2.2) 底径: 3.9	良	灰褐色	密	内外面: 坏部ヘラミガキ、脚部横ナデ	脚部穿孔1個
285	埋砂中層	土師器 鼓形器台	破片	口径(22.0) 器高(3.8)	良	橙褐色	密 雲母・石英	外面: 口縁端部横ナデ、受部横ヘラミガキ 内面: 受部横ヘラミガキ	内外面赤彩 外面煤付着
286	埋砂下層	土師器 鼓形器台	接合部 1/4	器高: 5.4	やや良	灰褐色～黄 灰白色	やや粗 砂粒	外面: 受部櫛状工具による直線文→横ナデ、接合部横ナデ 内面: 接合部横ヘラケズリ→ナデ、脚部横ヘラケズリ	
287	埋砂下層	土師器 鼓形器台	接合部 1/3	器高(6.7)	良	灰茶色	密 雲母・白色粒	外面: 縦ヘラミガキ、脚部ナデ 内面: 接合部ヘラケズリ→ナデ、脚部ナデ	内面赤彩
288	埋砂上層	土師器 鼓形器台	3/5	器高(6.3) 底径(14.6)	良好	灰褐色	密	外面: 横ナデ 内面: 接合部ナデ・指頭調整、脚部横ヘラケズリ	
289	埋砂下層	土師器 鼓形器台	1/3	器高(9.3)	良好	褐色	密	外面: 横ナデ 内面: 受部横ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ	
290	埋砂中層	土師器 鼓形器台	5/8	口径:16.9 器高: 9.4 底径:15.7	良好	橙褐色	密	外面: 横ナデ、受部・脚部縦ヘラミガキ 内面: 受部横ヘラケズリ→ヘラミガキ、接合部横ヘラケズ リ→横ナデ、脚部横ヘラケズリ	
291	埋砂上層	土師器 鼓形器台	3/4	口径:15.9 器高: 9.8 底径:15.2	良好	橙褐色	密	外面: 横ナデ 内面: 受部横ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ、脚部横ナデ	
292	埋砂下層	土師器 鼓形器台	2/3	口径:20.3 器高:10.8 底径:18.7	良	橙褐色	密 雲母・砂粒	外面: 横ナデ 内面: 受部横ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ	内外面一部煤付着
293	埋砂上層	土師器 鼓形器台	1/2	口径:17.8 器高:10.5 底径:16.1	良好	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 横ナデ、受部・脚部横ヘラミガキ 内面: 受部横・斜めヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横 ナデ、脚部横ヘラケズリ	内面口縁部～脚部 煤付着

294	埋砂最下層	土師器 鼓形器台	1/2	口径(22.0) 器高:10.8 底径(20.0)	良	褐色	密 砂粒	外面:横ナデ、受部櫛状工具による波状文 内面:受部横ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	
295	埋砂下層	土師器 鼓形器台	ほぼ完形	口径:21.8 器高:10.7 底径:18.5	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:横ナデ 内面:受部横ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横・斜めヘラケズリ、脚端部横ナデ	内面一部煤付着
296	埋砂中層	土師器 鼓形器台	1/3	口径(21.0) 器高(12.0) 底径(17.2)	良	灰褐色～橙 褐色	密	外面:横ナデ 内面:受部磨耗調整不明、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	内面一部煤付着
297	埋砂中層	土師器 鼓形器台	1/3	口径(20.5) 器高:11.7 底径:18.4	良	黄灰白色	やや密 砂粒	外面:横ナデ 内面:受部横ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	
298	埋砂上層	土師器 鼓形器台	1/2	口径:15.9 器高: 9.1 底径(15.9)	良好	橙褐色	密	外面:横ナデ 内面:受部横ヘラケズリ→横ヘラミガキ、接合部横ヘラケ ズリ→横ナデ、脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	
299	埋砂中層	土師器 鼓形器台	3/4	口径:21.0 器高:10.4 底径:18.0	良好	暗灰白色	密	外面:横ナデ 内面:受部横ヘラケズリ→横ヘラミガキ、接合部横ヘラケ ズリ→横ナデ、脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	内面脚部ヘラによる 線刻1条
300	埋砂下層	土師器 鼓形器台	ほぼ完形	口径(21.2) 器高: 9.5 底径(17.8)	やや良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面:横ナデ 内面:受部横・縦ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ 脚部円形透し2個	
301	埋砂下層	土師器 鼓形器台	ほぼ完形	口径:17.9 器高: 9.5 底径:15.7	良	黄灰白色	密 雲母	外面:横ナデ、受部・脚部縦ヘラミガキ 内面:受部横・縦ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ 脚部三方円形透し	
302	埋砂中層	土師器 鼓形器台	ほぼ完形	口径:18.9 器高: 9.8 底径:15.6	良	灰褐色	密	外面:横ナデ 内面:受部横ヘラケズリ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	内外面煤付着
303	埋砂最上層	土師器 鼓形器台	1/2	口径:16.4 器高: 9.0 底径(15.4)	良好	灰褐色	密 砂粒	外面:受部縦ヘラミガキ、接合部以下横ナデ 内面:受部横・縦ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	
304	埋砂中層	土師器 鼓形器台	3/4	口径:17.1 器高: 9.3 底径:15.3	良	黄灰白色	密 砂粒	外面:横ナデ 内面:受部横・斜めヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横 ナデ、脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	内面脚部ヘラによる 線刻1条
305	埋砂最上層	土師器 鼓形器台	ほぼ完形	口径:16.0 器高: 9.9 底径:14.8	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:横ナデ、受部・脚部縦ヘラミガキ 内面:受部横ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	外面赤彩
306	埋砂上層	土師器 鼓形器台	1/2	口径(17.4) 器高: 9.7 底径(8.0)	良好	灰褐色	密	外面:横ナデ 内面:受部ヘラケズリ→ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ →横ナデ、脚部横ヘラケズリ	内面被熱痕
307	埋砂中層	土師器 鼓形器台	3/4	口径(16.0) 器高: 9.2 底径:14.6	良好	橙褐色	密	外面:横ナデ、受部縦ヘラミガキ 内面:受部横ヘラケズリ→縦・横ヘラミガキ、接合部横ヘ ラケズリ→横ナデ、脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナ デ	
308	埋砂下層	土師器 鼓形器台	受部～接 合部	口径:21.3 器高(8.8)	良	灰褐色	密 石英・白色 粒・砂粒	外面:横ナデ 内面:受部横・縦ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ	
309	埋砂中層	土師器 鼓形器台	1/2	口径:17.8 器高(7.2)	良好	灰褐色	密	外面:横ナデ 内面:受部横・縦ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ	
310	埋砂上層	土師器 鼓形器台	2/3	口径:16.1 器高(7.9)	良好	橙褐色	密	外面:横ナデ、接合部縦・横ヘラミガキ 内面:受部横・縦ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ	
311	埋砂中層	土師器 鼓形器台	3/5	器高(8.6) 底径(18.6)	良	灰褐色	密 砂粒	外面:横ナデ 内面:受部ヘラケズリ→縦ヘラミガキ、接合部横ヘラケズ リ→横ナデ、脚部横ヘラケズリ	外面脚部ヘラによる 線刻4条以上
312	埋砂下層	土師器 鼓形器台	2/3	器高(7.7) 底径:18.7	良	黄灰白色	密	外面:横ナデ、接合部縦ヘラミガキ 内面:受部ナデ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、脚部横ヘ ラケズリ	内面脚部ヘラによる 線刻1条
313	埋砂中層	土師器 鼓形器台	脚部 2/3	器高(5.8) 底径(16.6)	良	黄灰白色	密 砂粒	外面:横ナデ、脚部上端竹管文1個 内面:受部横ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ	内面脚部ヘラによる 線刻2条
314	埋砂上層	土師器 鼓形器台	2/3	器高(7.3) 底径(15.4)	良好	橙褐色	密	外面:横ナデ 内面:受部ナデ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、脚部横ヘ ラケズリ	外面脚部ヘラによる 線刻1条
315	埋砂中層	土師器 鼓形器台	1/2	器高(7.5) 底径:17.0	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:横ナデ 内面:受部横ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横・斜めヘラケズリ	
316	埋砂最上層	土師器 鼓形器台	脚部 1/3	器高(7.1) 底径(16.8)	良	橙褐色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	外面:横ナデ 内面:受部横ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	
317	埋砂上層	土師器 鼓形器台	坏部 1/4	口径(16.8) 器高(5.9)	良	灰褐色	密	外面:横ナデ 内面:受部横ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ	
318	埋砂下層	土師器 鼓形器台	脚部 1/4	器高(4.8) 底径(15.6)	良好	灰褐色	密 砂粒	外面:横ナデ 内面:受部ナデ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、脚部横ヘ ラケズリ 脚部円形透し	
319	埋砂下層	土師器 鼓形器台	脚部 1/4	器高(5.5) 底径(18.8)	良好	橙褐色～灰 褐色	密	外面:横ナデ 内面:脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	
320	埋砂上層	土師器 鼓形器台	1/2	口径(14.0) 器高(8.8) 底径(12.8)	良	灰褐色	密	外面:横ナデ、受部縦・横ヘラミガキ、脚部横ヘラミガキ 内面:受部縦・横ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部斜めヘラケズリ、脚端部横ナデ	外面赤彩
321	埋砂中層	土師器 鼓形器台	2/3	口径(14.8) 器高: 7.9 底径(13.6)	良好	橙褐色	密 砂粒	外面:横ナデ、受部～脚部縦・横ヘラミガキ 内面:受部縦・横ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ、脚端部 横ナデ	内面一部煤付着
322	埋砂上層	土師器 鼓形器台	受部 1/3	口径(16.2) 器高(6.3)	良	黄灰白色	密	外面:受部指頭調整→縦ヘラミガキ 内面:受部縦・横ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ	
323	埋砂上層	土師器 小型器台	3/4	口径(8.8) 器高: 9.0 底径:10.9	良好	灰褐色	密	外面:縦・横ヘラミガキ 内面:受部横ヘラケズリ→横ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ、 脚部下指頭調整→横ヘラケ	

324	埋砂下層	土師器 小型器台	1/3	口径(8.7) 器高: 7.9 底径(12.2)	良好	橙褐色	密	外面: 受部横ヘラミガキ、脚部縦ハケメ→縦ヘラミガキ 内面: 受部縦ハケメ→横・縦ヘラミガキ、接合部横ヘラケ ズリ→横ナデ、脚部横ヘラケズリ、脚部下半横ナデ 接合部受部から穿孔	内外面受部赤彩
325	埋砂上層	土師器 小型器台	3/4	口径: 8.5 器高: 7.6 底径(12.5)	良	灰褐色	密	外面: 受部横ヘラミガキ、脚部縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面: 受部縦・横ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ、脚部下半ハケメ→ナデ 接合部受部から穿孔	
326	埋砂中層	土師器 小型器台	1/4	口径(9.0) 器高: 7.4 底径(11.0)	良	褐色	密 砂粒	外面: 受部横ヘラミガキ、脚部縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面: 受部横ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ、脚部下半指頭調整→ハケメ 接合部受部から穿孔、脚部三方円形透し	
327	埋砂上層	土師器 小型器台	1/3	口径(8.4) 器高(6.7)	良好	灰褐色	密	外面: 受部横ヘラミガキ、脚部縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面: 受部縦・横ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部横ハケメ 接合部受部から穿孔	
328	埋砂上層	土師器 小型器台	受部 1/3	口径(10.7) 器高(4.9)	良好	褐色	密	外面: 縦ヘラミガキ 内面: 受部横ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ	
329	埋砂最下層	土師器 小型器台	受部-脚 部	口径:10.2 器高(4.8)	やや良	褐色	密 雲母・石英	外面: 坏部横ナデ、脚部縦ハケメ 内面: 坏部横ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ 接合部円盤充填→穿孔	内面受部磨耗剥離 二次焼成
330	埋砂下層	土師器 小型器台	坏部	口径:10.8 器高(3.5)	良	褐色	密	外面: 口縁部横ナデ、受部ハケメ→ヘラミガキ 内面: 受部磨耗調整不明 接合部円盤充填→穿孔	内面受部磨耗剥離 内面口縁部~外面 赤彩
331	埋砂最下層	土師器 小型器台	脚部 1/3	器高(6.0) 底径(10.8)	良好	灰褐色	密	外面: 縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面: 脚部横ヘラケズリ、脚部下半ハケメ 脚部三方円形透し	
332	埋砂上層	土師器 塊	1/3	口径:12.0 器高: 5.1 底径: 5.5	良	橙褐色	密 砂粒	外面: 口縁部横ナデ、体部以下横ヘラケズリ 内面: 磨耗調整不明	
333	埋砂中層	土製品 支脚	脚部破片	器高(3.8) 底径(12.5)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面: 脚部指頭調整、底部ヘラケズリ 内面: 横ヘラケズリ	
334	埋砂上層	土師器 甌	狭口部破 片	狭口径(23.4) 器高(17.5)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面: 狭口部ナデ、体部ハケメ→ナデ、突帯部指頭調整→ ナデ 内面: 狭口部ナデ、体部指頭調整・縦ヘラケズリ	内面煤附着
335	埋砂中層	土師器 甌	1/3	狭口径(13.6) 器高(32.6)	良好	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 狭口部ナデ、体部縦ハケメ、把手部: 指頭調整→ナ デ 内面: 狭口部ナデ、体部横・縦ヘラケズリ	黒斑 内外面狭口部煤付 着
336	埋砂下層	土師器 移動式甌	左袖部	器高(26.5)	良	灰褐色	密 白色粒・砂粒	外面: 体部縦・横ハケメ、一部指頭調整 内面: 体部ヘラケズリ、一部指頭調整	内面煤附着
337	埋砂上層	土師器 鉢?	把手部	幅: 3.4~1.8	良	橙褐色	密 石英	外側面縦ヘラミガキ、上面・内側面ナデ	全面赤彩 中央穿孔(孔径6mm)
338	埋砂中層	手捏ね 土器	脚部	器高(3.8) 底径(3.6)	良	橙褐色	密 雲母・白色粒	内外面: 指頭調整	
339	埋砂下層	土錘	完形	長さ: 5.2 幅: 3.6 厚さ: 3.6	良	灰褐色	密 白色粒		重量: 67.1g
340	埋砂上層	土錘	完形	長さ: 5.3 幅: 3.4 厚さ: 3.4	良	褐色	密 雲母・白色粒		外面二次焼成 重量: 66.1g
341	埋砂中層	土錘	ほぼ完形	長さ(3.1) 幅: 3.9 厚さ: 3.4	やや良	灰茶色	密 雲母・白色粒		重量: 33.9g
342	埋砂上層	土錘	完形	長さ: 3.2 幅: 3.9 厚さ: 4.0	やや良	灰褐色	密 角閃石・雲 母・白色粒		重量: 50.5g

第61表 1区SD02出土金属製品観察表(第116図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種 類	部 位 残存率	材 質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備 考
343	埋砂上層	刀子	ほぼ完形	鉄	全長(152) 刃部(96) 茎部(56)	刃部:12 茎部: 7	刃部:2 茎部:2	6	錆化(△)	5	11.6	
344	埋砂中	鉄鎌	ほぼ完形	鉄	全長(89) 刃部(14) 頭部: 68 茎部(7)	刃部:11 頭部: 6 茎部: 5	刃部:2 頭部:3 茎部:2	4	錆化(△)	4	6.0	
345	埋砂中層	刀子	刃部	鉄	(25)	(12)	1	4	錆化(△)	2	1.7	
346	埋砂中層	棒状不明品	—	鉄	(75)	4	4	3	錆化(△)	3	8.1	
347	埋砂中層	小刀?	茎部	鉄	(50)	(15)	(7)	6	錆化(△)	2	12.6	
348	埋砂中層	棒状不明品	—	鉄	(37)	6	5	4	錆化(△)	2	4.0	

第62表 1区SD02出土石器観察表(第116図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
349	埋砂中層	磨製石斧	破片	(30)	(38)	(12)	18.1	閃緑岩	刃部角77度
350	埋砂中層	磨製石斧	1/2	(94)	(75)	(44)	401.7	安山岩	一部煤附着
351	埋砂中層	砥石	ほぼ完形	81	80	37	312.7	砂岩	荒砥
352	埋砂下層	砥石	ほぼ完形	(63)	32	28	65.6	凝灰岩	
353	埋砂上層	砥石	破片	(32)	66	18	36.4	砂岩	
354	埋砂中層	砥石	ほぼ完形	40	36	25	5.8	軽石	
355	埋砂最下層	砥石	ほぼ完形	86	51	35	29.1	軽石	
356	埋砂上層	砥石	ほぼ完形	71	55	50	36.7	軽石	
357	埋砂下層	砥石	ほぼ完形	121	65	79	244.1	軽石	
358	埋砂中層	砥石	ほぼ完形	137	72	72	280.2	軽石	
359	埋砂最上層	石錘	完形	143	146	25	754.4	安山岩	上打欠幅32mm・下打欠幅22mm
360	埋砂中層	石錘	完形	103	72	26	276.4	デイサイト	上打欠幅12mm・下打欠幅41mm

361	埋砂中層	石錘	完形	142	96	46	788.5	デイサイト	左打欠幅52mm・右打欠幅38mm
362	埋砂中層	磨石・凹石	完形	94	90	39	428.8	デイサイト	
363	埋砂中層	石錘	完形	148	62	56	563.8	デイサイト	
364	埋砂上層	台石	ほぼ完形	(181)	(135)	82	3100.0	花崗岩	

第63表 4区SD04出土土器観察表 (第118図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂下層	土師器 甕	口縁~体 部1/2	口径(18.0) 器高(21.0) 胴径(22.8)	良	褐色	密 石英・小石粒 多量	外面：口頸部横ナデ、体部粗い横・縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部縦・横ヘラケズリ	黒斑
2	埋砂下層	土師器 甕	口縁~体 部1/2	口径(18.8) 器高(10.6)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナデ、肩部以下ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面一部煤付着
3	埋砂上層	土師器 坏	4/5	口径(13.1) 器高(4.9)	やや良	褐色	密 石英・小石 粒・砂粒	外面：指頭調整→横ヘラミガキ 内面：横ヘラミガキ	全面赤彩
4	埋砂下層	須恵器 短頸壺	口縁部	口径(10.8) 器高(2.0)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	内外面：回転ナデ	口縁端部・外面肩 部自然降灰
5	埋砂下層	須恵器 蓋	2/3	口径(13.8) 器高(4.6)	良好	黄灰白色	密 白色粒・砂粒	外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	
6	埋砂下層	須恵器 坏	2/3	口径：10.5 器高： 5.2	良好	灰色	密	外面：口縁部~体部回転ナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	

第64表 4区SD05出土土器観察表 (第120図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	土師器 甕	破片	口径(29.4) 器高(2.7)	良	黄灰白色	密 石英・砂粒	内外面：横ナデ	外面煤付着
2	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(17.4) 器高(3.2)	良	褐色	密 砂粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
3	埋砂下層	須恵器 坏	破片	口径(11.8) 器高(2.5)	良好	灰色	密 白色粒	内外面：回転ナデ	

第65表 4区SD05出土石器観察表 (第120図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
4	埋砂最下層	打製石斧	完形	168	93	21	418.6	硬質安山岩	

第66表 4区SD07出土土器観察表 (第122図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(17.4) 器高(4.0)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部縦ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	

第67表 1区SB01出土土器観察表 (第130図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit95	土師器 甕	破片	口径(25.0) 器高(3.1)	良	灰褐色	密 砂粒	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部横ヘラケズリ	
2	Pit62	須恵器 蓋	破片	口径(17.4) 器高(1.7)	良好	暗赤灰色	密	内外面：回転ナデ	
3	Pit62	須恵器 坏	破片	口径(19.8) 器高(3.3)	良好	暗赤灰色	密	内外面：回転ナデ	
4	Pit82	須恵器 坏	破片	器高(1.4) 底径(6.6)	良好	青灰色	密	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：回転ナデ	
5	Pit62	土錘	1/4	長さ(4.3) 幅(4.0)	良	黄灰白色	密		重量：26.5g

第68表 1区SB02出土土器観察表 (第132図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit24	須恵器 皿	破片	口径(15.6) 器高(2.3)	良	灰色	密	内外面：回転ナデ	

第69表 1区SB04出土土器観察表 (第135図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit292	土師器 皿	破片	器高(1.9) 底径(11.6)	良	褐色	密	外面：ナデ、貼付高台 内面：ナデ	全面赤彩

第70表 1区SB08出土土器観察表 (第140図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit164	土師器 甕	破片	口径(242) 器高(3.7)	良	褐色	密 砂粒	外面：口頸部ナデ→ハケメ 内面：口頸部ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
2	Pit164	土師器 坏	1/2	口径(140) 器高：47 底径(7.0)	良	灰褐色	密	外面：横ヘラミガキ 内面：黒色処理→横ヘラミガキ	黒色土器

第71表 2区SB01出土土器観察表 (第145図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit35	土師器 坏	破片	口径(108) 器高：24 底径(7.6)	良	橙褐色	密 砂粒	外面：口縁部～体部横ナデ、体部下半～底部ヘラケズリ 内面：横ナデ	内外面薄い赤彩

第72表 2区SB11出土土器観察表 (第156図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit136	須恵器 坏	1/8	口径(112) 器高：23 底径(8.2)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	内面口縁部～体部 自然降灰

第73表 2区SB16出土土器観察表 (第162図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit149	須恵器 蓋	破片	器高(2.5)	良好	青灰色	密	外面：口縁部ナデ、天井部横ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	

第74表 3区SB01出土土器観察表 (第168図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit5	須恵器 坏	底部	器高(1.0) 底径(12.0)	やや良	灰色	密	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	外面底部ヘラ描き
2	Pit5	須恵器 蓋	ほぼ 完形	口径(138) 器高(2.0)	良	青灰色	密 石英・白色 粒・黒色粒・ 砂粒	内外面：回転ナデ	外面口縁部自然降 灰
3	Pit5	須恵器 皿	破片	口径(126) 器高(2.4) 底径(9.2)	やや良	灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	

第75表 3区SB03出土土器観察表 (第171図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit250	製塩土器	破片	口径(112) 器高：2.7	やや良	褐色	やや粗	内外面：指頭調整	

第76表 3区SB04出土土器観察表 (第173図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit397	須恵器 坏	破片	器高(2.4) 底径(7.0)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	
2	Pit810	須恵器 坏	底部	器高(2.5) 底径(9.8)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り・貼付高台 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	
3	Pit810	土師器 坏	破片	器高(2.9)	良	褐色	密 雲母・白色粒	外面：横ヘラケズリ 内面：黒色処理→横ヘラミガキ	黒色土器

第77表 3区SB04出土金属製品観察表 (第173図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
4	Pit810	刀子	茎部	鉄	38	11	2	5	錆化(△)	2	2.9	目釘穴1個

第78表 3区SB05出土土器観察表 (第175図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit399	須恵器 坏	破片	口径(112) 器高(2.5)	良好	青灰色	密 砂粒	内外面：回転ナデ	

第79表 3区SB07出土土器観察表 (第178図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit884	土師器 皿	破片	口径(13.9) 器高: 1.3 底径(10.2)	良	橙褐色	密	外面: 口縁部~体部横ナデ、体部下半~底部ヘラケズリ 内面: ナデ	赤彩
2	Pit880	須恵器 蓋	破片	口径(19.7) 器高(1.6)	良	暗赤灰色	密	外面: 回転ナデ 内面: 縁部回転ナデ、口縁部回転ヘラケズリ	

第80表 3区SB08出土土器・土製品観察表 (第180図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit534	土師器 皿	破片	口径(14.8) 器高: 2.2 底径(11.8)	良	橙褐色	密 石英・砂粒	外面: 口縁部~体部横ヘラミガキ、底部ヘラケズリ 内面: 横ヘラミガキ	赤彩

第81表 5区SB02出土土器観察表 (第193図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit4	須恵器 坏	1/2	口径(10.5) 器高: 2.8 底径(7.0)	良	灰色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 回転ナデ	

第82表 3区SI01出土土器観察表 (第201図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(31.0) 器高(6.1)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 口縁部横ナデ、頸部以下縦ハケメ 内面: 口縁部横ナデ、頸部以下縦ヘラケズリ	
2	埋砂最上層	土師器 甕	破片	口径(23.0) 器高(5.8)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 口縁部横ナデ、頸部以下縦ハケメ 内面: 口縁部横ナデ、頸部以下縦ヘラケズリ	
3	埋砂最上層	土師器 坏	ほぼ 完形	口径:12.6 器高: 3.2 底径: 7.2	良	橙褐色	密 砂粒	外面: 口縁部~体部横ナデ、体部下半~底部ヘラケズリ 内面: 口縁部~体部横ナデ、底部ナデ	外面底部以外 赤彩
4	埋砂上層	土師器 坏	完形	口径:13.4 器高: 3.0 底径: 9.0	良	橙褐色	密 砂粒	外面: 口縁部~体部横ナデ、体部下半~底部ヘラケズリ 内面: 口縁部~体部横ナデ、底部ナデ	全面赤彩
5	埋砂中層	土師器 皿	破片	口径(15.4) 器高: 1.8 底径(13.0)	良	橙褐色	密 砂粒	外面: 口縁部~体部横ナデ、体部下半~底部ヘラケズリ 内面: 口縁部~体部横ナデ、底部ナデ	赤彩
6	埋砂最上層	須恵器 坏	1/4	口径(12.6) 器高: 4.0 底径(7.4)	良好	青灰色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、体部下半ヘラケズリ、底部 回転糸切り 内面: 口縁部~底部回転ナデ	内面煤付着
7	埋砂上層	須恵器 坏	1/3	口径(11.4) 器高: 4.0 底径(8.4)	良好	青灰色	密 砂粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 回転ナデ	
8	埋砂中層	須恵器 坏	1/2	口径(10.6) 器高: 4.0 底径(6.2)	良好	青灰色	密 砂粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、体部下半横ナデ・ヘラケズリ、 底部回転糸切り 内面: 回転ナデ	
9	埋砂最上層	須恵器 皿	1/3	口径(14.8) 器高: 2.3 底径(11.2)	良好	青灰色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、体部下半ナデ、底部回転糸 切り 内面: 回転ナデ	
10	埋砂上層	須恵器 坏	1/2	口径(12.9) 器高: 4.1 底径(8.6)	良好	灰色	密	外面: 回転ナデ、貼付高台 内面: 回転ナデ	焼きムラあり
11	埋砂最上層	須恵器 水滴	口頸部	口径: 5.9	良好	暗赤灰色	密 石英・砂粒	内外面: 回転ナデ	

第83表 3区SI02出土土器観察表 (第203図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(28.2) 器高(5.1)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面: 横ナデ 内面: 口縁部横ナデ、頸部以下縦ヘラケズリ	外面肩部煤付着
2	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(28.4) 器高(6.5)	良	橙褐色~褐 色	密 砂粒	外面: 横ナデ 内面: 口縁部横ナデ、頸部以下縦ヘラケズリ	内面頸部煤付着
3	埋砂中層	土師器 坏	破片	口径(15.6) 器高(3.0)	良	橙褐色	密 砂粒	内外面: 横ナデ	赤彩
4	埋砂上層	須恵器 坏	完形	口径:11.1 器高: 3.8 底径: 8.7	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
5	埋砂最上層	須恵器 皿	底部	器高(1.9) 底径(13.6)	良	橙褐色	密 白色粒	外面: 体部回転ナデ、底部回転糸切り・貼付高台 内面: ナデ	
6	埋砂最上層	須恵器 坏	破片	口径(17.6) 器高(2.7)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、体部下半ヘラケズリ 内面: 回転ナデ	
7	埋砂上層	手握ね 土器	破片	口径(4.5) 器高(2.0)	良	灰褐色	密	内外面: 指頭調整→ナデ	

第84表 4区SI06出土土器・土製品観察表 (第205図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	床面直上	土師器 甕	破片	口径(18.9) 器高(2.8)	良	灰茶色	密	内外面:横ナデ	内面煤付着
2	床面直上	土師器 甕	破片	口径(26.6) 器高(3.2)	良	橙褐色	密 雲母・白色 粒・砂粒	外面:横ナデ 内面:口縁部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内面頸部以下煤付 着
3	床面直上	須恵器 坏	1/2	口径(12.0) 器高:3.7 底径(6.8)	良	青灰色	密	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面:ナデ	
4	埋砂中	須恵器 皿	破片	口径(17.4) 器高(2.2)	良	青灰色	密	内外面:回転ナデ	
5	埋砂中層	土錘	ほぼ 完形	長さ(3.6) 幅:1.1 厚さ:1.1	良	灰褐色	密 雲母		3.6g

第85表 5区竈出土土器観察表 (第207図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	燃焼部	土製品 支脚	脚部	器高(4.5) 底径(11.2)	良	褐色	密 雲母・砂粒	内外面:縦・横ヘラケズリ	

第86表 5区竈出土石器観察表 (第207図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	備考
2	燃焼部	砥石	ほぼ完形	149	90	71	960.9	凝灰岩	

第87表 2区SK09出土土器・土製品観察表 (第209図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂上層	土師器 甕	口縁~肩 部	口径(31.4) 器高(8.0)	やや良	橙褐色	密 石英・白色粒	外面:横ナデ 内面:口縁部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面炭化物付着
2	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(32.2) 器高(4.2)	良	橙褐色	密 雲母・白色粒	外面:横ナデ 内面:口縁部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内面一部煤付着
3	埋砂上層	土師器 甕	口縁~肩 部	口径(31.8) 器高(6.1)	良	橙褐色	密 雲母・白色粒	外面:口縁部横ナデ、頸部以下縦ハケメ 内面:口縁部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内面一部煤付着
4	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(20.4) 器高(6.0)	やや良	橙褐色	密 雲母・白色粒	外面:口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ヘラケズリ 内面:口縁部横ナデ、口縁部指頭調整、頸部以下横ヘラケズリ	黒斑 外面一部煤付着
5	埋砂上層	土師器 坏	破片	口径(10.3) 器高(2.9)	良好	灰茶色	密 白色粒	内外面:回転ナデ	内外面赤彩
6	埋砂上層	土師器 坏	1/8	口径(13.6) 器高(3.4)	良好	橙褐色	密 白色粒	内外面:回転ナデ	内外面赤彩
7	埋砂上層	土師器 皿	破片	口径(18.6) 器高(2.1)	良好	橙褐色	密	外面:口縁部~体部横ヘラミガキ、体部下半横ヘラケズリ 内面:横ヘラミガキ	内外面赤彩
8	埋砂中	土師器 皿	破片	口径(13.3) 器高(1.7)	良好	灰褐色	密 石英・白色粒	内外面:横ナデ	内外面口縁部赤彩
9	埋砂中	土製品 三叉支脚	脚部	器高(10.8) 幅(8.2)	良	褐色	密 雲母・白色粒	外面:縦・横ヘラケズリ	一部煤付着 廃棄後被熱
10	埋砂最上層	須恵器 甕	口縁~肩 部	口径(18.8) 器高(11.6) 胴径(28.0)	良好	青灰色	密	外面:口縁部回転ナデ、肩部以下平行叩き目 内面:口頸部回転ナデ、肩部以下当具による青海波文	肩部焼成時破片付 着 外面~内面口縁部 自然降灰
11	埋砂下層	須恵器 壺	破片	口径(10.9) 器高(2.5)	良好	青灰色	密 白色粒	外面:回転ナデ 内面:ナデ	外面口縁部~内 面自然降灰
12	埋砂下層	須恵器 壺	底部	器高(4.4) 底径(6.3)	やや良	灰色	密 白色粒	外面:体部横ナデ、体部下半~底部ヘラケズリ 内面:ナデ	焼成時火膨れ
13	埋砂中	須恵器 蓋転用硯	破片	口径(16.5) 器高(2.5)	良	灰色	密	外面:口縁部回転ナデ、天井部横ヘラケズリ 内面:口縁部回転ナデ、天井部磨耗	内面天井部墨付着
14	埋砂上層	須恵器 坏	1/4	口径(13.2) 器高:3.6 底径(9.5)	良好	赤褐色	密 白色粒	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
15	埋砂中	須恵器 坏	4/5	口径:11.7 器高:4.0 底径:7.6	良好	青灰色	密 白色粒	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
16	埋砂下層	須恵器 皿	1/4	口径(15.0) 器高:2.6 底径(11.1)	良好	青灰色	密 白色粒	外面:口縁部~体部回転ナデ、体部下半横ヘラケズリ、底 部回転糸切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
17	埋砂中	須恵器 坏	1/5	口径(10.6) 器高:3.1 底径(8.8)	良好	青灰色	密 雲母・白色粒	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面:回転ナデ	
18	埋砂中	須恵器 坏	1/4	口径(12.8) 器高:3.6 底径(8.0)	良好	灰色	密 白色粒・砂粒	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
19	埋砂上層	須恵器 坏	底部 1/3	器高(2.1) 底径(7.8)	不良	灰色	密 砂粒	外面:体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面:体部回転ナデ、底部ナデ	
20	埋砂中	須恵器 皿	1/4	口径(17.2) 器高:4.0 底径(11.2)	良	灰色	密 白色粒	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
21	埋砂上層	須恵器 坏	1/4	器高(3.5) 底径(6.6)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒・砂粒	外面:体部回転ナデ、底部ヘラ切り、貼付高台 内面:体部回転ナデ、底部ナデ	
22	埋砂中層	須恵器 坏	1/4	器高(3.7) 底径(9.5)	良好	赤褐色	密 白色粒	外面:体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面:体部回転ナデ、底部ナデ	

23	埋砂上層	土師器 坏	破片	器高(2.3) 底径(7.8)	良	橙褐色	密 白色粒	外面:体部横ナデ、底部ヘラケズリ 内面:ナデ	内外面赤彩 内面赤彩後線刻
24	埋砂中	須恵器 坏	1/3	口径(12.4) 器高:4.1 底径(8.9)	良	青灰色	密 白色粒	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	外面底部墨書
25	埋砂中	土錘	完形	長さ:6.4 幅:2.0 厚さ:2.2	良	褐色	密		重量:22.6g

第88表 2区SK09出土石器観察表(第209図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	備考
26	埋砂上層	有溝石錘	1/4	(51)	(42)	(42)	80.5	砂岩	

第89表 5区SI19出土土器観察表(第211図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	土師器 直口壺	1/2	口径:11.6 器高:17.9 胴径:17.1	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部横ナデ、頸部以下縦ハケメ、肩部備状工具による直線文→波状文 内面:口縁部指頭調整→横ナデ、体部横・縦ヘラケズリ、体部中位・底部指頭調整→ヘラケズリ	外面煤附着
2	埋砂中	土師器 坏	2/3	口径(12.6) 器高:3.8 底径(9.3)	良	褐色	密 雲母・石英	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部ヘラケズリ→指頭押圧 内面:指頭押圧→回転ナデ	内外面薄い茶系赤彩
3	埋砂中	須恵器 壺	破片	口径(21.8) 器高(6.0)	良	青灰色	密	外面:口頸部回転ナデ、肩部平行叩き目 内面:口頸部回転ナデ、肩部当具による青海波文	
4	埋砂中	須恵器 蓋	1/2	口径(22.8) 器高(3.5)	良	青灰色~灰 色	密 石英・白色粒	外面:回転ナデ 内面:口縁部回転ナデ、天井部ナデ	
5	埋砂中	須恵器 蓋	1/4	口径(18.6) 器高(2.3)	良	青灰色	密	内外面:回転ナデ	外面自然降灰
6	埋砂最下層	須恵器 坏	1/2	口径:12.4 器高:4.4 底径:8.7	良	青灰色~灰 褐色	密	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
7	埋砂中	須恵器 坏	1/4	口径(11.6) 器高:3.6 底径(8.7)	良	青灰色~赤 褐色	密	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	

第90表 5区SI19出土金属製品観察表(第211図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量(g)	備考
8	埋砂下層	刀子	—	鉄	刃部(35) 茎部(25)	刃部(15) 茎部:5	刃部:2 茎部:1	5	錆化(△)	3	9.3	
9	埋砂下層	扁平棒状不明品	—	鉄	(55)	7	4	3	錆化(△)	3	6.3	
10	埋砂下層	釘	ほぼ完形	鉄	(82)	7	7	2	錆化(△)	5	35.5	
11	埋砂下層	釘	ほぼ完形	鉄	(61)	6	8	3	錆化(△)	5	13.0	皆折れ釘 木質附着
12	埋砂最下層	棒状不明品	—	鉄	(57)	5	5	3	H(O)	3	13.9	
13	埋砂下層	釘	2/3	鉄	(43)	5	5	2	錆化(△)	4	5.9	木質附着

第91表 鍛冶関連遺物廃棄土坑出土土器観察表(第213図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂下層	須恵器 壺?	破片	口径(16.8) 器高(1.5)	良好	青灰色	密 長石・石英	外面:回転ナデ 内面:口縁端部回転ナデ、口縁部ヘラケズリ→ナデ	
2	埋砂上層	須恵器 蓋	破片	口径(17.8) 器高(1.5)	良好	青灰色	密 雲母・石英	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	
3	埋砂下層	須恵器 坏	底部	器高(1.8) 底径(9.1)	良	青灰色	密 黒色粒	外面:体部ヘラケズリ、底部糸切り 内面:体部回転ナデ、底部ナデ	
4	埋砂下層	須恵器 坏	底部	器高(1.9) 底径(7.4)	良	青灰色	密 黒色粒	外面:体部ヘラケズリ、底部糸切り 内面:体部回転ナデ、底部ナデ	

第92表 3区土壌墓出土土器観察表(第215図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	須恵器 短頸壺	口縁~底 部	口径(10.0) 器高(20.0) 胴径(24.8) 底径(13.0)	良好	青灰色	密 石英・砂粒	外面:叩き→回転ナデ、貼付高台 内面:回転ナデ	
2	埋砂中	土師器 坏	底部	器高(1.5) 底径(6.6)	良	橙褐色	密	外面:貼付高台	赤彩

第93表 3区土壌墓出土石製品観察表(第215図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	備考
3	底面直上	数珠球(辻玉)	1/2	19	16	(17)	5.7	水晶	孔径1.5mm

第94表 3区土壌墓出土金属製品観察表 (第215図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
4	底面	大刀子	ほぼ 完形	鉄	全長(204) 刃部:125 基部(79)	刃部:19 基部:11	刃部:3 基部:3	8	錆化(△)	5	60.6	目釘穴1個

第95表 3区SK04出土土器観察表 (第217図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	土師器 甕	破片	口径(21.9) 器高(3.3)	良	黒茶色	密 雲母・砂粒	外面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整、肩部ナデ 内面:口縁部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	口縁部外面一部 煤附着
2	埋砂中	土師器 小壺	破片	器高(2.3)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面:ナデ→ヘラ状工具による列点文2条 内面:ヘラケズリ	

第96表 3区SK08出土土製品観察表 (第222図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	土錘	完形	長さ:5.3 幅:1.9 厚さ:1.7	良	黒茶色	密 白色粒		重量:15.5g

第97表 4区SK08出土土器観察表 (第231図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	土師器 皿	破片	口径(14.4) 器高(2.2)	良	橙褐色	密	内外面:横ナデ	内外面薄い赤彩

第98表 4区SK09出土土器観察表 (第233図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	須恵器 坏	破片	口径(12.5) 器高(2.6)	良好	青灰色	密	内外面:回転ナデ	

第99表 5区SK05出土土器観察表 (第235図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	土師器 甕	破片	口径(24.3) 器高(2.5)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	内外面:横ナデ	内外面炭化物附着
2	埋砂最下層	土師器 皿	破片	口径(14.6) 器高(1.8)	良	灰褐色	密	内外面:回転ナデ	内外面茶系赤彩
3	埋砂中	須恵器 壺	体部 1/4	器高(4.4) 胴径(10.8)	良好	灰色	密	外面:肩部回転ナデ、体部カキ目 内面:頸部ヘラケズリ、体部回転ナデ	

第100表 5区SK06出土土器観察表 (第237図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	須恵器 坏	1/3	口径(11.2) 器高:4.1 底径(8.2)	良好	青灰色	密	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面:回転ナデ	

第101表 5区SK07出土土器観察表 (第239図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂下層	土師器 甕	破片	口径(26.1) 器高(6.1)	良	褐色	密 角閃石・雲母	外面:横ナデ 内面:口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内面口縁部~外面 炭化物附着
2	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(14.6) 器高(5.9)	やや良	黄灰白色	密 石英・砂粒	外面:口縁部横ナデ、頸部以下縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面口縁部煤附着
3	埋砂上層	須恵器 蓋	1/4	口径(12.2) 器高(2.0)	良好	青灰色	密 白色粒	外面:回転ナデ 内面:口縁部回転ナデ、天井部ナデ	

第102表 5区SK08出土土器観察表 (第241図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	須恵器 坏	底部破片	器高(2.2) 底径(8.5)	良	暗灰白色	密	外面:体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面:体部回転ナデ、底部ナデ	

第103表 5区SK09出土土器観察表 (第243図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中層	土師器 甕	口頸部 1/3	口径(29.7) 器高(8.3)	良	灰褐色	密	外面:横ナデ 内面:口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内外面肩部炭化物 附着

2	埋砂中層	須恵器 坏	1/4	口径(11.1) 器高: 3.6 底径(8.1)	良好	青灰色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
---	------	----------	-----	---------------------------------	----	-----	---	---	--

第104表 5区SK09出土金属製品観察表 (第243図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	部 位 残存率	材 質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備 考
3	埋砂中層	釘	ほぼ完形	鉄	124	3	4	5	錆化 (△)	5	16.1	折れ釘
4	埋砂中	釘	1/2	鉄	(52)	5	5	3	錆化 (△)	3	12.2	皆折れ釘

第105表 5区SK11出土土器観察表 (第245図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整・文 様	備 考
1	埋砂上層	土師器 甌	把手部	器高(12.8)	良	灰褐色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	把手部: ナデ 外面: ヘラケズリ・ハケメ・ナデ 内面: 指頭調整・ヘラケズリ・ハケメ	

第106表 5区SK12出土土器観察表 (第247図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整・文 様	備 考
1	埋砂中	手捏ね 土器	破片	口径(13.9) 器高(3.8)	良	橙褐色	密	外面: 指頭調整→ヘラケズリ 内面: 横ヘラケズリ→ナデ	

第107表 5区SK15出土土器観察表 (第249図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整・文 様	備 考
1	埋砂中	土師器 甕	底部破片	器高(2.1) 底径(5.6)	良	橙褐色	密 石英・雲母・ 白色粒	外面: ハケメ 内面: 横ヘラケズリ	

第107表 5区SK15出土土器観察表 (第249図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整・文 様	備 考
1	埋砂中	土師器 甕	底部破片	器高(2.1) 底径(5.6)	良	橙褐色	密 石英・雲母・ 白色粒	外面: ハケメ 内面: 横ヘラケズリ	黒斑

第108表 2区SD05出土土器観察表 (第258図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整・文 様	備 考
1	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(21.6) 器高(2.0)	良	橙褐色	密 角閃石・白色 粒	外面: 横ナデ 内面: 口縁部横ナデ、口縁部横ハケメ	外面一部煤付着
2	埋砂上層	土師器 坏	破片	口径(11.8) 器高(2.8)	良	灰茶色	密 石英	外面: 回転ナデ 内面: ナデ	
3	埋砂上層	土師器 坏	破片	口径(11.6) 器高(1.9)	良好	橙褐色	密	内外面: 横ナデ	
4	埋砂上層	土師器 皿	破片	口径(18.0) 器高(2.4)	良	橙褐色	密	内外面: 横ナデ	内外面赤彩
5	埋砂上層	須恵器 壺	破片	口径(32.8) 器高(13.0)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部ナデ→ヘラ状工具による波状文2条、肩部平 行叩き目 内面: 口縁部ナデ、肩部当具による青海波文	外面肩部自然降灰
6	埋砂中層	須恵器 坏	破片	口径(13.6) 器高: 3.9 底径(11.6)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
7	埋砂中層	須恵器 坏	破片	口径(9.6) 器高: 3.1 底径(6.2)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
8	埋砂中層	須恵器 坏	破片	口径(12.8) 器高: 3.6 底径(8.3)	良好	暗赤灰色	密 白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
9	埋砂中層	須恵器 坏	破片	口径(12.4) 器高(3.1)	良好	暗赤灰色	密 白色粒	内外面: 回転ナデ	
10	埋砂中層	須恵器 坏	破片	口径(11.0) 器高(2.4)	良好	暗赤灰色	密 白色粒	内外面: 回転ナデ	
11	埋砂上層	須恵器 坏	破片	口径(15.6) 器高(1.5)	良好	青灰色	密 白色粒	内外面: 回転ナデ	
12	埋砂中層	須恵器 坏	破片	口径(18.0) 器高(2.3)	良好	赤褐色	密	内外面: 回転ナデ	
13	埋砂中層	須恵器 坏	破片	口径(13.2) 器高(2.4)	良好	青灰色	密 白色粒	内外面: 回転ナデ	
14	埋砂中層	須恵器 坏	破片	口径(15.9) 器高(1.9)	良好	青灰色	密 白色粒	内外面: 回転ナデ	
15	埋砂上層	須恵器 坏	破片	器高(2.4) 底径(6.2)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 回転ナデ	
16	埋砂下層	須恵器 皿	破片	口径(13.6) 器高: 2.2 底径(11.6)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
17	埋砂上層	須恵器 坏	破片	器高(2.8) 底径(8.7)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 体部回転ナデ、底部ナデ	

18	埋砂上層	須恵器 坏	破片	器高(1.9) 底径(11.0)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：回転ナデ	
19	埋砂最上層	須恵器 坏	破片	器高(2.4) 底径(8.0)	良好	暗赤灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	
20	埋砂上層	須恵器 坏	破片	器高(1.4) 底径(6.2)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り、貼付高台 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	
21	埋砂下層	須恵器 坏	破片	器高(2.5) 底径(9.2)	良好	青灰色	密	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り、貼付高台 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	
22	埋砂最下層	須恵器 坏	破片	器高(3.0) 底径(10.0)	良	青灰色	密	外面：体部回転ナデ、貼付高台 内面：ナデ	

第109表 2区SD05出土石器観察表 (第258図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
23	埋砂中層	ハンマーストーン	完形	117	58	40	334.3	デイスait	

第110表 2区SD06出土土器観察表 (第260図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整 ・ 文 様	備 考
1	埋砂最下層	土師器 坏	底部	器高(1.9) 底径(6.0)	良	黄灰白色	密	外面：体部ナデ、底部回転系切り 内面：ナデ	
2	埋砂最上層	土師器 坏	底部	器高(2.0) 底径(8.0)	良	褐色	密	外面：体部ナデ、底部回転系切り 内面：ナデ	
3	埋砂中層	土師器 坏	底部	器高(0.9) 底径(7.1)	良好	黒茶色	密	外面：体部ナデ、底部回転系切り 内面：ナデ	
4	埋砂最上層	土師器 坏	底部	器高(0.8) 底径(4.8)	良	灰褐色	密 砂粒	外面：体部ナデ、底部回転系切り 内面：ナデ	
5	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(31.0) 器高(2.1)	良	橙褐色	密	内外面：横ナデ	
6	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(26.0) 器高(2.5)	良	黒茶色	密	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	一部煤附着
7	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(19.6) 器高(2.9)	良	褐色	密 石英・砂粒	内外面：横ナデ	内面煤附着
8	埋砂上層	須恵器 壺	底部	器高(2.7)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：体部ナデ、底部回転系切り→ナデ、貼付高台 内面：当具による青海波文	内面自然降灰
9	埋砂下層	須恵器 坏	底部	器高(1.0) 底径(9.6)	良好	青灰色	密	外面：体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧 内面：回転ナデ	
10	埋砂最上層	須恵器 坏	破片	口径(12.8) 器高(2.3)	良好	暗赤灰色	密 白色粒	内外面：回転ナデ	
11	埋砂下層	須恵器 坏	破片	口径(17.8) 器高(4.0)	良	青灰色	密 白色粒	内外面：回転ナデ	
12	埋砂最下層	須恵器 坏	破片	口径(13.0) 器高(2.0)	良好	灰色	密 砂粒	内外面：回転ナデ	
13	埋砂上層	須恵器 坏	破片	口径(12.8) 器高(2.5)	良	灰色	密	内外面：回転ナデ	
14	埋砂下層	須恵器 坏	破片	器高(3.3) 底径(13.2)	良	青灰色	密	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り、貼付高台 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	
15	埋砂下層	土師器 甕	把手部	器高(8.7)	良	橙褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面：ヘラケズリ・ハケメ 内面：ヘラケズリ	
16	埋砂下層	須恵器 転用土器	完形	長さ：3.4 幅：3.3 厚さ：1.1	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量：150g

第111表 2区SD07出土土器観察表 (第262図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整 ・ 文 様	備 考
1	埋砂中層	須恵器 皿	破片	口径(12.8) 器高：2.3 底径(9.0)	良	暗赤灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：回転ナデ	

第112表 2区SD08出土土器観察表 (第264図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整 ・ 文 様	備 考
1	埋砂上層	土師器 坏	破片	口径(11.0) 器高(2.3)	良	橙褐色	密	内外面：横ナデ	内外面薄い赤彩
2	埋砂下層	製塩土器	破片	口径(9.0) 器高(2.1)	やや良	褐色	やや粗 石英・砂粒	外面：指頭調整→ナデ 内面：ヘラケズリ→ナデ	

第113表 2区SD11出土土器観察表 (第267図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整 ・ 文 様	備 考
1	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(27.6) 器高(3.3)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
2	埋砂下層	手捏ね 土器	破片	口径(5.2) 器高：1.8 胴径(6.0) 底径(3.8)	良	灰褐色	密 白色粒	外面：指頭調整→ナデ 内面：指頭調整→横ヘラミガキ	
3	埋砂最上層	土錘	完形	長さ：7.1 幅：2.2 厚さ：2.0	良	褐色	密		重量：25.7g

4	埋砂上層	土錘	1/2	長さ(3.7) 幅 : 2.0 厚さ(1.6)	良	黄灰白色	密		重量 : 9.5g
5	埋砂最上層	須恵器 土錘	破片	長さ(2.4) 幅 (1.7) 厚さ(0.8)	良好	灰色	密		重量 : 3.0g
6	埋砂中層	土錘	1/2	長さ(2.1) 幅 (0.8) 厚さ(1.0)	良	灰褐色	密		重量 : 1.6g
7	埋砂最上層	須恵器 双耳壺	把手部	器高(6.5) 胴径(21.8)	良好	灰色	密 角閃石・白色 粒	外面 : 体部回転ナデ、把手部ヘラケズリ 内面 : 回転ナデ	把手部穿孔
8	埋砂最上層	須恵器 坏	1/5	口径(16.2) 器高 : 5.4 底径(10.6)	良好	青灰色	密	外面 : 回転ナデ、貼付高台 内面 : 回転ナデ	
9	埋砂中層	須恵器 坏	破片	器高(2.2) 底径(10.0)	良	青灰色	密	外面 : 体部回転ナデ、底部回転糸切り→ナデ、貼付高台 内面 : 体部回転ナデ、底面ナデ	
10	埋砂下層	土師器 灯明皿	底部	器高(2.8) 底径(8.0)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面 : ナデ、貼付高台 内面 : ナデ	土師器坏転用 高台部内外面ター ル付着
11	埋砂下層	土師器 坏	底部	器高(2.6) 底径(7.4)	良好	橙褐色	密	外面 : 体部ナデ→ヘラミガキ、底部ヘラ切り→指頭押圧→ ナデ、貼付高台 内面 : 体部ナデ→ヘラミガキ、底部指頭押圧→ナデ	

第114表 2区SD11出土石器観察表 (第267図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
12	埋砂中層	砥石	完形	53	41	27	15.7	軽石	
13	埋砂中層	石錘	2/3	(88)	(69)	36	232.6	安山岩	左打欠幅40mm・右打欠幅(12)mm
14	埋砂上層	石錘	完形	85	66	24	192.0	安山岩	左打欠幅26mm・右打欠幅37mm

第115表 2区SD12出土磁器・土器・土製品観察表 (第268図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整・文 様	備 考
1	埋砂上層	須恵器 壺	破片	口径(18.8) 器高(4.1)	良	青灰色	密	外面 : 回転ナデ 内面 : 口頸部回転ナデ、肩部当具による青海波文	
2	埋砂中層	須恵器 壺	口縁~肩 部1/2	口径(18.0) 器高(5.9)	良好	青灰色	密	外面 : 回転ナデ 内面 : 口頸部回転ナデ、肩部当具による青海波文	
3	埋砂中層	土師器 壺	破片	口径(15.4) 器高(3.4)	良	橙褐色	密 砂粒	外面 : 横ナデ 内面 : 口縁部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
4	埋砂中層	土師器 壺	破片	口径(24.0) 器高(4.1)	良	褐色	密 雲母	外面 : 横ナデ 内面 : 口縁部横ハケメ、頸部以下横ヘラケズリ	
5	埋砂下層	土師器 甌	狭口部 破片	狭口径(15.4) 器高(6.7)	良	褐色	密 雲母・白色粒	外面 : 狭口部横ナデ、体部縦ハケメ 内面 : 狭口部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面狭口部線刻
6	埋砂中層	須恵器 蓋	破片	口径(15.6) 器高(1.8)	良好	青灰色	密	内外面 : 回転ナデ	
7	埋砂中層	須恵器 坏	破片	口径(13.4) 器高(3.8)	良好	灰色	密 白色粒・黒色 粒	内外面 : 回転ナデ	
8	埋砂中層	須恵器 坏	破片	口径(16.0) 器高(4.7)	良好	青灰色	密 白色粒	内外面 : 回転ナデ	
9	埋砂上層	須恵器 坏	底部	器高(1.2) 底径(6.4)	良	青灰色	密	外面 : 体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面 : 体部回転ナデ、底部ナデ	
10	埋砂中層	須恵器 坏	底部	器高(1.9) 底径(11.0)	良好	暗赤灰色	密 雲母	外面 : 体部回転ナデ、底部静止糸切り 内面 : 回転ナデ	
11	埋砂上層	須恵器 坏	底部	器高(2.6) 底径(10.0)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面 : 体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面 : 体部回転ナデ、底部ナデ	
12	埋砂中層	須恵器 坏	底部	器高(1.3) 底径(7.6)	良好	暗赤灰色	密 白色粒	外面 : 体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面 : 体部回転ナデ、底部ナデ	
13	埋砂上層	須恵器 坏	底部	器高(1.7) 底径(11.2)	良好	暗赤灰色	密	外面 : 体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面 : 体部回転ナデ、底部ナデ	底部煤付着
14	埋砂下層	須恵器 坏	底部	器高(2.4) 底径(14.6)	良	青灰色	密	外面 : 体部回転ナデ、底部回転糸切り→ナデ、貼付高台 内面 : ナデ	
15	埋砂中層	須恵器 坏	1/2	口径(11.8) 器高 : 4.1 底径(7.8)	良好	青灰色	密	外面 : 体部回転ナデ、底部回転糸切り→ナデ、貼付高台 内面 : ナデ	外面高台内焼成後 線刻「×」
16	埋砂上層	白磁 皿	破片	器高(1.2) 底径(3.2)	良好	灰白色	密	外面 : 体部下半~底部露胎、貫入 内面 : 貫入	白磁皿VI-1類
18	埋砂下層	土錘	1/2	長さ(3.2) 幅 : 1.4 厚さ : 1.2	良	褐色	密 白色粒		重量 : 4.3g
19	埋砂中層	土錘	ほぼ 完形	長さ(4.3) 幅 : 1.8 厚さ : 1.7	良	灰褐色	密		重量 : 11.9g

第116表 2区SD12出土石器観察表 (第268図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
17	埋砂下層	磨石・敲石	完形	141	48	45	437.6	珪岩	

第117表 2区SD12出土金属製品観察表(第268図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量(g)	備考
20	埋砂下層	刀子	2/3	鉄	全長(94) 刃部(55) 基部(39)	刃部:11 基部:7	刃部:3 基部:2	5	錆化(△)	4	8.3	
21	埋砂下層	釘	ほぼ完形	鉄	54	3	4	5	錆化(△)	2	3.9	

第118表 2区SD13出土土器・土製品観察表(第269図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中層	須恵器 坏	1/5	口径(12.4) 器高(3.7) 底径(8.6)	良	青灰色	密	外面:口縁部~体部回転ナデ、体部下半横ヘラケズリ、底面回転糸切り→ナデ 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
2	埋砂下層	須恵器 坏	破片	器高(1.9) 底径(11.2)	良好	青灰色	密	外面:体部回転ナデ、体部下半横ヘラケズリ、底面回転糸切り 内面:体部回転ナデ、底部ナデ	
3	埋砂中層	須恵器 坏	破片	器高(0.9) 底径(7.8)	良好	青灰色	密	外面:体部ナデ、底面回転糸切り 内面:体部回転ナデ、底部ナデ	
4	埋砂上層	須恵器 坏	破片	器高(2.4) 底径(9.0)	良好	赤褐色	密	外面:体部ナデ、底面回転糸切り 内面:ナデ	
5	埋砂最下層	須恵器 皿	破片	口径(15.8) 器高(2.5) 底径(12.0)	良好	青灰色	密	外面:口縁部~体部回転ナデ、体部下半横ヘラケズリ、底面回転糸切り 内面:ナデ	
6	埋砂中層	土錘	ほぼ完形	長さ(5.1) 幅(1.6) 厚さ(1.6)	良	灰茶色	密 雲母・砂粒		重量:11.5g
7	埋砂中層	土錘	ほぼ完形	長さ(4.7) 幅(1.3) 厚さ(1.3)	良	暗灰白色	密 砂粒		重量:6.4g
8	埋砂中層	土錘	1/2	長さ(2.5) 幅(1.3) 厚さ(1.2)	良	灰褐色	密		重量:3.7g

第119表 3区SD01出土土器観察表(第272図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂最上層	土師器 皿	1/8	口径(15.4) 器高(1.5) 底径(12.0)	良	橙褐色	密	外面:口縁部~体部横ナデ、体部下半~底部ヘラケズリ 内面:横ナデ	赤彩
2	埋砂上層	土師器 皿	1/2	口径(15.6) 器高(1.2) 底径(11.0)	良	褐色	密 砂粒	外面:口縁部~体部横ナデ、体部下半~底部ヘラケズリ 内面:口縁部~体部横ナデ、底部ナデ	
3	埋砂最上層	須恵器 坏	底部	器高(2.2) 底径(12.4)	良	青灰色	密 砂粒	外面:ナデ、貼付高台 内面:ナデ	

第120表 3区SD03出土土器・土製品観察表(第274図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中層	土師器 坏	1/8	口径(13.8) 器高(2.7) 底径(9.0)	良	橙褐色	密 砂粒	外面:口縁部~体部横ナデ、底部ヘラケズリ 内面:口縁部~体部横ナデ、底部ナデ	赤彩
2	埋砂中層	須恵器 坏	破片	口径(12.6) 器高(3.4)	良好	青灰色	密 砂粒	内外面:回転ナデ	
3	埋砂最上層	須恵器 壺	底部	器高(2.6) 底径(12.6)	良好	青灰色	密 砂粒	外面:体部横ナデ、底部ヘラケズリ・貼付高台 内面:ナデ	
5	埋砂最上層	土錘	1/2	長さ(7.6) 幅(3.8) 厚さ(3.8)	良	褐色	密 雲母・石英・砂粒		重量:84.8g

第121表 3区SD03出土石器観察表(第274図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	備考
4	埋砂最上層	砥石	ほぼ完形	42	40	16	4.1	軽石	

第122表 3区SD04出土土器観察表(第276図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(27.6) 器高(3.3)	良	褐色	密 砂粒	外面:横ナデ 内面:口縁部横ナデ、頸部以下縦ヘラケズリ	
2	埋砂中	土師器 坏	1/2	器高(4.6) 底径(6.2)	良	灰褐色~ 橙褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面:体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面:体部回転ナデ、底部ナデ	

第123表 5区SD03出土土器観察表(第282図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂下層	土師器 甕	破片	口径(25.7) 器高(4.6)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面:口頸部横ナデ、頸部以下縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面一部煤付着

2	埋砂中層	土師器 蓋	つまみ部	直径: 6.0 器高(2.0)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面: 指頭調整→横ナデ 内面: つまみ部指頭調整→ヘラケズリ、天井部ヘラケズリ	つまみ部穿孔2個 一部煤付着
---	------	----------	------	---------------------	---	----	------------	---	-------------------

第124表 5区SD03出土金属製品観察表 (第282図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	部 位 残存率	材 質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	文 様	重量 (g)	備 考
3	鏡背赤彩	小型鏡	ほぼ完形	青銅	34	34	3	鏡背: 三重の櫛歯文	2.7	鏡背赤彩

第125表 5区SD06出土土器観察表 (第283図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整・文 様	備 考
1	埋砂下層	須恵器 壺	底部 1/8	器高(5.1) 底径(11.5)	良	灰色	密	外面: 体部回転ヘラケズリ・沈線1条 内面: 体部回転ナデ、底部ナデ	
2	埋砂最下層	須恵器 坏	1/8	口径(11.6) 器高: 3.8 底径(10.0)	良	灰色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	

第126表 5区SD04出土土器観察表 (第285図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整・文 様	備 考
1	埋砂上層	土師器 甕	2/3	口径(19.0) 器高: 17.7 胴径(20.0) 底径(8.0)	良	褐色	密 砂粒	外面: 口縁部~肩部横ナデ、肩部飾状工具による波状文、 体部横ハケメ 内面: 口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部下半指 頭調整→ヘラケズリ	外面煤付着
2	埋砂最下層	土師器 甕	破片	口径(18.6) 器高(6.4)	良	橙褐色	密 石英(φ 5mm)	外面: 口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面: 口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
3	埋砂下層	土師器 高坏	坏部 1/5	口径(19.6) 器高(4.6)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面: ハケメ→横ヘラミガキ 内面: 斜め・横ヘラミガキ	内外面煤付着
4	埋砂下層	製塩土器	破片	口径(10.6) 器高(3.4)	やや良	褐色	粗 小石粒	内外面: 指頭調整→ナデ	
5	埋砂下層	製塩土器	破片	口径(10.8) 器高(5.2)	やや良	褐色	粗 石英・砂粒	内外面: 指頭調整→ナデ	
6	埋砂下層	土師器 皿	1/10	口径(16.6) 器高: 2.0 底径(12.0)	良	橙褐色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、体部下半ヘラケズリ、底部 回転糸切り 内面: 回転ナデ	内外面赤彩
7	埋砂下層	土師器 皿	破片	口径(17.6) 器高: 1.5 底径(15.4)	良	橙褐色	密 砂粒	外面: 口縁部~体部横ナデ、体部下半~底部ヘラケズリ 内面: 横ナデ	内外面赤彩
8	埋砂下層	土師器 皿	1/8	口径(17.6) 器高(2.2)	良	橙褐色	密 砂粒	外面: 口縁部~体部横ナデ、体部下半~底部ヘラケズリ 内面: 横ナデ	内外面赤彩
9	埋砂上層	土師器 坏	破片	口径(16.9) 器高(3.2)	良	褐色	密 砂粒	内外面: 回転ナデ	内外面赤彩 内外面被熱痕
10	埋砂下層	須恵器 直口壺	1/2	口径(9.4) 器高(10.1) 胴径(13.0)	良好	青灰色	密 砂粒	内外面: 回転ナデ	外面肩部・内面口 縁部自然降灰
11	埋砂上層	須恵器 坏	1/2	口径(12.6) 器高(4.7)	良好	青灰色	密 砂粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、体部下半回転ヘラケズリ 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
12	埋砂上層	須恵器 坏	完形	口径: 11.2 器高: 4.5 底径: 7.3	良好	青灰色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
13	埋砂下層	須恵器 坏	完形	口径: 11.8 器高: 4.3 底径: 8.5	良好	青灰色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
14	埋砂上層	須恵器 皿	1/2	口径(17.6) 器高(3.8)	やや良	灰色	密 砂粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
15	埋砂下層	須恵器 皿	1/2	口径(17.6) 器高: 4.1 底径(12.0)	良	青灰色	密 砂粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
16	埋砂下層	須恵器 皿	5/8	口径(18.2) 器高: 4.1 底径: 11.7	良	褐色	密 砂粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	内外面煤付着

第127表 5区SD04出土石器観察表 (第285図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
17	埋砂下層	石錘	完形	121	81	33	444.0	安山岩	左打欠幅26mm・右打欠幅30mm

第128表 5区SD04出土金属製品観察表 (第285図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	部 位 残存率	材 質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備 考
18	埋砂中層	刀子	ほぼ完形	鉄	全長(83) 刃部(42) 茎部(41)	刃部: 12 茎部: 6	刃部: 3 茎部: 2	5	錆化 (△)	3	10.4	
19	埋砂下層	刀子	1/2	鉄	全長(85) 刃部(25) 茎部(60)	刃部: 10 茎部: 6	刃部: 3 茎部: 2	5	H(O)	4	8.4	
20	埋砂上層	環状不明品	完形	鉄	直径: 31	5	5	4	錆化 (△)	3	9.1	
21	埋砂下層	釘	ほぼ完形	鉄	(41)	4	4	4	錆化 (△)	4	2.1	皆折れ釘
22	埋砂下層	棒状不明品	—	鉄	(38)	3	3	3	錆化 (△)	3	1.1	
23	埋砂中層	刀子	茎部	鉄	(43)	(14)	2	4	錆化 (△)	3	3.7	目釘穴1個

第129表 5区SD08出土土器観察表 (第286図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂最下層	土師器 甕	口頸部 1/4	口径(24.6) 器高(7.4)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
2	埋砂最下層	土師器 高坏	脚部	器高(6.8) 底径：9.7	良	褐色	密 石英・砂粒	外面：脚部横ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面：坏部ナデ、脚部ヘラケズリ、脚端部横ナデ	外面・坏内面茶系 赤彩
3	埋砂中	土師器 甕	破片	器高(5.3)	良	褐色	密 雲母・石英	外面：ナデ 内面：ヘラケズリ	内面線刻 外面一部煤付着
4	埋砂下層	手捏ね 土器	脚部破片	器高(3.1) 底径(3.9)	良	褐色	密	内外面：指頭調整	
5	埋砂下層	須恵器 坏	1/10	口径(10.2) 器高(4.1)	良	青灰色	密	内外面：回転ナデ	
6	埋砂下層	須恵器 皿	1/8	口径(13.0) 器高：2.1 底径(9.0)	良	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、体部下半ヘラケズリ、底部 回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
7	埋砂下層	土師器 皿	1/4	器高(2.3) 底径(11.8)	良	褐色	密	外面：ナデ、貼付高台 内面：ナデ	高台内側以外茶系 赤彩
8	埋砂下層	須恵器 高坏	脚部 1/2	器高(4.7) 底径(8.4)	良	青灰色	密	内外面：回転ナデ 脚部二方形透し	
9	埋砂最下層	須恵器 高坏	脚部	器高(9.8)	良	青灰色	密	外面：回転ナデ 内面：坏底部ナデ、脚柱部ナデ・ヘラケズリ、裾部回転ナ デ	

第130表 5区SD08出土金属製品観察表 (第286図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
10	埋砂中	刀子?	—	鉄	(35)	9	2	5	錆化(△)	2	5.1	
11	埋砂上層	釘	ほぼ完形	鉄	(56)	4	5	3	錆化(△)	3	3.0	皆折れ釘
12	埋砂中層	釘	ほぼ完形	鉄	(50)	4	4	6	錆化(△)	4	3.5	皆折れ釘
13	埋砂上層	棒状不明品	—	鉄	(59)	5	4	6	錆化(△)	3	5.9	
14	埋砂中層	棒状不明品	—	鉄	(38)	5	5	5	錆化(△)	2	2.5	
15	埋砂上層	棒状不明品	—	鉄	26	5	5	4	錆化(△)	2	2.2	鉤手状、釘?

第131表 5区SD09出土土器観察表 (第287図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂最上層	須恵器 蓋	1/8	口径(14.4) 器高(1.6)	良	青灰色	密	外面：回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	

第132表 5区SD15出土土器観察表 (第288図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	須恵器 坏	ほぼ完形	口径:11.2 器高:3.7 底径:8.3	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、体部下半ヘラケズリ、底部 回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
3	埋砂中	土師器 甕	破片	器高(2.8)	良	褐色	密 砂粒	内外面：横ナデ	内面口縁部線刻

第133表 5区SD15出土石器観察表 (第288図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
2	埋砂中	砥石	1/2	(111)	(52)	(51)	320.0	花崗岩	

第134表 5区SD15出土金属製品観察表 (第288図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
4	埋砂上層	棒状不明品	—	鉄	(121)	6	6	5	錆化(△)	4	32.7	釘?

第135表 5区SD05出土石器観察表 (第290図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
1	埋砂中層	砥石	1/2	(78)	(74)	(54)	150.5	花崗岩	

第136表 5区SD07出土土器観察表 (第292図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂下層	土師器 甕	破片	口径(29.4) 器高(2.9)	良	灰褐色	密	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部ヘラケズリ	
2	埋砂中	土師器 直口壺	破片	口径(13.9) 器高(6.8)	良	黄灰白色	密 石英・砂粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	

第137表 5区SD11出土土器観察表 (第295図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	須恵器 坏	破片	器高(2.5)	良	灰色	密	内外面：回転ナデ	
2	埋砂中	須恵器 坏	破片	口径(10.0) 器高(2.9)	良	灰色	密	内外面：回転ナデ	
3	埋砂上層	須恵器 坏	破片	口径(15.6) 器高(4.1)	良	灰色	密	内外面：回転ナデ	

第138表 5区SD11出土金属製品観察表 (第295図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
4	埋砂中層	鉄鏃	ほぼ完形	鉄	29	29	3	5	錆化(△)	5	2.9	刃部角95度 穿孔3個
5	埋砂下層	棒状不明品	—	鉄	(71)	5	5	6	錆化(△)	3	9.2	
6	埋砂中層	棒状不明品	—	鉄	(27)	3	3	3	錆化(△)	2	1.1	

第139表 5区SD11出土石器観察表 (第295図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
7	埋砂中	砥石	1/2	(52)	(38)	28	83.0	凝灰岩	
8	埋砂上層	砥石	1/2	(37)	27	18	18.7	凝灰岩	

第140表 5区SD12出土土器観察表 (第297図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(15.8) 器高(4.3)	良	灰褐色	密	外面：口縁部横ナデ、頸部以下斜めハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部以下横ヘラミガキ	外面一部煤付着

第141表 5区SD12出土金属製品観察表 (第297図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
2	埋砂最上層	鉄鏃	2/3	鉄	全長(62) 刃部(28) 基部(34)	刃部:16 基部:4	刃部:1 基部:1	4	錆化(△)	5	5.3	刃部欠損

第142表 5区SD12出土石器観察表 (第297図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
3	埋砂上層	台石	破片	(190)	(80)	(60)	708.8	珪岩	
4	埋砂中層	石錘	完形	127	94	61	810.9	安山岩	左打欠幅25mm・右打欠幅52mm

第143表 1区ピット出土土器観察表 (第300図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit241	製塩土器	破片	口径(7.0) 器高(3.4)	やや良	黄灰白色	粗	内外面：指頭調整→ナデ	
2	Pit103	土師器 蓋	破片	口径(19.2) 器高(3.2)	良好	橙褐色	密	内外面：回転ナデ	内外面赤彩
3	Pit249	土師器 皿	破片	口径(21.2) 器高(1.8)	良好	橙褐色	密	内外面：ナデ	内外面赤彩
4	Pit249	須恵器 壺	破片	器高(4.5) 底径(9.0)	良好	青灰色	密	外面：回転ナデ、貼付高台 内面：ナデ	
5	Pit249	須恵器 坏	4/5	口径:12.6 器高:4.5 底径:8.0	良好	灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
6	Pit249	須恵器 坏	底部 2/3	器高(1.8) 底径(8.6)	良好	灰色	密	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	
7	Pit96	須恵器 坏	破片	器高(3.0) 底径(8.2)	良好	灰色	密	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	
8	Pit225	須恵器 坏	破片	器高(2.2) 底径(8.8)	良好	暗赤灰色	密	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り→ナデ、貼付高台 内面：ナデ	

第144表 2区ピット出土土器観察表 (第301図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit5	土師器 甕	破片	口径(23.4) 器高(2.0)	良	灰褐色	密	内外面：横ナデ	
2	Pit345	土師器 甕	破片	口径(23.4) 器高(4.4)	良	黒褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナデ、頸部縦ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部横ヘラケズリ	
3	Pit314	土師器 蓋	破片	口径(21.2) 器高(5.8)	良	褐色	密	外面：口縁部横ナデ、頸部縦ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部横ヘラケズリ	黒斑 内面口縁部煤付着
4	Pit161	土師器 皿	破片	口径(18.0) 器高(1.2) 底径(15.6)	良	橙褐色	密	外面：口縁部～体部横ナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ	内外面赤彩

5	Pit385	土師器 坏	底部	器高(1.4)	良	橙褐色	密	外面：体部横ナデ、底部回転系切り、貼付高台 内面：ナデ	内外面赤彩
6	Pit321	土師器 皿	破片	口径(13.9) 器高(1.4) 底径(10.6)	良	橙褐色	密 石英	外面：口縁部～体部横ナデ、底部ヘラケズリ 内面：ナデ	内外面薄い赤彩
7	Pit140	手捏ね 土器	破片	口径(8.4) 器高(4.1)	良	灰茶色	密 雲母・石英・ 砂粒	内外面：指頭調整	
8	Pit3	製塩土器	破片	口径(10.0) 器高(2.7)	やや良	褐色	やや粗 砂粒	外面：指頭調整→ヘラケズリ→ナデ 内面：指頭調整	
9	Pit3	製塩土器	破片	口径(8.2) 器高(1.9)	やや良	灰褐色	やや粗 砂粒	外面：指頭調整 内面：ヘラケズリ	
10	Pit190	土師器 坏	破片	口径(15.0) 器高(3.8)	良	橙褐色	密	内外面：横ナデ	
11	Pit314	須恵器 壺	破片	口径(11.4) 器高(1.6)	良好	暗赤灰色	密 白色粒	内外面：回転ナデ	
12	Pit6	須恵器 坏	破片	器高(1.9) 底径(8.4)	良	暗赤灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	
13	Pit23	須恵器 坏	1/3	口径(12.2) 器高(4.6) 底径(9.0)	良好	青灰色	密 黒色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
14	Pit1	須恵器 坏	破片	口径(12.9) 器高(3.2)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：回転ナデ 内面：ナデ	
15	Pit185	須恵器 坏	破片	口径(13.2) 器高(3.2)	良好	青灰色	密	内外面：回転ナデ	
16	Pit431	須恵器 坏	破片	口径(12.4) 器高(2.1)	良好	青灰色	密	内外面：回転ナデ	

第145表 2区ピット出土金属製品観察表(第301図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量(g)	備考
17	Pit242	釘	2/3	鉄	(37)	4	4	4	錆化(△)	3	2.1	皆折れ釘
18	Pit242	釘	1/2	鉄	(26)	3	4	3	錆化(△)	2	1.3	皆折れ釘

第146表 3区ピット出土土器・土製品観察表(第302図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit18	土師器 皿	破片	口径(14.8) 器高(2.1) 底径(10.0)	良	橙褐色	密	外面：口縁部～体部横ナデ、体部下半ヘラケズリ→ナデ 内面：横ナデ	赤彩
2	Pit550	土師器 皿	破片	口径(13.6) 器高(1.7) 底径(8.4)	良	橙褐色	密 石英・砂粒	外面：口縁部～体部横ナデ、底部ヘラケズリ→ナデ 内面：横ナデ	薄い赤彩
3	Pit538	土師器 坏	1/8	口径(12.8) 器高(2.8) 底径(8.4)	良好	橙褐色	密	外面：口縁部～体部指頭調整→横ナデ、底部ヘラケズリ→ ナデ 内面：横ナデ	赤彩
4	Pit669	土師器 坏	破片	口径(12.0) 器高(1.9) 底径(8.0)	良	橙褐色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り→ナデ 内面：回転ナデ	薄い赤彩
5	Pit885	土師器 坏	1/8	口径(12.8) 器高(3.2) 底径(4.0)	良	橙褐色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り→ナデ 内面：回転ナデ	赤彩
6	Pit684	土師器 坏	1/2	口径(13.0) 器高(3.3) 底径(8.6)	良	橙褐色	密 石英・砂粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧 内面：回転ナデ	赤彩
7	Pit553	土師器 皿	1/8	口径(21.8) 器高(3.3) 底径(16.8)	良好	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：横ナデ、貼付高台 内面：横ナデ	赤彩
8	Pit498	土師器 坏	底部	器高(3.0) 底径(9.4)	良	橙褐色	密	外面：体部回転ナデ、底部ヘラ切り→ナデ・貼付高台 内面：指頭押圧→ナデ	外底面以外赤彩 内底面擦痕
9	Pit669	製塩土器	破片	口径(9.3) 器高(3.4)	やや良	橙褐色	やや粗 砂粒	内外面：指頭調整	
10	Pit188	須恵器 坏	1/8	口径(11.8) 器高(3.9) 底径(8.2)	良好	灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
11	Pit620	須恵器 坏	1/2	口径(11.8) 器高(4.0) 底径(8.0)	やや良	灰色	密 黒色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
12	Pit141・ 143・144	須恵器 坏	破片	器高(3.1) 底径(7.8)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り・貼付高台 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	
13	Pit239	須恵器 皿	底部	器高(2.2) 底径(12.0)	良	灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り・貼付高台 内面：ナデ	
14	Pit148	須恵器 皿	底部	器高(2.5) 底径(14.0)	良	灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り→ナデ・貼付高台 内面：ナデ	
15	Pit260	土師器 坏	破片	—	良	橙褐色	密	外面：ヘラケズリ 内底面：ナデ	内外面赤彩 外底面墨書
16	Pit394	土錘	完形	長さ：4.9 幅：1.3 厚さ：1.2	良	橙褐色	密		重量：7.4g
17	Pit251	土錘	完形	長さ：4.6 幅：1.6 厚さ：1.4	良	暗灰白色	密		重量：9.2g
18	Pit788	土錘	完形	長さ：8.8 幅：4.6 厚さ：4.3	良	灰褐色	密 石英・砂粒		重量：132.9g

第147表 4区ピット出土土器観察表 (第303図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit84	須恵器 坏	ほぼ 完形	口径(14.2) 器高: 5.6 底径: 7.0	良好	灰褐色	密 雲母・白色 粒・赤色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転系切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	

第148表 5区ピット出土土器観察表 (第304図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pit93	土師器 甕	破片	口径(17.5) 器高(6.4)	良	灰褐色~ 灰茶色	密 石英	外面: 横ナデ 内面: 口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
2	Pit157	土師器 甕	胴部破片	器高(5.6)	良	黒茶色~ 灰褐色	密 石英・白色粒	外面: 肩部貝殻腹縁による羽状文、体部縦ハケメ 内面: 横ヘラケズリ→ナデ	外面炭化物・煤付 着
3	Pit101	土師器 甕	破片	口径(23.2) 器高(1.9)	良	黒茶色~ 灰褐色	密 石英・白色粒	内外面: 横ナデ	外面炭化物付着
4	Pit71	土師器 蓋	1/3	口径(8.2) 器高: 4.1	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面: つまみ部~天井部ヘラケズリ、口縁部ナデ 内面: つまみ部ヘラケズリ、口縁部ナデ、天井部ヘラケズ リ→ナデ	黒斑
5	Pit101	製塩土器	破片	口径(14.2) 器高(5.2)	やや良	灰褐色	粗 石英・砂粒	内外面: 指頭調整→ナデ	

第149表 5区ピット出土金属製品観察表 (第304図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
6	Pit220	鉄鏃	ほぼ完形	鉄	全長(149) 刃部(46) 茎部:103	刃部(27) 茎部: 3	刃部:3 茎部:3	4	錆化(△)	5	42.0	刃部欠損
7	Pit290	刀子	茎部	鉄	33	7	4	4	錆化(△)	2	1.6	
8	Pit18	鉄鏃?	—	鉄	全長(30) 刃部(26) 茎部(4)	刃部(9) 茎部(4)	刃部:4 茎部:3	4	錆化(△)	3	1.7	

第150表 1区畠跡出土磁器・土製品観察表 (第308図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	釉	調整・文様	備考
1	畠1	青磁碗	破片	口径(15.5) 器高(4.2)	良好	灰白色	密	灰オリーブ 色	外面: 細かい縦拂目文 内面: 沈線・片影花文・櫛先による点掻文	同安窯系統 I-1b 類
2	畠1	白磁碗	破片	口径(13.5) 器高(2.5)	良好	灰白色	密	灰白色	外面: 貫入 内面: 貫入	白磁碗 V-3a類
3	畠1 1面	白磁碗	破片	口径(17.4) 器高(3.5)	良好	灰白色	密	灰白色	外面: — 内面: —	白磁碗 V-4a類
4	畠1	白磁碗	底部破片	器高(1.7) 底径(5.0)	良好	灰白色	密	灰白色	外面: 露胎、削り出し高台 内面: 貫入	白磁碗 IV類
5	畠3 2面畝間	土鍾	完形	長さ: 4.6 幅: 1.6 厚さ: 1.5	良	灰褐色	密	—		重量: 9.0g
6	畠2	土鍾	完形	長さ: 4.2 幅: 1.5 厚さ: 1.5	良	褐色	密	—		重量: 9.3g
7	畠3	土鍾	ほぼ完形	長さ(4.9) 幅: 1.4 厚さ: 1.3	良	灰褐色	密	—		重量: 6.8g
8	畠1 1面	土鍾	ほぼ完形	長さ(4.5) 幅: 1.5 厚さ: 1.5	良	灰褐色	密	—		重量: 7.8g
9	畠2	土鍾	ほぼ完形	長さ: 4.2 幅: 1.4 厚さ: 1.3	良	褐色	密	—		重量: 6.9g
10	畠1	土鍾	完形	長さ: 4.3 幅: 1.1 厚さ: 1.0	良	褐色	密	—		重量: 5.3g
11	畠3	土鍾	1/2	長さ(2.8) 幅: 1.4 厚さ: 1.3	良	灰褐色	密	—		重量: 4.9g
12	畠3	土鍾	2/3	長さ(3.4) 幅: 1.2 厚さ: 1.2	良	灰茶色	密	—		重量: 3.4g

第151表 1区畠跡出土金属製品観察表 (第308図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	その他計測値			重量 (g)	備考
13	畠1	鑿?	1/2	鉄	全長(90) 刃部(80) 茎部(10)	刃部:11 茎部: 7	刃部:10 茎部: 6	磁着度 5	メタル度 錆化(△)	ランク 4	17.1	
14	畠3 W-5	古銭	完形	銅	外径:24.0	穿径: 6.0	銭厚: 0.8				2.3	開元通寶 960年初鑄
15	畠3 W-5	古銭	完形	銅	外径:23.0	穿径: 6.0	銭厚: 0.5				1.2	祥符元寶 1009年初鑄
16	畠3 W-5	古銭	完形	銅	外径:23.0	穿径: 6.0	銭厚: 0.5				2.2	元祐通寶 1086年初鑄
17	畠3 W-5	古銭	完形	銅	外径:25.5	穿径: 6.5	銭厚: 0.9				2.0	政和通寶 1111年初鑄

18	畠3 W-5	大刀子	ほぼ完形	鉄	全長(297) 刃部(197) 茎部(100)	刃部:25 茎部:12	刃部:4 茎部:3		210.3	目釘穴1個
----	-----------	-----	------	---	-------------------------------	----------------	--------------	--	-------	-------

第152表 2区畠跡出土磁器・土器観察表 (第312図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	釉	調整・文様	備考
1	畠3 F-2	白磁碗	破片	器高(2.1) 底径(6.8)	良好	灰白色	密	白色	外面: 体部下半~底部露胎、削り出し高台 内面: 見込段	内底面使用痕 白磁碗IV類
2	畠3 F-1	青磁碗	破片	器高(3.0)	良好	灰色	密	灰オリーブ色	外面: 一 内面: 劃花文	同安窯系統I類
3	畠3 G-2	青磁碗	破片	器高(2.4)	良好	灰色	密	灰オリーブ色	外面: 体部下半露胎 内面: 櫛描劃花文	同安窯系統I類
4	畠4 C-2	土師質土器小皿	ほぼ完形	口径:8.0 器高:1.7 底径:4.3	良	灰褐色	密 雲母・石英・白色粒	—	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り→板状圧痕 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	

第153表 2区SX01出土石器観察表 (第314図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
1	埋砂下層	台石	ほぼ完形	(150)	96	72	1879.9	珪岩	

第154表 3区畠跡出土陶磁器・土器観察表 (第317図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	釉	調整・文様	備考
1	畠7 A-1	青磁碗	破片	口径(19.1) 器高(4.2)	良好	灰色	密	オリーブ色	外面: 蓮弁文、貫入 内面: 貫入	被熱 龍泉窯系統II-a類
2	畠6 C-1	青磁碗	破片	口径(17.6) 器高(2.8)	良好	灰白色	密	灰オリーブ色	外面: 一 内面: 劃花文	龍泉窯系統I-2類
3	畠7 A-2	青磁碗	破片	器高(2.3)	良好	灰白色	密	灰オリーブ色	外面: 蓮弁文、貫入 内面: 貫入	龍泉窯系統II-b類
4	畠7 B-1	青磁碗	破片	器高(2.7)	良好	灰白色	密	灰オリーブ色	外面: 蓮弁文 内面: 一	龍泉窯系統II-b類
5	畠6 E-1	白磁碗	破片	器高(3.2)	良好	灰白色	密	灰白色	外面: 体部下半露胎 内面: 櫛目文、見込段	白磁碗V類
6	畠7 C-2	白磁碗	破片	器高(2.5)	良好	灰白色	密	灰白色	外面: 体部下半露胎、削り出し高台 内面: 劃花文、見込段	白磁碗VI類
7	畠7 B-2	白磁碗	破片	口径(15.7) 器高(3.5)	良好	灰白色	密	浅黄色	内外面: 貫入	白磁碗V-3a類
8	畠7 A-1	白磁碗	破片	口径(15.7) 器高(2.3)	良好	黄灰白色	密	浅黄色	内外面: 貫入	白磁碗II-3・4類
9	畠7 B-2	白磁碗	破片	器高(5.4)	良好	黄白色	密	灰白色	外面: 体部下半露胎、削り出し高台、貫入 内面: 見込沈線、貫入	白磁碗IV類
10	畠7 A-1	白磁碗	破片	口径(15.9) 器高(2.7)	良好	灰白色	密	灰白色	内外面: 一部貫入	白磁碗IV類
11	畠7 A-2	白磁碗	破片	口径(17.0) 器高(2.6)	良好	黄灰白色	密	灰白色	内外面: 貫入	白磁碗IV類
12	畠6 C-2	白磁碗	破片	口径(16.0) 器高(3.1)	良好	灰白色	密	灰白色	内外面: 貫入	白磁碗IV類
13	畠7 A-2	白磁碗	底部破片	器高(2.8) 底径(7.4)	良好	白色	密	灰白色	外面: 露胎、削り出し高台 内面: 一	白磁碗IV-1類
14	畠6 C-1	白磁碗	底部破片	器高(2.9) 底径(6.3)	良好	白色	密	灰白色	外面: 高台内露胎、削り出し高台、貫入 内面: 貫入	白磁碗V類
15	畠6 C-2	白磁皿	底部破片	器高(1.0) 底径(7.6)	良好	白色	密	灰白色	外面: 底面一部露胎 内面: 一	白磁皿IX-1類
16	畠7 A-1	白磁皿	底部破片	器高(0.7) 底径(7.0)	良好	灰白色	密	灰白色	外面: 底面一部露胎 内面: 一	白磁皿IX-1類
17	畠7 A-2	陶器壺	破片	口径(9.6) 器高(3.3)	良好	灰褐色	密	灰オリーブ色	外面: 肩部に沈線3条 内面: 一	口縁内部砂付着 中国製
18	畠7 B-2	陶器丸皿	1/8	口径(10.5) 器高: 2.5 底径(4.0)	良好	灰白色	密	浅黄色	外面: 高台部露胎、削り出し高台、貫入 内面: 貫入	瀬戸・美濃窯 大窯2期
19	畠6 E-2	土師質土器小皿	1/2	口径(8.6) 器高: 1.9 底径(5.6)	良	橙褐色	密 石英・白色粒・赤色粒	—	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
20	畠7 C-1	土師質土器小皿	1/2	口径(8.8) 器高: 1.6 底径(5.4)	良	橙褐色	密 砂粒	—	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
21	畠7 A-2	土師質土器小皿	1/8	口径(8.6) 器高: 2.1 底径(4.8)	良	褐色	密 砂粒	—	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 回転ナデ	
22	畠7 A-2	土師質土器小皿	完形	口径: 8.8 器高: 2.0 底径: 5.3	良	褐色	密	—	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
23	畠6 C-1	土師質土器小皿	5/8	口径(8.2) 器高: 1.3 底径(4.7)	良	褐色	密	—	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
24	畠6 E-2	土師質土器小皿	1/2	口径(8.0) 器高: 1.5 底径(5.6)	良	橙褐色	密	—	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
25	畠6 E-2	土師質土器小皿	1/3	口径(8.6) 器高: 1.3 底径(5.6)	良	橙褐色	密	—	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
26	畠6 C-2	土師質土器小皿	1/2	口径(8.6) 器高: 2.2 底径(4.8)	良	橙褐色	密	—	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	

27	畠6 C-1	土師質 土器 小皿	1/4	口径(94) 器高:1.2 底径(6.4)	良	橙褐色	密 雲母・黒色 粒・白色粒	—	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
28	畠6 E-1	土師質 土器 小皿	1/5	口径(92) 器高:1.7 底径(6.4)	良	褐色	密 雲母・白色粒	—	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面:回転ナデ	
29	畠7 B-1	土師質 土器 小皿	5/8	口径(82) 器高:1.7 底径(5.6)	良	橙褐色	密 黒色粒・赤色 粒	—	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部静止糸 切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
30	畠6 E-1	土師質 土器 小皿	1/4	口径(88) 器高:1.6 底径(5.6)	良	橙褐色	密 雲母・石英	—	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面:回転ナデ	赤彩

第155表 3区畠跡出土金属製品観察表(第317図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量(g)	備考
31	畠6 C-1	環状不明品	—	鉄	直径(26)	6	6	5	錆化(△)	3	4.6	

第156表 4区畠跡出土陶磁器・土器観察表(第322図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	釉	調整・文様	備考
1	畠8・1面 C-4	青磁碗	破片	器高(3.7)	良好	灰色	密	灰オリーブ 色	外面:体部下露胎、貫入 内面:片彫花文、櫛先による点掻文、貫入	同安窯系統I-1a類
2	畠8 C-3	青磁碗	破片	口径(17.9) 器高(2.2)	良好	灰色	密	灰オリーブ 色	外面:鑄蓮弁文、貫入 内面:貫入	龍泉窯系統II-b類
3	畠8 A-4	青磁碗	破片	口径(16.0) 器高(4.7)	良好	灰色	密	緑灰色	外面:鑄蓮弁文、貫入 内面:貫入	龍泉窯系統II-b類
4	畠9 B-3	青磁碗	破片	器高(3.6)	良好	灰色	密	緑灰色	外面:鑄蓮弁文 内面:—	龍泉窯系統II-b類
5	畠8 C-4	白磁碗	破片	口径(17.3) 器高(3.2)	良好	灰白色	密	白色	外面:— 内面:—	白磁碗IV類
6	畠8 B-2・3	白磁碗	破片	口径(15.4) 器高(4.6)	良好	淡黄色	密	淡黄色	内外面:貫入	被熱痕 白磁碗IV類
7	畠8 B-1	白磁碗	破片	口径(16.4) 器高(5.1)	良好	灰白色	密	灰白色	外面:体部下露胎、貫入 内面:貫入	白磁碗IV類
8	畠9 A-4	白磁碗	破片	口径(15.3) 器高(2.0)	良好	灰白色	密	灰白色	外面:— 内面:—	白磁碗V-4類
9	畠8 B-2	白磁碗	破片	口径(16.6) 器高(4.5)	良好	灰白色	密	淡黄色	外面:体部下露胎、貫入 内面:貫入	白磁碗IV-3a類
10	畠8 C-1	白磁碗	破片	器高(3.7) 底径(5.8)	良好	灰白色	密	灰白色	外面:体部下~底部露胎、削り出し高台、 貫入 内面:蛇の目釉剥、貫入	白磁碗IV類
11	畠8・1面 A-1	陶器 合子	破片	口径(3.2) 器高(2.6) 胴径(5.4)	良好	灰黄色	密	灰オリーブ 色	外面:貫入 内面:体部下露胎、貫入	古瀬戸前II期
12	畠8・0面 B-3・C-1	瓦質土器 火鉢	破片	口径(46.2) 器高(6.1) 胴径(48.6)	良	黒灰色	密	—	外面:回転ナデ、肩部菊花文スタンプ4個 以上 内面:回転ナデ	内外面黒漆?
13	畠9 A-2	瓦質土器 火鉢	底部 破片	器高(3.3) 底径(30.0)	やや良	淡灰色~ 黒灰色	密	—	外面:回転ナデ、底部砂付着 内面:回転ナデ	
14	畠8 B-1	瓦質土器 搦鉢	破片	口径(24.8) 器高(5.4)	良	灰色	密 砂粒	—	外面:回転ナデ 内面:口縁部回転ナデ、体部5条単位の搦目	
15	畠9 A-4	瓦質土器 搦鉢	破片	口径(22.9) 器高(4.5)	良	暗灰白色	密	—	外面:回転ナデ 内面:口縁部回転ナデ、体部5条単位の搦目	
16	畠9 A-3	瓦質土器 搦鉢	破片	口径(23.0) 器高(4.4)	良	淡灰色~ 黒灰色	密	—	外面:回転ナデ 内面:口縁部回転ナデ、体部5条単位の搦目	
17	畠8 A-2・B-1・2	瓦質土器 搦鉢	破片	口径(24.0) 器高(4.3)	良	暗灰白色	密	—	外面:回転ナデ 内面:口縁部回転ナデ、体部8条単位の搦目	
18	畠8 B-2	土師質 土器 耳皿	2/3	口径:8.3 器高(3.4) 底径:4.5	良	黄灰白色	密 砂粒	—	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面:回転ナデ	内底面煤?付着
19	畠9 A-2	土師質 土器 小皿	2/3	口径:8.1 器高:1.7 底径:5.0	良	灰褐色	密 石英・砂粒	—	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
20	畠9 A-2	土師質 土器 小皿	2/3	口径(7.6) 器高:1.5 底径(4.1)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	—	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
21	畠9 A-2	土師質 土器 小皿	2/3	口径(8.1) 器高:1.5 底径(4.4)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	—	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
22	畠9 A-2	土師質 土器 小皿	ほぼ 完形	口径(7.8) 器高:1.6 底径:5.0	良	灰褐色	密 石英・白色粒	—	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面:回転ナデ	
23	畠9 A-2	土師質 土器 小皿	完形	口径:7.5 器高:1.4 底径:4.6	良	黄灰白色	密 雲母・砂粒	—	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り→板状圧痕 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
24	畠9 A-1	土師質 土器 小皿	2/3	口径(7.1) 器高:1.5 底径(4.3)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	—	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面:回転ナデ	
25	畠9 A-2	土師質 土器 小皿	完形	口径:7.5 器高:1.6 底径:4.9	良	灰褐色	密 石英・白色粒	—	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
26	畠9 A-2	土師質 土器 小皿	2/3	口径(7.7) 器高:1.7 底径(5.2)	やや良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	—	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	

27	畠9 A-2	土師質 土器 小皿	1/2	口径(7.2) 器高: 1.1 底径(5.3)	良	灰褐色	密 砂粒	—	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ
28	畠9・2面 A-2	土師質 土器 小皿	ほぼ 完形	口径: 7.7 器高: 1.4 底径: 5.0	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 白色粒	—	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面: 回転ナデ
29	畠9 A-2	土師質 土器 小皿	ほぼ 完形	口径: 7.7 器高: 1.5 底径: 4.5	良	橙褐色~ 黄灰白色	密 砂粒	—	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面: 回転ナデ

第157表 4区畠跡出土金属製品観察表(第322図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	外径(mm)	孔径(mm)	鍍厚(mm)	その他計測値(mm)	重量(g)	備考
30	畠9 B-3	古銭	完形	銅	23	7	1		1.9	熙寧元寶 北宋1068年初鑄
31	畠9 B-3	古銭	完形	銅	23	6	1		2.7	元豊通寶 北宋1078年初鑄
32	畠9 B-3	古銭	完形	銅	24	6	1		2.4	紹聖元寶 北宋1094年初鑄 模鑄銭?

第158表 5区畠跡出土陶磁器・土器観察表(第327図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法 量 (cm)	焼成	色調	胎土	釉	調整・文様	備考
1	畠8・2面 D-4	青白磁 合子蓋	完形	口径: 4.1 器高: 1.3	良好	白色	密	明緑灰色	外面: 蓮弁文状型押し、口縁部露胎、貫 入 内面: 口縁部~体部露胎、貫入	
2	畠8・2面 C-4	白磁皿	破片	口径(9.2) 器高(2.4)	良好	灰白色	密	灰白色	外面: 貫入 内面: 口縁部軸掻き取り(口禿)	白磁皿Ⅱ類
3	畠1・2面 B-3	青磁碗	破片	器高(3.2)	良好	灰白色	密	灰オリーブ 色	外面: 貫入 内面: 劃花文、貫入	内底面使用痕顕著 龍泉窯系統Ⅰ-2 類
4	畠8・1面 C-3	青磁碗	底部 1/2	器高(1.6) 底径(4.3)	良好	灰色	密	灰オリーブ 色	外面: 蓮弁文?、高台内露胎、削り出し高台 内面:	龍泉窯系統Ⅱ類
5	畦10 構成砂中	白磁皿	底部破片	器高(0.9) 底径(3.6)	良好	灰白色	密	灰白色	外面: 体部下半~底部露胎、貫入 内面: 貫入	内面使用痕 白磁皿Ⅴ類
6	畠8・1面 D-2	白磁皿	底部破片	器高(1.6) 底径(4.0)	良好	灰白色	密	灰白色	外面: 体部下半~底部露胎、貫入 内面: 貫入	白磁皿Ⅴ類
7	畠8・2面 C-3	白磁碗	破片	口径(18.0) 器高(2.4)	良好	灰白色	密	灰白色	内外面: 貫入	白磁碗Ⅳ類
8	畠1・1面 A-4	白磁碗	破片	口径(16.3) 器高(2.2)	良好	灰白色	密	灰白色	内外面: 一	内面使用痕 白磁碗Ⅳ類
9	畠1・1面 B-4	白磁碗	破片	口径(15.6) 器高(2.7)	良好	灰白色	密	浅黄色	内外面: 貫入	被熱痕 白磁碗Ⅴ-3a類
10	畠8・2面 D-4	白磁碗	破片	口径(17.0) 器高(2.4)	良好	灰白色	密	灰白色	内外面: 貫入	白磁碗Ⅳ類
11	畠11・1面	陶器 搦鉢	破片	口径(31.1) 器高(4.1)	良好	黄灰白色	密	暗褐色	外面: 銹釉 内面: 銹釉、6条単位の搦目	瀬戸大窯Ⅰ後期
12	畠8・1面 C-3	瓦質土器 碗	底部破片	器高(1.5) 底径(5.6)	良	灰色~ 灰褐色	密	—	外面: 回転ナデ、貼付高台 内面: 回転ナデ	
13	畦10 構成砂上層	瓦質土器 碗	底部破片	器高(3.8) 底径(9.2)	良	暗灰色~ 灰褐色	密	—	外面: 体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼 付高台 内面: 体部回転ナデ、底部ナデ	内外面底部一部煤 付着
14	畠8・2面 B-3	瓦質土器 碗	底部破片	器高(1.9) 底径(12.7)	良	暗灰色	密	—	外面: 体部回転ナデ、貼付高台 内面: 回転ナデ	
15	畠11・1面	瓦質土器 搦鉢	破片	口径(19.8) 器高(4.8)	良	灰褐色~ 暗灰色	密	—	外面: 回転ナデ 内面: 口縁部飾状工具による沈線、体部5 条単位の搦目	
16	畦10 構成砂上層	瓦質土器 搦鉢	底部破片	器高(2.6) 底径(12.0)	やや良	暗灰白色	密	—	外面: 体部指頭調整→ナデ、底部ナデ 内面: 体部5条単位の搦目、底部ナデ	
17	畦10 構成砂 最下層	土師質 土器 鍋	1/2	口径: 30.6 器高(14.2) 胴径: 28.6	良	灰褐色	密	—	外面: 縦・横ハケメ 内面: 口縁部横ナデ、頸部以下横ハケメ	外面炭化物・煤付 着 内面底部炭化物付 着
18	畠1・2面 A-4	土師質 土器 小皿	完形	口径: 7.7 器高: 1.9 底径: 4.8	良	灰褐色	密 小石粒	—	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	外面底部粘土粒付 着
19	畠1・1面 A-4	土師質 土器 小皿	完形	口径: 8.1 器高: 1.9 底径: 5.3	良	灰褐色	密 石英・白色粒	—	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部弱いナデ	
20	畠1・2面 A-4	土師質 土器 小皿	完形	口径: 7.7 器高: 1.6 底径: 5.0	良	灰褐色	密 白色粒	—	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
21	畠11・2面 A-1	土師質 土器 小皿	完形	口径: 8.0 器高: 1.8 底径: 4.1	良	灰褐色	密	—	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸 切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	内面一部煤付着
22	畠8・2面 D-3	土師質 土器 小皿	破片	口径(7.3) 器高: 1.1 底径(6.0)	良	橙褐色	密	—	外面: 口縁部~体部ナデ、底部指頭押圧→ ナデ 内面: 口縁部~体部ナデ、底部指頭押圧	手捏ね皿

第159表 5区畠跡出土金属製品観察表(第327図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量(g)	備考
23	畦10 構成砂下層	雁又鋸	ほぼ完形	鉄	全長(31) 刃部: 29 茎部(2)	刃部: 40 茎部: 5	刃部: 3 茎部: 3	5	銹化(△)	4	6.8	

24	畦10 構成砂上層	釘	完形	鉄	76	6	6	5	錆化(△)	4	9.8	
----	--------------	---	----	---	----	---	---	---	-------	---	-----	--

第160表 1区SK01出土陶磁器・土器観察表 (第335図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂最下層	磁器 染付皿	底部	器高(1.5) 底径(5.4)	良好	白色	密	外面：高台内一重圏線内「大明年製」崩れ、高台部畳付露胎、削り出し高台 内面：—	肥前 18c後半
2	埋砂最下層	磁器 染付皿	底部	器高(2.5)	良好	白色	密	外面：唐草文?、削り出し高台 内面：意匠不明	肥前 型打ち皿 18c後半
3	埋砂下層	磁器 染付皿	1/2	口径(10.5) 器高(3.2) 底径(5.9)	良好	黄灰白色	密	外面：唐草文、高台内一重圏線内「大明年製」崩れ、高台部畳付露胎・砂付着、貫入、削り出し高台 内面：草花文、貫入	肥前 18c代～幕末
4	埋砂最下層	陶器 碗	破片	口径(9.8) 器高(5.8)	良好	黄灰白色	密	外面：貫入 内面：貫入	肥前 京焼風 18c
5	埋砂下層	土師質 土器 小皿	1/4	口径(10.3) 器高(1.9) 底径(6.4)	やや良	灰褐色	密	外面：口縁部～体部回転ナゲ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナゲ、底部ナゲ	

第161表 1区SK02出土陶磁器・土製品観察表 (第337図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂下層	磁器 赤絵油壺	破片	器高(3.2)	良好	灰色	密	外面：日足文 内面：肩部露胎	
2	埋砂下層	磁器 染付碗	破片	器高(3.1) 底径(4.1)	良好	灰白色	密	外面：網目文、高台部畳付露胎・砂付着、貫入、削り出し高台 内面：貫入	肥前 18c代
3	埋砂下層	磁器 染付皿	破片	器高(2.1) 底径(4.0)	良好	白色	密	外面：高台内露胎、削り出し高台 内面：蛇の目釉剥	肥前 18c前半
4	埋砂下層	磁器 染付皿	破片	器高(2.0) 底径(4.0)	良好	灰白色	密	外面：高台部～底部露胎、削り出し高台 内面：蛇の目釉剥・砂付着	肥前 18c前半
5	埋砂下層	磁器 染付皿	破片	器高(2.3) 底径(7.0)	良好	淡灰白色	密	外面：唐草文、圏線、高台部畳付露胎・砂付着、削り出し高台 内面：圏線区画内唐草文	肥前
6	埋砂下層	磁器 染付猪口	破片	口径(5.0) 器高(3.1)	良好	白色	密	外面：矢羽根文 内面：四方襷文	伊万里 18c前半
7	埋砂下層	磁器 染付蕎麦猪口	破片	口径(7.2) 器高(6.0) 底径(4.8)	良好	白色	密	外面：風景文、高台部畳付露胎、削り出し高台 内面：—	在地産 19c前半幕末
8	埋砂下層	磁器 染付水滴	破片	—	良好	灰白色	密	外面：意匠不明、体部露胎、貫入 内面：露胎	
9	埋砂下層	磁器 染付仏飯器	1/3	器高(3.0) 底径(3.4)	良好	灰白色	密	外面：圏線、高台部畳付露胎、削り出し高台 内面：—	肥前
10	埋砂下層	陶器 壺	破片	器高(3.8) 底径(8.2)	良好	灰色	密	外面：鉄釉、高台外側釉剥、高台部畳付露胎、削り出し高台 内面：鉄釉、体部下半露胎	在地産 18c後半以降
11	埋砂下層	陶器 碗	破片	器高(4.0) 底径(4.3)	良好	茶色	密	外面：灰白色釉、意匠不明、高台部畳付露胎、削り出し高台 内面：暗灰色釉、貫入	陶胎染付 肥前 18c
12	埋砂下層	陶器 大皿	破片	器高(4.6) 底径(10.6)	良好	暗赤灰色	密	外面：鉄釉、高台部畳付露胎、削り出し高台 内面：刷毛目装飾	肥前 17c後半
13	埋砂下層	陶器 壺	破片	口径(8.7) 器高(6.8) 胴径(10.8)	良好	暗赤灰色	密	外面：鉄釉、口縁部釉剥 内面：口縁部釉剥、頸部鉄釉、体部鉄釉	在地産 18c後半以降
14	埋砂下層	陶器 灯明皿 受皿	破片	口径(11.9) 器高(1.4)	良好	茶色	密	外面：鉄釉 内面：鉄釉、口縁部一部露胎	内外面一部煤付着 在地産 18c後半以降
15	埋砂下層	陶器 灯明皿 受皿	1/3	器高(3.0) 底径(3.3)	良好	暗赤灰色	密	外面：鉄釉 内面：鉄釉	内外面煤付着 在地産
16	埋砂下層	陶器 播鉢	破片	器高(5.1) 底径(9.6)	良好	灰褐色	密	外面：鉄釉、体部下半～底部露胎、削り出し高台 内面：鉄釉、播目	在地産 明治?
17	埋砂下層	陶器 播鉢	破片	器高(4.5) 底径(12.6)	良好	灰褐色	密	外面：鉄釉、高台部畳付露胎、削り出し高台 内面：鉄釉、8条単位の播目	在地産 18c後半以降
18	埋砂下層	土錘	完形	長さ: 4.5 幅: 1.6 厚さ: 1.6	良	褐色	密 白色粒		重量: 10.5g

第162表 1区SK02出土石製品観察表 (第337図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
19	埋砂下層	勾玉	3/5	(19)	(9)	(4)	0.7	硬玉	

第163表 1区SK03出土陶磁器・土器観察表 (第339図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂下層	磁器 染付碗	破片	口径(11.6) 器高(5.0)	良好	白色	密	外面：草花文、貫入 内面：四方襷、貫入	肥前 18c後半～19c
2	埋砂下層	磁器 染付小杯	破片	口径(8.2) 器高(3.6)	良好	灰白色	密	外面：雨降り文 内面：—	肥前 18c前半
3	埋砂下層	磁器 染付小皿	破片	口径(9.8) 器高(2.7) 底径(5.2)	良好	白色	密	外面：青磁、高台部畳付露胎・砂付着、削り出し高台 内面：唐草文、見込二重圏線	肥前 18c後半
4	埋砂下層	磁器 壺	破片	器高(1.5)	良好	白色	密	外面：青磁 内面：青磁	肥前?

5	埋砂下層	陶器 小皿	破片	口径(12.9) 器高(2.4)	良好	暗赤灰色	密	外面：鉄釉、体部下半露胎 内面：鉄釉、一部露胎	肥前？ 18c代？
6	埋砂下層	陶器 小皿	1/2	口径(8.3) 器高(1.4) 底径(3.8)	良好	灰褐色	密	外面：口縁部鉄釉、体部～底部露胎 内面：鉄釉	在地産
7	埋砂下層	陶器 大皿	破片	器高(4.1) 底径(10.6)	良好	灰褐色	密	外面：体部下半～底部露胎、削り出し高台 内面：二彩ガラス、鉄絵、貫入	肥前系 17c後半
8	埋砂下層	土師質 土器 小皿	ほぼ完形	口径(7.3) 器高(1.6) 底径(3.9)	良	灰褐色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り→ナデ 内面：回転ナデ	口縁部煤付着
9	埋砂下層	土器 焙烙	破片	口径(34.0) 器高(5.0)	良	橙褐色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、体部横ヘラケズリ 内面：回転ナデ	外面煤付着

第164表 1区SK03出土金属製品観察表(第339図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	外径(mm)	孔径(mm)	鍍厚(mm)	その他計測値(mm)	重量(g)	備考
10	埋砂下層	簪	完形	銅	123	2	2		4.3	二股足 基部耳掻き

第165表 2区SK02出土陶磁器観察表(第343図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	磁器 染付碗	底部	器高(3.0) 底径(4.2)	良好	灰白色	密	外面：青磁、高台内角福、高台部畳付露胎、削り出し高台 内面：見込二重圏線内コンニャク印判五弁花	肥前 18c後半
2	埋砂中	磁器 染付小碗	破片	口径(8.2) 器高(5.2) 底径(3.3)	良好	白色	密	外面：菊花に蝶文、高台部畳付露胎、削り出し高台 内面：見込一重圏線	肥前 幕末
3	埋砂中	磁器 染付蕎麦猪 口	破片	口径(7.7) 器高(3.7)	良好	白色	密	外面：風景文・楼閣 内面：四方櫛	肥前 幕末
4	埋砂上層	磁器 染付皿	破片	器高(1.8) 底径(6.4)	良好	白色	密	外面：高台部畳付露胎、削り出し高台 内面：葡萄文	17c後半
5	埋砂中	磁器 染付皿	底部	器高(2.3) 底径(4.3)	良好	灰白色	密	外面：体部下半・高台部畳付～内部露胎、削り出し高台 内面：見込二重圏線、蛇の目釉剥	砂目積み 肥前 18c前半
6	埋砂中	陶器 皿	底部	器高(2.3) 底径(4.1)	良好	褐色	密	外面：体部下半～底部露胎、削り出し高台、貫入 内面：鉄絵、蛇の目釉剥、貫入	砂目積み 唐津 17c後半

第166表 2区SK04出土陶磁器観察表(第346図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	磁器 染付皿	底部	器高(2.0) 底径(7.6)	良好	灰白色	密	外面：高台部畳付露胎・砂付着、削り出し高台 内面：見込二重圏線内蔓草文？	砂目積み 肥前 17c半ば
2	埋砂中	陶器 皿	底部	器高(2.1) 底径(5.2)	良好	淡灰褐色	密	外面：体部下半一部・高台部～内面露胎、削り出し高台、 貫入 内面：貫入	砂目積み 唐津 17c半ば
3	埋砂中	陶器 大皿	破片	器高(3.6)	良好	淡灰褐色	密	外面：貫入 内面：貫入	砂目積み 唐津 17c代

第167表 2区SK04出土木製品観察表(第346図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	木取り	特徴	備考
4	埋砂中	漆器 椀	破片	口径(11.3) 器高(4.7)		外面：黒漆、梅花文(銀) 内面：朱漆	

第168表 2区SK08出土陶磁器観察表(第351図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	青磁 碗	底部	器高(2.5) 底径(5.5)	良好	白色	密	外面：高台部畳付露胎、削り出し高台 内面：一	砂目積み 肥前 幕末？
2	埋砂中	陶器 碗か鉢	破片	器高(4.1) 底径(4.2)	良好	褐色	密	外面：灰白色釉、体部下半～高台部内面露胎、削り出し高台 内面：灰白色釉	肥前 17c半ば頃
3	埋砂中	陶器 播鉢	破片	器高(4.3) 底径(13.0)	良好	赤褐色	密	外面：体部ナデ、底部回転糸切り 内面：6条単位の播目	肥前系 17c

第169表 3区SK01出土陶磁器観察表(第353図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂上層	磁器 染付碗	1/3	口径(8.4) 器高(5.3) 胴径(8.8) 底径(3.5)	良好	白色	密	外面：半菊花文、高台部露胎、削り出し高台、貫入 内面：見込一重圏線、貫入	肥前 18c前
2	埋砂下層	陶器 播鉢	破片	口径(28.8) 器高(6.0)	良好	灰褐色	密	外面：鉄釉 内面：鉄釉、播目	在地産 18c後半以降

第170表 3区SK02出土陶磁器・土器・土製品観察表(第355図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂最上層	磁器 染付皿	3/4	口径:21.6 器高:4.9 底径:12.8	良好	白色	密	外面:唐草文、高台部露胎、削り出し高台、貫入 内面:見込松竹梅文、貫入	胎土目積 ガラス焼継 伊万里 18c後~19c幕末
2	埋砂最上層	磁器 染付皿	ほぼ 完形	口径:13.8 器高:2.7 底径:8.6	良好	白色	密	外面:唐草文、高台部露胎、削り出し高台 内面:花纹、見込五弁花	ガラス焼継 高台内「イツミヤ」 伊万里 19c幕末
3	埋砂最上層	磁器 染付碗	完形	口径:14.4 器高:4.6 底径:9.8	良好	白色	密	外面:唐草文、高台部~底部下半露胎、蛇の目高台、貫入 内面:見込松竹梅文、貫入	伊万里 19c幕末
4	埋砂最上層	磁器 染付碗	底部 破片	器高(4.5) 底径(4.9)	良好	白色	密	外面:草花文、高台部露胎、削り出し高台 内面:見込一重圈線	肥前 19c前
5	埋砂中	磁器 染付小杯	底部 破片	器高(2.4) 底径:2.7	良好	白色	密	外面:高台部露胎、削り出し高台 内面:風景文	肥前 18c後~19c
6	埋砂中	青磁 皿	底部 破片	器高(1.3) 底径(4.9)	良好	灰褐色	密	外面:高台内一部露胎、削り出し高台、貫入 内面:貫入	16c中頃
7	埋砂最上層	陶器 碗	ほぼ 完形	口径:8.7 器高:5.2 底径:3.0	良好	黄灰白色	密	外面:灰白色釉、高台~高台内部露胎、貫入 内面:灰白色釉、貫入	外面高台内墨書「 光」 高台周り煤?付着 京焼風 18c後半以降
8	埋砂最上層	陶器 碗	1/2	口径(9.7) 器高:7.8 胴径(10.4) 底径(4.4)	良好	灰色	密	外面:緑灰白色釉、体部下端~底部露胎、削り出し高台 内面:緑灰白色釉	在地系・布志名焼 系? 18c後~19c
9	埋砂最上層	陶器 碗	底部 破片	器高:1.9 底径(4.4)	良好	灰褐色	密	外面:露胎 内面:緑灰色釉	胎土目唐津 19c前
10	埋砂中	陶器 碗	底部 破片	器高(1.4) 底径(4.4)	良好	灰褐色	密	外面:高台部露胎、削り出し高台、貫入 内面:貫入	李朝粉青沙器 砂目積
11	埋砂最上層	陶器 花入	体部 ~底部	器高(10.5) 底径(6.3)	良好	灰色	密	銚釉、頸部鉄釉	18c後~19c
12	埋砂最上層	陶器 片口鉢	ほぼ 完形	口径:17.4 器高:9.5 底径:6.8	良好	灰褐色	密	外面:鉄釉、一部露胎、削り出し高台 内面:鉄釉、一部露胎、見込みに3個のトチン痕	肥前系 18c後半以降
13	埋砂最上層	陶器 植木鉢	1/4	口径(25.6) 器高:22.6 底径:16.1	良好	褐色~ 灰褐色	密	外面:草花文貼付、脚3足、底部中央穿孔	焼締陶器 丹波焼 19c中頃
14	埋砂上層	土器 灯明皿受皿	ほぼ 完形	口径:6.6 器高:4.3 底径:4.1	良	褐色	密	底面中央刺突痕	
15	埋砂最上層	土器 油受皿	完形	口径:8.2 器高:1.5 底径:3.8	良	褐色	密	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転系切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	内外面煤付着
16	埋砂最上層	土器 油受皿	完形	口径:8.2 器高:1.5 底径:4.0	良	黒茶色	密 雲母	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部停止系切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	煤付着
17	埋砂最上層	土器 火消壺の 蓋?	1/3	口径(13.8) 器高:3.9	良	灰褐色	密	外面:回転ナデ、つまみ部ナデ 内面:口縁部回転ナデ、天井部ナデ	内面煤付着
18	埋砂上層	土器 火消し壺	底部 破片	器高(7.2) 底径(20.4)	良	黒茶色	密	外面:体部回転ナデ、体部下半~底部ナデ、脚3足 内面:体部回転ナデ、体部下半~底部指頭調整→ナデ	内外面煤付着 18c後半以後
19	埋砂下層	土鍾	完形	長さ:6.6 幅:2.1 厚さ:2.0	良	褐色	密 雲母		重量:26.1g
20	埋砂下層	土鍾	完形	長さ:6.0 幅:1.8 厚さ:1.8	良	暗灰白色	密 雲母・砂粒		重量:19.2g
21	埋砂下層	土鍾	完形	長さ:4.8 幅:1.0 厚さ:1.0	良	黒茶色	密 白色粒		重量:5.3g

第171表 3区SK02出土石器観察表(第355図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	備考
22	埋砂上層	火打石	完形	25	26	22	16.3	玉髓	

第172表 3区SK02出土木製品観察表(第356図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	木取り	特徴	備考
23	埋砂上層	削り下駄	ほぼ 完形	長さ:19.7 幅:7.3 厚さ:3.5	柁目		
24	埋砂上層	漆器 椀	1/2	器高(3.2) 底径:4.6	—	外面:暗茶褐色漆・「丸に萬」紋(銀)3ヶ所? 内面:赤茶漆	

第173表 4区SK01出土陶磁器・土器観察表(第359図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	磁器 染付皿	破片	口径(11.8) 器高:3.4 底径(7.0)	良好	灰白色	密	外面:唐草文、高台内圈線、口縁端部鉄銚、高台部量付露胎、削り出し高台 内面:菊唐草文、見込二重圈線	肥前 18c後半
2	埋砂中	陶器 碗	底部 破片	器高(1.8) 底径(8.1)	良好	灰白色	密	内外面:貫入	志野 17c前半

3	埋砂中	土器 焙烙	破片	口径(29.8) 器高(5.4) 胴径(31.2)	良好	褐色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、体部下半ヘラケズリ 内面：回転ナデ	口縁部穿孔1個
---	-----	----------	----	---------------------------------	----	----	---	------------------------------------	---------

第174表 4区SK02出土陶磁器・土製品観察表(第361図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	磁器 蓋	1/4	口径(9.8) 器高:3.5	良好	灰褐色	密	外面：青磁、貫入 内面：四方櫛・二重圏線、貫入	肥前 18c後半
2	埋砂中	土錘	2/3	長さ(2.9) 幅:0.9 厚さ:0.9	良	橙褐色	密		重量:1.5g

第175表 4区SK02出土木製品観察表(第361図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	木取り	特徴	備考
3	埋砂中	漆器 椀	1/6	器高(4.9)		外面：黒漆、「丸に木瓜」紋(銀) 内面：朱漆	
4	埋砂中	木製品 蓋	1/2	直径:37.6 幅(21.0) 厚さ:1.4	柾目	中央部4.5×6.0cmの方形切れ込み	

第176表 4区SK03出土陶器観察表(第363図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	陶器 碗	底部 1/2	器高(3.2) 底径(4.9)	良好	灰色	密	外面：意匠不明、高台部壘付露胎、削り出し高台、貫入 内面：貫入	陶胎染付 肥前 18c前半

第177表 4区SK04出土陶器観察表(第365図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	陶器 碗	底部 1/2	器高(2.7) 底径(4.9)	良好	灰色	密	外面：意匠不明、高台部壘付露胎、削り出し高台、貫入 内面：貫入	陶胎染付 肥前 18c前半

第178表 5区SK02出土陶磁器観察表(第368図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	磁器 染付碗	底部	器高(1.3) 底径:4.2	良好	白色	密	外面：高台部壘付露胎・砂付着、削り出し高台 内面：見込二重圏線内五弁花	肥前 18c代
2	埋砂中	磁器 染付皿	1/3	口径(13.0) 器高:3.8	良好	白色	密	外面：高台部壘付・高台内一部露胎・砂付着、削り出し高台 内面：意匠不明、蛇の目釉剥・砂付着	肥前 18c前半
3	埋砂中	磁器 染付皿	1/3	口径(11.6) 器高:3.5 底径:4.0	良好	白色	密	外面：体部下～高台部露胎、削り出し高台 内面：意匠不明、蛇の目釉剥・砂付着	肥前 18c前半
4	埋砂中	磁器 染付碗	破片	口径(7.9) 器高(5.8) 胴径(8.6)	良好	白色	密	外面：青磁 内面：四方櫛、見込二重圏線	肥前 18c後半
5	埋砂中	磁器 染付猪口	1/4	口径(8.5) 器高:6.7 底径(6.0)	良好	白色	密	口縁輪花 外面：竹草文、底部露胎 内面：四方櫛、見込二重圏線	在地肥前系 19c
6	埋砂中	磁器 染付仏飯器	脚部	器高(2.2) 底径:3.6	良好	白色	密	外面：壘付露胎・砂付着、削り出し高台	肥前
7	埋砂中	陶器 播鉢	破片	口径(37.3) 器高(6.1)	良好	灰色	密	外面：回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、体部8条単位の播目	関西系

第179表 5区SK03出土陶磁器・土器観察表(第370図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	磁器 染付碗	底部	器高(1.9) 底径(4.3)	良好	淡黄灰白色	密	外面：青磁、高台内角福、壘付露胎、削り出し高台、貫入 内面：見込コンニャク印判五弁花、貫入	伊万里 18c後半
2	埋砂中	磁器 染付碗	底部1/2	器高(2.0) 底径(3.6)	良好	淡灰白色	密	外面：丸文、壘付露胎、削り出し高台 内面：見込岩波文?	焼継有 伊万里 19c幕末
3	埋砂中	磁器 染付碗	底部1/3	器高(1.8) 底径(4.1)	良好	白色	密	外面：青磁、壘付露胎、削り出し高台 内面：見込二重圏線内五弁花	伊万里 18c後半
4	埋砂中	磁器 染付碗	破片	口径(10.2) 器高(1.6)	良好	淡灰色	密	外面：型紙摺り 内面：型紙摺り	19c後半
5	埋砂中	磁器 染付皿	破片	器高(2.3) 底径(9.7)	良好	白色	密	外面：意匠不明、高台内一部露胎、蛇の目高台 内面：花文?	伊万里 18c後半～幕末
6	埋砂中	磁器 染付皿	底部破片	器高(1.0) 底径(7.5)	良好	淡灰白色	密	外面：壘付露胎、高台内一重の圏線、削り出し高台、貫入 内面：楼閣	伊万里 明治?
7	埋砂中	磁器 染付皿	口縁部	口径(8.6) 器高(3.8)	良好	淡灰白色	密	外面：雪輪文 内面：一	伊万里・肥前 18c代
8	埋砂中	磁器 染付小杯	底部	器高(1.6) 底径(3.2)	良好	淡灰白色	密	外面：意匠不明、壘付露胎・砂付着、削り出し高台、貫入 内面：貫入	肥前系 18c後半以降
9	埋砂中	陶器 碗	体部～底 部破片	器高(3.5) 底径(5.5)	良好	灰色	密	外面：意匠不明、壘付露胎、削り出し高台、貫入 内面：貫入	陶胎染付 肥前 18c後半

10	埋砂中	陶器壺	破片	口径(35.0) 器高(5.5) 胴径(36.7)	良好	暗赤灰色	密	外面：灰白色釉、貫入 内面：口頸部灰白色釉、貫入	唐津 17c後半
11	埋砂中	陶器播鉢	底部破片	器高(3.1) 底径(10.6)	良好	赤褐色	密	外面：鉄釉、削り出し高台 内面：鉄釉、8条単位の播目	在地産 18c後半以降
12	埋砂中	土器焙烙	破片	口径(29.7) 器高(5.8)	良好	褐色	密	外面：口縁部回転ナデ、体部ヘラケズリ 内面：回転ナデ	内外面煤付着

第180表 2区SD01出土陶器・土製品観察表(第372図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	陶器碗	破片	器高(3.7) 底径(5.2)	良好	暗灰色	密	外面：緑灰色釉、高台部疊付露胎、削り出し高台、貫入 内面：緑灰色釉、貫入	陶胎染付 肥前 18c
2	埋砂中	鳩笛	破片	長さ(5.0) 高さ(3.7) 幅 :2.6	良	白褐色	密	型合わせ→手捻り成形	中空

第181表 2区SD02出土磁器・土製品観察表(第373図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	磁器染付鉢	破片	口径(15.5) 器高(3.1)	良好	白色	密	口縁輪花、外面：唐草文? 内面：意匠不明	肥前系 18c後半以降
2	埋砂中	土錘	2/3	長さ(4.9) 幅(2.1) 厚さ(1.9)	良	灰色	密		重量11.4g

第182表 2区SD03出土陶磁器観察表(第375図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	磁器染付蓋	破片	口径(9.6) 器高(1.8)	良好	白色	密	外面：梅花文 内面：四方襷	肥前系 18c後半以降幕末
2	埋砂中	陶器鉢	破片	口径(12.3) 器高(3.7)	良	灰褐色	密	外面：灰色釉 内面：灰色・暗緑色釉	18c後半以降

第183表 2区SD04出土陶磁器観察表(第377図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	磁器染付碗	1/3	口径(7.9) 器高:5.5 底径(3.2)	良好	白色	密	外面：雷文、高台部疊付露胎、削り出し高台 内面：四方襷、見込一重圏線内環状松竹梅文	肥前系 幕末
2	埋砂中	磁器染付皿	破片	口径(9.5) 器高:1.7 底径(5.0)	良	白色	密	外面：唐草文?、高台部疊付露胎、削り出し高台、貫入 内面：雪輪草花文、見込二重圏線、貫入	肥前 幕末
3	埋砂中	陶器播鉢	破片	器高(3.9) 底径(12.6)	良	黄灰白色	密	外面：鉄釉、ケズリ、削り出し高台 内面：鉄釉、6条単位の播目	

第184表 4区SD01出土陶器観察表(第379図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	陶器蓋	1/4	口径(8.6) 器高:3.2	良好	灰茶色	密	外面：鉄釉 内面：露胎、かえり部鉄釉	外面自然降灰 在地産 18c後半以降

第185表 5区SD01出土陶磁器製品観察表(第381図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	陶器大皿	底部破片	器高(3.5) 底径(7.7)	良好	灰茶色	密	外面：鉄釉、体部・高台内部露胎、削り出し高台 内面：鉄釉、見込軸刺・砂付着	肥前 17c後~18c前半
2	埋砂中	磁器染付蓋	破片	器高(1.6)	良好	黄灰白色	密	外面：型紙摺り、貫入 内面：貫入	肥前系 幕末以降?

第186表 石列出土磁器・土製品観察表(第383図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	北側	磁器染付碗	破片	口径(10.2) 器高(3.5)	良好	白色	密	外面：風景文 内面：雲文	端反碗 肥前系 幕末
2	北側	磁器花生	底部	器高(3.3) 底径:2.9	良好	白色	密	外面：瑠璃釉、高台疊付露胎・砂付着 内面：露胎	瀬戸・美濃 19c
3	南側	土錘	1/2	長さ(2.3) 幅 :1.0 厚さ:0.9	良	橙褐色	密		重量:1.7g

第187表 1区弥生時代～古代包含層出土陶器・土器・土製品観察表(第384～395図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	E-3-W-5 Ⅲ-③層	土師器 壺	口縁部 1/4	口径(28.2) 器高(7.1)	良	灰褐色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	外面：口頸部横ナデ→櫛状工具による波状文2条 内面：口縁部横ナデ、口縁部横ヘラミガキ	
2	E-3 Ⅲ-③層	土師器 壺	口頸部 1/2	口径(25.2) 器高(13.0)	やや良	黄灰白色	密 石英・砂粒	外面：口縁部横ナデ、頸部横ハケメ・櫛状工具端部による 押引文 内面：口縁部ナデ、頸部指頭調整→ナデ、肩部横ヘラケズリ	
3	W-1 Ⅲ-④層	土師器 壺	口縁～肩 部1/2	口径(20.6) 器高(14.1)	良	褐色～橙褐 色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部ヘラ状工具による圧痕、肩部横 ヘラケズリ	
4	E-2 Ⅲ-④層	土師器 壺	口頸部	口径：21.3 器高(9.8)	良	灰褐色	密	外面：口頸部指頭調整→横ナデ、肩部縦ハケメ 内面：口縁部ナデ、頸部指頭調整→ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
5	E-5-6 Ⅲ-③層	土師器 壺	口頸部 1/2	口径(24.7) 器高(11.8)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面：口頸部横ナデ、頸部縦ハケメ→ナデ・突帯貼付 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整	黒斑
6	E-5 Ⅲ-③層	土師器 壺	口縁～肩 部1/2	口径(15.6) 器高(10.4)	やや良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部ヘラ状工具端部による列点文 内面：口頸部横ナデ、頸部指頭調整、肩部横ヘラケズリ	内外面肩部煤付着
7	W-2 Ⅲ-④層	土師器 壺	口頸部 1/6	口径(16.9) 器高(7.9)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部指頭調整	
8	E-3 Ⅲ-③層	土師器 壺	口頸部 1/2	口径(14.8) 器高(7.9)	良	灰褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部櫛状工具端部による羽状文 内面：口頸部横ナデ、頸部指頭調整→ナデ、肩部横ヘラケズ リ	
9	E-3 Ⅲ-③層	土師器 壺	口頸部 1/3	口径(12.2) 器高(4.4)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	内外面：横ナデ	内面口縁部一部煤 付着
10	E-1 Ⅲ-③層	土師器 壺	口頸部 1/3	口径(13.0) 器高(7.7)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面：口頸部横ヘラミガキ、肩部横ヘラケズリ→横ヘラミ ガキ	黒斑
11	E-2 Ⅲ-③層	土師器 直口壺	口縁～体 部1/2	口径：11.1 器高(14.0) 胴径(17.3)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面：口頸部横ナデ、口縁部縦ヘラミガキ、頸部以下縦・ 横ハケメ、肩部櫛状工具による波状文 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調整	
12	W-2 Ⅲ-③層	土師器 裝飾壺	破片	器高(6.3) 胴径(16.0)	良	灰褐色～黒 茶色	密 雲母・白色粒	外面：ハケメ→櫛状工具による直線文2条・貝殻腹線によ る列点文2条・竹管文2条 内面：横ヘラケズリ	黒斑
13	E-1 Ⅲ-②層	土師器 壺	口頸部 1/3	口径(17.0) 器高(7.7)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：横ヘラミガキ 内面：口頸部横ヘラミガキ、頸部以下指頭調整→横ヘラケ ズリ	
14	E-2 Ⅲ-③層	土師器 裝飾壺	破片	器高(3.5)	良	褐色	密 白色粒	外面：櫛状工具による直線文3条・爪形文・陰刻渦文・櫛状 工具による列点文 内面：横ヘラケズリ	内外面赤彩
15	E-3 Ⅲ-②層	土師器 壺	破片	口径(21.6) 器高(3.0)	良	灰褐色	密	外面：口縁部ナデ→竹管文施文の円形浮文貼付 内面：横ナデ→横ヘラミガキ	
16	W-6 Ⅲ-②層	土師器 壺	破片	器高(3.6)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	内外面：横ナデ	外面煤付着 搬入品？
17	W-2 Ⅲ-③層	土師器 壺	底部破片	器高(4.7) 底径(10.7)	良	褐色	密 角閃石・石 英・白色粒	外面：ヘラケズリ→ナデ 内面：ヘラケズリ	
18	W-6 Ⅲ-③層	土師器 壺	底部破片	器高(6.3) 底径(3.0)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面：縦ハケメ 内面：縦ヘラケズリ	
19	E-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部2/3	口径：15.2 器高(15.6) 胴径(21.1)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部櫛状工 具端部による列点文3個以上 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
20	E-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(13.0) 器高(13.5) 胴径(19.4)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：口縁部横ハケメ、頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	外面煤付着
21	E-4 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(14.4) 器高(12.6)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁～肩部横ナデ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
22	E-5 Ⅲ-②層	土師器 甕	完形	口径：15.7 器高：29.6 胴径：24.5	良	黄灰白色	密 砂粒	外面：口縁～肩部横ナデ、体部横・斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下指頭調整→横・斜めヘラケ ズリ	外面煤多量付着
23	E-4 Ⅲ-②層	土師器 甕	ほぼ完形	口径(16.0) 器高(26.8) 胴径(23.0)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調 整→ヘラケズリ	外面炭化物・煤付 着
24	E-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	ほぼ完形	口径：14.3 器高：22.9 胴径(20.1)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部櫛状工 具端部による列点文4個以上 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→横ハケメ	内面体部・外面煤 付着
25	E-5 Ⅲ-③層	土師器 甕	1/2	口径：13.8 器高(22.6) 胴径(20.4)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→横・縦ヘラケズリ	外面煤付着
26	E-4 Ⅲ-③層	土師器 甕	ほぼ完形	口径(14.4) 器高(24.0) 胴径(24.2)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整、体部横ヘラケズリ、 体部下指頭調整→横ヘラケズリ	外面体部下煤付 着
27	E-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/4	口径(15.4) 器高(23.3) 胴径(21.6)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工 具端部による波状文 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部中位以下指 頭調整→縦ヘラケズリ	内面底部・外面煤 付着
28	E-4 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(15.0) 器高(13.0) 胴径(19.6)	良	褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下指頭調整→縦・横ハケメ、 肩部ヘラ状工具端部による刺突文2個 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
29	E-6 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部2/3	口径(15.2) 器高(15.3) 胴径(21.2)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部ヘラ状工 具による波状文 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整、肩部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
30	E-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(10.8) 器高(7.5)	良	褐色	密 砂粒	外面：口縁部横ナデ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	外面煤付着

31	E-6 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(11.2) 器高(8.7)	良	褐色	密 砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
32	E-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部2/3	口径：11.1 器高(8.4) 胴径(14.0)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部ヘラ状工具 による刺突文1個以上 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
33	E-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口頸部 2/3	口径(10.9) 器高(3.9)	良	褐色	密	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	内外面煤付着
34	E-5 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(14.6) 器高(9.9)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部以下縦・横ハケメ、肩部櫛状工 具による波状文 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ→ナデ	外面体部一部煤付 着
35	E-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(15.8) 器高(9.3)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
36	E-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(14.4) 器高(7.4)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部横ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
37	E-4 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(14.0) 器高(9.5)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
38	E-4 Ⅲ-③層	土師器 甕	破片	口径(13.8) 器高(6.0)	良	暗灰白色	密	外面：口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	口縁部煤付着
39	E-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(21.7) 器高(26.7) 胴径(30.3)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部中位指頭調 整→ヘラケズリ	外面体部下煤付 着
40	W-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	1/3	口径(17.4) 器高(24.5) 胴径(26.8)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調 整→ヘラケズリ	口縁部・外面体部 一部煤付着
41	W-5 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～肩 部1/3	口径(22.0) 器高(10.1)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ→櫛状工具による 直線文・波状文 内面：口頸部指頭調整→ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
42	E-5 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(25.2) 器高(16.5) 胴径(35.4)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒・赤色 粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	黒斑
43	E-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	ほぼ完形	口径(15.0) 器高(19.9) 胴径(19.6)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ、体部下指 頭調整→ヘラケズリ	外面煤付着
44	W-5 Ⅲ-②層	土師器 甕	口頸部 1/2	口径(18.0) 器高(6.3)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：横ナデ、口縁部櫛状工具による直線文→ナデ、肩部 横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
45	W-5 Ⅲ-③層	土師器 甕	口頸部	口径(16.0) 器高(5.7)	良	橙褐色	密 雲母・砂粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内外面煤付着
46	E-1 Ⅲ-①層	土師器 甕	口縁～体 部1/4	口径(17.0) 器高(15.0) 胴径(22.2)	良	褐色	密 角閃石・雲母 ・石英・砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
47	E-4 Ⅲ-③層	土師器 甕	破片	口径(16.4) 器高(15.0)	良	灰褐色	密	外面：口頸部横ナデ、体部横ハケメ、肩部櫛状工具端部に よる羽状文 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
48	E-5 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/4	口径(14.0) 器高(17.9) 胴径(20.0)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調 整→横ヘラケズリ	外面煤付着
49	E-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/4	口径(14.1) 器高(17.8) 胴径(20.3)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部横ハケメ、肩部櫛状工具による 直線文 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
50	E-4 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(14.8) 器高(14.2) 胴径(23.2)	良	灰茶色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下横ハケメ、肩部櫛状工具端 部による列点文2個以上 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面：煤付着
51	E-5 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(14.2) 器高(9.0)	良	黄灰白色	密 雲母・白色粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下横ハケメ、肩部櫛状工具端 部による列点文2個以上 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
52	E-5 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(15.0) 器高(7.4)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部横ハケメ→櫛状工具端部による 列点文3個以上 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整、肩部横ヘラケズリ	
53	E-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～肩 部1/4	口径(14.7) 器高(8.5)	良	灰褐色	密 石英・白色粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部櫛状工具端部による列点 文2個以上、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	
54	E-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口頸部 1/4	口径(23.2) 器高(7.1)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：横ナデ、口縁部櫛状工具による直線文→ナデ 内面：口頸部横ナデ→横ヘラミガキ、頸部以下横ヘラケズ リ	外面一部煤付着
55	E-1 Ⅲ-②層	土師器 甕	口頸部 1/2	口径(19.8) 器高(7.1)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面口縁部煤付着
56	E-6 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部	口径：16.6 器高(10.3) 胴径(20.0)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒多量	外面：口頸部横ナデ、体部縦ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整、頸部以下横ヘラケズリ	内面口縁部～外面 煤付着
57	W-4 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(14.8) 器高(9.2)	良	灰褐色	密 石英・白色粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
58	E-1 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～肩 部2/3	口径(15.6) 器高(11.5)	良	黄灰白色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・斜めハケメ 内面：口頸部横ハケメ→横ナデ、頸部以下指頭調整→横ヘ ラケズリ	外面煤付着
59	E-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(13.4) 器高(11.4)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
60	E-4 Ⅲ-②層	土師器 甕	口頸部 1/2	口径(14.6) 器高(4.9)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
61	W-4 Ⅲ-①層	土師器 甕	口頸部 1/2	口径(16.4) 器高(5.6)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面口縁部工具痕
62	E-4 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(11.4) 器高(8.3)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部ヘラ状 工具による波状文 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	

63	W-3 Ⅲ-①層	土師器 甕	口頸部 1/3	口径(16.4) 器高(4.7)	良	橙褐色	密 雲母・石英	外面：指頭調整→ナデ 内面：口頸部指頭調整→ナデ、肩部横ヘラケズリ	
64	E-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	ほぼ完形	口径：15.1 器高(13.5) 胴径：20.5	良	褐色	密 角閃石・雲母 ・石英	外面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内外面煤付着
65	W-6 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～肩 部1/4	口径(18.0) 器高(7.1)	良	橙褐色	密 雲母・白色粒	外面：指頭調整→ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整→ナデ	外面煤付着
66	E-6 Ⅲ-③層	土師器 鉢?	ほぼ完形	口径(16.4) 器高： 5.0	良	灰褐色	密 角閃石・雲母 ・石英・砂粒	外面：口縁部ハケメ→ナデ、体部指頭調整→ナデ、底面ヘ ラケズリ 内面：ハケメ	内外面煤付着
67	E-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	ほぼ完形	口径：14.4 器高：19.5 胴径：18.9	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：指頭調整・ハケメ→ナデ 内面：口頸部指頭調整→ナデ、体部横ヘラケズリ→指頭調 整	内外面底部煤付着
68	E-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	ほぼ完形	口径(20.6) 器高(30.0) 胴径(32.2)	良	褐色	密 雲母・石英(φ 8mm)・砂 粒	外面：口頸部横ナデ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横・縦ヘラケズリ、底部指頭調 整→ヘラケズリ	外面煤付着
69	E-1 Ⅲ-②層	土師器 甕	1/2	口径(23.8) 器高(27.5) 胴径(34.0)	やや良	褐色	密 雲母・石英 (φ5mm)・ 小石粒・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部粗い縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
70	E-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	ほぼ完形	口径(24.4) 器高：33.2 胴径(34.8)	良	褐色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横・縦ヘラケズリ、底面指頭調 整	
71	E-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	ほぼ完形	口径(26.2) 器高：24.3 胴径(28.2)	良	褐色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下粗い縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面一部煤付着
72	W-3 Ⅲ-②層	土師器 甕	ほぼ完形	口径：20.5 器高(13.8) 胴径：19.8	良	黒茶色	密 雲母多量・石 英・砂粒	外面：指頭調整・ヘラケズリ→ナデ 内面：口頸部指頭調整→ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズ リ	外面煤付着
73	E-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	ほぼ完形	器高(21.5) 胴径(22.9)	良	褐色	密 雲母多量・石 英・砂粒	外面：頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面：頸部横ナデ、頸部以下横・縦ヘラケズリ	内外面体部煤付着
74	W-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径：19.9 器高(15.5) 胴径(25.0)	やや良	褐色	密 石英・白色 粒・小石粒	外面：口頸部横ナデ、体部粗い縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	内外面煤付着
75	E-4 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(35.2) 器高(13.4)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部以下指頭調整→横ヘラケズリ	内外面煤付着
76	W-2 Ⅲ-①層	土師器 甕	口縁～体 部1/4	口径(26.0) 器高(9.1)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
77	W-4 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(35.4) 器高(11.4)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整、頸部以下横ヘラケズ リ	外面煤付着
78	E-5 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(28.4) 器高(12.0)	良	褐色～黒茶 色	密 砂粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→縦・横ヘラケズリ	内面煤付着 搬入品
79	E-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(26.7) 器高(15.0)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦ハケメ、把手指頭調整→ナデ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
80	E-5 Ⅲ-②層	土師器 甕	破片	器高(10.5) 胴径(20.5)	良	褐色	密 雲母・石英	外面：縦・横ハケメ 内面：横ヘラケズリ・ヘラ状工具端部による調整	外面煤付着 搬入品?
81	E-2 Ⅲ-③層	土師器 裝飾甕	破片	器高(3.0)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面：竹管文2条・ヘラ状工具端部による列点文3条・櫛状 工具による直線文2条 内面：横ヘラケズリ	
82	W-1 Ⅲ-③層	土師器 裝飾甕	破片	器高(2.6)	良	黄灰白色	密 白色粒	外面：ヘラ状工具による沈線区画の貝殻腹縁による列点文 2条 内面：ヘラケズリ	
83	E-1 Ⅲ-③層	土師器 裝飾甕	破片	器高(4.5)	良	褐色	密	外面：櫛状工具による直線文・貝殻腹縁による列点文 内面：ヘラケズリ	
84	E-3・W-1 Ⅲ-③層	土師器 裝飾壺	体部破片	器高(1.8)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面：断面三角突帯、ナデ→爪形文2条 内面：ナデ	外面赤彩
85	E-6 Ⅲ-②層	土師器 甕	底部1/3	器高(4.0) 底径(5.4)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：ナデ 内面：指頭調整→ヘラケズリ	
86	E-6 Ⅲ-②層	土師器 甕	底部	器高(4.3) 底径(3.2)	良	黒茶色	密 雲母	外面：底部指頭調整、底面ヘラケズリ 内面：指頭調整→ハケメ	黒斑 内外面煤付着
87	E-1 Ⅲ-②層	土師器 甕	底部	器高(2.5) 底径(3.6)	良	灰褐色	密 雲母・石英	外面：ハケメ 内面：指頭調整→ヘラケズリ	外面煤付着
88	W-2 Ⅲ-③層	土師器 注口土器	注口部	口径： 1.4 注口長(4.7)	良	灰褐色～褐 色	密	外面：長軸方向のハケメ 内面：ヘラケズリ	
89	E-2 Ⅲ-③層	土師器 注口土器	注口部	口径： 1.8 注口長(5.3)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面：長軸方向のヘラミガキ 内面：ヘラケズリ	外面一部煤付着
90	E-5 Ⅲ-③層	土師器 小型丸底壺	ほぼ完形	口径(9.4) 器高： 8.4 胴径(10.4)	良	橙褐色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	外面：口縁部横ナデ、頸部以下縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整、体部横ヘラケズリ、 底部指頭調整→ヘラケズリ	
91	W-6 Ⅲ-②層	土師器 小型丸底壺	ほぼ完形	口径(7.2) 器高： 7.0 胴径： 8.2	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部縦ヘラミガキ、体部縦・横ハケメ、底部指頭 調整→ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→ヘラケズリ	
92	E-4 Ⅲ-③層	土師器 小型丸底壺	1/3	口径(8.8) 器高(6.6) 胴径(8.5)	良	灰茶色	密	外面：指頭調整・ハケメ→横ヘラミガキ 内面：口縁～肩部指頭調整→横ヘラミガキ、体部指頭調整 →横ヘラケズリ	
93	W-6 Ⅲ-③層	土師器 小型丸底壺	1/3	口径(8.0) 器高(5.2) 胴径(8.8)	良	褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部斜めハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ・指頭調整	外面煤付着
94	W-3 Ⅲ-②層	土師器 小型丸底壺	1/3	口径(10.8) 器高(8.2) 胴径(12.0)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：ハケメ→縦・横ヘラミガキ 内面：口頸部横ヘラミガキ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	

95	W-5 Ⅲ-②層	土師器 小型丸底壺	1/4	口径(66) 器高(53) 胴径(7.5)	良	黒茶色	密 雲母・砂粒	外面：縦ハケメ→縦・横ヘラミガキ 内面：口頸部横ヘラミガキ、体部横ヘラケズリ	
96	E-4 Ⅲ-②層	土師器 小型丸底壺	1/3	口径(87) 器高(60) 胴径(8.0)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	内外面：指頭調整→横ヘラミガキ	
97	E-5 Ⅲ-②層	土師器 小型丸底壺	1/3	口径(86) 器高(7.3) 胴径(8.1)	良	褐色	密 雲母・石英多量	外面：口頸部横ナデ、体部粗い縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	
98	W-4 Ⅲ-②層	土師器 小型丸底壺	1/4	口径(108) 器高(8.3) 胴径(8.7)	やや良	灰茶色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部磨耗調整不明、頸部以下縦ハケメ 内面：口頸部磨耗調整不明、体部横ヘラケズリ	
99	E-4 Ⅲ-③層	土師器 小型丸底壺	2/3	口径(88) 器高(6.4) 胴径(6.5)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒多量	外面：縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面：口縁部指頭調整→縦ハケメ、体部横ヘラケズリ	
100	E-2 Ⅲ-③層	土師器 小型丸底壺	完形	口径(9.3) 器高(6.9) 胴径(5.5)	良好	褐色～橙褐色	密	外面：縦・横ヘラミガキ 内面：口縁部横ナデ、体部指頭調整	
101	E-4 Ⅲ-③層	土師器 小型丸底壺	1/4	口径(5.8) 器高(4.7) 胴径(4.1)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：縦・横ヘラミガキ 内面：横ヘラケズリ・横ナデ	
102	W-5 Ⅲ-②層	土師器 短頸壺	1/3	口径(4.4) 器高(4.0) 胴径(7.0)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：口縁部～肩部横ヘラミガキ、体部横ハケメ→横ヘラミガキ 内面：口頸部横ヘラミガキ、体部指頭調整→横ヘラミガキ	
103	E-2 Ⅲ-②層	土師器 鉢	破片	口径(15.2) 器高(3.9)	良	褐色	密 雲母・石英	内外面：横ヘラケズリ	口縁部穿孔
104	W-6 Ⅲ-③層	土師器 小型丸底鉢	1/4	口径(8.8) 器高(3.6)	良	橙褐色	密 雲母・白色粒	内外面：横ヘラミガキ	
105	E-4 Ⅲ-②層	土師器 小型丸底鉢	1/4	口径(12.6) 器高(5.0)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：口縁部～肩部横ヘラミガキ、体部縦ヘラケズリ→横ヘラミガキ 内面：口頸部横ヘラミガキ、体部指頭調整→縦ヘラミガキ	外面体部煤附着
106	E-6 Ⅲ-③層	土師器 蓋	つまみ部	直径(3.6) 器高(3.3)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：指頭調整・ヘラケズリ→ナデ 内面：指頭調整・ヘラケズリ	内外面煤附着
107	E-6 Ⅲ-③層	土師器 蓋	1/4	口径(7.4) 器高(3.1)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：天井部縦ハケメ、つまみ部ナデ 内面：天井部指頭調整	つまみ部中心穿孔 1個 外面煤附着
108	E-4 Ⅲ-②層	土師器 高坏	5/8	口径(14.6) 器高(14.7) 底径(11.5)	良	褐色	密 雲母多量・石 英・砂粒	外面：口縁部～脚柱部横・縦ヘラミガキ、裾部指頭調整→横ヘラミガキ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ・横ナデ 接合部円盤充填法、脚柱部二方円形透し	内外面坏底部剥離
109	W-3 Ⅲ-②層	土師器 高坏	5/8	口径(16.8) 器高(12.3) 底径(10.4)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：ハケメ→横ヘラミガキ 内面：坏部横ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ 接合部円盤充填法、脚部二方円形透し	内面脚部以外赤彩
110	E-1 Ⅲ-③層	土師器 高坏	2/3	口径(15.6) 器高(9.2) 底径(15.2)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒多量	外面：ハケメ→縦・横ヘラミガキ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部指頭調整→横ハケメ・横ヘラミガキ 接合部円盤充填法	外面煤附着
111	E-4 Ⅲ-③層	土師器 高坏	1/2	器高(10.9) 底径(11.0)	良	褐色	密 雲母・石英	外面：ハケメ→横ヘラミガキ 内面：坏部横ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部指頭調整・ハケメ→横ナデ 接合部円盤充填法	黒斑
112	E-5 Ⅲ-③層	土師器 高坏	坏部1/4	口径(14.4) 器高(4.7)	良	黒茶色	密 雲母・白色粒	外面：縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面：縦・横ヘラミガキ	黒斑 内外面煤附着
113	E-4 Ⅲ-②層	土師器 高坏	坏部2/3	口径(15.6) 器高(5.8)	やや良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：縦ハケメ→縦・横ヘラミガキ 内面：横・縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	
114	E-4 Ⅲ-②層	土師器 高坏	坏部1/2	口径(15.8) 器高(5.3)	良	褐色	密 雲母多量・石 英	外面：縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面：縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	
115	E-4 Ⅲ-②層	土師器 高坏	坏部	口径(14.8) 器高(5.9)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面：縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	内面口縁部・外面煤附着 破断面磨耗
116	E-1 Ⅲ-②層	土師器 高坏	坏部1/2	口径(18.2) 器高(5.1)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面：ハケメ→横・縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	全面赤彩 内外面煤附着
117	E-5 Ⅲ-②層	土師器 高坏	坏部1/2	口径(11.8) 器高(4.3)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：縦ハケメ→横・縦ヘラミガキ 内面：横・縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	内底面・外面剥離 破断面磨耗
118	E-4 Ⅲ-②層	土師器 高坏	坏部1/4	口径(14.8) 器高(5.8)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面：縦ヘラミガキ	
119	W-4 Ⅲ-②層	土師器 高坏	坏部1/4	口径(11.6) 器高(2.7)	良	橙褐色	密 雲母・砂粒	外面：坏部横ナデ、坏底部ヘラケズリ→ナデ 内面：横ナデ・磨耗	
120	E-6 Ⅲ-②層	土師器 高坏	坏部5/8	口径(29.2) 器高(11.4)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部横ヘラミガキ、坏底部ハケメ→横ヘラミガキ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ 接合部円盤充填法	
121	E-4 Ⅲ-②層	土師器 高坏	坏部5/8	口径(17.8) 器高(6.2)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部横ヘラミガキ、坏底部ハケメ→横ヘラミガキ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	外面・内底面煤附着 破断面磨耗
122	E-5 Ⅲ-③層	土師器 高坏	坏部1/4	口径(17.0) 器高(5.0)	良好	褐色	密	外面：縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面：横・縦ヘラミガキ	
123	E-6 Ⅲ-②層	土師器 高坏	坏部1/3	口径(13.5) 器高(4.3)	良	褐色～黒茶色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：指頭調整→ヘラケズリ→ナデ 内面：指頭調整→ハケメ→ナデ	黒斑
124	W-1 Ⅲ-③層	土師器 高坏	坏部1/2	口径(12.9) 器高(5.8)	良	褐色	密 雲母・石英	外面：口縁部横ナデ、坏部指頭調整・ヘラケズリ 内面：ナデ→縦ヘラミガキ	内面一部煤附着
125	E-3 Ⅲ-②層	土師器 高坏	坏部1/4	口径(21.0) 器高(4.4)	良	褐色	密 雲母・白色粒	内外面：横ヘラミガキ	内外面煤附着

126	E-2 Ⅲ-③層	土師器 高坏	坏部	口径:100 器高(9.1)	良好	灰褐色	密 角閃石・雲 母・石英・小 石粒・砂粒	外面:口縁部縦ヘラミガキ、坏底部縦ハケメ→ナデ 内面:坏部ヘラケズリ→ナデ、口縁部上半横ヘラミガキ 接合部円盤充填法	
127	E-4 Ⅲ-③層	土師器 高坏	脚部	器高(8.5) 底径:11.2	良	褐色	密 白色粒	外面:縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面:脚柱部ヘラケズリ、裾部横ハケメ 脚部三方円形透し	
128	W-3 Ⅲ-②層	土師器 高坏	脚部1/2	器高(9.4) 底径(11.6)	やや良	褐色	密 角閃石・白色 粒	外面:ハケメ→縦・横ヘラミガキ 内面:脚柱部ヘラケズリ、裾部横ハケメ 接合部円盤充填法、脚部三方円形透し	外面一部煤付着
129	E-5 Ⅲ-②層	土師器 高坏	脚部2/3	器高(8.3) 底径(10.4)	良	褐色	密 雲母多量・石 英	外面:縦ヘラケズリ→横ヘラミガキ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ナデ 脚部三方円形透し	
130	E-4 Ⅲ-②層	土師器 高坏	脚部5/8	器高(9.3) 底径(10.7)	良	褐色	密	外面:縦・横ヘラミガキ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ 脚部三方円形透し	
131	E-4 Ⅲ-②層	土師器 高坏	脚部2/3	器高(7.9) 底径(11.5)	良	褐色	密 雲母・石英	外面:ハケメ→縦・横ヘラミガキ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ 脚部三方円形透し	
132	E-4 Ⅲ-②層	土師器 高坏	脚部5/8	器高(8.0) 底径:10.6	良	褐色	密 石英・砂粒	外面:縦・横ヘラミガキ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ	
133	E-5 Ⅲ-③層	土師器 高坏	脚部	器高(6.3) 底径: 9.2	良	黄灰白色	密 雲母・砂粒	外面:ハケメ→ヘラミガキ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ	
134	E-5 Ⅲ-③層	土師器 高坏	脚部	器高(5.5) 底径(10.3)	良	黄灰白色	密 雲母・砂粒	外面:縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面:横ヘラケズリ、裾部ナデ	内面裾部赤彩? 内外面一部煤付着
135	W-3 Ⅲ-②層	土師器 高坏	脚部	器高(5.2) 底径(15.4)	良	黄灰白色	密 雲母	外面:指頭調整→ハケメ→縦ヘラミガキ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ	
136	E-3 Ⅲ-②層	土師器 低脚坏	1/3	口径(14.3) 器高: 5.7 底径(7.0)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:坏部横ハケメ、坏底部～脚部横ナデ 内面:坏部横ハケメ、坏底部中心部刺突痕、脚部横ナデ	外面坏部煤付着
137	E-6 Ⅲ-③層	土師器 低脚坏	1/3	口径(12.9) 器高: 5.0 底径(5.1)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:坏部指頭調整→縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚部横ナ デ 内面:坏部横ヘラミガキ、脚部横ナデ	内外面煤付着
138	E-4 Ⅲ-②層	土師器 低脚坏	ほぼ完形	口径:12.3 器高: 5.2 底径: 4.1	良	橙褐色	密 石英・砂粒	外面:坏部横ヘラミガキ、脚部指頭調整・ナデ 内面:坏部ハケメ→横ヘラミガキ、脚部横ナデ	
139	E-4 Ⅲ-②層	土師器 低脚坏	1/3	口径(13.6) 器高: 4.1 底径(4.0)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部ヘラミガキ、脚部横ナデ	全面赤彩 内面脚部線刻5条 内面坏部被熱痕
140	E-5 Ⅲ-②層	土師器 低脚坏	1/3	口径(11.8) 器高: 4.2 底径: 4.2	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚部ヘラミガキ 内面:坏部縦ヘラミガキ、脚部指頭調整・ナデ	脚部内面以外赤彩
141	E-1 Ⅲ-①層	土師器 低脚坏	5/8	口径:14.2 器高: 4.4 底径: 4.7	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	内外面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	内外面坏部被熱痕
142	W-3 Ⅲ-②層	土師器 低脚坏	ほぼ完形	口径:14.3 器高: 4.3 底径: 3.9	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:坏部縦ハケメ→横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	
143	W-3 Ⅲ-②層	土師器 低脚坏	1/3	口径(17.6) 器高: 4.1 底径(5.0)	良	褐色	密 雲母・石英	外面:坏部横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部横ヘラミガキ、脚部横ヘラミガキ・ナデ	外面煤付着
144	W-2 Ⅲ-③層	土師器 鼓形器台	脚部1/5	器高(7.2) 底径(17.5)	やや良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:横ヘラミガキ、脚部櫛状工具による直線文2条 内面:横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	
145	E-2 Ⅲ-③層	土師器 鼓形器台	破片	器高(7.3)	良好	褐色	密 角閃石・石 英・白色粒	外面:接合部縦・横ヘラミガキ→櫛状工具による沈線区画 の櫛状工具端部による列点文、脚部横ハケメ 内面:接合部～脚部横ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ	外面赤彩 黒斑
146	E-4 Ⅲ-③層	土師器 鼓形器台	1/2	口径(16.4) 器高:10.3 底径(15.6)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:横ナデ 内面:受部横ヘラミガキ、接合部～脚部横ヘラケズリ、脚 端部横ナデ	
147	E-5 Ⅲ-②層	土師器 鼓形器台	1/2	口径(16.7) 器高:10.2 底径(14.7)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒・砂粒	外面:横ナデ 内面:受部横・縦ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	
148	E-6 Ⅲ-③層	土師器 鼓形器台	受部～接 合部	口径:17.5 器高(6.3)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面:横ナデ、受部縦・横ヘラミガキ 内面:受部ヘラミガキ、接合部横ナデ、脚部横ヘラケズリ	
149	E-6 Ⅲ-③層	土師器 鼓形器台	1/2	口径(11.0) 器高(6.4)	良	灰褐色	密 砂粒	外面:横ナデ、受部、脚部縦ヘラミガキ 内面:受部横・斜めヘラミガキ、接合部以下横ヘラケズリ	
150	E-4 Ⅲ-②層	土師器 鼓形器台	脚部破片	器高(5.1) 底径(12.0)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面:横ナデ 内面:受部横ナデ、脚部斜めヘラケズリ、脚端部横ナデ	
151	E-5 Ⅲ-③層	土師器 小型器台	脚部1/2	器高(4.7) 底径(11.4)	良	黄灰白色	密 砂粒	外面:縦ハケメ→縦ヘラミガキ 内面:受部ナデ、脚部横ヘラケズリ・横ハケメ	内外面赤彩
152	W-3 Ⅲ-②層	土師器 小型器台	5/8	口径(8.2) 器高: 5.0 底径(5.3)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒多量	外面:縦ハケメ 内面:受部指頭調整・横ハケメ→ナデ、脚部指頭調整・ヘラ ケズリ 接合部円盤充填法	黒斑 接合部未穿孔
153	E-6 Ⅲ-②層	製塩土器	口縁部 1/4	口径(10.4) 器高(6.9)	やや良	褐色	やや粗 雲母・石英・ 砂粒	外面:指頭調整→ナデ 内面:指頭調整	
154	E-3 Ⅲ-①層	製塩土器	破片	口径(12.0) 器高(3.1)	やや良	橙褐色	やや粗 砂粒	外面:指頭調整 内面:指頭調整・布目痕	
155	W-3 Ⅲ-②層	製塩土器	破片	口径(10.0) 器高(4.0)	やや良	灰褐色	やや粗 砂粒	内外面:指頭調整→ナデ	
156	E-3 Ⅲ-②層	製塩土器	破片	口径(10.0) 器高(2.7)	やや良	褐色	やや粗	内外面:指頭調整→ナデ	
157	W-3 Ⅲ-②層	製塩土器	破片	口径(7.8) 器高(3.0)	やや良	灰褐色	やや粗	内外面:指頭調整→ナデ	
158	E-4 Ⅲ-③層	土師器 小壺	2/3	口径(4.5) 器高:10.4 胴径(6.0) 底径(2.9)	良好	赤褐色	密 雲母・白色粒	外面:口縁部～体部縦ハケメ→ヘラケズリ、底面ナデ 内面:体部縦ヘラケズリ	蛸壺 内外面赤彩

159	E-2 Ⅲ-③層	手捏ね 土器	完形	口径: 3.4 器高: 2.8 底径: 1.0	良好	褐色	密	内外面: 指頭調整	外面一部煤付着
160	E-2 Ⅲ-②層	手捏ね 土器	底部1/3	器高(2.0) 底径(2.6)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	内外面: 指頭調整→ナデ	
161	E-1 Ⅲ-②層	手捏ね 土器	脚部1/3	器高(2.0) 底径(4.8)	良	橙褐色	密	内外面: 指頭調整→ナデ	
162	E-2 Ⅲ-②層	手捏ね 土器	脚部1/2	器高(2.0) 底径(3.6)	良	橙褐色	密	内外面: 指頭調整→ナデ	
163	E-1 Ⅲ-②層	手捏ね 土器	脚部1/4	器高(1.7) 底径(2.4)	良	黄灰白色	密	外面: ナデ 内面: 磨耗調整不明	
164	W-3 Ⅲ-②層	土師器 鼓形器台	破片	器高(4.2)	良	灰褐色	密 石英・白色粒	外面: 横ナデ、受部鑿状工具による直線文→ナデ 内面: 横ヘラミガキ	接合部穿孔2個以上
165	E-2 Ⅲ-②層	土師器 鉢?	把手部	幅: 2.5~2.0	良	橙褐色	密	外面: 縦ヘラミガキ、上面・内側面ナデ	全面赤彩 穿孔(孔径8mm) 刺突痕(孔径5mm)
166	E-4 Ⅲ-②層	土製品 管玉	1/2	長さ(1.5) 幅: 0.8 厚さ: 0.8	やや良	赤褐色	密	外面: ナデ	重量: 0.6g 孔径3mm
167	W-1 Ⅲ-①層	土師器 皿	5/8	口径(14.8) 器高(3.7) 底径(8.7)	良	灰褐色	密	外面: 口縁~体部回転ナデ、体部下半ヘラケズリ、底部回 転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	内外面赤彩 外面底部墨書「奥」
168	W-5 Ⅲ-②層	土師器 皿	1/4	口径(15.4) 器高(2.8) 底径(11.9)	良	灰褐色	密	外面: 口縁部~体部横ナデ、底部ヘラケズリ 内面: 横ナデ	内外面赤彩 外面底部墨書「既」
169	W-5 Ⅲ-①層	土師器 皿	破片	器高(1.0)	良好	灰褐色	密	外面: ナデ、貼付高台 内面: ナデ	内外面赤彩 外面高台内墨書
170	E-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	破片	器高(4.6)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面: 横ハケメ 内面: 横ヘラケズリ	外面肩部線刻
171	W-1 Ⅲ-②層	土師器 皿	破片	—	良好	橙褐色	密	外面: 底部回転糸切り 内面: ナデ	外面底部線刻「×」
172	E-4 Ⅲ-①層	土師器 環	底部	器高(1.5) 底径(6.6)	良	橙褐色	密 雲母・白色粒	外面: 指頭調整→ナデ、貼付高台 内面: 指頭調整→ナデ	内外面赤彩 内外面底面線刻
173	E-4 Ⅲ-①層	土師器 皿	2/3	口径(14.4) 器高(2.6) 底径(11.8)	良	橙褐色	密 雲母・白色粒	外面: 口縁部~体部横ヘラミガキ、底部ヘラケズリ→ヘラ ミガキ 内面: 口縁~体部横ナデ→暗文、底部指頭調整→ナデ→暗 文	内外面赤彩
174	W-2 Ⅲ-①層	土製品 支脚	脚部1/2	器高(7.2) 底径(10.0)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒多量	外面: 脚部縦・横ヘラケズリ→布目痕、脚端部ナデ、底面 ヘラケズリ	
175	E-3 Ⅲ-①層	土製品 支脚	脚部1/3	器高(8.6) 底径(13.3)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面: 脚部縦ヘラケズリ・指頭調整→ナデ、底面布目痕	
176	E-3 Ⅲ-②層	土師器 甕	ほぼ完形	器高(59.0) 広口部 径: 37.8	良	灰褐色	密 砂粒	外面: 体部縦ハケメ、把手部ナデ 内面: 体部横・縦ヘラケズリ、広口部横ハケメ	
177	W-4 Ⅲ-②層	土師器 短頸壺	口頸部 1/4	口径(9.4) 器高(2.8)	良	赤褐色	密 雲母・砂粒	外面: 横ヘラミガキ 内面: 口頸部横ヘラミガキ、肩部横ヘラケズリ	内外面赤彩
178	E-5 Ⅲ-②層	土師器 鉢	破片	口径(19.8) 器高(5.1)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 縦ハケメ→ヘラミガキ 内面: 縦・横ヘラミガキ	外面赤彩
179	W-5 Ⅲ-②層	土師器 高坏	接合部	器高(2.9)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 坏部ナデ、脚部縦ヘラケズリ 内面: 坏部ナデ、脚部ナデ・ヘラケズリ	
180	W-4 Ⅲ-②層	土師器 壺	1/8	口径(15.6) 器高(6.4)	良	橙褐色	密 雲母・砂粒	内外面: 横ヘラミガキ	内外面赤彩
181	E-4 Ⅲ-②層	土師器 壺	1/6	口径(9.6) 器高(5.0)	良	黒褐色	密 雲母・石英	内外面: 指頭調整→ナデ	
182	E-3 Ⅲ-③層	土師器 壺	ほぼ完形	口径: 13.4 器高: 5.6	良	灰褐色	密 砂粒	外面: 口縁部~体部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ 内面: 縦・横ヘラミガキ	内外面赤彩 内底面剥離
183	E-5 Ⅲ-②層	土師器 坏	1/4	口径(15.8) 器高(4.6)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面: 口縁~体部横ナデ、体部下半横ヘラケズリ 内面: 横ナデ	内外面赤彩 内外面一部煤付着
184	W-6 Ⅲ-①層	土師器 坏	1/8	口径(22.0) 器高(3.7)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	内外面: 横ヘラミガキ	内外面赤彩
185	E-4 Ⅲ-③層	土師器 坏	1/3	口径(16.6) 器高(3.5)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 口縁部~体部横ナデ、底部ヘラケズリ 内面: 口縁部~体部横ナデ	内外面赤彩
186	E-5 Ⅲ-①層	土師器 坏	破片	口径(14.8) 器高(3.0)	良好	褐色	密	外面: 口縁部~体部横ナデ、底部ヘラケズリ 内面: 口縁~体部縦ヘラミガキ、底部ナデ	内外面赤彩
187	E-1 Ⅲ-①層	土師器 皿	1/3	口径(15.7) 器高: 2.4 底径(13.0)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面: 口縁部~体部横ナデ、底部指頭調整→ヘラケズリ→ ナデ 内面: 口縁部~体部横ナデ、底部ナデ	内外面茶系赤彩
188	W-3 Ⅲ-①層	土師器 坏	3/4	口径(12.5) 器高(3.0) 底径(9.3)	良	橙褐色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	内外面薄い赤彩
189	W-4 Ⅲ-①層	土師器 坏	2/3	口径(11.6) 器高(3.6) 底径(8.0)	良	橙褐色	密 雲母・白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	
190	W-4 Ⅲ-①層	土師器 坏	2/3	口径(13.0) 器高: 3.4 底径(8.6)	良	橙褐色	密 雲母・白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	
191	E-1 Ⅲ-①層	土師器 坏	2/3	口径(11.8) 器高: 3.7 底径(7.3)	良	橙褐色	密 角閃石・雲母 ・石英・白色 粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	
192	E-1 Ⅲ-①層	土師器 坏	1/3	口径(11.7) 器高: 2.6 底径(8.0)	良	褐色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧 内面: 指頭押圧→ナデ	黒斑

193	E-4 Ⅲ-①層	土師器 坏	1/5	口径(13.2) 器高(3.4)	良好	灰褐色	密	内外面：回転ナデ	
194	W-4 Ⅲ-①層	土師器 坏	2/3	口径(12.4) 器高： 3.7 底径(5.8)	良	橙褐色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	
195	E-2 Ⅲ-①層	土師器 皿	1/3	口径(11.7) 器高： 2.4 底径(6.6)	良	橙褐色	密 砂粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	
196	W-4 Ⅲ-①層	土師器 皿	1/4	口径(13.8) 器高： 2.7 底径(9.0)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	
197	W-4 Ⅲ-①層	土師器 皿	1/8	口径(12.8) 器高： 2.4 底径(7.0)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	
198	W-4 Ⅲ-①層	土師器 皿	1/8	口径(12.8) 器高： 2.5 底径(7.6)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	
199	E-5・6 Ⅲ-① 最上層	緑釉陶器 碗	底部破片	器高(1.5) 底径(5.9)	良好	赤灰色	密	外面：底部ヘラ切り、平高台 内面：ナデ	暗緑色釉
200	E-2 Ⅲ-①層	須恵器 坏	底部破片	器高(2.5) 底径(9.6)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面高台内墨書 「息」
201	E-4 Ⅲ-①層	須恵器 皿	1/3	口径(13.8) 器高： 2.1 底径(9.6)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面底部墨書「〇」
202	E-4 Ⅲ-①層	須恵器 蓋	1/3	器高(2.0)	良	青灰色	密 雲母・白色粒	外面：体部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ・ナデ 内面：体部回転ナデ、天井部ナデ	外面天井部線刻
203	W-1 Ⅲ-①層	須恵器 皿	1/2	口径(20.0) 器高： 4.2 底径(14.4)	良	褐色	密 砂粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り→ナデ、貼付高台 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面高台内線刻
204	W-6 Ⅲ-②層	須恵器 甕	1/5	口径(50.8) 器高(70.0) 胴径(76.0)	良	青灰色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部回転ナデ→櫛状工具による波状文・直線文、体部平行叩き目 内面：口頸部回転ナデ、体部当具による放射状文	
205	W-3 Ⅲ-①層	須恵器 甕	破片	器高(9.2)	良好	灰色	密 白色粒	外面：回転ナデ→ヘラ状工具による沈線区画の波状文 2条 内面：回転ナデ	
206	W-1 Ⅲ-②層	須恵器 甕	破片	器高(9.3)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：回転ナデ→ヘラ状工具による沈線区画の波状文 2条 ・当具痕 内面：回転ナデ	内面口縁部自然 降灰
207	W-1 Ⅲ-②層	須恵器 甕	破片	器高(5.2)	良好	暗赤灰色	密	外面：回転ナデ→ヘラ状工具による沈線区画の波状文 2条 内面：回転ナデ	
208	W-1 Ⅲ-①層	須恵器 甕	破片	器高(5.5)	良好	暗赤灰色	密	外面：回転ナデ→櫛状工具による波状文・ヘラ状工具による直線文 内面：回転ナデ	内外面口縁部自然 降灰
209	W-2 Ⅲ-③層	須恵器 甕	破片	器高(5.6)	良好	灰色	密 白色粒	外面：回転ナデ→ヘラ状工具による沈線区画の波状文 3条 内面：回転ナデ	内外面口縁部自然 降灰
210	W-2 Ⅲ-①層	須恵器 壺	体部～底部	器高(12.2) 胴径：21.4 底径：16.5	良	青灰色	密 白色粒	外面：体部平行叩き目→カキ目 内面：指頭調整→ナデ	外面体部中位～底部 自然降灰
211	E-2 Ⅲ-③層	須恵器 壺	底部1/3	器高(8.9) 底径(10.0)	良好	灰色	密 白色粒・黒色粒	外面：体部回転ナデ、貼付高台 内面：回転ナデ	外面高台部工具痕
212	W-4 Ⅲ-②層	須恵器 壺	底部1/3	器高(9.7) 底径(8.6)	良好	青灰色	密	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：回転ナデ	内面体部下半～底部 黒色付着物付着
213	W-4 Ⅲ-②層	須恵器 壺	底部1/3	器高(4.6) 底径(9.2)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：回転ナデ	
214	W-3 Ⅲ-①層	須恵器 甕	口頸部 1/4	口径(23.8) 器高(6.3)	良好	暗赤灰色	密	外面：口縁部回転ナデ、肩部平行叩き目 内面：口頸部回転ナデ、肩部当具による青海波文	内面口縁部・外面 肩部自然降灰
215	W-1 Ⅲ-③層	須恵器 甕	口縁～肩部 1/4	口径(12.8) 器高(7.4)	良好	灰色	密 白色粒・黒色粒	外面：口縁部回転ナデ、肩部平行叩き目→ナデ 内面：口縁部回転ナデ、頸部以下ナデ	内面口縁部自然降 灰
216	W-2 Ⅲ-②層	須恵器 甕	口縁～肩部 1/3	口径(17.0) 器高(5.7)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部回転ナデ、頸部以下平行叩き目 内面：口頸部回転ナデ、肩部当具による青海波文	内面口縁部自然降 灰
217	W-6 Ⅲ-①層	須恵器 甕	口頸部	口径(11.6) 器高(5.5)	良好	青灰色	密 白色粒	内外面：回転ナデ	
218	W-1 Ⅲ-①層	須恵器 横瓶	1/2	口径(12.0) 器高：27.0 胴径(40.0)	良	赤褐色	密	外面：口頸部回転ナデ、肩部以下平行叩き目 内面：口頸部回転ナデ、肩部以下当具による青海波文	
219	W-2 Ⅲ-②層	須恵器 鉢	破片	口径(46.4) 器高(4.8)	良好	灰色	密	外面：口縁部ヘラ状工具による直線文 2条→平行叩き目 内面：回転ナデ→当具による放射状文?	胎土分析No154
220	W-4 Ⅲ-②層	須恵器 高坏	坏部1/3	口径(22.2) 器高(5.5)	良好	灰色	密 白色粒	外面：回転ナデ、坏底部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、坏底部ナデ、脚部回転ナデ	
221	E-4 Ⅲ-①層	須恵器 高坏	脚部1/2	器高(3.5) 底径(7.9)	良	青灰色	密	外面：回転ナデ、坏底部回転ヘラケズリ 内面：坏底部ナデ、脚部回転ナデ 脚部三方ヘラ切り込み線	
222	E-2 Ⅲ-②層	須恵器 高坏	脚部	器高(3.9)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：ナデ、坏底部回転ヘラケズリ 内面：坏底部、脚部ナデ 脚部三方円形透し	
223	E-2 Ⅲ-②層	須恵器 高坏	脚部	器高(11.2)	不良	黄灰白色	密	外面：回転ナデ 内面：脚柱部粘土積み上げ痕、裾部回転ナデ	
224	E-2 Ⅲ-②層	須恵器 蓋	1/4	口径(13.2) 器高： 3.4	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	
225	E-2 Ⅲ-②層	須恵器 蓋	1/2	口径(13.2) 器高： 3.1	良好	青灰色	密	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	
226	E-5 Ⅲ-②層	須恵器 蓋	1/3	口径(18.2) 器高(2.6)	良好	青灰色	密	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
227	E-1 Ⅲ-①層	須恵器 蓋	1/2	口径(18.0) 器高(3.2)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色粒	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	
228	W-1 Ⅲ-①層	須恵器 蓋	2/3	口径(17.4) 器高(3.7)	良好	灰色	密 白色粒	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	

229	E-4 Ⅲ-②層	須惠器 高坏	坏部1/2	口径(17.0) 器高(2.5)	良好	暗赤灰色	密 白色粒	外面：回転ナデ、 内面：口縁部回転ナデ、坏底部ナデ	
230	E-2 Ⅲ-②層	須惠器 蓋	5/8	口径:13.0 器高(5.0)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	外面自然降灰
231	W-1 Ⅲ-②層	須惠器 蓋	ほぼ完形	口径(14.2) 器高(4.8)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	内外面一部煤付着
232	E-2 Ⅲ-②層	須惠器 蓋	1/2	口径(13.8) 器高: 4.6	良好	灰色	密	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
233	W-2 Ⅲ-①層	須惠器 蓋	1/2	口径(14.4) 器高(4.0)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	
234	E-2 Ⅲ-②層	須惠器 坏	5/8	口径(12.8) 器高: 3.6 底径:11.0	良好	灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面体部自然降灰 外底面重ね焼痕
235	E-4 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/2	口径(13.2) 器高: 4.0 底径(8.8)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
236	E-4 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/3	口径(12.8) 器高: 4.9 底径(9.2)	良	灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
237	W-3 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/2	口径(12.2) 器高: 4.0 底径(7.2)	良好	青灰色～赤 褐色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
238	W-5 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/3	口径(12.6) 器高: 4.0 底径(8.8)	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
239	W-2 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/2	口径(14.4) 器高: 3.6 底径(9.0)	良好	暗赤灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
240	W-6 Ⅲ-②層	須惠器 坏	ほぼ完形	口径:13.0 器高: 4.0 底径: 9.5	良好	暗赤灰色～ 赤褐色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
241	W-5 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/2	口径(12.2) 器高: 4.3 底径(9.6)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
242	E-2 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/2	口径(11.8) 器高: 4.6 底径(8.0)	良好	灰色	密 黒色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	内面底部白色付着 物
243	E-3 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/3	口径(8.8) 器高: 3.0 底径(5.0)	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	内面自然降灰
244	E-5 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/3	口径(13.8) 器高: 4.5 底径(9.8)	良好	灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
245	E-4 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/2	口径(14.6) 器高: 5.6 底径(8.4)	良好	灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部静止糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
246	W-5 Ⅲ-①層	須惠器 皿	2/3	口径(14.0) 器高: 2.4 底径(10.6)	良好	灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
247	E-6 Ⅲ-①層	須惠器 皿	1/8	口径(14.8) 器高: 3.0 底径(11.0)	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
248	W-5 Ⅲ-①層	須惠器 皿	1/8	口径(15.6) 器高: 2.5 底径(10.4)	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
249	E-4 Ⅲ-①層	須惠器 皿	5/8	口径(14.2) 器高: 2.8 底径(11.0)	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
250	W-5 Ⅲ-①層	須惠器 皿	1/2	口径(15.4) 器高: 2.5 底径(12.4)	良好	灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り、底部外周 ヘラケズリ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
251	W-3 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/3	口径(11.4) 器高: 4.1 底径(6.6)	良好	灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	内面口縁部一部煤 付着
252	W-5 Ⅲ-①層	須惠器 坏	ほぼ完形	口径:11.8 器高: 3.5 底径: 8.1	良好	灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	内面口縁部一部煤 付着
253	W-1 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/2	口径(10.8) 器高: 4.1 底径(7.4)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
254	E-2 Ⅲ-①層	須惠器 坏	5/8	口径(14.8) 器高: 5.8 底径: 7.4	良	灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
255	W-5 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/8	口径(10.8) 器高: 3.4 底径(7.0)	良好	灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
256	W-5 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/8	口径(10.8) 器高: 4.0 底径(6.8)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
257	E-4 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/2	口径:17.8 器高: 5.9 底径(10.6)	良好	灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：口縁部～体部回転ナデ、体部下～底部ナデ	
258	E-6 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/4	口径(15.4) 器高: 5.3 底径(10.0)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
259	W-1 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/2	口径(16.2) 器高: 6.0 底径(11.2)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	

260	W-5 Ⅲ-①層	須恵器 坏	2/3	口径(12.6) 器高: 4.6 底径(9.6)	良好	青灰色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転系切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ
261	E-5 Ⅲ-①層	須恵器 皿	1/3	口径(19.4) 器高: 3.7 底径(11.6)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転系切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ
262	E-4 Ⅲ-②層	須恵器 皿	2/3	口径:18.6 器高: 3.5 底径:10.2	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転系切り→ナデ、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ
263	W-2 Ⅲ-②層	須恵器 皿	底部	器高: 3.0 底径(12.0)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 体部回転ナデ、底部回転系切り、貼付高台 内面: 体部回転ナデ、底部ナデ
264	E-2 Ⅲ-①層	須恵器 皿	1/4	口径(16.0) 器高: 1.7 底径(9.4)	良好	灰色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転系切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ
265	W-6 Ⅲ-①層	須恵器 坏転用硯	底部	器高(1.9) 底径: 6.4	良好	灰色	密 白色粒	外面: 体部回転ナデ、底部回転系切り 内面: 体部回転ナデ、底部磨耗
266	W-4 Ⅲ-②層	須恵器 坏転用硯	底部	器高(2.4) 底径: 7.4	良好	暗赤灰色	密 白色粒	外面: 体部回転ナデ、底部回転系切り 内面: 体部回転ナデ、底部磨耗
267	E-3 Ⅲ-②層	須恵器 坏転用硯	底部	器高(1.0)	良好	青灰色	密 雲母・白色粒	外面: 回転系切り 内面: 磨耗
268	W-1 Ⅲ-①層	須恵器 馬?	破片	—	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 横ナデ、带状突帯上に円形浮文3個 内面: 横ヘラケズリ
269	E-2 Ⅲ-②層	平瓦	1/4	厚さ(2.1)	良	褐色	密 白色粒	凸面: 縄状工具による叩き目 凹面: 布目状圧痕 側面: ヘラ切り→ナデ
270	E-5 Ⅲ-①層	平瓦	1/4	厚さ(2.4)	やや良	暗灰白色	密	凸面: 格子目状工具による叩き目 凹面: 布目状圧痕 側面: ヘラ切り→ナデ
271	W-6 Ⅲ-①層	平瓦	1/6	厚さ(2.0)	良	灰色	密 白色粒	凸面: 格子目状工具による叩き目 凹面: 布目状圧痕
272	W-5 Ⅲ-①層	平瓦	1/6	厚さ(2.1)	良	灰色	密 白色粒	凸面: 格子目状工具による叩き目 凹面: 布目状圧痕 側面: ヘラ切り→ナデ
273	W-3 Ⅲ-①層	平瓦	破片	厚さ(2.1)	良	黒茶色	密	凸面: 縄状工具による叩き目 凹面: 布目状圧痕 側面: ヘラ切り→ナデ
274	W-4 Ⅲ-①層	平瓦	破片	厚さ(1.7)	良	青灰色	密 白色粒	凸面: 縄状工具による叩き目 凹面: 布目状圧痕 側面: ヘラ切り→ナデ

第188表 1区弥生時代~古代包含層出土金属製品観察表(第396図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	部 位 残存率	材 質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備 考
275	E-1 Ⅲ-①層	刀子	1/2	鉄	全長(65) 刃部(56) 基部(9)	刃部:14 基部: 6	刃部:2 基部:3	5	H(O)	5	8.6	柄元金具 長径: 11mm 幅 : 5mm
276	E-1 Ⅲ-①層	刀子	1/2	鉄	全長(33) 刃部(20) 基部(13)	刃部: 8 基部: 4	刃部:2 基部:1	4	錆化(△)	2	2.2	
277	E-3 Ⅲ-②層	鎌?	刃部	鉄	(42)	(24)	2	6	錆化(△)	2	16.3	
278	E-6 Ⅲ-②層	棒状不明品	—	鉄	(34)	6	3	4	錆化(△)	2	1.8	
279	W-6 Ⅲ-②層	釘	1/2	鉄	(25)	4	4	3	錆化(△)	2	2.0	皆折れ釘

第189表 1区弥生時代~古代包含層出土石器・石製品観察表(第396・397図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
280	W-6 Ⅲ-①層	石帯巡方	完形	42	41	8	33.0	蛇紋岩	潜り穴4個
281	E-6 Ⅲ-③層	有溝石錘	2/3	(33)	(18)	(21)	10.3	凝灰岩	
282	E-6 Ⅲ-③層	磨石	完形	47	53	40	141.1	安山岩	ベンガラ附着
283	E-5 Ⅲ-②層	異形勾玉	完形	23	27	8	5.3	滑石	穿孔2個(孔径2mm)
284	W-5 Ⅲ-②層	石鏃	完形	22	16	3	0.9	サヌカイト	刃部角51度
285	E-1 Ⅲ-②層	楔形石器	完形	16	33	12	3.7	黒曜石	
286	W-6 Ⅲ-②層	磨製石斧	1/2	(130)	(58)	(34)	216.4	閃緑岩	刃部角欠損
287	E-5 Ⅲ-②層	砥石	ほぼ完形	113	52	44	382.5	花崗岩	
288	E-6 Ⅲ-②層	砥石	1/2	(104)	(77)	(35)	361.2	花崗岩	
289	W-3 Ⅲ-①層	砥石	ほぼ完形	165	46	44	430.5	凝灰岩	被熱
290	W-2 Ⅲ-②層	石錘	完形	104	78	41	424.9	角閃石安山岩	上打欠幅70mm・下打欠幅52mm
291	E-6 Ⅲ-③層	石錘	完形	130	89	48	696.7	デイサイト	左打欠幅16mm・右打欠幅43mm
292	E-6 Ⅲ-③層	石錘	完形	146	98	50	968.5	角閃石安山岩	左打欠幅28mm・右打欠幅40mm
293	E-1 Ⅲ-②層	石錘	完形	136	76	42	628.4	角閃石安山岩	左打欠幅17mm・右打欠幅31mm

294	W-1 Ⅲ-③層	石錘	完形	133	87	37	638.2	珪岩	左打欠幅24mm・右打欠幅61mm
295	E-6 Ⅲ-②層	石錘	完形	125	82	55	766.7	角閃石安山岩	左打欠幅25mm・右打欠幅19mm
296	W-1 Ⅲ-③層	凹石	完形	105	89	44	488.2	安山岩	

第190表 2区弥生時代～古代包含層出土陶器・土器・土製品観察表 (第398～403図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	F・G-2 Ⅲ-①層	土師器 壺	口縁～肩 部1/2	口径(26.4) 器高(13.0)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部方形突帯貼付、肩部横ハケメ→ 櫛状工具端部による羽状文 内面：口縁部指頭調整→横ナデ、頸部指頭調整→ナデ、肩 部横ハケズリ	
2	D-4 Ⅲ-①層	弥生土器 壺	口頸部	口径(18.2) 器高(6.1)	良	橙褐色	密 角閃石・白色 粒	外面：口縁部横ナデ、口縁部・頸部櫛状工具による直線 文→ナデ、口縁部棒状浮文貼付 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ハケズリ	黒斑
3	B-1 Ⅲ-③層	土師器 壺	破片	口径(15.8) 器高(3.8)	良	灰褐色	密	外面：口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ハケズリ	黒斑 外面一部煤付着
4	C-1 Ⅲ-②層	土師器 壺	口縁～肩 部1/8	口径(11.0) 器高(5.5)	良	暗灰白色	密 石英・白色粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ハケズリ	
5	F-1 Ⅲ-③層	土師器 壺	破片	口径(10.8) 器高(2.8)	良好	褐色	密 角閃石・雲 母・石英	外面：口縁部横ナデ、頸部横ハケミガキ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下ハケズリ	頸部穿孔
6	A-1 Ⅲ-③層	土師器 壺	口縁～肩 部1/8	口径(11.0) 器高(4.0)	良	灰褐色	密 白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ハケズリ	
7	C-3 Ⅲ-①層	土師器 直口壺	口頸部 1/8	口径(14.4) 器高(7.7)	やや良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：横ナデ 内面：口頸部指頭調整→横ナデ、肩部横ハケズリ	
8	F-1 Ⅲ-③層	土師器 短頸壺	破片	口径(10.0) 器高(6.9) 胴径(13.4)	やや良	褐色	密 角閃石・白色 粒	外面：口頸部横ナデ、体部横ハケミガキ 内面：口頸部横ナデ、体部横ハケズリ	口縁部穿孔2個
9	C-2 Ⅲ-③層	土師器 壺	底部	器高(2.1) 底径(2.6)	やや良	褐色	密 白色粒	外面：縦ハケメ 内面：指頭調整→ハケズリ	底部穿孔1個・穿 孔途中1個 内外面煤付着
10	D-2 Ⅲ-③層	土師器 裝飾壺	体部	器高(5.2) 胴径(17.5)	良好	灰褐色	密 角閃石・石 英・白色粒	外面：肩部櫛状工具による直線文、体部貝殻腹線による刺 突文 内面：横ハケズリ	黒斑
11	G-2 Ⅲ-①層	土師器 甕	1/2	口径(13.6) 器高(25.0) 胴径(20.4)	良	褐色	密 砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整→横ハケズリ、体部 横ハケズリ、体部下指頭調整→縦ハケズリ	外面体部煤付着
12	F-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(10.4) 器高(10.5) 胴径(16.6)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部櫛状工具端部による羽状 文、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ハケズリ	外面一部煤付着
13	C-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(16.8) 器高(12.8) 胴径(21.4)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文、 体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部下指頭調整、体部横ハケズ リ	外面煤付着
14	C-3 Ⅲ-③層	弥生土器 甕	口頸部 1/8	口径(16.0) 器高(5.6)	やや良	灰褐色	密 石英・白色 粒・砂粒	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、口頸部横ハケメ、頸部以下横ハ ケズリ	外面口縁部煤付着
15	G-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径(16.4) 器高(9.7)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部横ナデ、頸部以下横・縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部下指頭調整、肩部横ハケズ リ	
16	H-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(13.6) 器高(13.0) 胴径(18.5)	良好	橙褐色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・斜めハケメ、肩部櫛 状工具端部による刺突文1個 内面：口頸部横ナデ、体部横ハケズリ	外面頸部以下煤付 着
17	G-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(14.6) 器高(12.1) 胴径(23.0)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部横ハケメ、肩部櫛状工具端部 による列点文2個以上 内面：口頸部横ナデ、体部横ハケズリ	外面煤付着
18	C-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/8	口径(13.6) 器高(10.9) 胴径(18.0)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工具端 部による列点文4個以上 内面：口頸部横ナデ、体部横ハケズリ	外面煤付着
19	D-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	破片	口径(15.7) 器高(8.5)	良	茶褐色	密 雲母・白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ハケズリ	外面煤付着
20	D-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部	口径(15.3) 器高(16.6) 胴径(22.1)	良	橙褐色	密 角閃石・白色 粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工具端 部による列点文4個 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ハケズリ	黒斑 外面煤付着
21	D-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	1/8	口径(13.2) 器高(11.1)	良好	褐色	密 雲母・白色粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ハケズリ	外面煤付着
22	G-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～肩 部1/5	口径(14.4) 器高(7.5)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部下指頭調整、肩部横ハケズ リ	内外面煤付着
23	F-1 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～肩 部1/4	口径(13.1) 器高(7.1)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部下指頭調整、肩部横ハケズ リ	
24	C-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	口頸部 7/8	口径(14.5) 器高(6.4)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部横ナデ、口縁部以下横ハケミガキ 内面：口縁部横ナデ、口縁部以下横ハケミガキ	外面煤付着
25	F-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～肩 部1/8	口径(13.8) 器高(9.4)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部ヘラ状工具による直線文 1条、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部下指頭調整、肩部横ハケズ リ	
26	G-1 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～肩 部1/4	口径(11.8) 器高(5.2)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ハケズリ	
27	G-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径(14.0) 器高(8.0)	良	灰茶色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ハケズリ	内外面煤付着

28	D-1 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁~体 部	口径:12.5 器高(10.9) 胴径(16.8)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
29	G-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	破片	口径(16.6) 器高(4.3)	良	褐色	密 砂粒・雲母	外面:横ナデ 内面:口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	内部口縁部線刻
30	D-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁~体 部	口径(8.4) 器高(5.3)	良	褐色	密 雲母・白色粒	外面:口縁部横ナデ、頸部以下縦・斜め・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部指頭調整、体部指頭調整→横ヘ ラケズリ	
31	F-1 Ⅲ-②層	土師器 甕	2/3	口径(8.8) 器高:11.3 胴径(11.2)	良	褐色	密 石英・小石 粒・砂粒	外面:口縁部~肩部横ナデ、肩部飾状工具端部による羽状 文2個、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	
32	F-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	完形	口径: 7.8 器高: 7.6 胴径: 8.5	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部横・斜めヘラミガキ、体部横ハケメ→横・斜め ヘラミガキ 内面:口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部下半指 頭調整	
33	H-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁~体 部	口径(19.8) 器高(10.5) 胴径(19.7)	良	褐色	密 雲母・石英多 量・砂粒	外面:口縁部横ナデ、頸部以下粗い斜め・縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、頸部以下縦ヘラケズリ	内外面煤付着
34	D-3 Ⅲ-①層	土師器 甕	口頸部 1/8	口径(31.2) 器高(6.7)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部横ナデ、頸部縦ハケメ 内面:口頸部横ナデ、頸部下半横ヘラケズリ	
35	E-1 Ⅲ-②層	土師器 小型丸底壺	2/3	口径:10.7 器高: 7.8 胴径: 8.1	良	褐色	密 角閃石・雲 母・石英・砂 粒	外面:口頸部横ヘラミガキ、体部縦・横ハケメ 内面:口縁部横ナデ、口縁部横ハケメ→指頭調整、頸部 横ナデ、体部指頭調整	内外面煤付着
36	H-2 Ⅲ-②層	土師器 小型丸底壺	1/3	口径(11.4) 器高: 6.9 胴径(7.6)	良	褐色	密 雲母・石英多 量・砂粒	外面:口縁部横ヘラミガキ、体部縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面:口頸部横ナデ、頸部縦ハケメ、体部横ヘラケズリ	外面体部被熱痕
37	B-2 Ⅲ-②層	土師器 小型丸底壺	1/2	口径(8.8) 器高(6.9) 胴径(7.4)	良	褐色	密 雲母・石英多 量	外面:口縁部横・斜めヘラミガキ、体部横ハケメ→横ヘラ ミガキ 内面:口頸部横ナデ、体部指頭調整	
38	F-2 Ⅲ-②層	土師器 小型丸底壺	1/2	口径(11.0) 器高(6.8) 胴径(9.2)	良	褐色	密 角閃石・白色 粒	外面:口頸部縦ヘラミガキ、体部横ヘラミガキ 内面:口頸部横ヘラミガキ、頸部ナデ、体部横ヘラミガキ	黒斑
39	D-3 Ⅲ-②層	土師器 小型丸底壺	1/2	口径(10.9) 器高(7.5) 胴径(8.6)	やや良	橙褐色	密 角閃石・石 英・白色粒	外面:縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面:口縁部横ナデ、頸部~肩部指頭調整、体部横ハケ メ・横ヘラケズリ、底部指頭調整	内外面口縁部被熱 痕
40	G-1 Ⅲ-②層	土師器 小型丸底鉢	完形	口径:11.5 器高: 6.8	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口頸部横ナデ、体部横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ→指頭調整	内外面煤付着
41	G-1 Ⅲ-③層	土師器 小型丸底鉢	破片	口径(11.3) 器高(3.6)	良	褐色	密	内外面:横ヘラミガキ	
42	H-2 Ⅲ-②層	土師器 小型丸底鉢	破片	口径(11.8) 器高(3.6)	やや良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	内外面:横ヘラミガキ	
43	F-2 Ⅲ-②層	土師器 高坏	2/3	口径(13.6) 器高: 9.3 底径(8.4)	やや良	黄灰白色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	外面:坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ、坏底部ヘラケズリ、 脚柱部縦ヘラミガキ、裾部指頭調整→横ナデ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚柱部縦・横ヘラケズリ、裾 部指頭調整→ハケメ→横ナデ 接合部円板充填法	
44	G-2 Ⅲ-②層	土師器 高坏	口縁~脚 部1/4	口径(15.1) 器高(11.3)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:縦・横ヘラミガキ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ 接合部円板充填法	
45	G-2 Ⅲ-②層	土師器 高坏	2/3	口径(14.5) 器高(12.8)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ、坏底部ハケメ、脚柱 部ハケメ→縦ヘラミガキ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚柱部ヘラケズリ 接合部円板充填法	
46	D-3 Ⅲ-③層	土師器 高坏	坏部	口径:15.0 器高(4.9)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	内外面:坏部横・縦ヘラミガキ 接合部円板充填法	内外面被熱痕
47	F-2 Ⅲ-②層	土師器 高坏	坏部5/8	口径:15.0 器高(5.5)	良	黄灰白色	密	外面:横ヘラミガキ、底部縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面:横・縦ヘラミガキ 接合部円板充填法	内外面口縁部煤付 着
48	A-2 Ⅲ-②層	土師器 高坏	坏部1/2	口径(15.2) 器高(6.3)	良	褐色	密 雲母・石英	外面:縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面:横・縦ヘラミガキ 接合部円板充填法	
49	F-2 Ⅲ-②層	土師器 高坏	坏部1/3	口径(12.4) 器高(4.1)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:坏部斜めハケメ、坏底部縦ヘラミガキ 内面:横・縦ヘラミガキ	
50	G-2 Ⅲ-②層	土師器 高坏	坏部2/3	口径(17.2) 器高(4.2)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:坏部横ヘラミガキ、坏底部縦ハケメ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ 接合部円板充填法	
51	G-2 Ⅲ-②層	土師器 高坏	坏部2/3	器高(5.6)	良	褐色	密 石英・砂粒多 量	外面:坏部横ヘラミガキ、坏底部ハケメ 内面:口縁部横ヘラミガキ・布目状圧痕、坏部横ナデ 接合部円板充填法	内外面茶系赤彩
52	D-1 Ⅲ-③層	土師器 高坏 未製品	坏部1/3	口径(14.4) 器高(4.7)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:坏部ヘラケズリ→ナデ、坏底部ヘラケズリ、罅穴(未 穿孔) 内面:横ハケメ	外面煤付着
53	C-3 Ⅲ-②層	土師器 低脚坏	完形	口径:14.4 器高: 4.3 底径: 4.5	良	橙褐色	密 石英・白色 粒・砂粒	外面:坏部~脚部縦ハケメ→横・縦ヘラミガキ、脚端部横 ナデ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	
54	D-2 Ⅲ-③層	土師器 低脚坏	1/3	口径(13.4) 器高: 5.6 底径(4.7)	良好	灰茶色	密 雲母・白色粒	外面:坏部横ハケメ、脚部横ナデ 内面:坏部縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	内外面一部煤付着
55	D-1 Ⅲ-③層	土師器 低脚坏	1/2	口径(12.7) 器高: 7.4 底径: 6.0	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部横ナデ、坏部~脚部横・縦ヘラミガキ・布目 状圧痕、脚端部横ナデ 内面:坏部横ヘラミガキ、脚部横ナデ	
56	D-1 Ⅲ-③層	土師器 低脚坏	脚部	器高(3.8) 底径(5.6)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:坏部ハケメ→横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:内面坏部横ヘラミガキ、脚部横ナデ	脚部内面穿孔途中 2個

57	G-2 Ⅲ-②層	土師器 鼓形器台	ほぼ完形	口径:16.5 器高: 9.5 底径(14.8)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 口縁端部横ナデ、受部横・縦ヘラミガキ、接合部横 ナデ、脚部横・縦ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面: 受部横ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナ デ	
58	C-2 Ⅲ-②層	土師器 鼓形器台	脚部2/3	器高(5.2) 底径(14.6)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 受部~接合部横ナデ、脚部縦ヘラミガキ 内面: 受部横・縦ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ、脚端部 横ナデ 脚部四方円形透し	
59	G-2 Ⅲ-②層	土師器 鼓形器台	1/8	口径(16.6) 器高:10.0 底径(15.2)	良好	橙褐色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	外面: 受部~脚部横ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面: 受部横ヘラミガキ、接合部横ナデ、脚部横ヘラケズ リ、脚端部横ナデ	
60	F-2 Ⅲ-②層	土師器 鼓形器台	脚部1/4	器高(5.6) 底径(16.4)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 接合部横ナデ、脚部横・縦ヘラミガキ・布目状圧痕、 脚部横ナデ 内面: 接合部横ナデ、脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	内外面赤彩
61	F-2 Ⅲ-②層	土師器 小型器台	1/2	口径(7.1) 器高: 6.6 底径(9.4)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面: 口縁端部横ナデ、受部指頭調整→横ヘラミガキ、脚 部縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面: 受部指頭調整→横ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ 接合部受部・脚部から穿孔	
62	G-1 Ⅲ-③層	土師器 小型器台	1/2	口径: 8.6 器高(6.1)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 縦・横ヘラミガキ 内面: 受部横ヘラミガキ、接合部~脚部横ヘラケズリ 接合部受部から穿孔	外面口縁部煤付着
63	D-2 Ⅲ-③層	土師器 小型器台	1/2	口径(8.0) 器高(5.0)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面: 横ヘラミガキ 内面: 受部横ヘラミガキ、接合部~脚部横ヘラケズリ→ナ デ	
64	G-2 Ⅲ-②層	土師器 小型器台	脚部1/4	器高(6.7) 底径(10.8)	良好	灰褐色	密 角閃石・石 英・白色粒	外面: ハケメ→縦・横ヘラミガキ 内面: 接合部ナデ、脚部上半ヘラケズリ、脚部下半横ハケ メ 脚部前面2個円形透し	
65	A-2 Ⅲ-①層	土師器 器台?	接合部	器高(2.5)	良好	褐色	密 角閃石・白色 粒	外面: 頸部飾工具による直線文2条以上・ヘラ状工具に よる斜格子文 内面: 受部~接合部ナデ、脚部ヘラケズリ	
66	G-2 Ⅲ-②層	土師器 蓋	つまみ部	直径(2.6) 器高(3.1)	良	黒灰色	密 雲母・砂粒	内外面: ナデ	
67	G-2 Ⅲ-①層	製塩土器	破片	口径(11.6) 器高(6.6)	やや良	黄灰白色	やや粗 石英・白色 粒・砂粒	内外面: 指頭調整→ナデ	
68	F-1 Ⅲ-②層	製塩土器	1/2	口径(11.0) 器高(7.3)	不良	褐色	粗 石英・小石 粒・砂粒	内外面: 指頭調整・布目跡	
69	F-2 Ⅲ-①層	製塩土器	破片	口径(10.6) 器高(4.1)	やや良	褐色	粗 石英・砂粒	内外面: 指頭調整→ナデ	口縁部一部煤付着
70	C-3 Ⅲ-①層	製塩土器	破片	口径(11.8) 器高(4.2)	やや良	褐色	やや粗 石英・白色粒	内外面: 指頭調整	
71	G-1 Ⅲ-①層	製塩土器	破片	口径(13.4) 器高(2.0)	やや良	黄灰白色	やや粗	内外面: 指頭調整→ナデ	
72	H-2 Ⅲ-①層	製塩土器	破片	口径(8.4) 器高(3.2)	やや良	褐色	やや粗 石英・砂粒	外面: 指頭調整 内面: 指頭調整・布目跡	
73	E-1 Ⅲ-①層	手捏ね 土器	破片	口径(11.6) 器高(1.8)	良	黄灰白色	密	内外面: 口縁端部横ナデ、指頭調整	
74	H-2 Ⅲ-①層	手捏ね 土器	破片	口径(12.0) 器高(2.0)	良	褐色	密	内外面: 口縁端部横ナデ、指頭調整	
75	E-1 Ⅲ-①層	手捏ね 土器	破片	口径(11.8) 器高(2.0)	良	褐色	密	内外面: 指頭調整→ナデ	
76	G-2 Ⅲ-①層	手捏ね 土器	破片	口径(6.8) 器高(1.8)	やや良	褐色	密	内外面: 口縁端部横ナデ、指頭調整	
77	B-1 Ⅲ-②層	手捏ね 土器	破片	口径(11.8) 器高(2.3)	良	褐色	密	内外面: 口縁端部横ナデ、指頭調整	
78	B-1 Ⅲ-②層	手捏ね 土器	破片	口径(13.2) 器高(1.6)	やや良	褐色	密 砂粒	外面: 横ナデ 内面: 口縁端部横ナデ、口縁部指頭調整	
79	C-2 Ⅲ-③層	埴輪	破片	器高(8.2) 胴径(21.1)	良	褐色	密 白色粒・砂粒	外面: 斜めハケメ、突部ナデ 内面: 斜めヘラケズリ	
80	E-2 Ⅲ-①層	土師器 甌	口縁部 1/4	狭口径(18.2) 器高(10.4)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面: 狭口部指頭調整→ナデ、体部縦・横ハケメ 内面: 狭口部指頭調整→ナデ、体部横ヘラケズリ	
81	C-2 Ⅲ-②層	土師器 甌	把手部	器高(16.8) 広口径(37.0)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 体部縦・横ハケメ、把手部ヘラケズリ→指頭調整 内面: 体部横ヘラケズリ・縦・横ハケメ	内面広口部煤付着
82	G-2 Ⅲ-②層	手捏ね 土器	破片	器高(2.0) 底径(2.3)	良	橙褐色	密 雲母・白色粒	内外面: 指頭調整→ナデ	
83	D-4 Ⅲ-②層	土師器 注口土器	把手部	幅 : 1.6 厚さ: 1.8	良	褐色	密 角閃石・白色 粒	外面: ヘラミガキ	外面煤付着
84	D-1 Ⅲ-③層	土師器 注口土器	把手部	幅 : 2.0 厚さ: 1.6	良	褐色	密 白色粒	外面: 竹管文2条	
85	C-4 Ⅲ-②層	土師器 坏	破片	—	良	褐色	密	外面: ヘラケズリ 内面: ナデ	外底面線刻「×」 内外面赤彩
86	B-1 Ⅲ-②層	土師器 皿	ほぼ 完形	口径:16.0 器高: 3.2 底径(7.6)	良好	橙褐色	密	外面: 口縁端部横ナデ、口縁部~底部横ヘラミガキ 内面: 口縁端部横ナデ、口縁部~底部暗文	内外面赤彩
87	B-2 Ⅲ-②層	土師器 皿転用硯	1/6	口径(20.8) 器高: 2.7 底径(16.8)	良好	赤褐色	密	外面: ナデ、貼付高台 内面: 口縁部~体部ナデ、底部磨耗	内面底部墨付着
88	B-1 Ⅲ-③層	土師器 皿	5/8	口径:14.7 器高: 2.9 底径:11.0	良	橙褐色	密 白色粒	外面: 口縁端部横ナデ、口縁部横ヘラミガキ、体部下半横 ヘラケズリ、底面ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面: ナデ	内外面赤彩
89	F-1 Ⅲ-①層	土師器 坏	1/8	口径(12.6) 器高(3.1) 底径(7.4)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	口縁部穿孔1個 内外面茶系赤彩
90	A-4 Ⅲ-②層	須恵器 転用土器	完形	長さ: 2.7 幅 : 2.6 厚さ: 0.7	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量: 6.2g

91	F-2 Ⅲ-①層	須惠器 皿転用硯	1/6	器高(2.1)	良好	赤褐色	密 砂粒	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：体部ナデ、底部磨耗	外面底部墨書？
92	D・E・F-1 Ⅲ-①層	須惠器 提瓶	体部	器高(17.8) 胴径(16.6) 厚さ(11.0)	良好	灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：頸部ナデ、体部回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：頸部ナデ、体部回転ナデ・ナデ	外面自然降灰
93	F-2 Ⅲ-①層	須惠器 甕	破片	口径(39.0) 器高(8.2)	良好	青灰色	密 石英	外面：口縁部横ナデ・櫛状工具による波状文2条・ヘラ状 工具による沈線2条・叩き→ナデ 内面：横ナデ	
94	G・H-2 Ⅲ-②層	須惠器 甕	口縁～体 部	口径(19.5) 器高(20.1) 胴径(30.7)	良好	暗赤灰色	密	外面：口縁部回転ナデ、頸部以下平行叩き目 内面：口頸部回転ナデ、体部当具による同心円文	
95	F-1 Ⅲ-②層	須惠器 甕	破片	口径(22.0) 器高(6.0)	良好	暗赤灰色	密	外面：口縁部回転ナデ、頸部以下平行叩き目 内面：口頸部回転ナデ、肩部以下当具による青海波文	
96	B-2 Ⅲ-①層	須惠器 甕	底部	器高(7.3) 底径(15.4)	良好	青灰色	密 小石粒・砂粒	外面：体部平行叩き目、体部下指頭調整→斜めハケメ、 底部ヘラケズリ 内面：体部指頭調整→横・縦ナデ、底部ナデ	
97	G-1 Ⅲ-①層	須惠器 壺	1/3	器高(5.8) 底径(8.6)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り→ナデ、貼付高台 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	
98	F-1 Ⅲ-①層	須惠器 蓋	1/4	口径(12.8) 器高(2.4)	良好	赤褐色	密 砂粒	外面：回転ナデ 内面：ナデ	
99	B-1 Ⅲ-②層	須惠器 蓋転用硯	1/8	口径(14.8) 器高(2.1)	良好	褐色	密 石英(φ 5mm) ・砂粒	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部磨耗	内面天井部墨付着
100	D-1 Ⅲ-②層	須惠器 高坏	坏部～脚 部	器高(9.2)	良好	青灰色	密 石英・砂粒	外面：受部～脚部回転ナデ 内面：受部ナデ、脚部回転ナデ	
101	F-2 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/2	口径(12.4) 器高：3.9 底径：8.0	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
102	B-2 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/2	口径(12.4) 器高：4.9 底径：9.6	良好	暗赤灰色	密 雲母・小石粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	
103	G-1 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/2	口径(12.8) 器高：4.1 底径(8.6)	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
104	B-1 Ⅲ-②層	須惠器 坏	5/8	口径：12.1 器高：3.7 底径：9.5	良好	灰色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
105	H-2 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/2	口径(12.0) 器高：3.5 底径(8.2)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
106	F-2 Ⅲ-③層	須惠器 坏	1/2	口径(13.6) 器高：3.8 底径(9.2)	良好	青灰色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部静止糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
107	B-1 Ⅲ-②層	須惠器 坏	ほぼ 完形	口径(11.2) 器高：4.3 底径：8.4	良好	灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
108	H-2 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/3	口径(12.5) 器高：3.7 底径(9.4)	良好	赤褐色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
109	E-2 Ⅲ-③層	須惠器 坏	ほぼ 完形	口径(11.6) 器高：4.4 底径：7.6	良	暗赤灰色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
110	H-2 Ⅲ-①層	須惠器 坏	ほぼ 完形	口径(11.6) 器高：3.6 底径：7.4	良好	赤褐色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
111	B-2 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/2	口径(9.7) 器高：2.6 底径：6.6	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	内面口縁部～外面 体部自然降灰
112	B・C-1 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/2	口径(10.4) 器高：4.0 底径：7.0	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	内外面自然降灰
113	A-2 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/2	口径(8.8) 器高：2.9 底径(5.0)	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面底部粘土粒付 着
114	B-2 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/2	口径：9.1 器高：2.3 底径(6.6)	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	内面口縁部タール 付着
115	H-1 Ⅲ-①層	須惠器 坏	3/4	口径：8.9 器高：2.2 底径：6.1	良好	青灰色	密 砂粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
116	B-2 Ⅲ-①層	須惠器 皿	1/4	口径(14.0) 器高：2.9 底径(9.4)	良好	青灰色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
117	F-2 Ⅲ-①層	須惠器 皿	1/3	口径(13.2) 器高：2.9 底径(9.0)	良好	青灰色	密 砂粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
118	F-2 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/3	口径(9.8) 器高：2.7 底径(6.9)	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、体部下半ヘラケズリ、底部 回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
119	B-1・2 Ⅲ-③層	須惠器 坏	1/3	口径(10.0) 器高：2.2 底径(6.4)	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
120	A・B-1・D-2 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/3	口径(9.8) 器高：2.8 底径(6.4)	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
121	F-2 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/8	口径(9.8) 器高：2.4 底径(7.0)	良好	青灰色	密 砂粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部回転ナデ、体部～底部ナデ	外面自然降灰
122	E-1 Ⅲ-①層	須惠器 皿	1/4	口径(14.0) 器高：2.0 底径(10.9)	良好	青灰色	密 砂粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	

123	C-1 Ⅲ-①層	須恵器 皿	1/3	口径(15.5) 器高: 2.0 底径(10.6)	良好	青灰色	密 雲母・白色 粒・黒色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
124	C-3 Ⅲ-①層	須恵器 坏	1/4	口径(12.1) 器高: 4.6 底径(8.2)	良好	青灰色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ヘラ切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
125	F-2 Ⅲ-①層	須恵器 坏	2/3	口径(14.9) 器高: 6.4 底径(11.4)	良好	青灰色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	内外面口縁部一部 煤付着
126	B-2 Ⅲ-①層	須恵器 皿	1/3	口径(15.3) 器高: 2.4 底径(11.4)	良好	灰色	密 雲母・白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
127	F-2 Ⅲ-①層	須恵器 皿	1/3	口径(17.4) 器高: 3.2 底径(11.8)	良好	青灰色	密 砂粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
128	G-2 Ⅲ-①層	須恵器 皿	破片	口径(14.2) 器高: 2.2 底径(12.2)	やや良	褐色	密 小石粒・砂粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、体部下半~底部ヘラ切り 内面: 回転ナデ	
129	G-2 Ⅲ-②層	須恵器 皿	1/8	口径(18.3) 器高: 3.4 底径(13.4)	良好	青灰色	密 砂粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
130	F-1 Ⅲ-①層	須恵器 皿転用硯	1/3	口径(13.6) 器高: 2.0 底径(9.4)	良好	青灰色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部磨耗	内面墨付着
131	E-1 Ⅲ-①層	須恵器 坏	1/3	器高(3.7) 底径(11.0)	良好	青灰色	密 雲母・白色粒	外面: 体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 回転ナデ	外面底部線刻 底部中央穿孔
132	F-2 Ⅲ-①層	緑釉陶器 碗	底部	器高(1.2) 底径: 6.1	良好	青灰色	密	外面: 底部ヘラ切り、平高台 内面: ナデ	緑灰色釉 京都近郊産?
133	A-4 Ⅲ-①層	平瓦	1/8	厚さ(2.3)	良	灰白色	密 石英・白色粒	凸面: 格子目状工具による叩き目 凹面: 布目状圧痕、模骨痕	
134	A-4 Ⅲ-①層	平瓦	破片	厚さ(2.1)	良	灰白色	密 石英・白色粒	凸面: 格子目状工具による叩き目 凹面: 布目状圧痕、模骨痕	

第191表 2区弥生時代~古代包含層出土金属製品観察表 (第403図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	部 位 残存率	材 質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	その他計測値			重量 (g)	備 考
135	E-2 Ⅲ-②層	小型鏡	完形	青銅	32	32	5				7.7	
136	B-1 Ⅲ-②層	紡錘車	ほぼ完形	鉄	軸部(277)	円盤径:42	軸部 :4 円盤部:4	磁着度 4	メタル度 錆化 (△)	ランク 5	91.6	
137	F-1 Ⅲ-①層	帯金具 丸鞘	ほぼ完形	銅	25	36	7				6.5	脚錐3個 垂孔

第192表 2区弥生時代~古代包含層出土石器・石製品観察表 (第403~405図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
138	G-1 Ⅲ-①層	石鏃	完形	22	14	3	0.4	黒曜石	刃部角28度
139	B-2 Ⅲ-①層	石鏃	ほぼ完形	(21)	16	4	1.0	サマカイト	刃部欠損
140	C-1 Ⅲ-①層	石鏃	ほぼ完形	(21)	(23)	3	1.3	黒曜石	刃部欠損
141	G-1 Ⅲ-②層	二次加工剥片	完形	23	22	10	4.6	黒曜石	
142	A-2 Ⅲ-①層	二次加工剥片	完形	21	29	8	4.4	玉髓	
143	H-2 Ⅲ-①層	二次加工剥片	完形	14	24	7	2.0	黒曜石	
144	G-1 Ⅲ-②層	石核	完形	30	22	13	6.5	玉髓	
145	A-1 Ⅲ-②層	石核	完形	26	26	16	10.9	玉髓	
146	H-1 Ⅲ-②層	石核	完形	26	21	23	12.9	玉髓	火打石?
147	G-2 Ⅲ-②層	石核	完形	23	32	15	10.8	水晶	
148	H-1 Ⅲ-①層	不明石製品	1/2	(13)	(20)	(8)	2.5	頁岩	中央に穿孔
149	H-2 Ⅲ-②層	勾玉	未製品	44	14	5	6.1	頁岩	
150	D-1 Ⅲ-②層	磨製石斧	1/2	(84)	57	37	257.9	斑禰岩	刃部角70度
151	F-1 Ⅲ-②層	棒状石製品	不明	(99)	56	38	344.5	砂岩	
152	A-1 Ⅲ-①層	打製石斧	未製品	139	(73)	(26)	314.9	安山岩	
153	F-1 Ⅲ-①層	砥石	ほぼ完形	74	47	32	165.5	凝灰岩	煤付着
154	D-1 Ⅲ-②層	砥石	1/3	(60)	(46)	(40)	106.5	凝灰岩	
155	G-2 Ⅲ-③層	砥石	2/3	(73)	(76)	(40)	334.9	花崗岩	
156	G-2 Ⅲ-②層	砥石	1/2	(32)	30	17	22.3	凝灰岩	
157	A-2 Ⅲ-②層	砥石	1/2	(37)	(27)	(20)	20.7	凝灰岩	仕上砥

158	G-2 Ⅲ-②層	砥石	ほぼ完形	(81)	(80)	(46)	35.9	軽石	
159	D-4 Ⅲ-③層	浮子	1/2	55	59	26	14.5	軽石	
160	C-4 Ⅲ-③層	石錘	完形	86	83	40	358.7	角閃石安山岩	上打欠幅26mm・下打欠幅25mm
161	C-3 Ⅲ-③層	石錘	1/2	104	(57)	(35)	324.3	デイサイト	上打欠幅(23)mm・下打欠幅(20)mm
162	G-2 Ⅲ-②層	石錘	完形	120	75	48	607.7	角閃石安山岩	左打欠幅46mm・右打欠幅21mm
163	B-2 Ⅲ-②層	石錘	完形	112	76	39	102.1	安山岩	左打欠幅23mm・右打欠幅14mm
164	C-2 Ⅲ-②層	石錘	ほぼ完形	(215)	112	64	1580.1	デイサイト	左打欠幅(10.0)mm
165	E-2 Ⅲ-②層	石錘	完形	158	82	35	594.5	デイサイト	左打欠幅25mm・右打欠幅15mm
166	A-1 Ⅲ-①層	石錘	完形	131	81	36	573.4	デイサイト	左打欠幅21mm・右打欠幅18mm
167	A-1 Ⅲ-②層	石錘	完形	113	60	17	176.4	デイサイト	左打欠幅40mm・右打欠幅33mm
168	A-1 Ⅲ-①層	石錘	完形	110	80	37	378.1	角閃石安山岩	左打欠幅24mm・右打欠幅44mm
169	C-4 Ⅲ-②層	石錘	ほぼ完形	(80)	54	33	193.8	角閃石安山岩	左打欠幅13mm・右打欠幅14mm
170	C-3 Ⅲ-①層	石錘	完形	90	50	18	130.3	デイサイト	左打欠幅42mm・右打欠幅20mm
171	E-1 Ⅲ-②層	敲石・凹石	ほぼ完形	100	(87)	34	303.3	安山岩	
172	B-1 Ⅲ-②層	磨石・凹石	完形	128	90	62	940.6	角閃石安山岩	煤付着
173	A-2 Ⅲ-②層	敲石	ほぼ完形	(87)	72	68	570.7	デイサイト	
174	B-1 Ⅲ-③層	磨石・敲石	完形	132	75	39	578.6	デイサイト	
175	C-3 Ⅲ-②層	磨石・敲石	完形	130	83	80	1059.3	角閃石安山岩	煤付着

第193表 3区弥生時代～古代包含層出土陶磁器・土器・土製品観察表(第406～410区)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	A-2 Ⅲ-③層	土師器 短頸壺	口縁 ～体部	口径(10.5) 器高(9.0) 胴径(18.4)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ヘラミガキ、肩部沈線区画の羽状文2条・ 山形文1条、体部横ヘラミガキ 内面：口頸部横ヘラミガキ、肩部指頭調整、体部横ヘラケズリ→ナデ	頸部穿孔2個
2	B-1 Ⅲ-②層	土師器 小壺	体部 破片	器高(3.1)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：ナデ→竹管文2条以上 内面：ヘラケズリ	
3	B-1 Ⅲ-②層	土師器 甕	底部 破片	器高(1.6) 底径(3.3)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面：指頭調整→縦ハケメ 内面：指頭調整→縦ハケメ	内外面煤付着 庄内式
4	A・B-1 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁 ～体部	口径(26.1) 器高(7.5) 胴径(22.6)	良	灰褐色	密 石英・白色粒	外面：口縁部横ナデ、口縁部横ヘラミガキ→櫛状工具による 波状文5条以上、頸部～体部横ヘラミガキ→横 ハケメ 内面：横ヘラミガキ	
5	B-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁 ～体部	口径(18.1) 器高(6.5)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部横ナデ、口縁部横ヘラミガキ、頸部ナデ、 肩部貝殻腹縁による押し文、体部縦ハケメ 内面：口縁部～肩部横ヘラミガキ、体部横ヘラケズリ	外面口縁部煤付着
6	B-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	破片	口径(19.6) 器高(5.2)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナデ、頸部貝殻腹縁による列点文 内面：口縁部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
7	B-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	破片	口径(17.0) 器高(4.4)	良	灰褐色	密 石英	外面：横ナデ、頸部櫛状工具端部による列点文 内面：口縁部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	口縁部赤彩
8	B-2 Ⅲ-③層	土師器 注口土器	注口部	口径：2.0 注口長：7.0	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：長軸方向のヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：注口部～体部ヘラケズリ	
9	B-1 Ⅲ-②層	土師器 蓋	つまみ部	直径：3.3 厚さ(3.3)	良	褐色	密	内外面：ヘラミガキ	外面煤付着 穿孔
10	B-1 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁 ～体部	口径(25.5) 器高(10.9) 胴径(23.6)	良	褐色	密 雲母・石英 (φ6mm)・ 白色粒(φ 4mm)	外面：口縁部指頭調整→横ナデ、体部叩き目 内面：口縁部指頭調整→横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	
11	C-1 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～肩 部1/4	口径(14.8) 器高(7.9) 胴径(14.5)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤大量に付着 内面煤一部付着
12	B-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁部	口径(27.0) 器高(10.4)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナデ、頸部以下横ヘラケメ、肩部一部縦ハケ メ 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整→ナデ、頸部以下縦ヘ ラケズリ	内外面煤付着
13	B-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁部 1/3	口径(28.4) 器高(9.6)	良	褐色	密 石英・白色粒	外面：口縁部横ナデ、頸部以下縦ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部以下縦ヘラケズリ	内外面煤付着
14	D-1 Ⅲ-①層	土師器 甕	破片	器高(5.6)	良	褐色	密	外面：口縁部横ナデ、頸部以下ハケメ 内面：口縁部横ハケメ、頸部以下横ヘラケズリ	口縁内部刻書 「奉」?
15	B-1 Ⅲ-③層	土師器 鼓形器台	1/2	口径(24.6) 器高13.5 底径(20.2)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：受部横ナデ→櫛状工具による櫛描き波状文、接合部 横ハケメ、脚部横ナデ 内面：受部横ヘラミガキ→縦ヘラミガキ、脚部上半斜めヘ ラケズリ、脚部下半横ナデ	内面脚部一部煤付 着
16	B-1 Ⅲ-③層	土師器 鼓形器台	1/8	口径(25.5) 器高(10.3)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面：横ナデ 内面：受部横ヘラミガキ→縦ヘラミガキ、接合部以下横ヘ ラケズリ	

17	B-1 Ⅲ-②層	土師器 坏	底部 破片	器高(0.8) 底径(9.2)	良	灰褐色	密 角閃石・雲母	外面：底部回転糸切り 内面：ナデ	外底面以外赤彩 外底面墨書「厨」?
18	B-1 Ⅲ-②層	土師器 坏	底部 破片	—	良	橙褐色	密 白色粒	内外面：指頭調整→ナデ	全面赤彩 外底面墨書「+」 か「×」
19	A-1 Ⅲ-②層	土師器 坏	底部 破片	—	良	橙褐色	密 石英・白色粒	外面：ヘラケズリ→ナデ 内面：ナデ	内底面赤彩 外底面墨書「+」 か「×」
20	A-2 Ⅲ-③層	土師器 坏	底部 破片	底径(6.0)	良	黄灰白色	密	外面：底部回転糸切り、貼付高台 内面：ナデ	内底面刻書「大」
21	C-2 Ⅲ-②層	土師器 坏	底部 破片	—	良	褐色	密 石英・白色粒	外面：回転糸切り 内面：ナデ	内面赤彩 外底面線刻
22	B-2 Ⅲ-③層	土師器 坏	破片	器高(1.9)	良	橙褐色	密 雲母	内外面：ナデ	赤彩 内面線刻
23	C-1 Ⅲ-①層	土師器 坏	2/3	口径(13.0) 器高：3.2 底径(8.2)	良	褐色	密 石英・白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧	全面茶系赤彩 内底面線刻 外面一部煤付着
24	B-1 Ⅲ-②層	土師器 坏	底部	器高(4.9) 底径(10.8)	良	橙褐色	密	外面：体部横ナデ、底部指頭調整、貼付高台 内面：ナデ	全面薄い赤彩 外底面線刻「×」
25	A-0 Ⅲ-①層	土師器 転用土器	完形	長さ：6.0 幅：5.8 厚さ：0.8	良好	灰褐色	密	坏底部転用	重量：32.8g
26	B-1 Ⅲ-②層	土師器 蓋	1/3	口径(16.6) 器高：3.5	良	橙褐色	密	内外面：ナデ	外面口縁部～内面 赤彩 黒斑 内面一部煤付着
27	A-1 Ⅲ-②層	土師器 蓋	1/2	口径(13.7) 器高：2.7	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ→ナデ 内面：ナデ	全面赤彩
28	D-1 Ⅲ-③層	土師器 高坏	脚部	器高(7.3)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：縦ヘラケズリ→ナデ 内面：坏部ナデ、脚柱部横ヘラケズリ	脚柱部内面以外茶 系赤彩
29	B-1 Ⅲ-②層	土師器 坏	5/8	口径(17.0) 器高：3.9 底径(11.0)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部～体部横ナデ、底部ヘラケズリ→指頭調整→ ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部横ナデ→横ヘラミガキ、底部指 頭調整→ナデ	外底面以外赤彩
30	A-1 Ⅲ-②層	土師器 坏	5/8	口径：12.8 器高：3.7 底径：9.0	良	褐色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部～体部横ナデ、体部下半ヘラケズリ、底部ヘ ラケズリ→指頭調整 内面：口縁部～体部横ナデ、底部指頭調整	全面薄い赤彩
31	A-1 Ⅲ-②層	土師器 坏	1/8	口径(11.8) 器高：3.6 底径(5.8)	良	橙褐色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部～体部横ナデ、体部下半ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ、底部指頭調整	赤彩
32	A-1 Ⅲ-②層	土師器 坏	1/2	口径：12.9 器高：3.4 底径：8.7	良	灰褐色	密 石英・白色粒	外面：口縁部～体部横ナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ、底部ナデ	全面赤彩
33	A-1 Ⅲ-①層	土師器 皿	1/3	口径(22.4) 器高：2.4 底径(13.8)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部～体部横ナデ、底部ヘラケズリ→ナデ 内面：ナデ	全面赤彩
34	A-1 Ⅲ-①層	土師器 皿	1/4	口径(14.8) 器高：1.5 底径(12.0)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部～体部横ナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ、底部指頭調整→ナデ	全面赤彩
35	C-1 Ⅲ-②層	土師器 皿	1/3	口径(12.8) 器高：1.6 底径(8.6)	良	黒茶色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧→ ナデ 内面：ナデ	全面煤付着
36	A-1 Ⅲ-②層	土師器 坏	5/8	口径(12.7) 器高：2.7 底径：9.1	良	灰褐色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	外底面以外赤彩
37	E-1 Ⅲ-①層	土師器 坏	1/4	口径(12.4) 器高：3.1 底径：8.4	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	全面赤彩
38	A-2 Ⅲ-①層	土師器 坏	1/4	口径(13.4) 器高：3.2 底径(9.0)	良	灰褐色	密 砂粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	全面赤彩
39	A-1 Ⅲ-①層	土師器 坏	1/4	口径(12.8) 器高：3.3 底径(8.0)	良	灰褐色	密 砂粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	全面赤彩
40	A-1 Ⅲ-①層	土師器 坏	1/3	口径(13.8) 器高：3.2 底径(9.8)	良	灰褐色	密 石英・白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	全面赤彩
41	C-2 Ⅲ-①層	土師器 坏	1/2	口径(13.4) 器高：4.0 底径(7.4)	良	褐色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	口縁一部煤付着
42	B-1 Ⅲ-②層	土師器 皿	2/3	口径(14.1) 器高：3.0 底径(7.6)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面：口縁部～体部横ナデ、体部下半ヘラケズリ、底部ヘ ラケズリ→ナデ、貼付高台 内面：口縁部～体部横ナデ、底部指頭調整→ナデ	全面赤彩
43	A-1 Ⅲ-①層	土師器 皿	ほぼ 完形	口径：15.5 器高：3.6 底径：8.1	良	橙褐色	密 石英・白色粒	外面：口縁部～体部横ナデ、体部下半ヘラケズリ、底部ヘ ラケズリ→ナデ、貼付高台 内面：口縁部～体部横ナデ、底部指頭調整→ナデ	高台内部以外赤彩
44	B-1 Ⅲ-②層	土師器 坏	1/3	口径(12.6) 器高：3.2 底径(9.4)	良	灰褐色	密 石英・白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	全面赤彩
45	C-1 Ⅲ-②層	土師器 坏	ほぼ 完形	口径(11.8) 器高：5.0 底径(6.5)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り→板状圧痕 内面：口縁部～体部回転ナデ、体部下半指頭調整、底部ナ デ	
46	C-1 Ⅲ-③層	土師器 坏	1/2	口径(11.6) 器高：4.4 底径(5.8)	良	橙褐色	密 雲母・黒色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	
47	B-1 Ⅲ-②層	土師器 坏	1/4	口径(12.4) 器高：3.3 底径(5.8)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り→板状圧痕 内面：回転ナデ	内面煤付着

48	A-2 Ⅲ-③層	土師器 坏	2/3	口径(122) 器高: 5.5 底径(6.6)	良	褐色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、体部下半指頭押圧、底部ヘ ラ切り→ナデ、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	外面一部煤付着
49	A-2 Ⅲ-②層	土師器 坏	5/8	口径(132) 器高: 5.7 底径(6.8)	良	橙褐色	密 石英・白色 粒・砂粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、貼付高台 内面: 回転ナデ	
50	D-2 Ⅲ-①層	土師器 坏	5/8	口径(135) 器高: 6.8 底径(8.7)	良	橙褐色	密 雲母・白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部指頭押圧	全面茶系赤彩
51	C-1 Ⅲ-①層	土師器 坏	2/3	口径(15.8) 器高: 4.6 底径(6.8)	良	褐色	密 白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 回転ナデ	
52	A-0 Ⅲ-①層	土師器 坏	ほぼ 完形	口径(16.4) 器高: 4.3 底径(6.9)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒・赤色 粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 回転ナデ	内外面煤付着 内面底部タール? 付着
53	C-2 Ⅲ-①層	土師器 坏	1/3	口径(12.1) 器高: 3.0 底径(9.0)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 回転ナデ、体部下半指頭調整、底部ヘラ切り 内面: 回転ナデ→黒色処理、底部指頭押圧	黒色土器 外面一部黒斑 内面煤付着
54	B-1 Ⅲ-②層	土師器 皿	1/10	口径(13.8) 器高: 2.2 底径(8.0)	良	褐色	密 白色粒・砂粒	外面: 口縁部~体部横ヘラミガキ、底部回転糸切り、貼付 高台 内面: 黒色処理→ヘラミガキ	黒色土器
55	A-1 Ⅲ-①層	土師器 坏	2/3	器高(2.4) 底径(6.6)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面: 体部回転ナデ、底部ナデ、貼付高台 内面: 黒色処理→ヘラミガキ	黒色土器 内面煤付着
56	B-2 Ⅲ-①層	土師器 坏	1/10	器高(3.0) 底径(8.4)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面: 体部横ヘラミガキ、貼付高台 内面: 黒色処理→ヘラミガキ	黒色土器
57	A-1 Ⅲ-②層	手捏ね 土器	破片	口径(13.0) 器高(2.4)	良	灰褐色	密 砂粒	内外面: 指頭調整→ナデ	
58	B-2 Ⅲ-②層	手捏ね 土器	破片	口径(10.8) 器高(1.7)	良	褐色	密 雲母・砂粒	内外面: 指頭調整→ナデ	
59	D-1 Ⅲ-②層	手捏ね 土器	破片	口径(9.2) 器高(1.4)	良	褐色	密 砂粒	内外面: 指頭調整→ナデ	
60	B-1 Ⅲ-③層	手捏ね 土器	破片	口径(9.0) 器高(1.7)	良	褐色	密 雲母・砂粒	内外面: 指頭調整→ナデ	
61	B-1 Ⅲ-②層	製塩土器	破片	口径(12.4) 器高(4.6)	やや良	橙褐色	やや粗 石英(φ5mm) ・砂粒	内外面: 指頭調整	
62	A-1 Ⅲ-②層	製塩土器	破片	口径(13.4) 器高(3.9)	やや良	橙褐色	やや粗 小石粒・砂粒	内外面: 指頭調整	
63	C-2 Ⅲ-②層	製塩土器	破片	口径(12.4) 器高(5.5)	やや良	橙褐色	やや粗 雲母・石英・ 砂粒	外面: 指頭調整 内面: 指頭調整・布目跡	
64	A-1 Ⅲ-①層	製塩土器	破片	口径(11.2) 器高(5.6)	やや良	褐色	やや粗 石英・白色粒	内外面: 指頭調整	内面下半内容物付 着
65	C-1 Ⅲ-②層	製塩土器	破片	口径(12.4) 器高(5.0)	やや良	橙褐色	やや粗 雲母・石英・ 砂粒	外面: 指頭調整 内面: 口縁部横ナデ、体部指頭調整・布目跡	
66	C-1 Ⅲ-①層	製塩土器	破片	口径(9.2) 器高(4.5)	やや良	褐色	やや粗 雲母・石英・ 砂粒	内外面: 指頭調整	
67	D-2 Ⅲ-①層	埴輪	破片	器高(6.6) 胴径(33.6)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面: 縦ハケメ、突帯部ナデ 内面: 斜めハケメ	
68	C-1・2 Ⅲ-②層	埴輪	破片	器高(8.1) 胴径(30.0)	良	褐色~黒茶 色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面: 指頭調整→縦ハケメ 内面: 横ハケメ 下部ナデ	内面煤付着
69	A-0 Ⅲ-②層	土師器 移動式籠	袖部	器高(24.4) 幅(9.9) 厚さ(10.3)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	底部: ヘラケズリ→ナデ→一部指頭調整 内面: 体部ヘラケズリ→一部指頭調整	体部内面煤付着
70	D-1 Ⅲ-①層	土製品 支脚	体部	器高(14.5) 幅(8.7) 厚さ(8.8)	良	褐色	密 石英・砂粒	体部: 縦ヘラケズリ 脚部内面: ヘラケズリ	体部一部煤付着
71	C-1 Ⅲ-②層	轆轤口	破片	長さ(6.1) 幅(5.4) 厚さ(2.6)	良	灰褐色~褐 色	密 石英・砂粒	内外面: ヘラケズリ	
72	A-1 Ⅲ-②層	緑釉陶器 碗	破片	口径(12.8) 器高(2.1)	良好	青灰色	密	内外面: 回転ナデ	緑色釉
73	C・D-1・2 Ⅲ-②層	須恵器 甕	口縁 ~肩部	口径(34.6) 器高(11.1)	良好	灰色	密 角閃石・白色 粒	外面: 口縁部回転ナデ→撻状工具による波状文2条、肩部 平行叩き目 内面: 口縁部回転ナデ、肩部当具による青海波文	
74	D・E-1 Ⅲ-①層	須恵器 甕	口縁 ~肩部	口径(34.6) 器高(11.1)	良好	青灰色	密 角閃石・白色 粒	外面: 口縁部回転ナデ→ヘラ状工具による波状文2条 内面: 口縁部回転ナデ、肩部当具による青海波文	外面頭部墨?付着
75	B-1 Ⅲ-②層	須恵器 甕	口頸部破 片	口径(28.8) 器高(7.1)	良好	青灰色	密	外面: 回転ナデ、口縁部ヘラ状工具による沈線1条、口 縁部粗い撻状工具による波状文2条 内面: 回転ナデ	
76	A-2 Ⅲ-②層	須恵器 壺	胴1/2	器高(9.3) 底径(5.0)	良好	青灰色	密 石英・砂粒	外面: 回転ナデ 内面: 頸部絞り、体部回転ナデ	頸部~体部上半自然 降灰
77	B・C-2 Ⅲ-②層	須恵器 壺	口縁~ 肩部1/2	口径(10.2) 器高(5.8)	良好	青灰色	密 雲母・石英	内外面: 回転ナデ	
78	A-1 Ⅲ-②層	須恵器 壺	底部1/2	器高(6.0) 底径(6.6)	良好	青灰色	密 砂粒	外面: 体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 回転ナデ	外面体部ヘラによ る線刻?
79	A-1 Ⅲ-②層	須恵器 甕	口縁~肩 部破片	口径(15.2) 器高(6.3)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部回転ナデ、肩部平行叩き目 内面: 口縁部回転ナデ、頸部指頭調整→ナデ、肩部当具に よる青海波文	
80	B-1 Ⅲ-②層	須恵器 平瓶	把手	長さ(2.8) 幅(3.0) 厚さ(1.0)	良好	暗赤灰色	密 白色粒	外面: ヘラケズリ 内面: 回転ナデ	
81	A-1 Ⅲ-②層	須恵器 提瓶	把手	器高(8.4)	良好	暗赤灰色~ 赤褐色	密 白色粒	外面: 回転ナデ→平行叩き目 内面: 横ヘラケズリ	

82	D-1 Ⅲ-①層	須惠器 甕	口縁〜肩 部破片	口径(21.5) 器高(8.9)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口頸部回転ナデ、肩部平行叩き目 内面：口縁部回転ナデ、頸部指頭調整→ナデ、肩部当具に よる青海波文	
83	A-2 Ⅲ-①層	須惠器 甕	口縁部 破片	口径(17.1) 器高(4.5)	良好	暗赤灰色	密 白色粒	外面：口縁部平行叩き目→ナデ、肩部調整不明 内面：口縁部回転ナデ、頸部指頭調整→ナデ、肩部当具に よる青海波文	肩部外面・口縁部 内面自然降灰
84	D-1 Ⅲ-①層	須惠器 甕	底部1/3	器高(4.6) 底径(15.4)	良好	灰色	密 白色粒	外面：体部平行叩き目、底部ヘラケズリ 内面：体部当具による青海波文、体部下指頭調整→ナデ、 底部ナデ	
85	B-1 Ⅲ-②層	須惠器 蓋	5/8	口径:17.0 器高: 2.0	良好	灰色〜青灰 色	密	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ナデ→ヘラケズリ 内面：口縁部〜体部回転ナデ、天井部ナデ	
86	B-1 Ⅲ-①層	須惠器 蓋	1/4	口径(12.7) 器高(2.1)	良好	青灰色	密 石英・砂粒	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ナデ→ヘラケズリ 内面：回転ナデ	外面煤付着
87	B-1 Ⅲ-②層	須惠器 蓋転用硯	1/4	口径(12.8) 器高: 2.0	良好	青灰色	密 雲母・白色粒	外面：回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、天井部磨耗	
88	E-2 Ⅲ-②層	須惠器 蓋転用硯	破片	器高(1.0)	良好	青灰色	密 石英・白色粒	外面：回転ナデ 内面：磨耗	内面朱墨付着
89	A-2 Ⅲ-②層	須惠器 坏	2/3	口径(12.2) 器高: 4.5 底径(8.4)	良好	暗赤灰色	密 白色粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	
90	A-1 Ⅲ-①層	須惠器 坏	2/3	口径(11.2) 器高: 4.3 底径: 7.2	良好	暗赤灰色	密 白色粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	
91	D-1 Ⅲ-①層	須惠器 坏	5/8	口径(13.6) 器高: 5.3 底径: 9.1	やや良	黄灰白色	密 石英	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	
92	B-1 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/4	口径(14.9) 器高: 4.1 底径(10.2)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	
93	B-2 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/4	口径(10.4) 器高: 4.6 底径(6.6)	良好	暗赤灰色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	
94	B-1 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/2	口径(12.1) 器高: 4.5 底径(8.8)	良好	赤褐色	密 白色粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	
95	B-1 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/2	口径(12.8) 器高: 4.8 底径(9.6)	良	灰色	密 白色粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	
96	B-2 Ⅲ-②層	須惠器 坏	2/3	口径(11.5) 器高: 4.2 底径(8.3)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	
97	C-1 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/2	口径(12.9) 器高: 2.4 底径(8.8)	良好	赤褐色	密 白色粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	
98	B-1 Ⅲ-②層	須惠器 坏	2/3	口径(15.2) 器高: 2.5 底径(12.4)	良好	灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	
99	D-2 Ⅲ-①層	須惠器 坏	2/3	口径(15.2) 器高: 2.5 底径(11.4)	良	灰色	密 石英・白色粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	
100	B-2 Ⅲ-②層	須惠器 灯明皿	1/4	口径(8.0) 器高: 2.8 底径(6.0)	良	暗赤灰色	密 白色粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	口縁部内外面ター ル付着
101	A-2 Ⅲ-②層	須惠器 灯明皿	破片	口径(8.8) 器高: 2.6 底径(6.0)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ヘラケズリ 内面：回転ナデ	外面自然降灰 口縁部内面ター ル付着
102	B-1 Ⅲ-②層	須惠器 灯明皿	1/4	口径(10.2) 器高: 3.0 底径(5.8)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	口縁部内外面ター ル付着
103	B-1 Ⅲ-②層	須惠器 坏	5/8	口径(11.6) 器高: 4.0 底径: 7.8	良好	灰色	密 砂粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、体部下半ヘラケズリ、底部 回転系切り 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	
104	B-2 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/4	口径(11.4) 器高: 4.0 底径(7.6)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	
105	C-1 Ⅲ-②層	須惠器 坏	ほぼ 完形	口径:12.6 器高: 4.2 底径: 8.2	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り・貼付高台 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	
106	B-2 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/4	口径(15.4) 器高: 6.3 底径(10.4)	良好	青灰色〜赤 褐色	密 白色粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ヘラケズリ・貼付高台 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	
107	C-1 Ⅲ-②層	須惠器 坏転用硯	ほぼ 完形	口径:19.4 器高: 3.5 底径:12.0	良	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り・貼付高台 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部磨耗	
108	C-2 Ⅲ-①層	須惠器 坏	5/8	口径:17.8 器高: 3.7 底径:10.9	良	青灰色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り・貼付高台 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	
109	B-1 Ⅲ-②層	須惠器 坏	5/8	口径:18.4 器高: 2.9 底径:14.9	良	暗赤灰色	密 角閃石・白色 粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り・貼付高台 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部ナデ	口縁部外面煤付着
110	A-1 Ⅲ-①層	須惠器 皿転用硯	1/4	口径(13.0) 器高: 1.5 底径(7.0)	良好	青灰色	密 砂粒	外面：口縁部〜体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部〜体部回転ナデ、底部磨耗	
111	D-1 Ⅲ-①層	須惠器 坏転用硯	底部 破片	器高(1.0) 底径(10.0)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：底部磨耗	内面底部墨付着
112	A-1 Ⅲ-②層	須惠器 坏転用硯	底部 破片	器高(1.3) 底径(8.5)	良好	青灰色	密 角閃石・白色 粒	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り、貼付高台 内面：体部回転ナデ、底部磨耗	内面底部朱墨・白 色顔料?付着
113	B-2 Ⅲ-②層	須惠器 坏転用硯	底部1/8	器高(1.8) 底径(14.0)	良	灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り、貼付高台 内面：体部回転ナデ、底部磨耗	

114	D-2 Ⅲ-③層	須恵器 蓋	破片	器高(1.9)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：口縁部回転ナデ、天井部ヘラケズリ 内面：回転ナデ	外面天井部線刻 外面口縁部自然降 灰
115	C-1 Ⅲ-①層	須恵器 坏	1/2	口径(11.4) 器高：3.9 底径(7.2)	良好	灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面底部焼成前ヘ ラ描き・線刻
116	D-1 Ⅲ-①層	須恵器 坏転用硯	底部1/2	器高(4.6) 底径(10.0)	良好	青灰色	密 雲母・白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：体部回転ナデ、底部磨耗	外面高台内線刻
117	C-1 Ⅲ-②層	須恵器 坏	2/3	口径(17.8) 器高：3.7 底径(11.8)	良好	赤褐色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面高台内墨書 「◎」?
118	D-1 Ⅲ-①層	須恵器 坏	1/2	器高(2.6) 底径(8.8)	良	黄灰白色	密	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面高台内墨書 「井」
119	E-2 Ⅲ-②層	須恵器 坏	破片	口径(12.8) 器高(3.8)	良	灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ	外面墨付着筆揃 え?
120	E-2 Ⅲ-③層	須恵器 転用土器	完形	長さ：3.0 幅：2.9 厚さ：1.2	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量：14.6g
121	E-2 Ⅲ-②層	須恵器 転用土器	完形	長さ：3.1 幅：2.7 厚さ：1.4	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量：12.2g
122	E-2 Ⅲ-②層	須恵器 転用土器	完形	長さ：3.3 幅：2.7 厚さ：1.3	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量：10.9g
123	E-2 Ⅲ-③層	須恵器 転用土器	完形	長さ：2.8 幅：2.7 厚さ：0.9	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量：9.0g
124	E-2 Ⅲ-②層	須恵器 転用土器	完形	長さ：2.6 幅：2.5 厚さ：1.4	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量：10.4g
125	A-2 Ⅲ-②層	須恵器 転用土器	完形	長さ：2.4 幅：2.2 厚さ：0.9	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量：7.6g
126	B-1 Ⅲ-①層	須恵器 転用土器	完形	長さ：2.4 幅：2.0 厚さ：0.7	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量：5.6g
127	A-1 Ⅲ-②層	須恵器 転用土器	完形	長さ：2.3 幅：2.2 厚さ：0.9	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量：6.1g
128	C-1 Ⅲ-①層	須恵器 転用土器	完形	長さ：2.4 幅：2.1 厚さ：1.1	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量：7.2g
129	A-0 Ⅲ-①層	須恵器 転用土器	完形	長さ：2.3 幅：2.3 厚さ：0.8	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量：5.5g
130	A-1 Ⅲ-②層	須恵器 転用土器	完形	長さ：2.3 幅：2.1 厚さ：1.3	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量：8.2g
131	B-1 Ⅲ-②層	須恵器 転用土器	完形	長さ：2.1 幅：1.9 厚さ：1.0	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量：5.6g
132	B-1 Ⅲ-①層	須恵器 転用土器	完形	長さ：1.9 幅：1.9 厚さ：0.9	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量：5.3g
133	B-1 Ⅲ-①層	須恵器 転用土器	完形	長さ：1.8 幅：1.8 厚さ：1.2	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量：4.8g
134	B-1 Ⅲ-②層	須恵器 土錘	1/2	長さ：4.7 幅：1.7 厚さ(1.1)	良好	青灰色	密		重量：8.6g
135	D-1 Ⅲ-①層	須恵器 陶馬	脚部 破片	長さ(11.8) 幅(9.4) 厚さ(4.7)	良好	青灰色	密	外面：ヘラケズリ→工具によるナデ 内面：ヘラケズリ一部工具によるナデ	
136	A-2 Ⅲ-①層	平瓦	1/4	厚さ(2.1)	良	暗灰白色	密 石英 (φ10mm)	凸面：格子目状工具による叩き目 凹面：布目状圧痕 側面：ヘラ切り→ナデ	

第194表 3区弥生時代～古代包含層出土金属製品観察表(第410・411・413区)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種 類	部 位 残存率	材 質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備 考
137	C-1 Ⅲ-①層	紡錘車	ほぼ 完形	鉄	軸部(285)	円盤径:57	軸部 :4 円盤部:4	7	錆化(△)	5	79.4	
138	E-2 Ⅲ-①層	紡錘車	ほぼ 完形	鉄	軸部(185)	円盤径:47	軸部 :3 円盤部:2	5	錆化(△)	5	18.2	
139	B-1 Ⅲ-②層	紡錘車	円盤部～ 軸部	鉄	軸部(50)	円盤径:49	軸部 :4 円盤部:3	5	錆化(△)	4	31.2	
140	C-2 Ⅲ-②層	紡錘車	円盤部	鉄	—	円盤径:57	円盤部:2	6	錆化(△)	3	15.5	穿孔2個
141	A-1 Ⅲ-①層	紡錘車	円盤部	鉄	—	円盤径:46	円盤部:5	7	錆化(△)	4	18.6	
142	C-1 Ⅲ-②層	包丁?	ほぼ 完形	鉄	全長(106) 刃部(58) 基部(48)	刃部 :24 基部 :15	刃部 :2 基部 :2	6	錆化(△)	4	21.1	
143	A-1 Ⅲ-①層	鎌	刃部	鉄	68	27	2	5	H(○)	3	11.7	
144	B-1 Ⅲ-②層	環付き金具	ほぼ 完形	鉄	環部径:30 金具部:90	金具部:3	環部 :3 金具部:4	4	L(●)	5	14.2	
167	A-2 Ⅲ-②層	帯金具 丸柄	完形	銅	24	36	11				16.3	表金具・裏金具付 き

168	A-1 Ⅲ-①層	鉄鏃・棒状 不明品	鉄鏃 棒状不明 品	鉄	全長(98) 刃部(67) 茎部(31)	刃部(32) 茎部:4	刃部:4 茎部:3			123.5
169	B-1 Ⅲ-②層	鉄製品 馬具	—	鉄	紋具部:33 鎖部:27	紋具部:38 鎖部:32	紋具部:10 鎖部:18			64.4

第195表 3区弥生時代～古代包含層出土石器観察表(第411・412図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
145	B-2 Ⅲ-②層	磨製石斧	1/2	(103)	67	40	444.3	斑礫岩	刃部角83度
146	C-1 Ⅲ-②層	磨製石斧	1/2	(101)	(52)	41	276.1	閃緑岩	刃部角73度
147	B-1 Ⅲ-③層	磨製石斧	1/2	(103)	(51)	(33)	153.3	凝灰岩	刃部角77度
148	A-2 Ⅲ-①層	石鏃	破片	(69)	(59)	14	46.2	結晶片岩	
149	C-1 Ⅲ-③層	砥石	ほぼ完形	146	43	43	310.5	花崗岩	
150	B-1 Ⅲ-②層	砥石	ほぼ完形	106	27	26	115.7	凝灰岩	仕上砥 漆?付着
151	B-1 Ⅲ-②層	砥石	ほぼ完形	(120)	(45)	(35)	186.7	凝灰岩	仕上砥
152	B-1 Ⅲ-②層	砥石	1/2	(74)	(50)	(47)	176.6	凝灰岩	仕上砥
153	D-1 Ⅲ-①層	砥石	ほぼ完形	35	33	14	24.9	凝灰岩	仕上砥
154	A-2 Ⅲ-①層	砥石	1/2	(52)	(37)	(23)	57.7	凝灰岩	仕上砥 廃棄後被熱
155	B-2 Ⅲ-①層	砥石	破片	(133)	(98)	(98)	308.5	花崗岩	
156	A-1 Ⅲ-②層	砥石	ほぼ完形	75	72	43	27.0	軽石	
157	D-1 Ⅲ-①層	石錘	完形	131	97	40	731.8	角閃石安山岩	左打欠幅27mm・右打欠幅34mm
158	D-2 Ⅲ-①層	石錘	完形	92	70	34	289.1	デイスait	上打欠幅40mm・下打欠幅21mm
159	C-1 Ⅲ-②層	磨石・凹石	完形	134	120	55	1219.0	角閃石安山岩	
160	C-1 Ⅲ-③層	磨石・凹石	完形	117	72	37	430.6	角閃石安山岩	
161	D-2 Ⅲ-①層	磨石・凹石	ほぼ完形	126	111	39	706.3	デイスait	煤付着
162	D-1 Ⅲ-②層	磨石	完形	126	81	63	917.0	デイスait	煤付着
163	D-1 Ⅲ-①層	磨石・凹石	完形	115	109	32	539.7	デイスait	
164	B-1 Ⅲ-①層	磨石・凹石	完形	87	78	31	301.4	安山岩	
165	C-1 Ⅲ-②層	台石・砥石	破片	145	125	83	2474.4	珪岩	煤付着
166	B-1 Ⅲ-②層	台石	ほぼ完形	(356)	284	77	10400.0	デイスait	

第196表 4区弥生時代～古代包含層出土陶磁器・土器・土製品・石製品観察表(第414～419図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整 ・ 文 様	備 考
1	A-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	完形	口径:23.3 器高:38.8 胴径:32.7 底径:8.5	良好	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部横ヘラミガキ、口縁部粗い櫛状工具による 直線文、頸部横ハケメ、肩部櫛状工具による波状文 2条、体部縦ハケメ→縦・横ヘラミガキ 内面:口頸部横ヘラミガキ、体部横ヘラケズリ、体部下 指頭調整→横ヘラケズリ	底部焼成後穿孔 黒斑 外面・内面口縁部 炭化物・煤付着
2	A-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径:13.9 器高:19.8 胴径(17.3) 底径:5.0	良好	褐色	密 角閃石・白色 粒	外面:口縁部～肩部横ナデ、肩部横ハケメ、体部縦ミガキ 内面:口縁部指頭調整、頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズ リ、体部下半指頭調整→縦ヘラケズリ	黒斑 外面一部炭化物付 着 搬入品か?
3	A-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径:15.5 器高:13.5 胴径:16.0	やや良	褐色	密 角閃石・雲 母・白色粒	外面:口頸部横ナデ、肩部横ハケメ、体部櫛状工具による 波状文→縦・横ハケメ 内面:口縁部横ナデ、頸部横ヘラミガキ、体部上半横ヘラ ケズリ、体部下半指頭調整→縦ヘラケズリ	外面煤付着 外面体部～底部炭 化物付着
4	B-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/4	口径(16.6) 器高(9.8)	良好	褐色	密 石英・白色粒	外面:口縁部～肩部縦・横ヘラミガキ、肩部ヘラ状工具に よる直線文3条・具腹縁による連続刺突文、体部 横・縦ハケメ 内面:口頸部縦・横ヘラミガキ、体部横ヘラケズリ	口縁部煤付着 外面口縁部・肩部 一部炭化物付着
5	B-4 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～肩 部破片	口径(16.2) 器高(4.9)	良好	褐色	密 角閃石・石 英・白色粒	外面:口縁部櫛状工具による波状文、頸部横ヘラミガキ 内面:口頸部横ナデ、体部以下横ヘラケズリ	内外面口縁部一部 煤付着
6	C-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/4	口径(15.6) 器高(10.7)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部～肩部横ナデ、肩部櫛状工具端部による列点 文10個以上、体部縦・横ハケメ・ヘラ状工具による 刺突文上下2個 内面:口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
7	A-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部	口径:13.4 器高(11.1)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口頸部横ナデ、肩部以下横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
8	B-3 Ⅲ-②層	土師器 小型甕	口縁～体 部1/8	口径(6.2) 器高(4.7)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面:口頸部横ナデ、肩部以下縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	

9	B-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	ほぼ 完形	口径:12.8 器高:11.0 胴径:13.8	やや良	褐色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	外面:口縁部横ナデ、肩部以下叩き目 内面:口縁部横ナデ、肩部指頭調整→横ヘラケズリ、体部 上半横ヘラケズリ、体部下半縦ヘラケズリ	外面煤付着
10	B-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	1/2	口径(19.2) 器高:29.4 胴径(28.5)	良	褐色	密 角閃石・石 英・小石粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、底部指頭調整→ 縦ヘラケズリ	外面体部粗痕 体部一部煤・炭化 物付着
11	C-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁~体 部1/4	口径(20.0) 器高(14.6)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部~肩部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
12	B-3 Ⅲ-①層	土師器 甕	口縁~体 部1/3	口径(26.8) 器高(13.5)	不良	褐色	密 雲母・石英・ 小石粒・砂粒	外面:口縁部~肩部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
13	B-3 Ⅲ-①層	土師器 甕	口縁~体 部1/3	口径:17.8 器高(7.7)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部~肩部横ナデ、体部叩き目 内面:口頸部横ナデ、体部斜めヘラケズリ	
14	B-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁~体 部1/3	口径(31.6) 器高(9.2)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部横ナデ、口縁部指頭調整→縦ハケメ→ナデ、 体部縦ハケメ 内面:口縁部横ハケメ→ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
15	A-1 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁~体 部1/3	口径(26.6) 器高(11.3)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:横ナデ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面一部煤付着
16	B-3 Ⅲ-①層	土師器 甕	口縁~体 部破片	口径(19.6) 器高(7.0)	良	橙褐色	密 雲母・白色 粒・砂粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦ハケメ 内面:口縁部横ナデ、肩部指頭調整→横ヘラケズリ、体部 横ヘラケズリ	
17	B-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁~体 部1/3	口径(18.8) 器高(13.7)	良	褐色	密 雲母・石英	外面:口縁部横ナデ、頸部以下指頭調整→粗い縦・横ハケ メ 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整→斜めヘラケズリ→ナ デ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
18	A-2 Ⅲ-③層	土師器 鉢	破片	口径(19.4) 器高(5.1)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部横ナデ、口縁部横ヘラミガキ、体部縦・横 ヘラミガキ 内面:横ヘラミガキ	内面茶系赤彩 外面煤付着
19	A-1 Ⅲ-②層	土師器 鉢	破片	口径(16.6) 器高(5.9)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面:口縁部横ナデ、口縁部~体部横ヘラケズリ 内面:斜めヘラケズリ	体部穿孔
20	C-1 Ⅲ-③層	土師器 高坏	坏部	口径:20.8 器高(6.9)	良	外面:橙褐 色 内面:褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:坏部縦ハケメ→横・縦ヘラミガキ 内面:坏部縦ヘラミガキ 接合部円蓋充填法	黒斑 外面墨痕?
21	A-1 Ⅲ-③層	土師器 低脚坏	5/8	口径(14.0) 器高: 4.3 底径: 4.0	良	橙褐色	密 角閃石・雲 母・石英・砂 粒	外面:坏部縦・横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	
22	C-1 Ⅲ-③層	土師器 低脚坏	2/3	口径(12.2) 器高: 4.1 底径(3.6)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:坏部横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	黒斑
23	A-1 Ⅲ-③層	土師器 低脚坏	脚部	器高(3.6) 底径: 7.2	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面:坏部ナデ→粗い横ヘラミガキ、脚部上半粗い縦ヘラ ミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部横ハケメ、脚部横ナデ	黒斑 二次焼成
24	B-3 Ⅲ-③層	土師器 低脚坏	2/3	口径(12.8) 器高: 5.3 底径(6.5)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面:口縁部横ナデ、坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚 部横ヘラミガキ 内面:坏部上半ヘラケズリ→ナデ→横ヘラミガキ、坏部下 半ヘラケズリ→ナデ→粗いヘラミガキ、脚部横ヘラ ミガキ	黒斑 内外面一部煤付着
25	C-4 Ⅲ-②層	土師器 低脚坏	脚部	器高(2.5) 底径: 4.7	良	褐色	密 雲母・石英	外面:縦・横ヘラミガキ 内面:坏部ヘラミガキ、脚部横ナデ	脚部上端穿孔2個
26	A-1 Ⅲ-③層	土師器 鼓形器台	坏部 破片	器高(6.0)	良	橙褐色	密 角閃石・白色 粒	外面:横ヘラミガキ、受部竹管による同心円文7個以上 内面:横ヘラミガキ	黒斑
27	A-1 Ⅲ-②層	土師器 小型器台	脚部	器高(5.5) 底径:12.0	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:接合部~脚部布目状圧痕→縦ハケメ→縦・横ヘラミ ガキ、脚部横ナデ 内面:接合部~脚部上半横ヘラケズリ、脚部下半横ハケメ	脚部内面ヘラによる 線刻2条 二次焼成
28	A-1 Ⅲ-③層	土師器 鼓形器台	受部~接 合部	口径:16.8 器高(9.1)	良	褐色	密 角閃石・雲 母・石英・砂 粒	外面:口縁部横ナデ、受部縦ハケメ→横ヘラミガキ→摺 状工具による直線文、接合部縦ハケメ→横ヘラミガ キ→ヘラ状工具による直線文7条 内面:縦・横ヘラミガキ	内外面赤彩 内外面受部一部煤 付着
29	C-1 Ⅲ-③層	土師器 蓋	つまみ部	直径: 2.9 器高(1.4)	良	褐色	密 白色粒	外面:ハケメ→ナデ	つまみ部穿孔2個
30	A-1 Ⅲ-①層	手捏ね 土器	1/3	器高(2.4) 胴径(4.8) 底径(3.4)	やや良	褐色	やや密	外面:体部指頭調整→横ナデ、底部ナデ 内面:指頭調整→横ナデ	二次焼成
31	C-1 Ⅲ-①層	手捏ね 土器	ほぼ 完形	口径: 7.8 器高: 6.6	やや良	黒褐色	やや密	外面:指頭調整→ナデ 内面:口縁部横ナデ、体部横ヘラケズリ、底部指頭調整	
32	A-1 Ⅲ-②層	製塩土器	破片	口径(11.6) 器高(5.1)	やや良	褐色	やや粗 雲母・石英・ 砂粒	内外面:指頭調整・布目跡	
33	B-2 Ⅲ-②層	製塩土器	破片	口径(10.0) 器高(4.5)	やや良	褐色	やや粗 雲母・石英・ 砂粒	内外面:指頭調整	二次焼成
34	B-4 Ⅲ-③層	製塩土器	破片	口径(9.8) 器高(3.7)	やや良	橙褐色	やや粗 雲母・石英・ 砂粒	外面:指頭調整→ナデ 内面:指頭調整→ナデ・布目跡	
35	B-4 Ⅲ-③層	製塩土器	破片	口径(9.8) 器高(4.4)	やや良	橙褐色	やや粗 雲母・石英	外面:指頭調整 内面:指頭調整・布目跡	
36	C-3 Ⅲ-②層	製塩土器	破片	口径(12.2) 器高(2.7)	良	褐色	やや粗 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部横ナデ、体部指頭調整→ナデ 内面:口縁部横ナデ、体部指頭調整→ナデ	
37	A-1 Ⅲ-③層	土師器 甕?	破片	器高(2.3)	やや良	灰褐色	密 石英・白色粒	内外面:横ナデ	口縁部穿孔 外面煤付着
38	C-1 Ⅲ-③層	埴輪	破片	器高(10.8) 胴径(35.4)	良	外面:褐色 内面:黒茶 色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:縦・横ハケメ、突部ナデ 内面:指頭調整→横ヘラケズリ	内面煤付着

39	A・B-1・3・4 Ⅲ-②層	土製品 三叉支脚	2/3	器高(17.8) 幅(13.6) 厚さ(8.5)	良好	褐色	密 角閃石・白色 粒	体部～脚部縦・横ヘラケズリ	突起部長 6.7cm・5.6cm 突起部幅 4.4cm・4.5cm 一部煤附着
40	A-1 Ⅲ-②層	土師器 坏	1/2	口径(13.8) 器高(3.1) 底径(11.2)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナデ、体部横ヘラミガキ、底部ヘラケズ リ 内面：口縁部～体部横ヘラミガキ、底部ナデ	全面赤彩
41	B-2 Ⅲ-②層	土師器 坏	2/3	口径(13.3) 器高：2.6 底径(10.4)	良	橙褐色	密 雲母・石英	外面：口縁部～体部横ヘラミガキ、底部ヘラ切り→指頭押 圧 内面：口縁部～体部横ヘラミガキ、底部指頭押圧	全面赤彩 外面・内面底部煤 附着
42	B-2 Ⅲ-②層	土師器 坏	完形	口径：13.3 器高：3.4 底径：9.4	良	褐色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	外面以外薄い赤 彩
43	B-2 Ⅲ-②層	土師器 坏	2/3	口径：12.8 器高：3.6 底径：7.2	良	橙褐色	密 砂粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	全面赤彩
44	B-2 Ⅲ-②層	土師器 坏	2/3	口径(11.8) 器高：3.1 底径(7.6)	良	橙褐色	密 石英・砂粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧→ ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	全面赤彩
45	A-2 Ⅲ-③層	土師器 坏	2/3	口径：13.3 器高：3.6 底径：9.2	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	
46	B-1 Ⅲ-①層	土師器 坏	1/4	口径(12.0) 器高：3.8 底径(4.4)	良	橙褐色	密 雲母	外面：口縁部～体部回転ナデ、体部下半ハケメ、底部ヘラ 切り→指頭押圧 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	全面赤彩
47	C-2 Ⅲ-②層	土師器 坏	1/2	口径(11.8) 器高：4.6 底径(6.2)	良	黄灰白色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：回転ナデ	
48	C-1 Ⅲ-③層	土師器 皿	破片	器高(2.5) 底径(14.8)	良	橙褐色	密 石英・白色粒	外面：体部横ヘラミガキ、貼付高台 内面：横ヘラミガキ	
49	A-2 Ⅲ-②層	土師器 坏	2/3	口径(15.6) 器高：4.4 底径：5.9	良	褐色	密	外面：口縁部～体部上半横ヘラミガキ、体部下半横ナデ、 底部回転系切り 内面：黒色処理→横ヘラミガキ	黒色土器
50	C-1 Ⅲ-①層	土師器 坏	ほぼ 完形	口径：14.8 器高：7.1 底径：8.9	良	黄灰白色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転系切り→ナデ、貼 付高台 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面煤附着
51	C-4 Ⅲ-②層	土師器 灯明皿	底部	器高(1.9) 底径：7.5	良	褐色～ 橙褐色	密 雲母・石英	外面：ナデ、貼付高台 内面：ナデ	土師器転用 内外面煤附着
52	C-1 Ⅲ-①層	土師器 灯明皿	底部	器高(3.3) 底径：8.9	良	灰褐色	密 雲母・石英	外面：ナデ、貼付高台 内面：ナデ	土師器転用 外面煤附着
53	C-1 Ⅲ-①層	土師器 高坏	脚部 破片	器高(3.4) 底径(13.6)	良	褐色	密 白色粒	外面：磨耗調整不明 内面：縦ヘラケズリ 脚部三角透し3個以上	黒斑
54	B-1 Ⅲ-②層	土師器	把手	器高(1.7)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面：ナデ 内面：縦ヘラケズリ	
55	B-1 Ⅲ-①層	緑釉陶器 碗	破片	口径(14.0) 器高(2.6)	良好	灰色	密	内外面：回転ナデ	緑色釉
56	C-2 Ⅲ-①層	緑釉陶器 碗	底部 破片	器高(1.7) 底径：5.9	良好	青灰色	密	外面：高台内部・高台外面露胎、削り出し高台 内面：見込圏線1条	緑色釉
57	C-1 Ⅲ-①層	緑釉陶器 碗	底部 破片	器高(2.2) 底径(7.1)	良好	青灰色	密	外面：高台露胎、削り出し高台 内面：見込圏線1条	緑色釉
58	B-4 Ⅲ-①層	土師器 甕	破片	器高(7.0)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：粗い縦ハケメ 内面：ヘラケズリ	墨書？
59	B-2 Ⅲ-③層	土師器 坏	底部 破片	器高(0.6) 底径(8.0)	良好	橙褐色	密 白色粒	外面：底部回転系切り 内面：指頭調整	内外面赤彩 内面底部墨書「太」
60	C-3 Ⅲ-①層	土師器 皿	底部 破片	器高(0.9)	良好	橙褐色	密 角閃石・白色 粒	外面：底部ヘラ切り→指頭押圧 内面：ナデ	内面底部墨書 「息」
61	B-4 Ⅲ-①層	須恵器 壺	ほぼ 完形	口径(15.0) 器高：2.8 底径：5.9	良	灰色	密 白色粒	内外面：回転ナデ	外面天井部墨書 「中」
62	A-4 Ⅲ-①層	須恵器 坏	底部 破片	器高(1.5) 底径(9.4)	良好	灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り、貼付高台 内面：回転ナデ	外面高台内墨書 「息」？
63	C-2 Ⅲ-①層	須恵器 坏	底部 破片	器高(1.4) 底径(10.0)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り、貼付高台 内面：ナデ	外面高台内墨書 「息一食」
64	A-3 Ⅲ-①層	須恵器 壺	底部	器高(3.3) 底径(7.0)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：体部回転ナデ、底部ヘラ切り、貼付高台 内面：回転ナデ	内面底部一部自然 降灰 外面高台内線刻 「×」
65	C-1 Ⅲ-②層	須恵器 坏	底部 破片	器高(1.5) 底径(11.4)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り、貼付高台 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面高台内線刻 「×」
66	A-3 Ⅲ-③層	須恵器 坏	1/4	口径(15.5) 器高：6.8 底径(12.0)	良好	灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	内面底部線刻
67	C-1 Ⅲ-①層	須恵器 坏	1/3	器高(3.0) 底径(7.4)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面底部線刻 内面底部線刻「×」
68	A-3 Ⅲ-②層	須恵器 坏	1/3	口径(11.2) 器高：3.6 底径(8.0)	良好	暗赤灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転系切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面底部線刻「×」
69	B-1 Ⅲ-①層	須恵器 転用土器	完形	長さ：2.7 幅：2.4 厚さ：1.2	良好	暗赤灰色	密 白色粒	甕体部転用	重量：10.6g
70	A-3 Ⅲ-①層	須恵器 転用土器	完形	長さ：2.5 幅：2.4 厚さ：1.4	良好	青灰色	密 白色粒	甕体部転用、裏面磨痕	重量：11.6g
71	A-4 Ⅲ-②層	須恵器 転用土器	完形	長さ：2.6 幅：2.3 厚さ：1.4	良好	青灰色	密	甕体部転用、側面～裏面磨痕	重量：10.4g

72	A~C-1 Ⅲ-①層	須恵器 転用土器	完形	長さ: 2.2 幅: 2.2 厚さ: 0.8	良好	灰色	密	甕体部転用	重量: 6.1g
73	A・B・C-4 Ⅲ-③層	須恵器 転用土器	完形	長さ: 2.1 幅: 2.5 厚さ: 0.9	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量: 7.0g
74	A-2 Ⅲ-①層	須恵器 転用土器	完形	長さ: 1.2 幅: 2.1 厚さ: 0.8	良好	灰色	密	甕体部転用	重量: 4.7g
75	C-1 Ⅲ-①層	須恵器 転用土器	完形	長さ: 2.0 幅: 2.2 厚さ: 0.9	良好	青灰色	密	甕体部転用、側面~裏面磨痕	重量: 5.7g
76	A-4 Ⅲ-①層	須恵器 転用土器	完形	長さ: 2.2 幅: 2.2 厚さ: 1.0	良好	青灰色	密	甕体部転用、側面~裏面磨痕	重量: 6.6g
77	C-1 Ⅲ-②層	須恵器 転用土器	完形	長さ: 2.3 幅: 1.8 厚さ: 0.8	良好	灰色	密	甕体部転用、側面~裏面磨痕	重量: 4.5g
78	C-1 Ⅲ-①層	須恵器 壺	2/3	口径(17.4) 器高(31.6) 底径(26.8)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ、頸部内面ナデ	内面口縁部~外面 肩部自然降灰 外面体部下半粘土 粒付着
79	C-4 Ⅲ-①層	須恵器 壺	1/2	器高(17.2) 胴径(17.2) 底径(11.6)	良好	赤褐色	密 白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 回転ナデ	外面口縁部~肩部 自然降灰
80	C-1 Ⅲ-②層	須恵器 壺	口頸部	口径(10.0) 器高(9.1)	良	灰色	密 白色粒	外面: 回転ナデ 内面: 口縁部回転ナデ、頸部紋り	内面口縁部~外面 肩部自然降灰
81	A-3 Ⅲ-②層	須恵器 水瓶	口頸部	口径(4.1) 器高(8.4)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 回転ナデ、頸部紋り 内面: 回転ナデ	内面口縁部自然降 灰
82	A-4 Ⅲ-①層	須恵器 壺	肩部 破片	器高(1.4)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 回転ナデ、肩部円形浮文1個以上 内面: 回転ナデ	
83	A-2 Ⅲ-②層	須恵器 甌	破片	器高(3.5)	良好	灰色	密 白色粒	外面: 回転ナデ、肩部ヘラ状工具による直線文、櫛状工具 による刺突文 内面: 回転ナデ	
84	A-3 Ⅲ-②層	須恵器 提瓶	肩部 把手	器高(3.5)	良好	灰色	密 白色粒	外面: 肩部調整不明、把手部ヘラケズリ 内面: 回転ナデ	外面自然降灰
85	A-3 Ⅲ-②層	須恵器 鉢	破片	口径(22.3) 器高(5.6)	良好	灰色	密 白色粒	外面: ロクロ調整、把手部ヘラケズリ 内面: 回転ナデ	内面口縁部一部煤 付着
86	B-2 Ⅲ-①層	須恵器 壺	2/3	口径(12.7) 器高: 3.4	良好	灰褐色	密 雲母・白色 粒・砂粒	外面: 回転ナデ 内面: 口縁部回転ナデ、天井部ナデ	
87	B-3 Ⅲ-③層	須恵器 壺	2/3	口径:16.8 器高: 3.4	不良	暗赤灰色	密 白色粒・砂粒	外面: 回転ナデ 内面: 口縁部回転ナデ、天井部ナデ	
88	C-1 Ⅲ-②層	須恵器 蓋転用硯	1/4	口径(12.6) 器高: 1.7	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面: 口縁部回転ナデ、天井部磨耗	内面天井部墨付着
89	A-3 Ⅲ-②層	須恵器 坏	完形	口径:11.8 器高: 5.6	良好	青灰色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
90	B-1 Ⅲ-①層	須恵器 坏	1/2	口径(12.0) 器高: 4.2 底径(6.4)	良好	青灰色	密 雲母・白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
91	B-1 Ⅲ-①層	須恵器 坏	5/8	口径:12.6 器高: 4.2 底径: 9.3	良好	青灰色~赤 褐色	密 白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、体部下半ヘラケズリ、底部 回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
92	A-1 Ⅲ-②層	須恵器 坏	1/4	口径(12.3) 器高: 4.2 底径(8.8)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
93	B-2 Ⅲ-③層	須恵器 坏	完形	口径:11.1 器高: 5.0 底径: 7.4	良好	暗赤灰色	密 石英多量・砂 粒多量	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
94	B-2 Ⅲ-②層	須恵器 坏	1/2	口径(13.2) 器高: 4.5 底径(9.2)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
95	A-3 Ⅲ-②層	須恵器 坏	1/2	口径(11.6) 器高: 3.8 底径(8.2)	良	暗赤灰色	密 白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
96	C-1 Ⅲ-③層	須恵器 坏	1/2	口径(10.2) 器高: 3.9 底径(7.2)	良好	青灰色	密 雲母・白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
97	C-1 Ⅲ-③層	須恵器 坏	1/2	口径(11.2) 器高: 4.1 底径(7.6)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
98	B-2 Ⅲ-①層	須恵器 皿	2/3	口径:14.4 器高: 2.4 底径:10.6	良好	青灰色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
99	B-2 Ⅲ-①層	須恵器 皿転用硯	1/4	口径(13.3) 器高: 2.4 底径(10.2)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、体部下半ヘラケズリ、底部 回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部研磨	
100	A-1・C-2 Ⅲ-②層	須恵器 坏	1/2	口径:11.1 器高: 4.4 底径: 8.2	良好	赤褐色	密 雲母・白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	内外口縁部・高台 外面一部煤付着
101	A-4 Ⅲ-①層	須恵器 坏	2/3	口径:15.2 器高: 6.6 底径: 9.0	良好	青灰色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
102	C-4 Ⅲ-②層	土師器 坏	ほぼ 完形	口径:11.4 器高: 4.5 底径: 6.3	良	黄灰白色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	内面一部煤付着
103	B-2 Ⅲ-②層	須恵器 坏	ほぼ 完形	口径:12.4 器高: 4.8 底径: 7.7	良	灰色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	

104	A-3 Ⅲ-②層	須恵器 皿転用硯	2/3	口径(17.6) 器高: 3.5 底径(12.2)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部磨耗	内外面口縁部墨付着
105	B-2 Ⅲ-①層	須恵器 皿	1/3	口径(18.2) 器高: 3.7 底径:12.6	良	灰色	密 雲母・石英	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 回転ナデ	
106	C-1 Ⅲ-①層	須恵器 坏転用硯	底部 破片	器高(1.3) 底径(11.3)	良好	褐色	密 白色粒	外面: 体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 体部回転ナデ、底部ナデ	内面全体朱墨付着
107	C-4 Ⅲ-②層	須恵器 壺	1/4	器高(2.7) 底径(6.5)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 体部回転ナデ、底部ナデ	内面底部漆付着
108	C-1 Ⅲ-③層	須恵器 坏転用硯	1/3	口径(13.2) 器高: 4.2 底径(8.6)	良好	青灰色	密	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部磨耗、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部磨耗	内外面底部墨付着
109	B-1 Ⅲ-①層	須恵器 皿転用硯	底部	器高(1.9) 底径:10.9	良好	暗赤灰色	密 雲母	外面: 体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 底部磨耗	内面底部墨付着
110	B-2 Ⅲ-①層	軒平瓦	1/2	長さ(15.7) 幅 (13.5) 厚さ: 4.0	やや良	灰褐色	やや粗 砂粒	凸面: 格子目状工具による叩き目 凹面: 布目状圧痕、摸骨痕 軒平部三重弧文、端部ナデ	二次焼成
114	B-2 Ⅲ-②層	石鍋	破片	器高(3.1)	—	—	—	外面: — 内面: 擦痕	滑石裂 外面炭化物付着

第197表 4区弥生時代~古代包含層出土金属製品観察表(第418区)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	部 位 残存率	材 質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	その他計測値			重量 (g)	備 考
								磁着度	メタル度 錆化 (△)	ランク		
111	A-2 Ⅲ-②層	帯金具 巡方	1/2	銅	25	22	(5)				2.1	脚鉾 4 個
112	B-1 Ⅲ-②層	鎌	刃部	鉄	66	30	3	磁着度 5	メタル度 錆化 (△)	ランク 3	22.9	
113	C-4 Ⅲ-②層	鉄鍔・大釘・ 棒状不明品	鉄鍔 大釘 棒状不明	鉄	全長(93) 刃部(52) 茎部(41)	刃部:22 茎部: 3	刃部:2 茎部:3	磁着度 4	メタル度 H(○)	ランク 5	61.3	
					153	8	7					
					163	7	5					

第198表 4区弥生時代~古代包含層出土石器・石製品観察表(第419・420区)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
115	A-2 Ⅲ-②層	紡錘車	1/2	(51)	(30)	24	28.2	凝灰岩	
116	B-1 Ⅲ-①層	石鏃	ほぼ完形	(18)	15	3	6.0	サヌカイト	刃部欠損
117	C-1 Ⅲ-③層	磨製石斧	1/4	(63)	(54)	(13)	52.2	緑泥片岩	刃部角74度
118	A-2 Ⅲ-②層	磨製石斧	破片	(39)	(56)	(15)	33.8	閃緑岩	刃部角90度
119	A-1 Ⅲ-②層	磨製石斧	破片	(43)	(31)	(11)	18.0	閃緑岩	刃部角105度
120	B-2 Ⅲ-②層	砥石	1/2	(41)	20	18	21.4	凝灰岩	
121	A-1 Ⅲ-①層	砥石	破片	(58)	32	25	47.2	砂岩	廃棄後被熱
122	B-1 Ⅲ-①層	砥石	ほぼ完形	113	34	29	100.4	凝灰岩	仕上砥
123	A-1 Ⅲ-①層	砥石	ほぼ完形	83	37	29	89.7	凝灰岩	煤付着
124	C-1 Ⅲ-②層	砥石	破片	(62)	(48)	42	188.1	花崗岩	
125	C-1 Ⅲ-①層	砥石	破片	(52)	(48)	(44)	119.3	凝灰岩	
126	C-2 Ⅲ-③層	砥石	破片	(60)	(49)	42	165.1	花崗岩	
127	A-3 Ⅲ-③層	砥石	1/2	(112)	105	75	1100.3	花崗岩	
128	A-3 Ⅲ-②層	砥石	1/2	(108)	(45)	(50)	261.0	凝灰岩	
129	A-3 Ⅲ-③層	砥石	1/3	(110)	(87)	(70)	654.2	花崗岩	表面に敲打痕
130	A-2 Ⅲ-②層	砥石	ほぼ完形	49	40	29	7.3	軽石	
131	C-2 Ⅲ-③層	有孔石錘	完形	66	33	30	70.4	砂岩	孔径 5 mm
132	B-3 Ⅲ-②層	磨石・凹石	ほぼ完形	117	(96)	39	520.3	デイスait	
133	B-3 Ⅲ-②層	磨石・凹石	完形	119	100	45	754.8	デイスait	
134	C-2 Ⅲ-②層	ハンマーストーン	完形	132	63	51	584.4	角閃石安山岩	
135	C-2 Ⅲ-②層	ハンマーストーン	完形	126	60	55	535.2	角閃石安山岩	

第199表 5区弥生時代～古代包含層出土土器・土製品観察表 (第421～430図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	A-3-C-2 Ⅲ-②層	土師器 壺	完形	口径:14.0 器高:30.4 胴径:28.4 底径:5.4	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による沈線区画の櫛状 工具端部による列点文、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部指頭調整、肩部以下横・斜めヘ ラケズリ、底部指頭調整→縦ヘラケズリ	外面口頸部・体部 下半煤付着
2	A-3 Ⅲ-④層	土師器 壺	2/3	口径:15.6 器高(25.3) 胴径(23.5)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による波状文、体部 縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、頸部ヘラケズリ→指頭調整、体部横 ヘラケズリ、体部下指頭調整→縦ヘラケズリ	外面一部煤付着
3	A-3-B-1 Ⅲ-③層	土師器 壺	口縁～肩 部	口径(16.4) 器高(14.9)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部横ナデ、頸部縦ハケメ、肩部櫛状工具による 波状文・直線文、体部横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、頸部下指頭調整、体部横ヘラケズ リ	外面煤付着
4	B-1 Ⅲ-②層	土師器 壺	口縁～肩 部1/3	口径(17.0) 器高(8.9)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による波状文 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ	
5	A-3 Ⅲ-③層	土師器 壺	口頸部	口径(17.6) 器高(7.0)	良	橙褐色～灰 褐色	密 角閃石・石英	外面:口縁部横ナデ、頸部上半指頭調整、頸部竹管文 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整→ナデ	外面薄い赤彩
6	B-3 Ⅲ-③層	土師器 壺	口頸部 1/2	口径(19.3) 器高(8.6)	良好	灰褐色	密 角閃石・石英・ 白色粒	外面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整→縦ハケメ→ナデ 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整→ナデ、肩部横ヘラケ ズリ	
7	B-3 Ⅲ-①層	土師器 壺	口縁～肩 部1/4	口径(14.3) 器高(9.8)	良	黄灰白色	密 雲母・砂粒	外面:横ナデ 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
8	D-1 Ⅲ-①層	土師器 壺	口頸部 1/4	口径(21.8) 器高(11.5)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部横ナデ、頸部縦ハケメ・方形突帯貼付 内面:口縁部横ナデ、頸部指頭調整、頸部下指頭調整→ ハケメ	
9	A・B-1・2 Ⅲ-②層	土師器 壺	頸部破片	器高(5.8)	良	灰褐色	密 石英・白色粒	外面:頸部縦ハケメ・櫛状工具による直線文→ナデ、三角 突帯貼付、突帯部ヘラ状工具端部による羽状文 内面:指頭調整→ナデ	
10	C-3 Ⅲ-②層	土師器 壺	頸部1/3	器高(5.6)	良好	灰褐色	密 石英・白色粒	外面:頸部ナデ→櫛状工具による波状文 内面:頸部指頭調整→ナデ・粗いハケメ、肩部横ヘラケズ リ	内面肩部粗痕1個
11	B-3 Ⅲ-③層	土師器 直口壺	5/8	口径(11.8) 器高(18.1) 胴径(16.0)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒・砂粒	外面:口頸部横・縦ヘラミガキ、体部ハケメ→横・斜めヘラ ミガキ 内面:口縁部指頭調整→横ヘラミガキ、頸部ナデ、体部横 ヘラケズリ	内外面炭化物付着 口縁部一部磨減
12	C-2 Ⅲ-①層	土師器 直口壺	1/3	口径(11.6) 器高(14.0) 胴径(16.4)	良	黄灰白色	密 石英・砂粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
13	A-1 Ⅲ-②層	土師器 壺	頸部	器高(3.5)	良	黄灰白色	密	外面:肩部縦ハケメ、頸部突帯貼付、突帯部竹管文 内面:ナデ	
14	B-1 Ⅲ-③層	土師器 裝飾壺	体部破片	器高(5.5) 胴部(15.2)	良好	褐色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	外面:櫛状工具による沈線区画の貝殻腹縁による羽状文・ 刺突文、体部下半横ヘラミガキ 内面:横ヘラケズリ	外面体部下炭化 物付着 二次焼成
15	D-2 Ⅲ-③層	土師器 裝飾壺	体部破片	器高(3.8) 胴径(14.0)	良	橙褐色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	外面:沈線区画の竹管文2条・ヘラ状工具による沈線3条、 貝殻腹縁による刺突文 内面:横ヘラミガキ	内外面薄い赤彩
16	B-3 Ⅲ-③層	土師器 壺	破片	口径(14.2) 器高(3.1)	良好	褐色	密 角閃石	外面:口縁部櫛状工具による波状文、頸部横ヘラミガキ 内面:口縁部櫛状工具による波状文・直線文、横ヘラミガ キ	
17	D-1 Ⅲ-①層	土師器 壺	口縁破片	器高(4.1)	良	黄灰白色	密 石英・白色粒	外面:口縁部櫛状工具による波状文→ナデ・竹管文施文の 円形浮文貼付 内面:横ハケメ→縦ヘラミガキ	
18	B-1 Ⅲ-①層	土師器 壺	口縁破片	器高(3.4)	良好	黄灰白色	密 石英・白色粒	外面:口縁部櫛状工具による波状文→ナデ・竹管文施文の 円形浮文貼付、頸部横ヘラミガキ 内面:横ハケメ→縦ヘラミガキ	
19	A-2 Ⅲ-②層	土師器 小型壺	口縁～体 部1/4	口径(8.6) 器高(6.3)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	内面黒色
20	C-1 Ⅲ-②層	土師器 小型壺	口縁～肩 部1/4	口径(7.0) 器高(3.6)	良	褐色	密 雲母・白色粒	外面:口縁部横ナデ、頸部縦ハケメ、体部横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
21	B-1・2 Ⅲ-②層	土師器 短頸壺	1/4	口径(5.2) 器高(6.0)	良	褐色	密 石英・白色 粒・砂粒	外面:口縁部横ナデ、体部横ヘラミガキ 内面:口縁部横ナデ、頸部横ヘラミガキ、体部横ヘラケズ リ	内面口縁部～外面 全体薄い赤彩 頸部穿孔
22	B-1 Ⅲ-③層	土師器 直口壺	破片	口径(11.2) 器高(4.3)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:横ナデ 内面:口縁部横ナデ、頸部下半横ヘラケズリ	外面口縁部煤付着
23	A-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	ほぼ完形	口径:14.5 器高:26.8 胴径(23.7)	良	灰褐色	密 石英・白色粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工具に よる波状文 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調 整→横ヘラケズリ	外面体部煤付着 内面底部炭化物付 着
24	D-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	5/8	口径:14.6 器高:21.9 胴径(20.5)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面:口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工具に よる波状文 内面:口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調 整→ヘラケズリ	外面煤付着
25	D-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	2/3	口径:11.7 器高:18.5 胴径:20.0	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、体部斜めヘラケズリ、肩部・底部指 頭調整	外面煤付着
26	A-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(24.2) 器高(19.9) 胴径(34.2)	良好	灰褐色	密 石英・雲母	外面:口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文・櫛状工 具端部による列点文、体部指頭調整→縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、頸部下指頭調整、体部 ヘラケズリ→ハケメ	黒斑 外面一部炭化物・ 煤付着
27	B-3 Ⅲ-①層	土師器 甕	口縁～体 部	口径:17.9 器高(18.3) 胴径:26.5	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文・波状文、 体部縦・横ハケメ 内面:口頸部横ナデ、頸部指頭調整、体部横ヘラケズリ	
28	A-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部	口径:15.4 器高(18.9) 胴径(21.4)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口頸部横ナデ、体部横・斜めハケメ、肩部櫛状工具 端部による羽状文(全周せず) 内面:口頸部横ナデ、体部斜めヘラケズリ	内面黒色 外面煤付着

29	C-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	2/3	口径(13.2) 器高(16.5) 胴径(17.5)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下横・斜めハケメ、肩部櫛状 工具による波状文 内面：口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部下指 頭調整→横ヘラケズリ	内面底部・外面煤 付着
30	B-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	1/2	口径(15.2) 器高(22.1) 胴径(21.8)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒・砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部櫛状工具による波状文、 体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横・斜めハケメ	内外面煤付着
31	D-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部	口径：15.0 器高(17.6) 胴径(20.6)	良	褐色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	外面炭化物・煤付 着
32	D-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	ほぼ完形	口径：14.6 器高(21.1) 胴径：19.7	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部櫛状工 具による波状文 内面：口頸部横ナデ、体部上半横ヘラケズリ、体部下指頭 調整→指頭調整	外面煤付着
33	A-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	ほぼ完形	口径：34.4 器高 44.7 胴径：41.0 底径(8.0)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部横・縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横・縦ヘラケズリ、底部指頭調 整	外面口縁部～体部 上半煤付着
34	D-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(14.3) 器高(22.3) 胴径(27.3)	良	灰褐色	密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ→ナデ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調 整→ヘラケズリ	外面体部下半煤付 着
35	D-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部	口径(15.6) 器高(22.3) 胴径(23.0)	良	褐色	密 角閃石・雲 母・石英	外面：口頸部横ナデ、体部横ハケメ→ナデ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調 整→横ヘラケズリ	黒斑 外面炭化物・煤付 着
36	B-3 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～体 部2/3	口径(16.0) 器高(15.8) 胴径(19.9)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工具に よる直線文 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
37	A・C-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	1/3	口径(15.7) 器高(18.4) 胴径(21.0)	良	褐色	密 石英・白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ、肩部櫛状工具に よる波状文 内面：口頸部横ナデ、体部横・縦ヘラケズリ→ナデ	内外面煤付着
38	D-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～肩 部2/3	口径(15.2) 器高(9.3)	良	褐色	密 石英・雲母	外面：口縁部～肩部横ナデ、肩部ヘラ状工具端部による列 点文 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面炭化物・煤付 着
39	B-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/4	口径(13.9) 器高(8.1) 胴径(14.6)	良好	褐色	密 角閃石・石英	外面：口縁部櫛状工具による直線文、頸部横ナデ、肩部櫛 状工具による波状文、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ヘラミガキ、体部横ヘラケズリ	外面炭化物・煤付 着
40	D-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口頸部 1/4	口径(17.3) 器高(6.2)	良	灰褐色	密 石英・白色粒	外面：口縁部櫛状工具による直線文→ナデ、頸部縦ハケメ →横ヘラミガキ、肩部貝殻腹縁による刺突文 内面：口頸部横ヘラミガキ、肩部横ヘラケズリ	外面一部炭化物付 着
41	D-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁部～ 肩部1/3	器高(7.4)	良好	黄灰白色	密 角閃石・雲 母・石英	外面：口縁部櫛状工具による波状文、肩部櫛状工具による 波状文・直線文 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面炭化物・煤付 着
42	A・B-4 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径(18.2) 器高(9.8)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ 内面：口縁部横ナデ、頸部横ヘラミガキ、頸部以下横ヘラ ケズリ	内外面薄い赤彩 内面口縁部～外面 煤付着
43	C-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(16.2) 器高(10.0)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文・波状文、 体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ→ナデ	外面煤付着
44	D-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(14.6) 器高(13.3) 胴径(20.4)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→縦・横ハケメ、肩部 櫛状工具端部による列点文 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ、体部下指頭調 整→ヘラケズリ	黒斑 外面炭化物・煤付 着
45	C-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(14.8) 器高(15.1) 胴径(19.0)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部櫛状工 具による波状文 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面炭化物・煤付 着
46	A-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径：15.2 器高(7.5)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部横ハケメ→ヘラ状工具端部によ る列点文(全周せず) 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
47	B-3 Ⅲ-②層	土師器 甕	2/3	口径：11.8 器高(16.1) 胴径(15.8)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部指頭調整、肩部以下指頭調整→ 横ヘラケズリ	外面体部煤付着
48	A-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部2/3	口径(12.2) 器高(9.4)	良	黄灰白色	密 白色粒・砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整、体部横ヘラケズリ	内外面煤付着
49	D-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(12.4) 器高(10.0) 胴径(15.9)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具による直線文・貝殻腹 縁による列点文4個以上、体部縦・斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
50	A-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部1/2	口径(12.8) 器高(9.8)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部横・斜めハケメ 内面：口頸部指頭調整→ナデ、体部横ヘラケズリ	
51	C-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～体 部1/3	口径(14.8) 器高(10.1)	良	褐色	密 白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部横・縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	内面口縁部～外面 口頸部煤付着
52	D-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～肩 部1/4	口径(15.0) 器高(9.0)	良好	黄灰白色	密 石英	外面：口頸部横ナデ、肩部横・縦ハケメ→櫛状工具による 波状文 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	
53	B-3 Ⅲ-①層	土師器 甕	口縁～体 部1/4	口径(14.8) 器高(9.6)	良好	灰褐色	密 角閃石・石 英・白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具端部による列点文、体 部縦ハケメ→ナデ 内面：口頸部横ナデ、頸部下指頭調整、体部横ヘラケズ リ	
54	D-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～体 部3/4	口径：15.5 器高(10.9)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナデ、頸部縦ハケメ、肩部櫛状工具による 直線文、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	内外面煤付着
55	D-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～肩 部1/4	口径(15.4) 器高(10.3)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ→櫛状工具端部に よる列点文 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整・横ヘラケズリ	外面煤付着
56	B-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径(16.0) 器高(10.7)	良	褐色	密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	
57	D-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁～体 部1/4	口径(14.9) 器高(12.4) 胴径(21.2)	良	灰褐色	密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具端部による列点文、体 部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	

58	D-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁~体 部1/4	口径(14.0) 器高(10.8)	良	灰褐色	密 雲母・石英	外面：口頸部横ナデ、肩部縦ハケメ→櫛状工具による直線 文 内面：口頸部横ナデ、頸部下半指頭調整、体部横ヘラケズ リ	
59	B-3 Ⅲ-②層	土師器 小型丸底壺	完形	口径:10.9 器高: 9.6 胴径:11.6	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部~肩部横ナデ、体部斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部斜めヘラケズリ、底部指頭調整	外面体部煤付着
60	D-1 Ⅲ-①層	土師器 小型丸底壺	1/4	口径(9.4) 器高(6.9) 胴径(10.2)	良	灰褐色	密 雲母・石英	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
61	A-3 Ⅲ-③層	土師器 小型丸底壺	口縁~肩 部1/4	口径(9.0) 器高(5.8)	良	黄灰白色	密 白色粒・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部櫛状工具端部による列点文・横 ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部指頭調整→横ヘラケズリ	
62	A-3 Ⅲ-③層	土師器 小型丸底壺	口縁~体 部1/4	口径(8.8) 器高(5.2) 胴径(9.4)	良	黄灰白色	密 雲母・砂粒	外面：口縁部~肩部横ナデ、体部縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→横ヘラケズリ	
63	B-1 Ⅲ-③層	土師器 小型丸底壺	口縁~肩 部1/4	口径(7.0) 器高(3.4)	良	灰褐色	密 石英・白色粒	外面：口縁部横ナデ、頸部以下斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	
64	C-3 Ⅲ-②層	土師器 甕	胴部	器高(4.0) 胴径(15.7)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面：縦・横ハケメ 内面：横ヘラケズリ→ナデ	内面水銀朱付着 外面煤付着
65	B-1 Ⅲ-②層	土師器 注口土器	口頸部・ 注口部	口径(28.7) 器高(12.5)	良	褐色	密 角閃石・白色 粒	外面：口縁部横ヘラミガキ、注口部ハケメ→長軸方向のヘ ラミガキ 内面：口縁部横ヘラミガキ	外面口頸部赤彩 注口部煤付着
66	B-2 Ⅲ-③層	土師器 注口土器	把手部	幅 : 2.2 厚さ: 2.0	良	灰褐色	密	上面・側面沈線区画の爪形文3条	外面赤彩
67	C-1 Ⅲ-①層	土師器 注口土器	注口部	口径: 1.7 注口長(5.5)	良	褐色	密 砂粒	外面：長軸方向のヘラミガキ	
68	D-2 Ⅲ-②層	土師器 甕	底部	器高(6.5) 底径:11.3	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：体部縦・横ハケメ 内面：体部横ヘラケズリ、底部指頭調整→ヘラケズリ	外面煤付着
69	D-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	底部	器高(3.3) 底径: 3.3	良	黒茶色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：体部指頭調整→ヘラミガキ、底部ヘラミガキ 内面：指頭調整→ヘラケズリ	外面煤付着
70	A-3 Ⅲ-③層	土師器 直口壺?	1/3	器高(7.9) 胴径(11.0)	良	橙褐色~褐 色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：横ヘラミガキ 内面：体部指頭調整、底部ヘラケズリ	
71	B-3 Ⅲ-②層	土師器 甕	1/2	口径(10.4) 器高(13.6)	やや良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部~肩部横ナデ、体部叩き目 内面：口頸部横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ、底部指頭調 整	外面体部・内面底 部煤付着
72	B-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁~肩 部1/4	口径(11.0) 器高(5.3)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部指頭調整→横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ→ ナデ 内面：口縁部指頭調整→横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外面煤付着
73	B-3 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁~体 部1/3	口径(13.4) 器高(9.8)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部横・縦ヘラミガキ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ→ナデ	外面煤付着
74	B-1 Ⅲ-①層	土師器 甕	口縁~体 部1/4	口径(13.4) 器高(7.9)	良好	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
75	B-1 Ⅲ-①層	土師器 甕	口縁~体 部1/3	口径(11.6) 器高(7.5)	良	褐色	密 雲母・白色粒 ・砂粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口頸部指頭調整→横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面煤付着
76	B-3 Ⅲ-①層	土師器 甕	口縁~肩 部1/3	口径(14.4) 器高(5.9)	良好	赤褐色	密 石英・白色 粒・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部横ハケメ 内面：口頸部指頭調整→横ナデ、肩部横ヘラケズリ	内外面煤付着
77	B-3 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁~体 部1/3	口径(13.2) 器高(8.7)	良	褐色~黄灰 白色	密 雲母・石英・ 白色粒・砂粒	外面：口縁部横ナデ、肩部以下縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	外面体部煤付着
78	A-1 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁~体 部1/3	口径(11.6) 器高(7.5)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部指頭調整→横ナデ、頸部以下横ナデ、肩部櫛 状工具端部による刺突文1個 内面：口頸部横ナデ、頸部以下指頭調整→横ヘラケズリ	内面口縁部一部煤 付着
79	B-3 Ⅲ-②層	土師器 甕	口縁部 1/3	口径(25.1) 器高(7.7)	良	褐色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部横ナデ、肩部縦ハケメ 内面：口縁部横ハケメ→ナデ、肩部横ヘラケズリ→ナデ	
80	B-1 Ⅲ-①層	土師器 甕	口縁~体 部1/4	口径(15.6) 器高(8.4)	良	赤褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部指頭調整→横ナデ、体部粗い縦・横ハケメ 内面：口縁部指頭調整→横ナデ、頸部以下横ヘラケズリ	内外面煤付着
81	A-2 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁~体 部1/4	口径(26.3) 器高(13.0)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部粗い縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部縦ヘラケズリ	
82	B-4 Ⅲ-③層	土師器 甕	口縁~体 部1/4	口径(25.3) 器高(13.2)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部横ナデ、体部指頭調整→ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部縦・横ヘラケズリ→ナデ	外面煤付着
83	D-3 Ⅲ-①層	土師器 甕	口縁~体 部1/4	口径(25.2) 器高(14.5) 胴径(24.1)	良	褐色	密 角閃石・雲 母・白色粒	外面：口頸部横ナデ、体部縦・横ハケメ 内面：口縁部横ナデ、体部縦・横ヘラケズリ	内外面煤付着
84	B-1 Ⅲ-②層	土師器 小型丸底壺	口頸部 1/3	口径(8.6) 器高(5.4)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面：縦・横ヘラミガキ 内面：口縁部縦・横ヘラミガキ、体部横ヘラケズリ	
85	B-3 Ⅲ-③層	土師器 小型丸底壺	体部	器高(4.7) 胴径: 7.0	良好	橙褐色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	外面：体部上半縦ハケメ、体部中位指頭調整、体部下半 縦・横ヘラミガキ 内面：頸部横ヘラミガキ、体部ナデ、底部指頭調整→ナデ	
86	C-2 Ⅲ-③層	土師器 蓋	ほぼ完形	口径(10.1) 器高: 4.2	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：横ヘラミガキ 内面：つまみ部ナデ、天井部ヘラケズリ→ナデ、口縁部ナ デ	黒斑
87	B-1 Ⅲ-②層	土師器 鉢	ほぼ完形	口径:22.2 器高:12.8	やや良	褐色	密 角閃石・白色 粒	外面：口縁部~体部縦・横ハケメ、体部下半叩き目 内面：口縁部横ナデ、体部横ヘラケズリ	黒斑 外面炭化物付着
88	D-2 Ⅲ-③層	土師器 鉢	1/6	口径(17.6) 器高(7.2) 底径(7.6)	良	褐色	密 石英・白色粒	外面：縦・横ヘラミガキ 内面：縦・横ヘラミガキ	外面煤?付着 内面赤彩
89	C-3 Ⅲ-②層	土師器 鉢	体部~底 部	器高(4.8) 底径(7.2)	良	黒褐色~橙 褐色	密	外面：縦・横ヘラミガキ 内面：ヘラケズリ→ヘラミガキ	外面煤?付着 内面赤彩

90	D-1 Ⅲ-②層	土師器 高坏	5/8	口径:21.8 器高:14.1 底径:12.6	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:坏部横ヘラミガキ、坏底部~脚部縦ハケメ 内面:坏部縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部ハケメ	
91	B-3 Ⅲ-③層	土師器 高坏	坏部~脚部	口径:23.4 器高(13.6)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁端部横ナデ、坏部横ヘラミガキ、坏底部~脚部縦ハケメ 内面:坏部縦・横ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ 接合部円盤充填法	
92	A-3 Ⅲ-③層	土師器 高坏	ほぼ完形	口径:17.3 器高:12.2 底径:9.5	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:坏部横ヘラミガキ、接合部縦ハケメ、脚部縦ヘラケズリ→横ヘラミガキ 内面:坏部縦・横ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部ナデ 接合部円盤充填法	
93	A-3 Ⅲ-③層	土師器 高坏	坏部~脚部	口径(31.0) 器高(14.1)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面:口縁端部横ナデ、坏部縦ヘラミガキ、接合部縦ハケメ、脚部縦ヘラミガキ 内面:坏部縦・横ヘラミガキ、脚柱部ヘラケズリ、裾部横ハケメ	
94	D-2 Ⅲ-②層	土師器 高坏	5/8	口径(17.4) 器高:10.5 底径(13.0)	やや良	黄灰白色	やや密 雲母・石英・ 砂粒	外面:坏部ハケメ→横ヘラミガキ、坏底部~脚部縦ハケメ 内面:坏部縦・横ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ 接合部円盤充填法	
95	B-3 Ⅲ-②層	土師器 高坏	ほぼ完形	口径:10.0 器高:9.7 底径:14.0	良	灰褐色	密 雲母・石英 (φ5mm)・ 砂粒	外面:横・斜めヘラミガキ 内面:坏部横・斜めヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ 脚部四方円形透し	脚部内面以外茶系 赤彩
96	C-2 Ⅲ-①層	土師器 高坏	坏部1/3	口径(23.4) 器高(5.8)	良	灰褐色	密 雲母・石英 (φ5mm)・ 砂粒	外面:口縁端部横ナデ、坏部横ヘラミガキ 内面:坏部縦・横ヘラミガキ 接合部円盤充填法	外面口縁部一部煤 附着
97	C-4 Ⅲ-②層	土師器 高坏	坏部2/3	口径(16.1) 器高(5.7)	良	橙褐色	密 雲母・白色粒	外面:口縁端部横ナデ、坏部横ヘラミガキ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	内外面被熱痕
98	B-2 Ⅲ-①層	土師器 高坏	坏部1/3	口径(17.2) 器高(5.9)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面:口縁端部横ナデ、坏部横ヘラミガキ、坏底部縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	
99	D-2 Ⅲ-①層	土師器 高坏	坏部	口径(11.8) 器高(4.7)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ 接合部円盤充填法	
100	C-3 Ⅲ-①層	土師器 高坏	坏部	器高(7.1) 胴径:11.6	良	褐色	やや密 雲母・石英・ 砂粒多量	外面:坏部縦・横ヘラミガキ 内面:坏部横ヘラミガキ、坏底部ヘラケズリ 接合部円盤充填法	ブランデーグラス 形 内外面煤附着
101	B-3 Ⅲ-②層	土師器 高坏	脚部	器高(8.6) 底径:12.4	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面:脚柱部ハケメ→縦ヘラミガキ→ヘラ状工具端部による 列点文、裾部縦・横ヘラミガキ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部ハケメ	
102	A-3 Ⅲ-③層	土師器 高坏	脚部	器高(9.3) 底径(14.1)	良	褐色	密	外面:縦・横ヘラミガキ 内面:脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ	外面裾部煤附着
103	A-3 Ⅲ-③層	土師器 低脚坏	2/3	口径(16.6) 器高:7.7 底径:7.4	良	黄灰白色	密 雲母・石英	外面:坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚部横ナデ	内外面煤附着
104	D-2 Ⅲ-②層	土師器 低脚坏	2/3	口径(15.4) 器高:6.9 底径(6.4)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部横ナデ、坏部縦ハケメ、坏底部以下横ナデ 内面:坏部横ヘラミガキ、脚部横ナデ	
105	C-2 Ⅲ-①層	土師器 低脚坏	5/8	口径(15.8) 器高(8.2)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部横ナデ、坏部指頭調整→縦ハケメ、脚部横・ 縦ヘラミガキ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	黒斑 焼成後穿孔
106	A-3 Ⅲ-③層	土師器 低脚坏	完形	口径:13.2 器高:4.8 底径:5.2	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:坏部横ヘラミガキ、坏底部以下横ナデ 内面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	
107	A-3 Ⅲ-②層	土師器 低脚坏	ほぼ完形	口径:14.4 器高:4.3 底径(4.4)	良	黄灰白色	密 石英・砂粒	外面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部横ヘラミガキ、脚部横ナデ	
108	A-3 Ⅲ-③層	土師器 低脚坏	2/3	口径:13.4 器高:4.1 底径:4.2	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:坏部ハケメ→横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏部縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	
109	D-3 Ⅲ-③層	土師器 低脚坏	1/3	口径(18.6) 器高:5.4 底径(5.6)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:坏部~脚部縦ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面:坏部縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	
110	A-1 Ⅲ-②層	土師器 高坏	脚部	器高(6.6) 底径(7.4)	良	橙褐色	密 雲母・石英	外面:指頭調整→縦・横ヘラミガキ 内面:坏部ヘラミガキ、脚部ナデ・ヘラミガキ	内外面薄い茶系赤 彩
111	B-2 Ⅲ-②層	土師器 低脚坏	坏底部~ 脚部	器高(2.0) 底径(4.0)	良	黄灰白色	密 石英	外面:坏底部縦ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面:坏底部ヘラミガキ、脚部横ナデ	内面坏底部漆附着
112	B-3・C-1 Ⅲ-②層	土師器 小型器台	2/3	口径(10.3) 器高:7.8 底径(17.8)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:坏部横・縦ヘラミガキ、脚部ハケメ→縦ヘラミガキ 内面:坏部横ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ 脚部三方円形透し	
113	C・D-4 Ⅲ-③層	土師器 鼓形器台	2/3	口径(18.7) 器高:9.2 底径:16.4	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁端部・接合部・脚端部横ナデ、受部・脚部横・縦ヘ ラミガキ 内面:受部横・縦ヘラミガキ、脚部縦ヘラケズリ 脚部二方円形透し	
114	B-3 Ⅲ-②層	土師器 鼓形器台	ほぼ完形	口径:21.6 器高:11.6 底径:18.7	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:横ナデ 内面:受部横・縦ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ	外面脚部ヘラによる 線刻4条
115	A-3 Ⅲ-③層	土師器 鼓形器台	2/3	口径(16.8) 器高:9.7 底径(14.6)	良	橙褐色	密 雲母・白色 粒・砂粒	外面:横ナデ 内面:受部横・縦ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部横ヘラケ ズリ	
116	A-3 Ⅲ-③層	土師器 鼓形器台	1/3	口径(15.4) 器高:9.8 底径(13.8)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒・砂粒	外面:受部・脚部縦ヘラミガキ、接合部ナデ 内面:受部横・縦ヘラミガキ、接合部以下横ヘラケズリ 脚部円形透し	
117	C-1 Ⅲ-①層	土師器 鼓形器台	1/4	口径(17.6) 器高:9.8 底径(17.2)	良好	橙褐色	密 石英・白色粒	外面:受部横・縦ヘラミガキ、接合部以下ナデ 内面:受部横ヘラミガキ、脚部斜めヘラケズリ、脚端部横 ナデ	外面脚部ヘラによる 線刻2条

118	D-4 Ⅲ-③層	土師器 鼓形器台	2/3	口径:16.1 器高:9.6 底径:14.7	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒・砂粒	外面:横ナデ 内面:受部横ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ	
119	B-3 Ⅲ-③層	土師器 鼓形器台	1/3	口径(16.7) 器高:10.4 底径(15.3)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁端部・脚部横ナデ、受部～脚部縦・横ヘラミガキ 内面:受部横ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部横ヘラケズリ	
120	A-3 Ⅲ-③層	土師器 鼓形器台	1/2	器高(8.8) 底径(15.0)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:受部・脚部横・縦ヘラミガキ、接合部・脚部横ナデ 内面:受部横ヘラミガキ、脚部横ヘラケズリ	
121	B-3 Ⅲ-③層	土師器 鼓形器台	脚部1/4	器高(6.8) 底径(19.0)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:横ナデ 内面:受部横ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部斜めヘラケズリ	外面脚部ヘラによる 線刻2条
122	C-2 Ⅲ-②層	土師器 鼓形器台	脚部破片	器高(4.9) 底径(18.6)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:横ナデ 内面:脚部横ヘラケズリ、脚部下半横ナデ	内面脚部ヘラによる 線刻「×」
123	D-1 Ⅲ-③層	土師器 鼓形器台	脚部1/2	器高(5.9) 底径(20.4)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面:横ナデ、脚部ヘラ状工具端部による列点文(6個) 内面:横ヘラケズリ	黒斑
124	D-4 Ⅲ-②層	土師器 小型器台	2/3	口径(8.8) 器高(5.0) 底径(6.2)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁端部・脚部横ナデ、受部～脚部横・縦ヘラミガキ 内面:受部横ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部横ヘラケズリ	
125	B-3 Ⅲ-③層	土師器 小型器台	坏部～脚部	口径(8.4) 器高(4.7)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:横・縦ヘラミガキ 内面:受部横ヘラミガキ、接合部以下横ヘラミガキ 接合部受部から穿孔	
126	C-1 Ⅲ-②層	土師器 鉢	1/2	口径(13.8) 器高(4.3)	良	赤褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部指頭調整→横ナデ、体部指頭調整→横ハケメ 内面:指頭調整→横ナデ	
127	B-1 Ⅲ-②層	手捏ね 土器	1/2	口径(5.9) 器高:4.0 底径(2.0)	良	灰褐色～褐色	密 石英	外面:指頭調整→ハケメ 内面:指頭調整→ヘラケズリ	内外面赤彩
128	B-2 Ⅲ-②層	手捏ね 土器	底部	器高(3.5) 底径(2.3)	やや良	褐色	密 石英・白色粒	外面:縦ヘラミガキ 内面:指頭調整・ヘラミガキ	黒斑
129	D-1 Ⅲ-①層	製塩土器	破片	口径(10.0) 器高(4.7)	やや良	灰褐色	やや粗 雲母・石英・ 白色粒	内外面:指頭調整	
130	C-2 Ⅲ-②層	手捏ね 土器	底部	器高(2.8) 底径(2.4)	やや良	褐色	やや粗	外面:指頭調整→ナデ 内面:底部指頭調整→ナデ、脚部ナデ	
131	B-2 Ⅲ-②層	手捏ね 土器	脚部	器高(1.9) 底径(5.6)	良好	橙褐色	密 砂粒	内外面:指頭調整	
132	D-2 Ⅲ-①層	手捏ね 土器	完形	口径:3.8 器高:1.2 胴径(4.2)	良	橙褐色	密 石英・白色 粒・赤色粒	外面:指頭調整→ナデ、底面中心部刺突痕 内面:指頭調整→ナデ	
133	B-2 Ⅲ-①層	手捏ね 土器	完形	口径:2.2 器高:1.6	良	褐色	密	内外面:指頭調整	
134	C・D-1 Ⅲ-①層	手捏ね 土器	脚部	器高(2.9) 底径(3.0)	良	橙褐色	密 白色粒	内外面:指頭調整	
135	A-3 Ⅲ-①層	手捏ね 土器	完形	口径:1.5 器高:0.9	良	灰茶色	密	内外面:指頭調整	
136	B-1 Ⅲ-③層	土製品 勾玉	完形	長さ:3.8 幅:1.1 厚さ:1.0	良	褐色	密 角閃石・石 英・白色粒	手捏ね成形→ナデ	片側穿孔(孔径 3mm) 重量:7.8g
137	B-2 Ⅲ-③層	舟形 土製品	1/3	長さ(6.9) 幅(6.5) 高さ(4.2)	良	灰褐色	密 石英	外面:舷側端部ヘラケズリ→ナデ、舷側部～底部ヘラケズリ 内面:指頭調整→ヘラケズリ	舷側部の船首付近 穿孔
138	D-1 Ⅲ-③層	舟形 土製品	1/3	長さ(7.6) 幅(5.0) 高さ(2.6)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:舷側部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ→ナデ 内面:底部ヘラケズリ	
139	A-3 Ⅲ-①層	不明 土製品	完形	長さ:3.1 幅:2.8 厚さ:2.5	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:指頭調整→ナデ、底面中心部穴(直径6mm・深さ12mm)	外面溝4条 重量:14.7g
140	C-2 Ⅲ-①層	不明 土製品	破片	長さ(1.6) 幅:0.8 厚さ:0.7	良	褐色	密	外面:ナデ	
141	B-1 Ⅲ-①層	土玉	完形	長さ:1.7 幅:2.0 厚さ:1.8	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面:指頭調整	重量:5.6g
142	D-1 Ⅲ-②層	土師器 土器片鉢	完形	長さ:4.2 幅:4.6 厚さ:0.8	良	黒茶色	密 雲母・石英・ 砂粒	甕体部転用	重量:15.8g
143	B-3 Ⅲ-②層	土師器 甌	ほぼ完形	狭口径:11.2 器高:28.0 広口径:26.7	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒・小石 粒	外面:縦ハケメ、把手部ヘラケズリ・ナデ 内面:横・斜めヘラケズリ・ナデ	狭口部穿孔2個
144	B-2 Ⅲ-②層	土師器 甌	通気孔 破片	厚さ:1.6	良好	褐色	密 角閃石・白色 粒・小石粒	ヘラケズリ	
145	A-2 Ⅲ-①層	鞆羽口	先端部～ 体部	長さ(7.8) 幅(6.1) 厚さ(2.3)	良	灰褐色～褐色	密	内外面:ヘラケズリ	
146	B-3 Ⅲ-③層	土製品 三叉支脚	1/2	器高(12.0) 幅(10.2) 厚さ(7.2)	良	褐色	密 石英・白色粒	体部～脚部縦・横ヘラケズリ	突起部長: (5.2)cm 突起部幅:3.5cm
147	B-3 Ⅲ-③層	土製品 三叉支脚	2/3	器高(18.2) 幅(11.2) 厚さ(6.8)	良	橙褐色	密 角閃石・石 英・白色粒	体部～脚部縦・横ヘラケズリ	突起部長:6.0cm・ 6.0cm・3.0cm 突起部幅:3.7cm・ 3.5cm・2.2cm 一部煤付着
148	A-3 Ⅲ-②層	土師器 移動式竈	破片	器高(18.6) 幅(11.5) 厚さ(10.6)	やや良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面:庇部ナデ・一部指頭調整、体部縦ハケメ・一部指頭調整 内面:体部ヘラケズリ・一部指頭調整	体部内面煤付着

149	A-3 Ⅲ-①層	土師器 移動式甕	破片	器高(12.3) 幅(26.9) 厚さ(14.3)	良	褐色	密 雲母多量・石 英・砂粒	外面：受部ナデ、庇部ヘラケズリ、体部ナデ 内面：受部ナデ、体部ヘラケズリ	内外面体部煤付着
150	B-1 Ⅲ-①層	土師器 坏	ほぼ完形	口径:135 器高: 3.0 底径:11.5	良	褐色	密 石英・砂粒	外面：口縁部～体部横ナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ、底部ナデ	内外面薄い赤彩
151	C-2 Ⅲ-①層	土師器 坏	1/4	口径(13.2) 器高: 2.8 底径(9.0)	良	褐色	密 雲母・白色 粒・赤色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	外面赤彩
152	C-1 Ⅲ-①層	土師器 坏	1/4	口径(9.2) 器高: 3.0 底径(4.6)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、体部下半ヘラケズリ→ナデ、 底部ヘラ切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	内外面赤彩
153	C-1 Ⅲ-①層	土師器 皿	1/4	口径(18.4) 器高: 2.0 底径(17.0)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラケズリ 内面：ナデ	内外面赤彩
154	D-3 Ⅲ-①層	土師器 坏	体部	口径:147 器高(5.1)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	内外面：口縁部～体部横ナデ	外面口縁部煤付着
155	A-3 Ⅲ-③層	土師器 坏	完形	口径:129 器高: 4.0 底径: 4.9	良	褐色	密 雲母・石英	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	内外面体部煤付着
156	A-4 Ⅲ-①層	土師器 皿	1/2	口径(13.8) 器高: 1.8 底径(9.0)	良	褐色	密 白色粒・赤色 粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部指頭押圧→ナデ	
157	B-3 Ⅲ-①層	土師器 坏	底部	器高(3.2) 底径: 8.8	良	灰褐色	密 赤色粒・黒色 粒	外面：底部回転糸切り、貼付高台 内面：ナデ	
158	C-2 Ⅲ-①層	土師器 灯明皿	底部	器高(4.0) 底径: 9.4	良	黄灰白色	密 雲母・石英	外面：ナデ、貼付高台 内面：ナデ	土師器坏転用 外底面煤付着 内底面煤?付着
159	D-1 Ⅲ-①層	土師器 坏	底部破片	器高(2.9) 底径(8.8)	良	褐色	密 雲母・白色粒	外面：体部横ヘラミガキ、底部ナデ、貼付高台 内面：黒色処理→ヘラミガキ	黒色土器
160	C-3 Ⅲ-①層	土師器 坏	底部破片	器高(2.8) 底径(9.0)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：高台外側横ヘラミガキ、高台内ナデ、貼付高台 内面：黒色処理→ヘラミガキ	黒色土器
161	C-3 Ⅲ-①層	土師器 坏	底部破片	器高(1.6) 底径(10.8)	良	橙褐色	密 角閃石・石英 ・白色粒	外面：ナデ、貼付高台 内面：黒色処理→ヘラミガキ	黒色土器
162	C-1 Ⅲ-③層	土師器 皿	ほぼ完形	口径(17.4) 器高: 4.3 底径: 9.9	良	橙褐色	密 石英・白色粒	外面：口縁部～体部横ナデ、体部下半ヘラケズリ→ナデ、 底部ナデ、貼付高台 内面：ナデ	外面高台内以外茶 系赤彩 外面高台内墨書 「〇」
163	A-4 Ⅲ-③層	須恵器 坏	底部	器高(1.5) 底径(8.4)	良	褐色	密 雲母・白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	内面底部植物痕
164	D-3 Ⅲ-③層	土師器 坏	底部1/4	器高(2.3) 底径(8.8)	良	褐色	密 雲母	外面：ナデ、貼付高台 内面：黒色処理→ヘラミガキ	黒色土器 外面高台内墨書 外面赤彩
165	C-2 Ⅲ-①層	須恵器 壺	1/2	口径(17.1) 器高: 3.5	良	青灰色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ→ナデ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	内面口縁部墨書 「息浄」?
166	A-3 Ⅲ-①層	須恵器 皿	ほぼ完形	口径(14.8) 器高: 2.5 底径: 8.4	良	灰色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面底部墨書「什」
167	C-3 Ⅲ-②層	須恵器 皿	1/2	口径(18.7) 器高: 4.0 底径:13.7	良	灰色	密 石英・白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り→ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面高台内墨書 「太」
168	A-3 Ⅲ-①層	須恵器 坏	底部	器高(1.2) 底径(7.2)	良	灰色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	内面底部墨書
169	B-1 Ⅲ-①層	須恵器 坏	底部	器高(0.9) 底径(6.8)	良	灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面底部墨書
170	C-3 Ⅲ-①層	須恵器 皿	1/2	口径(17.0) 器高(3.8) 底径(11.4)	良好	灰色	密 砂粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、体部下半ヘラケズリ、底部 回転糸切り、貼付高台 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面高台内墨書
171	D-2 Ⅲ-①層	須恵器 皿	底部破片	器高(1.4) 底径(14.8)	良	灰色	密 白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面底部刻書「神」
172	B-3 Ⅲ-②層	須恵器 高坏	1/2	口径(13.6) 器高: 8.7 底径: 7.6	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：回転ナデ 内面：坏部回転ナデ、坏底部ナデ、脚部回転ナデ 脚部二方台形透し	内面坏部線刻「一」
173	B-3 Ⅲ-②層	須恵器 壺	2/3	口径(11.4) 器高: 4.6	良好	灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部磨耗	内面天井部線刻
174	C-4 Ⅲ-①層	須恵器 坏	1/2	口径(11.8) 器高: 3.9 底径(8.0)	良	橙褐色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	内面底部線刻「×」
175	A-1 Ⅲ-①層	須恵器 坏	底部破片	器高(0.7)	良	赤褐色	密	外面：回転糸切り 内面：ナデ	内面底部線刻「×」
176	C-1 Ⅲ-①層	須恵器 坏	底部1/2	器高(3.8) 底径(8.6)	良	青灰色	密 石英・白色粒	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面底部線刻 底部中心部焼成後 穿孔
177	D-1 Ⅲ-①層	陶質土器 甕	破片	器高(8.1)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：縦方向の平行叩き→横方向にスリ消し 内面：回転ナデ	
178	C-4 Ⅲ-①層	陶質土器 甕	破片	器高(3.5)	良好	灰色	密 白色粒	外面：縦方向の平行叩き→横方向にスリ消し 内面：回転ナデ	
179	D-1 Ⅲ-②層	陶質土器 甕	破片	器高(3.1)	良好	青灰色	密	外面：縦方向の平行叩き→横方向にスリ消し 内面：回転ナデ	
180	B-1 Ⅲ-①層	須恵器 甕	口縁～体 部1/2	口径(20.1) 器高(43.9) 胴径(43.4)	良好	灰色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部回転ナデ、体部平行叩き目 内面：口頸部回転ナデ、体部当具による同心円文	内面口縁部～外面 肩部自然降灰
181	B-1 Ⅲ-①層	須恵器 横瓶	口縁～体 部	口径(12.1) 器高(7.5)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口頸部回転ナデ、体部平行叩き目 内面：口頸部回転ナデ、頸部指頭調整、体部当具による放 射状文	内面口縁部自然降 灰

182	C-4 Ⅲ-①層	須惠器 甕	口縁～体 部1/8	口径(18.7) 器高(6.7)	良好	青灰色	密 雲母・白色粒	外面：口頸部回転ナデ、肩部平行叩き目 内面：口頸部回転ナデ、頸部指頭調整、肩部当具による青 海波文	
183	B-2・D-1 Ⅲ-①層	須惠器 甕	破片	器高(5.9)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：回転ナデ→ヘラ状工具による波状文2条 内面：回転ナデ	内面自然降灰
184	B-1 Ⅲ-②層	須惠器 高坏型 器台	脚部破片	器高(8.1)	良好	赤褐色	密 雲母・白色粒	外面：沈線区画の櫛状工具による波状文 内面：回転ナデ 脚部2段透し	
185	A・B・D-1～3 Ⅲ-①層	須惠器 平瓶	破片	器高(12.4)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：頸部回転ナデ、体部カキ目、底部ハケメ 内面：頸部回転ナデ、体部当具による同心円文	外面肩部自然降灰
186	A-2・B-1 Ⅲ-②層	須惠器 甕	体部1/2	器高(6.0) 胴径(10.4)	良好	青灰色	密	外面：体部上半回転ナデ、中位櫛状工具による波状文、下 半ヘラケズリ 内面：ナデ	胴部穿孔
187	B-2 Ⅲ-①層	須惠器 甕	体部破片	器高(4.5) 胴径(8.2)	良好	暗赤灰色	密 雲母・白色粒	外面：回転ナデ 内面：頸部紋り、体部回転ナデ	
188	B・C-1 Ⅲ-①層	須惠器 甕	体部破片	器高(4.0) 胴径(11.2)	良好	青灰色～灰 色	密 白色粒	外面：頸部～肩部カキ目、体部ヘラ状工具による沈線・櫛 状工具端部による押引文・回転ナデ 内面：頸部紋り、肩部指頭調整、体部回転ナデ	胴部穿孔
189	B-1 Ⅲ-②層	須惠器 甕	体部破片	器高(2.8)	良好	青灰色	密 白色粒・砂粒	外面：肩部ヘラケズリ・沈線区画の櫛状工具による波状文 内面：回転ナデ	
190	A-1 Ⅲ-②層	須惠器 甕	破片	口径(9.1) 器高(3.6)	良好	青灰色	密 石英・砂粒	内外面：回転ナデ	内外面自然降灰
191	B-1 Ⅲ-①層	須惠器 鉢？ 高坏？	把手部破 片	口径(9.6) 器高(3.3)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：回転ナデ、把手部ナデ 内面：回転ナデ	
192	A-1 Ⅲ-①層	須惠器 提瓶	把手部	器高(1.8)	良好	灰色	密 白色粒	外面：回転ナデ、把手部ナデ 内面：回転ナデ	
193	D-2 Ⅲ-①層	須惠器 提瓶	把手部	長さ(1.9) 幅：0.9	良好	灰色	密 白色粒	把手部：指頭調整・ナデ	
194	D-1 Ⅲ-①層	須惠器 鉢	破片	口径(18.4) 器高(6.8)	良	暗赤灰色	密	外面：回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、体部ナデ	
195	D-1 Ⅲ-②層	須惠器 鉢	1/8	口径(18.6) 器高(8.0)	良好	灰色	密 砂粒	内外面：回転ナデ	
196	D-1 Ⅲ-①層	須惠器 鉢	破片	口径(18.2) 器高(4.0)	良	暗赤灰色～ 青灰色	密 雲母・白色粒	内外面：回転ナデ	
197	A-3 Ⅲ-③層	須惠器 高坏	5/8	口径(16.0) 器高：11.7 底径：10.4	良	灰色	密 白色粒	外面：回転ナデ 内面：坏部回転ナデ、坏底部ナデ、脚部回転ナデ 脚部二方2段方形透し	
198	B-1 Ⅲ-①層	須惠器 高坏	脚部	器高(5.3) 底径(8.9)	良好	青灰色	密 雲母・砂粒	外面：坏底部回転ヘラケズリ、脚部回転ナデ 内面：坏底部ナデ、脚部回転ナデ 脚部二方ヘラ切り込み線	
199	A-2 Ⅲ-②層	須惠器 蓋	2/3	口径：13.5 器高：5.2	良好	灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	
200	D-1 Ⅲ-①層	須惠器 蓋	1/2	口径：13.8 器高：5.2	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	
201	A-4 Ⅲ-①層	須惠器 蓋	1/4	口径(15.9) 器高：4.6	良好	青灰色	密 砂粒・小石粒	外面：口縁部回転ナデ、口縁部～天井部回転ヘラケズリ、 つまみ部回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、口縁部～天井部ナデ	
202	B-3 Ⅲ-①層	須惠器 蓋	1/2	口径(19.6) 器高：3.8	良好	灰色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ、つまみ部 回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	
203	A-1 Ⅲ-②層	須惠器 坏	完形	口径：10.2 器高：3.8	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ→ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
204	A-3 Ⅲ-②層	須惠器 坏	ほぼ完形	口径：10.4 器高：3.8	良好	灰色	密	外面：回転ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面自然降灰
205	B-4 Ⅲ-②層	須惠器 坏	完形	口径：10.6 器高：2.3	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
206	D-2 Ⅲ-②層	須惠器 坏	5/8	口径：10.7 器高：4.2 底径：7.6	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
207	D-1 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/3	口径(10.4) 器高：3.7 底径(7.2)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
208	C-3 Ⅲ-②層	須惠器 坏	1/2	口径(12.4) 器高：3.8 底径(8.4)	やや良	灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
209	B-2 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/4	口径(12.0) 器高：3.6 底径(7.8)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
210	D-4 Ⅲ-①層	須惠器 坏	1/3	口径(12.8) 器高：4.2 底径(7.6)	やや良	灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、体部下指頭調整→回転ナ デ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
211	D-2 Ⅲ-②層	須惠器 皿	ほぼ完形	口径(14.0) 器高：2.7 底径：7.9	やや良	赤褐色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部磨耗	
212	C-1 Ⅲ-②層	須惠器 皿転用硯	1/4	口径(12.8) 器高：2.8 底径(10.8)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部磨耗	内面底部墨？付着
213	A-2 Ⅲ-①層	須惠器 皿	1/4	口径(14.8) 器高：2.3 底径(11.0)	良好	青灰色	密 雲母・白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、体部下半ヘラケズリ、底部 回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
214	B-4 Ⅲ-①層	須惠器 皿	2/3	口径(15.8) 器高：1.3 底径(8.4)	良好	灰色	密 砂粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	内面煤付着
215	D-2 Ⅲ-①層	須惠器 坏	ほぼ完形	口径(12.6) 器高：3.7 底径：7.6	良	灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り・板状圧痕 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面体部煤付着

216	A-4 Ⅲ-①層	須恵器 坏	ほぼ完形	口径:12.4 器高: 4.0 底径: 6.6	良	灰色	密 雲母・白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
217	B-2 Ⅲ-①層	須恵器 坏	1/2	口径(12.8) 器高: 4.2 底径(9.4)	良	灰色	密 石英・白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
218	C-2 Ⅲ-①層	須恵器 皿	ほぼ完形	口径:18.2 器高: 3.3 底径(14.2)	良好	赤褐色	密 砂粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
219	B-1 Ⅲ-①層	須恵器 皿	1/2	口径(19.2) 器高: 3.9 底径(13.2)	やや良	灰色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	外面煤? 付着
220	B-4 Ⅲ-①層	須恵器 坏	1/4	口径(16.1) 器高: 5.5 底径(11.2)	良好	青灰色	密 雲母・白色粒	外面: 口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	
221	A-2 Ⅲ-①層	須恵器 転用土器	1/4	口径(12.1) 器高(2.2)	良好	灰色	密	蓋転用、口縁部~内面磨痕	重量: 54.6g
222	C-3 Ⅲ-①層	須恵器 転用土器	5/8	器高(1.2) 底径(7.2)	良好	灰色	密 白色粒	坏底部転用、内面磨痕	重量: 49.1g
223	B-1 Ⅲ-①層	平瓦	破片	厚さ(2.1)	良	暗灰白色	密 石英	凸面: 格子目状工具による叩き目 凹面: 布目状圧痕、模骨痕	内外面二次焼成

第200表 5区弥生時代~古代包含層出土金属製品観察表 (第431図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	部 位 残存率	材 質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	調整・文様・その他計測値			重量 (g)	備 考
224	D-2 Ⅲ-②層	小型鏡	1/4	青銅	(26)	(25)	(1)	鏡背: 重圈文 破断面研磨			2.4	鏡背赤彩 穿孔2個
225	D-1 Ⅲ-①層	帯金具 巡方	完形	銅	36	34	10				23.5	脚鉾6個 垂孔(28×3mm)
226	C-3 Ⅲ-①層	耳環	完形	青銅	22	6	8				7.3	
227	A-1 Ⅲ-③層	鉄鏃	完形	鉄	39	26	1	磁着度 6	メタル度 錆化(△)	ランク 5	12.6	刃部角73度
228	B-1 Ⅲ-①層	鉄鏃	完形	鉄	26	19	2	磁着度 5	メタル度 H(O)	ランク 5	4.7	刃部角75度 穿孔1個
229	B-3 Ⅲ-②層	鉄片	—	鉄	(23)	(15)	1	磁着度 4	メタル度 錆化(△)	ランク 2	3.0	
230	B-1 Ⅲ-②層	鉄鏃	完形	鉄	14	13	2	磁着度 4	メタル度 錆化(△)	ランク 5	2.1	刃部角53度 穿孔1個
231	D-2 Ⅲ-②層	刀子	破片	鉄	全長(23) 刃部(11) 茎部(12)	刃部:11 茎部: 5	刃部: 2 茎部: 1	磁着度 4	メタル度 錆化(△)	ランク 2	2.4	目釘穴1個
232	A-2 Ⅲ-③層	環状不明品	—	鉄	31	5	5	磁着度 4	メタル度 錆化(△)	ランク 4	13.7	
233	C-3 Ⅲ-①層	鎌?	刃部	鉄	(30)	(20)	1	磁着度 4	メタル度 錆化(△)	ランク 2	3.8	
234	A-4 Ⅲ-③層	棒状不明品	—	鉄	(150)	5	10	磁着度 3	メタル度 錆化(△)	ランク 4	111.8	火箸状
235	B-4 Ⅲ-②層	釘	2/3	鉄	(33)	4	3	磁着度 4	メタル度 錆化(△)	ランク 4	2.1	掛釘
236	D-2 Ⅲ-②層	釣手状不明 品	—	鉄	(38)	3	3	磁着度 4	メタル度 錆化(△)	ランク 3	4.8	
273	A-4 Ⅲ-①層	刀子	ほぼ完形	鉄	全長(103) 刃部: 80 茎部(23)	刃部: 9 茎部: 4	刃部: 3 茎部: 4				17.9	

第201表 5区弥生時代~古代包含層出土石器・石製品観察表 (第431~433図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
237	A-4 Ⅲ-③層	不明石製品	完形	97	60	21	181.6	滑石	巾着袋形
238	B-3 Ⅲ-①層	紡錘車	ほぼ完形	44	43	23	46.9	デイサイト	孔径8mm
239	B-3 Ⅲ-②層	不明石製品	破片	(32)	(31)	(10)	23.3	凝灰岩	玉作り用砥石?
240	B-3 Ⅲ-③層	鏡模造品	ほぼ完形	22	21	3	2.3	緑色凝灰岩	
241	D-1 Ⅲ-③層	管玉	ほぼ完形	19	4	4	0.5	緑色凝灰岩	孔径2mm
242	D-1 Ⅲ-②層	石鏃	2/3	(16)	14	3	0.7	サヌカイト	刃部欠損
243	B-3 Ⅲ-②層	石鏃未製品	—	29	22	4	2.3	玉髓	
244	C-4 Ⅲ-①層	石鏃	完形	47	34	9	12.0	黒曜石	
245	A-1 Ⅲ-①層	二次加工剥片	完形	30	26	5	4.9	黒曜石	
246	B-4 Ⅲ-①層	磨製石斧	1/2	(53)	(43)	(25)	81.6	閃緑岩	刃部角67度
247	D-1 Ⅲ-②層	砥石	ほぼ完形	(110)	45	13	104.8	頁岩	仕上砥
248	C-3 Ⅲ-①層	砥石	1/2	(98)	(71)	(26)	262.5	砂岩	
249	C-2 Ⅲ-②層	砥石	完形	173	49	27	314.6	凝灰岩	仕上砥
250	A-1 Ⅲ-③層	砥石	1/2	(49)	27	13	27.2	頁岩	仕上砥

251	B-2 Ⅲ-②層	砥石	1/2	(21)	22	22	14.7	凝灰岩	仕上砥
252	B-3 Ⅲ-③層	砥石	1/3	(69)	(47)	(42)	207.6	花崗岩	
253	D-3 Ⅲ-①層	砥石	完形	155	67	43	517.2	花崗岩	
254	A-3 Ⅲ-③層	砥石	2/3	(112)	(54)	(50)	319.0	凝灰岩	
255	C-3 Ⅲ-③層	砥石	ほぼ完形	(146)	(61)	(45)	616.9	砂岩	
256	B-1 Ⅲ-①層	砥石	1/2	(97)	(50)	(49)	318.3	凝灰岩	
257	D-2 Ⅲ-①層	砥石	2/3	(113)	60	46	440.1	花崗岩	
258	B-1 Ⅲ-①層	砥石	1/2	(83)	(46)	(37)	187.3	花崗岩	
259	C-3 Ⅲ-①層	砥石	1/2	(70)	(41)	(31)	106.0	砂岩	廃棄後被熱
260	B-1 Ⅲ-②層	砥石	1/2	(123)	(97)	(69)	218.1	砂岩	
261	A-2 Ⅲ-③層	石錘	完形	139	110	42	792.2	安山岩	左打欠幅57mm・右打欠幅47mm
262	B-1 Ⅲ-③層	石錘	完形	122	92	58	780.0	デイサイト	左打欠幅25mm・右打欠幅27mm
263	C-4 Ⅲ-②層	石錘	ほぼ完形	(138)	86	47	735.5	角閃石安山岩	左打欠幅32mm・右打欠幅37mm
264	D-1 Ⅲ-③層	石錘	完形	127	91	44	672.1	安山岩	左打欠幅37mm・右打欠幅33mm
265	C-1 Ⅲ-①層	石錘	ほぼ完形	94	77	43	356.5	角閃石安山岩	左打欠幅43mm・右打欠幅60mm
266	C-3 Ⅲ-②層	石錘	完形	108	89	47	542.8	安山岩	左打欠幅49mm・右打欠幅48mm
267	C-3 Ⅲ-②層	石錘	完形	124	80	49	679.8	角閃石安山岩	左打欠幅29mm・右打欠幅33mm
268	A-3 Ⅲ-③層	磨石・敲石	ほぼ完形	132	(72)	63	678.1	デイサイト	
269	D-2 Ⅲ-①層	磨石・敲石	完形	140	95	64	1228.2	角閃石安山岩	
270	A-1 Ⅲ-③層	磨石	完形	161	95	39	904.7	安山岩	
271	A-4 Ⅲ-③層	磨石	完形	148	135	40	970.2	デイサイト	
272	B-1 Ⅲ-③層	ハンマーストーン	ほぼ完形	(133)	57	36	357.8	デイサイト	

第202表 1区中世包含層出土磁器・土器観察表 (第434図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	釉	調整・文様	備考
1	Ⅱ層中	青磁 浅形碗	底部破片	器高(1.2)	良好	灰白色	密	明緑灰色	外面：— 内面：劃花文	龍泉窯系浅形碗 1-2類
2	E-3	土師質 土器 小皿	3/5	口径(8.7) 器高：1.5 底径：5.2	良	黄灰白色	密	—	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
3	E-2	土師質 土器 小皿	2/3	口径(7.8) 器高：1.3 底径：4.2	良好	褐色	密	—	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
4	W-2	土師質 土器 坏	1/4	口径(12.8) 器高：4.3 底径：6.8	良	黄灰白色	密	—	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
5	W-5	土師質 土器 坏	底部	器高(2.2) 底径：6.0	良	褐色	密	—	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
6	W-2	土師質 土器 坏	底部破片	器高(1.6) 底径(7.3)	良好	灰褐色	密	—	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
7	W-1	土師質 土器 鍋	1/3	口径(32.6) 器高(14.2)	良好	黄灰白色	密 石英	—	外面：口縁部横ナデ、体部縦・横ハケメ→指頭調整 内面：口縁部横ナデ、体部横ハケメ	内面口縁部～外面 煤付着 内底面炭化物付着
8	W-1	土師質 土器 鍋	口縁～体 部1/4	口径(34.0) 器高(12.6)	良好	黄灰白色	密 雲母・石英	—	外面：口縁部横ナデ、体部縦・横ハケメ→指頭調整 内面：口縁部横ナデ、体部横ハケメ	外面煤付着 内底面炭化物付着

第203表 3区中世包含層出土磁器・土器観察表 (第435図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	釉	調整・文様	備考
1	Ⅱ層中	白磁 碗	破片	器高(3.5) 底径(5.2)	良好	灰白色	密	灰白色	外面：削り出し高台 内面：見込沈線	白磁碗V-2類
2	Ⅱ層中	白磁 碗	底部 破片	器高(2.0) 底径(5.6)	良好	灰白色	密	灰白色	外面：露胎、削り出し高台 内面：見込沈線	白磁碗Ⅳ類
3	Ⅱ層中	土師質 土器 小皿	完形	口径：8.0 器高：1.7 底径：4.8	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	—	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
4	Ⅱ層中	土師質 土器 小皿	1/4	口径(7.4) 器高：1.0 底径(5.6)	良	黄灰白色	密 白色粒・赤 色粒	—	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	

5	II層中	土師質 土器 小皿	破片	口径(7.4) 器高:1.1 底径(6.0)	良	黄灰白色	密 白色粒・赤 色粒	—	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ
---	------	-----------------	----	------------------------------	---	------	------------------	---	---

第204表 3区中世包含層出土金属製品観察表(第435図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	材質	外径(mm)	穿径(mm)	銭厚(mm)	その他計測値(mm)	重量(g)	備考
6	A-2 III-①層	古銭	ほぼ 完形	銅	35	7	1		1.9	皇宋通寶 1038年初鋳

第205表 4区中世包含層出土土器観察表(第436図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	畝除去中 C-4	土師質 土器 鍋	破片	口径(35.4) 器高(6.3)	良	灰褐色	密	内外面:回転ナデ	内外面炭化物付着

第206表 4区中世包含層出土金属製品観察表(第436図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量(g)	備考
2	畝除去中 C-4	火打金	完形	鉄	75	26	3				39.9	中央部穿孔

第207表 1区近世包含層出土陶磁器・土器観察表(第437図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	II層中	磁器 染付碗	底部	器高(2.1) 底径(5.1)	良好	黄灰白色	密	外面:意匠不明、高台部畳付~底部露胎、貫入 内面:見込一重圏線内丸文、貫入	漳州窯 16末~17c初頭
2	II層中	磁器 染付碗	底部	器高(2.5) 底径(5.0)	良好	白色	密	外面:高台部畳付露胎 内面:見込撫子文	伊万里 18c
3	II層中	磁器 染付碗	1/4	器高(4.2) 底径(4.2)	良好	白色	密	外面:高台内一重圏線内「大明年製」崩れ、高台部畳付露胎 内面:梅樹文	二次焼成 肥前系? 幕末
4	II層中	磁器 染付碗	1/4	器高(3.9) 底径(3.3)	良好	灰白色	密	外面:草花文、高台部畳付露胎 内面:一重圏線内五弁花	二次焼成 幕末
5	II層中	磁器 染付皿	1/5	口径(12.8) 器高:3.7 底径(8.0)	良好	淡灰白色	密	外面:唐草文、高台内一重圏線内渦福、高台部畳付露胎 内面:網目文、見込二重圏線内コンニャク印判五弁花	肥前 18c後半
6	II層中	磁器 染付碗	底部破片	器高(2.5)	良好	白色	密	外面:高台内一重圏線内「大明年製」崩れ「太」、貫入 内面:見込一重圏線、貫入	幕末
7	II層中	磁器 染付皿	破片	口径(13.8) 器高(3.9) 底径(9.7)	良好	白色	密	外面:唐草文、蛇の目高台? 内面:斜格子区画内鳳草文	18c後半以降
8	II層中	磁器 染付皿	底部破片	器高(0.9) 底径(9.4)	良好	白色	密	外面:高台内角福、高台部畳付露胎、蛇の目高台、貫入 内面:見込一重圏線内三方割銀杏、貫入	肥前 18c後半以降
9	II層中	陶器 碗	1/5	器高(6.3) 底径(4.8)	良好	淡灰褐色	密	外面:風景文、高台部畳付露胎、削り出し高台、貫入 内面:貫入	陶胎染付 肥前 18c以降
10	II層中	陶器 鉢	1/6	口径(14.2) 器高(6.2) 底径(5.6)	良好	灰褐色	密	口縁輪花 外面:灰緑色釉、貫入 内面:灰緑色釉、貫入	在地系・布志名焼? 18c以降
11	II層中	土師質 土器 小皿	1/3	口径(6.2) 器高:1.3 底径(3.4)	良	灰褐色	密	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面:回転ナデ	

第208表 1区近世包含層出土金属製品観察表(第437図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	その他計測値(mm)	重量(g)	備考
12	II層中	古銭	1/2	銅	外径(22.0)	穿径(5.0)	銭厚:0.8	寛永通寶	1.3	1656年以前鑄造 古寛永銭
13	II層中	羅字煙管	吸口	銅	(42)	11	7	小口径:10	2.6	

第209表 3区近世包含層出土土器観察表(第438図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	II層中	土師質 土器 小皿	1/3	口径(8.8) 器高:1.6 底径(6.0)	良	橙褐色	密 雲母・白色 粒・赤色粒	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面:口縁部~体部回転ナデ、底部ナデ	

第210表 3区近世包含層出土金属製品観察表(第438図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	その他計測値	重量(g)	備考
2	II層中	羅字煙管	吸口	銅	(35)	11	—	口付径:7mm 小口径:10	2.4	羅字残存
3	C-1 II層中	火打金	完形	鉄	77	29	3	磁着度 6 メタル度 H(○) ランク 5	54.2	
4	B-1 II層中	火打金?	1/3	鉄	(40)	(25)	3	磁着度 2 メタル度 錆化(△) ランク 4	27.5	

第211表 5区近世包含層出土金属製品観察表 (第439図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁着度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
1	D-3 II層中	火打金	ほぼ完形	鉄	80	34	3	5	錆化(△)	5	51.8	山形頂上部穿孔

第212表 1区表採出土土器・土製品観察表 (第440~442図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	I層中	土師器 壺	口縁~体 部	口径(20.0) 器高(17.7) 胴径(32.3)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部櫛状工 具による波状文 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	黒斑
2	I層中	土師器 壺	口縁~肩 部1/2	口径(20.3) 器高(11.8)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下縦・横ハケメ、肩部櫛状工 具による波状文・直線文 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	内面口縁部~外面 赤彩
3	I層中	土師器 壺	口縁~肩 部1/3	口径(16.6) 器高(11.5)	良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部横・斜めハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部指頭調整、肩部横ヘラケズリ	内面頸部工具痕 黒斑
4	I層中	土師器 直口壺	口縁~体 部1/3	口径(9.6) 器高(12.0) 胴径(13.3)	良	灰褐色	密 砂粒	外面：ハケメ→縦・横ヘラミガキ 内面：口頸部指頭調整→ナデ、頸部以下指頭調整→ヘラケ ズリ	
5	I層中	土師器 短頸壺	口縁~肩 部1/3	口径(11.4) 器高(4.2)	良	褐色	密 砂粒	外面：口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部指頭調整、肩部横ヘラケズリ	外面煤付着
6	I層中	土師器 短頸壺	口縁~肩 部1/4	口径(8.4) 器高(4.0)	やや良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：磨耗調整不明 内面：口頸部磨耗調整不明、肩部横ヘラケズリ	
7	I層中	土師器 短頸壺	口縁~肩 部1/5	口径(7.8) 器高(4.8)	良	黒茶色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部横ナデ、頸部以下横・縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部以下指頭調整→横ヘラケズリ	
8	I層中	土師器 甕	口縁~肩 部1/3	口径(27.6) 器高(11.6)	良	灰褐色	密 石英	外面：口頸部横ナデ、肩部縦・横ハケメ→ナデ→櫛状工具 による直線文 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	内面口縁部・外面 頸部炭化物付着
9	I層中	土師器 甕	口縁~肩 部1/3	口径(26.0) 器高(11.8)	良	暗灰白色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部横ハケメ→櫛状工具端部による 列点文2個以上 内面：口縁部横ナデ、頸部横ハケメ→指頭調整、肩部横ヘ ラケズリ→指頭調整	
10	I層中	土師器 甕	口縁~肩 部1/4	口径(19.8) 器高(9.4)	良	黄灰白色	密 石英・砂粒	外面：横ナデ 内面：口頸部横ナデ、肩部横ヘラケズリ	外面一部煤付着
11	I層中	土師器 甕	口縁~体 部1/3	口径(15.6) 器高(12.3) 胴径(22.0)	良	暗灰白色	密 石英・白色粒	外面：口頸部横ナデ、肩部以下縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、肩部以下横ヘラケズリ	外面口縁部炭化 物・煤付着
12	I層中	土師器 甕	口縁~体 部1/3	口径(20.2) 器高(22.7) 胴径(24.5)	良	褐色	密 石英・砂粒多 量	外面：口頸部指頭調整→横ナデ、体部粗い縦・横ハケメ 内面：口頸部指頭調整→横ナデ、頸部以下一部指頭調整→ 横・縦ヘラケズリ	外面体部煤付着
13	I層中	土師器 甕	底部	器高(1.7) 底径(3.7)	良	黄灰白色	密 雲母・石英	外面：ナデ 内面：粗いハケメ・細かいハケメ	
14	I層中	土師器 甕	底部	器高(1.8) 底径(3.2)	良	灰色	密 雲母・石英	外面：ナデ 内面：ハケメ	
15	I層中	土師器 甕	破片	口径(26.6) 器高(8.6)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部指頭調整→横ナデ、体部縦ヘラ ケズリ	搬入品
16	I層中	土師器 鉢	1/3	口径(12.8) 器高(7.8) 底径(5.8)	良	褐色	密 砂粒	外面：縦・横ヘラミガキ、把手貼付痕 内面：口縁部横ヘラミガキ、体部横ヘラケズリ、底部指頭 調整→ヘラケズリ	内面口縁部~外面 赤彩
17	I層中	土師器 小型丸底壺	1/2	器高(6.5) 胴径(8.4)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：ハケメ→横ヘラミガキ 内面：口頸部横ナデ、体部指頭調整→ナデ	
18	I層中	土師器 高坏	坏部	口径:15.3 器高(5.1)	良	橙褐色	密	外面：縦ハケメ→横ヘラミガキ 内面：横・縦ヘラミガキ	
19	I層中	土師器 高坏	坏部	口径:16.8 器高(4.2)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部横ナデ、坏部縦・横ヘラミガキ 内面：横・縦ヘラミガキ 接合部円蓋充填法	外面口縁部煤付着
20	I層中	土師器 高坏	脚部	器高(4.1) 底径(15.8)	やや良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：縦・横ヘラミガキ 内面：脚柱部縦・横ヘラケズリ、裾部横ハケメ 脚部三方円透し	内外面剥離
21	I層中	土師器 高坏	脚部	器高(7.6) 底径(9.9)	良	橙褐色	密 雲母・砂粒	外面：縦ハケメ→横・縦ヘラミガキ 内面：脚柱部横ヘラケズリ、裾部横ハケメ・布目痕→ナデ	
22	I層中	土師器 低脚坏	1/2	口径:14.3 器高:4.6 底径:4.2	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：横・縦ヘラミガキ 内面：坏部横・縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	全面赤彩
23	I層中	土師器 低脚坏	1/2	口径(13.8) 器高(3.9) 底径(3.6)	良	橙褐色	密	外面：坏部縦・横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面：坏部横ヘラミガキ、脚部横ナデ	外面口縁部煤付着
24	I層中	土師器 鼓形器台	1/3	口径:19.0 器高:11.0 底径(16.2)	良	褐色	密 砂粒	外面：横ナデ 内面：受部縦・横ヘラミガキ、脚部横・斜めヘラケズリ、脚 端部横ナデ	外面脚部ヘラによ る線刻2条以上
25	I層中	土師器 鼓形器台	2/3	口径:20.1 器高:9.6 底径(19.6)	良	黄灰白色	密 石英・砂粒	外面：横ナデ 内面：受部横ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	外面脚部ヘラによ る線刻11条以上
26	I層中	土師器 鼓形器台	受部~脚 部	器高(9.1) 底径:19.4	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：横ナデ 内面：受部横ヘラミガキ、接合部横ヘラケズリ→横ナデ、 脚部横ヘラケズリ、脚端部横ナデ	
27	I層中	土師器 鼓形器台	1/2	口径(14.2) 器高:8.9 底径(13.6)	良	褐色	密 角閃石・雲 母・石英・砂 粒	外面：横ヘラミガキ 内面：受部縦・横ヘラミガキ、接合部~脚部横ヘラケズリ、 脚端部横ナデ 脚部円形透し	

28	I層中	土師器 小型器台	1/3	口径(8.8) 器高(6.6)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：縦ハケメ→横・縦ヘラミガキ 内面：受部横・縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ、裾部 縦ハケメ 接合部円盤充填→穿孔	
29	I層中	土師器 小型器台	受部→脚 部	器高(8.2) 底径:10.6	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：縦ハケメ→横・縦ヘラミガキ 内面：受部縦ヘラミガキ、脚柱部横ヘラケズリ・縦ハケメ、 裾部指頭調整→ナデ 接合部円盤充填→穿孔、脚部円形透し2個	
30	I層中	土師器 坏	ほぼ完形	口径:13.3 器高:2.9 底径:10.8	良	橙褐色	密	外面：口縁部～体部横ナデ、底部ヘラケズリ→指頭押圧 ナデ 内面：ナデ	外面体部線刻2条 全面薄い茶系赤彩
31	I層中	製埴土器	破片	口径(9.4) 器高(5.3)	やや良	褐色	やや粗 雲母・石英・ 白色粒	内外面：指頭調整→ナデ	
32	I層中	土師器 甌	通気孔 破片	厚さ:1.4	良	灰褐色～褐 色	密 雲母・石英・ 砂粒	内外面：ヘラケズリ 側面：ナデ	
33	I層中	土師器 転用土器	完形	長さ:9.5 幅:9.1 厚さ:0.8	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	甌底部転用	外面底部一部墨付 着 重量:71.0g
34	I層中	土師器 転用土器	完形	長さ:4.9 幅:4.8 厚さ:0.4	良	黄灰白色	密 雲母・砂粒	坏底部転用	重量:9.5g
35	I層中	土師器 坏	1/5	口径(13.2) 器高:2.8 底径(9.4)	良	橙褐色	密 砂粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指頭押圧 内面：横ナデ	全面薄い茶系赤彩 外面底部墨書 「□子」?
36	I層中	須恵器 皿	底部	器高(4.5) 底径(10.6)	良好	赤褐色～暗 赤灰色	密	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：ナデ	外面高台内墨書?
37	I層中	須恵器 馬	脚部	長さ(21.5) 幅(11.9)	良	灰色	密	外面：縦ヘラケズリ 内面：縦・横ヘラケズリ、一部未調整	
38	I層中	須恵器 蓋	1/2	口径(11.2) 器高:5.0	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	
39	I層中	須恵器 蓋	1/3	口径(13.8) 器高:2.6	良好	灰色	密 石英	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	内面一部煤付着
40	I層中	須恵器 蓋	1/2	口径(14.4) 器高:2.9	良	灰色	やや粗 石英	内外面：回転ナデ	
41	I層中	須恵器 蓋	ほぼ完形	口径:18.0 器高:2.6	良好	青灰色	密	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	外面口縁部自然降 灰
42	I層中	須恵器 蓋	1/3	口径(14.6) 器高(1.7)	良好	灰色	密	外面：回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	
43	I層中	須恵器 蓋	1/3	口径(19.0) 器高(2.8)	良好	青灰色	密 石英	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転糸切り 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	外面一部煤付着
44	I層中	須恵器 蓋	1/2	口径(19.6) 器高(2.3)	良好	暗赤灰色	密 石英	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ、つまみ部 貼付痕 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	
45	I層中	須恵器 坏	3/5	口径(12.4) 器高:3.4 底径(7.4)	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
46	I層中	須恵器 坏	2/3	口径(13.7) 器高:3.8 底径(7.6)	良好	青灰色	密 石英	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	内面底部使用痕顕 著
47	I層中	須恵器 坏	1/5	口径(13.0) 器高:4.0 底径(8.0)	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り、底部外周 ヘラケズリ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
48	I層中	須恵器 坏	1/3	口径(12.4) 器高:3.6 底径(8.6)	良好	暗赤灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
49	I層中	須恵器 坏	1/6	口径(12.4) 器高:4.4 底径(9.3)	良好	青灰色	密 石英	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
50	I層中	須恵器 坏	1/3	口径(12.4) 器高:3.6 底径(8.6)	良好	暗赤灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
51	I層中	須恵器 坏	1/3	口径(11.8) 器高:4.0 底径(8.2)	良好	灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	内面煤付着 外面被熱痕 灯明皿
52	I層中	須恵器 坏	ほぼ完形	口径:12.4 器高:4.0 底径:8.4	良	灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	内面底部焼成時ひ び
53	I層中	須恵器 皿	1/3	口径(15.0) 器高:2.5 底径(9.0)	良好	灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
54	I層中	須恵器 坏	1/2	口径(13.5) 器高:4.3 底径:8.8	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り→ナデ、貼 付高台 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
55	I層中	須恵器 皿	1/3	口径(14.6) 器高:2.0 底径(10.2)	良好	灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
56	I層中	須恵器 皿	1/2	口径(18.8) 器高:3.8 底径(14.4)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
57	I層中	須恵器 皿	ほぼ完形	口径:14.2 器高:2.6 底径:9.0	良好	青灰色	密 白色粒	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
58	I層中	須恵器 皿転用甌	1/3	口径(14.6) 器高:2.5 底径(10.8)	良好	青灰色	密	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り、底部外周 ヘラケズリ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部磨耗	外面底部墨付着
59	I層中	須恵器 皿	1/4	口径(17.4) 器高:3.6 底径(12.6)	良好	青灰色	密 石英	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部静止糸切り、貼付高台 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	

60	I層中	須恵器 提瓶	把手部	長さ: 3.4 幅: 1.5	良	青灰色	密 雲母・石英	背面: ヘラケズリ 内面: 指頭調整→ナデ	
61	I層中	須恵器 血転用硯	底部破片	厚さ: 1.1	良好	青灰色	密 雲母・白色粒	外面: 回転糸切り 内面: 磨耗	外面底部墨付着
62	I層中	須恵器 血転用硯	底部破片	厚さ: 0.8	良好	灰色	密 白色粒	外面: 回転糸切り 内面: 磨耗	内面底部墨付着

第213表 1区表採出土石器観察表 (第442・443図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
63	I層中	砥石	2/3	187	72	(47)	850.5	凝灰岩	穿孔1個(孔径10mm)
64	I層中	石錘	完形	160	101	33	867.0	デイサイト	上打欠幅29mm・下打欠幅17mm
65	I層中	石錘	完形	216	150	38	1633.5	デイサイト	左打欠幅62mm・右打欠幅60mm
66	I層中	石錘	完形	205	108	33	1027.0	デイサイト	左打欠幅39mm・右打欠幅56mm
67	I層中	石錘	完形	143	94	47	858.2	角閃石安山岩	左打欠幅20mm・右打欠幅25mm
68	I層中	石錘	完形	144	80	38	575.2	デイサイト	左打欠幅24mm・右打欠幅41mm
69	I層中	石錘	完形	154	95	35	688.2	デイサイト	左打欠幅48mm・右打欠幅34mm

第214表 2区表採出土器・土製品観察表 (第444図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器 種	部 位 残存率	法 量 (cm)	焼 成	色 調	胎 土	調 整 ・ 文 様	備 考
1	I層中	土師器 直口壺	ほぼ 完形	口径: 7.0 器高(11.1) 胴径(10.2)	良	暗灰白色	密 雲母・白色粒	外面: 口頸部指頭調整→ナデ、体部ナデ 内面: 口縁部指頭調整→ナデ、頸部横ヘラケズリ→ナデ、 肩部指頭調整、体部横ヘラケズリ、底部指頭調整	
2	I層中	土師器 裝飾壺	頸部破片	器高(4.0)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面: 口縁部～頸部横ヘラミガキ、頸部沈線区画の櫛状工 具による羽状文2条以上 内面: 口頸部指頭調整→横ヘラミガキ、肩部横ヘラケズリ	外面一部煤付着
3	I層中	土師器 裝飾壺	破片	器高(2.1)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面: 具腹腹縁による連続刺突文・沈線区画の竹管文2条 内面: ヘラケズリ	外面赤彩
4	I層中	土師器 裝飾壺	破片	器高(1.6)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面: 沈線区画の櫛状斜状文充填の鋸歯文 内面: ヘラケズリ	外面赤彩
5	I層中	土師器 高坏	坏部	口径:14.2 器高(4.8)	やや良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒多量	外面: 坏部縦ヘラケズリ→横ヘラミガキ 内面: 横ヘラミガキ 接合部円盤充填法	外面口縁部煤付着 外面坏部被熱痕
6	I層中	土師器 高坏	脚部	器高(8.0) 底径(11.2)	良	橙褐色	密 砂粒	外面: 脚部縦ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面: 脚柱部横ヘラケズリ→指頭調整、裾部縦ヘラケズリ→指 頭調整 脚部二方円形透し	
7	I層中	土師器 鼓形器台	脚部 1/4	器高(8.0) 底径(17.6)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒多量	外面: 接合部～脚部横ヘラミガキ、脚端部横ナデ 内面: 受部横ヘラケズリ、接合部ナデ、脚部横ヘラケズリ、 脚端部横ナデ	
8	I層中	土師器 鼓形器台	1/8	器高(5.8) 底径(14.8)	良	褐色	密 角閃石・雲母 ・砂粒	外面: ナデ 内面: 受部横ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部横ヘラケズリ、 脚端部横ナデ	
9	I層中	製塩土器	破片	口径(11.0) 器高(4.9)	不良	黄灰白色	粗 石英・砂粒	内外面: 指頭調整・布目跡	
10	I層中	製塩土器	破片	口径(9.6) 器高(4.9)	不良	褐色	粗 雲母・石英・ 砂粒	内外面: 指頭調整・布目跡	内外面煤付着
11	I層中	製塩土器	破片	口径(9.4) 器高(4.1)	不良	褐色	粗 雲母・白色粒 ・砂粒	内外面: 指頭調整・布目跡	
12	I層中	土師器 甌	把手部	器高(4.9) 胴径(24.8)	やや良	灰褐色	密 石英・砂粒	外面: 把手部ヘラケズリ→指頭調整 内面: 体部横ヘラケズリ	
13	I層中	須恵器 短頸壺	口縁～肩 部破片	口径(11.8) 器高(4.3)	良好	青灰色	密 石英・砂粒	外面: 回転ナデ、肩部櫛状工具による直線文 内面: 回転ナデ	
14	I層中	須恵器 短頸壺	破片	口径(9.2) 器高(2.6)	良好	青灰色	密 石英・砂粒	内外面: 回転ナデ	
15	I層中	須恵器 脚付壺	底部破片	器高(4.3)	良好	青灰色	密 雲母・白色粒	外面: 体部回転ナデ、体部下半～脚部ヘラケズリ、底部ヘ ラケズリ→ナデ、脚部貼付 内面: 回転ナデ	
16	I層中	須恵器 壺	底部破片	器高(4.1) 底径(11.2)	良	青灰色	密 砂粒・白色粒	外面: 体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 体部回転ナデ、底部ナデ	底部中央穿孔
17	I層中	須恵器 坏	1/4	口径(14.6) 器高: 5.5 底径(8.8)	良好	青灰色	密 雲母・白色粒	外面: 口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
18	I層中	須恵器 皿	3/4	口径:13.4 器高: 2.5 底径: 9.0	良	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面: 口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	
19	I層中	須恵器 皿転用硯	1/2	口径(16.2) 器高: 3.5 底径(10.8)	良好	青灰色	密	外面: 口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面: 口縁部～体部回転ナデ、底部磨耗	内面底部墨付着
20	I層中	平瓦	破片	厚さ(1.9)	良好	暗灰白色	密 砂粒	凸面: 格子目状工具による叩き目 凹面: 布目状圧痕	

第215表 2区表採出土石器・石製品観察表 (第444・445図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
21	I層中	石製品	一部欠損	49	35	4	6.0	頁岩	穿孔2個(孔径2.5mm)
22	I層中	石核	完形	40	22	15	11.9	玉髓	
23	I層中	石核	完形	45	27	16	16.4	黒曜石	
24	I層中	砥石	1/3	(97)	(41)	(39)	110.1	凝灰岩	
25	I層中	砥石	1/2	(48)	(58)	20	89.5	花崗岩	

26	I層中	砥石	破片	(49)	(47)	(27)	58.6	凝灰岩	仕上砥
----	-----	----	----	------	------	------	------	-----	-----

第216表 3区表採出土器観察表 (第446図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	I層中	土師器 鼓形器台	体部 破片	口径(19.2) 器高(6.7)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面：受部横ナデ、接合部櫛状工具端部による列点文 内面：受部横ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部ヘラケズリ	内面脚部一部煤付着
2	I層中	須恵器 転用土器	完形	長さ：2.9 幅：2.7 厚さ：1.0	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量：10.6g
3	I層中	須恵器 転用土器	完形	長さ：2.2 幅：1.9 厚さ：1.0	良好	青灰色	密	甕体部転用	重量：5.4g
4	II層中	須恵器 転用土器	完形	長さ：2.2 幅：2.1 厚さ：1.2	良好	灰色	密	甕体部転用	重量：6.6g
5	II層中	須恵器 転用土器	完形	長さ：2.0 幅：1.8 厚さ：1.1	良好	暗赤灰色	密	甕体部転用	重量：5.4g

第217表 3区表採出土器観察表 (第446図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
6	I層中	磨製石斧	完形	145	55	40	438.4	斑礫岩	刃部角73度

第218表 5区表採出土器観察表 (第447図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	I層中	土師器 直口壺	口縁~体 部2/3	口径(11.0) 器高(10.8)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口頸部ナデ→縦ヘラミガキ、体部横ハケメ 内面：口頸部横ナデ、頸部下半指頭調整、体部横ヘラケズリ	
2	I層中	土師器 小型丸底壺	口縁~体 部2/3	口径(9.1) 器高(7.0)	やや良	黄灰白色	やや密 雲母・石英・ 白色粒・砂粒	外面：口頸部横ナデ、頸部以下横・縦ハケメ 内面：口頸部横ナデ、体部横ヘラケズリ	外面体部下半煤付着
3	I層中	土師器 裝飾壺	胴部破片	器高(4.9) 胴径(19.7)	良	褐色	密 石英・砂粒	外面：体部ヘラミガキ→櫛状工具による直線文・貝殻腹縁 による刺突文2条、体部下半ハケメ→ヘラミガキ 内面：横ヘラケズリ→横ヘラミガキ	外面煤付着
4	I層中	土師器 裝飾壺	肩部破片	器高(2.8)	良	褐色	密 白色粒	外面：肩部横ヘラミガキ→ヘラ状工具による羽状文 内面：横ヘラケズリ	外面煤付着 黒斑
5	I層中	土師器 裝飾壺	体部破片	器高(1.4)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面：断面三角突帯、ナデ→爪形文 内面：ナデ	内外面赤彩
6	I層中	土師器 裝飾壺	体部破片	器高(3.8)	良	灰茶色	密 石英・白色粒	外面：ヘラ状工具による山形文？・ヘラ状工具による直線 文3条・竹管による同心円文2条・ヘラ状工具による 直線文・ヘラ状工具による山形文？ 内面：ヘラケズリ	
7	I層中	土師器 裝飾壺	肩部破片	器高(3.9)	良	灰褐色	密 雲母・白色粒	外面：ナデ→ヘラ状工具による羽状文4条以上 内面：ヘラケズリ	
8	I層中	土師器 壺	肩部破片	器高(2.4)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：ハケメ→木葉痕 内面：ヘラケズリ	
9	I層中	土師器 低脚坏	2/3	口径(11.7) 器高：5.7 底径(6.0)	良	橙褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：坏部指頭調整→縦ハケメ、脚部縦ハケメ 内面：坏部横ヘラミガキ、脚部ナデ、脚部指頭調整→ ナデ	
10	I層中	土師器 低脚坏	5/8	口径(14.2) 器高(8.0)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：坏部縦ハケメ、脚部横ナデ 内面：坏部ハケメ→縦・横ヘラミガキ、脚部横ナデ	
11	I層中	土師器 低脚坏	2/3	口径：19.1 器高：5.7 底径：5.2	良	黄灰白色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：坏部縦ハケメ→横ヘラミガキ、脚部横ナデ 内面：坏部縦ハケメ→縦ヘラミガキ、脚部横ナデ	内面坏底部初痕2 個以上 内外面煤付着
12	I層中	土師器 鼓形器台	破片	口径(21.7) 器高(15.4)	良好	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：受部・脚部櫛状工具による直線文→縦・横ヘラミガキ、 接合部横ヘラミガキ→櫛状工具による沈線区画の貝 殻腹縁による列点文2条 内面：受部→接合部縦・横ヘラミガキ、接合部→脚部縦・横 ヘラケズリ	内外面赤彩 黒斑
13	I層中	土師器 鼓形器台	1/4	口径(20.6) 器高(10.4)	良	褐色	密 雲母・砂粒	外面：受部・脚部横ヘラミガキ→竹管による同心円文1条、 接合部ナデ 内面：受部→接合部横ヘラミガキ、接合部以下横ヘラケズ リ	内外面煤付着
14	I層中	土師器 小型器台	脚部	器高(7.6) 底径：11.9	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：縦・横ヘラミガキ 内面：横ヘラミガキ	
15	I層中	須恵器 短頸壺	破片	口径(9.2) 器高(3.4)	良好	黒灰色	密 砂粒	内外面：横ナデ	内面口縁部~外面 肩部自然降灰

第219表 5区表採出土石器・石製品観察表 (第447図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
16	I層中	管玉	完形	14	4	4	0.2	緑色凝灰岩	孔径2mm
17	I層中	管玉未製品	一	(13)	(7)	(4)	0.3	緑色凝灰岩	孔径3mm
18	I層中	砥石	1/2	65	33	20	27.4	凝灰岩	

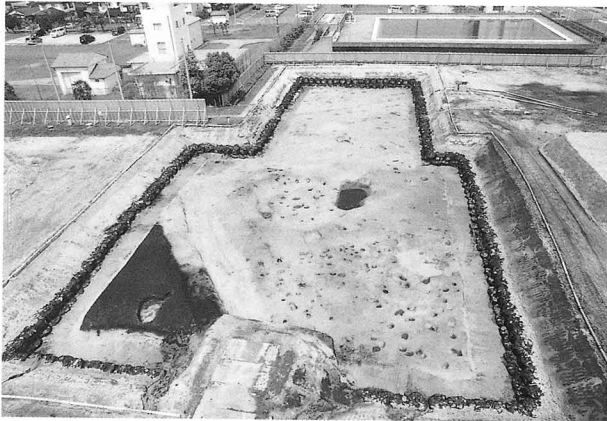
写 真 图 版



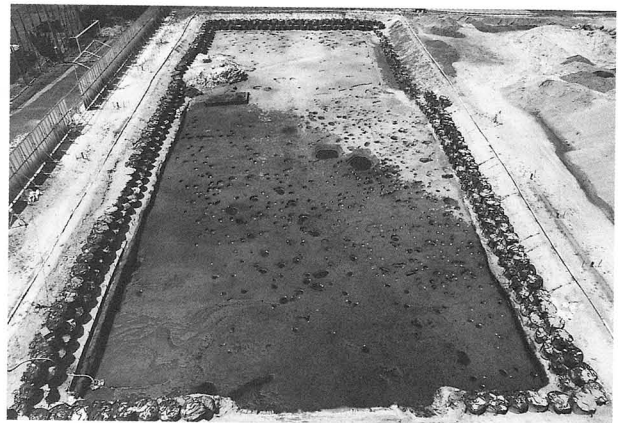
調査前状況



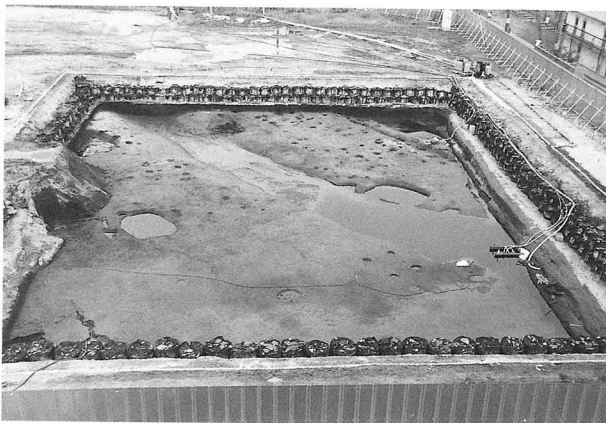
1区 最終面全景



2区 最終面全景



3区 最終面全景



4区 最終面全景



5区 最終面全景



堆積状況



調査終了後状況

図版 2



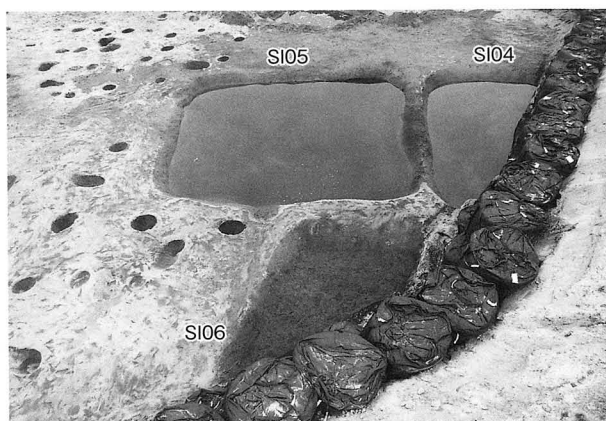
1区 SI01



1区 SI02



1区 SI03



1区 SI04・05・06



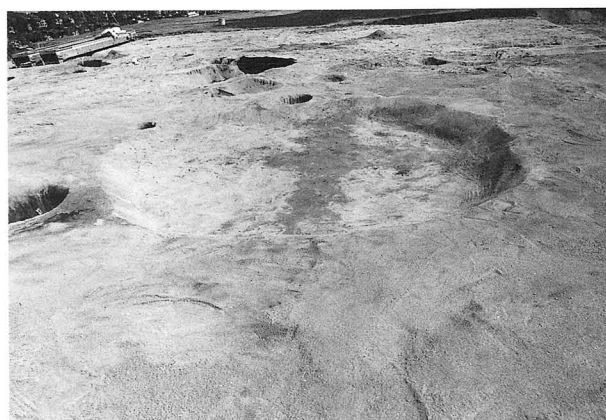
1区 SI06遺物出土状況



2区 遺構検出状況



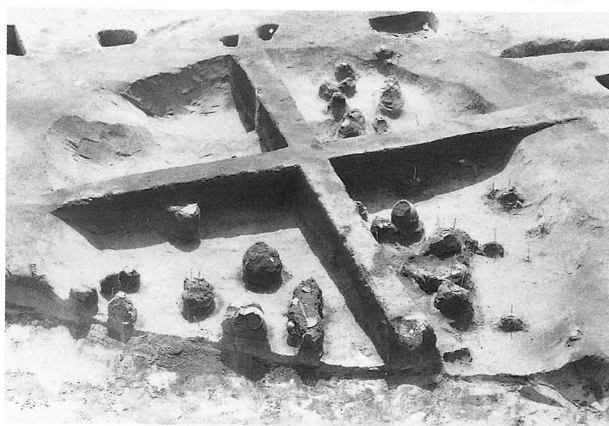
2区 SI02 (西から)



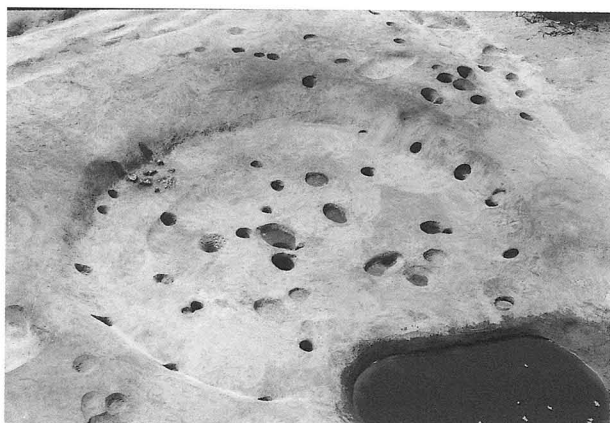
2区 SI02 (南から)



2区 SI03



2区 SI03遺物出土状況



2区 SI04 (南東から)



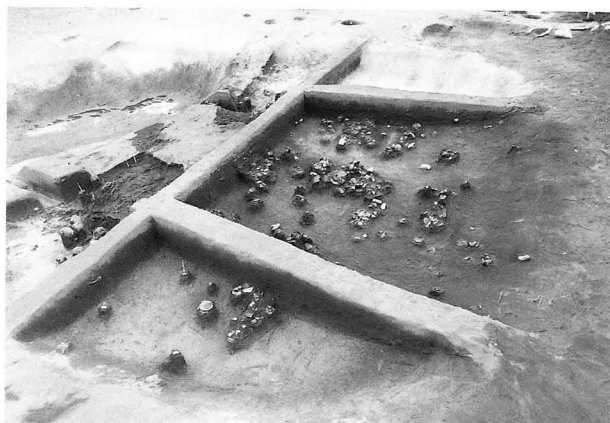
2区 SI04 (南西から)



2区 SI04ベッド状遺構



2区 SI04遺物出土状況



2区 SI04遺物出土状況



作業風景

図版 4



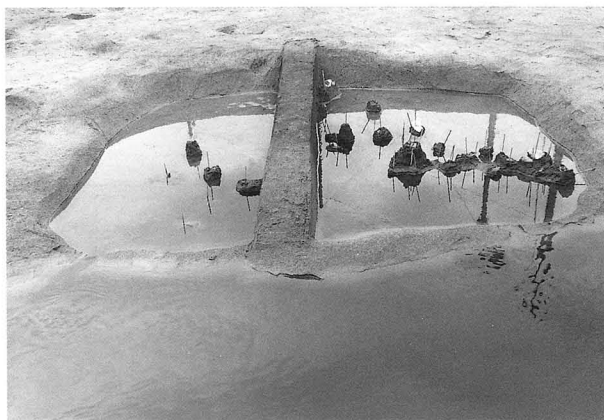
3区 SI01



4区 SI01・05



4区 SI02



4区 SI02遺物出土状況



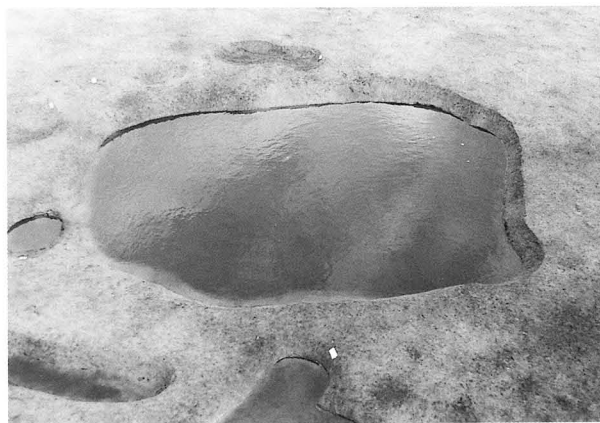
4区 SI03



4区 SI03遺物出土状況



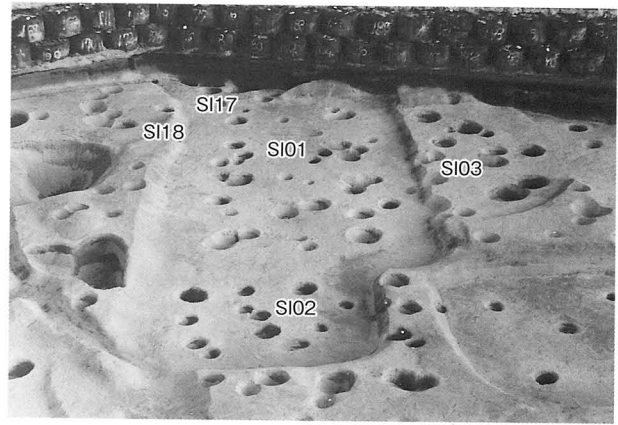
4区 SI04



4区 SI06



5区 SI01



5区 SI01・02・03・17・18 (西から)



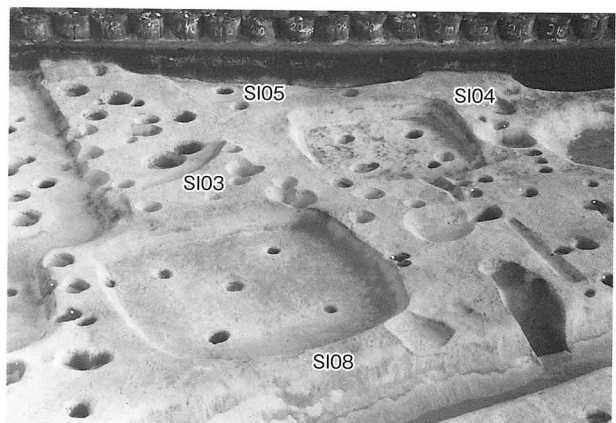
5区 SI04



5区 SI04 Pit内遺物出土状況



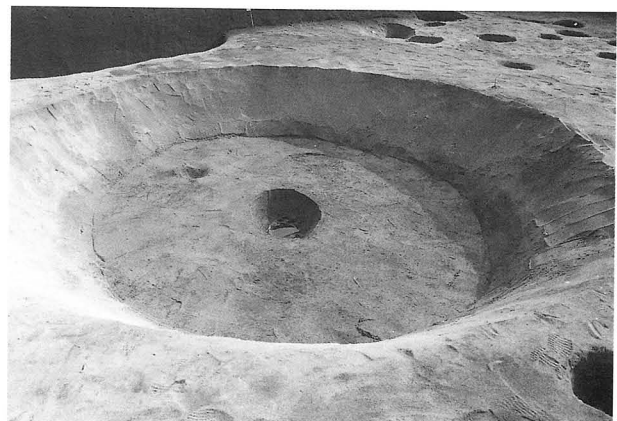
5区 SI05



5区 SI03・04・05・08

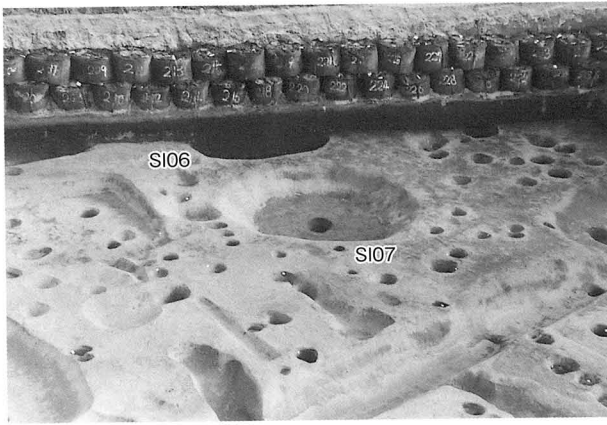


5区 SI07 中央ピット土堤

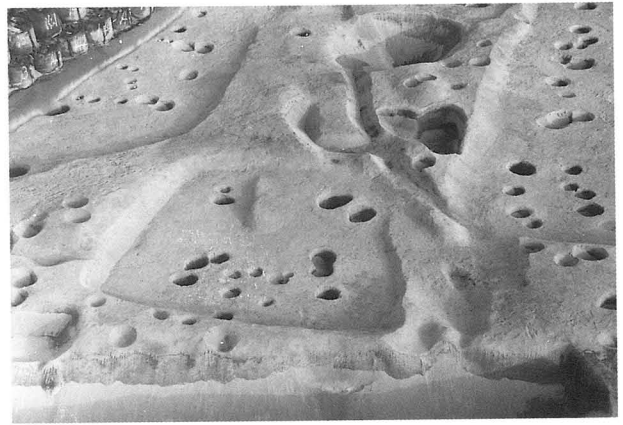


5区 SI07

図版 6



5区 SI06・07



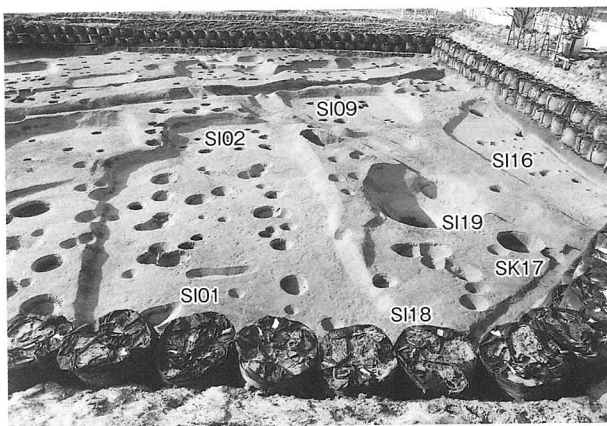
5区 SI09



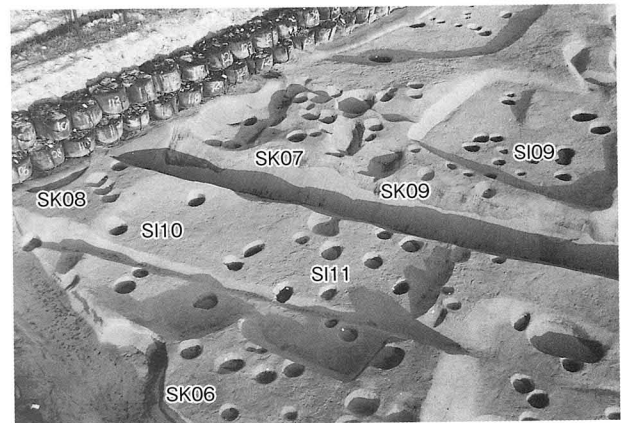
5区 SI10・11 (北東から)



5区 SI10・11 (南西から)



5区 SI01・02・09・16・19・18 SK17



5区 SI09・10・11 SK06・07・08・09



5区 SI12



5区 SI14



5区 最終状況 (南東から)



5区 SB01



1区 SD02完掘状況 (1区)



1区 SD02遺物出土状況



1区 SD02遺物出土状況 (1区)



1区 SD02遺物出土状況 (4区)



1区 SD02遺物出土状況

図版 8



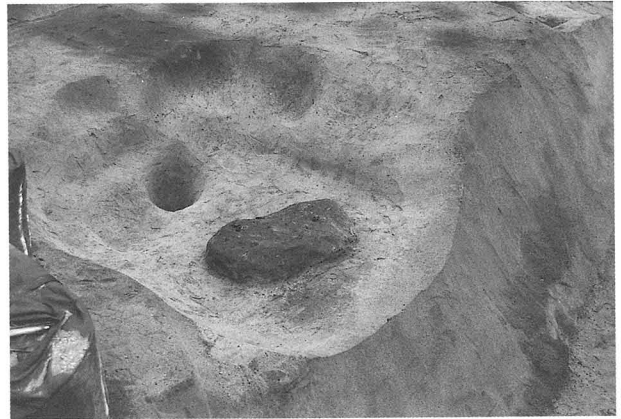
1区 SK05遺物出土状況



1区 SK05完掘状況



5区 SK06



5区 SK07



5区 SK12



3区 柱穴群



5区 SD11



5区 SD11断面



2区 SD05 (北東から)



2区 SD05 (南側から)



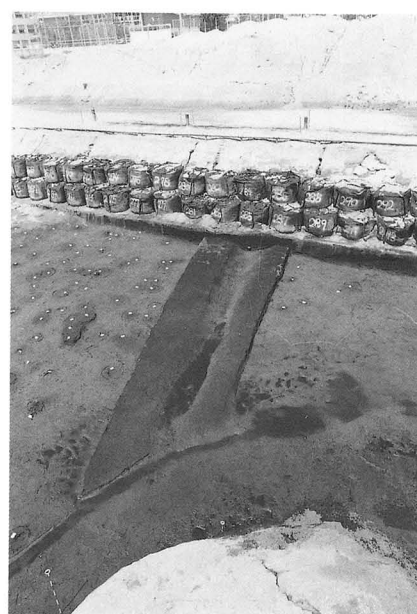
2区 SD06



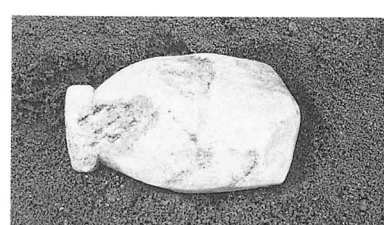
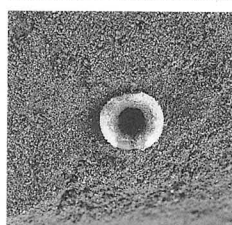
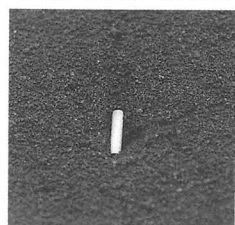
2区 SD11・12



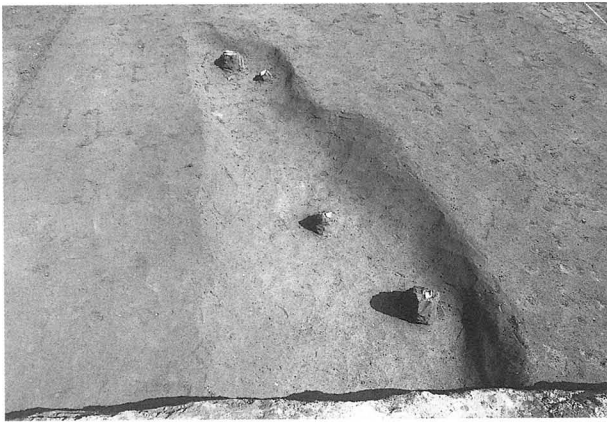
3区 SD04



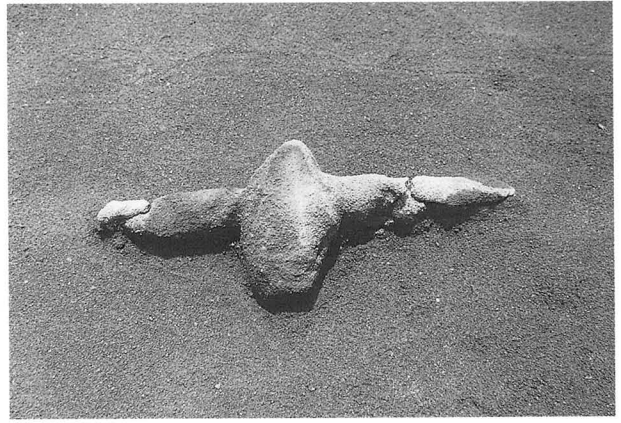
3区 SD04



遺物出土状況



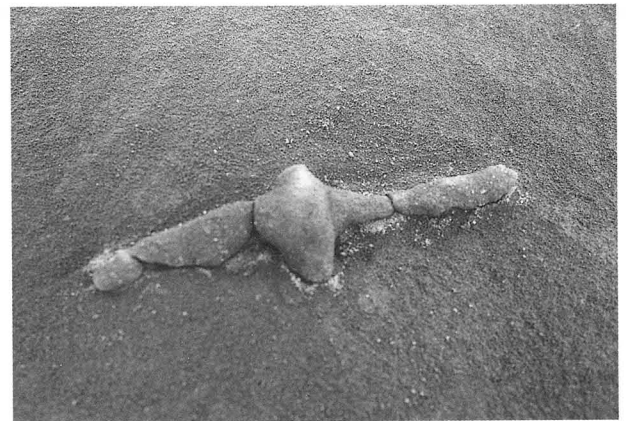
4区 SD05



遺物出土状況



4区 SD07



遺物出土状況



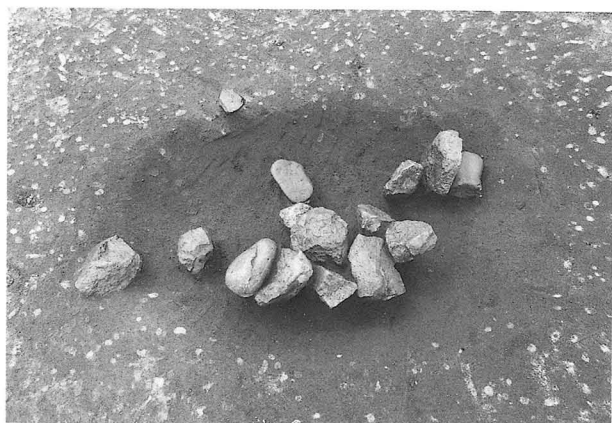
4区 SD11



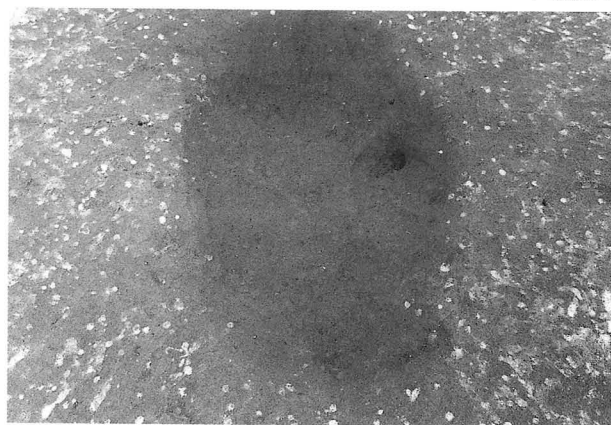
5区 溝全景 (西から)



5区 溝全景 (南西から)



2区 SX01



2区 SX01



3区 鍛冶関連遺物廃棄土坑



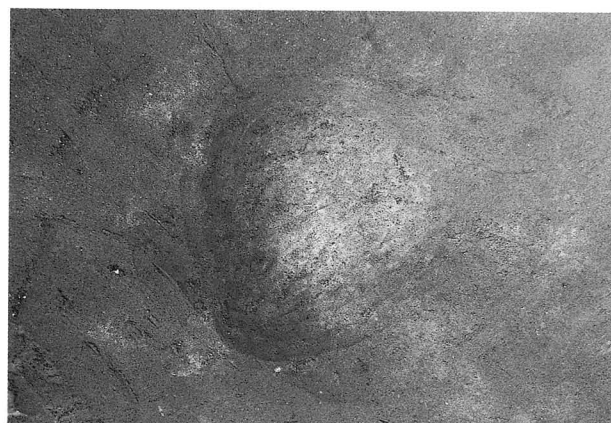
3区 鍛冶関連遺物廃棄土坑



3区 土墳墓



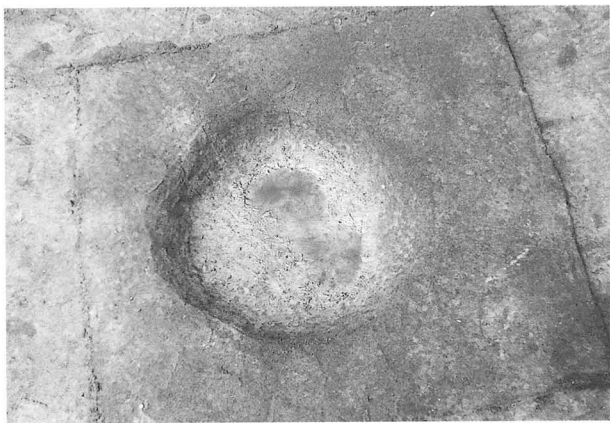
3区 土墳墓内遺物出土状況



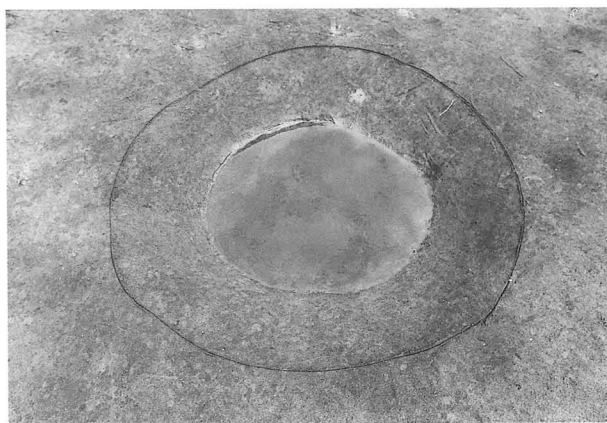
3区 SK10



作業風景



3区 SK08



3区 SK09



2区 SK09



5区 竈跡



土層剥取り状況



3区 畝全景



1区 畝全景



2区 畝全景



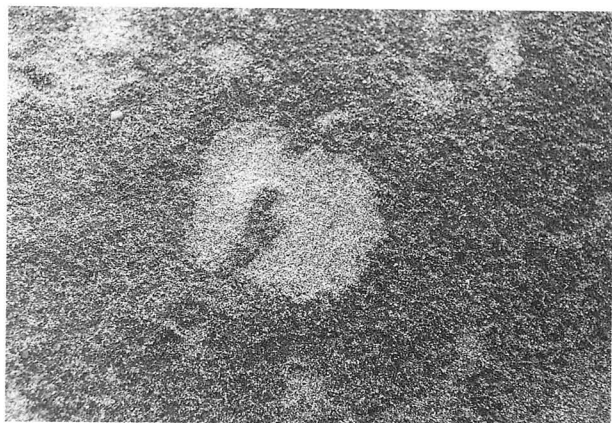
4区 畝全景



5区 畝全景



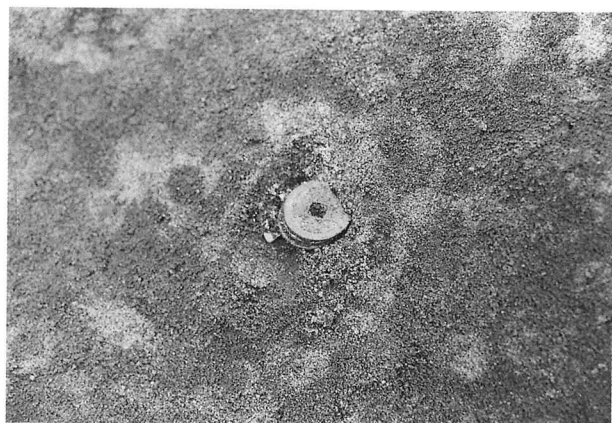
中世島跡全景（合成写真）



足跡



3区 SD02



1区 畝中遺物出土状況



4区 竪穴状畝



1区 畝中遺物出土状況

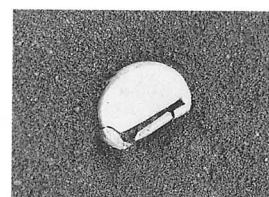


4区 水溜状遺構



5区 畦10

遺物出土状況





2区 硬化面



2区 硬化面断面



5区 硬化面 (西側から)



5区 硬化面 (東側から)



1区 SK01



1区 SK03



2区 SK01木枠



2区 SK01



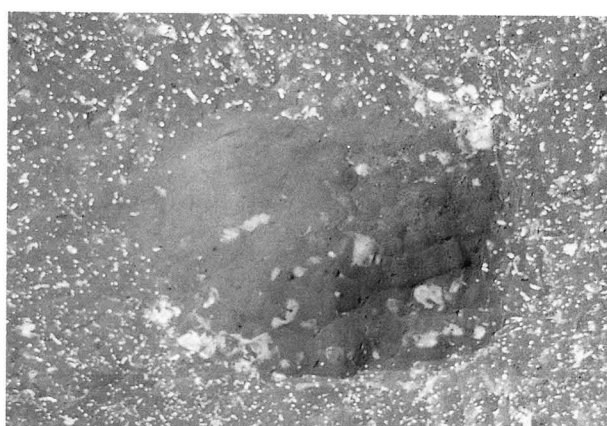
2区 SK02



2区 SK04



2区 SK05



2区 SK06



2区 SK07



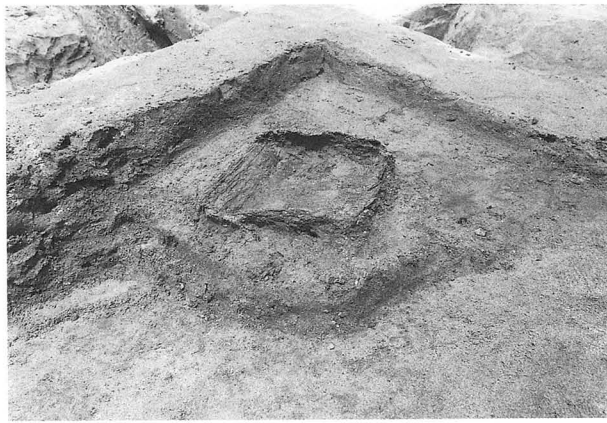
3区 SK01



2区 SK08



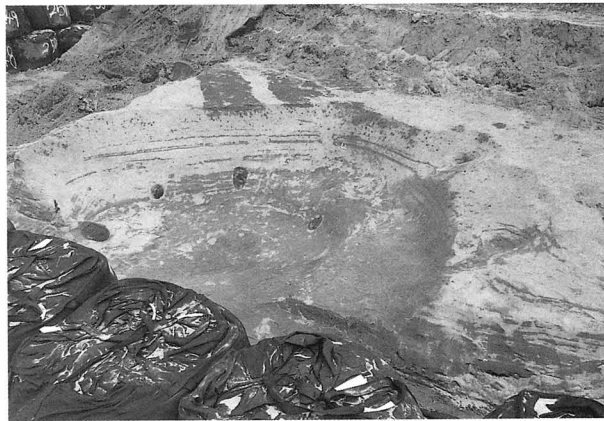
3区 SK02



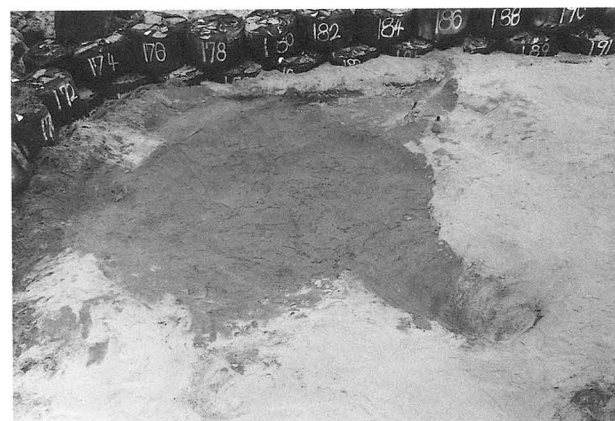
3区 SK02内木柱



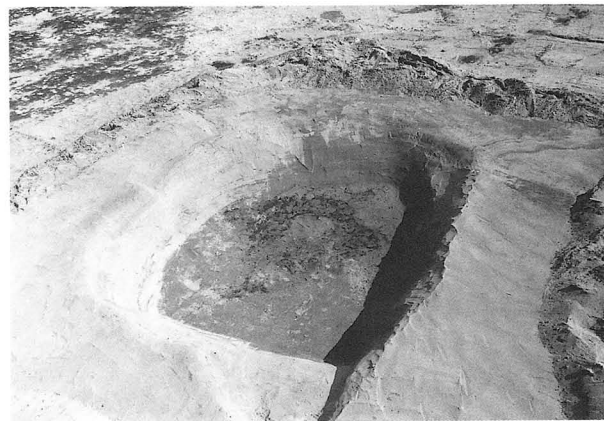
3区 SK03



4区 SK01



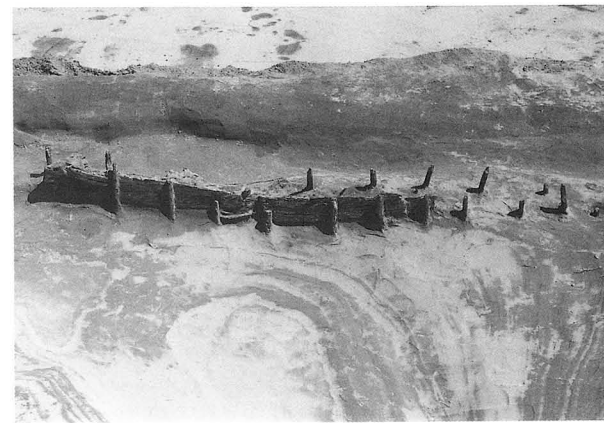
4区 SK02



4区 SK05



4区 SK03



4区 SK03 柵列



4区 SK08



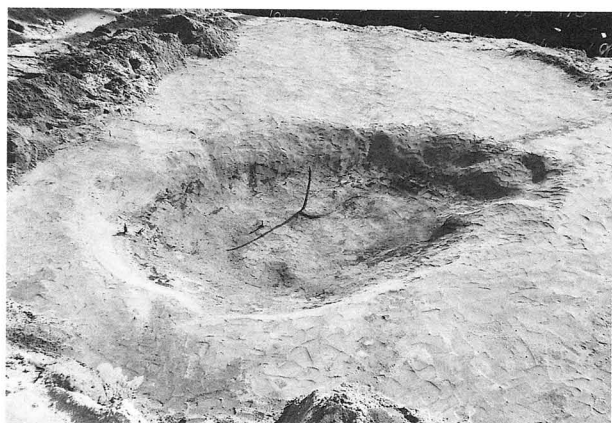
4区 SK09



5区 SK01



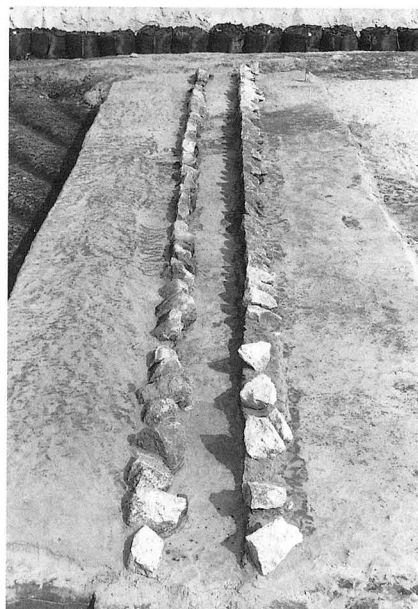
1区 石列



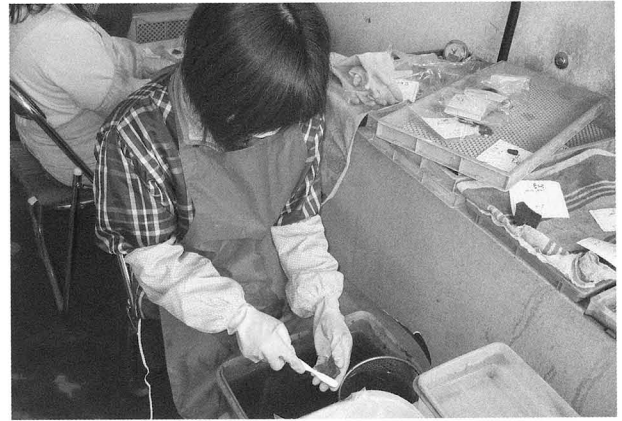
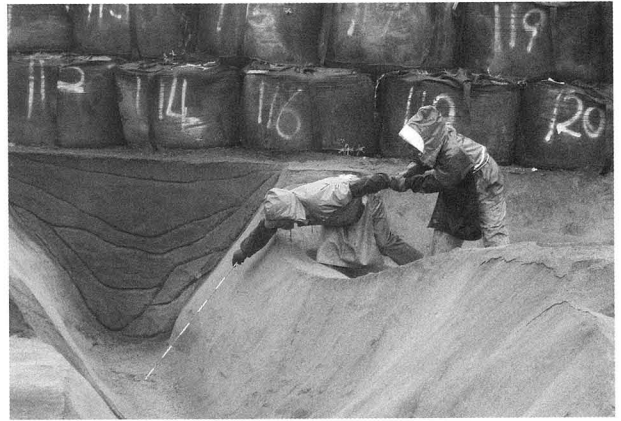
5区 SK02



5区 SK03

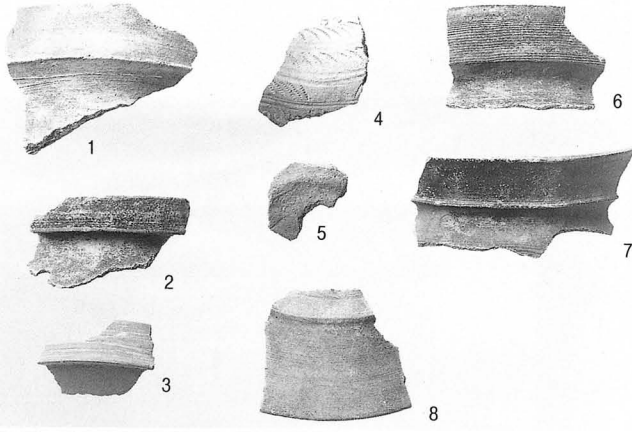


1区 石列

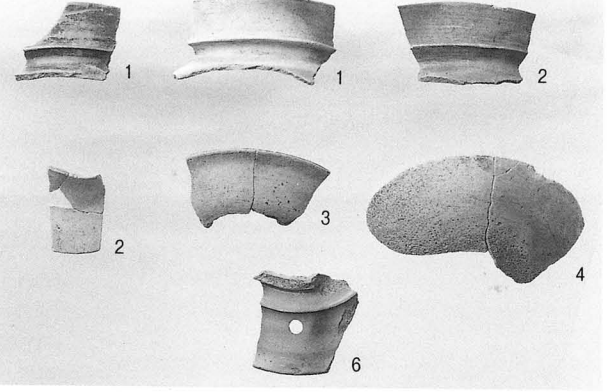


作業風景

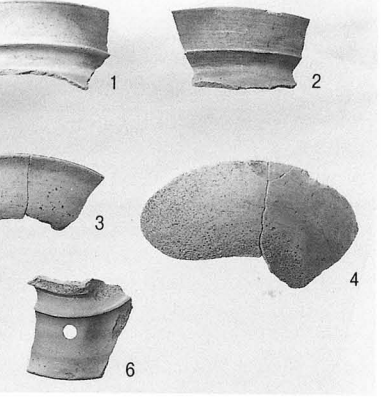
SI01



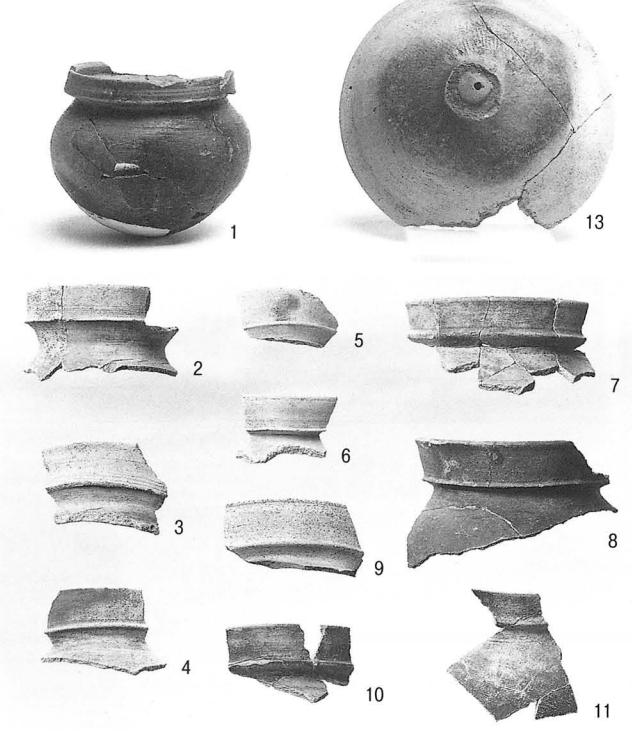
SI02



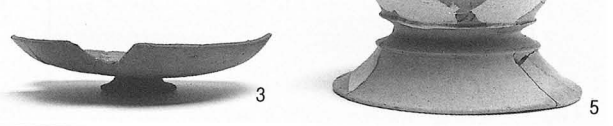
SI03



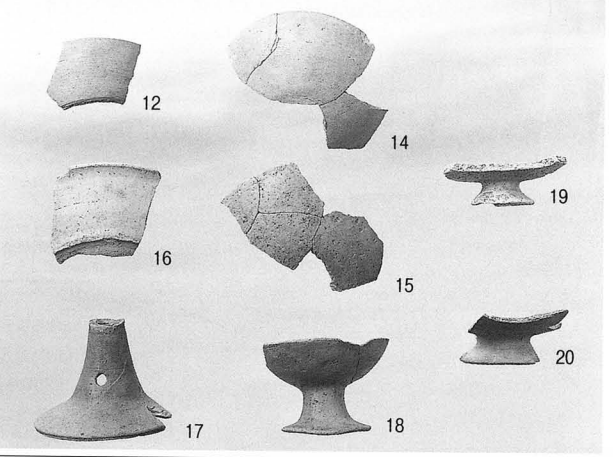
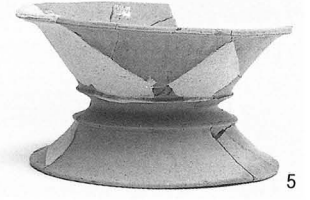
SI04



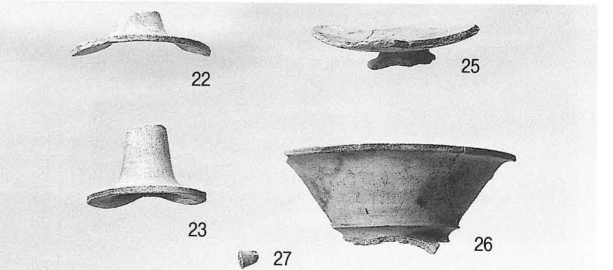
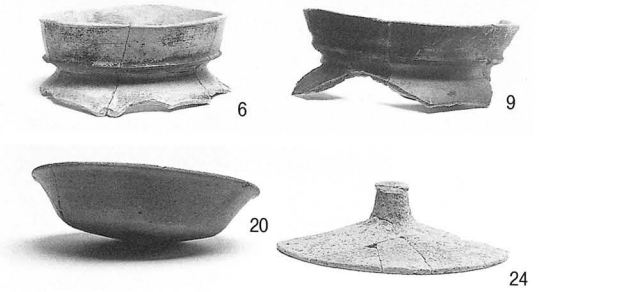
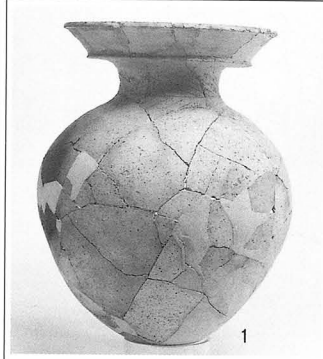
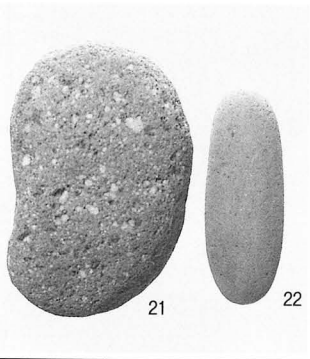
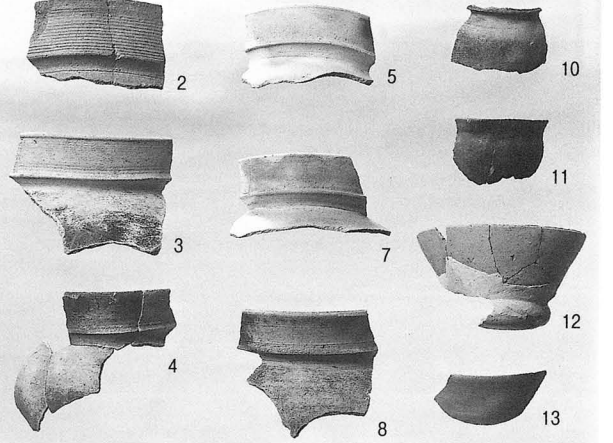
SI02



SI03



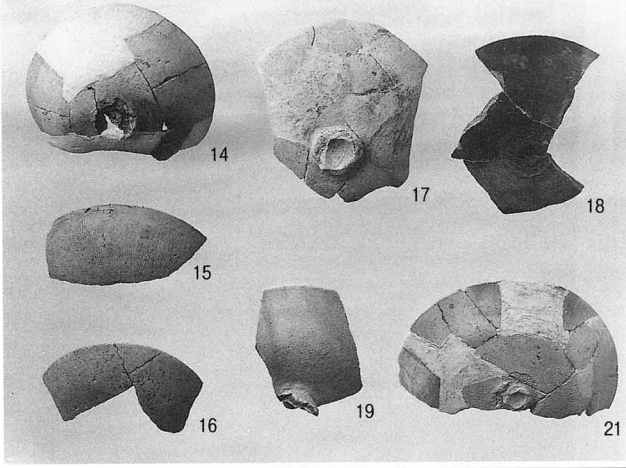
SI05



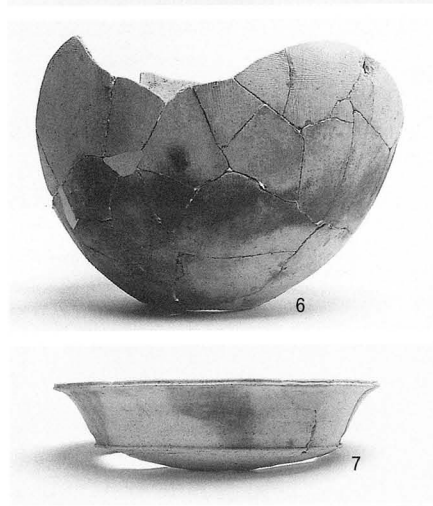
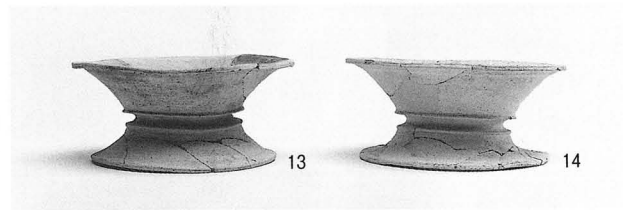
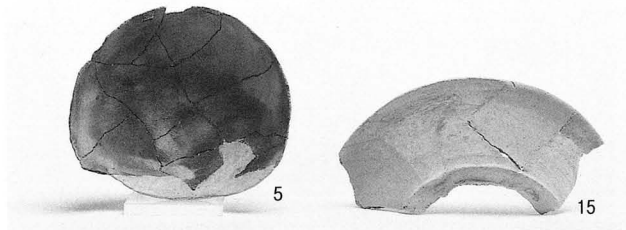
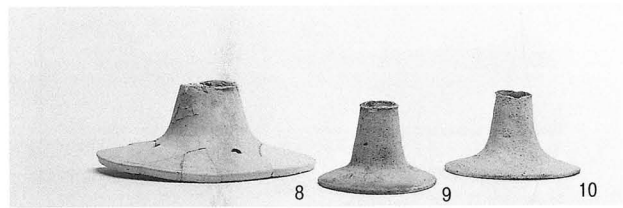
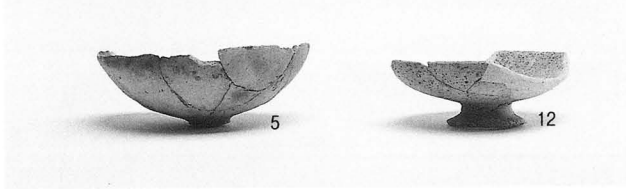
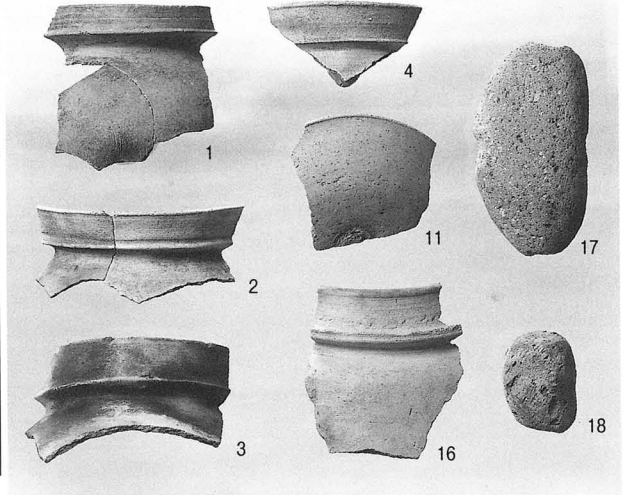
1区 遺構出土遺物

図版22

SI05



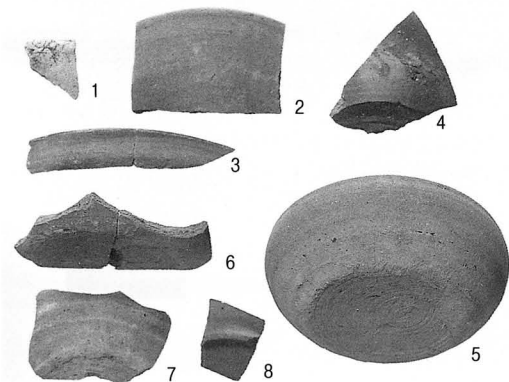
SI06



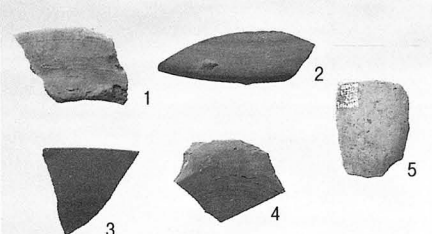
SK05



Pit内



SB01



SB02



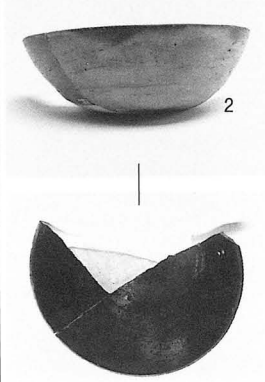
SB04

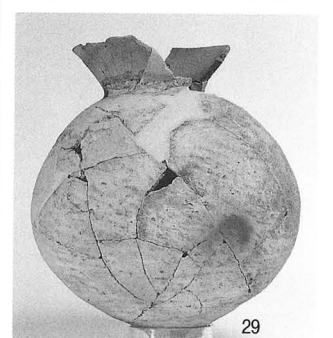
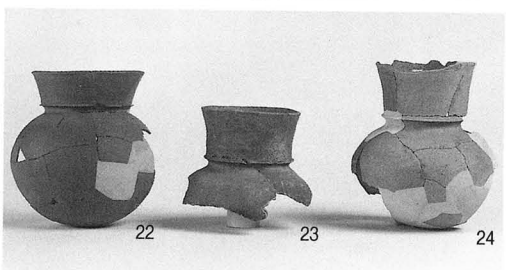
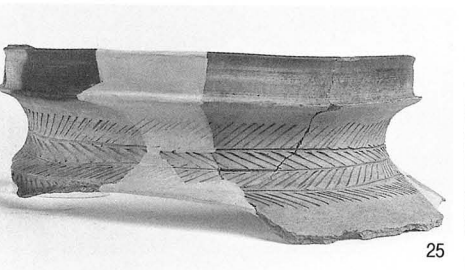
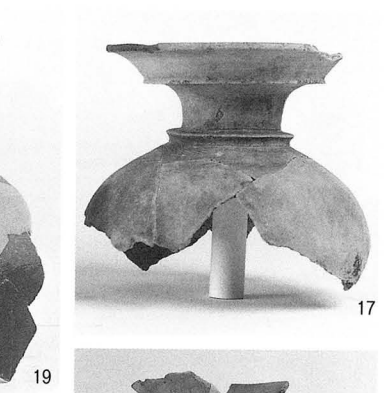
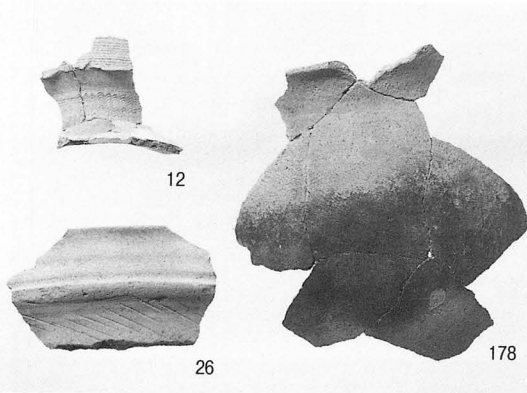
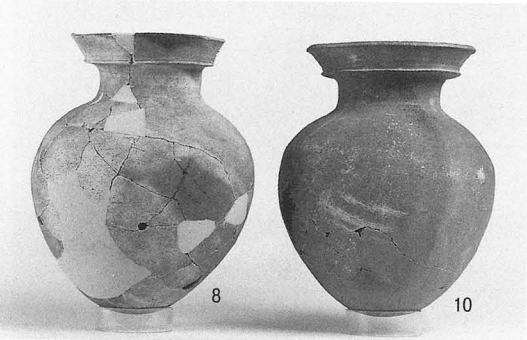
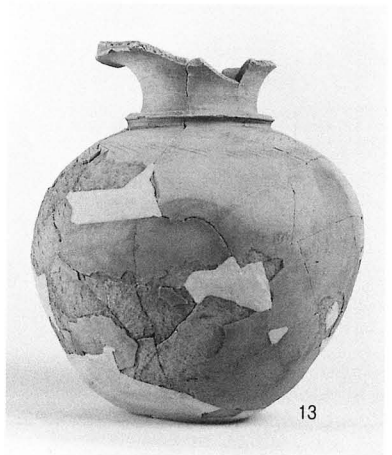


SB08



SB08

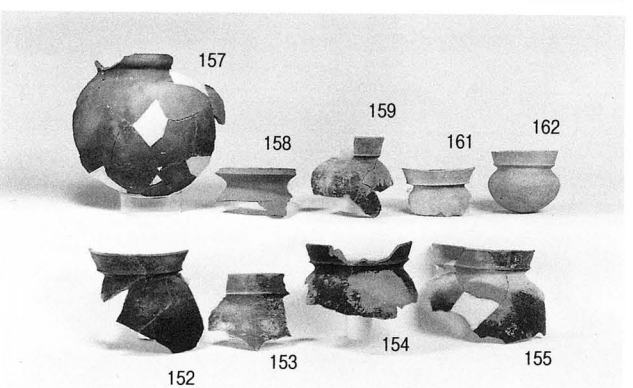
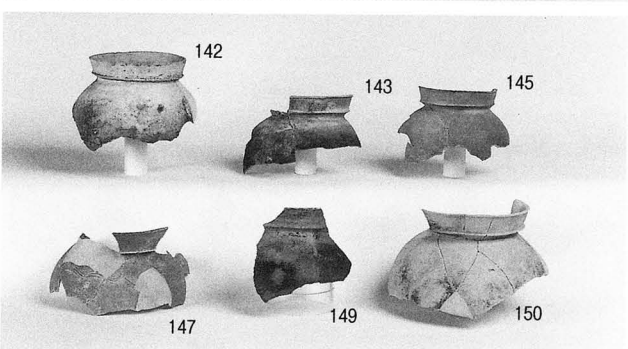
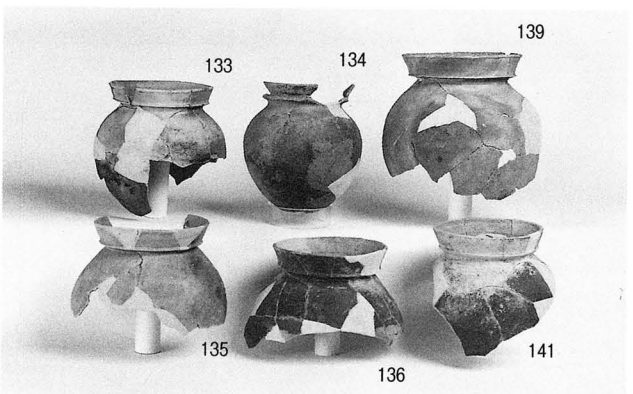
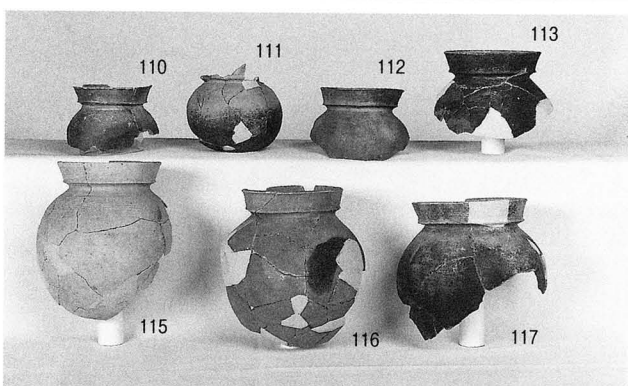
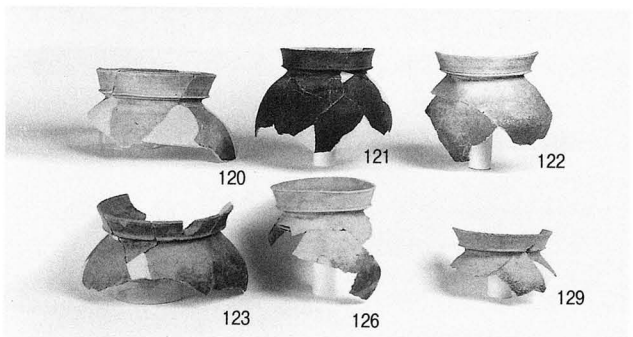
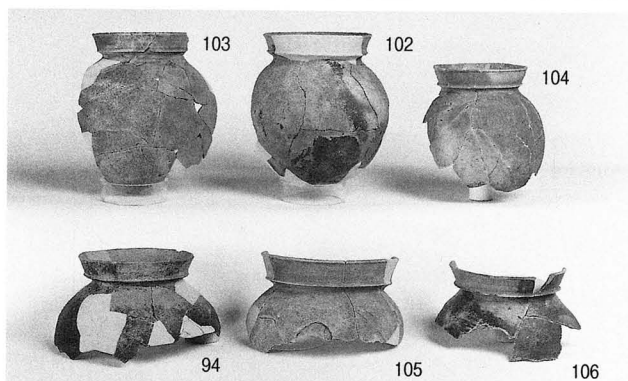
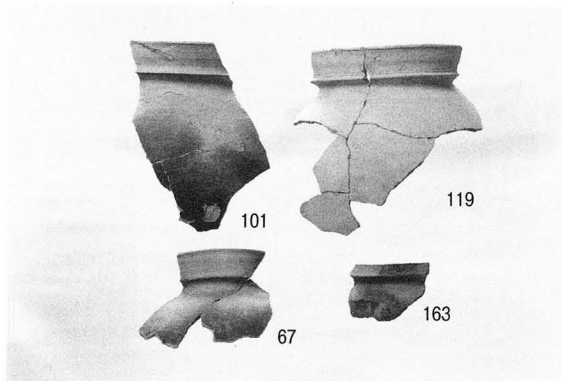
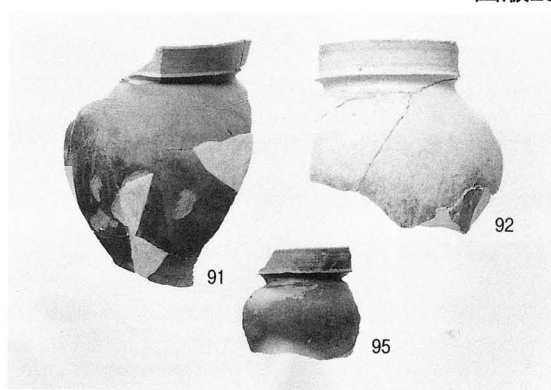
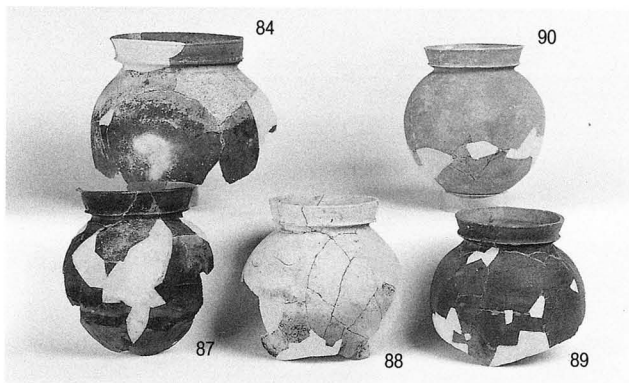




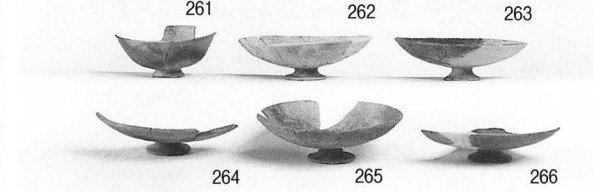
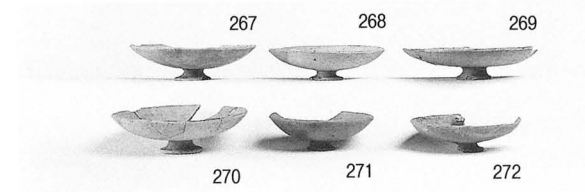
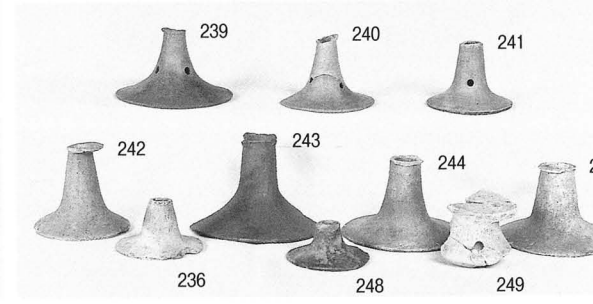
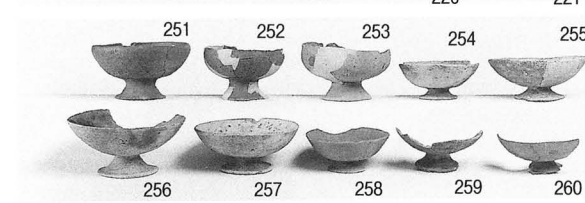
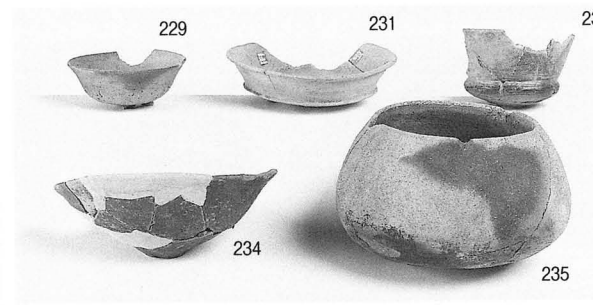
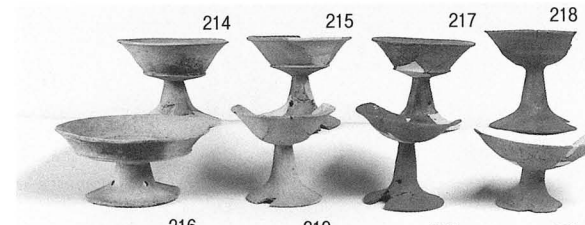
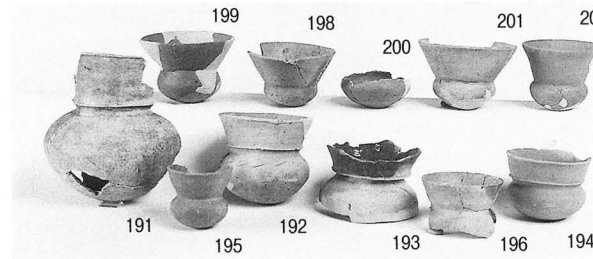
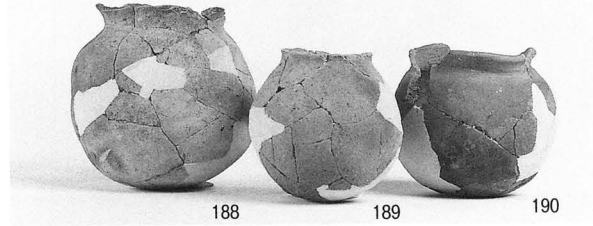
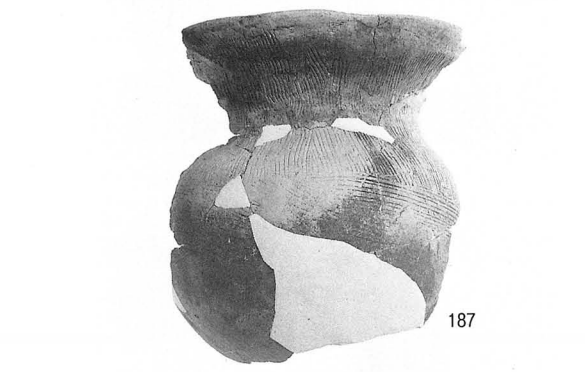
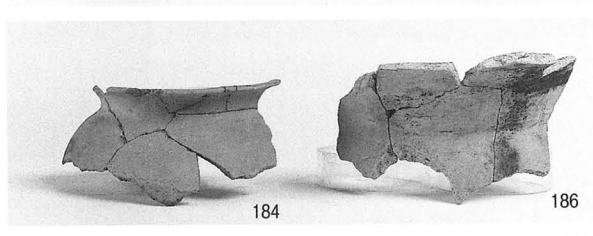
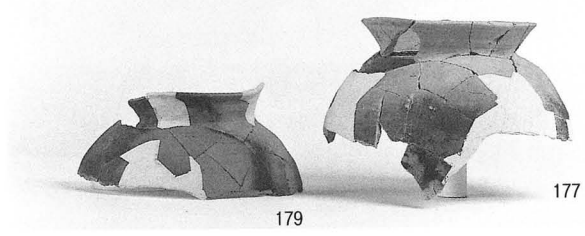
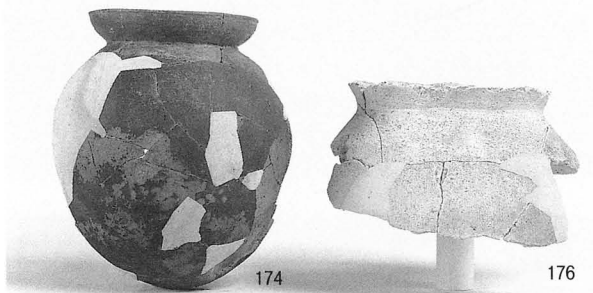
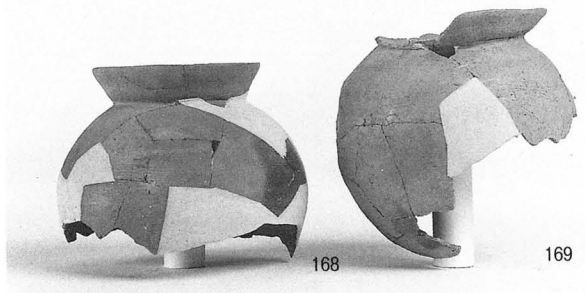
1区 SD02出土遺物

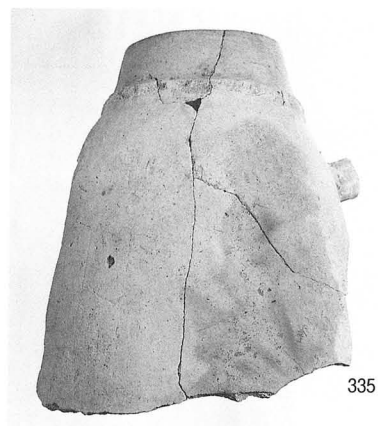
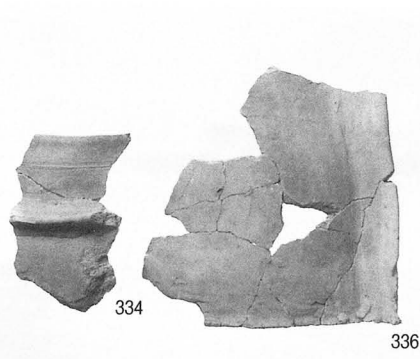
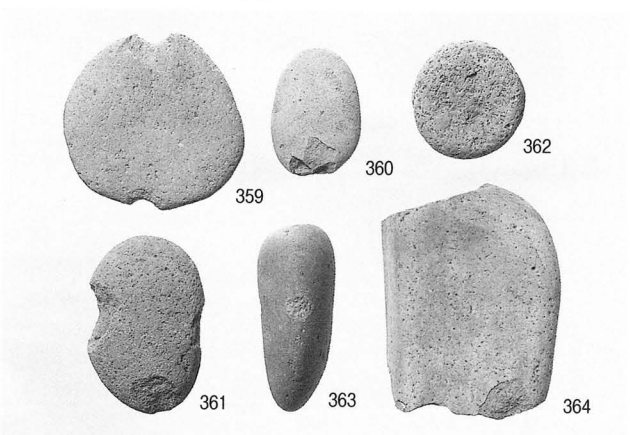
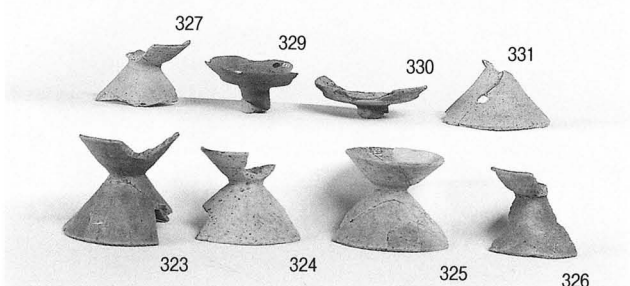
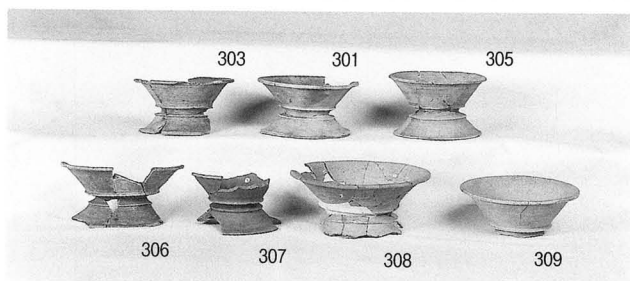
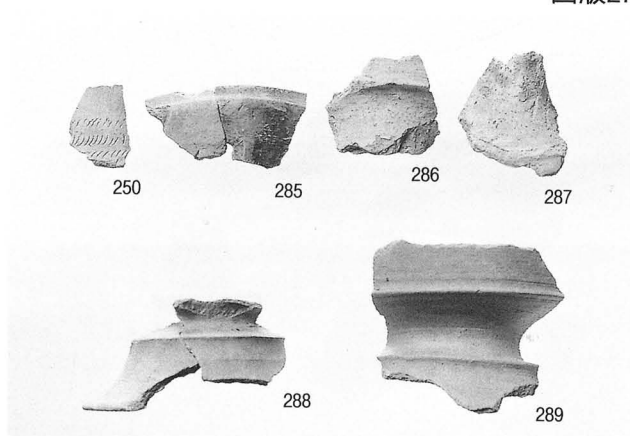
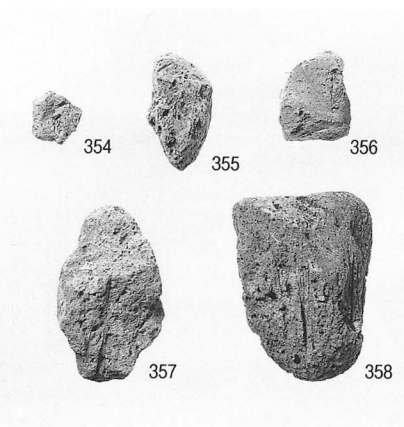
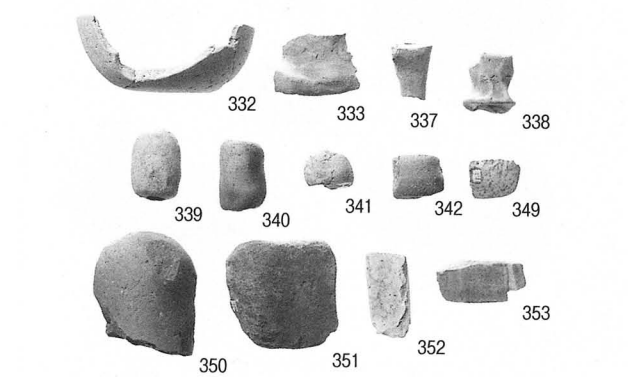
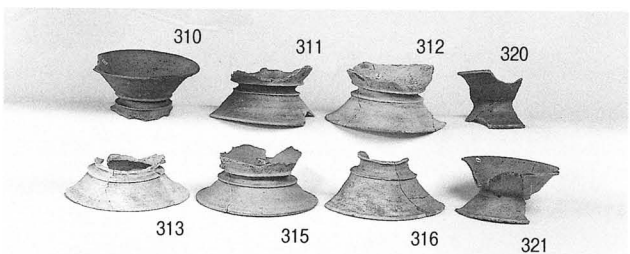
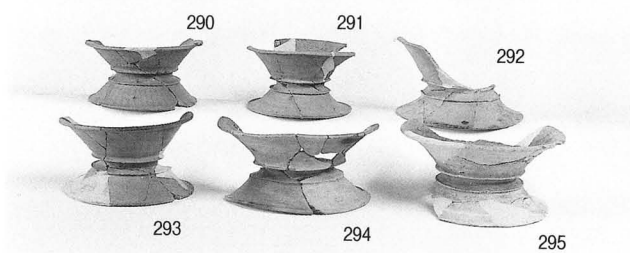
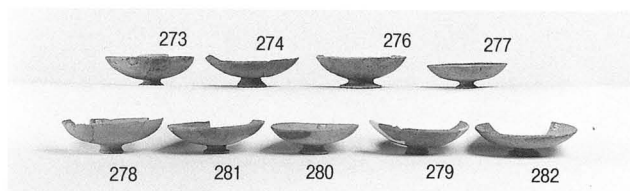


1区 SD02出土遺物



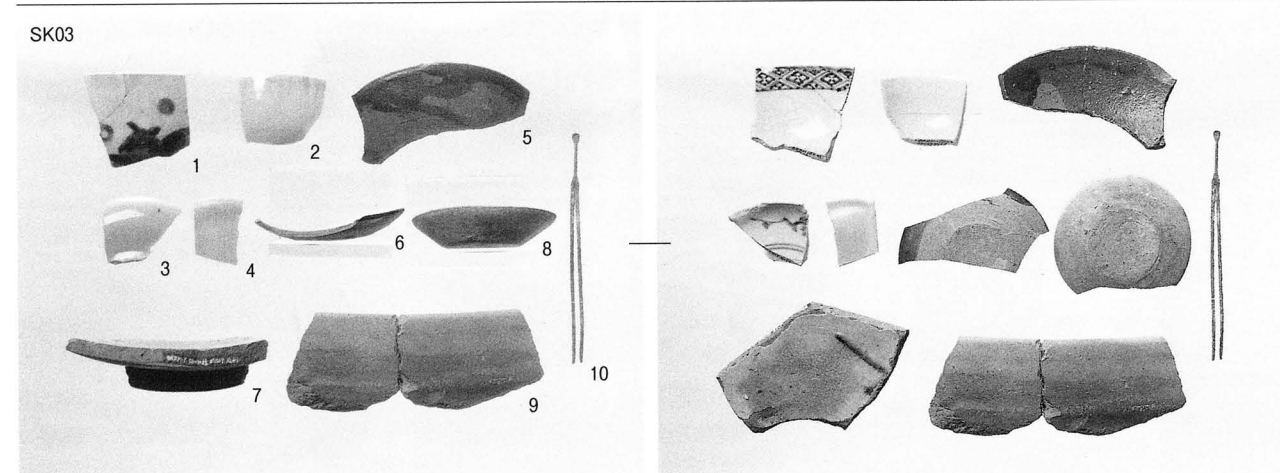
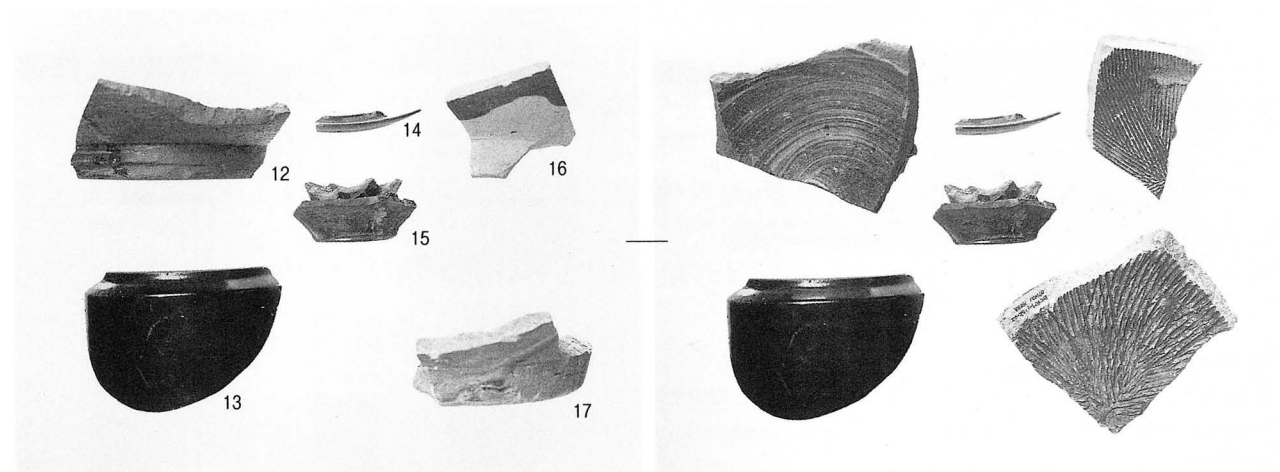
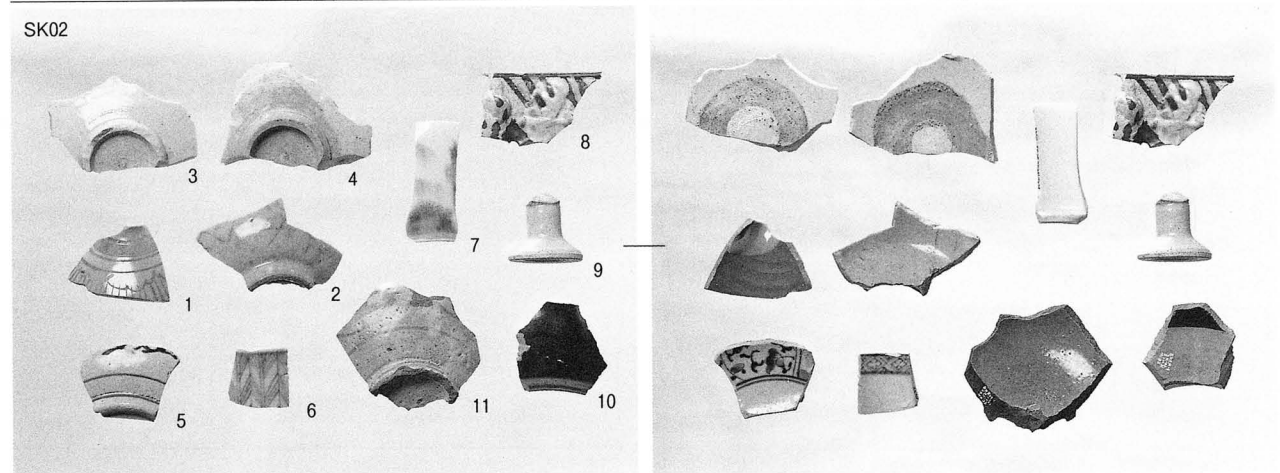
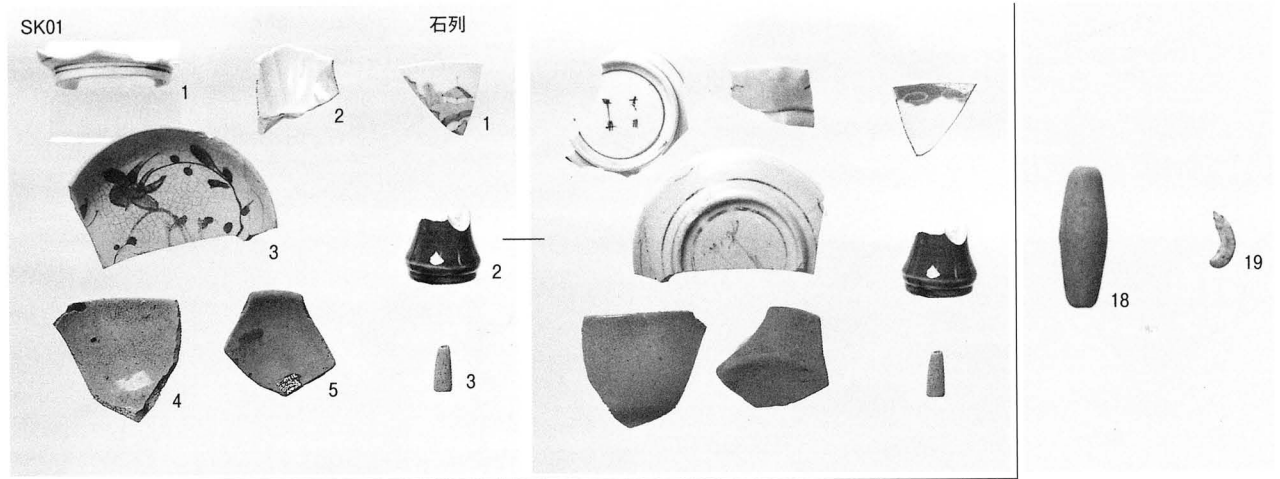
1区 SD02出土遺物





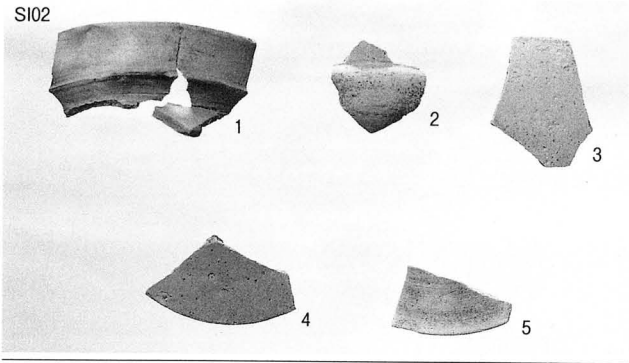
1区 SD02出土遺物

図版28

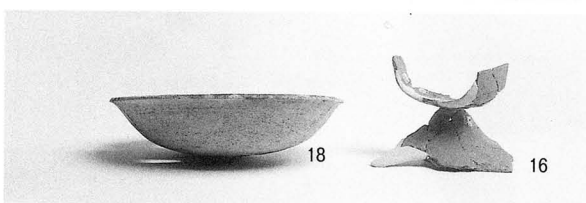
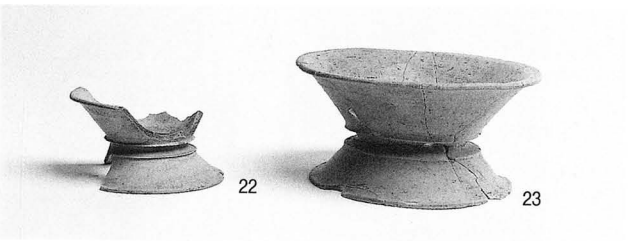
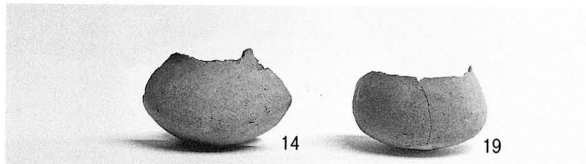
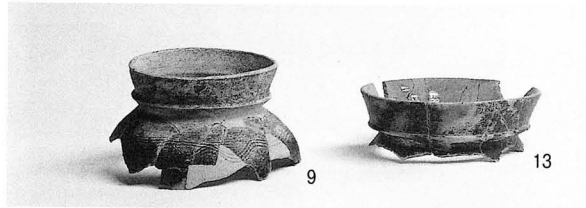
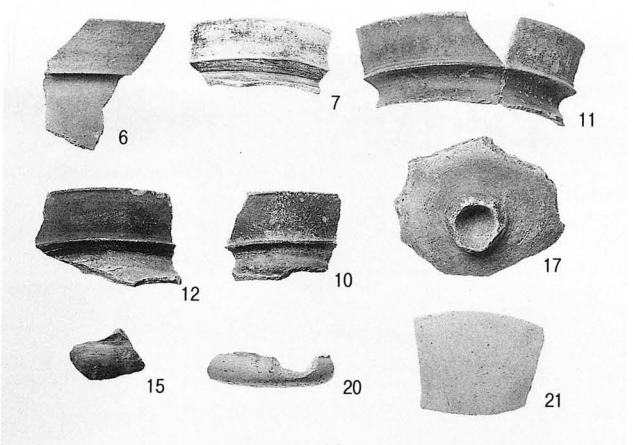
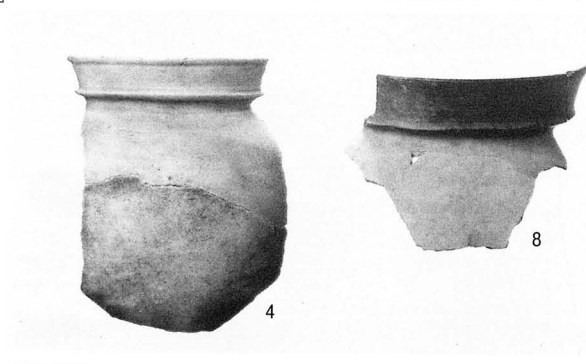


1区 遺構出土遺物

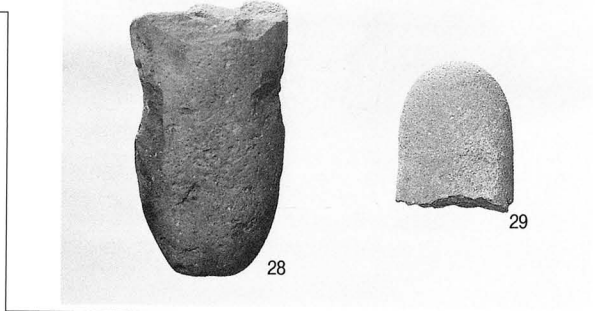
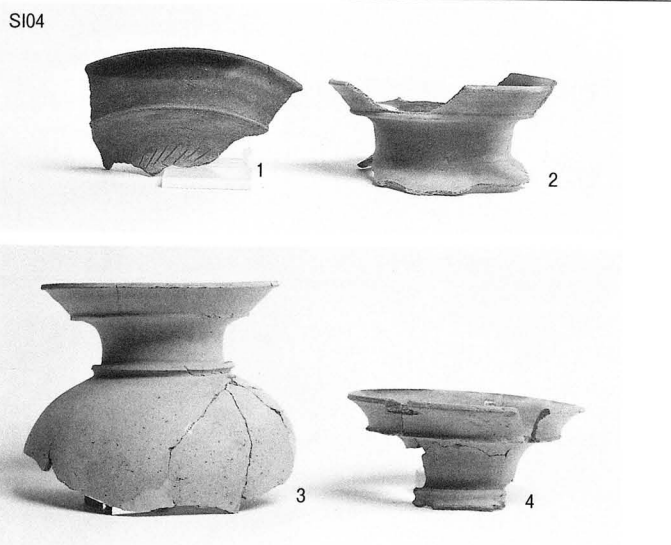
SI02

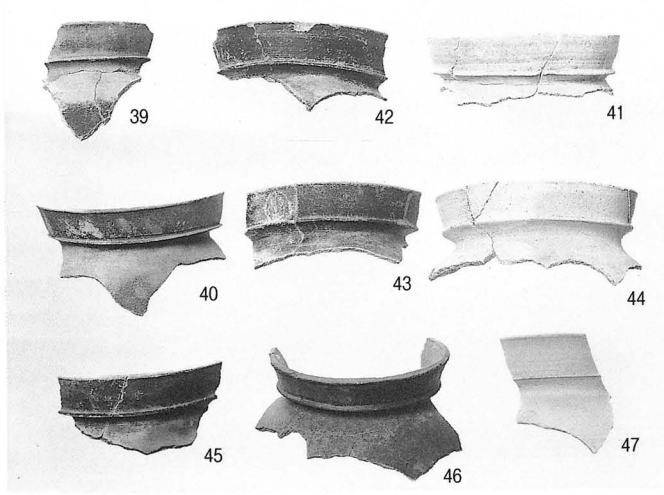
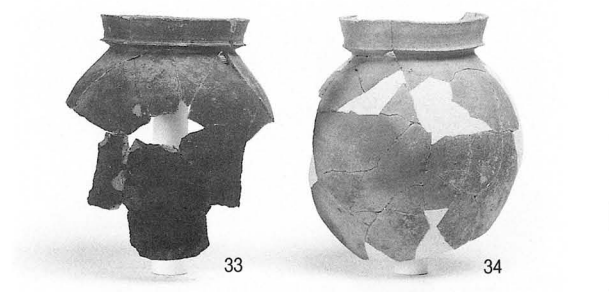
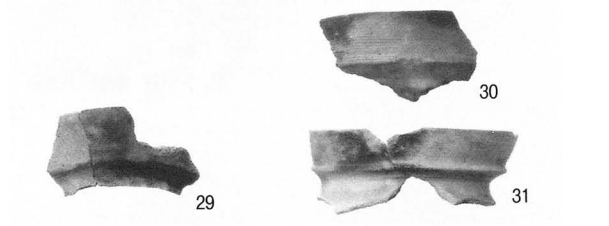
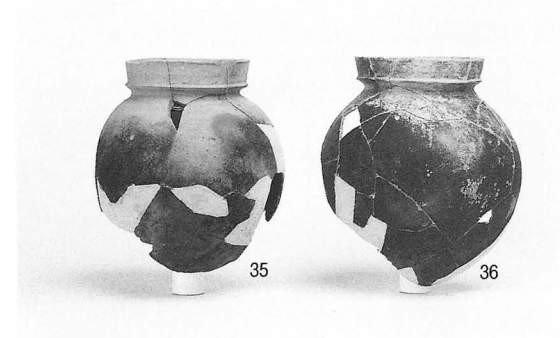
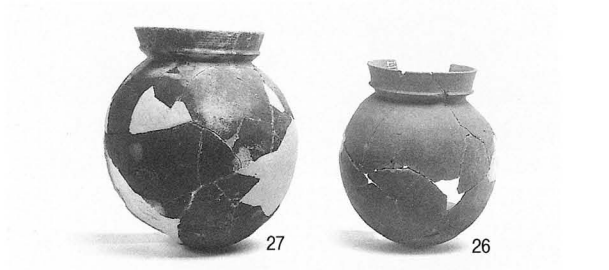
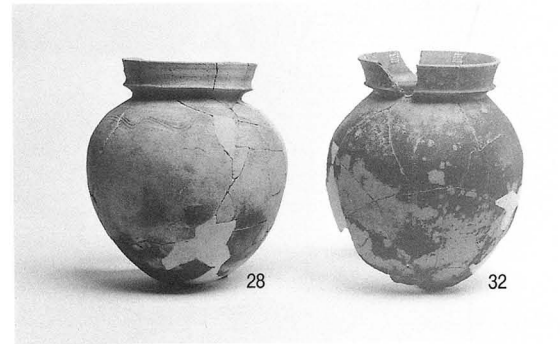
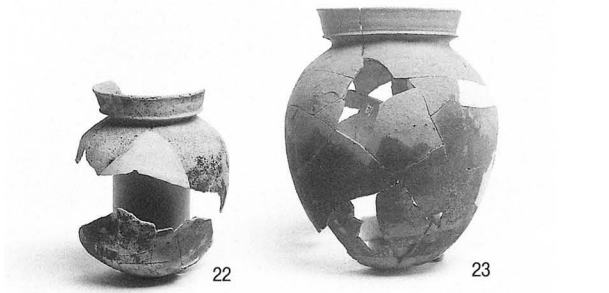
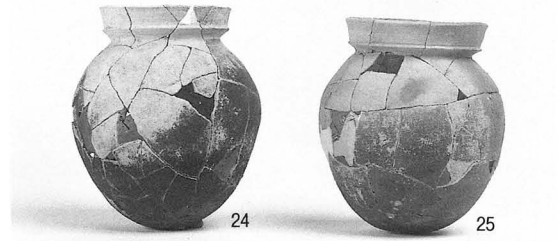
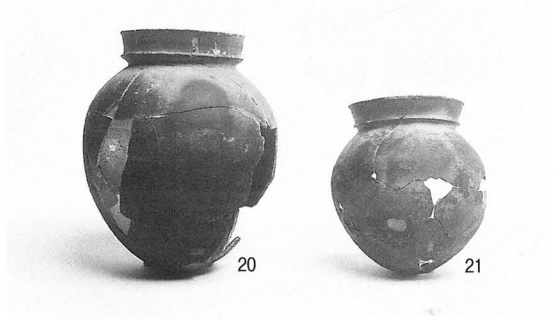
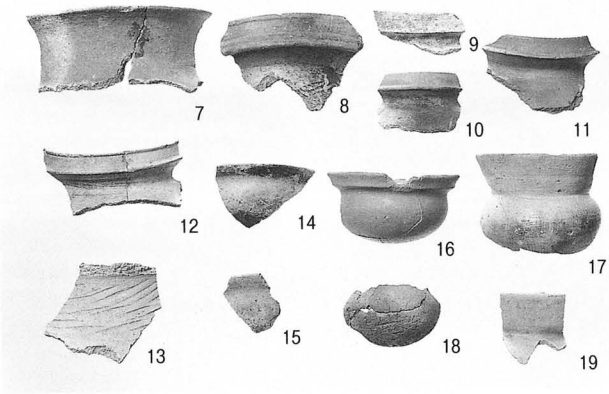


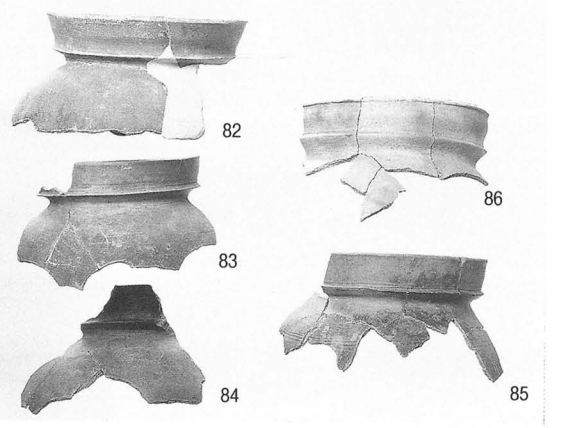
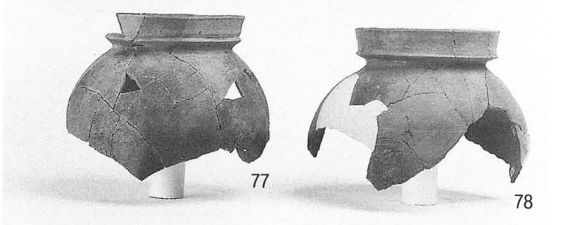
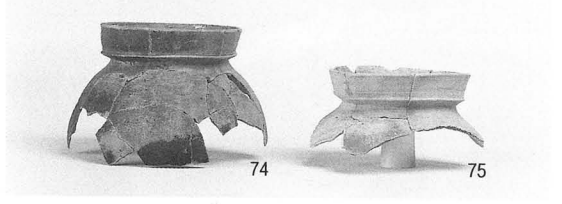
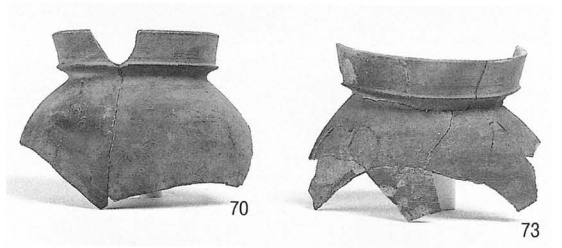
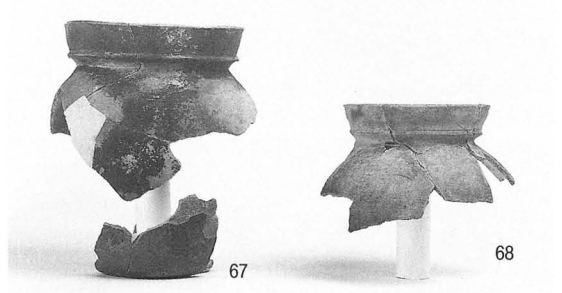
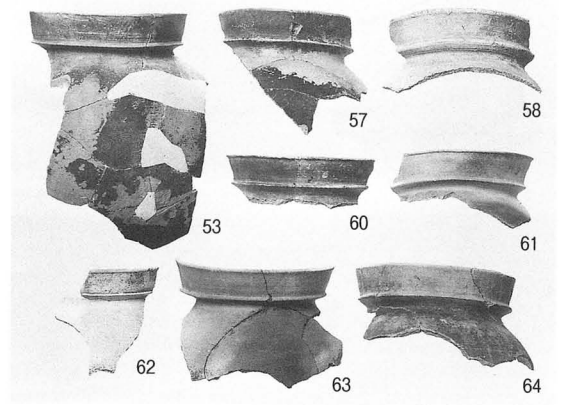
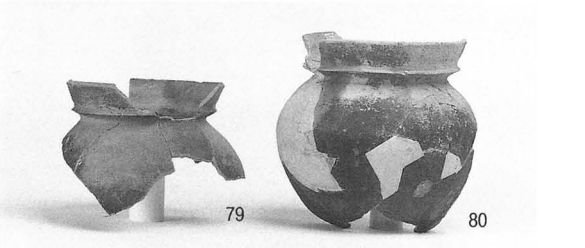
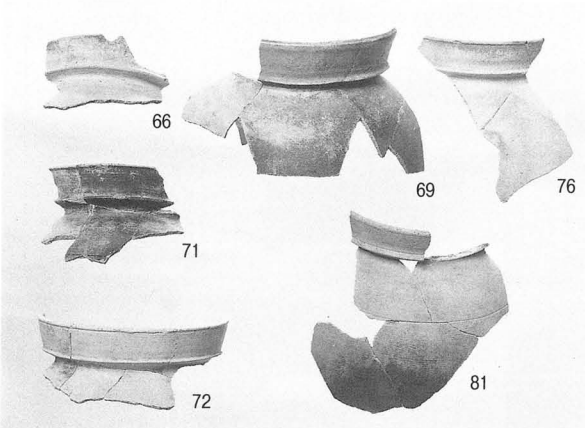
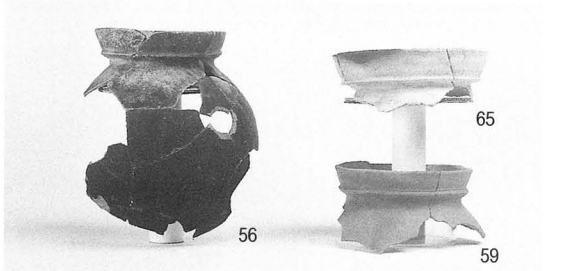
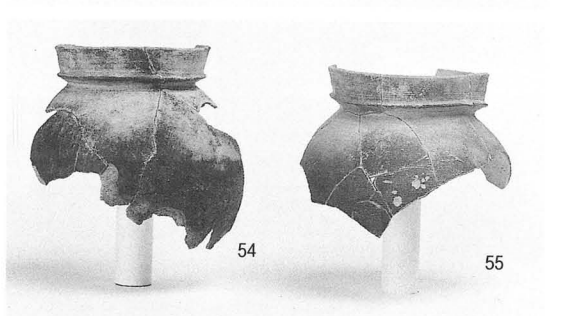
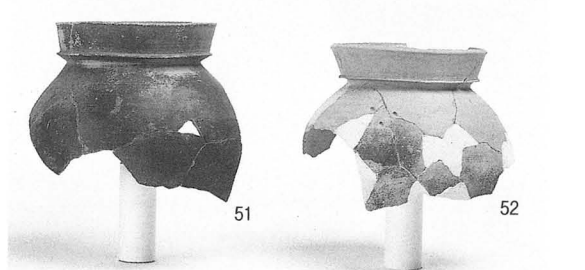
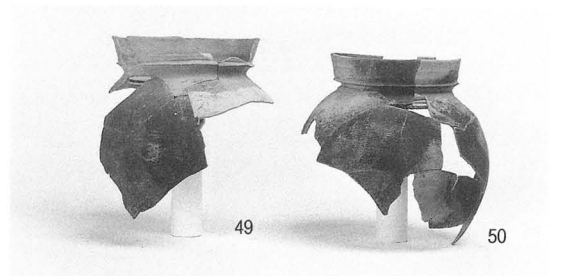
SI03

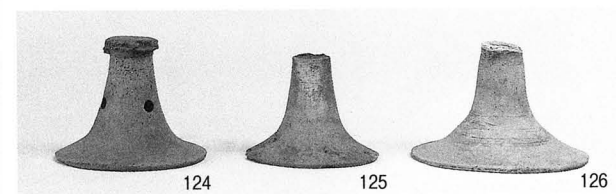
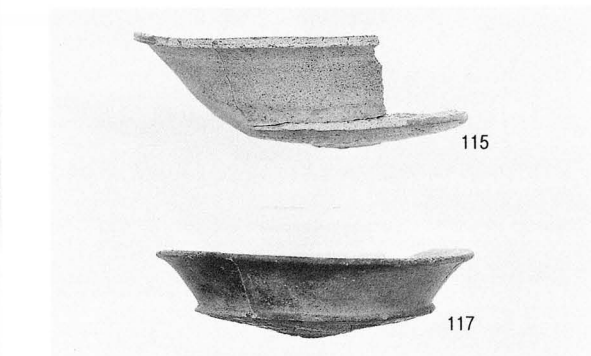
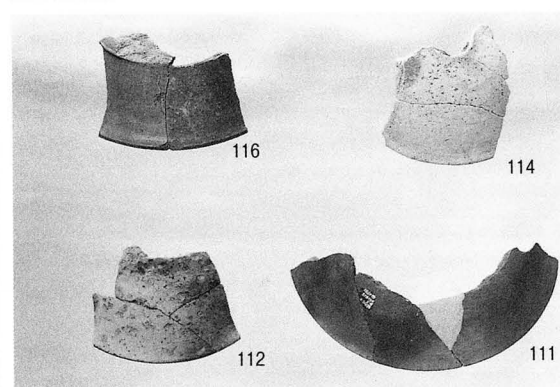
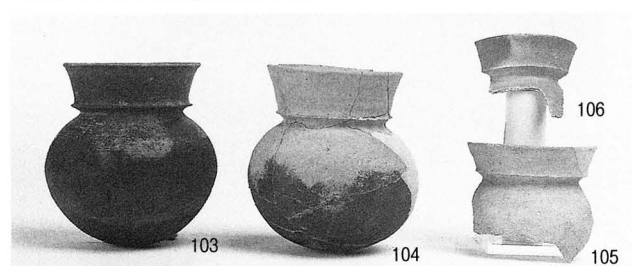
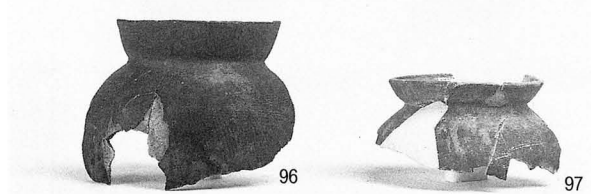
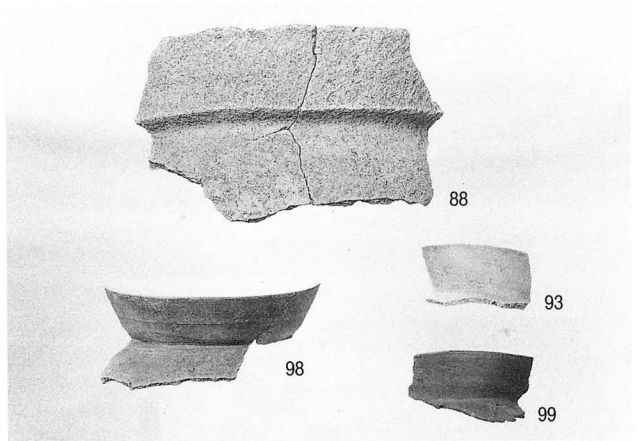
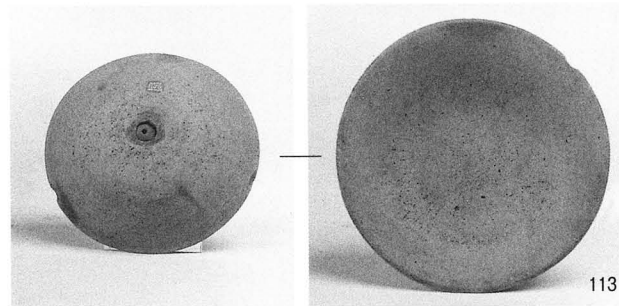
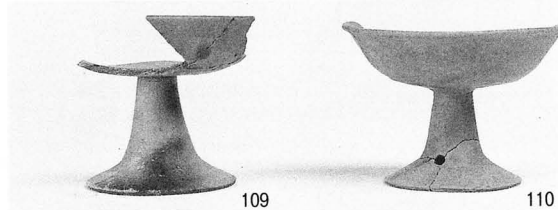
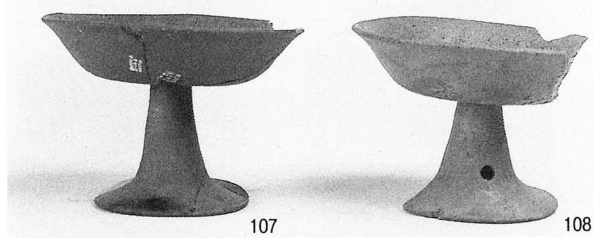
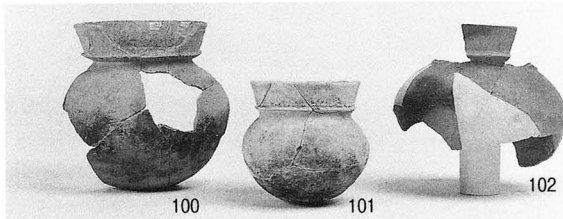
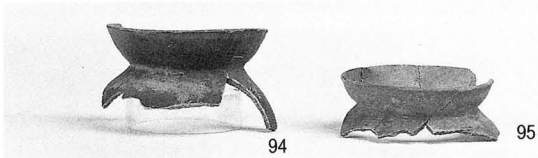
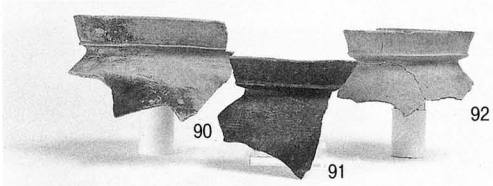
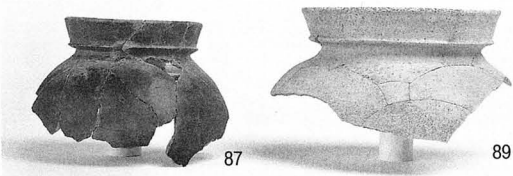


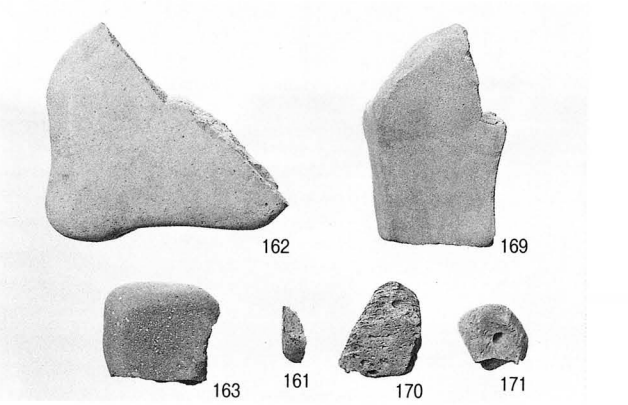
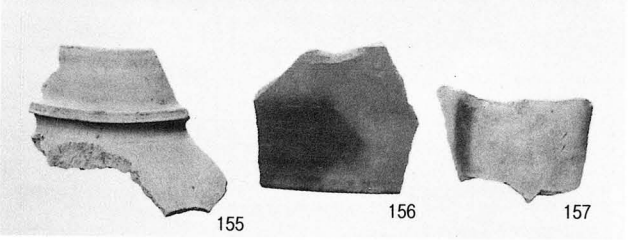
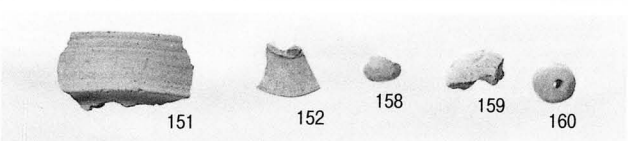
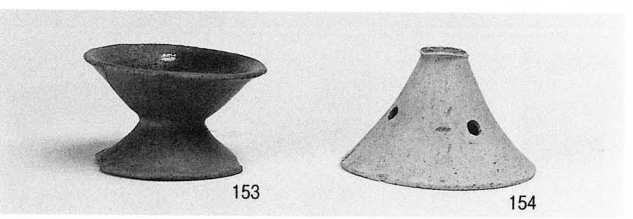
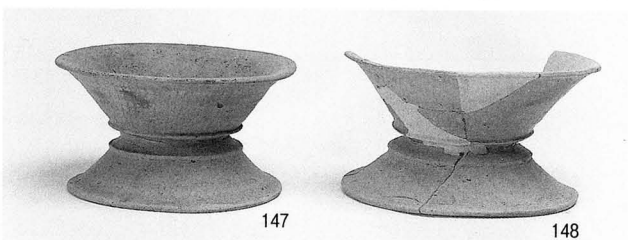
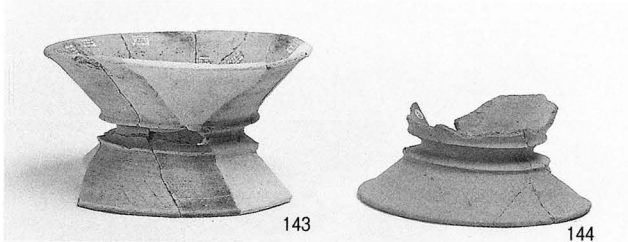
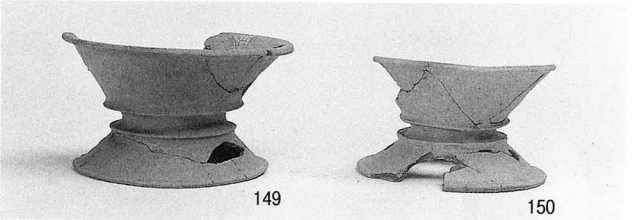
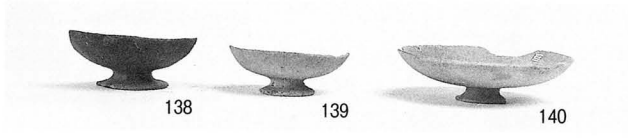
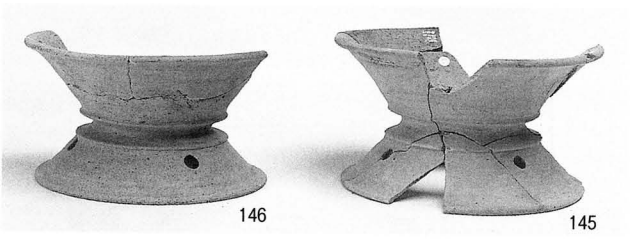
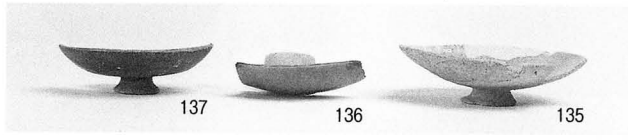
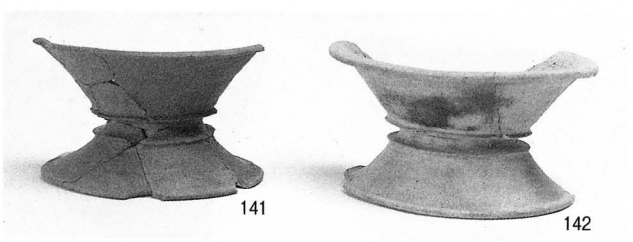
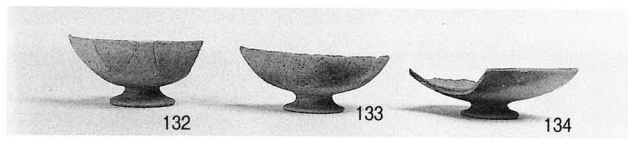
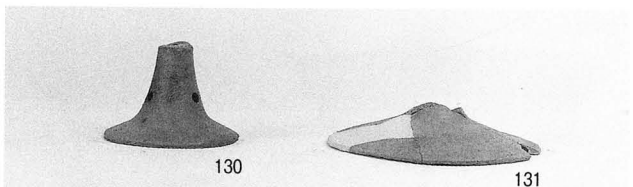
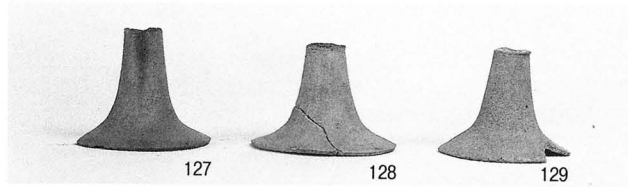
SI04







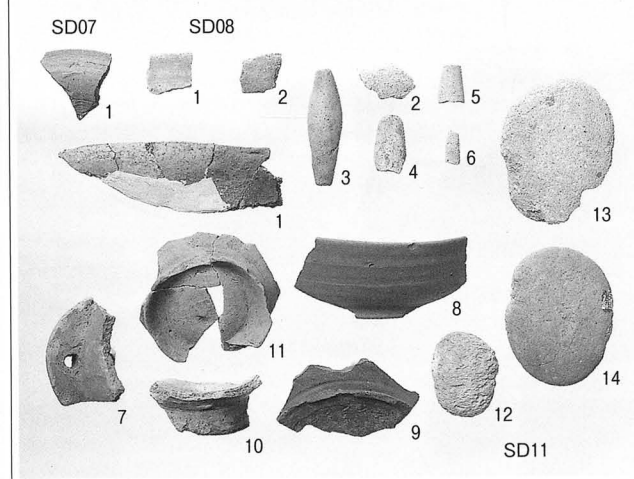
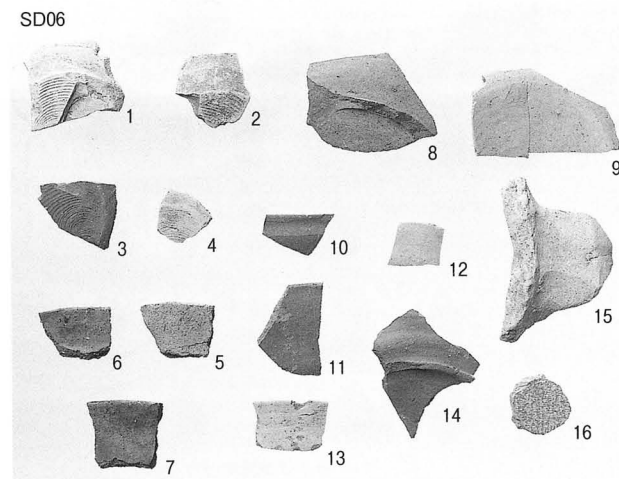
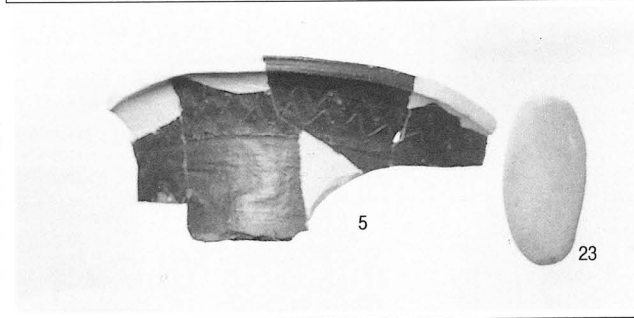
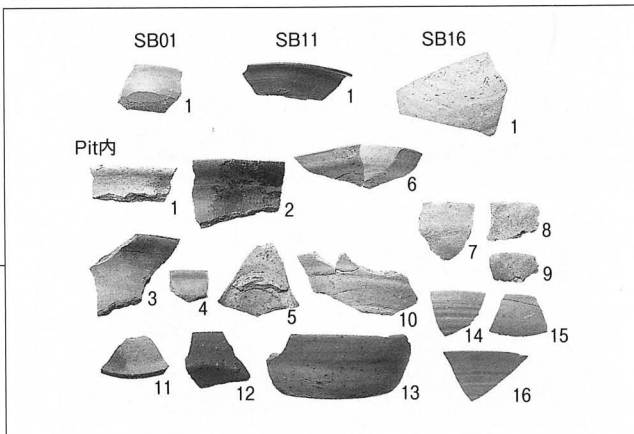
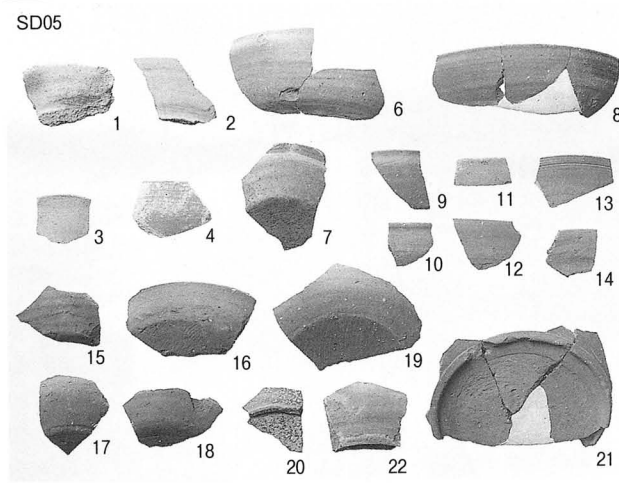
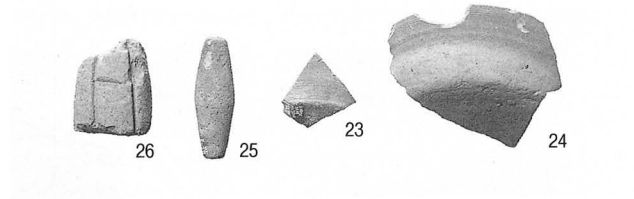
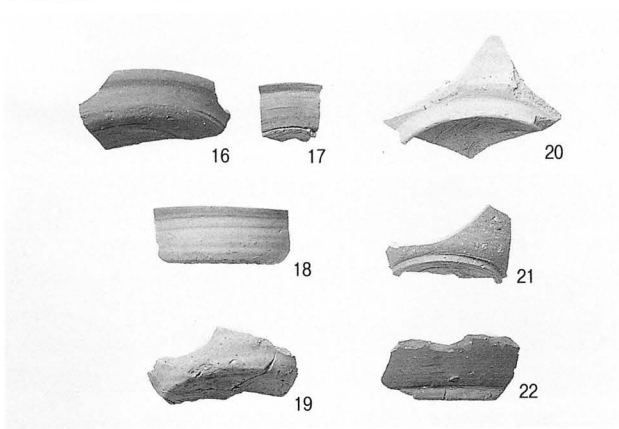
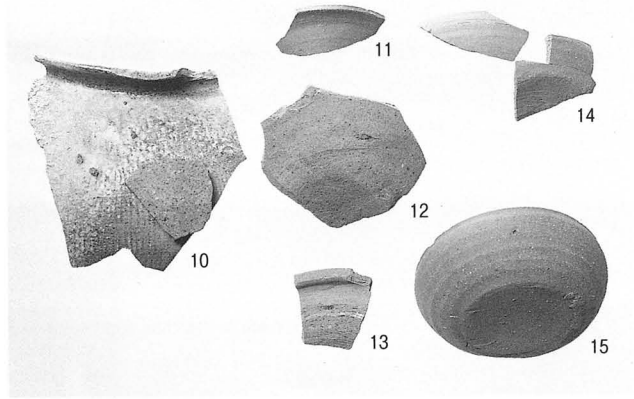
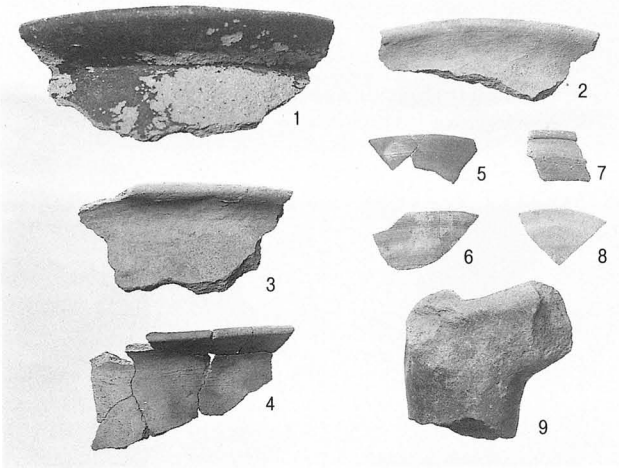




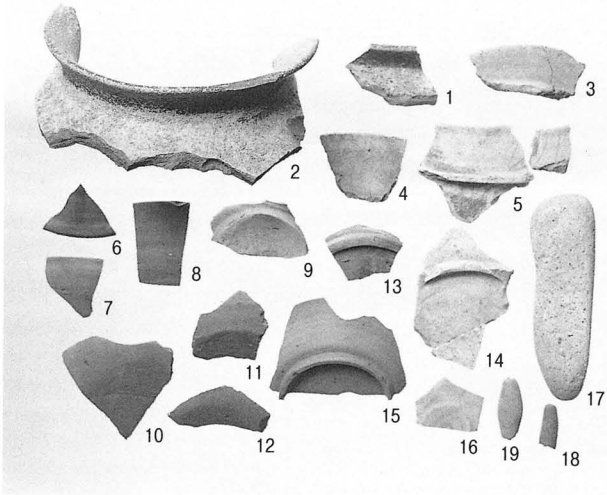
ベッド状遺構集石

図版34

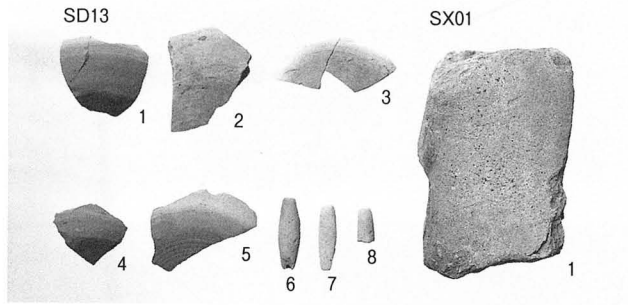
SK09



SD12



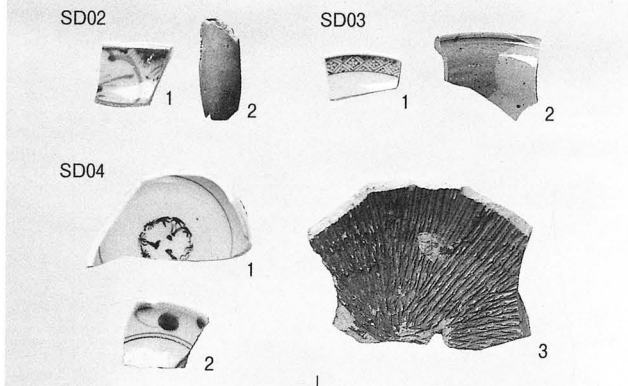
SD13



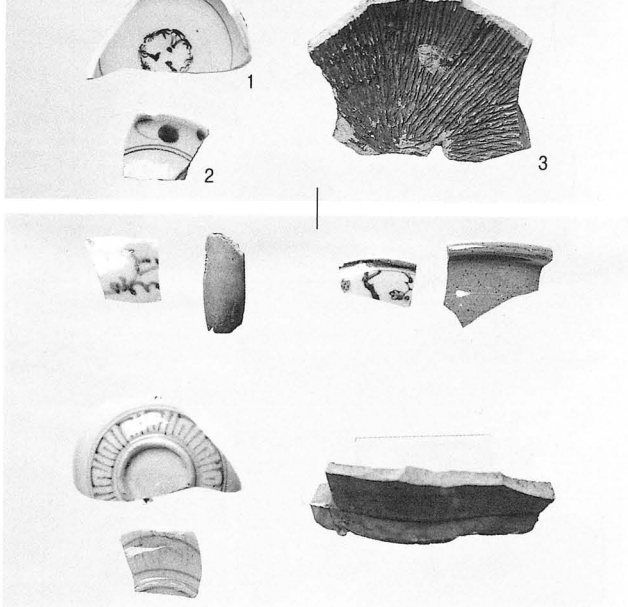
SX01



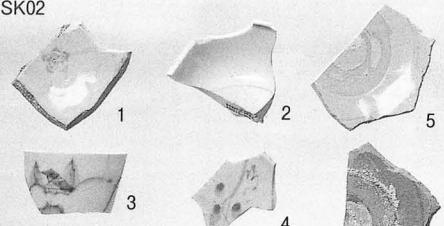
SD02



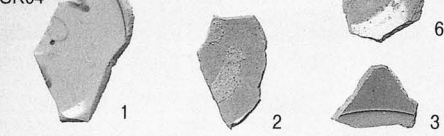
SD04



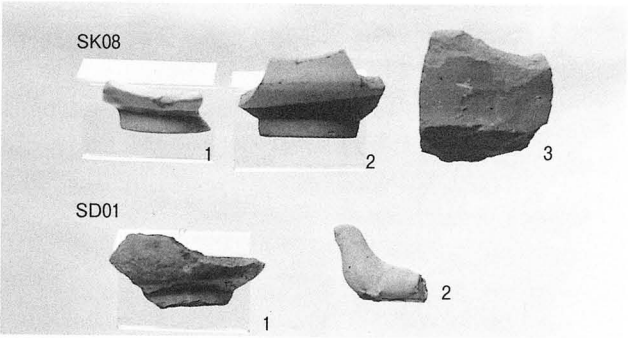
SK02



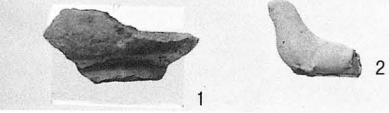
SK04



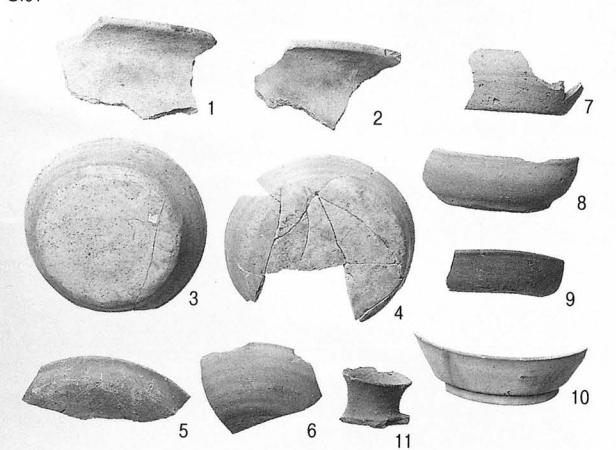
SK08



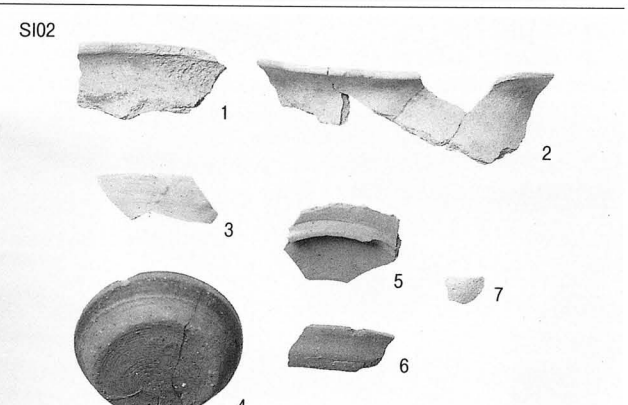
SD01

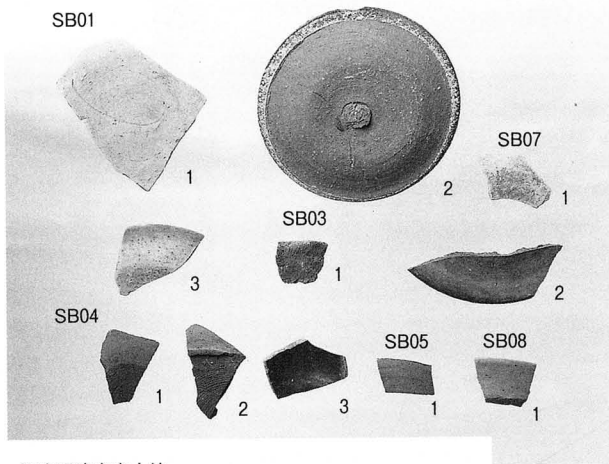


SI01

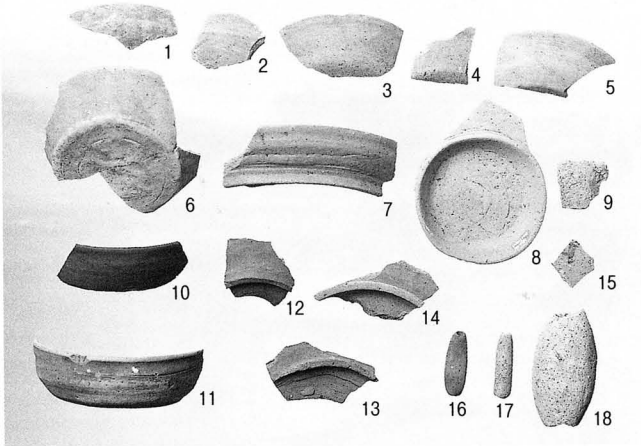


SI02

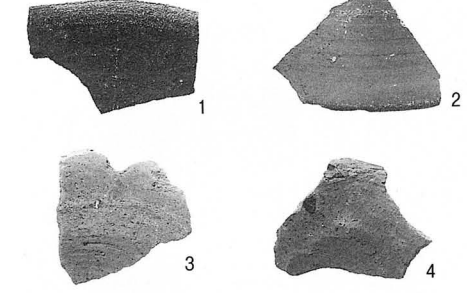




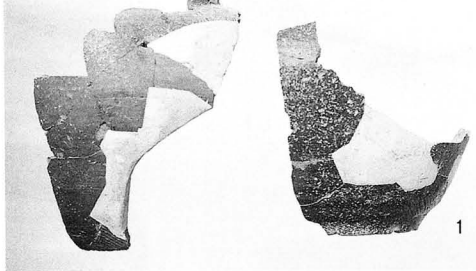
Pit内



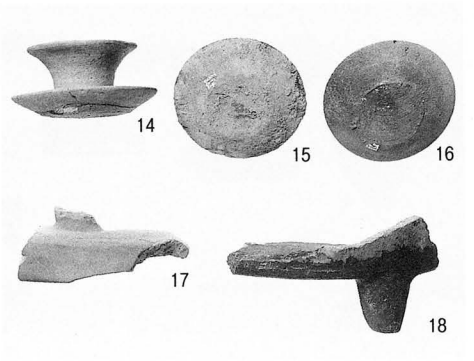
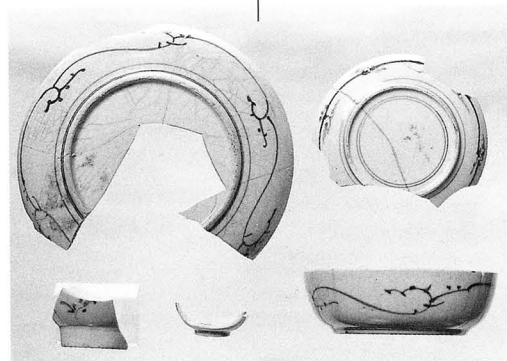
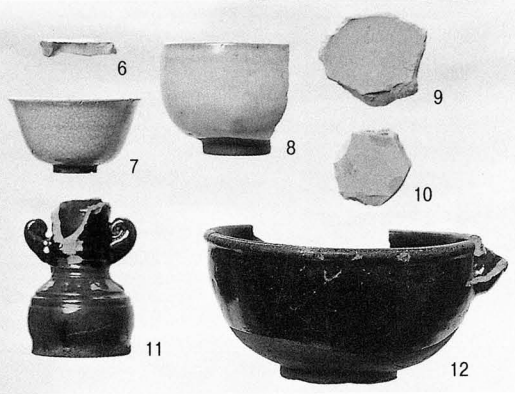
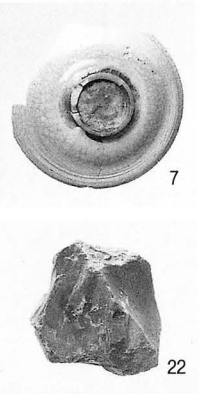
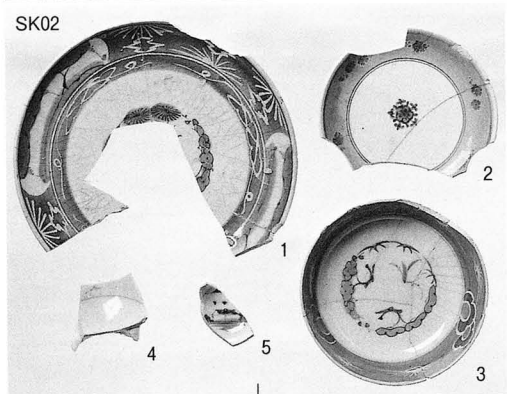
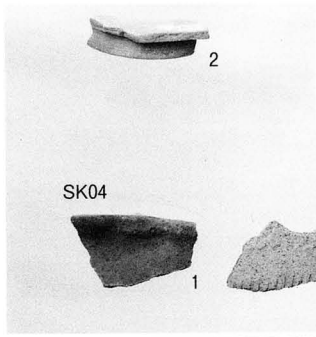
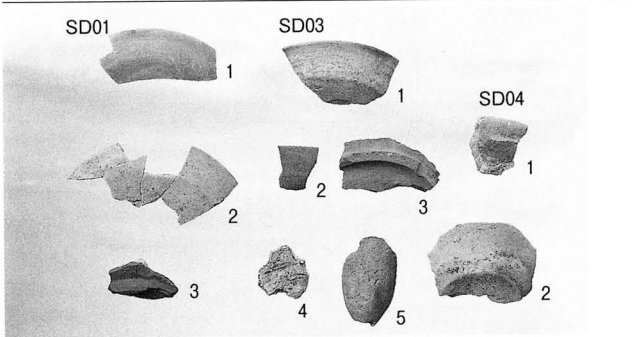
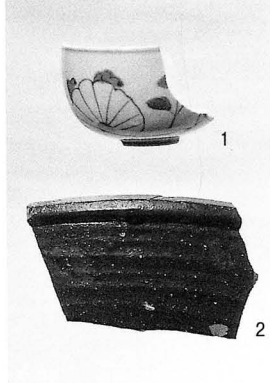
鍛冶関連廃棄土坑



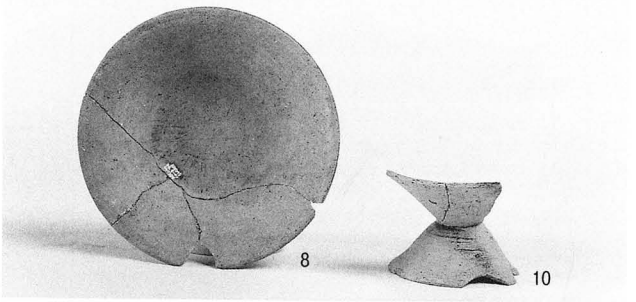
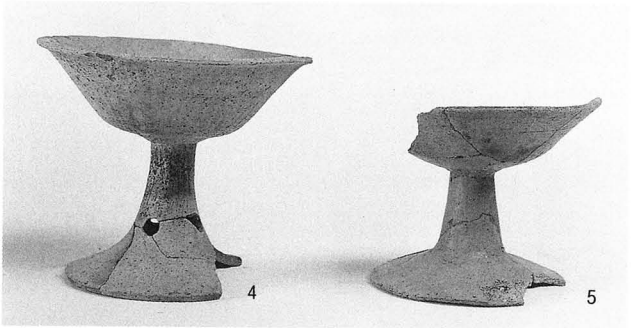
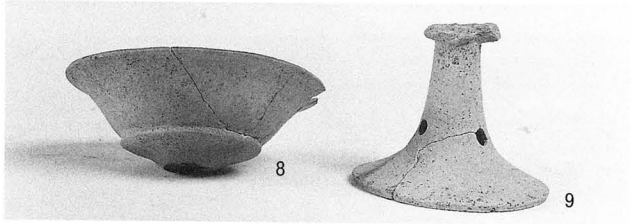
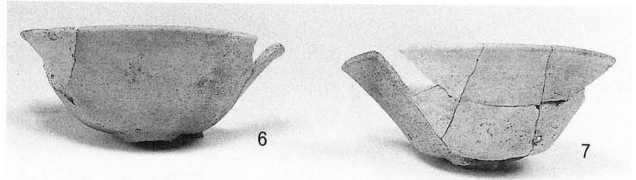
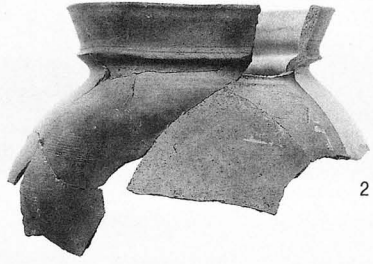
土壙墓



SK01

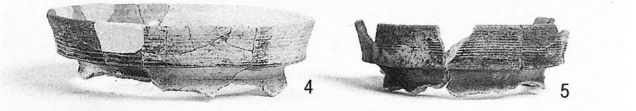
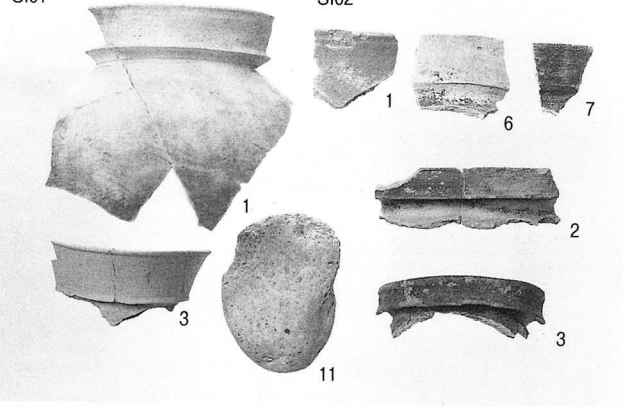


SI01

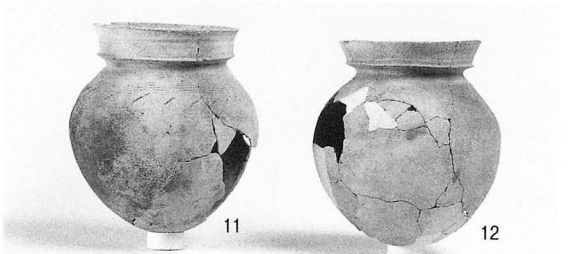
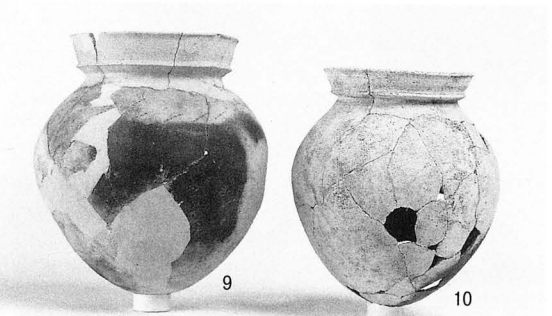
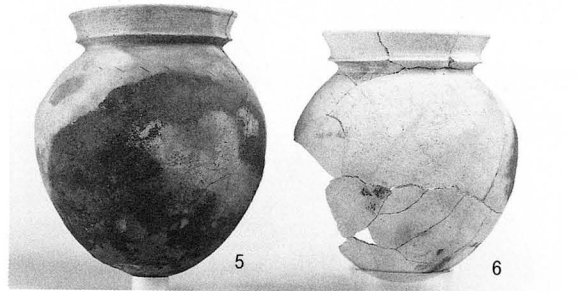
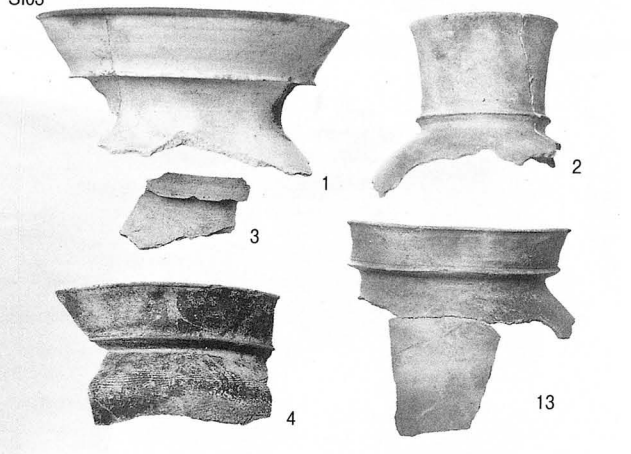


SI01

SI02



SI03

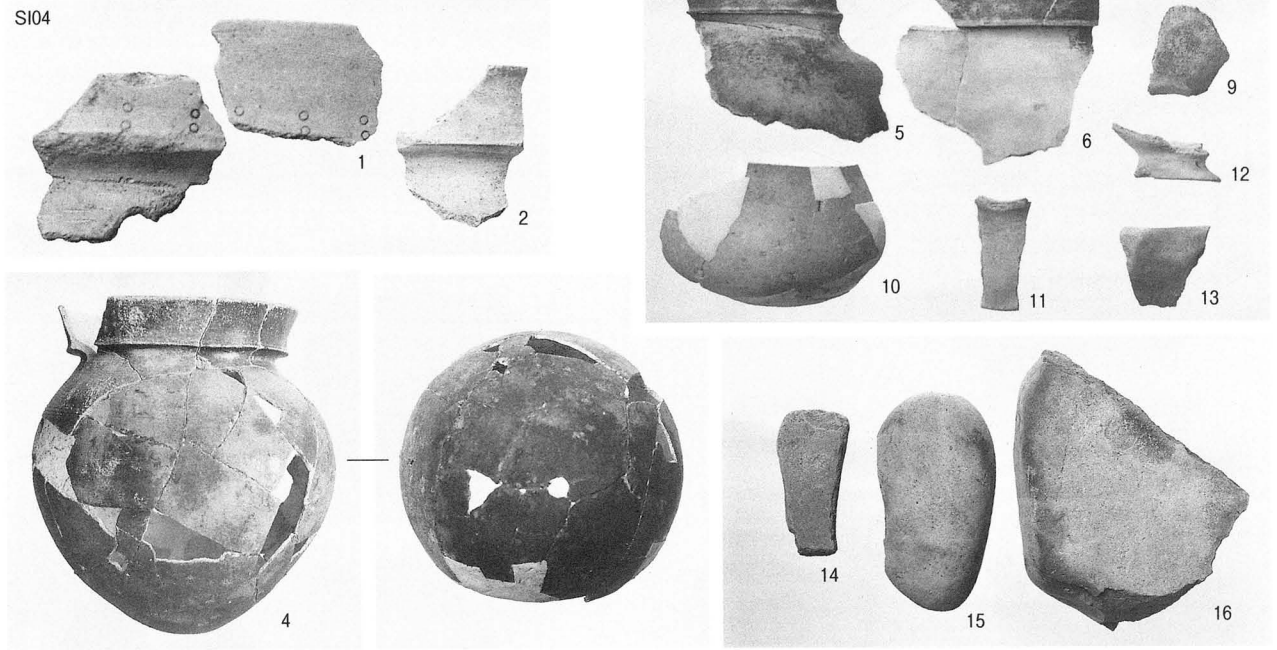


4区 遺構出土遺物

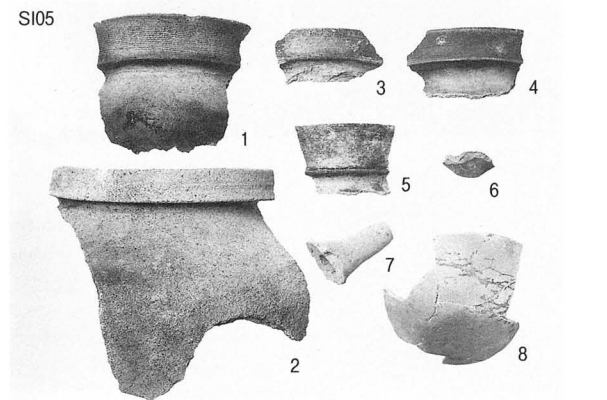
SI03



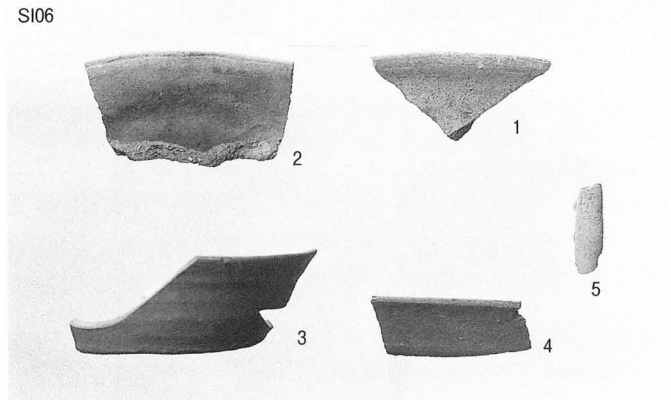
SI04

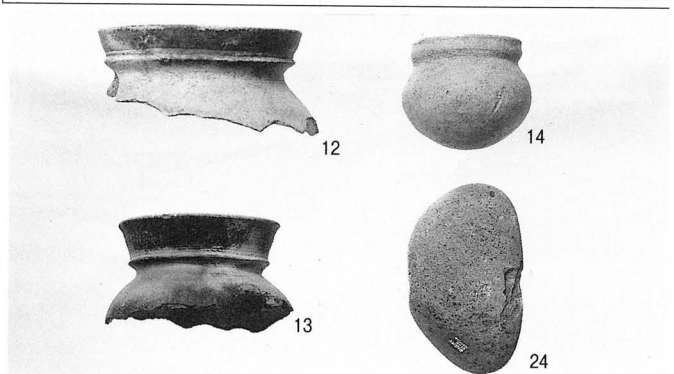
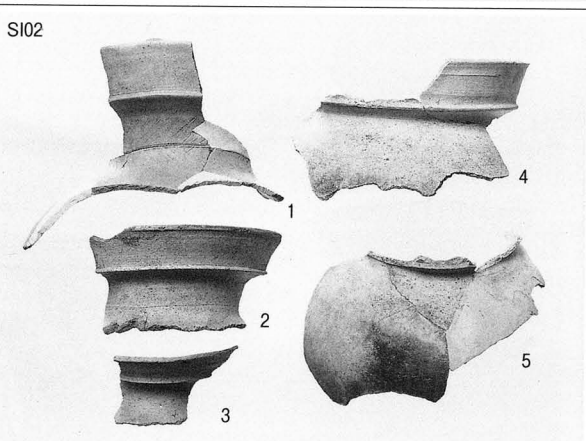
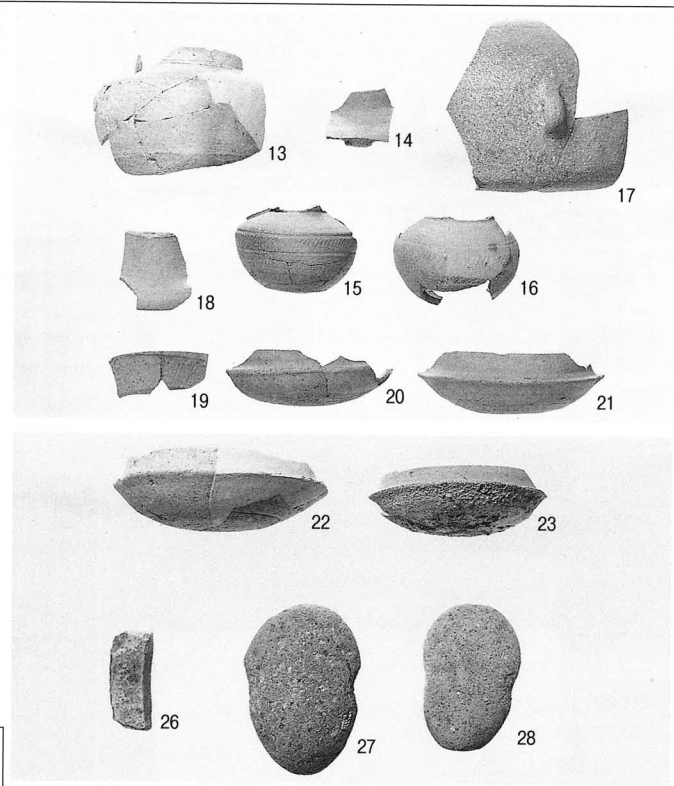
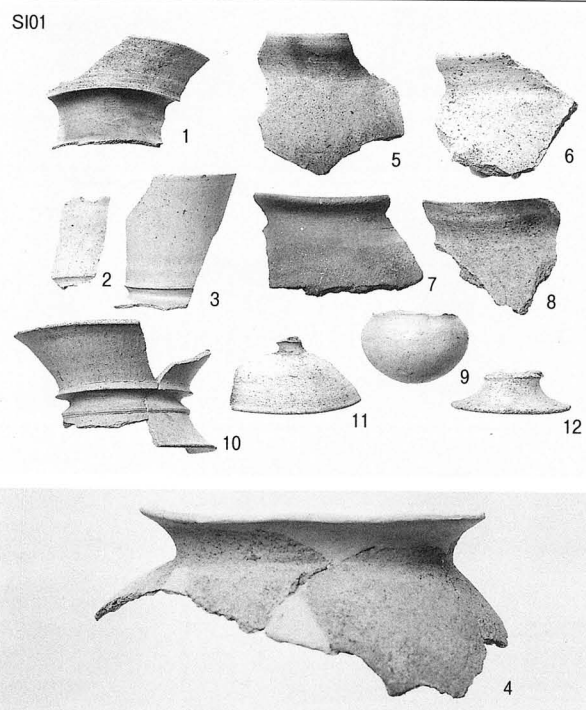
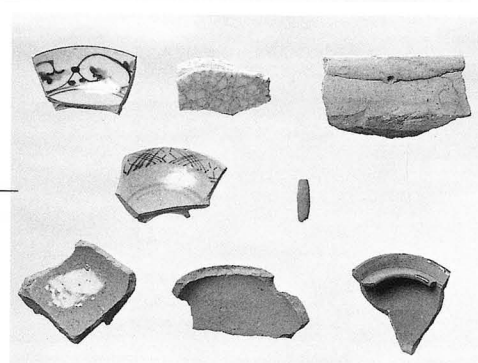
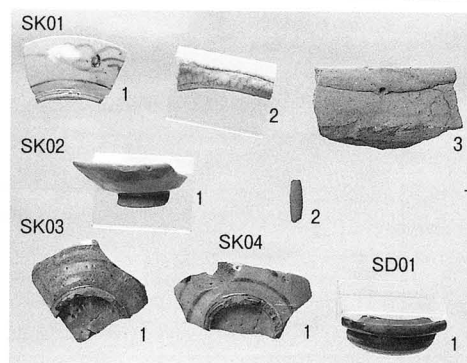
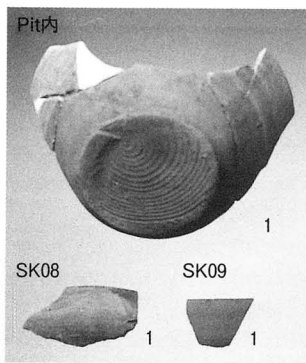
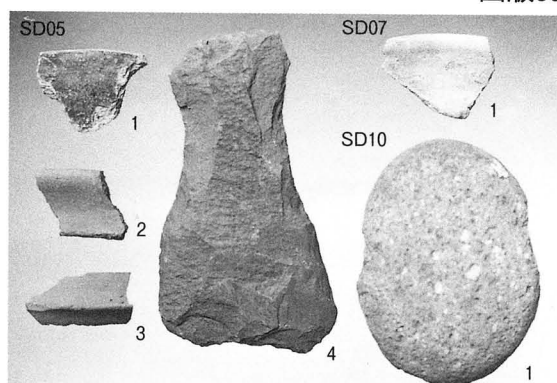
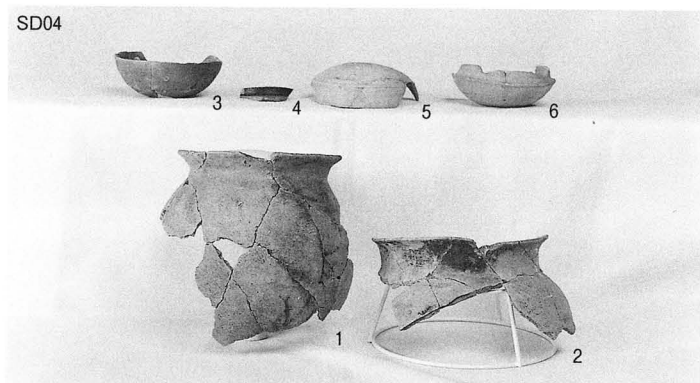


SI05



SI06

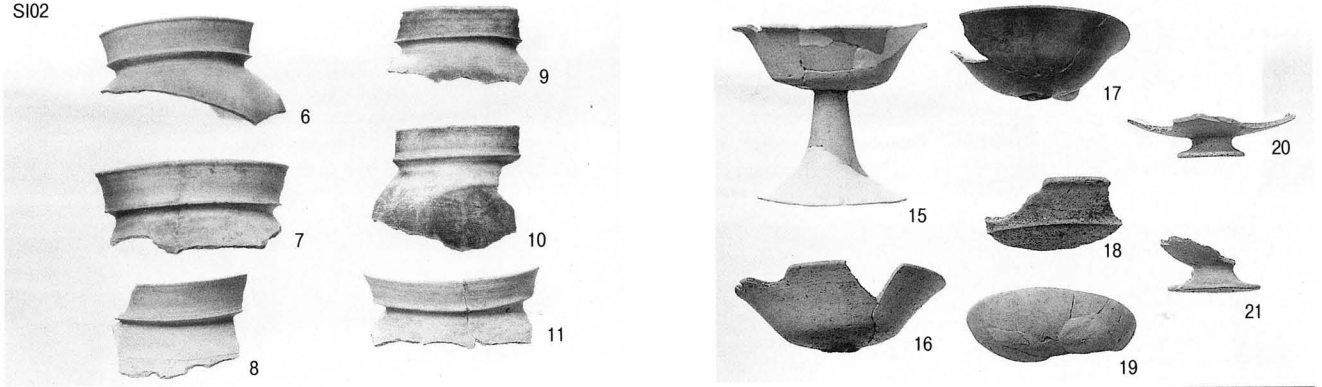




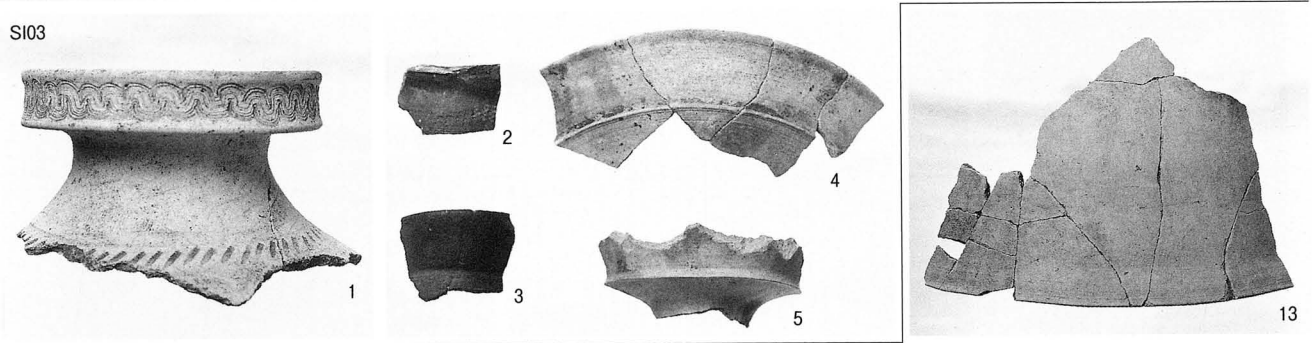
4・5区 遺構出土遺物

図版40

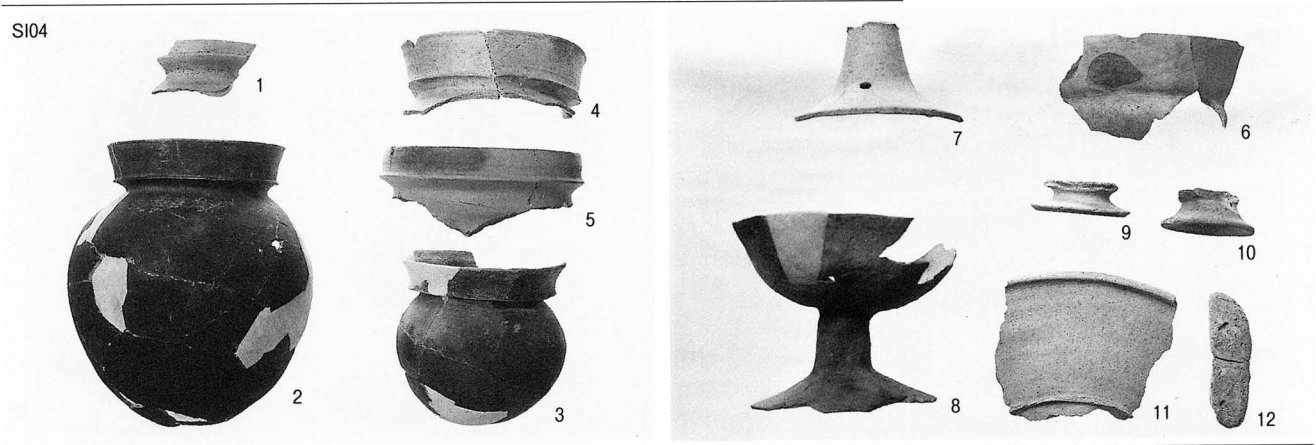
SI02



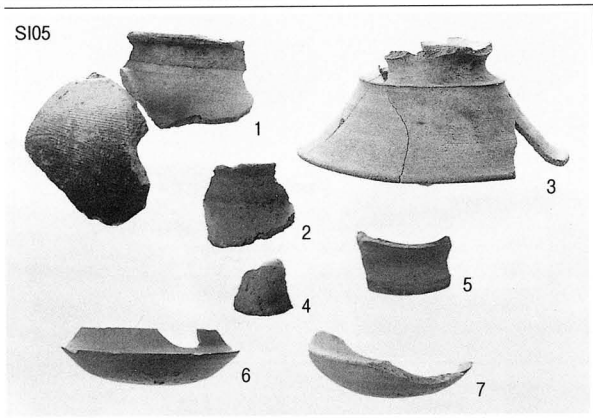
SI03



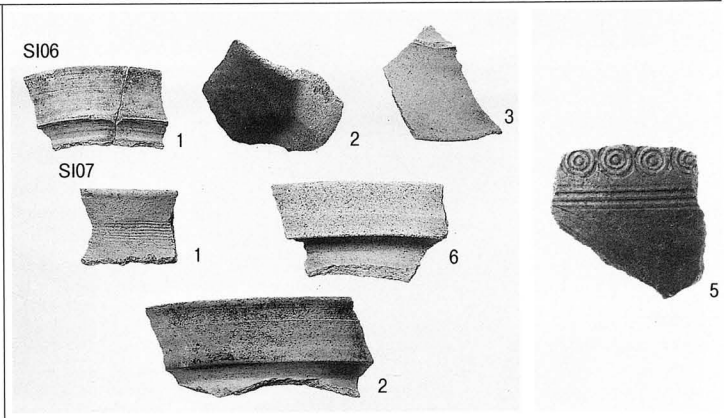
SI04



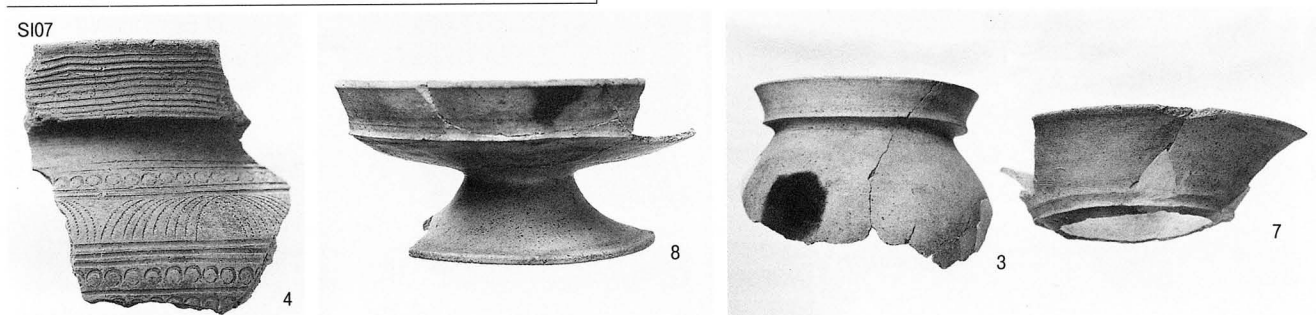
SI05



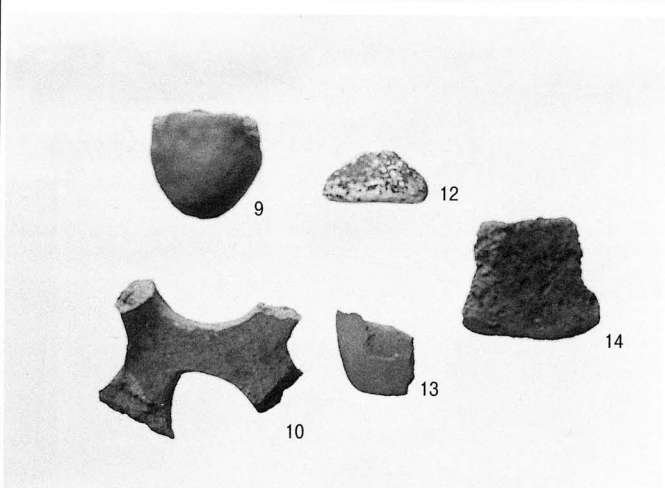
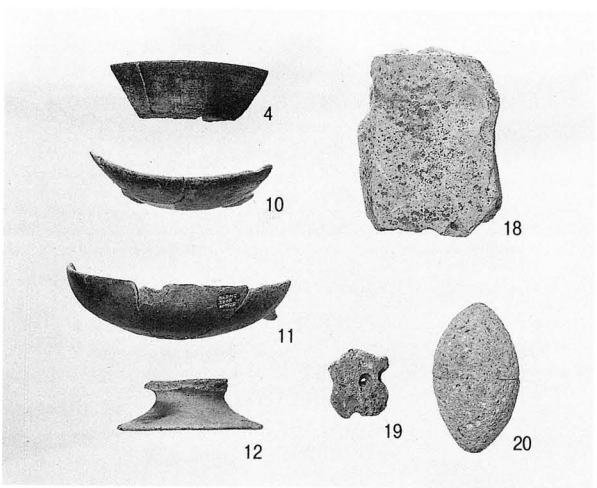
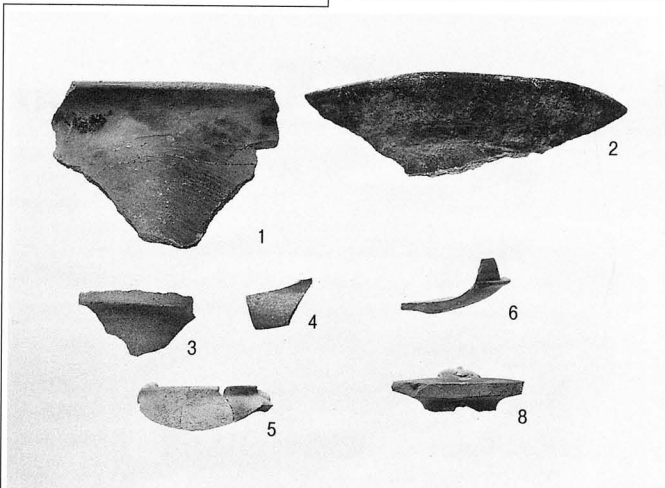
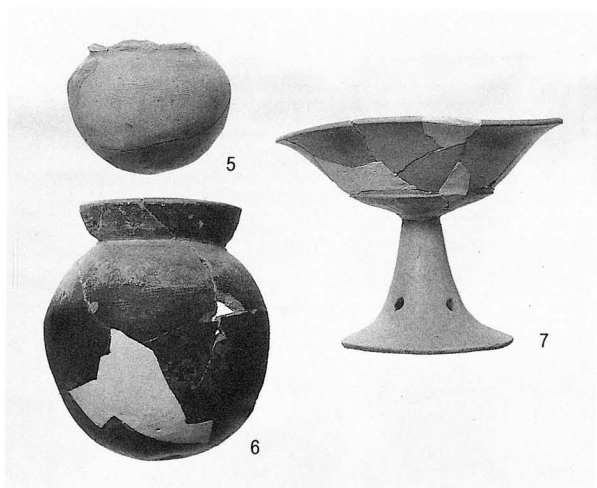
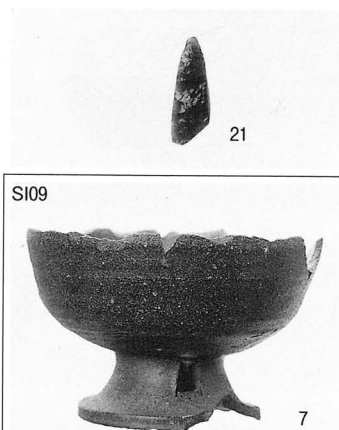
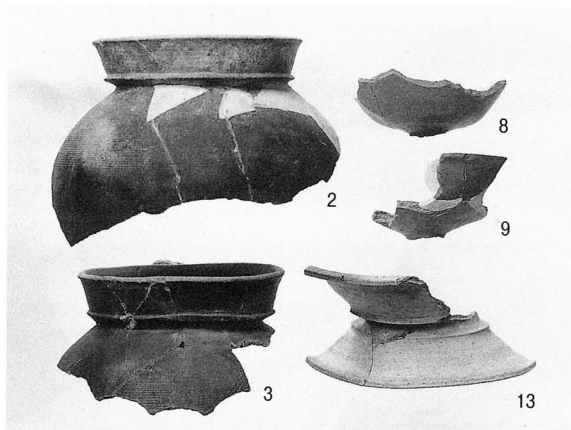
SI06



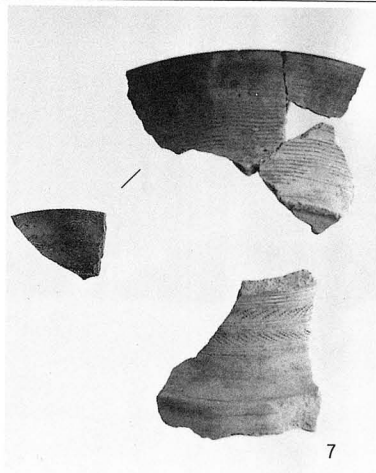
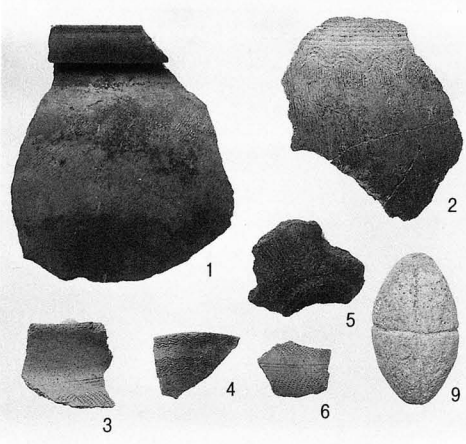
SI07



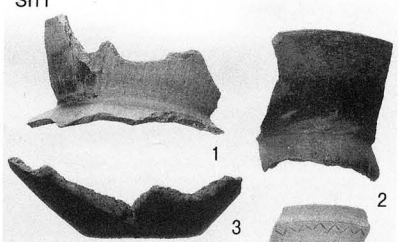
SI08



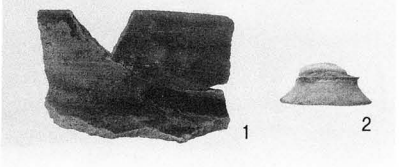
SI10



SI11

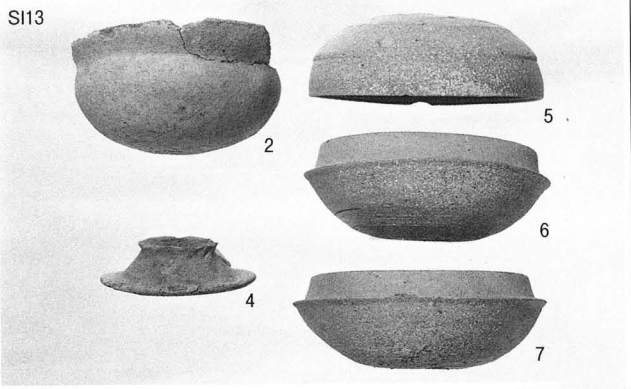


SI13

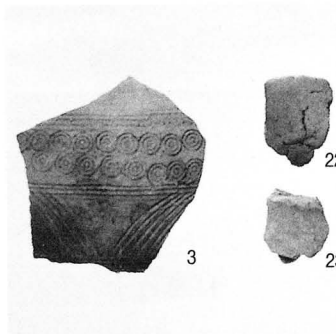
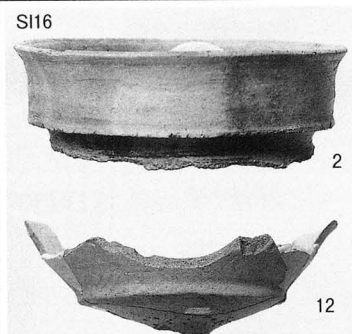
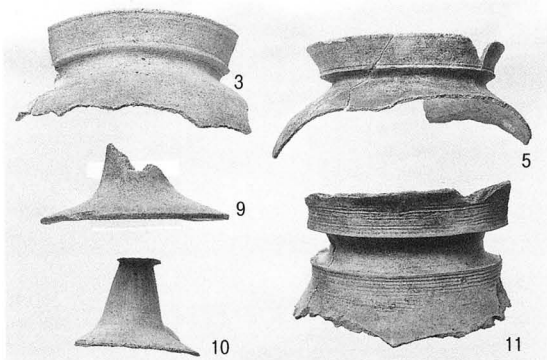
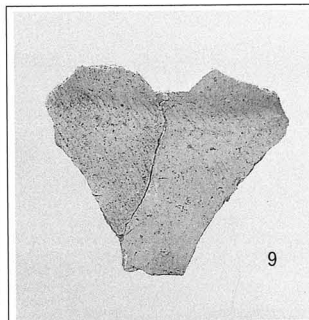
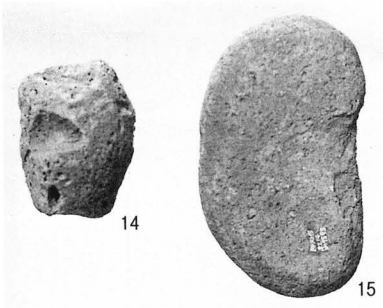
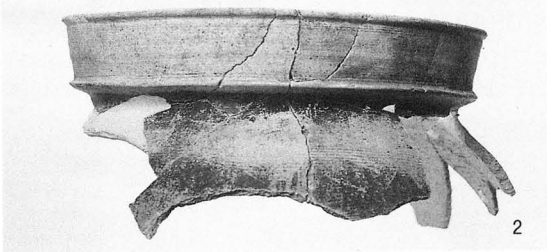
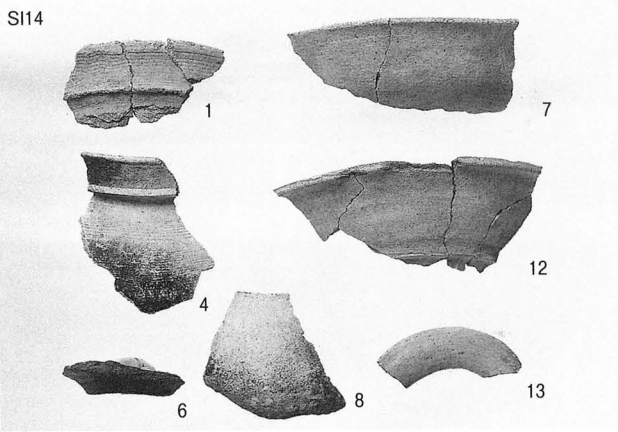


5区 遺構出土遺物

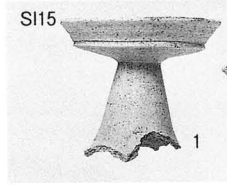
SI13



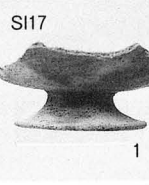
SI14



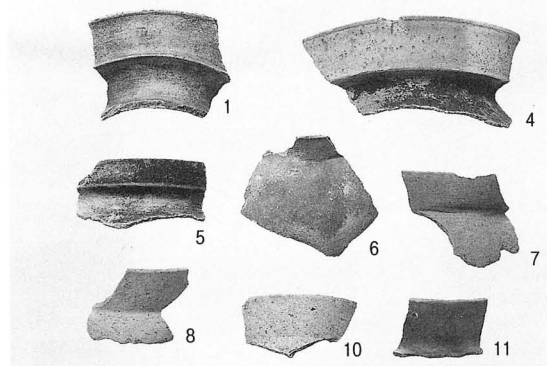
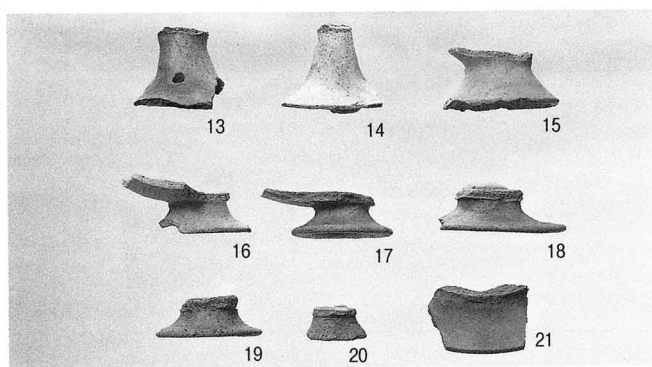
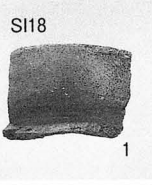
SI15



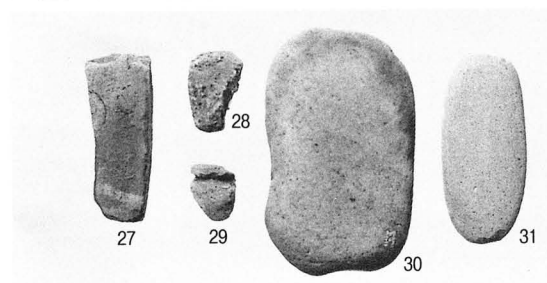
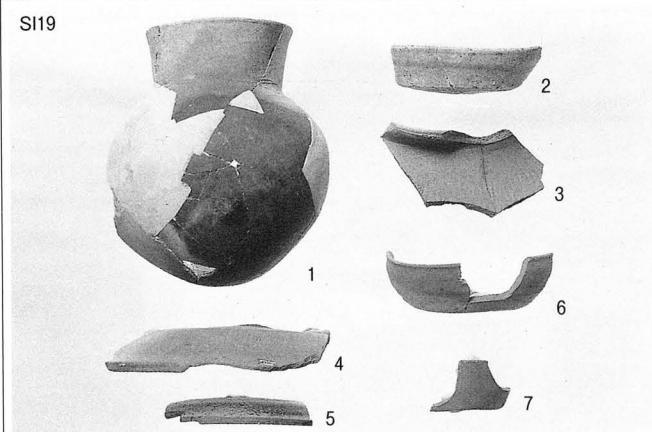
SI17



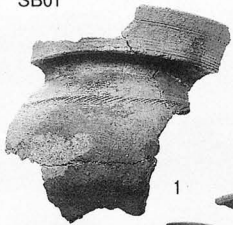
SI18



SI19



SB01



1



2



1



3



4

SB02



1



2



5

Pit内

SK05



1



2

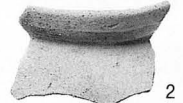


3

SK07



1



2

SK08



1



2



1



1

SK06



1



3

SK09



1

SK11



1

SK18



1



2



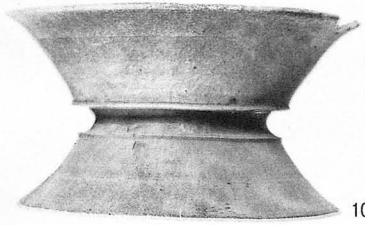
4



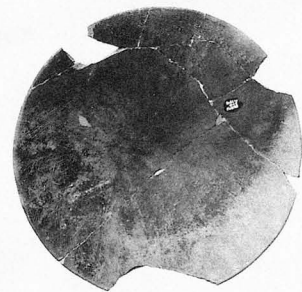
5



8



10



竈跡



1



2



3



6



7



9

SD03



1



2

SD05



1

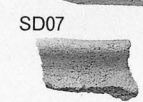
SD06



1



2



1



2

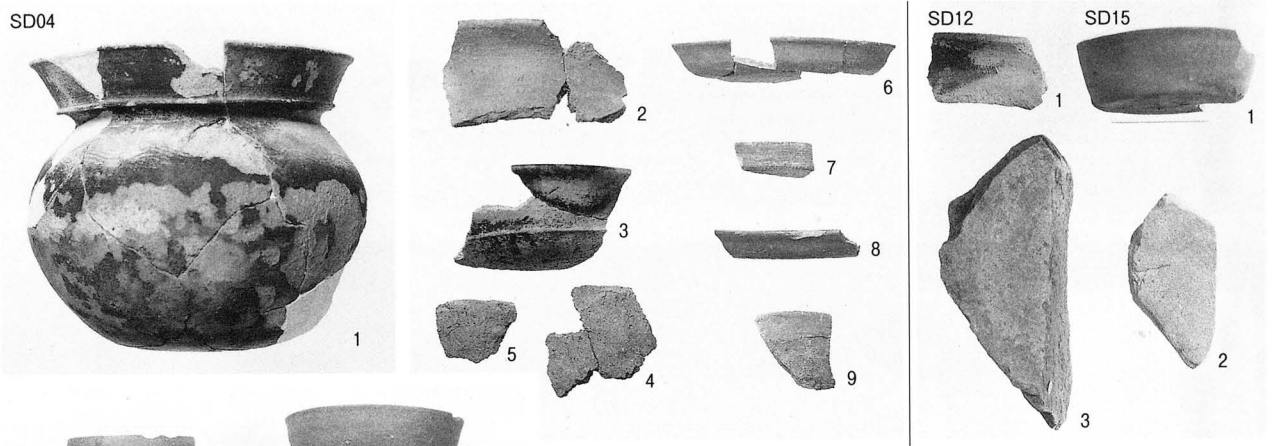


1



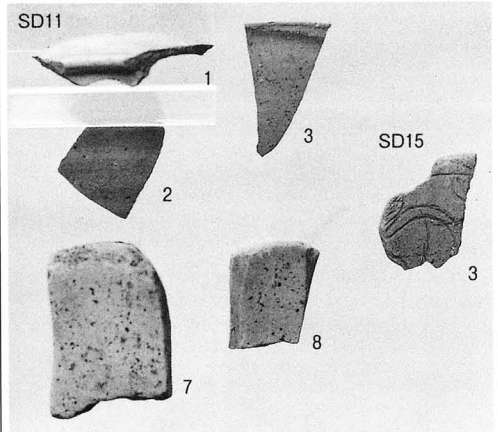
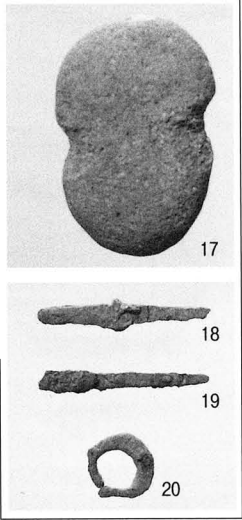
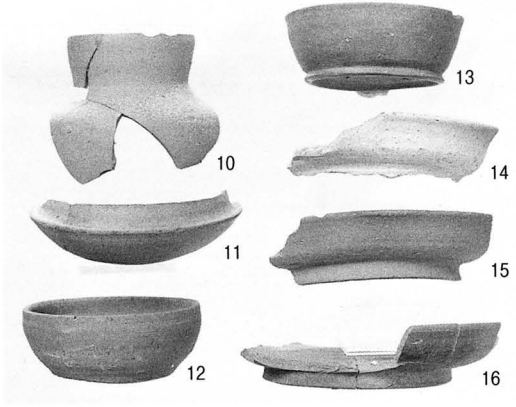
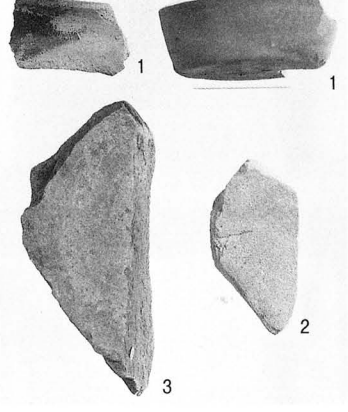
1

SD04

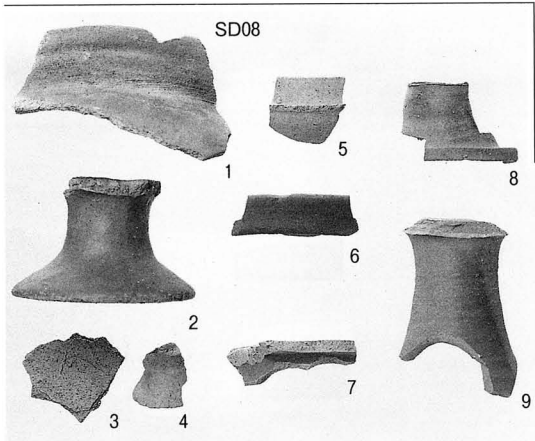


SD12

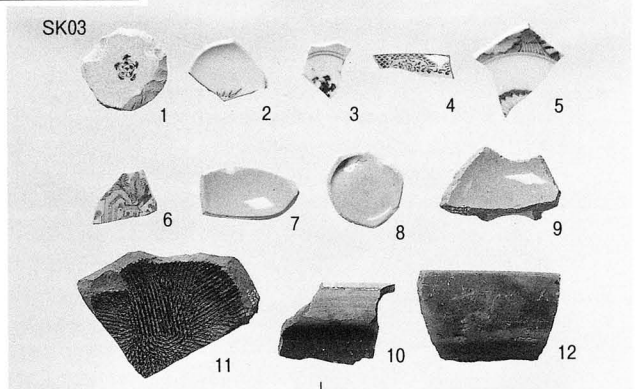
SD15



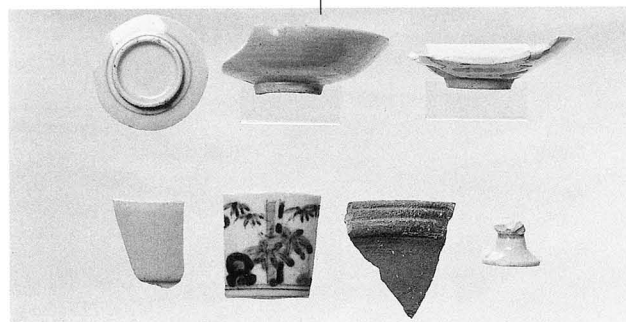
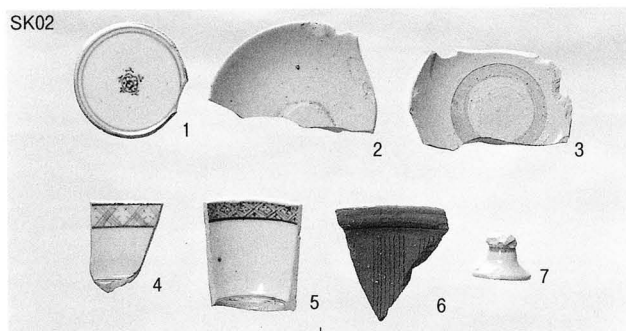
SD08



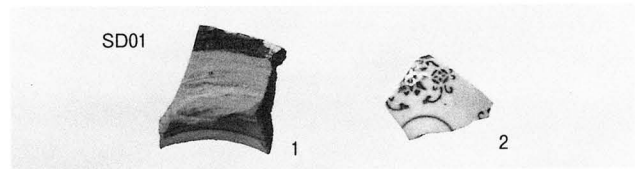
SK03

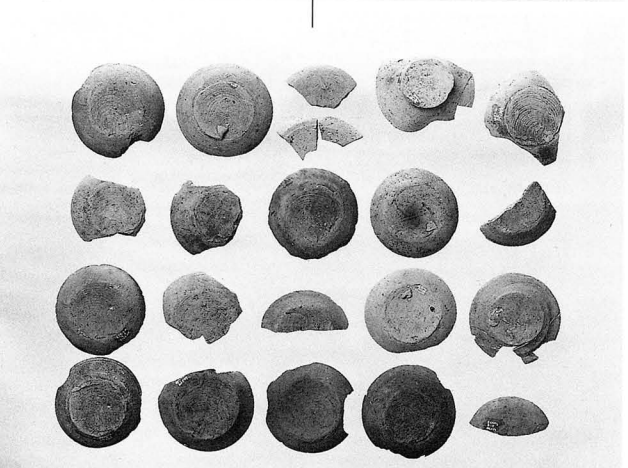
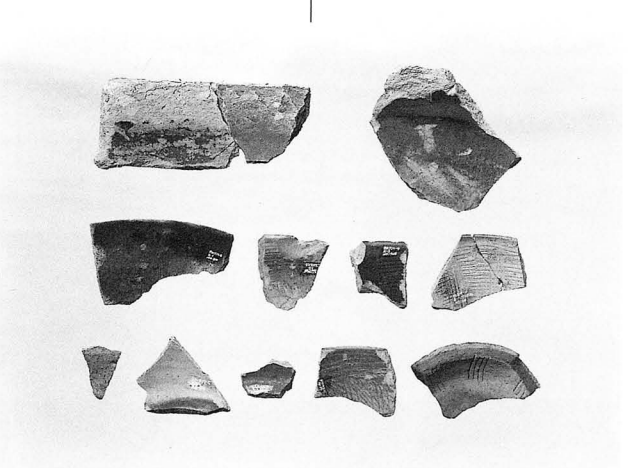
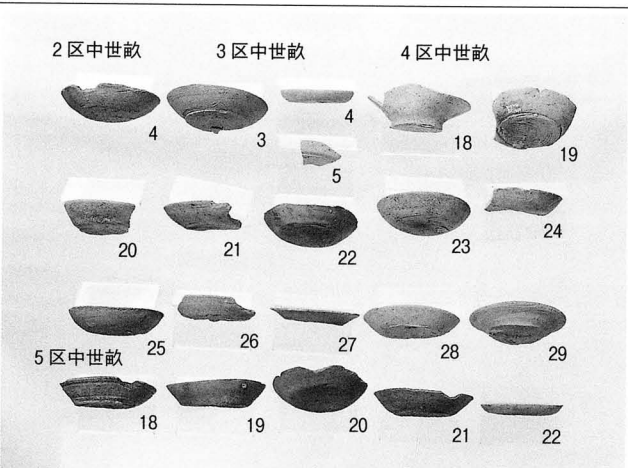
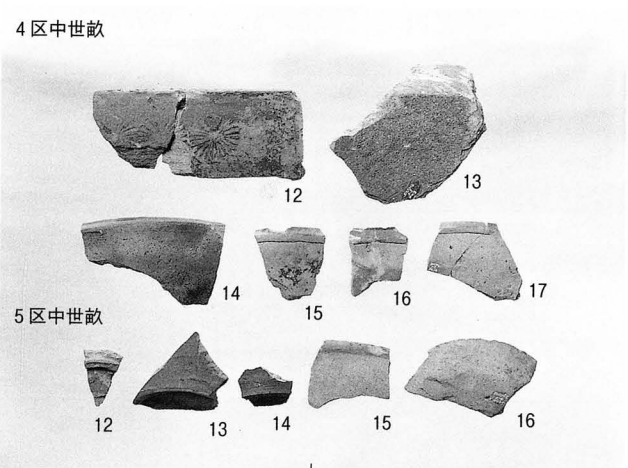
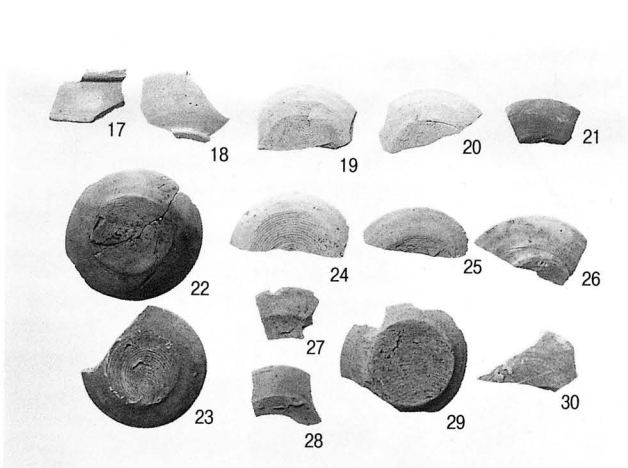
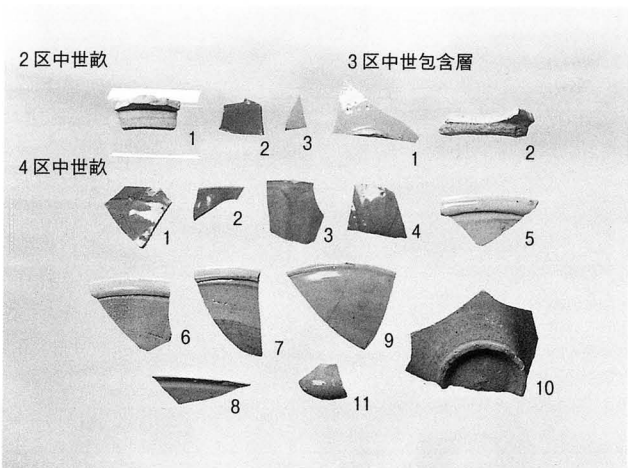
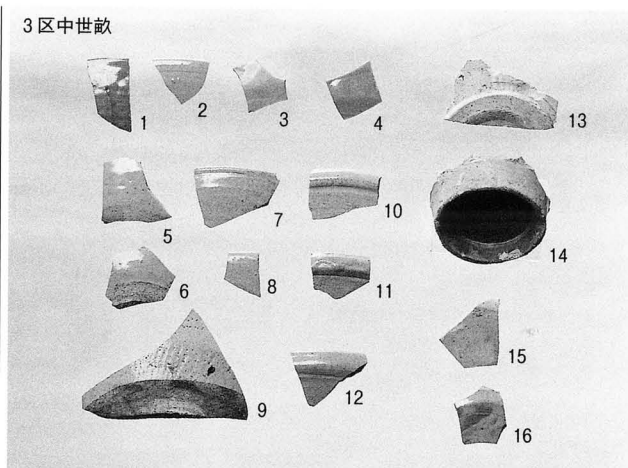
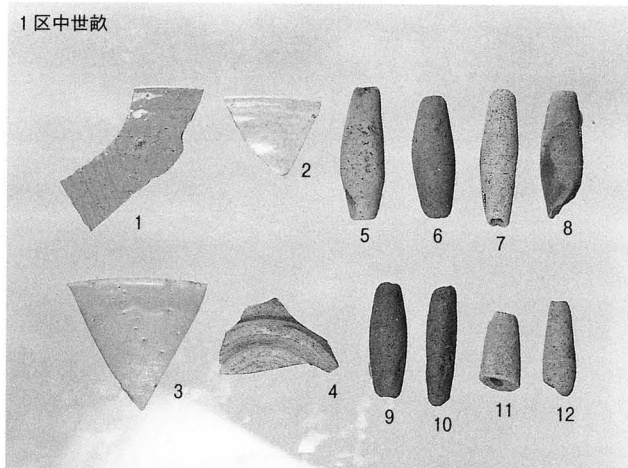


SK02



SD01

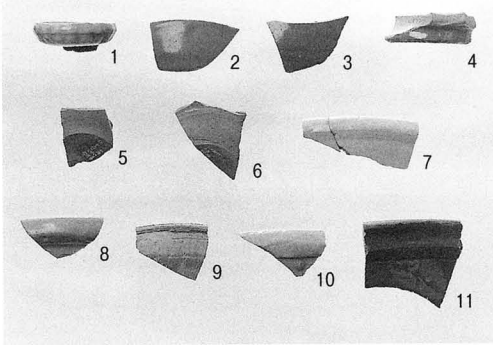




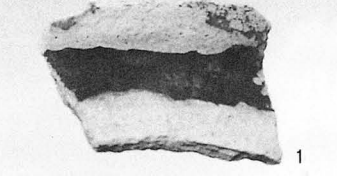
中世畝・中世包含層出土遺物

図版46

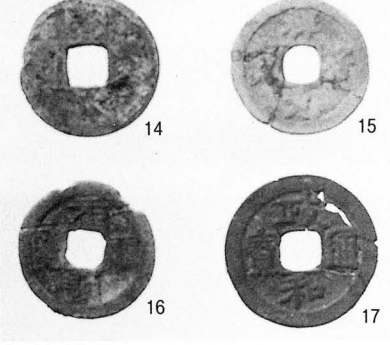
5区中世畝



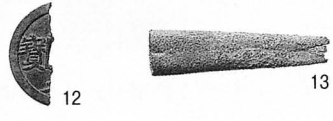
4区中世包含層



1区中世畝



1区近世包含層



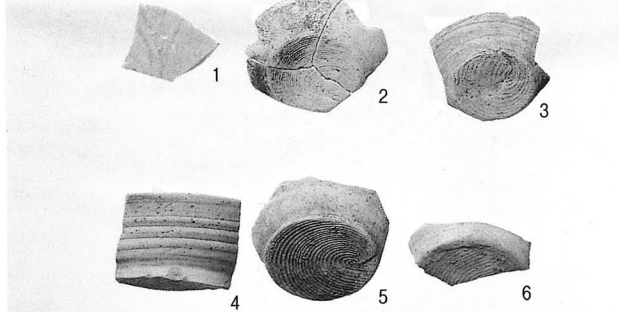
5区中世畝



1区中世包含層



1区中世包含層



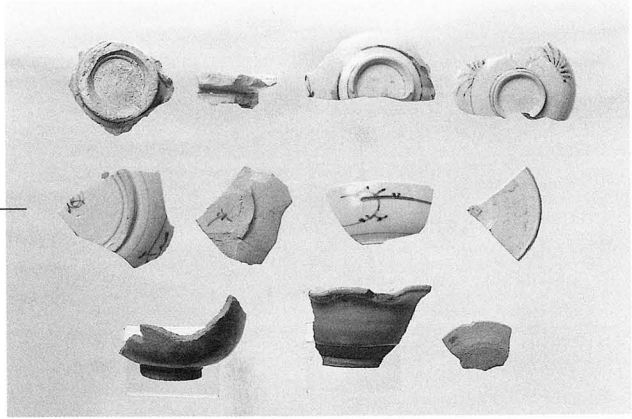
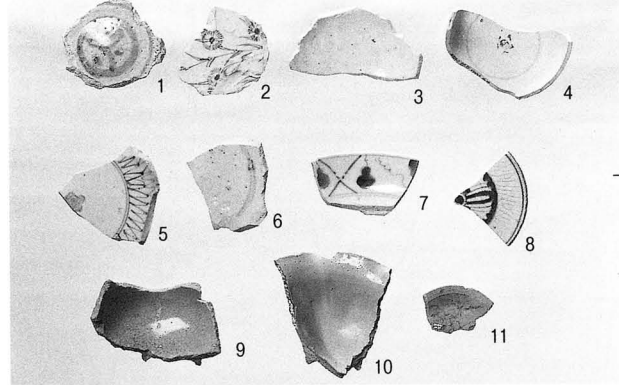
3区中世包含層



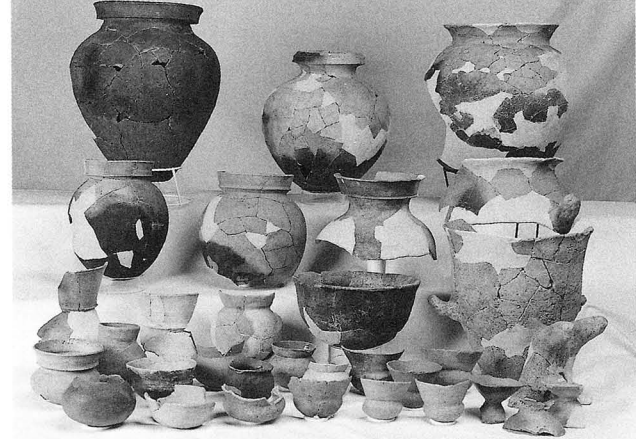
4区中世畝



1区近世包含層

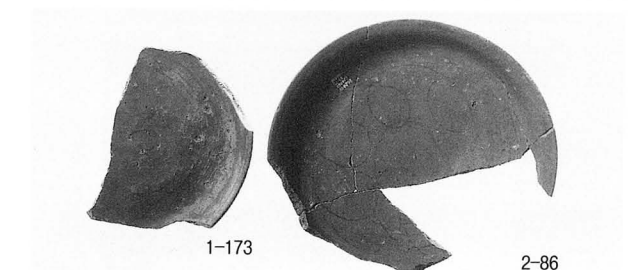
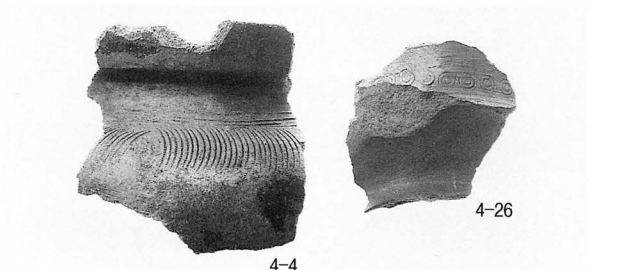
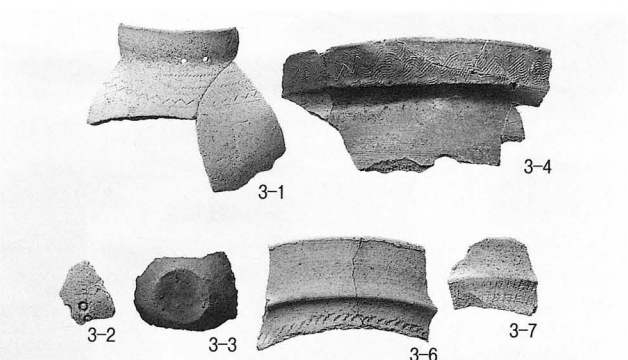
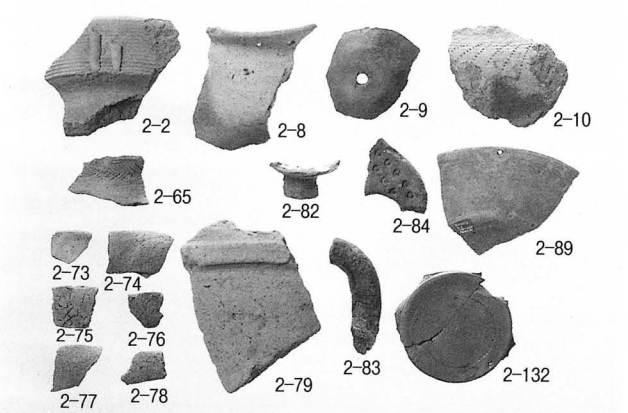
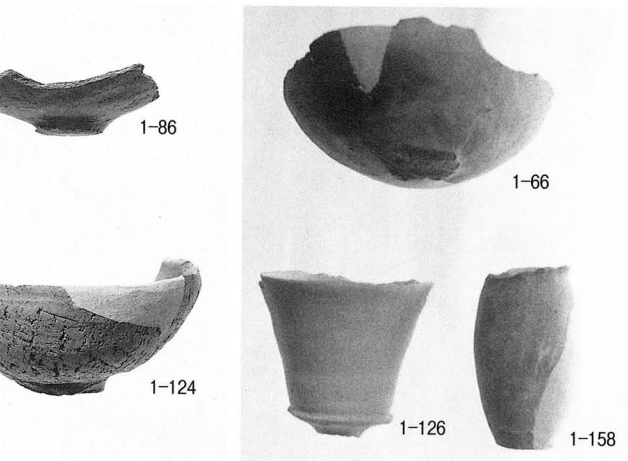
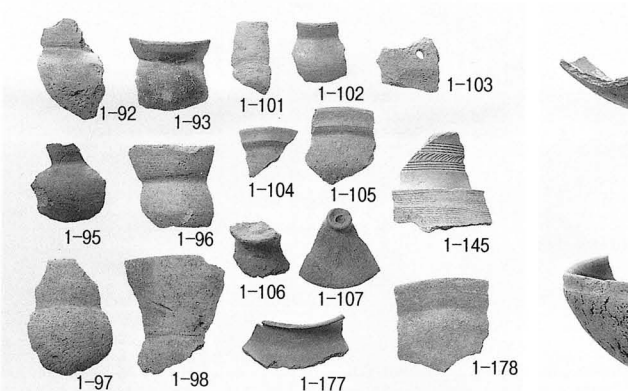
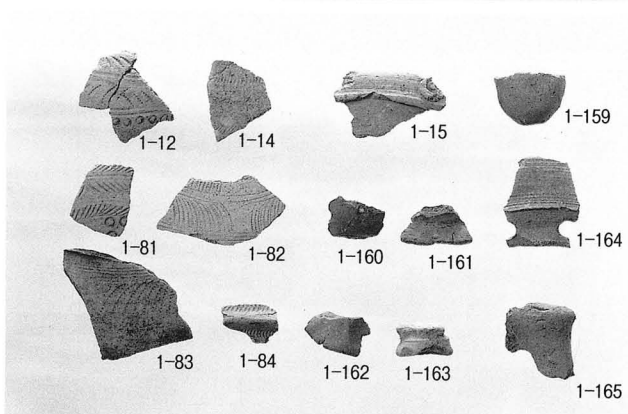


中世包含層

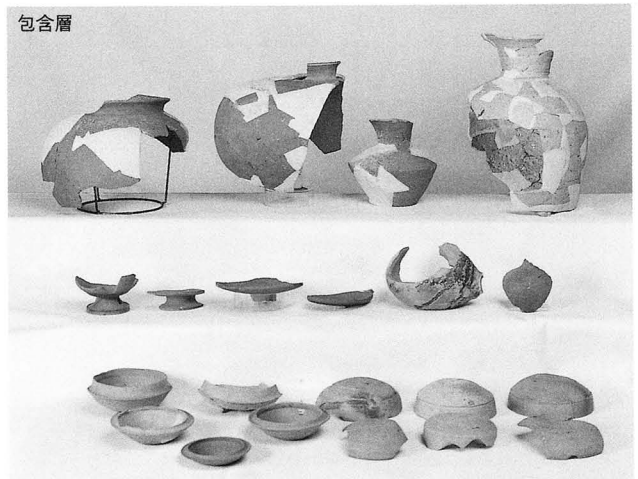
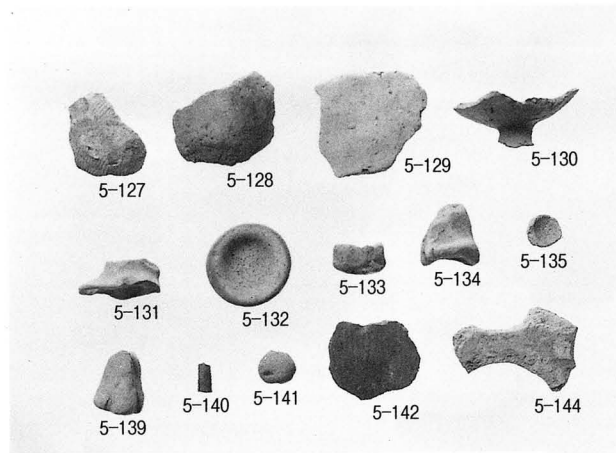
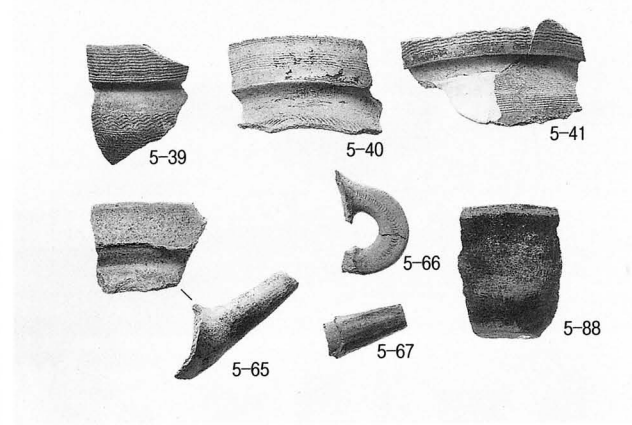
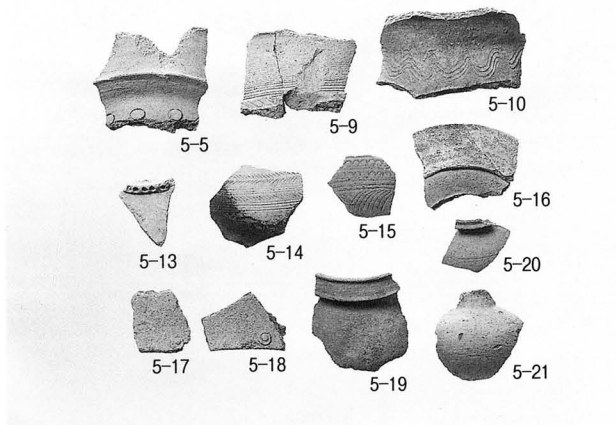
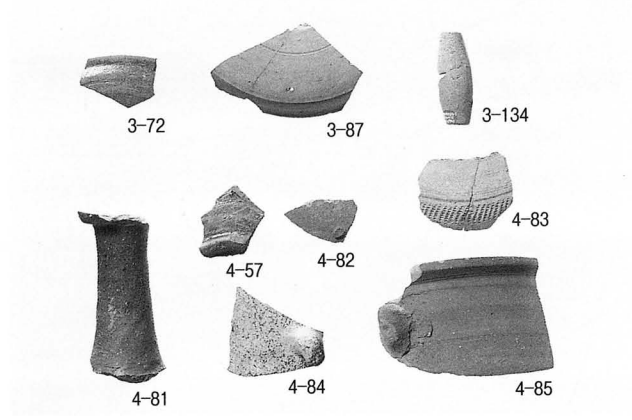
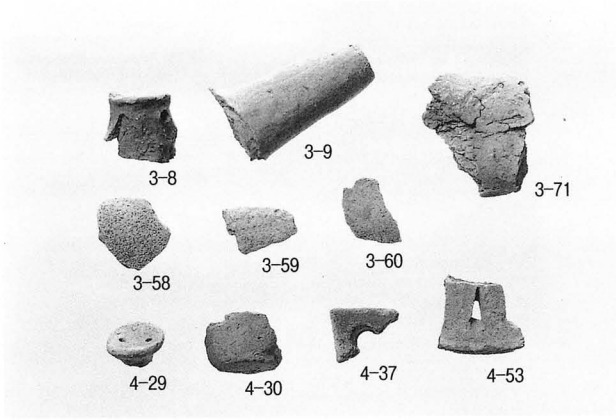


中世包含層





中世包含層・包含層出土遺物（※先頭の数字は区、「表」は表採遺物）

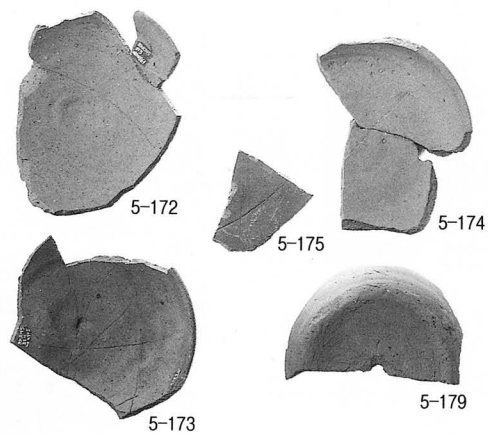
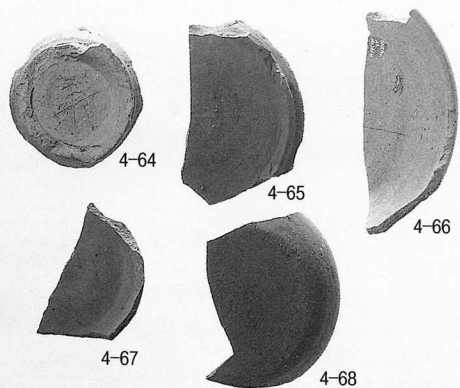
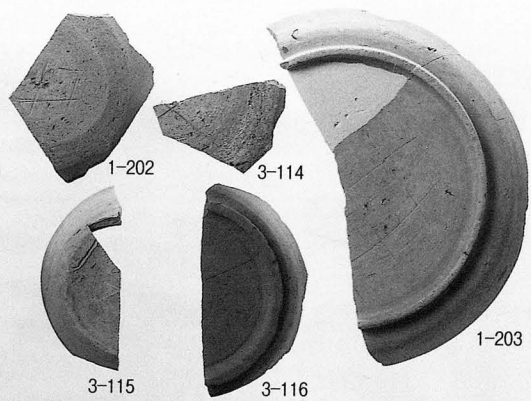
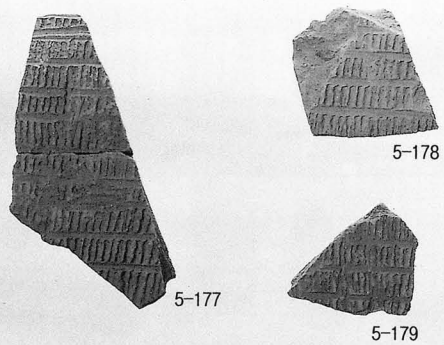
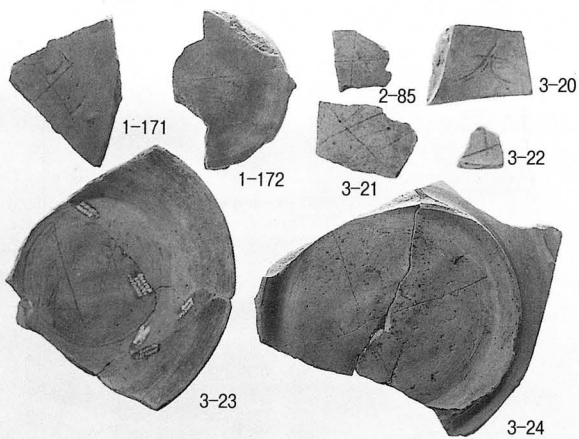
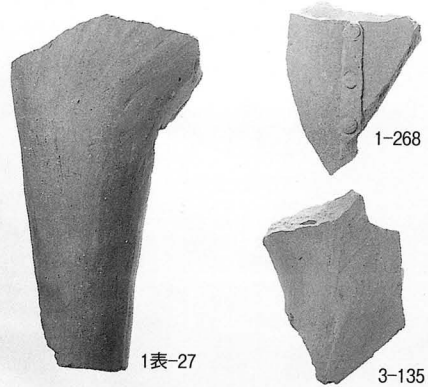


包含層出土遺物

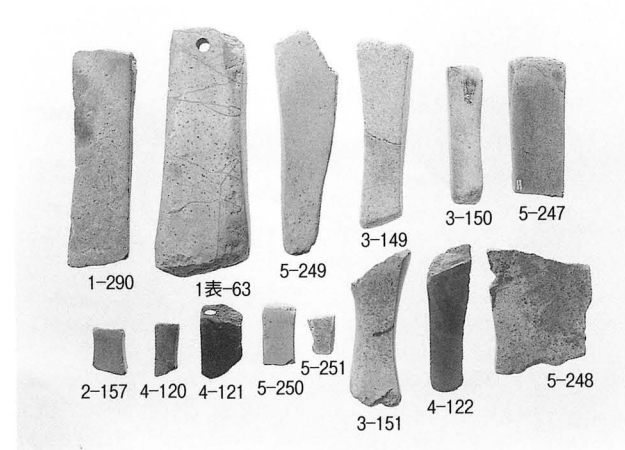
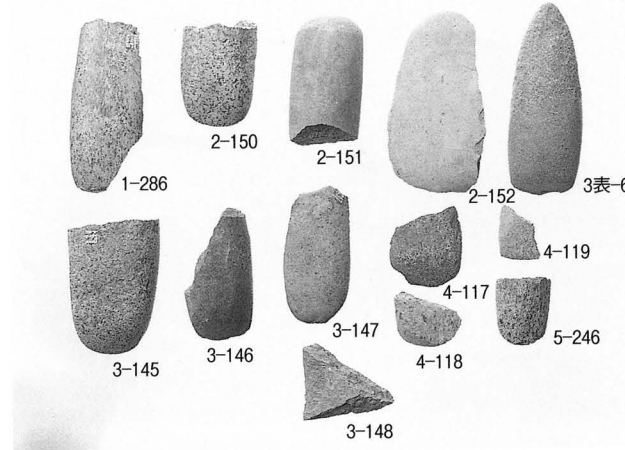
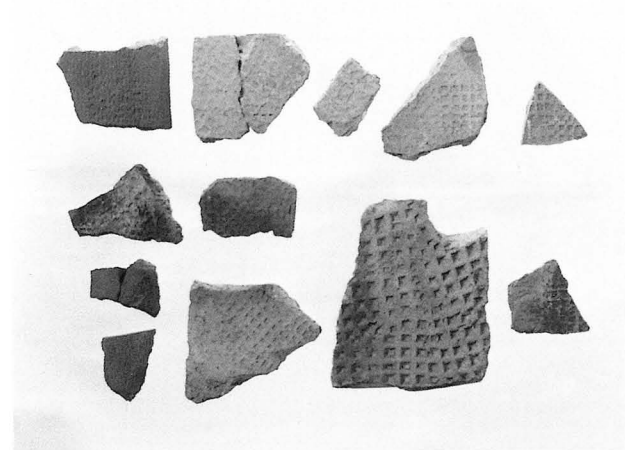
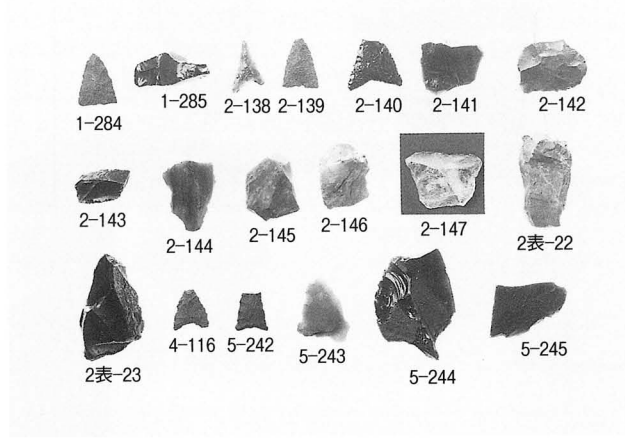
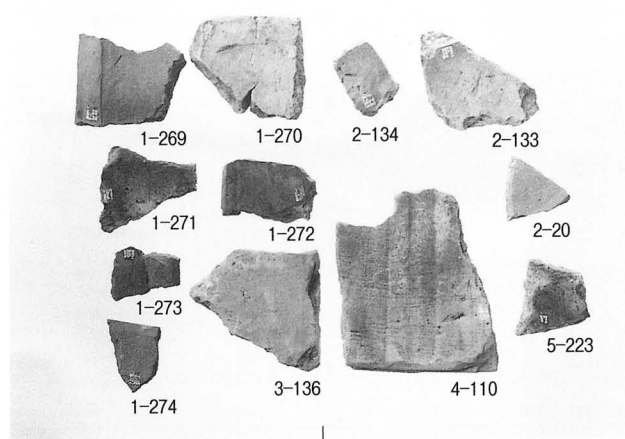
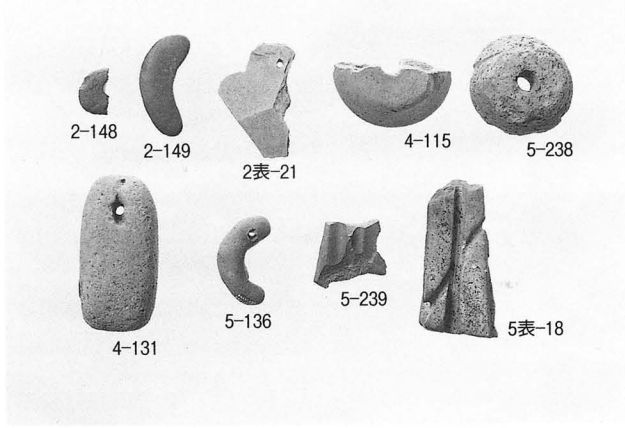
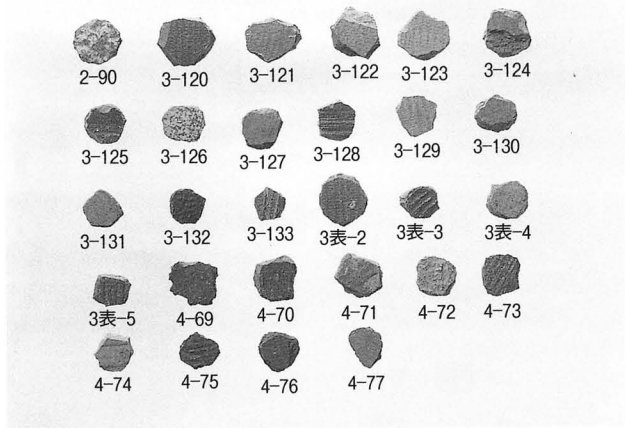
包含層



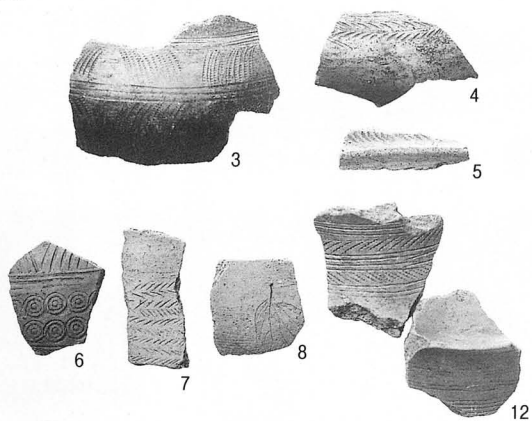
包含層



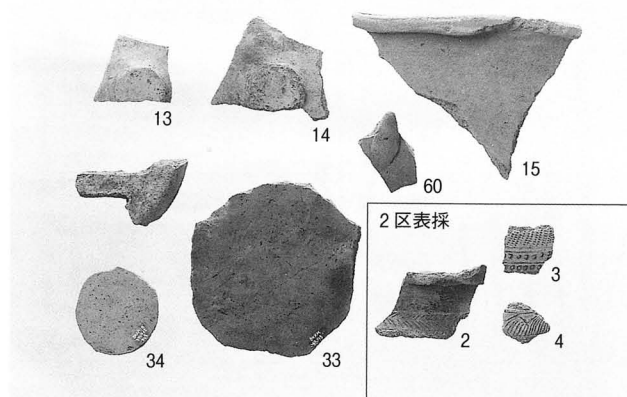
包含層出土遺物



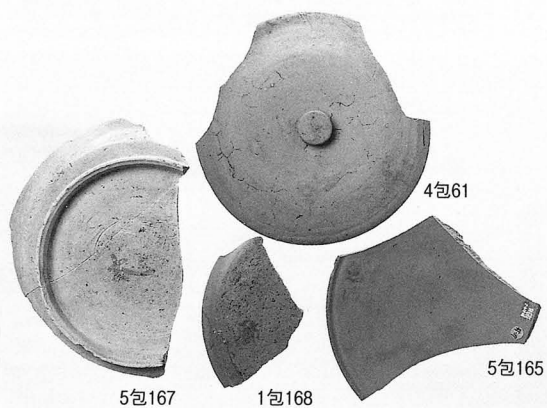
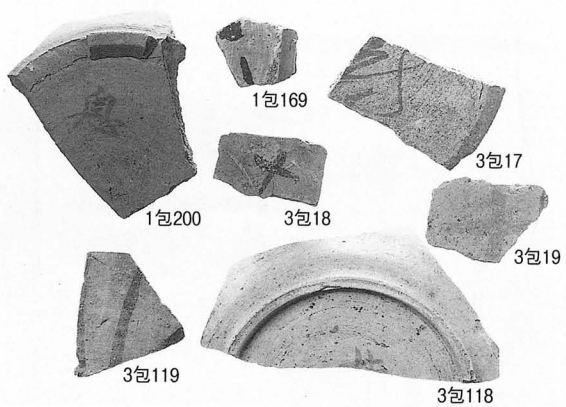
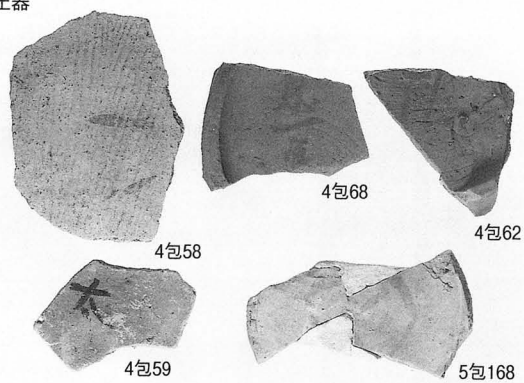
5区表採



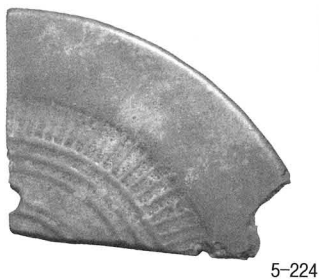
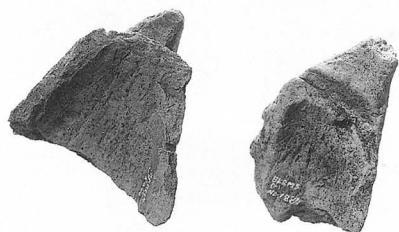
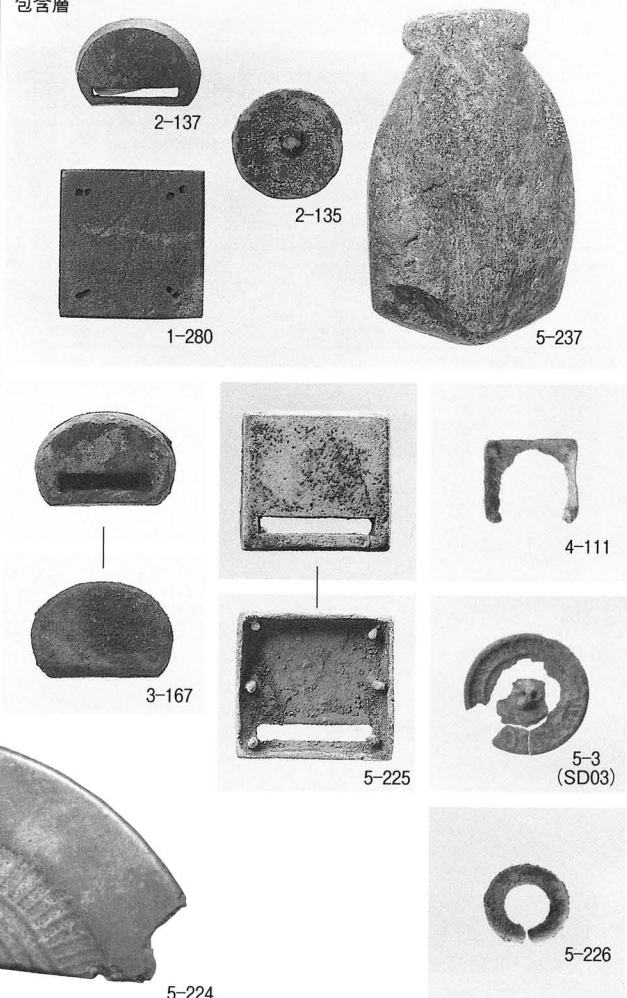
1区表採



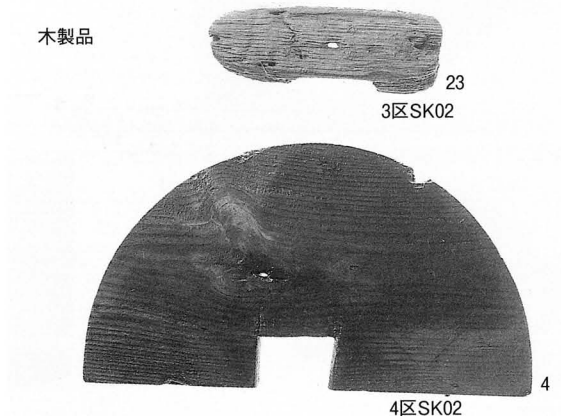
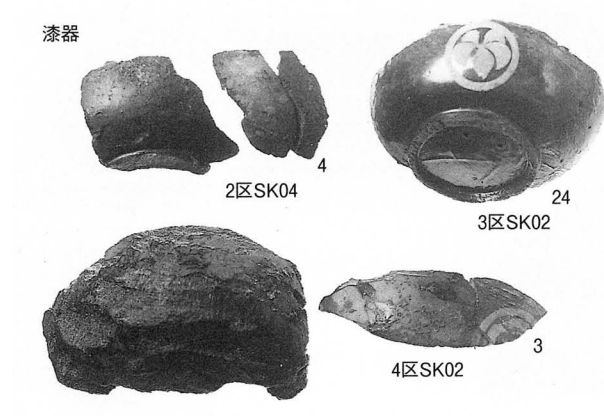
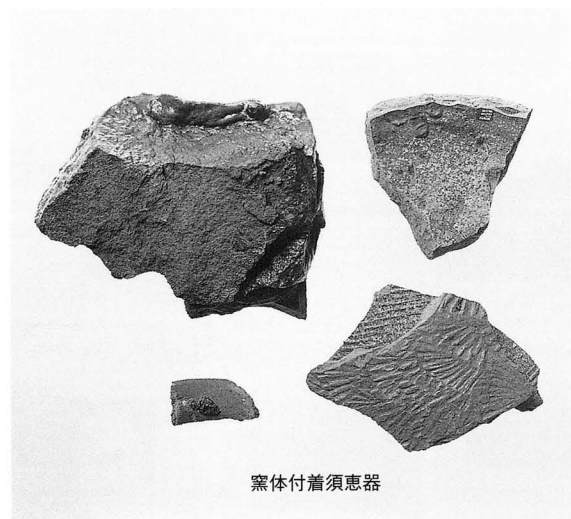
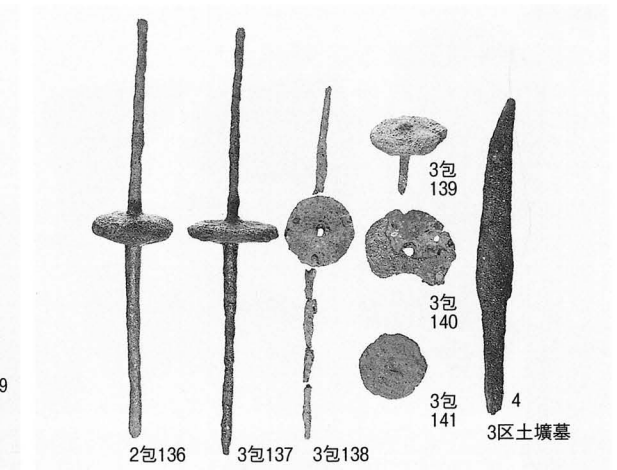
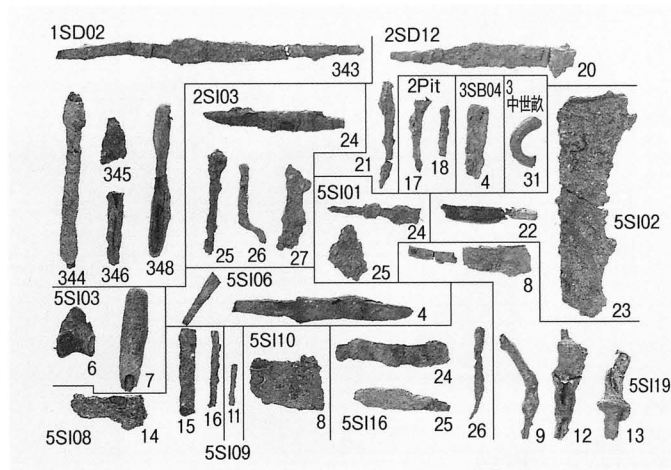
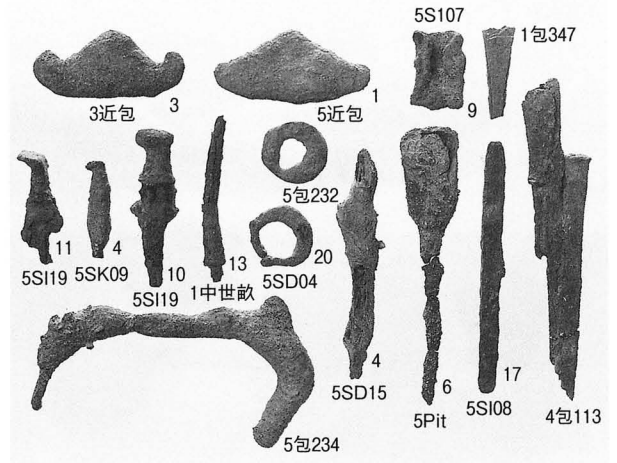
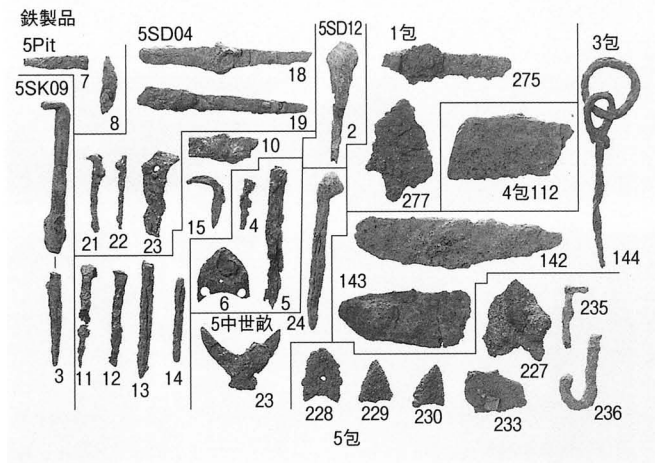
墨書土器



包含層



図版52



(財)米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書64

博労町遺跡

2011年3月

編集・発行 財団法人 米子市教育文化事業団

〒683-0011 鳥取県米子市福市281番地

TEL 0859-26-0455

印刷 勝美印刷株式会社